

Syllabus2018

シラバス (教授要目)

北陸学院大学

Realize Your Mission

あなたの使命を実現しよう

学 事 曆

4月 (APR)						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

10月 (OCT)						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

5月 (MAY)						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

11月 (NOV)						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

6月 (JUN)						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12月 (DEC)						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

7月 (JUL)						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

1月 (JAN)						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

8月 (AUG)						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2月 (FEB)						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28		

9月 (SEP)						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

3月 (MAR)						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

- 3月21日(水)～23日(金) 前期履修登録期間
- 3月28日(水)～3月30日(金) 前期履修登録変更期間
- 3月29日(木)～4月5日(木) オリエンテーション期間
- 4月3日(火) 入学式(午後)
- 4月6日(金) 前期授業開始
- 4月12日(木)～13日(金) 前期履修登録変更期間

- 4月28日(土) Enjoy!ミッション
- 5月18日(金)～19日(土) 北陸学院セミナーⅠ(1年)
- 5月18日(金) 2～4年休講
- 6月13日(水) 特別伝道礼拝(1・3年)

- 7月27日(金) 前期授業終了
- 7月28日(土)～8月4日(土) 前期試験期間
- 8月6日(月)～9月15日(土) 夏期休業期間(補講・集中講義・学外実習)

- 9月5日(水)～7日(金) 後期履修登録期間
- 9月8日(土) 北陸学院創立記念日
- 9月12日(水)～14日(金) 後期履修登録変更期間
- 9月18日(火) 後期授業開始
- 9月27日(木)～28日(金) 後期履修登録変更期間
- 10月3日(水) 特別伝道礼拝(2・4年)
- 10月18日(木) 大学祭準備(休講)
- 10月19日(金)～20日(土) 大学祭(栄光祭)
- 10月31日(水) 月曜代替講義日

- 11月6日(火) 金曜代替講義日
- 11月9日(金)～10日(土) 北陸学院セミナーⅡ(2年)
- 11月9日(金) 1・3・4年休講
- 11月28日(木) クリスマス・ツリー点灯式(5限振替)
- 12月18日(火) 金曜代替講義日
- 12月21日(金) クリスマス礼拝(休講)
- 12月26日(水)～12月27日(木) 全学休校予備日
- 12月28日(金)～1月4日(金) 冬期休業期間(補講・集中講義)

- 1月22日(火) 後期授業終了
- 1月23日(水) 全学休校予備日
- 1月24日(木)～25日(金) 補講日
- 1月28日(月)～2月2日(土) 後期試験期間
- 2月4日(月)～3月30日(土) 春期休業期間(補講・集中講義・学外実習)

- 2月22日(金) 卒業者発表
- 3月11日(月) 卒業感謝礼拝
- 3月12日(火) 卒業証書・学位記授与式

まえがき

この「教授要目」は、2018年度に開講する学科目の授業計画を記載したものです。

「教授要目」は、Syllabus（シラバス）と呼ばれ、各学科目の授業内容を授業時間毎に紹介しているものです。

したがって、それぞれの学科目の具体的内容を表しているものとして、大変重要な資料です。

授業はここに示された計画に従って進められますが、進行状況によっては一部内容が変更される場合もあります。

みなさんは、各授業の履修に先立って、「教授要目」をよく読んで、授業のねらいや内容をよく把握しておいてください。予習や復習はもちろん、学科目の選択に際しても、参考になります。

「教授要目」は、在学中および卒業後も大切に保管してください。他大学や公的教育機関へ編入学をする際にも必要な資料として用いられます。

この「教授要目」を大いに活用して、学修の一層の活性化を図ってください。

子ども教育学科

1. 教育について（教育理念、AP・CP・DP）

（1）教育理念、AP・CP・DP

教育理念

北陸学院大学は、キリスト教精神に基づいて人間についての理解と学びを教育や社会の視点から総合的にとらえ、知識を統合していくことを教育及び研究上の目的とし、その達成を通じて専門的知識とともに幅広い教養に裏打ちされた心の豊かさや人間的資質を備えた人材の育成を目指します。

アドミッションポリシー（AP）

北陸学院大学では、聖書に示された愛の精神に基づき、人と地域社会に貢献できる人材の育成を目指し、以下の入学生を受け入れます。

- ① 専門的な知識と技術を身につけるために必要な基礎学力を有している者（*）
- ② 物事を多面的かつ論理的に考察することができる者
- ③ 自己の考えを的確に表現し、伝えることができる者
- ④ 北陸学院のスクールモットーである「Realize Your Mission（あなたの使命を実現しよう）」という精神に賛同する者
- ⑤ 保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭（英語）を目指し、学業に意欲的に取り組むことができる者
- ⑥ 人間の発達や成長に関心のある者

*入学に際し基礎学力テストを実施して、英語・日本語の基礎学力が不足している場合には、「英語基礎」、「日本語基礎」の学びを義務づけます。

カリキュラムポリシー（CP）

北陸学院大学では、教育理念に掲げた人材を育成するために、人間総合学部には社会学科と子ども教育学科を置き、以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成します。

- ① 学部の掲げるディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を達成するために、4つの科目群を配置し、系統的な履修を促す。「全学共通科目」群（「北陸学院科目」、「総合教養科目」、「言語教育科目」、「スポーツ・健康科目」、「キャリア教育科目」）、「基幹科目」群、「学科専門科目」群、「資格科目」群
- ② 学生の学修能力の発達状況に合わせた段階的な科目配置を行う。大学での学びに必要なスタディスキルズから始まり、主体的な学びに必要な課題探究能力、批判的分析思考能力、情報リテラシー、コミュニケーション能力など、社会において欠くことのできない能力の育成を達成するために、「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」（1年次）、「プロゼミA・B」（2年次）、「専門ゼミⅠ」（3年次）、「専門ゼミⅡ」（4年次）などを配置する。
- ③ 学生が自ら目指す進路・資格取得に必要な学習を支援するための学科別教育課程を

配置する。

- ④ 専門的な知識と方法論を系統立てて学ぶために「小学校・中学校教育コース」、「幼児・児童教育コース」、「幼児教育・保育コース」を置く。
- ⑤ 1年次より現場体験学習を重視し、理論的学びと連動させる。
- ⑥ 人格形成や教育科学の視点から、子どもの育ちや発達に関する学科専門科目を配置する。
- ⑦ 保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭（英語）の資格科目を配置する。

ディプロマポリシー（DP）

北陸学院大学では、以下の能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

（知識・理解）

- ① 全学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養を身につけている。

（関心・意欲）

- ② 学科での学びを通して、自ら課題を設定して探究することができる。

（技能・態度）

- ③ 4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によつて的確に他者に伝えることができる。

（知識・理解）

- ④ 幼児教育及び初等・中等教育において、保育者・教育者の役割や職務内容をよく理解している。

（思考・判断）

- ⑤ 子どもの育ちや発達、英語・英語教育に関する専門的知識に基づき、幼・小・中の教育連携、自らの教育観並びに保育観、子ども観を自分の言葉で語り、実践できる。

（態度）

- ⑥ 子どもの育ちや発達に関する専門的知識に基づき、子どもや保護者に寄り添って自らの教育観並びに保育観、子ども観を自分の言葉で語り、実践できる。

2. カリキュラム体系

（科目のナンバリングについて）

（1）全学共通科目

H G：北陸学院科目

G E：総合教養

L J：言語教育（日本語）

L E：言語教育（英語）

L C：言語教育（中国語）

L F：言語教育（フランス語）

P E：スポーツ・健康

H C : キャリア教育

(2) 学科科目 (基幹科目・学科専門科目・資格科目)

E 子ども教育

E K 基幹科目 *Key

E L 英会話 *Language

E S 「中学校教諭」科目 *Secondary

E E 「小学校教諭」科目 *Elementary

E C 「幼児・児童教育」科目 *Childhood

E N 「保育教諭」科目 *Nursing

E D 心理学・教育科学科目 *Education

E T 資格科目 (実習関係科目) *Teacher Certificate

注1) 基礎科目を100番台 (主として1年次)、学科専門200番台 (主として2年次)、300番台 (主として3、4年次)

注2) 開講学年にはこだわらず、その科目の難易度、専門的位置づけによる。

子ども教育学科（カリキュラム体系図）

E K：基幹科目

E L：英会話

E S：「中学校教諭」科目

E E：「小学校教諭」科目

<300番台>

EK360U 卒業研究			EE362U 教育相談（小・中）
EK350U キリスト教と教育			EE350U 小学校英語科教育法Ⅲ
EK340U 教育学理論研究			EE345U 小学校英語科教育法Ⅱ
EK335U 教育学文献講読B3			EE340U 体育科教育法
EK330U 教育学文献講読B2		ES355U 英語科教育法Ⅳ	EE335U 家庭科教育法
EK325U 教育学文献講読B1		ES350U 英語科教育法Ⅲ	EE330U 音楽科教育法
EK320U 教育学文献講読A3		ES340U コミュニティブ・イングリッシュB	EE325U 図画工作教育法
EK315U 教育学文献講読A2		ES330U 英米文学Ⅱ	EE320U 生活科教育法
EK310U 教育学文献講読A1		ES320U 言語教育のための英文法Ⅱ	EE315U 理科教育法
EK305U 専門ゼミⅡ	EL320U ムービー・イングリッシュB	ES310U 英語音声学Ⅱ	EE310U 算数科教育法
EK300U 専門ゼミⅠ	EL310U ムービー・イングリッシュA	ES300U 英語学概論Ⅱ	EE305U 国語科教育法（書写を含む）
			EE300U 社会科教育法

<200番台>

EK260U 比較教育学		ES265U 英語科教育法Ⅱ	EE242U 生徒・進路指導論（小・中）
EK250U 教育史		ES260U 英語科教育法Ⅰ	EE237U 教育課程編成論（小・中）
EK240U 初歩文献講読		ES250U コミュニティブ・イングリッシュA	EE232U 特別活動指導論（小・中）
EK230U 教育心理学	EL240U ビジネス・イングリッシュB	ES240U 欧米の児童文学	EE227U 道德教育指導論（小・中）
EK220U 発達心理学	EL230U ビジネス・イングリッシュA	ES230U 英米文学Ⅰ	EE220U 小学校英語科教育法Ⅰ
EK210U プロゼミB	EL220U トラベル・イングリッシュB	ES220U 言語教育のための英文法Ⅰ	EE215U 家庭
EK200U プロゼミA	EL210U トラベル・イングリッシュA	ES210U 英語音声学Ⅰ	EE210U 理科
		ES200U 英語学概論Ⅰ	EE200U 社会

<100番台>

EK150U 発達支援論		
EK140U 教職論		
EK130U 教育学概論		
EK120U 地域社会と子ども		
EK110U 基礎ゼミⅡ	EL110U プラクティカル・イングリッシュ	
EK100U 基礎ゼミⅠ	EL100U コミュニケーション・イングリッシュ	

<090番台>

EC：「幼児・児童教育」科目

EN：「保育教諭」科目

ED：心理学・教育科学科目

ET：資格科目（実習関係科目）

<300番台>

EC345U 幼児理解				ET385U 教職実践演習(幼・小・中)
EC340U 保育内容・表現Ⅱ				ET380U 教職実践演習(幼・保)
EC335U 保育内容・人間関係Ⅱ	EN330U 保育カウンセリング	ED336U 障害者・障害児心理学		ET370U 中学校教育実習Ⅱ
EC330U 保育内容・言葉Ⅱ	EN325U 乳児保育Ⅱ	ED331U 心理演習		ET365U 中学校教育実習Ⅰ
EC325U 保育内容・健康Ⅱ	EN320U 家庭支援論	ED327U 学校心理学(教育・学校心理学)		ET360U 中学校教育実習指導
EC320U 保育内容・環境Ⅱ	EN315U 子どもの食と栄養	ED326U 心理学的支援法		ET340U 介護等体験
EC310U 教育実践研究B	EN310U 子どもの保健Ⅱ	ED321U 感情心理学(感情・人格心理学B)		ET335U 保育実習Ⅲ(施設)
EC305U 教育実践研究A	EN305U 相談援助技術	ED316U 知覚・認知心理学		ET330U 保育実習指導Ⅲ
EC300U 選択音楽	EN300U 児童家庭福祉論Ⅱ	ED311U 産業・組織心理学		ET325U 保育実習Ⅱ(保育所)
		ED306U 社会・集団・家族心理学		ET320U 保育実習指導Ⅱ
				ET315U 小学校教育実習Ⅱ
				ET310U 小学校教育実習指導Ⅱ
				ET305U 幼稚園教育実習Ⅱ
				ET300U 幼稚園教育実習指導Ⅱ

<200番台>

EC280U 保育内容・表現Ⅰ				
EC275U 保育内容・人間関係Ⅰ				
EC270U 保育内容・言葉Ⅰ				
EC265U 保育内容・健康Ⅰ				
EC260U 保育内容・環境Ⅰ				
EC255U 保育内容総論				
EC250U 保育課程論				
EC245U 器楽Ⅱ		ED256U 人格心理学(感情・人格心理学A)		
EC240U 子どもと法	EN290U 身体表現	ED251U 心理学実験Ⅱ		
EC237U 教育方法論(幼・小・中)	EN285U 児童文化	ED246U 心理的アセスメント		ET235U 保育実習Ⅰ(保育所)
EC230U 教育社会学	EN280U 障がい児保育	ED231U 心理学実験Ⅰ		ET230U 保育実習指導Ⅰ(保育所)
EC225U 体育	EN275U 乳児保育Ⅰ	ED226U 心理学研究法		ET225U 保育実習Ⅰ(施設)
EC220U 音楽	EN270U 子どもの保健ⅠB	ED221U 心理学統計法		ET220U 保育実習指導Ⅰ(施設)
EC215U 図画工作	EN265U 子どもの保健ⅠA	ED215U 郷土の文学を楽しむ		ET215U 小学校教育実習Ⅰ
EC210U 生活	EN260U 社会的養護内容	ED210U 絵本論		ET210U 小学校教育実習指導Ⅰ
EC205U 算数	EN255U 社会的養護	ED205U 児童文学		ET205U 幼稚園教育実習Ⅰ
EC200U 国語	EN250U 児童家庭福祉論Ⅰ	ED200U 異文化間コミュニケーション論		ET200U 幼稚園教育実習指導Ⅰ

<100番台>

	EN165U 音楽表現Ⅱ		
	EN160U 音楽表現Ⅰ	ED110U 臨床心理学概論	
EC110U 器楽Ⅰ	EN155U 社会福祉	ED105U 心理学概論B	
EC100U 日本国憲法	EN150U 保育原理	ED100U 心理学概論A	

<090番台>

EC090U 器楽入門◆

社会学科

1. 教育について（教育理念、AP・CP・DP）

教育理念

北陸学院大学は、キリスト教精神に基づいて人間についての理解と学びを教育や社会の視点から総合的にとらえ、知識を統合していくことを教育及び研究上の目的とし、その達成を通じて専門的知識とともに幅広い教養に裏打ちされた心の豊かさや人間的資質を備えた人材の育成を目指します。

アドミッションポリシー（AP）

北陸学院大学では、聖書に示された愛の精神に基づき、人と地域社会に貢献できる人材の育成を目指し、以下の入学生を受け入れます。

- ① 専門的な知識と技術を身につけるために必要な基礎学力を有している者（*）
- ② 物事を多面的かつ論理的に考察することができる者
- ③ 自己の考えを的確に表現し、伝えることができる者
- ④ 北陸学院のスクールモットーである「Realize Your Mission（あなたの使命を実現しよう）」という精神に賛同する者
- ⑤ 社会のさまざまな課題に意欲的に取り組むことができる者

*入学時に基礎学力テストを実施して、英語・日本語の基礎学力が不足している場合には、「英語基礎」、「日本語基礎」の学びを義務づけます。

カリキュラムポリシー（CP）

北陸学院大学では、教育理念に掲げた人材を育成するために、人間総合学部社会学科と子ども教育学科を置き、以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成します。

- ① 学部の掲げるディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を達成するために、4つの科目群を配置し、系統的な履修を促す。「全学共通科目」群（「北陸学院科目」、「総合教養科目」、「言語教育科目」、「スポーツ・健康科目」、「キャリア教育科目」）、「基幹科目」群、「学科専門科目」群、「資格科目」群
- ② 学生の学修能力の発達状況に合わせた段階的な科目配置を行う。大学での学びに必要なスタディスキルズから始まり、主体的な学びに必要な課題探究能力、批判的分析思考能力、情報リテラシー、コミュニケーション能力など、社会において欠くことのできない能力の育成を達成するために、「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」（1年次）、「プロゼミA・B」（2年次）、「専門ゼミⅠ」（3年次）、「専門ゼミⅡ」（4年次）などを配置する。
- ③ 学生が自ら目指す進路・資格取得に必要な学習を支援するための学科別教育課程を配置する。

- ④ 社会への理解を深めるために、データに基づき社会の様々な現象を検証する技能を理論的に身につけることを重視する。
- ⑤ 1年次では、社会学とその関連領域および社会調査に関する基礎的な知識・技能を学び、2年次からの専門的な学びにつなげる。2年次以降に、学科専門科目の基礎となる科目群として「基本科目」、より専門性の高い「応用領域」として「文化と共生」、「くらしと政策」、「心理と社会」の科目群を配置する。
- ⑥ 自らの専門性と学習目標を認識し、系統的に履修できるよう、上記の科目の組み合わせより「現代社会・国際理解コース」、「心理・カウンセリングコース」、「環境福祉マネジメントコース」、「政治経済・経営コース」、「情報・図書館司書コース」の履修モデルコースを示す。
- ⑦ 社会福祉士、スクールソーシャルワーカー、認定心理士、社会調査士および司書に関連する資格科目を配置する。

ディプロマポリシー（DP）

北陸学院大学では、以下の能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

(知識・理解)

- ① 全学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養を身につけている。

(関心・意欲)

- ② 学科での学びを通して、自ら課題を設定して探究することができる。

(技能・態度)

- ③ 4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によつて的確に他者に伝えることができる。

(知識・理解)

- ④ 現代社会が直面する問題を、社会学を中心に心理学・社会福祉学などのその他関連領域の理論と実証的データに基づいて理解できる。

(態度)

- ⑤ 現代社会が直面する問題の解決のために、自ら設定した課題を探究し、貢献できる。

(技能)

- ⑥ 現代社会が直面する問題の解明のために、実験・社会調査・フィールドワークができる。

2. カリキュラム体系

(科目のナンバリングについて)

(1) 全学共通科目

H G : 北陸学院科目

G E : 総合教養

L J : 言語教育 (日本語)

LE：言語教育（英語）
LC：言語教育（中国語）
LF：言語教育（フランス語）
PE：スポーツ・健康
HC：キャリア教育

(2) 学科科目（基幹科目・学科専門科目・資格科目）

S 社会学
SK 基幹科目 *Key
SO 基本・共通科目 *Sociology
SC 「文化と共生」科目 *Culture, Congruity
SL 「くらしと政策」科目 *Living
SP 「心理と社会」科目 *Psychology
SW 「社会福祉士国家試験受験資格」科目 *Welfare
SS 「スクールソーシャルワーク」科目 *School
SB 「司書資格」科目 *Books
ST 「公認心理師」科目 *(Psycho) Therapist

注1) 基礎科目を100番台（主として1年次）、学科専門200番台（主として2年次）、300番台（主として3、4年次）、400番台（4年次）

注2) 開講学年にはこだわらず、その科目の難易度、専門的位置づけによる。

社会学科（カリキュラム体系図）

EK：基幹科目

SO：基本・共通科目

SC：「文化と共生」科目

SL：「くらしと政策」科目

<400番台>

<300番台>

SK310U 卒業研究				SL345U 経済学IV
SK305U 専門ゼミⅡ				SL340U 経済学Ⅲ
SK300U 専門ゼミⅠ				SL335U マーケティング論
				SL330U 地域環境マネジメント論
		SC320U メディア文化論		SL325U 社会貢献実習
		SC315U 社会病理学		SL320U 地域社会政策論
		SC310U 犯罪社会学		SL315U 政治学
	SO305U 社会調査実習	SC305U 教育社会学		SL310U 法律学
	SO300U 応用心理社会統計法	SC300U 石川の伝統文化と産業		SL300U 地域行政入門

<200番台>

				SL235U 環境と開発
				SL230U 経済学Ⅱ
				SL225U 経済学Ⅰ
				SL220U 情報技術論
		SO220U 環境社会学	SC220U グローバル社会論	SL215U 障害者スポーツ
		SO215U 都市社会学	SC215U 多文化共生論	SL210U 障害者福祉論
SK210U 質的研究法	SO210U 家族社会学	SC210U 社会と言語		SL205U 高齢者福祉論
SK205U プロゼミB	SO205U 社会学理論	SC205U 若者文化論		SL200U 社会貢献論
SK200U プロゼミA	SO201U 心理学統計法	SC200U 宗教と社会		

<100番台>

SK135U 統計データの読み方				
SK130U 社会調査法				
SK125U 社会調査論	SO125U 心理学概論B			
SK120U 社会学概論B	SO120U 心理学概論A			
SK115U 社会学概論A	SO115U 現代社会と福祉Ⅱ			
SK110U 社会学リレー講義	SO110U 現代社会と福祉Ⅰ			
SK105U 基礎ゼミⅡ	SO105U 文化人類学			SL105U 経営学入門
SK100U 基礎ゼミⅠ	SO100U データ処理基礎			SL100U 図書館概論

<090番台>

SP : 「心理と社会」科目

SW : 「社会福祉士国家試験
受験資格」科目

SS : 「スクールソーシャル
ワーク」科目

SB : 「司書資格」科目

ST : 「公認心理師」科目

<400番台>

ST400U 心理実習

<300番台>

	SW370U 相談援助実習Ⅱ			
	SW365U 相談援助実習Ⅰ			
	SW360U 相談援助実習指導Ⅲ			
	SW355U 相談援助実習指導Ⅱ			
	SW350U 相談援助実習指導Ⅰ			
	SW345U 相談援助演習Ⅴ			
	SW340U 相談援助演習Ⅳ			
	SW335U 相談援助演習Ⅲ			
	SW330U 就労支援サービス			
	SW325U 保健医療サービス			
	SW320U 公的扶助論	SS320U スクールソーシャルワーク実習		
	SW315U 福祉サービスの組織と経営	SS315U スクールソーシャルワーク実習指導		
	SW310U 福祉行財政と福祉計画	SS310U スクールソーシャルワーク演習		
	SW305U 相談援助の理論と方法Ⅳ	SS305U スクールソーシャルワーク論		
	SW300U 相談援助の理論と方法Ⅲ	SS300U 精神保健学		
SP336U 心理演習			SB340U 図書館実習	
SP332U 学校心理学(教育・学校心理学)			SB335U 図書・図書館史	
SP331U 心理学的支援法			SB330U 図書館情報資源概論	
SP326U 障害者・障害児心理学			SB325U 情報資源組織演習Ⅱ	
SP321U 感情心理学(感情・人格心理学B)			SB320U 情報資源組織演習Ⅰ	ST320U 関係行政論
SP316U 知覚・認知心理学			SB315U 情報サービス演習Ⅱ	ST315U 健康・医療心理学
SP311U 産業・組織心理学			SB310U 情報サービス演習Ⅰ	ST310U 精神疾患とその治療
SP306U 社会・集団・家族心理学			SB305U 図書館制度・経営論	ST305U 司法・犯罪心理学
			SB300U 児童サービス論	ST300U 福祉心理学

<200番台>

SP236U 人格心理学(感情・人格心理学A)				
SP230U 教育心理学	SW225U 相談援助演習Ⅱ			
SP225U 発達心理学	SW220U 相談援助演習Ⅰ			
SP216U 心理的アセスメント	SW215U 社会保障論			
SP211U 心理学研究法	SW210U 相談援助の理論と方法Ⅱ		SB210U 情報資源組織論	ST210U 人体の構造と機能及び疾病
SP206U 心理学実験Ⅱ	SW205U 相談援助の理論と方法Ⅰ		SB205U 情報サービス論	ST205U 神経・生理心理学
SP201U 心理学実験Ⅰ	SW200U 相談援助の基盤と専門職		SB200U 図書館サービス概論	ST200U 学習・言語心理学

<100番台>

	SW105U 児童福祉論			
SP100U 臨床心理学概論	SW100U 地域福祉論		SB100U 生涯学習概論	ST100U 公認心理師の職責

<090番台>

全学共通科目	
1～3年次	1～62
子ども教育学科	
1年次	63～92
2年次	93～152
幼児児童教育学科	
3年次	153～208
4年次	209～220
社会学科	
1年次	221～242
2年次	243～286
3年次	287～324
4年次	327～332
教職員録	333～334
案内図	335～338

カリキュラム 目次

※頁番号が一の科目は、2018年度開講せず

全学共通科目 (1～3年次)

〔北陸学院科目〕

HG100U	北陸学院セミナーⅠ	3
HG200U	北陸学院セミナーⅡ	4
HG110U	キリスト教概論Ⅰ	5
HG120U	キリスト教概論Ⅱ	6
HG130U	キリスト教人間論Ⅰ	7
HG140U	キリスト教人間論Ⅱ	8

〔総合教養科目〕

GE100U	総合教養AⅠ	9
GE110U	総合教養AⅡ	10
GE120U	総合教養BⅠ	11
GE130U	総合教養BⅡ	12
GE140U	総合教養CⅠ	13
GE150U	総合教養CⅡ	14
GE160U	総合教養DⅠ	15
GE170U	総合教養DⅡ	16

〔言語教育科目〕

LJ090U	日本語基礎	17
LJ110U	日本語表現法Ⅰ	18
LJ120U	日本語表現法Ⅱ	19
LE090U	英語基礎	20
LE155U	英語AⅠ	21
LE160U	英語AⅡ	22
LE145U	英語BⅠ	23
LE150U	英語BⅡ	24
LE135U	英語CⅠ	25
LE140U	英語CⅡ	26
LE125U	英語DⅠ	27
LE130U	英語DⅡ	28
LE115U	英語EⅠ	29
LE120U	英語EⅡ	30
LE105U	英語FⅠ	31
LE110U	英語FⅡ	32
LE165U	アクティブ・イングリッシュA	33
LE170U	アクティブ・イングリッシュB	34
LE175U	アクティブ・イングリッシュC	35
LC100U	中国語Ⅰ	36
LC110U	中国語Ⅱ	37
LF100U	フランス語Ⅰ	38
LF110U	フランス語Ⅱ	39

〔スポーツ・健康科目〕

PE100U	生涯スポーツA	40～42
PE110U	生涯スポーツB	43～45
PE120U	健康科学	46

〔キャリア教育科目〕

HC100U	キャリアデザインⅠ	47～48
HC110U	キャリアデザインⅡ	49～50
HC200U	キャリアデザインⅢ	51～52
HC210U	キャリアデザインⅣ	53～54
HC300U	キャリアデザインⅤ	55～56
HC310U	キャリアデザインⅥ	57～58
HC160U	情報機器演習A	59～60
HC170U	情報機器演習B	61～62

子ども教育学科 (1年次)

〔基幹科目〕

EK100U	基礎ゼミⅠ	65
EK110U	基礎ゼミⅡ	66
EK120U	地域社会と子ども	67
EK130U	教育学概論	68
EK140U	教職論	69
EK150U	発達支援論	70

〔学科専門科目〕

ES200U	英語学概論Ⅰ	71
ES300U	英語学概論Ⅱ	72
ES210U	英語音声学Ⅰ	73
ES310U	英語音声学Ⅱ	74
ES220U	言語教育のための英文法Ⅰ	75
ES320U	言語教育のための英文法Ⅱ	76
EL100U	コミュニケーション・イングリッシュ	77
EL110U	プラクティカル・イングリッシュ	78
EE200U	社会	79
EC100U	日本国憲法	80
EC210U	生活	81
EC215U	図画工作	82
EC090U	器楽入門	83
EC110U	器楽Ⅰ	84
EC260U	保育内容・環境Ⅰ	85
EN150U	保育原理	86
EN155U	社会福祉	87
EN160U	音楽表現Ⅰ	88
EN165U	音楽表現Ⅱ	89
ED100U	心理学概論A	90

ED105U	心理学概論B	91
ED110U	臨床心理学概論	92

子ども教育学科 (2年次)

〔基幹科目〕

EK100U	基礎ゼミ I	—
EK110U	基礎ゼミ II	—
EK200U	プロゼミ A	95
EK210U	プロゼミ B	96
EK120U	地域社会と子ども	—
EK130U	教育学概論	—
EK140U	教職論	—
EK150U	発達支援論	—
EK220U	発達心理学	97
EK230U	教育心理学	98
EK240U	初歩文献講読	99

〔学科専門科目〕

ES200U	英語学概論 I	—
ES300U	英語学概論 II	—
ES210U	英語音声学 I	—
ES310U	英語音声学 II	—
ES220U	言語教育のための英文法 I	—
ES320U	言語教育のための英文法 II	—
ES250U	コミュニケーション・イングリッシュ A	100
ES340U	コミュニケーション・イングリッシュ B	101
ES260U	英語科教育法 I	102
ES265U	英語科教育法 II	103
EL100U	コミュニケーション・イングリッシュ	—
EL110U	プラクティカル・イングリッシュ	—
EL210U	トラベル・イングリッシュ A	104
EL220U	トラベル・イングリッシュ B	105
EL230U	ビジネス・イングリッシュ A	106
EL240U	ビジネス・イングリッシュ B	107
EE210U	理科	108
EE200U	社会	—
EE215U	家庭	109
EE310U	算数科教育法	110
EE315U	理科教育法	111
EE300U	社会科教育法	112
EE320U	生活科教育法	113
EE325U	図画工作教育法	114
EE330U	音楽科教育法	115
EE335U	家庭科教育法	116
EE237U	教育課程編成論 (小・中)	117
EE227U	道徳教育指導論 (小・中)	118
EE232U	特別活動指導論 (小・中)	119

EC100U	日本国憲法	—
EC200U	国語	120
EC205U	算数	121
EC210U	生活	—
EC215U	図画工作	—
EC220U	音楽	122
EC090U	器楽入門	—
EC110U	器楽 I	—
EC245U	器楽 II	123
EC250U	保育課程論	124
EC255U	保育内容総論	125
EC260U	保育内容・環境 I	—
EC265U	保育内容・健康 I	126
EC270U	保育内容・言葉 I	127
EC275U	保育内容・人間関係 I	128
EC280U	保育内容・表現 I	129
EN150U	保育原理	—
EN250U	児童家庭福祉論 I	130
EN155U	社会福祉	—
EN255U	社会的養護	131
EN260U	社会的養護内容	132
EN265U	子どもの保健 I A	133
EN270U	子どもの保健 I B	134
EN280U	障がい児保育	135
EN160U	音楽表現 I	—
EN165U	音楽表現 II	—
EN285U	児童文化	136
ED200U	異文化間コミュニケーション論	137
ED205U	児童文学	138
ED215U	郷土の文学を楽しむ	139
ED100U	心理学概論 A	—
ED105U	心理学概論 B	—
ED220U	心理統計学 I	140
ED225U	心理学研究法 A	141
ED245U	心理検査法	142
ED230U	心理学実験実習 I	143
ED250U	心理学実験実習 II	144
ED255U	人格心理学	145
ED260U	臨床心理学	146

〔学科専門科目〕

ET200U	幼稚園教育実習指導 I	147
ET205U	幼稚園教育実習 I	148
ET210U	小学校教育実習指導 I	149
ET215U	小学校教育実習 I	150
ET220U	保育実習指導 I (施設)	151
ET225U	保育実習 I (施設)	152

〔2018年度開講せず〕

ED240U	心理統計学Ⅱ	—
ED235U	人間関係論	—

幼児児童教育学科 (3年次)

〔基幹科目〕

EK100U	基礎ゼミⅠ	—
EK110U	基礎ゼミⅡ	—
EK200U	プロゼミA	—
EK210U	プロゼミB	—
EK300U	専門ゼミⅠ	155～156
EK120U	地域社会と子ども	—
EK130U	教育学概論	—
EK140U	教職論	—
EK150U	発達支援論	—
EK220U	発達心理学	—
EK230U	教育心理学	—
EK250U	教育史	157
EK240U	初歩文献講読	—
EK310U	教育学文献講読A1	158
EK315U	教育学文献講読A2	159
EK320U	教育学文献講読A3	160
EK325U	教育学文献講読B1	161
EK330U	教育学文献講読B2	162
EK335U	教育学文献講読B3	163

〔学科専門科目〕

EE210U	理科	—
EE200U	社会	—
EE215U	家庭	—
EE305U	国語科教育法(書写を含む)	164
EE310U	算数科教育法	—
EE315U	理科教育法	—
EE300U	社会科教育法	165
EE320U	生活科教育法	—
EE325U	図画工作教育法	—
EE330U	音楽科教育法	—
EE335U	家庭科教育法	—
EE340U	体育科教育法	166
EE235U	教育課程編成論	167
EE225U	道徳教育指導論	168
EE230U	特別活動指導論	169
EE240U	生徒・進路指導論	170
EE220U	小学校英語科教育法Ⅰ	171
EE345U	小学校英語科教育法Ⅱ	172
EE360U	教育相談	173
EC100U	日本国憲法	—

EC200U	国語	—
EC205U	算数	—
EC210U	生活	—
EC215U	図画工作	—
EC220U	音楽	—
EC225U	体育	174
EC230U	教育社会学	175
EC235U	教育方法論	176
EC240U	子どもと法	177
EC090U	器楽入門	—
EC110U	器楽Ⅰ	—
EC245U	器楽Ⅱ	—
EC250U	保育課程論	—
EC255U	保育内容総論	—
EC260U	保育内容・環境Ⅰ	—
EC320U	保育内容・環境Ⅱ	178
EC265U	保育内容・健康Ⅰ	—
EC325U	保育内容・健康Ⅱ	179
EC270U	保育内容・言葉Ⅰ	—
EC330U	保育内容・言葉Ⅱ	180
EC275U	保育内容・人間関係Ⅰ	—
EC335U	保育内容・人間関係Ⅱ	181
EC280U	保育内容・表現Ⅰ	—
EC340U	保育内容・表現Ⅱ	182
EN150U	保育原理	—
EN250U	児童家庭福祉論Ⅰ	—
EN300U	児童家庭福祉論Ⅱ	183
EN155U	社会福祉	—
EN305U	相談援助技術	184
EN255U	社会的養護	—
EN260U	社会的養護内容	—
EN265U	子どもの保健ⅠA	—
EN270U	子どもの保健ⅠB	—
EN310U	子どもの保健Ⅱ	185
EN315U	子どもの食と栄養	186
EN320U	家庭支援論	187
EN275U	乳児保育Ⅰ	188
EN325U	乳児保育Ⅱ	189
EN280U	障がい児保育	—
EN160U	音楽表現Ⅰ	—
EN165U	音楽表現Ⅱ	—
EN290U	身体表現	190
EN285U	児童文化	—
ED200U	異文化間コミュニケーション論	—
ED205U	児童文学	—
ED210U	絵本論	191
ED215U	郷土の文学を楽しむ	—
ED100U	心理学概論A	—

ED105U	心理学概論B	—
ED220U	心理統計学I	—
ED240U	心理統計学II	—
ED225U	心理学研究法A	—
ED245U	心理検査法	—
ED230U	心理学実験実習I	—
ED250U	心理学実験実習II	—
ED235U	人間関係論	—
ED305U	社会心理学A	192
ED310U	社会心理学B	193
ED315U	認知心理学	194
ED320U	感情心理学	195
ED255U	人格心理学	—
ED260U	臨床心理学	—
ED325U	心理療法	196
ED330U	心理面接技法	197
ED335U	発達臨床心理学	198

〔学科専門科目〕

ET200U	幼稚園教育実習指導I	—
ET205U	幼稚園教育実習I	—
ET300U	幼稚園教育実習指導II	199
ET305U	幼稚園教育実習II	200
ET210U	小学校教育実習指導I	—
ET215U	小学校教育実習I	—
ET310U	小学校教育実習指導II	201
ET315U	小学校教育実習II	202
ET220U	保育実習指導I(施設)	—
ET225U	保育実習I(施設)	—
ET230U	保育実習指導I(保育所)	203
ET235U	保育実習I(保育所)	204
ET320U	保育実習指導II	205
ET325U	保育実習II(保育所)	206
ET330U	保育実習指導III	207
ET335U	保育実習III(施設)	208

〔2018年度開講せず〕

EC305U	教育実践研究A	—
ED300U	心理学研究法B	—

幼児児童教育学科(4年次)

〔基幹科目〕

基礎ゼミI	—
基礎ゼミII	—
プロゼミA	—
プロゼミB	—
専門ゼミI	—

専門ゼミII	211~212
卒業研究	213~214
教育学概論	—
地域社会と子ども	—
発達支援論	—
教職論	—
教育史	—
発達心理学	—
教育心理学	—
比較発達教育学	—
教育実践研究A	—
教育実践研究B	—
教育学文献講読I	—
教育学文献講読II	—

〔学科専門科目〕

日本国憲法	—
国語	—
算数	—
生活	—
音楽	—
図画工作	—
児童体育	—
教育社会学	—
教育方法論	—
保育課程論	—
保育内容総論	—
保育内容・健康I	—
保育内容・人間関係I	—
保育内容・環境I	—
保育内容・言葉I	—
保育内容・表現I	—
保育内容・健康II	—
保育内容・人間関係II	—
保育内容・環境II	—
保育内容・言葉II	—
保育内容・表現II	—
幼児理解	215
教職実践演習(幼・小・保)	216
器楽I	—
器楽II	—
児童文学	—
異文化コミュニケーション論	—
郷土の文学を楽しむ	—
絵本論	—
人間関係論	—
心理学概論I	—
心理学概論II	—

心理統計学Ⅰ	—
心理統計学Ⅱ	—
心理学実験実習Ⅰ	—
心理学実験実習Ⅱ	—
心理学研究法Ⅰ	—
心理学研究法Ⅱ	—
社会心理学Ⅰ	—
社会心理学Ⅱ	—
人格心理学	—
心理療法	—
臨床心理学	—
社会	—
理科	—
家庭	—
子ども英語	—
子ども英語教育法	217
教育相談	218
教育課程編成論	—
国語科教育法（書写を含む）	—
社会科教育法	—
算数科教育法	—
理科教育法	—
生活科教育法	—
音楽科教育法	—
図画工作教育法	—
家庭科教育法	—
体育科教育法	—
道德教育の研究	—
特別活動の研究	—
生徒・進路指導論	—
保育原理	—
児童家庭福祉論Ⅰ	—
児童家庭福祉論Ⅱ	—
社会福祉	—
相談援助技術	—
社会的養護	—
子どもの保健ⅠA	—
子どもの保健ⅠB	—
子どもの保健Ⅱ	—
子どもの食と栄養	—
家庭支援論	—
乳児保育Ⅰ	—
乳児保育Ⅱ	—
障がい児保育	—
保育カウンセリング	219
社会的養護内容	—
音楽表現Ⅰ	—
音楽表現Ⅱ	—

身体表現	—
児童文化	—

〔資格科目〕

幼稚園教育実習指導Ⅰ	—
幼稚園教育実習Ⅰ	—
幼稚園教育実習指導Ⅱ	—
幼稚園教育実習Ⅱ	—
保育実習指導Ⅰ	—
保育実習Ⅰ（保育所）	—
保育実習Ⅰ（施設）	—
保育実習指導Ⅱ	—
保育実習Ⅱ（保育所）	—
保育実習指導Ⅲ	—
保育実習Ⅲ（施設）	—
小学校教育実習指導	—
小学校教育実習	—
介護等体験	220

〔2018年度開講せず〕

認知心理学Ⅰ	—
認知心理学Ⅱ	—

社会学科（1年次）

〔基幹科目〕

SK100U 基礎ゼミⅠ	223
SK105U 基礎ゼミⅡ	224
SK110U 社会学リレー講義	225
SK115U 社会学概論A	226
SK120U 社会学概論B	227
SK125U 社会調査論	228
SK130U 社会調査法	229
SK135U 統計データの読み方	230

〔学科専門科目〕

SO100U データ処理基礎	231
SO105U 文化人類学	232
SO110U 現代社会と福祉Ⅰ	233
SO115U 現代社会と福祉Ⅱ	234
SO120U 心理学概論A	235
SO125U 心理学概論B	236
SL105U 経営学入門	237
SP100U 臨床心理学概論	238

〔資格科目〕

SW100U 地域福祉論	239
SW105U 児童福祉論	240

SB100U	生涯学習概論	241
ST100U	公認心理師の職責	242

社会学科 (2年次)

〔基幹科目〕

SK100U	基礎ゼミ I	—
SK105U	基礎ゼミ II	—
SK200U	プロゼミ A	245
SK205U	プロゼミ B	246
SK110U	社会学リレー講義	—
SK115U	社会学概論 A	—
SK120U	社会学概論 B	—
SK125U	社会調査論	—
SK130U	社会調査法	—
SK135U	統計データの読み方	—
SK210U	質的研究法	247

〔学科専門科目〕

SO100U	データ処理基礎	—
SO200U	心理統計学 I	248
SO205U	社会学理論	249
SO210U	家族社会学	250
SO215U	都市社会学	251
SO220U	環境社会学	252
SO105U	文化人類学	—
SO110U	現代社会と福祉 I	—
SO115U	現代社会と福祉 II	—
SO120U	心理学概論 A	—
SO125U	心理学概論 B	—
SC200U	宗教と社会	253
SC205U	若者文化論	254
SC215U	多文化共生論	255
SC220U	グローバル社会論	256
SC310U	犯罪社会学	257
SC315U	社会病理学	258
SL225U	経済学 I	259
SL230U	経済学 II	260
SL315U	政治学	261
SL320U	地域社会政策論	262
SL105U	経営学入門	—
SL200U	社会貢献論	263
SL235U	環境と開発	264
SL205U	高齢者福祉論	265
SL210U	障害者福祉論	266
SL215U	障害者スポーツ	267
SL100U	図書館概論	268
SL220U	情報技術論	269

SP200U	心理学実験実習 I	270
SP205U	心理学実験実習 II	271
SP210U	心理学研究法 A	272
SP215U	心理検査法	273
SP225U	発達心理学	274
SP230U	教育心理学	275
SP235U	人格心理学	276
SP240U	臨床心理学	277

〔資格科目〕

SW200U	相談援助の基盤と専門職	278
SW205U	相談援助の理論と方法 I	279
SW210U	相談援助の理論と方法 II	280
SW100U	地域福祉論	—
SW215U	社会保障論	281
SW105U	児童福祉論	—
SW220U	相談援助演習 I	282
SW225U	相談援助演習 II	283
SB100U	生涯学習概論	—
SB200U	図書館サービス概論	284
SB205U	情報サービス論	285
SB210U	情報資源組織論	286

〔2018年度開講せず〕

SO225U	心理統計学 II	—
SC210U	社会と言語	—
SP220U	人間関係論	—

社会学科 (3年次)

〔基幹科目〕

SK100U	基礎ゼミ I	—
SK105U	基礎ゼミ II	—
SK200U	プロゼミ A	—
SK205U	プロゼミ B	—
SK300U	専門ゼミ I	289～290
SK110U	社会学リレー講義	—
SK115U	社会学概論 A	—
SK120U	社会学概論 B	—
SK125U	社会調査論	—
SK130U	社会調査法	—
SK135U	統計データの読み方	—
SK210U	質的研究法	—

〔学科専門科目〕

SO100U	データ処理基礎	—
SO200U	心理統計学 I	—
SO205U	社会学理論	—

SO210U	家族社会学	—
SO215U	都市社会学	—
SO220U	環境社会学	—
SO105U	文化人類学	—
SO110U	現代社会と福祉Ⅰ	—
SO115U	現代社会と福祉Ⅱ	—
SO120U	心理学概論A	—
SO125U	心理学概論B	—
SO225U	心理統計学Ⅱ	—
SO300U	応用心理社会統計法	291
SO305U	社会調査実習	292～293
SC200U	宗教と社会	—
SC300U	石川の伝統文化と産業	294
SC305U	教育社会学	295
SC205U	若者文化論	—
SC210U	社会と言語	—
SC215U	多文化共生論	—
SC220U	グローバル社会論	—
SC310U	犯罪社会学	—
SC315U	社会病理学	—
SC320U	メディア文化論	296
SL300U	地域行政入門	297
SL310U	法律学	298
SL315U	政治学	—
SL320U	地域社会政策論	—
SL325U	社会貢献論	—
SL325U	社会貢献実習	299
SL330U	地域環境マネジメント論	300
SL205U	高齢者福祉論	—
SL210U	障害者福祉論	—
SL215U	障害者スポーツ	—
SL100U	図書館概論	—
SL220U	情報技術論	—
SL335U	マーケティング論	301
SP200U	心理学実験実習Ⅰ	—
SP205U	心理学実験実習Ⅱ	—
SP210U	心理学研究法A	—
SP215U	心理検査法	—
SP220U	人間関係論	—
SP305U	社会心理学A	302
SP310U	社会心理学B	303
SP225U	発達心理学	—
SP230U	教育心理学	—
SP315U	認知心理学	304
SP320U	感情心理学	305
SP235U	人格心理学	—
SP240U	臨床心理学	—
SP325U	心理療法	306

SP330U	心理面接技法	307
SP335U	発達臨床心理学	308

〔資格科目〕

SW200U	相談援助の基盤と専門職	—
SW205U	相談援助の理論と方法Ⅰ	—
SW210U	相談援助の理論と方法Ⅱ	—
SW300U	相談援助の理論と方法Ⅲ	309
SW305U	相談援助の理論と方法Ⅳ	310
SW100U	地域福祉論	—
SW215U	社会保障論	—
SW105U	児童福祉論	—
SW325U	保健医療サービス	311
SW330U	就労支援サービス	312
SW220U	相談援助演習Ⅰ	—
SW225U	相談援助演習Ⅱ	—
SW335U	相談援助演習Ⅲ	313
SW340U	相談援助演習Ⅳ	314
SW350U	相談援助実習指導Ⅰ	315
SW365U	相談援助実習Ⅰ	316
SB100U	生涯学習概論	—
SB200U	図書館サービス概論	—
SB205U	情報サービス論	—
SB300U	児童サービス論	317
SB210U	情報資源組織論	—
SB305U	図書館制度・経営論	318
SB310U	情報サービス演習Ⅰ	319
SB315U	情報サービス演習Ⅱ	320
SB320U	情報資源組織演習Ⅰ	321
SB325U	情報資源組織演習Ⅱ	322
SB330U	図書館情報資源概論	323
SB335U	図書・図書館史	324
SB340U	図書館実習	325

〔2018年度開講せず〕

SL305U	経済学	—
SP300U	心理学研究法B	—

社会学科（4年次）

〔基幹科目〕

基礎ゼミⅠ	—
基礎ゼミⅡ	—
プロゼミA	—
プロゼミB	—
専門ゼミⅠ	—
専門ゼミⅡ	329～330
卒業研究	331～332

社会学概論	—	認知心理学 I	—
社会学リレー講義	—	認知心理学 II	—
社会調査論	—	発達心理学	—
社会調査法	—	臨床心理学	—
統計データの読み方	—	人格心理学	—
質的研究法	—	心理学研究法 I	—
社会調査実習 A	—	心理学研究法 II	—
社会調査実習 B	—	心理学実験実習 I	—
社会学理論	—	心理学実験実習 II	—
心理学概論 I	—	心理療法	—
心理学概論 II	—	家族社会学	—
心理統計学 I	—	若者文化論	—
心理統計学 II	—		
文献講読 I (社会学・政治学・心理学)	—	[社会福祉士・受験資格科目]	
文献講読 II (社会学・政治学・心理学)	—	医学一般	—
認知情報学	—	高齢者福祉論	—
		障害者福祉論	—
[学科専門科目]		児童福祉論	—
多文化社会論	—	相談援助の基盤と専門職	—
政治行動論	—	保健医療サービス	—
比較政治学	—	就労支援サービス	—
社会政策論	—	相談援助の理論と方法 I	—
公的扶助論	—	相談援助の理論と方法 II	—
社会保障論	—	相談援助の理論と方法 III	—
法律学 (国際法を含む)	—	相談援助の理論と方法 IV	—
権利擁護と成年後見制度	—	相談援助演習 I	—
経済学 (国際経済を含む)	—	相談援助演習 II	—
宗教と社会	—	相談援助演習 III	—
都市社会学	—	相談援助演習 IV	—
教育社会学	—	相談援助演習 V	—
福祉行財政と福祉計画	—	相談援助実習指導 I	—
文化人類学	—	相談援助実習指導 II	—
障害者スポーツ	—	相談援助実習指導 III	—
環境社会学	—	相談援助実習 I	—
地域社会学	—	相談援助実習 II	—
NPO/NGOの社会学	—		
社会と言語	—	[高等学校教諭免許状 (公民) 資格科目]	
海外から見た日本	—	日本国憲法	—
石川の伝統文化と産業	—	哲学	—
エコツアーリズム論	—	倫理学	—
エコツアーリズム実習	—	教職概論	—
地域福祉論	—	教育原理	—
現代社会と福祉 I	—	教育心理学	—
現代社会と福祉 II	—	教育課程論	—
福祉サービスの組織と経営	—	公民科教育法 I	—
社会心理学 I	—	公民科教育法 II	—
社会心理学 II	—	特別活動論	—
人間関係論	—	教育方法論	—

生徒・進路指導論	—
教育相談	—
中等教育実習指導	—
中等教育実習	—
教職実践演習（高）	—

〔2018年度開講せず〕

教職実践演習（高）	—
-----------	---

**全学共通科目
(1～3年次)**

授業科目名		HG110U キリスト教概論 I		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名		楠本 史郎					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本科目は全学生必修科目であり、北陸学院の基本精神である旧新約聖書について学ぶ入門科目である。キリスト教は世界で最大の信仰者を擁する宗教で、人類の歴史に大きな影響を与えてきた。聖書はその基準であり、現在でもっとも広く読まれている。</p> <p>本講義では、担当教員を紹介し、心の根幹に関わる信仰及び宗教とは何かを知ることから始める。続いて、キリスト教について、聖書に基づき概要を話し、他の宗教との違い、とくに各々の人間観・世界観・歴史観の相違を学ぶ。次に、新約聖書の記述に直接触れつつ、イエス・キリストの生涯について学び、新約聖書を聞き取るためのガイダンスで本講義を終わる。</p>				<p>学院の建学の精神である「キリスト教に基づく人間教育」の根幹をなすキリスト教の思想を、聖書の学びによって知り、人間観、世界観を広げることを目的とする。</p> <p>具体的には、聖書を学ぶことによって、</p> <p>①聖書について、キリスト教について、イエスの地上の生涯について、概略を理解することができる。</p> <p>②聖書を読み、その中心思想を理解し、それに対する自分の思考を文章によって表現する力を養う。</p> <p>③世界とその歴史に触れ、国際人として広い視野を持つことができる。</p> <p>④人間理解を深め、自分自身の生き方を考え、求める方法を身につける。</p> <p>⑤他者や社会を尊重し、それらと自己との関わりを理解し、深めることができる。</p> <p>⑥学院の建学の精神を知り、ここでの全ての学びの基礎を身につける。</p>			
教授方法	講義と応答レポート作成・提出を組み合わせて行う。						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	自分を見つめる。担当者の紹介と礼拝の守り方、聖書の開き方、賛美歌の歌い方を学ぶ（大学礼拝の守り方を知る） 信じることと生きることについて考え、宗教とは何かを学ぶ（信じることの意味を知る）						
2	諸宗教のなかのキリスト教の位置、および聖書の背景について学ぶ（日本と世界の宗教理解の相違を知る） 新約の時代と歴史について学び、旧約と新約の連続性と相違を知る（新約の構成と背景にあるイエスの生涯の概略を理解する）						
3	時の基準について学び、旧約と新約の違いを知る。また宗派・教派による「聖書」の相違について基本的知識を持つ（旧約と新約の違いおよび諸宗派の「聖書」観の相違を理解する） /イエスの生涯① マルコ福音書1：9-14により、神が人となる受肉の意味を学ぶ（キリストの両性の意味を理解する）						
4	イエスの生涯② マルコ福音書5：1-20により、真の自分を取り戻し、真の自己となることの意味を学ぶ（真の自己の存在を知る） /イエスの生涯③ マルコ福音書8：27-9：1により、疎外からの解放がどのように行われるのかを学ぶ（真の自己となることの意味を知る）						
5	イエスの生涯④ マルコ福音書10：1-12により聖書の夫婦観・家族観を学ぶ（イエスの夫婦観を知る） キリスト教の結婚観、夫婦観、家族観を学ぶ（聖書の結婚観を知り自己の結婚観を養う）						
6	イエスの生涯⑤存在の意味 マルコ福音書10：35-45により、人間の存在について意味を学ぶ（自己の生の意味を他者との関係でとらえる） /イエスの生涯⑥ マルコ福音書12：28-34により神への愛と他者への愛、真の自己愛とは何かを学ぶ（愛の構造について理解する）						
7	小テスト①、およびイエスの生涯⑦受難（マルコ福音書14：1-11）の社会的構造を学ぶ（イエスの死の経緯と、そこに示された救済史的な意味を理解する） /イエスの生涯⑧最後の晩餐（マルコ福音書14：22-26）が示すイエスの死の贖罪の意味を知る（イエスの死の意味を理解する）						
8	小テスト②および新約の中心的使信について説明し、それを聞きとるためのガイダンスを行う（新約の中心的メッセージを理解する）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加度・理解度	20	毎回の内容をミニレポートにまとめ提出。 ①授業内容を理解している。 ②それを自分の言葉で掘り込んで表現している。 ③疑問や質問など、問題意識を持っている。			新約聖書の目次を覚える小テスト	20	新約27書の正式書名を覚え、正典の順序で正しく書き記す。
新約等前期授業の内容について小テスト	30	新約関連の重要語、思想、その理解とそれに対する自己の考えを問う。			レポート	30	①教会の主日（日曜）礼拝への参加態度。 ②そこでの説教内容のまとめ。 ③それに対する自己の意見によって評価。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①聖書およびそれに立つ学院の基本姿勢を理解するため、大学礼拝および特別な礼拝への主体的参加を求める。[20分] ②さらに、地域諸教会における主日礼拝への参加を勧める。[60分] ③北陸学院セミナーへの積極的参加を求める。[28時間] ④日頃より聖書に親しみ、学院宗教諸行事への積極的参加を求める。				毎回の授業で、前回のミニレポートについて、また小テストやレポートについても、必要なコメントをする。			
受講生に望むこと	①受け身ではなく、主体的に授業に参加し、自分のメモをとること。 ②聖書を必ず持参すること。 ③遅刻や欠席、私語をせず、携帯電話等も鞆にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。			教科書・テキスト	『新共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会 毎回授業に持参する		
指定図書／参考書等	なし			その他・特記事項	①原則として1回90分に、45分授業2コマ分を行うので、1回欠席すると2コマの欠席となる。 ②毎回の授業レポートを丁寧に記し、提出すること。提出しないと欠席扱いとする。 ③小テストを授業時間のなかで行うので、必ず受験すること。 ④レポートは必ず指定された期限内に提出すること。		

授業科目名		HG120U キリスト教概論Ⅱ		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名		楠本 史郎					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本科目は全学生必修科目であり、北陸学院の基本精神である旧新約聖書について学ぶ入門科目である。キリスト教は世界で最大の信仰者を擁する宗教で、人類の歴史に大きな影響を与えてきた。聖書はその基礎であり、現在でもっとも広く読まれている。</p> <p>キリスト教概論Ⅰで学んだ新約聖書の歴史と背景、その内容を前提として、おもに旧約聖書について学ぶ。旧約の背景となったイスラエル史は、他民族による侵略と支配を受け、民が自身の罪の現実と向かい合いながら、なお神の守りと救いを信じ、共同体を形成・維持し続けた苦難の歴史でもある。これを学ぶことによって、自己と社会を形づくる基盤は何かを問う。具体的には旧約聖書の歴史と背景、および内容を学び、人間と世界の存在の意味、それに対する人間の責任と現実、契約と共同体倫理としての法の概念、歴史観と希望の概念等を課題とする。それに対する各自の主観的応答を、発表、レポート等の形で表現し、論議を深める。</p>				<p>学院の建学の精神である「キリスト教に基づく人間教育」の根幹をなすキリスト教の思想を、聖書の学びによって知り、人間観、世界観を広げることが目的とする。</p> <p>具体的には、聖書を学ぶことによって、</p> <p>①聖書について、キリスト教について、旧約の内容とイスラエル史について、概略を理解することができる。</p> <p>②実際に聖書を読み、その中心思想を理解し、それに対する自分の思考を文章によって表現することができる。</p> <p>③世界とその歴史に触れ、国際人として広い視野を持つことができる。</p> <p>④人間理解を深め、自分自身の生き方を考え、求める方法を身につける。</p> <p>⑤他者や社会を尊重し、それらと自己との関わりを理解し、深めることができる。</p> <p>⑥学院の建学の精神を知り、ここでの全ての学びの基礎を身につける。</p>			
教授方法	講義と応答レポート作成・提出を組み合わせで行う。						
履修条件	キリスト教概論Ⅰをすでに受講していることが望ましい。						
授業計画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	イエスの生涯① マルコ福音書15:6-41により、イエスの十字架の死について学び、後期授業について概略を知る(イエスの十字架の意味を理解する)/イエスの生涯② マルコ福音書16:1-8により、イエスの復活について知り、その意味を学ぶ(イエスの復活の意味を理解する)						
2	旧約を概念的に見て、その区分を学び、旧約全体の意味を学ぶ(旧約39書とその区分、本質を知る)イスラエル史の概略を知り、そのなかで生まれた旧約の全体を知る(旧約各書とイスラエル史との関連を理解する)						
3	天地創造物語を読む。聖書の人間理解① 創世記1章の祭司資料から、人間を「神のかたち」ととらえる人間観を学ぶ(祭司資料の歴史的背景から聖書の使信を聞き取る)/聖書の人間理解② 創世記2章により、人間を土のちりと理解し、その命の根源は何か、学ぶ(祭司資料の歴史的背景から聖書の生命観を理解する)						
4	墮罪物語。創世記3章により神の前での罪と救いを学ぶ(聖書の罪理解と救いを知る)/族長史。創世記12章以下よりアブラハム・ヤコブ・ヨセフの物語を学び、その意味を知る(族長史を知り、唯一神信仰の背景を理解する)						
5	十戒①神の恵みと人間の責任。出エジプト記20章から十戒の前半の5つの戒めを学び、それが神の恵みとして与えられたことを学ぶ(十戒前半を学び、旧約における法の意味を知る)/十戒②法と社会。出エジプト記20章から、十戒の後半5つの戒めを学び、イスラエルが目指した共同体形成を学ぶ(十戒後半を学び、共同体形成原理を知る)						
6	イスラエル王国史について学び、その中でダビデ王の生涯とその功罪を知る(ダビデ王朝史を知り、歴史に対する聖書の見方を知る)/ダビデを通して旧約における指導者像について学ぶ(イスラエル王国史から聖書における指導者の姿を理解する)						
7	旧約預言者の分類について、また代表的な使信を学ぶ(旧約預言者の区分とその使信の相違を理解する)/キリスト教の職業観を歴史的に振り返り、それぞれの人生形成を考える。および小テスト①(聖書の職業観を知り、自らの使命を考える)						
8	小テスト②および旧約の中心的使信について説明し、それを聞きとるためのガイダンスを行う(新約の中心的メッセージを理解する)						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加度・理解度	20	毎回の内容をミニレポートにまとめ提出。 ①授業内容を理解している。 ②それを自分の言葉で掘込んで表現している。 ③疑問や質問など、問題意識を持っている。			旧約聖書の目次を覚える小テスト	20	旧約39書の正式書名を覚え、正典の順序で正しく書き記す。
旧約等後期授業の内容について小テスト	30	旧約関連の重要語、思想、その理解と、それに対する自己の考えを問う。			地域諸教会の主日(日曜日)礼拝レポート	30	①教会の主日(日曜)礼拝への参加態度。 ②そこでの説教内容のまとめ。 ③それに対する自己の意見によって評価。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①聖書およびそれに基づき学院の基本姿勢を理解するため、大学礼拝および特別な礼拝への主体的参加を求める。[20分] ②さらに、地域諸教会における主日礼拝への参加を求める。[60分] ③北陸学院セミナーへの積極的参加を求める。[28時間] ④日頃より聖書に親しみ、学院宗教諸行事への積極的参加を求める。				毎回の授業で、前回のミニレポートについて、また小テストやレポートについても、必要なコメントをする			
受講生に望むこと	①受け身ではなく、主体的に授業に参加し、自分のメモを取る。 ②聖書を必ず持参すること。 ③遅刻や欠席、私語をせず、携帯電話等も鞆にし、きちんとした授業態度を確立すること。			教科書・テキスト	『新共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会 毎回授業に持参する		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	①原則として1回90分に、45分授業2コマ分を行うので、1回欠席すると2コマの欠席となる。 ②毎回の授業レポートを丁寧に記し、提出すること。提出しないと欠席扱いとする。 ③小テストを授業時間のなかで行うので、必ず受験すること ④レポートは必ず指定された期限内に提出すること		

授業科目名	HG130U 初教人間論 I		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修	
担当教員名	野崎 卓道						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>キリスト教概論Ⅰ及びⅡで得たキリスト教についての基礎知識を前提に、さらに聖書が人生を導く書であることに対する理解を深める。特にキリスト教の三要素の一つである「十戒」を手がかりに、私たちが人生において直面するさまざまな問題にどのように対処したらよいかを考える。そして、旧約聖書の「十戒」にこそ、困難な時代を生き抜くための明確な指針が示されていることを学ぶ。前期は十戒の第一戒から第五戒までを学ぶ。授業では、学生が積極的に発言し、対話することを通して、さまざまな価値観や考え方を共有し、その上で聖書の「十戒」が示す生き方や考え方の指針を理解する。毎回指定されたテキスト（ヴァルター・リュティ著『十戒』）の該当箇所を読んで授業に出席すること。</p>			<p>①「十戒」が人間を縛るものではなく、人間を生かし、本当の自由を与えてくださる神の愛に満ちた御言葉であることを理解する。 ②「十戒」が人生全般について、明確な指針を与えてくれることを学ぶ。 ③「十戒」を手がかりに、聖書が全巻を通して伝えようとしているメッセージを読み取る。</p>				
教授方法	レジュメによる講義、キリスト教に関するDVD観賞、レポートのための教会出席等。						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業の目的を知り、テキスト『十戒』の著者と内容を紹介した後、自己分析のためのアンケートを実施する。						
2	主なる神が十戒をイスラエルの民に与える前提となった出エジプトの出来事を振り返り、第一戒（テキスト10-25頁）を通して、聖書の神が「わたし」と「あなた」という人格的な関係の中に人間を置いてくださることを学ぶ。そこから「人間とは何ものか」を学ぶ。						
3	第二戒（テキスト26-42頁）を通して、神が私たちの人生の隠れた導き手であることを学ぶ。目に見えるものに頼る生き方と、目には見えないものを信じて生きることの違いを知り、プロテスタント教会の礼拝では、なぜ御言葉の説教を大切にすることを理解する。						
4	第三戒（テキスト43-61頁）を通して、「主」という神の名に込められた意味、また礼拝において「主の名を唱えること」の意味を理解し、その上で、神を自分の都合の良い道具として利用していないかを考える。						
5	第四戒（テキスト62-91頁）を通して、人間に時間が与えられている意味について考え、なぜ人間に安息日が必要なのか、一週間働くことの意味と、安息日には教会の礼拝に集う意味について学ぶ。また、安息日の戒めが持っている時間的、空間的広がりを理解する。						
6	第五戒（テキスト92-108頁）を通して、父母を敬うとはどういうことかを理解し、家族関係におけるさまざまな問題について考える。						
7	第五戒（テキスト109-133頁）を通して、「上に立つ権威」（特に国家）に対する責任をどのように果たすかを考える。						
8	小テストにより、十戒の第一戒から第五戒までの記述と、テキストの重要センテンスに関する問題、及び第一戒から第五戒その中から一つの戒めを取り上げ、その理解とそれに対する自分の考えを問う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
授業参加度・理解度	30	毎回の内容をミニレポートにまとめ提出。授業態度を評価の対象とする。 ①授業内容を理解している。 ②それを自分の言葉で欄で表現している。 ③疑問や質問など、問題意識を持っている。	十戒を覚える小テスト	20	十戒（出エジプト記20章2-12節）を覚え、正しく書き記す。		
前期授業の内容について的小テスト	30	十戒について学んだ事柄（重要センテンス）の理解とそれに対する自己の考えを問う	レポート	20	①教会の主日（日曜）礼拝への参加態度 ②そこでの説教内容のまとめ ③それに対する自己の意見によって評価		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①毎回指定されたテキスト（ヴァルター・リュティ『十戒』）の該当箇所をあらかじめ読んで授業に出席することを求める。[30分] ②聖書およびそれに立つ学院の基本姿勢を理解するため、大学礼拝への主体的参加を求める。[30分] ③さらに、地域諸教会における主日礼拝への参加を求める。[70分] ④日頃より聖書に親しみ、学院宗教諸行事への積極的参加を求める。[15分]			毎回の授業で、前回のミニレポートについて、また小試験やレポートについても、必要なコメントをする。				
受講生に望むこと	①積極的に発言し、共に授業を作り上げる姿勢を大切にすること ②聖書・テキストを必ず持参すること③遅刻をしないこと、無断で途中退席しないこと		教科書・テキスト	①『新共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会 ②ヴァルター・リュティ著『十戒』（野崎卓道訳）、新教出版社、2011年、ISBN:978-4400521068			
指定図書参考書等	なし		その他・特記事項	なし			

授業科目名	HG140U 初教人間論Ⅱ			開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名	野崎 卓道						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>キリスト教概論Ⅰ及びⅡで得たキリスト教についての基礎知識を前提に、さらに聖書が人生を導く書であることに対する理解を深める。特にキリスト教の三聖文の一つである「十戒」を手がかりに、私たちが人生において直面するさまざまな問題にどのように対処したらよいかを考える。そして、旧約聖書の「十戒」にこそ、困難な時代を生き抜くための明確な指針が示されていることを学ぶ。後期は十戒の第六戒から第十戒までを学ぶ。授業では、学生が積極的に発言し、対話することを通して、さまざまな価値観や考え方を共有し、その上で、聖書の「十戒」が示す生き方や考え方の指針を理解する。毎回指定されたテキスト（ヴァルター・リュティ著『十戒』）の該当箇所を読んで授業に出席すること。</p>				<p>①「十戒」が人間を縛るものではなく、人間を生かし、本当の自由を与えてくださる神の愛に満ちた御言葉であることを理解する。 ②「十戒」が人生全般について、明確な指針を与えてくれることを学ぶ。 ③「十戒」を手がかりに、聖書が全巻を通して伝えようとしているメッセージを読み取る。</p>			
教授方法	レジュメによる講義、キリスト教に関係のあるDVD観賞、レポートのための教会出席						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	第六戒（テキスト134-149頁）を通して、命の尊さ、特に神の似姿として造られた人間の命の尊さを知り、人間が生きていることを神がどれほど望んでおられるかを理解する。						
2	第六戒（テキスト150-164頁）を通して、戦争と平和の問題について考え、国際平和のために、どのような貢献ができるかを考える。						
3	第七戒（テキスト165-204頁）を通して、聖書に基づいた結婚と結婚生活の意味、また不倫の問題について考える。						
4	第七戒（テキスト205-226頁）を通して、独身であることの意義について、聖書がどのように語っているかを理解する。						
5	第八戒（テキスト227-243頁）を通して、「盗む」とは何を意味するかを考え、そこから職業倫理や財産管理のあり方についても考える。						
6	第九戒（テキスト244-261頁）を通して、「人間の尊厳」とは何か、神が人間の尊厳をどれほど重んじてくださるかを理解する。また、私たちが偽証や中傷によって人の尊厳を傷つけることがどれほど重大な問題を引き起すかを考える。						
7	第十戒（テキスト262-278頁）を通して、人間の心の一番奥深くに潜む欲望の問題を取り上げ、人をうらやむ気持ちや妬む気持ちとどのように向き合ったら良いのかについて考える。						
8	小テストにより、十戒の第六戒から第十戒までの記述、テキストの重要センテンスに関する問題、及び第六戒から第十戒の中から一つの戒めを取り上げ、その理解とそれに対する自分の考えを問う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加度・理解度	30	毎回の内容をミニレポートにまとめて提出。授業態度を評価の対象とする。 ①授業内容を理解している。 ②それを自分の言葉で欄内で表現している。 ③疑問や質問など、問題意識を持っている。			十戒を覚える小テスト	20	十戒（出エジプト記20章13-17節）を覚え、正しく書き記す
後期授業の内容について的小テスト	30	十戒について学んだ事柄（重要センテンス）の理解とそれに対する自己の考えを問う			レポート	20	①教会の主日（日曜）礼拝への参加態度 ②そこでの説教内容のまとめ ③それに対する自己の意見によって評価
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①毎回指定されたテキストをあらかじめ読んで授業に出席することを求める。[30分] ②聖書およびそれに立つ学院の基本姿勢を理解するため、大学礼拝への主体的参加を求める。[30分] ③さらに、地域諸教会における主日礼拝への参加を求める。[70分] ④日頃より聖書に親しみ、学院宗教諸行事への積極的参加を求める。[15分]</p>				<p>毎回の授業で、前回のミニレポートについて、また小試験やレポートについても、必要なコメントをする。</p>			
受講生に望むこと	①積極的に発言し、共に授業を作り上げるため姿勢を大切にすること ②聖書・テキストを必ず持参すること ③遅刻をしないこと、無断で途中退席しないこと			教科書・テキスト	①『新共同訳・旧約聖書』日本聖書協会 ②ヴァルター・リュティ著『十戒』（野崎卓道訳）、新教出版社、2011年、ISBN:978-4400521068		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	GE100U 総合教養A I		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修	
担当教員名	熊田 凡子・大井 佳子・福江 厚啓・谷 昌代・姫野 俊幸 (代表教員 熊田 凡子)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、全学共通科目における「総合教養科目」に位置付けられている科目である。「子ども」をキーワードに様々な角度から話題を提供する。少子化が進行する時代において、子どもの魅力、子育ての楽しさ、子どもから学ぶことなど、多くの事例を通して理解を深める、オムニバス方式の本講義に幼、小、中それぞれの現場の様子や、それら教育実践を貫く教育思想について5人の教員がリレー方式で、各担当の専門分野を活かしながら3回ずつ講義を担当する。</p>			<p>①それぞれの授業内容を的確に把握し理解することができる。 ②授業内容を的確にまとめ、そこから学んだ自分の考えを書くことができる。</p>				
教授方法	5名の子ども教育学科教員によるオムニバス形式の講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：担当教員紹介、科目を学ぶ意義、レポートの書き方、DVD「赤ちゃんのひみつ」の視聴を通して、人間の魅力を考える。					熊田	
2	「感覚」を通して学ぶ：前回の学びから、乳児期の学びについて、感覚、感性を使って考える。					熊田	
3	「生きる力」を知る：DVD「ベイビーズ」を視聴し、世界4か国の乳児期の様子から自ら生きよう育とうとしている力があることを知る。					熊田	
4	不思議な不思議な・・・子どもの遊び 子どもは遊んで賢くなることを知る。					大井	
5	不思議な不思議な・・・子どもの言葉 身体言葉で話していることに気付く。					大井	
6	不思議な不思議な・・・子どもたち 人も動物も実によくできていることを知る。					大井	
7	子どもを「善く」見ること：一人ひとりのちがいを受け止めることから考える。					谷	
8	子どもも大人も輝くとき：森には宝物がいっぱい！！自然活動体験から子ども達は何を学んでいるのか考え、子ども同士の育ち合う姿を知る。					谷	
9	現代の子育て事情のいろんなこと：保護者の抱える「不安」を知り、心の援助を考える。					谷	
10	子どもの世界は「物語」：子どもの姿から、一人ひとりをみてみよう。					福江	
11	幼保から小学校へ：就学期に子どもが感じるエトセトラ。					福江	
12	小学校の特別支援教育：一人ひとりに応じること、協働すること。					福江	
13	小学校で学ぶこと。小学校で学習する内容について振り返り、現在の自分自身の「生きる力」につながっていることを理解する。					姫野	
14	小学生とはどんな生き物なのか。小学1年生で入学してから、6年生で卒業するまでの、子供たちの成長の様子について理解する。また、様々な保護者の様子について知る。					姫野	
15	小学校の先生とはどんな職業なのか。授業を創る。子供たちと向き合う。保護者との対応。教育公務員としての教師。等、職業の一つとして小学校の先生について多角的に理解する。					姫野	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
担当者ごとの授業後の課題レポート	100 (20×5)	授業内容の把握とそれに対する自分の考えを的確に表現している					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
今、いじめ問題を始めとして子ども・教育問題への関心はどの年齢層にとっても関心が強く、社会で論議されている。普段からそれらの論議に関心を寄せると共に、授業の中で生まれた課題意識を授業者が紹介した書籍等から積極的に学んで深めてほしい。[30分程度]				各教員ごとに対応する。			
受講生に望むこと	子ども教育学科生以外それぞれの専門領域ではないが、どの職業も何らかの形で人に関わること、今という学生時代を仲間と共に生きること、将来家庭をつくり子育てに関わる可能性が高いことを考えれば、人がどのように学び、育つのかを深く理解しておくことは極めて重要である。ぜひ意欲と関心を高めて授業に参加してほしい。			教科書・テキスト	なし		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	GE110U 総合教養AII		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修	
担当教員名	虹釜 和昭・大井 佳子・宮浦		国江・熊田 凡子・谷 昌代（代表教員 虹釜 和昭）				
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は全学共通科目における「総合教養科目」に位置づけられている科目である。「子ども」をキーワードに様々な角度から話題を提供する。少子化が進行する現代にあって、子どもの魅力、子育ての楽しさ、子どもから学ぶことなど、多くの事例を通して理解を深める。オムニバス方式の本講義は幼、保、小、中それぞれの現場の様子や、それら教育実践を貫く教育思想について5人の教員がリレー形式で、各担当の専門分野を活かしながら3回ずつ講義を担当する。</p>			<p>①それぞれの授業内容を的確に把握し理解することができる。 ②授業内容を的確にまとめ、そこから学んだ自分の考えを書くことができる。</p>				
教授方法	5名の子ども教育学科教員によるオムニバス形式の講義。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	児童虐待の実態について理解を深める。特に、児童相談所における虐待相談の受付状況、虐待の状況などについて理解する。また、その発生要因や状況などを検証しその背景などを考え、虐待防止ネットワークの機能、司法による虐待対応などを理解する。					虹釜	
2	児童虐待の発生要因を学ぶ。1. 社会的リスクであるところの貧困問題、保護者の生育歴、2. 家族リスクとしての、保護者の人格問題、精神疾患、3. 子ども自身が有するリスクである、病気、低年齢、などからその要因を理解する。					虹釜	
3	児童虐待による子どもの受けた心的外傷後ストレス性障害（トラウマ）について学ぶ。脳科学の視点からトラウマを理解する。また虐待を受けた児童の情緒的特徴、児童福祉施設におけるトラウマ治療の最前線などを理解する。					虹釜	
4	子どもはことばをどのように獲得していくのだろうか。生後数年間の言語習得の過程を学ぶ。					宮浦	
5	子どものことばは大人のことばとどのように異なっているのだろうか。幼児期から学童期のことばの特徴を理解する					宮浦	
6	子どもに話しかける時、大人と話す時とは違う話し方になるのはどうしてだろうか。幼児向けことば(child-directed speech)の特徴を学ぶ。					宮浦	
7	DVD「赤ちゃんのひみつ」の視聴を通して、人間の魅力を考える。					熊田	
8	「感覚」を通して学ぶ：前回の学びから、乳児期の学びについて、感覚、感性を使って考える。					熊田	
9	「生きる力」を知る：DVD「ベイビーズ」を視聴し、世界4か国の乳児期の様子から自ら生きよう育とうとしている力があることを知る。					熊田	
10	不思議な不思議な…子どもの遊び。子どもは遊んで賢くなることを知る。					大井	
11	不思議な不思議な…子どもの言葉。身体言葉で話していることに気付く。					大井	
12	不思議な不思議な…子どものたち。人も動物も実にうまくできていることを知る。					大井	
13	子どもを「善く」見ること：一人ひとりのちがいを受け止めることから考える。					谷	
14	子どもも大人も輝くとき：森には宝物がいっぱい！！自然活動体験から子ども達は何を学んでいるのか考え、子ども同士の育ち合う姿を知る。					谷	
15	現代の子育てで事情のいろんなこと：保護者の抱える「不安」を知り、心の支援を考える。					谷	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
担当者ごとの授業後の課題レポート	100 (20×5)	授業内容の把握とそれに対する自分の考えを的確に表現している。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>今日、子どもに関する課題への関心はどの年齢層にとっても関心が強く、社会で論議されている。普段からそれらの論議に関心を寄せると共に、授業の中で生まれた課題意識を授業者が紹介した書籍等から積極的に学んで深めてほしい。[30分程度]</p>			各担当者ごとに対応する。				
受講生に望むこと	子ども教育学科生以外はそれぞれの専門領域ではないが、どの職業も何らかの形で人に関わること、今という学生時代を仲間と共に生きること、将来家庭をつくり子育てに関わる可能性が高いことを考えれば、人がどのように学び、育つかを深く理解しておくことは極めて重要である。ぜひ意欲と関心を高めて授業に参加してほしい。		教科書・テキスト	テキストを使用せず、配付資料や映像等を用いた講義となる。			
指定図書参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし			

授業科目名	GE120U 総合教養B I		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	田引 俊和・小林 正史・田中 純一 (代表教員 田引 俊和)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業は、社会学、比較文化、社会福祉といった各担当教員の専門分野の視点から、人間と社会との関係に焦点をあて、社会における人間のありようを抱える課題について考える。			<ul style="list-style-type: none"> ・災害が炙り出す社会システムの脆弱性と諸課題について理解する。(田中) ・超少子高齢社会におけるボランティア、地域社会の役割について理解する(田中) ・食器などの比較を通して、伝統的(手作り)技術の優れた面を理解できるようになる(小林) ・こころの不調や発達障害などを含め、障害等について正しく理解する。また、現代社会における社会福祉の動向、支援制度等を正しく理解し、日常生活においても興味関心を持てるようにする。(田引) 			
教授方法	3名の社会学科教員によるオムニバス形式の講義。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：科目概要、到達目標、受講する際の注意事項について理解する。復旧・復興過程と諸課題：東日本大震災および過去の災害事例から、復旧→復興の各プロセスにおける被災生活支援のあり方について理解する。					田中
2	災害と地域防災：超少子高齢社会における自助・共助・公助のあり方について理解する。					田中
3	災害ボランティア：過去の災害事例から、ボランティアの役割と課題について理解する。					田中
4	防災教育：国内・海外の実践事例から、防災教育の意義について理解する。					田中
5	住み続けられる地域とは：災害多発国である我が国において、万が一被災しても暮らし続けられるために地域社会はどうあるべきなのか について、減災という観点から理解する。					田中
6	食器の作り分け：日本の飯碗と汁椀の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する。					小林
7	食器の作り分け：日本と韓国・中国の食器の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する					小林
8	稲作農耕民の飲食方法民族誌：箸食・匙食との比較をとおして手食の役割を理解する。					小林
9	炊飯方法と食べ方の歴史：米調理方法が米品種の特徴に合わせて変化すること、および、食べ方が米調理方法に合わせて変化することを理解する。					小林
10	日本と英語圏の食文化の比較：稲作文化圏と小麦文化圏の比較をとおして、食材、調理方法、食べ方の関連を理解する。					小林
11	私たちの暮らしと社会福祉：障害の概念および障害の基礎的理解、社会との関係					田引
12	私たちの暮らしと社会福祉：こころと社会の関係を考える					田引
13	私たちの暮らしと社会福祉：だれもが住みやすい街づくり					田引
14	私たちの暮らしと社会福祉：ニーズ把握と権利擁護、多様な人たちの存在を認め合う					田引
15	私たちの暮らしと社会福祉：障害がある人たちの就労やスポーツ					田引
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
授業への参加態度および意欲	30	授業への取り組み姿勢・講義時に求められる提出物の取り組み状況	レポート提出	50	各担当者の講義終了時(5回講義1セット)にレポートを作成し提出する。レポートの形式はその都度担当教員の指示に従うこと。	
小レポート等の提出	20	授業時間外で行う小課題が適切に作成されている。また、提出期限を守っている。				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
事前に配布されたレジュメ等は必ず目を通しておくこと [30分] その日のうちに学んだことを復習すること [30分]			個々の教員の指導に従うこと。			
受講生に望むこと	授業への積極的な参加を求めるとともに、講義中に学んだことを深く掘り下げる努力をする。		教科書・テキスト	なし		
指定図書参考書等	共通フォルダーに保存された資料を読むように指示されることがある。		その他・特記事項	なし		

授業科目名	GE130U 総合教養BII		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修	
担当教員名	田引 俊和・小林 正史・田中 純一 (代表教員 田引 俊和)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この授業は、社会学、比較文化、社会福祉といった各担当教員の専門分野の視点から、人間と社会との関係に焦点をあて、社会における人間のありようと抱える課題について考える。			<ul style="list-style-type: none"> ・災害が炙り出す社会システムの脆弱性と諸課題について理解する。(田中) ・超少子高齢社会におけるボランティア、地域社会の役割について理解する(田中) ・食器などの比較を通して、伝統的(手作り)技術の優れた面を理解できるようになる(小林) ・こころの不調や発達障害などを含め、障害等について正しく理解する。また、現代社会における社会福祉の動向、支援制度等を正しく理解し、日常生活においても興味関心を持てるようにする。(田引) 				
教授方法	3名の社会学科教員によるオムニバス形式の講義。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：科目概要、到達目標、受講する際の注意事項について理解する。復旧・復興過程と諸課題：東日本大震災および過去の災害事例から、復旧→復興の各プロセスにおける被災生活支援のあり方について理解する。					田中	
2	災害と地域防災：超少子高齢社会における自助・共助・公助のあり方について理解する。					田中	
3	災害ボランティア：過去の災害事例から、ボランティアの役割と課題について理解する。					田中	
4	防災教育：国内・海外の実践事例から、防災教育の意義について理解する。					田中	
5	住み続けられる地域とは：災害多発国である我が国において、万が一被災しても暮らし続けられるために地域社会はどうあるべきなのか について、減災という観点から理解する。					田中	
6	食器の作り分け：日本の飯碗と汁椀の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する。					小林	
7	食器の作り分け：日本と韓国・中国の食器の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する					小林	
8	稲作農耕民の飲食方法民族誌：箸食・匙食との比較をとおして手食の役割を理解する。					小林	
9	炊飯方法と食べ方の歴史：米調理方法が米品種の特徴に合わせて変化すること、および、食べ方が米調理方法に合わせて変化することを理解する。					小林	
10	日本と英語圏の食文化の比較：稲作文化圏と小麦文化圏の比較をとおして、食材、調理方法、食べ方の関連を理解する。					小林	
11	私たちの暮らしと社会福祉：障害の概念および障害の基礎的理解、社会との関係					田引	
12	私たちの暮らしと社会福祉：こころと社会の関係を考える					田引	
13	私たちの暮らしと社会福祉：だれもが住みやすい街づくり					田引	
14	私たちの暮らしと社会福祉：ニーズ把握と権利擁護、多様な人たちの存在を認め合う					田引	
15	私たちの暮らしと社会福祉：障害がある人たちの就労やスポーツ					田引	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
授業への参加態度および意欲	30	授業への取り組み姿勢・講義時に求められる提出物の取り組み状況	レポート提出	50	各担当者の講義終了時(5回講義1セット)にレポートを作成し提出する。レポートの形式はその都度担当教員の指示に従うこと。		
小レポート等の提出	20	授業時間外で行う小課題が適切に作成されている。また、提出期限を守っている。					
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
事前に配布されたレジュメ等は必ず目を通しておくこと [30分] その日のうちに学んだことを復習すること [30分]			個々の教員の指導に従うこと。				
受講生に望むこと	授業への積極的な参加を求めるとともに、講義中に学んだことを深く掘り下げる努力をする。		教科書・テキスト	なし			
指定図書/参考書等	共通フォルダーに保存された資料を読むように指示されることがある。		その他・特記事項	なし			

授業科目名	GE140U 総合教養C I		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修	
担当教員名	新澤 祥恵・坂井 良輔・茶谷 信一・南 雅則・田中 弘美・三田 陽子 (代表教員 新澤 祥恵)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>生活環境の変化に伴い、食環境も多様化する中で、肥満ややせ、メタボリックシンドロームなど食に関連する問題が多く提起されている。健康づくりには、「栄養」「運動」「休養」の3つのバランスが大切であるが、中でも、栄養（食生活）が基本的な問題といえる。この授業では、今日的課題である「食育」「食の安全・安心」といった視点も踏まえ、次のテーマとおして、これからの食生活の在り方を考えていきたい。</p>			<p>①食物と健康の関連を理解する。 ②栄養素と健康の関連を理解する。 ③正しい食生活のあり方を理解する。 ④食と心理の関係を理解する。 ⑤食糧需給の現状を理解し、課題意識を持つ。</p>				
教授方法	6名の食物栄養学科教員によるオムニバス形式の講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	食と生活：人間にとって食とは、どのようなものかを考え、理解する。					新澤	
2	食品の一次、二次、三次機能とは何かについて学ぶ					坂井	
3	食品の一次機能について学ぶ -タンパク質、脂質、糖質-					坂井	
4	食品の一次機能について学ぶ -味成分、香り成分、色素成分-					坂井	
5	日本人の食文化：人間が育んできた食の歴史から食文化を理解し、行事食や郷土食の継承について考える。					三田	
6	食に関する情報と健康：食を取り巻く様々な情報の取捨選択の仕方について考える。					三田	
7	日本人の食生活の変化と問題点：自分の食生活を見直し、問題点を解決できるように考える。					田中	
8	献立作成の基本を学ぶ。（食事摂取基準、食事バランスガイドの理解を含む）					田中	
9	食物摂取と健康の概念：私たちはなぜ食べるのか？健康とはなにか？を考える。					三田	
10	食事と環境：人間と食べ物と環境のつながりから、環境調和型食生活の意義を考える。					三田	
11	食と心理①					南	
12	食と心理②					南	
13	現代の食環境における諸問題①					茶谷	
14	現代の食環境における諸問題②					茶谷	
15	21世紀の国民健康づくり運動：「健康日本21」が策定されたことを踏まえ、国民一人ひとりがどうあるべきか考える。					田中	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
担当者毎のレポート	90	①授業内容と課題に応じて論理的に考察されている ②質的量的に適切である ③指定期日までの提出		受講態度	10	授業参加意欲	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
食生活と健康に関する情報に関心を持ち、これらに関連する本や新聞、雑誌の記事を読むこと。毎回の授業内容をまとめる。[毎回30分程度]				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
食生活と健康に関する情報に関心を持ち、これらに関連する本や新聞、雑誌の記事を読むこと。毎回の授業内容をまとめる。[毎回30分程度]				毎回の授業ごとに対応は異なるが、課題の記載内容について講評することもある。			
受講生に望むこと	①各担当者が出す課題のレポートを確実に提出すること ②授業中の私語を慎み、遅刻をしない			教科書・テキスト	授業ごとに担当者が配布する資料を用いる		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	GE150U 総合教養CII		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修	
担当教員名	新澤 祥恵・茶谷 信一・南 雅則・西 正人・俵 万里子（代表教員 新澤 祥恵）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>生活環境の変化に伴い、食環境も多様化する中で、肥満ややせ、メタボリックシンドロームなど食に関連する問題が多く提起されている。健康づくりには、「栄養」「運動」「休養」の3つのバランスが大切であるが、中でも、栄養（食生活）が基本的な問題といえる。この授業では、今日的課題である「食育」「食の安全・安心」といった視点も踏まえ、次のテーマとおして、これからの食生活の在り方を考えていきたい。</p>			<p>①食物と健康の関連を理解する。 ②栄養素と健康の関連を理解する。 ③正しい食生活のあり方を理解する。 ④食と心理の関係を理解する。 ⑤食糧需給の現状を理解し、課題意識を持つ。</p>				
教授方法	5名の食物栄養学科教員によるオムニバス形式の講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	食と生活：人間にとって食とは、どのようなものかを考え、理解する。					新澤	
2	ライフステージに応じた食育（胎児期・乳児期）：健康な心身の基礎を作るための望ましい食生活のあり方について考える。					俵	
3	ライフステージに応じた食育（成長期）：心身の健全な成長・発達のための食生活のあり方について考える。					俵	
4	ライフステージに応じた食育（成人期）：生活習慣病予防のための食生活のあり方を考える。					俵	
5	運動・スポーツと栄養：運動・スポーツ時の身体変化とそのために必要な栄養摂取について理解する。					俵	
6	食品と薬剤1：ヒトの消化器系の構造と機能、生体内に薬剤が吸収される仕組みを理解する。					西	
7	食品と薬剤2：薬剤の服用方法や食品の薬効に及ぼす影響とその仕組みについて学ぶ。					西	
8	食品と薬剤3：食品中の特定成分（カフェイン、色素、食品群別）が薬効に及ぼす影響について学ぶ。					西	
9	食と心理①					南	
10	食と心理②					南	
11	現代の食環境における諸問題①					茶谷	
12	現代の食環境における諸問題②					茶谷	
13	健康と食文化：人間が育んできた食の歴史から食文化を理解し、健康との関連を考える。					新澤	
14	環境と食：環境負荷の少ない調理など、環境調査型食生活の意義を考える					新澤	
15	食の安全安心：食の安全安心をハザードとリスクや食育の視点から理解する					新澤	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
担当者毎のレポート	90	①授業内容と課題に応じて論理的に考察されている ②質的量的に適切である ③指定期日までの提出		受講態度	10	授業参加意欲	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
食生活と健康に関する情報に関心を持ち、これらに関連する本や新聞、雑誌の記事を読むこと。毎回の授業内容をまとめる。[毎回30分程度]				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
食生活と健康に関する情報に関心を持ち、これらに関連する本や新聞、雑誌の記事を読むこと。毎回の授業内容をまとめる。[毎回30分程度]				毎回の授業ごとに対応は異なるが、課題の記載内容について講評することもある。			
受講生に望むこと	①各担当者が出す課題のレポートを確実に提出すること ②授業中の私語を慎み、遅刻をしない			教科書・テキスト	授業ごとに担当者が配布する資料を用いる		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	GE160U 総合教養D I		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修	
担当教員名	富岡 和久・葦名 理恵 (代表教員 富岡 和久)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>コミュニケーションとは、情報(メッセージ)の授受により相互に影響しあう過程(プロセス)である。特に多様な価値観が存在する中で、互いを認め合うことは大切な事である。本講義では円滑なコミュニケーションに求められるテクニックについて学び、実践することで理解を深める。</p> <p>具体的には大学生活においてコミュニケーションが重要な役割を果たす場面の一つを想定して、私たちが取りまく家庭を中心とした「日常生活」を題材に用いて課題探求型のグループ学習を体験する。</p> <p>さらに、コミュニケーションが重要な役割を担うホスピタリティ産業についても知識を深める。</p> <p>この科目は全学共通科目における「総合教養科目」に位置づけられた科目である。</p>			<p>①プレゼンテーションの基本について学ぶ。</p> <p>②コミュニケーション能力としての「相手に伝える力」や「相手から読み取る力」を身につける。</p> <p>③協調性(チームワーク力)、主体性・積極性、リーダーシップあるいは論理的思考を身につける。</p> <p>④「日常生活」情報の中から自身に役立つものを適切に抽出・整理し、応用する力を身につける。</p> <p>⑤ホテル・ブライダル業界における基本的な業務・言葉を理解する。</p> <p>⑥ホテル・ブライダル業界において求められるホスピタリティマインドについて理解を深める。</p>				
教授方法	グループワーク形式で行う(1回～8回)。講義形式で行う(9～15回)						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	15回の流れについての説明を聞き、全体の流れを理解する。富岡担当授業内容とグループワークの進め方の説明。グループ分け。テーマの設定及び資料収集方法の決定をする。					富岡	
2	グループワークの知識と実践形式での学びを行う。 目標：グループ学習に必要な技術や知識などを実際の体験から習得する。					富岡	
3	プレゼンテーションの基本；コミュニケーションツールの一つとしてのプレゼンテーションを行う上で必要な基本的要素を学ぶ。「紹介・説明・説得」の違いについて事例を通して学習する。					富岡	
4	聞いてもらえるプレゼンテーション：論理的な文章の組み立て方と心に届く内容に、我々が何気なく用いている「パラランゲージ」を加えることで聞き手に届くプレゼンテーションをする。そのための技術について学ぶ。					富岡	
5	テーマ1に基づく、データの収集、整理、共有、組み立て、振り返り。 目標：グループワークのプロセスの準備一話し合い一行動までを体験して、理解する。					富岡	
6	グループの成果発表。質疑応答、振り返り、テーマ2の設定 目標：プレゼンテーション法の実践と理解。一連のプロセスの最終段階の成果の評価を行い、課題を見つける。					富岡	
7	テーマ2に基づく、データの収集、整理、共有、組み立て、振り返り。 目標：グループワークのプロセスの準備一話し合い一行動までを体験して、理解を深める。					富岡	
8	グループの成果発表。質疑応答、振り返り、本シリーズ全体の振り返りと共有 目標：2回のグループワークを通して、コミュニケーションの意義を理解するとともに、私たちにとっての「生活」の意味を理解する。					富岡	
9	ホスピタリティ産業 ホテル・ブライダル業界の概要について ブライダルの基礎知識① ブライダルの歴史と慣習					葦名	
10	ブライダルの基礎知識② 多様化する挙式と披露宴のスタイル					葦名	
11	ブライダルの基礎知識③ プランナー業務について					葦名	
12	ホテル業の基礎知識① ホテルの歴史、種類、組織体制					葦名	
13	ホテル業の基礎知識② 宿泊部門 フロント・コンシェルジュ業務について					葦名	
14	ホテル業の基礎知識③ 料飲部門 レストラン・バンケットサービスについて					葦名	
15	ホスピタリティ産業とそのマインドについてのまとめ					葦名	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	50	・指定の書式に従ってレポートを作成している。 ・感想文ではなく、客観的に記述し自分の考察を加えている。		毎回の成果の家訓	30	リフレクションシートによる達成度の確認。	
授業への参加態度	20	講義の到達目標をふまえて、授業に参加している。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
毎回学んだ内容をまとめ、配付された資料と共に整理しておくこと。事前・事後の学習はグループワークを効果的に進めるために、指示に従って各回毎に指定された時間数を自主的に行ってください。[総計60時間相当分]				授業内で随時行う			
受講生に望むこと	日常、何気なく使用するコミュニケーションを深く追及することによって、自分自身の行動がより円滑に有意義になるような目標を持って毎回の授業に臨んでほしい。			教科書・テキスト	プリントを配布し、パワーポイントを適宜使用する。		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	GE170U 総合教養DII		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修	
担当教員名	富岡 和久・葦名 理恵 (代表教員 富岡 和久)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>コミュニケーションとは、情報(メッセージ)の授受により相互に影響しあう過程(プロセス)である。特に多様な価値観が存在する中で、互いを認め合うことは大切な事である。本講義では円滑なコミュニケーションに求められるテクニックについて学び、実践することで理解を深める。</p> <p>具体的には大学生活においてコミュニケーションが重要な役割を果たす場面の一つを想定して、私たちが取りまく家庭を中心とした「日常生活」を題材に用いて課題探求型のグループ学習を体験する。</p> <p>さらに、コミュニケーションが重要な役割を担うホスピタリティ産業についても知識を深める。</p> <p>この科目は全学共通科目における「総合教養科目」に位置づけられた科目である。</p>			<p>①プレゼンテーションの基本について学ぶ。</p> <p>②コミュニケーション能力としての「相手に伝える力」や「相手から読み取る力」を身につける。</p> <p>③協調性(チームワーク力)、主体性・積極性、リーダーシップあるいは論理的思考を身につける。</p> <p>④「日常生活」情報の中から自身に役立つものを適切に抽出・整理し、応用する力を身につける。</p> <p>⑤ホテル・ブライダル業界における基本的な業務・言葉を理解する。</p> <p>⑥ホテル・ブライダル業界において求められるホスピタリティマインドについて理解を深める。</p>				
教授方法	グループワーク形式で行う(1回～8回)。講義形式で行う(9～15回)						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	15回の流れについての説明を聞き、全体の流れを理解する。富岡担当授業内容とグループワークの進め方の説明。グループ分け。テーマの設定及び資料収集方法の決定をする。					富岡	
2	グループワークの知識と実践形式での学びを行う。 目標：グループ学習に必要な技術や知識などを実際の体験から習得する。					富岡	
3	プレゼンテーションの基本；コミュニケーションツールの一つとしてのプレゼンテーションを行う上で必要な基本的要素を学ぶ。「紹介・説明・説得」の違いについて事例を通して学習する。					富岡	
4	聞いてもらえるプレゼンテーション：論理的な文章の組み立て方と心に届く内容に、我々が何気なく用いている「パラランゲージ」を加えることで聞き手に届くプレゼンテーションをする。そのための技術について学ぶ。					富岡	
5	テーマ1に基づく、データの収集、整理、共有、組み立て、振り返り。 目標：グループワークのプロセスの準備一話し合い一行動までを体験して、理解する。					富岡	
6	グループの成果発表。質疑応答、振り返り、テーマ2の設定 目標：プレゼンテーション法の実践と理解。一連のプロセスの最終段階の成果の評価を行い、課題を見つける。					富岡	
7	テーマ2に基づく、データの収集、整理、共有、組み立て、振り返り。 目標：グループワークのプロセスの準備一話し合い一行動までを体験して、理解を深める。					富岡	
8	グループの成果発表。質疑応答、振り返り、本シリーズ全体の振り返りと共有 目標：2回のグループワークを通して、コミュニケーションの意義を理解するとともに、私たちにとっての「生活」の意味を理解する。					富岡	
9	ホスピタリティ産業 ホテル・ブライダル業界の概要について ブライダルの基礎知識① ブライダルの歴史と慣習					葦名	
10	ブライダルの基礎知識② 多様化する挙式と披露宴のスタイル					葦名	
11	ブライダルの基礎知識③ プランナー業務について					葦名	
12	ホテル業の基礎知識① ホテルの歴史、種類、組織体制					葦名	
13	ホテル業の基礎知識② 宿泊部門 フロント・コンシェルジュ業務について					葦名	
14	ホテル業の基礎知識③ 料飲部門 レストラン・バンケットサービスについて					葦名	
15	ホスピタリティ産業とそのマインドについてのまとめ					葦名	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	50	・指定の書式に従ってレポートを作成している。 ・感想文ではなく、客観的に記述し自分の考察を加えている。		毎回の成果の確認	30	リフレクションシートによる達成度の確認。	
授業への参加態度	20	講義の到達目標をふまえて、授業に参加している。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
毎回学んだ内容をまとめ、配付された資料と共に整理しておくこと。事前・事後の学習はグループワークを効果的に進めるために、指示に従って各回毎に指定された時間数を自主的に行ってください。[総計60時間相当分]				授業内で随時行う			
受講生に望むこと	日常、何気なく使用するコミュニケーションを深く追及することによって、自分自身の行動がより円滑に有意義になるような目標を持って毎回の授業に臨んでほしい。			教科書・テキスト	プリントを配布し、パワーポイントを適宜使用する。		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	LJ090U 日本語基礎		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択	
担当教員名	竹下 正弘						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は大学での講義受講やレポート作成に必要なとされる日本語表現の基礎力養成を目的としている。「漢字」「語彙」「文法」などの基礎力を充実させ、大学生活で必要な「文章表現」「口頭表現」の力を伸ばす。また、大学生活を豊かにする「文学作品」「日本の美しいことば」等に触れる。			①辞書に親しみ、使いこなすことができる ②決められた「テーマ」「時間」で文章表現ができる ③表現力を豊かにするために「漢字」「語彙」「文法」などの基礎力を伸ばす ④口頭表現に慣れ親しむ				
教授方法	演習と講義。						
履修条件	入学時基礎学力テスト結果に基づき総合的に判断した結果、本授業履修が必要と判断された者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：「日本語基礎力」とはどのようなものかを理解する。「自己紹介文」を書く。						
2	①前回の「自己紹介文」を「口頭表現」「文章表現」として発表し、「すばらしい点」「直したい点」を考える。 ②辞書を使い慣れる（漢字の「読み」と「意味」）						
3	①表現力を豊かにする語彙（対義語） ②辞書を使い慣れる（「対義語」）						
4	①文章表現の基礎（「構成」を考える） ②表現力を豊かにする語彙（同義語） ③辞書を使い慣れる（「同義語」）						
5	①文章表現の基礎（「構成」「起承転結」を考える） ②表現力を豊かにする語彙（四字熟語） ③辞書を使い慣れる（「四字熟語」）						
6	①文章表現の実践（「エッセイ」を書く） ②表現力を豊かにする語彙（三字熟語） ③辞書を使い慣れる（「三字熟語」）						
7	①口頭表現の実践（「詩」の朗読） ②表現力を豊かにする語彙（故事成語） ③辞書を使い慣れる（「故事成語」）						
8	①口頭表現の実践（「詩」「散文」の朗読） ②表現力を豊かにするために（仮名遣い） ③辞書を使い慣れる（仮名遣いに注意して） ④到達確認テスト						
9	①文章表現の実践（「意見文」を書く） ②表現力を豊かにするために（言葉の意味を知る）						
10	①口頭表現の実践（前回の「意見文」を推敲し、発表する） ②表現力を豊かにするために（「ことわざ」を使いこなす）						
11	①文章表現の実践（「意見文」を書く） ②表現力を確実にするために（教育漢字の確認）						
12	①口頭表現の実践（前回の「意見文」を推敲し、発表する） ②表現力を確実にするために（常用漢字の確認）						
13	①文章表現の実践（「意見文」を書く） ②表現力を確実にするために（表外漢字の確認）						
14	①文章表現の実践（小論文）を書く） ②表現力を確実にするために（日本語の乱れ・文法）						
15	①文章表現の実践（「小論文」を書く） ②表現力を確実にするために（まとめ）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期テスト (16回目)	50	各回の講義内容・演習内容を理解しているか		到達確認テスト(8回目)	20	各回の講義内容・演習内容を理解しているか	
各回の課題提出	20	定められた書式・時間に従って提出しているか。さらに、「文章表現」においては自分の考え・意見を表現しているか		授業参加態度	10	課題に取り組み、弱点を克服しているか	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
テキストの復習及び発展課題の学習 [50分]				・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・提出された課題で返却するものは授業の中で返却し、随時フィードバックを行う。			
受講生に望むこと	授業を通して、大学生活に必要なマスメディア・文学・辞書などに触れる習慣を身に付けよう。			教科書・テキスト	『みがこう、あなたの日本語力』川本信幹 著 (東京書籍) 2008年 ISBN : 978-4-487-80295-1		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①辞書（電子辞書が望ましい）を持参すること		

授業科目名	LJ110U 日本語表現法 I		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修	
担当教員名	幸 聖二郎・亀田 孝太郎・清水 實・竹下 正弘 (代表教員 幸 聖二郎)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は、全学共通科目のうち学部の言語教育科目に位置付けられている。受講生は本授業内の演習や課題作成を通して、大学における授業理解の土台となる文章表現力と口頭表現力の基礎を培う。文章表現においては、問題演習を通して語彙を増やし、具体的かつ適切に言葉を用いる技術を学ぶ。口頭表現においては、敬語の理解を通してまとまった内容を人前で話すことについての基本を学ぶ。また、さまざまな場面を想定した会話を練習することによって、正しい敬語を使用することに慣れる。			①言葉で伝えるための基本的な姿勢を習得する。(聞き方、話し方、読み方、書き方) ②敬語の基本を理解し、敬語を適切に用いた表現ができる。 ③問題演習などを通して、大学生・社会人レベルの語彙を身につけ、適切な漢字表記ができる。 ④基本的な文章作成のルールを身につけ、読み手にわかりやすい文章を作成することができる。 ⑤総合的な日本語表現力(日本語検定2級を目指す実力)を身につけている。				
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。随時ディスカッションを行う。						
履修条件	「日本語基礎」履修者は、単位修得後に「日本語表現法 I」を履修することができる。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業の位置づけ、授業の進め方について理解する。グループ内で自己紹介する。 テキスト①：この授業で何を学ぶかを知る。					全員	
2	テキスト②：話の聞き方について学ぶ、相手に理解してもらうための自己紹介を行う。 テキスト③：敬語の種類と使い分けについて理解する。					全員	
3	テキスト②：発声・発音の基本。 テキスト③：敬語の使い分けを復習する、注意すべき敬語について理解する。					全員	
4	テキスト②：朗読について学ぶ。 テキスト③：配慮を示す言葉について理解する。					全員	
5	テキスト③：品詞・活用の種類について理解する、ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉について理解する。					全員	
6	テキスト①：レポートの形を知り、アイデアを練る。					全員	
7	テキスト①：構想を練り、情報を調べる。 テキスト③：文のねじれと言葉の係り受け、あいまい文について理解する。					全員	
8	テキスト①：テーマを絞り込み、目標を規程する。 テキスト③：接続語・指示語と文章について理解する。					全員	
9	テキスト①：文章を組み立てる。 テキスト③：類義語・対義語について理解する。					全員	
10	テキスト①：組み立てを再検討する。 テキスト③：動詞の自他・視点について理解する。					全員	
11	テキスト①：パラグラフを考える。 テキスト③：文体、話し言葉、書き言葉について理解する。					全員	
12	テキスト①：本文を書きこんでいく。 テキスト②：コロケーションについて理解する。					全員	
13	テキスト①：引用しながら書く。 テキスト③：部首・音訓・熟語について理解する。					全員	
14	テキスト②：資料の作り方を学ぶ。 テキスト③：仮名遣い・送り仮名について理解する。					全員	
15	テキスト③：総合問題に挑戦する。					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への参加状況	20	①必要な準備をして参加している。 ②毎回の学習事項について予習復習をしている。 ③積極的にディスカッションに参加している。		提出課題	30	①授業時に指示する課題について、学習した事項を踏まえて表現し、提出している。 ②日本語検定・領域別問題集について、指示された書式・期日を守り、自己採点を行った上で提出している。	
単位認定試験	50	①授業で取り組んだ各分野の内容を概ね習得している。 ②得意な分野を伸ばし、苦手な分野を克服している。 ③日本語検定3級以上の実力が付いている。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①毎回指定された課題・問題に取り組む。[40分] ②苦手な分野の克服に向けて努力する。具体的には、苦手とする領域の問題集(指定図書)に取り組む。[40分] ③前期の授業で学んだ内容をもとに、夏季休業中にレポートを作成して、後期の授業に持参すること。[夏期休業中に10日～14日間程度]				・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・提出された課題で返却するものは授業の中で返却し、随時フィードバックを行う。			
受講生に望むこと	①毎回、必ず国語辞典を持参すること。(電子辞書可) ②主体的に課題やディスカッションに取り組むこと。 ③各自の学習成果を確認するため、日本語検定を受験すること。			教科書・テキスト	①『ピアで学ぶ大学生の日本語表現 第2版 プロセス重視のレポート作成』大島弥生他 ひつじ書房 2014 ISBN: 978-4-89476-709-6 ②『Practical 日本語 口頭表現編 自己表現の型』福沢健輔 おうふう 5刷 2011 ISBN: 978-4-273-03339-2 ③『スキルアップ!日本語力 大学生のための日本語練習帳』名古屋大学日本語研究会GK7 東京書籍 2014 ISBN: 978-4-487-80364-4		
指定図書参考書等	日本語検定委員会(東京書籍 2008)発行の以下のテキストより1冊を選んで問題を解く。 ①日本語検定公式テキスト『日本語中級3・4級』ISBN 978-4487802906 ②日本語検定領域別問題集『敬語』ISBN 978-4487802760 ③日本語検定領域別問題集『語彙・言葉の意味』ISBN 978-4487802784 ④日本語検定領域別問題集『文法』ISBN 978-4487802777 ⑤日本語検定領域別問題集『漢字・表記』ISBN 978-4487802971			その他・特記事項	①基礎学力テストで一定の基準に達しなかった学生は「日本語基礎」の授業を履修し、単位取得した後で履修すること。 ②日本語表現法Ⅱにおいてもテキストを継続して使用する。		

授業科目名	LJ120U 日本語表現法Ⅱ		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修	
担当教員名	幸 聖二郎・亀田 孝太郎・清水 實 (代表教員 幸 聖二郎)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は、全学共通科目のうち、言語教育科目に位置付けられている。受講生は、日本語表現法Ⅰで学んだことを基礎として、大学生活から社会生活におけるさらに高度な文章表現力と口頭表現力を培う。文章表現においては、レポート作成を通して形式に則った作成方法を学ぶ。口頭表現においては、相手の話の要点を的確に把握し、論理的で説得力のある話し方について考え、スピーチやディベートなどの体験を通して実践的に学ぶ。			①言葉で伝えるための実践的な知識・技能を身につけている。 ②敬語の知識を身につけ、場に応じて相手に配慮した適切な敬語を使うことができる。 ③定型文章表現（主としてレポート作成）に必要な知識やルールを理解して、適切に表現することができる。 ④人前で改まった内容のスピーチを行うことができる。 ⑤資料に基づいて論理的に物事を説明することができる。 ⑥グループで協力してディベートを行うことができる。				
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。						
履修条件	「日本語表現法Ⅰ」の単位を修得済の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：日本語表現法Ⅱで学ぶ文章表現、口頭表現について概要を説明する。					全員	
2	テキスト①：文章・表現・形式を点検する。 テキスト②：プレゼンテーション・内容の構成について学ぶ。テキスト③：重要語句を確認する。					全員	
3	テキスト①：発表を準備する。 テキスト②：プレゼンテーションについて考える。テキスト③：重要語句を確認する。					全員	
4	テキスト①：口頭発表をする。 テキスト②：話し方の技術について学ぶ。テキスト③：重要語句を確認する。					全員	
5	テキスト①：口頭発表をする。テキスト③：重要語句を確認する。					全員	
6	テキスト①：学んだことを振り返る。テキスト③：重要語句を確認する。					全員	
7	テキスト①：スピーチ原稿、手元資料（メモカード）を作成する。 テキスト③：重要語句を確認する。					全員	
8	テキスト①：発表資料（レジュメなど）を作成する。 テキスト③：重要語句を確認する。					全員	
9	スピーチの実践（前半グループ）。					全員	
10	スピーチの実践（後半グループ）。					全員	
11	ディベートについて理解し、論題についてディスカッションを行う。					全員	
12	テキスト②：ディベートの技術（準備を行う）。					全員	
13	テキスト②：ディベートの実践（前半グループ）。					全員	
14	テキスト②：ディベートの実践（後半グループ）。					全員	
15	後期の授業で学んだことを振り返り、グループで話し合う。自己の課題を取り上げ、ミニレポートを作成する。					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加状況	20	①必要な授業準備をして参加している。 ②与えられた役割・課題を果たして、ディスカッションやディベートに参加している。 ③毎回学習する事項について予習復習をしている。		課題レポート	40	①形式・内容の両面において、学習内容が反映されている。 ②計画通りにレポートが作成できている。 ③大学生レベルの語彙力・表現となっている。	
口頭表現発表態度	40	①学習内容を理解して発表を行っている。 ②ディベートやディスカッションのルールを理解し実践している。 ③相手の意見をしっかりと聞き、積極的に発言している。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①日本語表現法Ⅰで課されたレポートを夏季休業期間を利用して作成し、初回の授業で提出すること。[夏期休業中に10日～14日間] ②ディベートはグループごとに役割分担をして、資料収集・論点組立の準備をする。[120分] ③レポート発表は、各自が自分に最適と思われる方法を考え準備する。			・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・提出された課題で返却するものは授業の中で返却し、随時フィードバックを行う。				
受講生に望むこと	①「日本語表現法Ⅰ」で学んだ内容を踏まえた上で授業を行うため、必要に応じて復習しておくこと。 ②毎回辞書を持参し、分からない単語や表現などはその都度調べるなどして語句の理解に努めること。 ③授業時はもちろん相当量の事前事後学習が求められるため、学習する時間を確保して、集中して取り組むこと。		教科書・テキスト	①『ピアで学ぶ大学生の日本語表現 第2版 プロセス重視のレポート作成』大島弥生他 ひつじ書房 2014 ISBN: 978-4-89476-709-6 ②『Practical 日本語 口頭表現編 自己表現の型』福沢健編 おうふう 5刷 2011 ISBN: 978-4-273-03339-2 ③『スキルアップ!日本語力 大学生のための日本語練習帳』名古屋大学日本語研究会GK7 東京書籍 2014 ISBN: 978-4-487-80364-4			
指定図書参考書等	なし/なし		その他・特記事項	日本語表現法Ⅰで使用したテキストを継続して用いる。			

授業科目名	LE090U 英語基礎		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択	
担当教員名	宮浦 国江						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、全学共通科目における「基礎力強化科目」に位置付けられている。本授業では英語学習の仕方や中学校程度の基礎知識（文法的知識や語彙・発音）の定着をすることを目標に、「予習⇒授業での理解確認⇒テスト⇒復習・予習」サイクルで授業を行う。具体的には、毎回テキストに従って、基本的文法事項の理解確認と同時に、練習問題やペアワークを通じて大学生の日常生活に必要な語彙を使って発信できる力を養う。</p>			<p>学生は大学で学ぶために必要な基本的語彙・文型等を確認しながら、シンプルな文を自分で組み立てて発信できるような基本的な英語力を身につける。同時に、自律的に学ぶ姿勢を獲得することを目標とする。</p>				
教授方法	演習（予習⇒授業での理解確認⇒テスト⇒復習・予習）の形式で行う。						
履修条件	入学時基礎学力テスト結果に基づき総合的に判断した結果、本授業履修が必要と判断された者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション、クラスルール、ノートの作り方、テキストの使い方等について学ぶ。英語での自己紹介をする。						
2	Lesson 1: This is my everyday life. 一般動詞(1) 現在形の肯定文、否定文、疑問文を学ぶ						
3	前回の授業で学んだ文型を用いて、日常生活の表現を実際に聞き、読み、話し、書く。						
4	Lesson 2: Do you keep a diary? 一般動詞(2) 一般動詞のWh-疑問文と答え方。人称代名詞の使い方を学ぶ。日常生活について、質問の仕方、答え方を実際に使えるようにする。						
5	Lesson 3: These are my family photos. be動詞(1) be動詞現在形を使い、家族についての紹介の仕方を学ぶ。						
6	Lesson 4: Where are you from? be動詞(2) be動詞のwh-疑問文を使って、相手の状態や持ち物についての質問の仕方と答え方を学ぶ。予習						
7	Lesson 5: We love our town, Sakura-Yokocho. 場所の表現 基本的な前置詞を用いて、街の紹介文を理解し、発信できるようにする。						
8	Lesson 6: I'm so busy this month! 時の表現 時点、期間、回数など様々な時の表現を用いて過去の行為や予定についての表現を学ぶ。						
9	Lesson 7: Are you enjoying the Autumn Festival? 進行形 進行形を用いて目の前の出来事の記述や過去のある時点での行為の説明の仕方を学ぶ。						
10	Lesson 8: How was the job interview? 助動詞 面接試験の場面を題材に義務・可能・許可などの表現の仕方を学ぶ。						
11	Lesson 9: What does he look like? Wh-疑問文 wh疑問文を用いて相手から情報を得たり、答えたりする表現を学ぶ。						
12	Lesson 10: Can you come to our Christmas Concert? 基本動詞 get, have, come, go等の基本動詞の用法を学び、発信に使う。						
13	Lesson 11: Santa Claus is coming. 基本動詞の前置詞 put, take等基本動詞の句動詞としての用法を学び、発信に使う。						
14	Lesson 12: Let's take a trip. 英語で自分を表現するために 英語で発信する際の文の組み立て方を確認する。						
15	文法事項を復習し、まとめとして自分の日常生活またはこれからの予定など、自分についての短いスピーチ原稿を書き、発信する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	40	授業に取り組む姿勢(発音、ペアワーク、質問等)		ノートづくり・課題への取り組み	50	①予習：指定された範囲の課題（ノートづくり）ができているか。②質問して分かったことがノートにメモされているか。③復習：本時の学習事項を定着すべく練習しているか。	
スピーチ原稿と発信	10	学んだことをいかして自分についてのスピーチ原稿を作り、発信する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①授業は予習型で進められる。単語や文の意味（発音・ストレスは音声データを用いて練習）を調べ、練習問題の答を書いてくる[40分]。不明な点等があれば授業で質問すること。 ②授業後は内容を確認しながら音読するなど復習をして定着を図ること[20分]。 ③目安として毎日30分程度の学習を行うよう課題が出される。計画的に取り組むこと。</p>				随時行う			
受講生に望むこと	<p>①1時間目のオリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守る。守らない場合、単位認定に影響することがある。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に辞書を持参すること。</p>			教科書・テキスト	『Communication in Simple English発信型シンプル・イングリッシュ』三修社 2007年 ISBN:978-4-384-33378-7 C1082		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	入学時基礎学力テストで「英語基礎」に該当した者は、「英語基礎」の単位を修得しなければ、「英語F1」を履修できない。本科目を1年次に2回履修し、単位修得できなかった場合には進級基準により3年次への進級できないことが確定する。		

授業科目名	LE155U 英語A I		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	アンソニー ダガン					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>これまで学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのC1（学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができ、明確で文章構成がしっかりとした文章を作ることができる）レベルの英語力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習（ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト）。					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション・クラスルール・教員紹介・学生自己紹介等。授業のねらいや、遅刻や早退の扱い、テスト、学習の仕方等について説明を受ける。単位修得に関わる重要な連絡があるので全員必ず出席すること。 Unit1 Achieving goals; Lesson 1 動詞/形容詞+前置詞を用いて言語学習経験について討論することができるようになる。					
2	Unit 1 Lessons 1-2 ①動詞/形容詞+前置詞を用いて言語学習経験について討論することができるようになる。（復習）②受動態を用いて自分の知っている事/知らないことについて述べるようになる。					
3	Unit 1 Lessons 3-4 ①現在完了を用いて、自分がなし得た事柄について話すことができるようになる。②本課のまとめ。					
4	Unit 2 Places and communities; Lessons 1-2 ①動名詞/不定詞を用いて、訪問すべき場所についての助言ができるようになる。②比較級を用いて、公式/非公式の言語の特徴が使いこなせるようになる。					
5	Unit 2 Lessons 3-4 ①形容詞を用いて、土地についての描写ができるようになる。②本課のまとめ。					
6	Units 1-2の理解確認と単元テスト					
7	Unit 3 Stories; Lessons 1-2 ①動詞の過去形を用いて逸話を話すことができるようになる。②複合形容詞を用いて人物を詳細に描写することができるようになる。					
8	Unit 3 Lessons 3-4 ①動名詞句、過去分詞、現在分詞を用いて、冗談を言えるようになる。②本課のまとめ。					
9	Unit 4 Moving forward; Lessons 1-2 ①未来形を用いて物事が起こる確率について描写することができるようになる。②未来形を用いて計画や調整について話すことができるようになる。					
10	Unit 4 Lessons 3-4 ①主語と動詞の倒置表現を用いて、広範囲にわたる議論を理解することができるようになる。②本課のまとめ。					
11	Unit 5 Making money; Lessons 1-2 ①強調表現を用いて、仕事関係について話すことができるようになる。②条件節を用いて、金融に関する決定や後悔について討論することができるようになる。					
12	Unit 5 Lesson 3 文を修飾する副詞を用い優先順位を表すことができるようになる。					
13	Unit 5 Lesson 4 本課のまとめ、Units 3-5の理解確認					
14	Units 3-5の単元テスト、外部テスト（@特記事項参照）によるレベル到達度確認					
15	テスト返却・前期の学習のまとめ。リフレクション提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	小テスト・発表・タスク等 ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか。 ③学習内容確認の小テスト		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物（宿題、リフレクション等）	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。 ②指示通りの形式になっているか。 ③リフレクション:毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 ③毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進捗と合わせて計画的に進めること[50分]。				随時行う		
受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 6』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627313 『English in Common with Workbook 6』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132678964	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE160U 英語AⅡ		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	アンソニー ダガン					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>これまで学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのC1（学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができ、明確で文章構成がしっかりと文章を作ることができる）レベルの英語力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習（ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト等）。					
履修条件	「英語AⅠ」を履修した者（単位未修得可）。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション、Unit 6 Understanding power; Lesson 1 冠詞を用いて貴重な建物や建造物について描写できるようになる。					
2	Unit 6 Lessons 2-3 ① whatever, whoever, whenever節を用いて流暢に話されるスピーチのメモを取ることができるようになる。②時間と対比を論理的に繋げて自伝的文章が書けるようになる。					
3	Unit 6 Lesson 4 本課のまとめ Unit 7 The natural world; Lesson 1 形容詞節を用いて手順を説明することができるようになる。					
4	Unit 7 Lessons 2-3 ①不定詞/動名詞が続く動詞を用いて広範囲にわたる散文に基づき推測ができるようになる。②as.. as表現や量を表す表現を用いて、広告が書けるようになる。					
5	Unit 7 Lesson 4 本課のまとめ。					
6	Units 6-7の理解確認とテスト					
7	Unit 8 Problems and issues; Lessons 1-2 ①伝達動詞を用いて違う質問をされた際に引き伸ばし戦術をとることができるようになる。②継続表現を用いてライフスタイルについて討論することができるようになる。					
8	Unit 8 Lessons 3-4 ①話題化（文の先頭に移動）する方法を用いて、日々の問題を説明することができるようになる。②本課のまとめ。					
9	Unit 9 People with vision; Lessons 1-2 ①動詞句など前置詞との連語を用いて、物事の確からしさの程度を表すことができるようになる。②談話標識を用いて自分の好みを説明するために口頭表現を用いることができるようになる。					
10	Unit 9 Lessons 3-4 ①仮定法過去を用いて仮定的な質問に答えることができるようになる。②本課のまとめ。					
11	Unit 10 Expressing feelings; Lessons 1-2 ①助動詞を用いて感情がいかに自分に影響を与えるか討論することができるようになる。②推量の助動詞を用いて非現実的な状況について考え、述べることができるようになる。					
12	Unit 10 Lesson 3 wouldを用いて子どもの頃の思い出を描写することができるようになる。					
13	Unit 10 Lesson 4 本課のまとめ、Units 8-10の復習					
14	Unit 10単元テスト、外部テスト（㊟特記事項参照）による到達度確認					
15	テスト返却・後期の学習のまとめ。リフレクション提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	<small>(小テスト・発表・タスク等)</small> ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか。 ③学習内容確認の小テスト		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物（宿題、リフレクション等）	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。 ②指示通りの形式になっているか。 ③リフレクション：毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと（40分）。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること（20分）。 ③毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること（50分）。				随時行う		
受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 6』 Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627313 『English in Common with Workbook 6』 Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132678964	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE145U 英語B I		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	キャサリン シュリーブズ					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>これまで学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのB2（留学や仕事で求められる抽象的な話題や専門的な議論で扱われる語彙や表現を理解使用することができる）レベルの英語力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習（ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト）。					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション・クラスルール・教員紹介・学生自己紹介等。授業のねらいや、遅刻や早退の扱い、テスト、学習の仕方等について説明を受ける。単位修得に関わる重要な連絡があるので全員必ず出席すること。Unit1 Making connections; Lesson 1付加疑問文を用いて、情報を確認することができるようになる。					
2	Unit 1 Lessons 1-2 ①付加疑問文を用いて、情報を確認することができるようになる。（復習）②any/every/no/someを伴う代名詞を用いて、賛成・反対を表明することができるようになる。					
3	Unit 1 Lessons 3-4 ①could/might/must/mayなどの助動詞を用いて、推測を表すことができるようになる。②本課のまとめ。					
4	Unit 2 Making a living; Lessons 1-2 ①will/be going toを用いて、将来の計画や予測を表現することができるようになる。②未来進行形や未来完了形を用いて、調査結果を報告することができるようになる。					
5	Unit 2 Lessons 3-4 ①just in caseを用いて、就職採用試験申込書の添え状が書けるようになる。②本課のまとめ。					
6	Units 1-2の理解確認と単元テスト					
7	Unit 3 Lessons from history; Lessons 1-2 ①動詞の過去形を用いて短編物語を書くことができるようになる。②a/an/the/（なし）を用いて、材料、所有物、発明品について話すことができるようになる。					
8	Unit 3 Lessons 3-4 ①形容詞、副詞、位置を表す表現を用いて、ある場所についてプレゼンテーションをすることができるようになる。②本課のまとめ。					
9	Unit 4 Taking risks; Lessons 1-2 ①if節を用いて日記やブログの書き込みができるようになる。②義務を表す助動詞を用いてスポーツなどのやり方を説明することができるようになる。					
10	Unit 4 Lessons 3-4 ①強調表現を用いて、写真を比較し、違いを述べたり意見を述べたりすることができるようになる。②本課のまとめ。					
11	Unit 5 Looking back; Lessons 1-2 ①used to/would/get used toを用いて、過去の外見を描写することができるようになる。②能力の程度を表す表現を用いて、思い出について語るすることができるようになる。					
12	Unit 5 Lesson 3 although/however/neverthelessを用いて本について話すことができるようになる。					
13	Unit 5 Lesson 4 本課のまとめ、Units 3-5の理解確認					
14	Units 3-5の単元テスト、外部テスト（※特記事項参照）によるレベル到達度確認					
15	テスト返却・前期の学習のまとめ。リフレクション提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか。 ③学習内容確認の小テスト		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物（宿題、リフレクション等）	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。 ②指示通りの形式になっているか。 ③リフレクション：毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 ③毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進捗と合わせて計画的に進めること[50分]。				随時行う		
受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 5』 Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627290 『English in Common with Workbook 5』 Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132629027	
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE150U 英語BⅡ		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	キャサリン シュリーブズ					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>これまで学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのB2（留学や仕事で求められる抽象的な話題や専門的な議論で扱われる語彙や表現を理解使用することができるレベル）の英語力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習（ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト）。					
履修条件	「英語BⅠ」を履修した者（単位未修得可）。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション、Unit 6 Exploring the world; Lesson 1 現在完了形と現在完了進行形の用法の違いを理解し、それを用いてくれた電子メールを書くことができるようになる。					
2	Unit 6 Lessons 2-3 ①直接・間接話法の疑問文を用いて見知らぬ土地について質問をしたり答えたりすることができるようになる。②比較級を用いて土地や人々について比較し、表現できるようになる。					
3	Unit 6 Lesson 4 本課のまとめ Unit 7 Indulging yourself; Lesson 1 加算・不加算名詞を用いて、食事の料理や用意の仕方を描写することができるようになる。					
4	Unit 7 Lessons 2-3 ①受動態を用いて正式なクレーム書面を作成することができるようになる。②使役動詞のhave/get something doneを用いて、サービスについて話すことができるようになる。					
5	Unit 7 Lesson 4 本課のまとめ					
6	Units 6-7 まとめと理解確認、Units 6-7 単元テスト					
7	Unit 8 Aiming for success; Lessons 1-2 ①It's time/I'd rather/I'd betterの表現を用いて様々なタイプの人間について描写することができるようになる。②間接話法を用いて人が言ったことを伝えたり描写したりすることができるようになる。					
8	Unit 8 Lessons 3-4 ①hard/hardlyを用いて調査から分かったことについて報告書を書くことができるようになる。②本課のまとめ。					
9	Unit 9 Crime solvers; Lessons 1-2 ①原因を表す従属節を用いて、面白い物語を作ることができるようになる。②must/might/can't haveなどの助動詞を用いて過去の出来事について推測したことを表現できるようになる。					
10	Unit 9 Lessons 3-4 ①関係代名詞を用いて記事が書けるようになる。②本課のまとめ。					
11	Unit 10 Mind matters; Lessons 1-2 ①再帰代名詞を用いて、自分の信条や意見について議論できるようになる。②動名詞や不定詞を用いて、人の見解に対する賛成・反対意見を書くことができるようになる。					
12	Unit 10 Lesson 3 様々な条件節を用いて、後悔や決意を話すことができるようになる。					
13	Unit 10 Lesson 4 本課のまとめ、Units 8-10の復習					
14	Unit 10単元テスト、外部テスト（㊟特記事項参照）による到達度確認					
15	テスト返却・後期の学習のまとめ。リフレクション提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	①小テスト・発表・タスク等 ②毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。 ③教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか。 ④学習内容確認の小テスト		単元テスト ・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物（宿題、リフレクション等）	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。 ②指示通りの形式になっているか。 ③リフレクション：毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 ③毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進捗と合わせて計画的に進めること[50分]。				随時行う		
受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 5』 Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627290 『English in Common with Workbook 5』 Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132629027	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE135U 英語C I		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	カーラ カリー					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>これまで学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのB1+B2（職場・学校・余暇に加え抽象的な話題で扱われる語彙や表現を理解し使用することができる）レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習（ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト）。					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション・クラスルール・教員紹介・学生自己紹介等。授業のねらいや、遅刻や早退の扱い、テスト、学習の仕方等について説明を受ける。単位修得に関わる重要な連絡があるので全員必ず出席すること。Unit1 Relationships; Lesson 1 助動詞を用い一般化した物事を理解したり述べたりすることができるようになる。					
2	Unit1 Lessons 1-2 ①助動詞を用い一般化した物事を理解したり述べたりすることができるようになる。（復習）②単純現在と現在進行形を用いて、くだけた電子メールを書くことができるようになる。					
3	Unit 1 Lessons 3-4 ①現在完了と単純現在を用いて、読んだり聞いたりしたことを自分の言葉で言い換えることができるようになる。②本課のまとめ。					
4	Unit 2 In the media; Lessons 1-2 ①受動態を用いて賛成・反対意見を述べるようになる。②関係代名詞節を用いて問題解決場面での質問や助言ができるようになる。					
5	Unit 2 Lessons 3-4 ①単純過去と過去進行形を用いて、自分の人生で大切な出来事について描写することができるようになる。②本課のまとめ。					
6	Units 1-2の理解確認と単元テスト					
7	Unit 3 Home sweet home; Lessons 1-2 ①現在進行形、be going to、willを用いて、未来の事を話したり、Home Exchangeで借りた家について、クレームの手紙を書いたりすることができるようになる。②比較級や最上級を用いて、都市の比較をすることができるようになる。					
8	Unit 3 Lessons 3-4 ①未来形を用いて、形式ばった電話をかけることができるようになる。②本課のまとめ。					
9	Unit 4 Wealth; Lessons 1-2 ①付加疑問文を用いておしゃべりをするようになる。②義務や禁止を表す助動詞を用いて、招待したり招待への返答ができるようになる。					
10	Unit 4 Lessons 3-4 ①if/when/unless/as soon asから始まる節を含む文を用いて、広告を書くことができるようになる。②本課のまとめ。					
11	Unit 5 Spare time; Lessons 1-2 ①現在完了形と現在完了進行形を用いて、自分の考えを提案したり他人の考えに返答したりすることができるようになる。②動名詞/不定詞を目的語にする動詞を用いて映画や本の描写をすることができるようになる。					
12	Unit 5 Lesson 3 加算名詞・不加算名詞を用いて、レストランを推薦することができるようになる。					
13	Unit 5 Lesson 4 本課のまとめ、Units 3-5の理解確認					
14	Units 3-5の単元テスト、外部テスト（@特記事項参照）によるレベル到達度確認					
15	テスト返却・前期の学習のまとめ。リフレクション提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	<small>(小テスト・発表・タスク等)</small> ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか。 ③学習内容確認の小テスト		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
提出物（宿題、リフレクション等）	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。 ②指示通りの形式になっているか。 ③リフレクション：毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		単元テスト・期末ト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 ③毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進捗と合わせて計画的に進めること[30分]。				随時行う		
受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 4』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627283 『English in Common with Workbook 4』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132628945	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE140U 英語CII		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	カーラ カリー					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>これまで学んできた英語力を固め、さらにも上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのB1+B2（職場・学校・余暇に加え抽象的な話題で扱われる語彙や表現を理解し使用することができる）レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習（ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト）。					
履修条件	「英語CI」を履修した者（単位未修得可）。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション Unit 6 Travel tales; Lesson 1 過去完了形を用いて思い出深い写真を描写できるようになる。					
2	Unit 6 Lessons 2-3 ①likeの様々な用法を用いて、行ったことのない場所に行くために、読んだり話したりすることができるようになる。②冠詞を用いて、自分の興味や驚いたことについて、読んだり話したりすることができるようになる。					
3	Unit 6 Lesson 4 本課のまとめ Unit 7 Lifelong learning; Lesson 1 疑問詞が主語/目的語の疑問文を用いて、学習経験について読んだり話したりできるようになる。					
4	Unit 7 Lessons 2-3 ①Used to/wouldを用いて、昔習った先生について描写することができるようになる。②能力を表す助動詞を用いて過去から現在に至るまでの能力について読んだり話したりできるようになる。					
5	Unit 7 Lesson 4 本課のまとめ					
6	Units 6-7 理解確認と単元テスト					
7	Unit 8 Making changes; Lessons 1-2 ①仮定法過去を用いて原因と結果を述べるようになる。②副詞を用いて世界的課題について話すことができるようになる。					
8	Unit 8 Lessons 3-4①仮定法過去完了を用いて重大な決断による効果について描写することができるようになる。②本課のまとめ。					
9	Unit 9 On the job; Lessons 1-2 ①make/let/allowを用いて自分の意見をグループメンバーに伝えることができるようになる。②間接話法を用いて情報を伝達することができるようになる。					
10	Unit 9 Lessons 3-4 ①過去の義務/許可を表す表現を用いて、仕事に必要な日課をこなすために何を学ばねばならなかったのかを表現することができるようになる。②本課のまとめ。					
11	Unit 10 Memories of you; Lessons 1-2 ①I wish/if onlyの表現を用いて願いごとを言うことができるようになる。②過去時制を用いて過去の出来事や人物について討論することができるようになる。					
12	Unit 10 Lesson 3 句動詞を用いて別れを告げる表現を学び適切に使えるようになる。					
13	Unit 10 Lesson 4 本課のまとめ、Units 8-10の復習					
14	Unit 10単元テスト、外部テスト（㊟特記事項参照）による到達度確認					
15	テスト返却・後期の学習のまとめ。リフレクション提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	小テスト・発表・タスク等 ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか。 ③学習内容確認の小テスト		外部テスト	20	目標レベルに達しているか。
提出物（宿題、リフレクション等）	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。 ②指示通りの形式になっているか。 ③リフレクション：毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 ③毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進捗と合わせて計画的に進めること[30分]。				随時行う		
受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 4』 Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627283 『English in Common with Workbook 4』 Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132628945	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE125U 英語D I		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	中谷 博美・エリック モーニン (代表教員 中谷 博美)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<p>入学以前に学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのA2+B1(身近な話題・外国の行事や習慣・新聞記事等で扱われる語彙や表現を理解し使用することができる)レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト)。					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級(証明書コピー)によって本レベルの受講を指定された者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション・クラスルール・教員紹介・学生自己紹介等。授業のねらいや、遅刻や早退の扱い、テスト、学習の仕方等について説明を受ける。単位修得に関わる重要な連絡があるので全員必ず出席すること。Unit 1 世界遺産とは何かを4技能を用いた様々な活動を通じて理解する					各担当教員
2	Unit 2 (1) 古代ローマ遺跡をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					各担当教員
3	Unit 2 (2) 古代ローマ遺跡について前回学んだことを基にまとめ発表する					各担当教員
4	Unit 3 (1) 姫路城をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					各担当教員
5	Unit 3 (2) 姫路城について前回学んだことを基にまとめ発表する					各担当教員
6	Unit 4 (1) グランドキャニオンをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					各担当教員
7	Unit 4 (2) グランドキャニオンについて前回学んだことを基にまとめ発表する					各担当教員
8	これまでに学んだテーマから1つを選びショートスピーチをする、Unit 5 (1) 万里の長城をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					各担当教員
9	Unit 5 (2) 万里の長城について前回学んだことを基にまとめ発表する					各担当教員
10	Unit 6 (1) マチュピチュをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					各担当教員
11	Unit 6 (2) マチュピチュについて前回学んだことを基にまとめ発表する					各担当教員
12	Unit 7 (1) カップドキアをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					各担当教員
13	Unit 7 (2) カップドキアについて前回学んだことを基にまとめ発表する					各担当教員
14	外部テストによる到達度確認(特記事項参照)、振り返り					各担当教員
15	これまでに学んだテーマから1つを選びプレゼンテーションを行う、リフレクション提出					各担当教員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか。 ③学習内容確認の小テスト		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。 ②指示通りの形式になっているか。 ③リフレクション:毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
①授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。				随時行う		
受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出される期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	笹島茂編『CLIL World Heritage』2018年 三修社 ISBN:9784384334784	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE130U 英語DII		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	中谷 博美・エリック モーニン (代表教員 中谷 博美)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<p>前期に引き続き、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのA2+B1(身近な話題・外国の行事や習慣・新聞記事等で扱われる語彙や表現を理解し使用することができる)レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト)。					
履修条件	「英語DI」を履修した者(単位未修得可)。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	クラスオリエンテーション、前期の復習					各担当教員
2	Unit 8 (1) 自由の女神をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					各担当教員
3	Unit 8 (2) 自由の女神について前回学んだことを基にまとめ発表する					各担当教員
4	Unit 9 (1) 古代エジプト遺跡をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する。					各担当教員
5	Unit 9 (2) 古代エジプト遺跡について前回学んだことを基にまとめ発表する					各担当教員
6	Unit 10 (1) 知床をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					各担当教員
7	Unit 10 (2) 知床について前回学んだことを基にまとめ発表する					各担当教員
8	これまでに学んだテーマから1つを選びショートスピーチをする、Unit 11 (1) アンコールワットをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					各担当教員
9	Unit 11 (2) アンコールワットについて前回学んだことを基にまとめ発表する					各担当教員
10	Unit 12 (1) ウルルをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					各担当教員
11	Unit 12 (2) ウルルについて前回学んだことを基にまとめ発表する					各担当教員
12	Unit 13 (1) サグラダファミリアをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					各担当教員
13	Unit 13 (2) サグラダファミリアについて前回学んだことを基にまとめ発表する					各担当教員
14	外部テストによる到達度確認(特記事項参照)、振り返り					各担当教員
15	これまでに学んだテーマから1つを選びプレゼンテーションを行う、リフレクション最終提出。					各担当教員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか。 ③学習内容確認の小テスト		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。 ②指示通りの形式になっているか。 ③リフレクション:毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
①授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。				随時行う		
受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出される期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	笹島茂編『CLIL World Heritage』2018年 三修社 ISBN:9784384334784	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①当該レベルの英語Iの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語IIの授業を履修し、翌年英語Iを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのI・IIの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE115U 英語E I		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	宮浦 国江・伊藤 雄二・白井 雅代 (代表教員 宮浦 国江)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基ついた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<p>入学以前に学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのA2(旅行や公共の乗り物などで使用される表現を理解し使用することができる)レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト)。					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級(証明書コピー)によって本レベルの受講を指定された者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション・クラスルール・教員紹介・学生自己紹介等。授業のねらいや、遅刻や早退の扱い、テスト、学習の仕方等について説明を受ける。単位修得に関わる重要な連絡があるので全員必ず出席すること。Unit 1 (1) 異文化理解をテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
2	Unit 1 (2) 異文化理解についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員
3	Unit 2 (1) 和食をテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
4	Unit 2 (2) 和食についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員
5	Unit 3 (1) 外国語学習をテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
6	Unit 3 (2) 外国語学習についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員
7	Unit 4 (1) スポーツをテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
8	Unit 4 (2) スポーツについてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員
9	これまで学んだテーマから1つを選びショートスピーチを行う、Unit 5 (1) ファッションをテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
10	Unit 5 (2) ファッションについてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員
11	Unit 6 (1) 生き物をテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
12	Unit 6 (2) 生き物についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員
13	Unit 7 芸術について4技能統合型の活動を行い内容を理解し意見を発表する					各担当教員
14	外部テストによる到達度確認(特記事項参照)、振り返り					各担当教員
15	これまでに学んだテーマから1つを選びプレゼンテーションを行う、リフレクション最終提出					各担当教員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか。 ③学習内容確認の小テスト		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。 ②指示通りの形式になっているか。 ③リフレクション:毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
①授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。				随時行う		
受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出される期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	VELC研究会教材開発グループ編著/熊沢孝昭・静哲人・望月正道著『Ambitions Elementary』2018年 金星堂 ISBN:9784764740549	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE120U 英語EⅡ		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修	
担当教員名	宮浦 国江・伊藤 雄二・白井 雅代 (代表教員 宮浦 国江)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>前期に引き続き、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのA2（旅行や公共の乗り物などで使用される表現を理解し使用することができる）レベルの力をつけることを目指す。</p>				
教授方法	演習（ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト）。						
履修条件	「英語EⅠ」を履修した者（単位未修得可）。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	クラスオリエンテーション、Unit 8 (1) 核廃棄物をテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員	
2	Unit 8 (2) 核廃棄物についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員	
3	Unit 9 (1) ニンジャをテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員	
4	Unit 9 (2) ニンジャについてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員	
5	Unit 10 (1) 児童就労をテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員	
6	Unit 10 (2) 児童就労についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員	
7	Unit 11 (1) 長寿をテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員	
8	Unit 11 (2) 長寿についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員	
9	これまで学んだテーマから1つを選びショートスピーチを行う、Unit 12 (1) 騒音公害をテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員	
10	Unit 12 (2) 騒音公害についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員	
11	Unit 13 (1) 食物廃棄をテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員	
12	Unit 13 (2) 食物廃棄についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員	
13	Unit 14 ダンス芸術について4技能統合型の活動を行い内容を理解し意見を発表する					各担当教員	
14	外部テストによる到達度確認(特記事項参照)、振り返り					各担当教員	
15	これまでに学んだテーマから1つを選びプレゼンテーションを行う、リフレクション提出。					各担当教員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業取組状況	30	①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか。 ③学習内容確認の小テスト		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。	
提出物(宿題、リフレクション等)	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。 ②指示通りの形式になっているか。 ③リフレクション:毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。				随時行う			
受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出される期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	VELC研究会教材開発グループ編著/熊沢孝昭・静哲人・望月正道著『Ambitions Elementary』2018年 金星堂 ISBN:9784764740549		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。		

授業科目名	LE105U 英語F I		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	須田 久美子					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<p>入学以前に学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのA1(日常生活で使用する身近な表現や、簡単な語彙や基礎的な表現を理解し使用することができる)レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト)。					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級(証明書コピー)によって本レベルの受講を指定された者。または「英語基礎」の単位を修得済の者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション・クラスルール・教員紹介・学生自己紹介等。授業のねらいや、遅刻や早退の扱い、テスト、学習の仕方等について説明を受ける。 Pre-Unitで英語の語順、基本文型を確認し作文をする					
2	Unit 1 (1) 動詞の現在形の用法を確認しつつ、様々なタスクを通じてテキストの登場人物について基本情報を理解する					
3	Unit 1 (2) 自己紹介文の構成を理解し、自分の自己紹介文を作り発表する					
4	Unit 2(1) 代名詞の用法を確認しつつ、様々なタスクを通じて自分の住む町について説明する 自分の住む町について説明する英文を理解する					
5	Unit 2 (2) 自分の住む町について説明する文を理解し、自分の住む町についてライティングと発表を行う					
6	Unit 3 (1) 時を表す前置詞の用法を確認しつつ、様々なタスクを通じて休日の過ごし方を述べる					
7	Unit 3 (2) 休日の過ごし方を述べる英文を理解し、自分の休日の過ごし方についてライティングと発表を行う					
8	Unit 4 (1) 英語の基本文型を確認しつつ、様々なタスクを通じて自分の持ち物について説明する					
9	Unit 4 (2) 自分の持ち物について説明する英文を理解し、自分の持ち物についてライティングと発表を行う					
10	Unit 5 (1) 動詞の過去形の用法を確認しつつ、様々なタスクを通じて自分が毎日行う習慣について述べる					
11	Unit 5 (2) 自分が毎日行う習慣について述べる英文を理解して、自分が毎日行う習慣についてライティングと発表を行う					
12	Unit 6 (1) 進行形の用法を確認しつつ、様々なタスクを通じて過去と現在における自分の変化を述べる					
13	Unit 6 (2) 過去と現在における自分の変化を述べる英文を理解し、過去と現在における自分の変化についてのライティングと発表を行う					
14	外部テストによる到達度確認(特記事項参照)、振り返り					
15	これまでに学んだテーマから1つを選びスピーチを行う、リフレクション提出、					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	①(小テスト・発表・タスク等)毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか。 ③学習内容確認の小テスト		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。 ②指示通りの形式になっているか。 ③リフレクションへの記入：毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
①授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。				随時行う		
受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	Robert Hickling・臼倉美里著『English First Basic』2014年 金星堂 ISBN:9784764739703	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE110U 英語FⅡ		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修	
担当教員名	須田 久美子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>前期に引き続き、実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのA1（日常生活で使用できる身近な表現や、簡単な語彙や基礎的な表現を理解し使用することができる）レベルの力をつけることを目指す。</p>				
教授方法	演習（ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト等）。						
履修条件	「英語FⅠ」を履修した者（単位未修得可）。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	クラスオリエンテーション、Unit 7 (1) 未来形の用法を確認しつつ、様々なタスクを通じて自分の未来の目標や夢について述べる						
2	Unit 7 (2) 自分の未来の目標や夢について述べる英文を理解し、自分の未来の目標や夢についてライティングと発表を行う						
3	Unit 8 (1) 助動詞の用法を確認しつつ、様々なタスクを通じて今後の予定を述べる						
4	Unit 8 (2) 今晚や5年後の予定を述べる英文を理解し、自分の今後の予定についてライティングと発表を行う						
5	Unit 9 (1) 不定詞や動名詞の用法を確認しつつ、様々なタスクを通じて友人の好きなこと/嫌いなことを述べる						
6	Unit 9 (2) 他人の好きなこと/嫌いなことを述べる英文を理解し、自分の親しい友人の好きなこと/嫌いなことについてライティングと発表を行う						
7	Unit 10 (1) 現在完了形の用法を確認しつつ、様々なタスクを通じて自分の経験について述べる						
8	Unit 10 (2) 過去の経験について語る英文を理解し、自分の過去3ヶ月に経験したことについてライティングと発表を行う						
9	Unit 11 (1) 接続詞の用法を確認しつつ、様々なタスクを通じていろいろな場面での自分の感情について述べる						
10	Unit 11 (2) 様々な感情について説明する英文を理解し、自分がどのような時にどのような感情をもつかについてライティングと発表を行う						
11	Unit 12 (1) 比較表現の用法を確認しつつ、様々なタスクを通じて自分の身近な人との比較について述べる						
12	Unit 12 (2) 2人の友人の比較について述べる英文を理解し、それを元に自分との比較についてライティングと発表を行う						
13	Unit 13 受動態の用法を確認しつつ、4技能を統合したタスクを通じてお気に入りの映画や本について述べる						
14	外部テストによる到達度確認(特記事項参照)、振り返り						
15	これまでに学んだテーマから1つを選びプレゼンテーションを行う、リフレクション最終提出、						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか。 ③学習内容確認の小テスト		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。	
提出物(宿題、リフレクション等)	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。 ②指示通りの形式になっているか。 ③リフレクション:毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。				随時行う			
受講生に望むこと	①1時間目のオリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。守らない場合、単位認定に影響することがある。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	Robert Hickling・臼倉美里著『English First Basic』2014年 金星堂 ISBN:9784764739703		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。		

授業科目名	LE165U アクティブ・イングリッシュA		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦 国江・須田 久美子 (代表教員 宮浦 国江)					
標準履修年次	1・2・3・4年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。本授業では、まず英語に浸ることで自分のこれまでの学びが現実のものであることを認識し、その中から伝えたいことを探し、まとめ、最終的に伝えたいことを効果的に述べることができるプレゼンテーションスキルを身に付ける。事前授業では英語でのプレゼンテーションに必要な知識・技能を学び、British Hills (福島県)では英語漬けの生活を送る中で体験的学びをしつつ、プレゼンテーションの仕上げ・発表を行う。研修中は毎日英文日誌を書く。事後学習で、学内での成果発表会でプレゼンテーションを行う。</p>			<p>①英語運用能力を現在のレベルよりも向上させる。 ②英語によるプレゼンテーションスキルを身に付ける。 ③英語がコミュニケーションのツールである体験を積み重要性に気付く。 ④異文化コミュニケーションの楽しさを体験的に学びしさを知る。</p>			
教授方法	講義と演習：ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト。					
履修条件	英語だけで行われる授業を受ける語学力・意欲・忍耐力があり、また3泊4日の宿泊研修(福島県)に参加できる者。大学および施設でのルールが守れる者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	事前学習(1):クラスオリエンテーション(授業のねらい、クラスルール、旅行参加条件等) ※参加希望者は必ず出席すること。					
2	事前学習(2):英語プレゼンテーションの留意点・構成・語彙・文型などを学ぶ。British Hillsでの研修に関連するテーマを選びリサーチをする。					
3	事前学習(3):各自がリサーチしたテーマについてのミニ・プレゼンテーション。研修に必要な英語表現を学ぶ。					
4	British Hills (以下BH)(1)Check-in, Orientation, Guide & BH TourによりBHについて学ぶ					
5	BH(2)Interview & Orienteering: BHスタッフに英語でインタビューをしつつBHについて学ぶ。 Skills for presentation:効果的なプレゼンテーションとは何かを学ぶ。					
6	BH(3)Dance : 英国に伝わる伝統的な、様々なスタイルのダンスを覚える。体育館に設置されている、大きなダンススタジオのような鏡を使って、ステップの練習する。(※受講者が8名に満たない場合には別のテーマになる)					
7	BH(4)Group presentation 1: 効果的なプレゼンテーションとは何かを学ぶとともに、事前学習で準備した内容をグループワークでさらに深め、内容を確定する。					
8	BH(5) British Wedding : イギリスで行われている、伝統的な結婚式の流れや習慣について学ぶ。後半、花嫁・花婿・参列者となり、実際にチャペルで模擬結婚式を行う。					
9	BH(6) World of Food: 日英を中心にさまざまな国の食べ物をテーマに異文化理解を深める。					
10	BH(7) Travel in UK : 英国の主要都市、観光スポット、食事などを通して、それぞれの国の知識を深める。最後には実際にその国へ旅行するための計画を立てる。					
11	BH(8)Group presentation 2 グループ発表内容のパワーポイントスライドを完成させる。					
12	BH(9)Culture and Manner : 挨拶の仕方など、日本と海外の文化・慣習の違いを学ぶことを通して異文化を感じとる。世界の文化や考え方の違いからどのような問題があるのかを認識して知識を広げる。					
13	BH(10)Group presentation 3 最終発表に向けて、声の大きさ、姿勢、ジェスチャーにも気を配りつつ、リハーサルを行う。					
14	BH(11)Group presentation 4 最終プレゼンテーション 自己評価、相互評価のほか、BHスタッフ・教員が評価を行う。					
15	事後学習:学内で開催される「アクティブ・イングリッシュ」成果発表会で、BH(10),BH(11)に基づきプレゼンテーションを行う。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
事前学習	20	①ミニ・プレゼンテーション積極的に取り組み、自分の選んだテーマについてのスライドを仕上げる。 ②ミニ・プレゼンテーションで聞き手に分かりやすく発表する。 ③必要な英語表現を身に付ける。		BH研修参加態度	50	①British Hillsで規律を守り、かつ協力的な態度で研修に取り組んでいる。 ②多くの人と積極的にコミュニケーションをとる。
英文日誌	10	①授業(活動)の概要について具体的に記載できている。 ②自分の学び、気づき、弱みや強みを具体的に記載できている。 ③指示された文字数等分量を書いている。		事後学習	20	①学内での成果発表会で、他のメンバーと協力的にプレゼンテーションを行う。 ②事後レポートを期日までに英語・日本語で作成し、提出する。 ③英語運用力測定
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
①与えられた課題に対し、単語や文型を下調べして臨むこと。[40分] ②授業で学んだことや指摘事項を次回に活かすべくメモをとり、改善し、定着・反映させるようにすること。[20分] ③イギリスの文化や福島県のBritish Hillsとはどのようなものなのか、自分はこのようなテーマで取り組むのか、書籍や新聞、ネットなど様々な方法を駆使して調べておくこと。[60分]				随時行う		
受講生に望むこと	①英語を積極的に学び、使う姿勢を持つこと。 ②会話だけでなく、読んだり書いたりすることでより英会話力が上がる。そのサイクルを大切にすること。 ③集団生活なので、個人差はあるがストレスを生じることがある。健康管理に気を付けること。			教科書・テキスト	『Presentations to Go』 Noboru Matsuoka, Hiroko Miyake, Takashi Tachino著 センゲージ ラーニング株式会社 2013年 ISBN: 978-4-86312-264-2	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①履修登録変更期間締切時点で登録が5名に満たない場合には未開講となる。 ②団体研修であるため、人数によって参加費用は変動する。1時間目のオリエンテーションに募集要項を用いて説明を行う。必ず参加し、よく内容を理解すること。③新白河駅集合・解散。④団体生活であるため、学生生活上問題があると判断された学生については参加を許可しないことがある。⑤事後学習の学内発表会の他にも、研修について発表する可能性がある。	

授業科目名	LE170U アクティブ・イングリッシュB		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択
担当教員名	伊藤 雄二・葦名 理恵 (代表教員 伊藤 雄二)					
標準履修年次	1・2・3・4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
2017年8月下旬～9月上旬に14日間の予定でカナダ・オンタリオ州スーセントマリー市アルゴマ大学(Algoma University)での語学研修・地域でのボランティア活動・ホームステイを通して、カナダの文化と社会について学ぶ。海外研修中は毎日、英文日誌をつける。事前学習で、海外渡航・生活面・日本文化紹介・プレゼンテーションについて学び準備を整える。帰国後に事後学習としてレポートを提出するとともに、成果発表会でプレゼンテーションを行う。本科目は、「全学共通科目」のうち「言語教育科目」に位置付けられている。			①海外語学研修の準備を通じて、グローバル社会の一員として必要な基礎知識を体験的に学ぶ。 ②英語で積極的にコミュニケーションがとれる。 ③異文化理解への開かれた態度を持つとともに、日本文化にも目を向け英語で紹介する。 ④ホームステイを通じてホスピタリティを体験し、理解する。 ⑤語学研修・ボランティア活動を通じて、カナダの社会・文化の側面を理解するとともに、英語力を向上させる。 ⑥語学研修の経験を英語によるプレゼンテーションで報告する。			
教授方法	渡航に関するオリエンテーション、事前・事後学習、研修先での諸活動					
履修条件	「異文化コミュニケーション論」を履修する(している)ことが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	【事前学習(1):クラスオリエンテーション(授業のねらい、クラスルール、旅行参加条件等) ※参加希望者は必ず出席すること。					
2	事前学習(2):英語プレゼンテーションの留意点・構成・語彙・文型などを学ぶ。カナダでの研修に関連するテーマを選びリサーチをする。					
3	事前学習(3):各自がリサーチしたテーマについてのミニ・プレゼンテーション。研修に必要な英語表現を学ぶ。					
4	アルゴマ大学での英語研修・自己紹介を含む、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
5	アルゴマ大学での英語研修・日本文化紹介プレゼンテーション、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
6	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
7	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
8	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
9	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
10	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
11	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
12	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
13	アルゴマ大学での英語研修・研修成果についてのプレゼンテーション、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
14	アルゴマ大学での英語研修・修了式、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
15	事後学習:学内で開催される「アクティブ・イングリッシュ」成果発表会で、研修先での発表に基づきプレゼンテーションを行う。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
事前学習	20	①ミニ・プレゼンテーション積極的に取り組み、自分の選んだテーマについてのスライドを仕上げる。 ②ミニ・プレゼンテーションで聞き手に分かりやすく発表する。 ③必要な英語表現を身につける。		カナダ研修参加態度	50	①カナダ・アルゴマ大学、ホームステイ先で規律を守り、かつ協力的な態度で研修に取り組んでいる。 ②多くの人と英語やジェスチャーを用いて交わろうとしている。
英文日誌	10	①授業(活動)の概要について具体的に記載できている。 ②自分の学び、気づき、弱みや強みを具体的に記載できている。 ③指示された文字数等分量を書いている。		事後学習	20	①学内での成果発表会で、他のメンバーと協力的にプレゼンテーションを行う。 ②事後レポートを期日までに英語・日本語で作成し、提出する。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
・渡航前にそれぞれ自分の研修の目的を明確にすること。[30分] ・どれだけ準備をして臨むかによって成果が大きく異なることを理解し、英語学習を含め積極的に取り組むこと。[毎日60分] ・集団での海外渡航やホームステイを含め異文化での生活など、初めて経験することも多いと思われるので、万全の体調で臨めるよう健康管理に気を付けること。				随時行う		
受講生に望むこと	・渡航前にそれぞれ自分の研修の目的を明確にすること。 ・どれだけ準備をして臨むかによって成果が大きく異なることを理解し、積極的に取り組むこと。 ・集団での海外渡航やホームステイを含め異文化での生活など、初めて経験することも多いと思われるので、万全の体調で臨めるよう健康管理に気を付けること。			教科書・テキスト	『Presentations to Go』 Noboru Matsuoka, Hiroko Miyake, Takashi Tachino著 センゲージ ラーニング株式会社 2013年 ISBN: 978-4-86312-264-2	
指定図書参考書等	【参考書】『今日から使える!留学&ホームステイのための英会話』細井忠俊、パーウィック妙子・著、アルク、2016年 (ISBN: 978-4757426658)			その他・特記事項	・履修登録者が10名に満たない場合、実施しない。また、学生生活や学業等において問題があると判断した場合、参加を認めないこともある。 ・事前学習以外にも、必要に応じてオリエンテーションが行われることがあるので、必ず参加すること。 ・事後学習としての成果発表会以外にも、研修について発表する可能性がある。	

授業科目名	LE175U アクティブ・イングリッシュC		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	1・2・3・4年	開講時期	後期	単位	3単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
英語力向上または自分の研究課題の調査を目的とした3週間（授業時数にして45コマ分）以上の海外留学を対象とする。本学の提携大学との正規留学もしくはESLプログラムへの参加、現地における調査などを行う。現地における英語研修、寮滞在、アドバイザーの指導の下に行う調査などを通して、現地の人びとや国際色豊かな人々と交流し、国際的な視野を広げ、学びを深める。			①英語力をワンランク上げる。 ②自立した学び（目的に沿って計画・立案・実施・評価）ができる。 ③国際的な視点を持ち日本の常識とは異なるものがあることを知る。 ④異文化理解への態度・スキルを身に付ける。			
教授方法	渡航に関するオリエンテーション、事前・事後学習、現地における正規留学／英語研修／調査研究					
履修条件	学科指定の者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	渡航に関するオリエンテーション①：計画書含む諸書類のファイル作成、現地に関する事前学習					
2	渡航に関するオリエンテーション②：計画書含む諸書類のファイル提出、課題の確認					
3	現地における英語学習／調査研究、ホームステイまたは寮滞在					
4	現地における英語学習／調査研究、ホームステイまたは寮滞在					
5	現地における英語学習／調査研究、ホームステイまたは寮滞在					
6	現地における英語学習／調査研究、ホームステイまたは寮滞在					
7	現地における英語学習／調査研究、ホームステイまたは寮滞在					
8	現地における英語学習／調査研究、ホームステイまたは寮滞在					
9	現地における英語学習／調査研究、ホームステイまたは寮滞在					
10	現地における英語学習／調査研究、ホームステイまたは寮滞在					
11	現地における英語学習／調査研究、ホームステイまたは寮滞在					
12	現地における英語学習／調査研究、ホームステイまたは寮滞在					
13	現地における英語学習／調査研究、ホームステイまたは寮滞在					
14	事後学習①：レポート等の作成・提出					
15	事後学習②：海外留学報告（プレゼンテーション）					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
留学への取り組み	10	出発前の準備（計画書含む諸書類ファイル作成）に適切かつ積極的に取り組んでいるかどうかを評価する		留学先での英語研修・調査に関する評価	60	研修先での成績や活動に基づき総合的に評価する
留学中の報告書	10	定期的（目安は2週間ごと）に留学に関する報告書（1000文字程度）が提出されているかどうかを評価する		留学後報告（レポート&プレゼンテーション）	20	帰国後にレポート（5000文字程度）を提出するとともに日本語と英語で留学の報告を行い、これを評価する
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
留学の目的を明確にし、1年以上前から継続して英語の学習をすること。【毎日40分】英語研修が目的の学生は目的とするレベルを明確にし、英語の授業等をできるだけ多く履修し、積極的に参加すること。調査研究が目的の学生はアドバイザーの指導の下、専門的な内容をまとめておき、渡航先での調査目的・方法等を明確にしておくこと。英語で説明できるように準備する。【毎日30分】				適宜行う		
受講生に望むこと	現地では独力で問題解決する必要性に迫られるため、日ごろから情報収集・計画の立案・実施・評価等をする力を養うこと。英語力は4技能が必要である、会話だけではなく読み書き・論理的思考力向上にも励むこと。			教科書・テキスト	なし	
指定図書／参考書等	【参考書】『今日から使える！留学&ホームステイのための英会話』細井忠俊、パーウィック妙子・著、アルク、2016年（ISBN: 978-4757426658）			その他・特記事項	英検2級程度の英語力がある者に限る。準備の過程で、学生生活および学業の面で問題があると判断した場合には、留学を中止することもある。「留学の手引き」をよく読むこと。	

授業科目名	LC100U 中国語 I		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択	
担当教員名	張 榮眉						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>基礎的、実用的な中国語の表現能力を習得する。また辞書の使い方を始め、自ら学ぶ意欲や力を養うとともに積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。中国の言語や文化に対する関心を深めるとともに日本語や日本文化を比較する上での国際理解の基礎を培う。具体的には、発音記号ピンインを習いながら、基本的な単語を教え、詩の朗読や簡単な挨拶、会話の練習によって発音に慣れる。日本人が持っている能力（漢字、辞書調べ）を最大に生かし、習う意欲を高め、日本人にとって難しく弱い部分（発音）を重点において色々な方法で多く繰り返し練習する。</p>			<p>①発音記号ピンインを習得する。 ②中国語の特有な発音に慣れ、挨拶ことば、自己紹介及びそれに関する会話ができるようになる。 ③辞書を引くことができるようになる。</p>				
教授方法	講義とペアワーク等による会話練習。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	簡単挨拶と発音記号ピンイン（声調を主にして）を習得とそれの発音練習を中心とする。						
2	基本挨拶と発音記号ピンインの（単母音を主にして）を習得とそれの発音練習を中心とする。						
3	発音記号ピンイン（複母音を主にして）習得とそれの発音練習を中心とする簡単な会話。						
4	発音記号ピンイン（子音を主にして）習得とそれの発音練習を中心とする簡単な会話。						
5	発音記号ピンイン（鼻音を主にして）習得とそれの発音練習を中心とする簡単な会話。						
6	発音記号ピンイン（規則と注意点を主にして）習得とそれの発音練習を中心とする簡単な会話。						
7	発音総合練習—発音記号の習得と辞書の使い方をまとめ。						
8	「形容詞述語文」の習得と以上習った挨拶と会話の復習。						
9	「形容詞述語文」の習得とそれらを中心とする簡単な会話。						
10	「形容詞述語文」の習得とそれらを中心とする簡単な会話と練習。						
11	「動詞述語文」の習得と以上習った挨拶と会話の復習。						
12	「動詞述語文」の習得とそれらを中心とする簡単な会話。						
13	「動詞述語文」の習得とそれらを中心とする簡単な会話と練習。						
14	自己紹介文を中心とする総合練習と復習。						
15	口頭で中国語で自己紹介とその関する質問を答え（教師から）。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢、授業の内容を予習する、宿題の完成度。		挨拶・自己紹介の表現と発音	70	文の表現、発音の正確さ、教員の質問に対する理解と答えの正確さ。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
授業前に予習。[約15分] 授業後宿題の完成。[約20分]			発表した自己紹介文について、後で直して返します。				
受講生に望むこと	テキストを買う必要がなく、辞書が必要である、授業する時に必ず辞書を携帯すること。			教科書・テキスト	自編集『中国語入門教案』（印刷物2016年修編） 杉本達夫ら『中日日中ディレクトリコンサイス辞書』（三省堂）ISBN4-385-12184-2		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	LC110U 中国語Ⅱ		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択	
担当教員名	張 榮眉						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>前期で習った表現を復習し、新しい単語や文法を加えながら、文章の解読に重点を置いて翻訳する能力を養う。中級レベルの中国事情に関する文章を自力で翻訳することで、解読能力や辞書の使い方を上達させる。翻訳で得られた中国事情と日本事情を比較し、感想文を書く。また、それを発表することによって、クラスメートと共有する。中国の言語や文化に対する関心を深めるとともに日本語と日本文化と比較することで国際理解の基礎を培う。後期は前期の自己紹介から一歩前進し、中国語で質問文を作成し、質問したり答えたりしながら練習を繰り返す。</p>			<p>①辞書を実用的に引くことができるようになる。 ②習った単語や文法を応用する力を身につける。 ③辞書を利用しながら、中級レベルの文章を自力で翻訳する能力を身につける。 ④自分のテーマに相関する資料を探す能力、纏める能力をアップする。 また、自分の考え方を述べる能力もアップ、その他、前期の自己紹介について中国語で質問をし、聴いたり答えたりすることができるようになる。</p>				
教授方法	講義とペアワーク等による会話練習。						
履修条件	『中国語Ⅰ』の単位を修得済みの者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	前期で習ったものを復習＋「助教詞」の習得。						
2	「助教詞」と「存在の表現」の習得とそれらを中心とする簡単会話と解読の練習。						
3	「助教詞」と「選択疑問文」の習得とそれらを中心とする簡単会話。						
4	「存在の表現」と「選択疑問文」の習得とそれらを中心とする簡単な会話と解読練習。						
5	「存在の表現」と「所有の表現」の習得とそれらを中心とする簡単会話。						
6	「存在の表現」と「所有の表現」の習得とそれらを中心とする簡単な会話と解読練習。						
7	「存在の表現」や「年齢の言い方」の習得とそれらを中心とする簡単会話。						
8	「存在の表現」と「年齢の言い方」の習得とそれらを中心とする簡単会話と解読の練習。						
9	「年齢の言い方」と「疑問代詞」の習得とそれらを中心とする簡単な会話と解読練習。						
10	学んだ内容を復習する上で各自が興味ある文を選んで翻訳する。						
11	各自の翻訳をし、コンピュータで翻訳した文を仕上げる。						
12	各自の翻訳した文に基づいて、自分テーマの相関する資料を探し「比較感想文」を書く。						
13	「比較感想文」をコンピュータで仕上げ、自己紹介について質問（中国語）を作る。						
14	口頭で「比較感想文」を発表する。						
15	自己紹介について質問したり答えたりする。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢、授業の内容を予習する、宿題の完成度。		翻訳文	20	原文に対する理解度、翻訳した文の表現の正確。	
比較感想文	30	自分のテーマに相関する資料を見つけているか、比較が妥当か、自分の観点があるかとその新鮮さ、印象深い文を中国語で読めるか、「比較感想文」発表が分かり易い。		口頭で発表	20	自己紹介について中国語で質問をし、聴いたから答えられるか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
授業前に次の内容を予習して[15分]、授業後の宿題の完成[約20分]。				「比較感想文」について教師のコメントが欲しい学生にメールをする。			
受講生に望むこと	テキストを買う必要がなく、辞書が必要である。授業する時に必ず辞書を携帯すること。			教科書・テキスト	自編集『中国語入門教案』（印刷物2016年修編）杉本達夫ら『中日日中ディレクトリコンサイス辞書』（三省堂）ISBN4-385-12184-2		
指定図書参考書等	英語圏他『中国人暮らしのスケッチ』（朝日出版社、1998年） 英語圏他『中国と日本』（朝日出版社、2000年新版） 英語圏他『中国人暮らしのユーズフル』（朝日出版社、2001年） 日下恒夫、石渡健『ことばの旅』（好文出版社、1991年）/ 市川順風『中国喫茶文化史』（岩波書店、1995年） 寺尾善雄『中国文化伝承事典』（川出書房新社、1999年） 中島徳次郎『言語』『中国文化叢書』第1巻（大修館、1967年） 尾崎正栄『日本文化と中国』『中国文化叢書』第2巻（大修館、1968年） 實感『食ももって天と食す・現代中国の食』（平凡社、2000年） 島尾伸三ら『中国庶民生活図引*遊』（弘文堂、2001年）			その他・特記事項	なし		

授業科目名	LF100U フランス語 I		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択	
担当教員名	濱西 和子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
フランス語を初めて学ぶ学生を対象にアルファベットの読み方から始め、発音の基礎やフランス語のルール、また文法を一通り解説します。口頭練習を通して日常会話に必要な基本的なフランス語表現を学んでいきます。また言葉だけでなく、言葉の背景となるフランスの文化について、様々な角度から知り、体験していきたいと思ひます。フランスの社会に内在する諸問題や芸術、文化、料理などを通してフランス人の生活や思想を学びましよう。			①フランス語の基礎を固めると同時に、日常会話に必要な基本的なフランス語表現を理解し習得する。 ②言葉だけでなく、言葉の背景となるフランス文化を理解する。 ③一つの言語を習得することは、その国の文化を深く知り、また世界的な視野が拓がることです。フランス語という言語を通してその実感を体験しましよう。				
教授方法	文法の説明とグループワークによる会話練習。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	フランス語の基礎・発音・挨拶 Eléments de base, prononciation, salutations, tu/vous						
2	自己紹介・国籍・名前 Est-ce que tu es japonais? Moi aussi. Moi non plus.						
3	国籍・職業・形容詞の女性形・男性形 masculin / féminin						
4	規則動詞 -er の活用 verbes réguliers, habiter, travailler						
5	住んでいるところや出身地について話す。疑問文や否定文の作り方。 Tu es de Tokyo?						
6	交通手段について話す。動詞venir, 疑問詞を使った疑問文 Questions ouvertes. Tu viens ici comment?						
7	定冠詞と不定冠詞 article, verbe parler						
8	アルバイトについて話す。 Parler des petits boulots.						
9	願望の表現 C'est +adjectif, expression de la volonté						
10	ペットなどについて話す。 Est-ce que tu as un chien?						
11	動詞avoir . 不定冠詞 article indéfini. Parler de ses animaux domestiques.						
12	科目・先生について話す。数学の先生は好きですか? Est-ce que tu aimes bien le prof de maths?						
13	科目の名称・定冠詞・形容詞の性数の一致 Parler des matières et des profs.						
14	食べ物について話す・部分冠詞 Parler de ce qu'on mange. article partitif						
15	家事について話す。 Qui fait la cuisine chez toi? C'est moi qui fait la cuisine.						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	70	学習内容をきちんと習得しているか。		受講態度	30	講義に積極的に参加しているか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
授業内容に関して指示されたことに基き予習・復習をきちんと行う。自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習、復習をして下さい。[120分]				付属ブックレットの問題を自分で練習して、講義の理解が十分か否かを自己採点して下さい。質問があれば、授業中または授業の前後に講師室で受け付けます。提出された課題は、翌授業以降に返却とフィードバックをします。			
受講生に望むこと	語学学習は反復学習が大切です。何度もCDを開き口に出して練習してください。予習してくると余裕を持って学び、理解することが容易になります。			教科書・テキスト	『Moi, je・・・コミュニケーション』 Bruno Vannieuwenhuysse 他著（アルマ出版）2015年 ISBN 978-4-905343-03-5		
指定図書参考書等	授業中に随時紹介します。プリントや資料等は随時配布します。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	LF110U フランス語Ⅱ		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択	
担当教員名	濱西 和子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>前期にフランス語を学んだ学生を対象に、基礎の上に更に時制やテキストの後半部分の文法や基本文型などを一通り説明します。前期と同じく口頭練習を通して日常会話に必要な基本的なフランス語表現を学んでいきます。また言葉だけでなく言葉の背景となるフランスの文化について様々な角度から知り、体験していきたいと思えます。フランスの社会に内在する諸問題や芸術、文化、料理などを通してフランス人の生活や思想を学びましょう。</p>			<p>①フランス語の基礎を固めると同時に、日常生活に必要なフランス後表現を理解できるようにする。 ②言葉だけではなく、言葉の背景となるフランス文化を理解する。 ③一つの言語を習得することはその国の文化を深く知り、また世界的な視野が広がることです。言語を通してその実感を体験しましょう。</p>				
教授方法	文法の説明とグループワークによる会話練習。						
履修条件	『フランス語Ⅰ』の単位を修得済みの者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	家族について話す・所有形容詞 mon / ton について Parler de sa famille.						
2	数字 1-6・9・3人称単数形、複数形 Ton frère a quel âge?						
3	クラブ活動について話す・課外活動はしていますか? 動詞faire Parler des loisirs.						
4	習慣について話す・よく肉を食べますか? 頻度を表す語彙・否定疑問文 Parler de ses habitudes.						
5	週末の過ごし方について話す・近接未来形・動詞aller Parler du week-end.						
6	時間について話す・何時ですか? 曜日・代名動詞 Parler de l'heure. Il est quelle heure?						
7	休暇中の活動について話す・複合過去形について Parler des vacances. Passé composé.						
8	経験について話す・外国へ行ったことがありますか? Il y a~の使い方、Tu es déjà allé à l'étranger?						
9	地理について話す・場所を表わす前置詞・地方について話す Tu connais Lille? Localisation						
10	天気について話す・天気を表す語彙 Parler du temps. Il fait quel temps à Paris?						
11	過去について話す・半過去形 Est-ce que tu faisais du sport au lycée? Imparfait						
12	道を尋ねる・パリの観光名所 Demander son chemin. Découvrir Paris.						
13	レストランで注文する・メニューの見方 Commander au restaurant. Une carte.						
14	カフェで飲み物を注文する Un café, s'il vous plaît.						
15	買い物をする・数量と値段・店員との会話 Faire les courses. Acheter dans un magasin.						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	70	学習内容をきちんと習得しているか。		受講態度	30	講義に積極的に参加しているか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>講義内容に関して指示されたことに基き予習、復習をきちんと行う。自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習・復習をして下さい。[120分]</p>				<p>付属ブックレットの問題を自分で練習して、講義の理解が十分か否かを自己採点して下さい。 質問があれば、授業中または授業の前後に講師室で受け付けます。提出された課題は、翌授業以降に返却とフィードバックをします。</p>			
受講生に望むこと	<p>語学学習は反復学習が大切です。何度もCDを開き口に出して練習してください。予習してくると余裕を持って学び理解することが容易になります。</p>			教科書・テキスト	『Moi, je・・・コミュニケーション』 Bruno Vannieuwenhuysse 他著（アルマ出版） ISBN 978-4-905343-03-5		
指定図書参考書等	<p>授業中に随時紹介します。プリントや資料等は随時配布します。</p>			その他・特記事項	なし		

授業科目名	PE100U 生涯スポーツA (ゴルフ)		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因とされている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「ゴルフ」を実践種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「ゴルフ」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。</p>			<p>① ゴルフの競技特性を理解する。 ② ゴルフの基本的技術を習得する。 ③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スポーツ実技。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、ゴルフ競技の説明、用具の説明。ゴルフというスポーツを理解する。					
2	パッティングゲーム：パッティングゲームを通してゴルフのゲーム性に触れる。					
3	ショットの基礎①：グリップ、ポスチャー、エイミング～ショートスイング 正しいグリップ、ポスチャー及びエイミングを理解し、ショートスイングを通して習得する。					
4	ショットの基礎②：グリップ、ポスチャー、エイミング～ショートスイング～ハーフスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくし、ハーフショットまでの技術を習得する。					
5	ショットの基本③：グリップ、ポスチャー、エイミング～ショートスイング～ハーフスイング～フルスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくし、フルショットまでの技術を習得する。					
6	ショットの基本④：ボール弾道の法則とフェースコントロール…スイング及びフェースの向きによって生じる9種類の弾道を理論として理解し、各自のスイングの修正に結びつけることができるようになる。					
7	ショットの基本⑤：VTRによる視覚的フィードバック。 自分のスイングを映像で見ることで、体内感覚と実際の運動のずれを確認し、修正することに結びつける。					
8	ショットの基本⑥：アプローチ 練習グリーンに向かってショットを行うことで、具体的な距離と方向をコントロールする技術を習得する。					
9	ショットの基本⑦：グリーン周りの技術～パッティング グリーン周りの各種ショット技術及びパッティングの基礎技術を習得する。					
10	ショットの基本⑧：ショートアイアンとミドルアイアン ショートアイアンとミドルアイアンを使い分け、クラブによって距離をコントロールすることを理解する。					
11	ショットの基本⑨：ウッドクラブ これまで学習してきた内容を元に、ウッドクラブのスイング技術を習得する。					
12	ターゲットバードゴルフ① ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのゲーム性に触れる。					
13	ターゲットバードゴルフ② ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのルール、ラウンド方法、マナーを学習する。 一回目のスコアを元に個人的に目標を立ててラウンドする。					
14	ターゲットバードゴルフ③ これまでのスコアを元に個人的な目標を立ててラウンドし、ゲームを楽しむ。					
15	ショートゲームテストとまとめ。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか。・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		種目毎に実施するスキルテスト	40	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行います。〔準備体操を含め60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。			小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。			
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し、実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主にグラウンドで実技を行いますので、外履きの運動靴を用意して下さい。また、必要に応じて帽子、ゴルフグローブなどを用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。			教科書・テキスト	なし	
指定図書／参考書等	US PGA TOUR Golf Lesson Vol.1 ～ 7 MICO ケンメディア			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）	

授業科目名	PE100U 生涯スポーツA (テニス)		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子・熊谷 史佳 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「テニス」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「テニス」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。</p>			<p>① テニスの競技特性を理解する。 ② テニスの基本的技術を習得する。 ③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スポーツ実技。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、用具の説明。					田邊・熊谷
2	グリップング、ラケットワーク。					田邊・熊谷
3	基本ストローク（フォア） 1：フォアハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。					田邊・熊谷
4	基本ストローク（フォア） 2：フォアハンドストロークの打ち方の習熟を目指す。					田邊・熊谷
5	基本ストローク（バック）：バックハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。					田邊・熊谷
6	簡易ゲーム（フォア・バック）：簡易ルールでフォアとバックを用いたゲームを楽しむ。					田邊・熊谷
7	基本ストローク（ボレー）：ボレーの打ち方を理解し、習得する。					田邊・熊谷
8	基本ストローク（サーブ）：サーブの打ち方を理解し、習得する。					田邊・熊谷
9	簡易ゲーム（フォア・バック・ボレー・サーブ）：簡易ルールでフォア、バック、ボレー、サーブを用いたゲームを楽しむ。					田邊・熊谷
10	講義：ルール説明と審判法：テニスの正式なルールと審判法を理解し、実際のゲームで活用できるようにする。					田邊・熊谷
11	ゲーム 1：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに審判の方法についてお互いに確認し合う。					田邊・熊谷
12	ゲーム 2：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに一人で審判ができるようにする。					田邊・熊谷
13	ゲーム 3：クラス内でダブルスのリーグ戦を行う。					田邊・熊谷
14	ゲーム 4：クラス内でダブルスのリーグ戦の続きを行う。					田邊・熊谷
15	ゲーム 5：クラス内でリーグ戦の続きを行う。結果を集計し、その結果を踏まえこれまでの授業での学びを各自で振り返る。					田邊・熊谷
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか。・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		種目毎に実施するスキルテスト	40	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行います。〔準備体操を含め 60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。		
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主に屋外テニスコートで実技を行いますので、外履きの運動靴を用意して下さい。また、必要に応じて帽子などを用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。			教科書・テキスト	なし	
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）	

授業科目名	PE100U 生涯スポーツA (ダンス)		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一・木藤 由麻 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「ダンス」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「ダンス」を通してスポーツを日常化・生活化した、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。</p>			<p>① ダンスの特性を理解する。 ② ダンスの基本的技術を習得する。 ③ 習得した技能を生かし、ダンスを表現・創作することを楽しむ。 ④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スポーツ実技。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、ダンスを理解する。					木藤
2	リズムの基礎：リズムの考え方、アイソレーションを理解し習得する。					木藤
3	伝統的なダンス(フォークダンス)：フォークダンスを通して踊りの特性に触れる。					木藤
4	基本のステップ 1：ダウン・アップのリズムを理解し、習得する。					木藤
5	基本のステップ 2：サイドステップ・スリーステップターン・ボックスステップのリズムを理解し、習得する。					木藤
6	基本のステップ 3：クロスステップ・サイドランジ・ランニングマンのリズムを理解し習得する。					木藤
7	簡易創作 1：習得したステップをグループ内で組合せ、発表を楽しむ。					木藤
8	基本のステップ 4：ニュージャックスイング・クラブステップのリズムを理解し、習得する。					木藤
9	簡易創作 2：簡単なルーティーンのアレンジ・フォーメーション作品を創作する。					木藤
10	創作活動 1：グループ内で、これまでに習得した技術を組合せ、ダンス作品を創作する。					木藤
11	創作活動 2：グループ内で作品創作を継続して行う。					木藤
12	創作活動 3：グループ内で作品創作を継続して行い、作品を完成させる。					木藤
13	作品発表 1：グループ内で創作した作品を発表しあう。 相互評価ならびにVTRによるフィードバックを行い、作品の修正・発展に結びつける。					木藤
14	創作活動 4：フィードバックを通して作品の修正を行い、最終発表に向け作品を完成させる。					木藤
15	作品発表 2：グループ内で創作した作品を発表しあう。 相互評価を行い、その結果を踏まえこれまでの学びを各自で振り返る。					木藤
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか。・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		種目毎に実施するスキルテスト	40	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。[準備運動を含め 60分程度] ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。			小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。			
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主に体育館で実技を行いますので、内履きの運動靴を用意して下さい。また、必要に応じてタオルなどを用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。(事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)	

授業科目名	PE110U 生涯スポーツB (集中講義：スキー)		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本野外活動プログラムは冬期休業期間に長野県穂池高原スキー場にて3泊4日の合宿形式にて行う。スキーはウィンタースポーツの代表格ともいえるスポーツである。遊びの要素をふんだんに含み、自然環境と相まって素晴らしい満足感・達成感を与えてくれることから、生涯スポーツとして最も親しまれているものの一つである。本授業では、スキー技術について基礎から応用まで各々のレベルに応じて身に付けることをめざすが、単にスキーの技術を学ぶだけでなく、健康管理、安全管理、リスクマネジメント、社会スキルの醸成なども合宿を通して学習し、「スキーヤー」としての基本を身につけることを目的とする。さらに、技術レベルに応じた班別での実習を行うため、チームワークを重視し仲間を思いやる気持ちも学んでいく。</p> <p>なお、「生涯スポーツB」の単位は、「スキーセミナー(本頁)」の他に「後期開講する授業」及び「ゴルフセミナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。(詳細はシラバス別頁を参照)</p> <p>※ 各セミナーの日程、詳細内容、費用等は別途通知する。</p> <p>※ 各プログラムの予定受講数を大幅に超える希望がある場合には、抽選にて受講を決定する。</p>			<p>① スキーの特性を理解し、自分で準備し安全に楽しむ能力を修得する。</p> <p>② スキーに関する知識や技術を自分で深め高める能力を修得する。</p> <p>③ スキーの技能改善のための知識批判力と方法論的能力を修得する。</p> <p>④ ウィンタースポーツを通じた人間関係能力を養う。</p> <p>⑤ ウィンタースポーツを通じた環境への感受性や認識力を高める。</p> <p>⑥ 合宿を通じて、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。</p> <p>⑦ 合宿を通じて、生涯にわたりスポーツを实践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スキー実技。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	事前オリエンテーション：ガイダンス、合宿に関する諸注意、事前準備について、健康状態の把握 用具の準備(用具とその使用法の説明、パッキング)					永山、田邊
2	【実習 1 日目 午後Ⅰ】 開講式/クラス編成確認(技術レベル別に編成)					各班担当者
3	【実習 1 日目 午後Ⅱ】 クラス別レッスン①					各班担当者
4	【実習 1 日目 夜】 講義：スキー技術の変遷/スキー用具のメンテナンス					永山、田邊
5	【実習 2 日目 午前Ⅰ】 VTR 撮影/クラス別レッスン②					各班担当者
6	【実習 2 日目 午前Ⅱ】 クラス別レッスン③					各班担当者
7	【実習 2 日目 午後Ⅰ】 クラス別レッスン④					各班担当者
8	【実習 2 日目 午後Ⅱ】 クラス別レッスン⑤/ VTR 撮影					各班担当者
9	【実習 2 日目 夜】 VTR によるフィードバック/クラス別ミーティング/スキーのメンテナンス					永山、田邊
10	【実習 3 日目 午前Ⅰ】 VTR 撮影/クラス再編成/クラス別レッスン⑥					各班担当者
11	【実習 3 日目 午前Ⅱ】 クラス別レッスン⑦					各班担当者
12	【実習 3 日目 午後Ⅰ】 クラス別レッスン⑧					各班担当者
13	【実習 3 日目 午後Ⅱ】 クラス別レッスン⑨/ VTR 撮影					各班担当者
14	【実習 3 日目 夜】 VTR によるフィードバック/クラス別ミーティング/スキー用具のメンテナンス					永山、田邊
15	【実習 3 日目 午前】 クラス別レッスン⑩/閉講式					各班担当者
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	80	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか。・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		実習終了後のレポート評価	20	1. 指定されたフォーマットに準じて記載されているか。 2. 本セミナーの経験を、生涯にわたりスポーツに親しむ態度に結びつけて考えられているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。実習前に自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行います。【最低1日】ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。			小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。			
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。3泊4日の合宿になりますので体調を整えて参加して下さい。詳しくは初回のガイダンスにて説明いたします。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。場合によっては実習への参加を認めない場合があります。(事故防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)	

授業科目名	PE110U 生涯スポーツB (集中講義：ゴルフセミナー)		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本野外活動プログラムは4日間におたる集中講義にて行う。ゴルフは広く社会に普及しており、年齢や性別に関わらず誰にでも出来ることから生涯スポーツの主流になりつつある。これは昨今のプレーヤーの格安化に加え、ジュニア期から世界的に活躍し、話題性の多い若手選手の活躍が一般に知れ渡ったことも関連していると考えられる。また、自分の健康や楽しみのためのプライベートなプレーもさることながら、職域や地域の人々とのコミュニケーションの場としてゴルフが活用されるケースが多いからではないかと考える。従って、本講義の開設は将来を見据えたものであり、前期授業において習得したゴルフの基礎技術を確認し、最終日のラウンド実習につなげることで、ゴルフの楽しさをより深く体感することができ、生涯を通してスポーツに親しむ態度の育成に寄与するものと期待する。</p> <p>なお、「生涯スポーツB」の単位は、「ゴルフセミナー(本頁)」の他に「後期開講の授業」及び「スキーセミナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。(詳細はシラバス別頁を参照)</p> <p>※ 各セミナーの日程、詳細内容、費用等は別途通知する。</p> <p>※ 各プログラムの予定受講数を大幅に超える希望がある場合には、抽選にて受講を決定する。</p>			<p>① ゴルフの特性を理解し、自分で準備し安全に楽しむ能力を修得する。 ② ゴルフに関する知識や技術を自分で深め高める能力を修得する。 ③ グリップ、ボスチャー、エイミングなどアドレスの基本技術を修得する。 ④ ショートスイングからフルスイングまで段階的にスイングの基本技術を身につける。 ⑤ 距離感や方向性などボールコントロールの理論及び方法を理解する。 ⑥ 基本的なルールやマナーを理解し、安全なプレー・ラウンドが出来るようになる。 ⑦ ゴルフを通じた人間関係能力を養う。</p>			
教授方法	ゴルフ実技 (大学グランド及びゴルフ練習場における練習とラウンド実習)。					
履修条件	前期「生涯スポーツA」の単位を修得済みの者の内「ゴルフ」を選択した者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	事前オリエンテーション：ガイダンス、屋外実習に関する諸注意、事前準備について、健康状態の把握/用具の準備。					永山、田邊
2	【実習 1日目 午前I】 開講式/レッスン①：スタンスの確認(グリップ、ボスチャー、エイミング) ショートスイング～スリークォーターズスイング(9I)					永山、田邊
3	【実習 1日目 午前II】 レッスン②：スリークォーターズスイング～ハーフスイング(9I)					永山、田邊
4	【実習 1日目 午後I】 レッスン③：ハーフスイング～フルスイング(9I)					永山、田邊
5	【実習 1日目 午後II】 レッスン④：ハーフスイング～フルスイング(9I、7I、5I)					永山、田邊
6	【実習 2日目 午前I】 レッスン⑤：9I、7I、5Iまでを利用して段階的にスイング技術を習得する。また、距離の打ち分けに関する理論及び技術を習得する。/VTR撮影					永山、田邊
7	【実習 2日目 午前II】 レッスン⑥：「ボール弾道の法則」を理解する。また、その理論により各自のスイング及び弾道をセルフチェックし、修正に結びつけられるようにする。/VTR撮影					永山、田邊
8	【実習 2日目 午後I】 レッスン⑦：ウッドクラブによるスイング(ゴルフ練習場)。					永山、田邊
9	【実習 2日目 午後II】 レッスン⑧：パッティング及びグリーン周りのアプローチショット技術を習得する。					永山、田邊
10	【実習 3日目 午前I】 レッスン⑨：VTRによるフィードバック/クラブ選択を行いながらの打ち込みを行う。					永山、田邊
11	【実習 3日目 午前II】 レッスン⑩：ルール解説、ラウンド方法及びラウンドマナーの講習/グルーピング/打ち込み。					永山、田邊
12	【実習 3日目 午後I】 レッスン⑪：グランド仮設コースによるラウンド練習を行う。					永山、田邊
13	【実習 3日目 午後II】 レッスン⑫：グランド仮設コースによるラウンド練習を行う。ラウンド方法に慣れ、コースマネージメントの考え方を学習する。					永山、田邊
14	【実習 4日目 午前】 レッスン⑬：民間練習場にてウッド・アイアンショットの確認を行う。					永山、田邊
15	【実習 4日目 午後】 ラウンド実習⑭：本コース9ホールの中ホール体験を行う。/開講式					各担当者
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	80	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか。・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		実習終了後のレポート評価	20	1. 指定されたフォーマットに準じて記載されているか。 2. 本セミナーの経験を、生涯にわたるスポーツに親しむ態度に結びつけて考えられているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。前期の授業中に学んだことを夏期休業中に自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。[1回60分程度]ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。			小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。			
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。4日間の集中講義になりますので体調を整えて参加して下さい。詳しくは事前オリエンテーションにて説明いたします。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。場合によっては実習への参加を認めない場合があります。(事故防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)	

授業科目名	PE110U 生涯スポーツB		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。ここでは生涯スポーツとして実践人口も多く、社会体育としても積極的に導入されている「ニュースポーツ」を実践科目として採用する。</p> <p>ニュースポーツは軽度な運動量に加え、初歩的な技術レベル及び筋力が低い者でも十分に楽しむ事ができるスポーツ群であると考えられ、スポーツに対して苦手意識を持つ者でも参加しやすく、スポーツの楽しみや喜びを感じやすいカテゴリであると考えられる。そこからスポーツを日常化・生活化し、豊かで健康的な生活を営む能力と習慣の獲得につなげる。</p> <p>なお、「生涯スポーツB」の単位は、「毎週開講する授業(本頁)」の他に「ゴルフセミナー」及び「スキーセミナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。(詳細はシラバス別頁を参照)</p>			<p>① 各種ニュースポーツの競技特性を理解する。</p> <p>② 各種ニュースポーツの基本的技術を習得する。</p> <p>③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。</p> <p>④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。</p> <p>⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スポーツ実技。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：ニュースポーツというスポーツカテゴリーを理解する。					
2	フライングディスク①：フライングディスクという競技を理解し、実践する。 各種投法を理解し、ディスクをコントロールして投げられるようになる。					
3	フライングディスク②：フライングディスクという競技を理解し、実践する。 前回習得した技術を基に、ドッジビーなどのゲームを楽しむ。					
4	ソフトバレーボール①：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 オーバーパス、アンダーパスなどの基礎技術を習得する。					
5	ソフトバレーボール②：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基に簡易ゲームを行い、ルールを覚える。					
6	ソフトバレーボール③：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 リーグ戦形式で複数のゲームを楽しむ。					
7	インディアカ①：インディアカという競技を理解し、実践する。 インディアカボールを扱う基本的技術を習得する。					
8	インディアカ②：インディアカという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基にゲームを楽しむ。					
9	フレッシュテニス①：フレッシュテニスという競技を理解し、実践する。 フレッシュテニスの基礎的技術を習得する。(ラケットワーク、フォアストローク、バックストローク)					
10	フレッシュテニス②：フレッシュテニスという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基にゲームを楽しむ。					
11	ユニホック①：ユニホックという競技を理解し、実践する。 ユニホックの基礎的技術を習得する。(スティックワーク、パス、ショット)					
12	ユニホック②：ユニホックという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基にゲームを楽しむ。					
13	タグラグビー①：タグラグビーという競技を理解し、実践する。 タグラグビーの基礎的技術を習得する。					
14	タグラグビー②：タグラグビーという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基にゲームを楽しむ。					
15	まとめ：小・中・高と体験してきた学校体育とは違ったスポーツの体験をまとめ、今後、生涯スポーツとしてスポーツに親しむ礎とする。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	80	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加しているか。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		授業中に実施するミニスキルテスト	20	スポーツ技術の習熟度をスキルテストによって確認する。 ・詳細は各種目毎に説明する。
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行います。〔準備体操を含め 60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。			小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。			
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主に体育館にて行いますので、内履きの運動靴を用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。		教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。(事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)		

授業科目名	PE120U 健康科学		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修	
担当教員名	永山 亮一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。現在我々を取りまく生活環境は刻々と変化し、少子・高齢化社会・労働内容の合理化・自由時間の増大・食生活環境の変化といった様々な変化に適応・対処して行かなければならない。その中で健康的な生活を営んでいくためには、個人が自立して体力や健康の維持増進を図ることができる知識・能力を身につけること、各種スポーツの特徴を理解し積極的に余暇時間にスポーツ活動を取り入れていくこと、バランスのとれた運動と休養のタイミングを理解すること、肥満の解消に有効な運動の内容を理解し実践することなど、様々な事柄に対する理解を深める必要がある。本講義において、これらの基礎的な知識を学習することで、様々な環境に適応し、健康的で豊かな生活を送って行くための自己管理能力を身につける。</p>			<p>① 健康的な生活の意義を理解する。 ② 健康的な生活を営むために必要な事柄を理解する。 ③ 健康的な生活を自らデザインし、実践していく態度を身につける。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	健康の意義：健康的な生活の意義について理解を深める。						
2	健康的な生活①：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「栄養（食生活）」についての理解を深める。						
3	健康的な生活②：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「運動」についての理解を深める。						
4	健康的な生活③：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「休養」についての理解を深め、三大要素のバランスについて考える。						
5	健康を脅かすもの①：健康を脅かすものとして、「飲酒」「喫煙」に対する理解を深める。						
6	健康を脅かすもの②：健康を脅かすものとして、「薬害」「アレルギー」に対する理解を深める。						
7	健康を脅かすもの③：健康を脅かすものとして、「感染症」に対する理解を深める。						
8	健康を脅かすもの④：健康を脅かすものとして、「性感染症」について学ぶとともに「免疫機能」に関して理解を深める。						
9	健康を脅かすもの⑤：健康を脅かすものとして「生活習慣病」について理解を深める。 「肥満」「糖尿病」「高脂血症」「高血圧」						
10	健康を脅かすもの⑥：生活習慣病の理解とともに、代表的な死因との関係を学ぶ。 「虚血性心疾患」「脳血管障害」「悪性腫瘍」						
11	運動習慣と疾病の関係①：生活習慣病及び代表的な死因との関係を理解するとともに、運動習慣との関係を学ぶ。						
12	運動習慣と疾病の関係②：生活習慣病及び代表的な死因との関係を理解するとともに、運動習慣との関係を学ぶ。 「生活習慣病」と「肥満」の関連性を理解し、疾病予防についての運動習慣の有効性を学ぶ。						
13	健康増進及び疾病予防のための運動プログラミングの考え方①：健康を目的とした運動プログラミングの基本理論を理解する。						
14	健康増進及び疾病予防のための運動プログラミングの考え方②：健康を目的とした運動プログラミングの内容を考え、自分に合ったプログラムを作成できるようになる。						
15	まとめ：これまで学習してきた内容をまとめ、各自において健康的な生活を営む計画を立案する。 また、その計画を実践できるような心構え・態度を獲得する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
受講態度	60	受講態度を重視する。・学んだ内容を基に自分自身の生活を振り返り、健康的なモノへと変化させているか。		学期末試験	40	講義内容に関する筆記テストを行う。	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
<p>①各講義を振り返り、分からなかった用語などを調べ、理解を深める。[30分] ②各講義の内容を自分の生活と結びつけ、健康的な生活へと改善を図る。[30分] なお、事前事後学習内容の詳細に関しては授業内で説明する。</p>				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
				小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。			
受講生に望むこと	本講義で学ぶ内容を各々の生活に還元し、健康的な生活を営む礎として下さい。			教科書・テキスト	教員が作成するプリントを使用する。		
指定図書参考書等	「現代人のための健康づくり」 石川県大学健康教育研究会編著 北國新聞社 2014年 ISBN：978-4-8330-1972-9			その他・特記事項	なし		

授業科目名	HC100U キャリアデザイン I		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修	
担当教員名	虹釜 和昭・高村 真希 (代表教員 虹釜 和昭)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は、全学共通科目のうち学部のキャリア教育科目に位置づけられている。キャリアデザインとは、自分の人生の中で職業を主体的に構想したり、設計したり、実現することである。そのために自分の適性と、社会の現状を知り、将来を見通すことが求められる。働く意味や職業観を学び、今後のキャリアデザインの基礎を培う。「つくるたのしみ」講座の実践と共に学ぶ授業である。			①職業観、キャリア形成について学び、働く意味を探究する。 ②キャリアデザインの授業の中から情報を得て自分で考えを持つ。 ③「つくるたのしみ」講座への参加が義務づけられている。				
教授方法	講義、演習、体験学習						
履修条件	なし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業概要の説明：到達目標、成績評価と基準、心理テスト、授業外における学習など。					虹釜・高村	
2	マナー講座第1回：挨拶について					学生支援課	
3	「つくるたのしみ」講座の内容説明とグループ分け、自己紹介、役割分担、連絡方法の確認					虹釜・高村	
4	現代社会とキャリアデザイン：キャリアデザインとは何か、キャリアデザインの基本と方法					虹釜・高村	
5	キャリアデザインと人生設計(1)：現代人のライフサイクルと職業について					虹釜・高村	
6	「つくるたのしみ」講座の第1回事前学習					虹釜・高村	
7	キャリアデザインと人生設計(2)：現代人の生涯収支と職業について					虹釜・高村	
8	「つくるたのしみ」講座の第1回事後学習と第2回事前学習					虹釜・高村	
9	マナー講座第2回：立ち方、歩き方					学生支援課	
10	キャリアデザインと人生設計(3)：キャリアの広がりや生涯との関係					虹釜・高村	
11	「つくるたのしみ」講座の第2回事後学習と第3回事前学習					虹釜・高村	
12	キャリアデザインのための自己理解(1)：働く意味と自分の職業観					虹釜・高村	
13	「つくるたのしみ」講座の第3回事後学習と全体報告会の準備					虹釜・高村	
14	キャリアデザインのための自己理解(2)：相互インタビューによる自己分析と全体報告会の準備					虹釜・高村	
15	「つくるたのしみ」講座の全体報告会					虹釜・高村	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
毎授業でのコメント	40	①講義内容についての理解ができているか②問題提起が身についているか③新しい発見ができていくか		報告書	50	「つくるたのしみ」講座の最終報告	
提出物	10	①自己紹介と他の人の自己紹介報告 ②マナー講座の報告					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
授業時間外で、「つくるたのしみ」講座の中から一つを選択し、3回の体験学習を行う。[100時間×2回]				グループ単位で事前事後のディスカッションを行うことでPDCAサイクルを体験する。			
受講生に望むこと	①キャリアデザインは、自分の人生についての設計を考える大切な科目であり自分自身と真摯に向き合うことが望まれる。②理論だけでなく、実際に行動することで自分の位置を知る体験学習がある。③各自スケジュールは異なるので各自が手帳を用意し、記録すること。			教科書・テキスト	『キャリア基礎講座テキスト』荒井明著、日経BP社、ISBN978-4-8222-9563-9, 2014		
指定図書参考書等	参考書として、①『理論と実践で自己決定力を伸ばす』キャリアデザイン講座 第2版、大宮登著、日経BP社、ISBN978-4-8222-9573-8, 2014 ②『リンゴが教えてくれたこと』木村秋則著、日経プレミアシリーズ 社、ISBN978-4-532-24046-, 2009			その他・特記事項	「つくるたのしみ」講座では、参加費、材料費、心理テストなどの費用が各自負担でかかる。		

授業科目名	HC100U キャリアデザインⅠ		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	小林 正史・松下 健・竹中 祐二・西尾 祐美子（代表教員 小林 正史）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>授業の目的は2つある。1つ目は、社会で必要な力に気づき、その運用法を知ることである。もう1つは、その社会で必要な力を身につけるために、大学でいかに学ぶかを自らが考え、行動することである。これらの目的に従って、授業では、実際の社会が抱える課題を知り、チームで課題解決に取り組む。具体的には、2つの企業の担当者から実際に企業が社会で直面している課題を受け取り、その課題を解決するためにチームで取り組む。そして、その成果について中間プレゼン・最終プレゼンを行い、企業担当者からフィードバックを受ける。</p>			<p>①社会で必要な力に気づく。 ②自分に足りない能力や知識、自分の興味、性格、能力の強みに気づく。 ③社会に出るまでにつけなければならない能力や知識を残りの大学生活の中でどのように習得していくのかを考えることができるようになる。</p>				
教授方法	演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス：授業の目的、流れ、方針と評価方法、チームに貢献するためのルールについて理解する。					全教員	
2	課題とは何か？：「課題」とは何かを理解し、「課題」に取り組むために必要なディスカッションの基本的な手法を学ぶ。					全教員	
3	Missionを受け取る：企業Aの担当者からMissionを受け取る。課題や目標となるゴールを正しく理解する。					全教員	
4	中間プレゼンに向けて：チーム活動。中間プレゼンの目的や心構え、準備について理解し、どのように議論を進めるべきかをチームで検討する。					全教員	
5	中間プレゼン：企業担当者の前で中間プレゼンを行う。企業担当者からのフィードバック、他のチームのプレゼンなどから議論を再構築する。					全教員	
6	最終プレゼンに向けて：チーム活動。簡潔にわかりやすく伝えるプレゼンをするための注意事項を理解し、準備を整える。					全教員	
7	最終プレゼン：最終プレゼンを行い、企業担当者からフィードバックを受ける。チームで、自分たちの議論および活動をふりかえる。					全教員	
8	課題解決に必要なスキルを知る：クリティカルシンキングの大まかな概要をつかむ。					全教員	
9	Missionを受け取る：企業Bの担当者からMissionを受け取る。課題や目標となるゴールを正しく理解する。					全教員	
10	中間プレゼンに向けて：チーム活動。企業担当者からどのようなアドバイスをもらえば議論が進むのかを整理する。					全教員	
11	中間プレゼン：企業担当者の前で中間プレゼンを行う。企業担当者からのフィードバック、他のチームのプレゼンなどから議論を再構築する。					全教員	
12	最終プレゼンに向けて：チーム活動。簡潔にわかりやすく伝えるプレゼンをするための注意事項をチェックし、準備を整える。					全教員	
13	最終プレゼン：最終プレゼンを行い、企業担当者からフィードバックを受ける。チームで、自分たちの議論および活動をふりかえる。					全教員	
14	全体のふりかえり：授業での経験をもとに、残りの大学生活をどのように過ごすのかをまとめる。					全教員	
15	前期の初めに各自が設定した中期目標と長期目標がどの程度達成されたか、今後の大学生活と授業にどのように臨むかについての「自分宣言」を行う。					全教員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
受講態度	30	積極的に授業およびグループワークに参加しているか。		提出物	50	①期限内に提出しているか。 ②課題に即した内容となっているか（例えば、毎回提出するリアクションシートの場合は、振り返りが記されているか、規定字数を満たしているか、で評価）。	
発表	20	①発表内容 ②発表態度 ③質疑への応答					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
課題解決のための資料探しや企業研究、社会調査やディスカッションなど、中間プレゼンおよび最終プレゼンの準備を進めてください。準備はほぼ授業時間外で進めることになります。[120分]				プレゼンテーションや提出物などの課題について、次学期のキャリアデザインⅡにおいてコメントします。			
受講生に望むこと	常に主体的に考え、責任を持って動くように心がけましょう。			教科書・テキスト	『PROJECT SUPPORT NOTEBOOK』Ver1 ベネッセコーポレーション 2014 ISBN：なし		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	HC110U キャリアデザインII		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修	
担当教員名	福江 厚啓・谷 昌代 (代表教員 福江 厚啓)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は、全学共通科目のうち学部のキャリア教育科目に位置づけられている。キャリアデザインIに引き続き、自分の人生の中で職業を主体的に構想したり、設計したり、実現することである。この授業では、社会から求められている事柄が何であるのかを知り、自己課題を明確にすることである。			①キャリアラーニング能力 ②専門的な職業能力 ③自己管理能力 ④政治的能力を身につける				
教授方法	講義、演習、体験学習						
履修条件	なし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業概要の説明：到達目標、成績評価と基準、「キャリア体験学習」など。					福江・谷	
2	マナー講座第1回：言葉遣いについて					学生支援課	
3	「キャリア体験学習」の内容説明とグループ分け、自己紹介、役割分担、連絡方法の確認					福江・谷	
4	キャリアデザインと仕事理解（1）：学生生活で得るキャリア意識の明確化					福江・谷	
5	キャリアデザインと仕事理解（2）：経済・雇用環境に応じた働き方の理解					福江・谷	
6	「キャリア体験学習」の第1回事前学習					福江・谷	
7	キャリアデザインと職場理解（1）：インターンシップやプレ実習を活用したキャリア考察について					福江・谷	
8	「キャリア体験学習」の第1回事後学習と第2回事前学習					福江・谷	
9	キャリアデザインと職場理解（2）：キャリア形成と求められる基礎能力					学生支援課	
10	企業の魅力					学生支援課	
11	「キャリア体験学習」の第2回事後学習と第3回事前学習					福江・谷	
12	キャリアデザインと職場理解（3）：多彩な職種や業種と自分の適性					福江・谷	
13	マナー講座第2回：報告、連絡、相談について					学生支援課	
14	「キャリア体験学習」の第3回事後学習と全体報告会準備					福江・谷	
15	「キャリア体験学習」の全体報告会					福江・谷	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
毎授業でのコメント	40	①講義内容についての理解ができていないか ②問題提起が身についているか ③新しい発見ができていないか		報告書	50	「体験学習」の最終報告	
提出物	10	①言葉遣いのレポート ②報告、連絡、相談のレポート					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
授業外では専門的な職業能力に直結する「キャリア体験学習」に取り組みます。その体験学習に際しては事前の準備と事後の学習が大切であり、それに要する時間はそれぞれに3時間、合計6時間以上を必要とする。				グループごとに学習計画を立て、役割分担、調査を行い、記録することでフィードバックする。			
受講生に望むこと	①積極的に参加すること。 ②理論だけでなく、実際に行動すること。 ③各自スケジュールは異なるので各自が手帳を用意し、記録して下さい。			教科書・テキスト	『学生のためのキャリアデザイン入門 生き方・働き方の設計と就活準備 第3版』渡辺峻・伊藤健市著、中央経済社、渡辺峻・伊藤健市著 2015年 ISBN：978-4502170614		
指定図書参考書等	参考書として、①『理論と実践で自己決定力を伸ばす』キャリアデザイン講座 第2版、大宮登著、日経BP社、ISBN978-4-8222-9573-8, 2014 ②『今までにない職業をつくる』甲野善紀著、ミシマ社、ISBN978-4-903908-59-5, 2015			その他・特記事項	「キャリア体験学習」については、参加費、材料費などの費用が各自負担でかかります。		

授業科目名	HC110U キャリアデザインII		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	西村 洋一・小林 正史（代表教員 西村 洋一）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、全学共通科目のキャリア教育科目に位置づけられるものである。キャリアデザインIIでは、キャリアデザインIで培われた気づきを拡張、深化させていく。そのために、MIP1の振り返りや批判的、論理的な思考力を高めるトレーニング、また、働き方や社会の動き、先達の話や聴く機会や仕事に就くにあたって考えるべきことなど様々な角度から自身の「キャリア」を考えるための時間とする。</p>			<p>①グループワークや発表をとおして、自身の意見を的確に他者に伝えることができる。 ②先達の話や社会の動き捉える活動から、現代社会の情勢などの知識を身につける。 ③仕事につく際に必要とされるが、現在は不足している力について、学生時代にどのようにして身につけるかの具体的なプランが立てられる。</p>				
教授方法	教員による講義、ゲストスピーカーによる講演、グループワークおよび発表など多様な方法により演習を進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業概要の説明および批判的思考の解説と振り返り。					全員	
2	MIP1におけるプレゼンテーションの振り返りおよび修正作業を実施する。					全員	
3	MIP1におけるプレゼンテーション修正版の発表を行う。					全員	
4	社会の情勢を把握し他者に伝える：新聞を用いたグループワークを行う。					全員	
5	グループディスカッションをとおして社会について考える。					全員	
6	会社の仕組み、仕事の仕組みについて考える。					全員	
7	職業選択について：周りの人の聞き取りを踏まえたグループワークを行う。					全員	
8	地域を元気にする活動事例に学ぶ。					全員	
9	グローバル企業で働くことについて学ぶ。					全員	
10	グローバル企業での仕事を具体的に考える（MIP IIに向けて）。					全員	
11	ワークライフバランスについて考える。					全員	
12	労働者の権利について考える。					全員	
13	就職活動とは：4年生と卒業生の話を聴く。					全員	
14	自己を振り返る（自分史を作る自己分析）。					全員	
15	エントリーシートを書き方を学ぶ。					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	30	授業中のワークの達成度、および演習への参加態度		リアクションシート	40	毎回提出するリアクションシートが授業の内容に沿って具体的に記入されているか。	
課題・レポート	20	授業時に課された課題やレポートの内容		グループ発表	10	グループ発表が論理的に構成されているか、わかりやすい話し方か。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①グループ・個人に課された課題・レポートの作成 [120分] ②日頃から新聞等を読み、社会の事象等に関心を持つ。[60分]				グループ発表やレポート提出時に学生と教員がコメントする。			
受講生に望むこと	グループワークを中心とした授業なので、学生の活発な参加が求められる。社会学科のためにもくもくの学習とともに、社会の事象について関心を持つ姿勢が必要である。			教科書・テキスト	必要に応じて資料を配布する。		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	HC200U キャリアデザインⅢ		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修	
担当教員名	福江 厚啓・谷 昌代 (代表教員 福江 厚啓)						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は、全学共通科目のうち学部のキャリア教育科目に位置付けられている。この授業を通して、社会の一員としての自分を見つめ直し、知る機会としたい。そのために、自分の能力や適性について分析する手法について学ぶ。具体的には、SPI模擬試験を受験して、能力や適性に関する客観的な資料を確認し、自己理解を深める。また本講義では、様々な体験活動の機会を設ける。そこから、人の想いや知恵に触れ、社会の一員として自分がどのように在りたいのかを検討する。			①SPI模擬試験受験を通して、自分の能力や適性について理解し、自己課題を明確にしている。 ②体験学習を通して、人の想いに触れ、自分を振り返ることができる。 ③社会情勢に興味関心を持ち、そこに生きる自分自身についてまとめることができる。				
教授方法	講義、演習、体験学習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：到達目標、授業の進め方、成績評価の方法等を知る。					福江・谷	
2	「つくるたのしみ講座」の分担配置、SPI模擬試験に関する諸注意。					福江・谷	
3	SPI模擬試験（言語分野、非言語分野、性格）の受検。					学生支援課	
4	「つくるたのしみ講座」の事前準備、「加賀百万石ウォーク」の役割確認					福江・谷	
5	「加賀百万石ウォーク」の体験①					福江・谷	
6	「加賀百万石ウォーク」の体験②					福江・谷	
7	「つくるたのしみ講座」①					福江・谷	
8	SPI模擬試験結果の返却及び、学生支援課より、結果の見方についての解説。					学生支援課	
9	「つくるたのしみ講座」①の振り返りと②に向けての事前学習					福江・谷	
10	「つくるたのしみ講座」②					福江・谷	
11	自分を伝える（発表の決まり）。					福江・谷	
12	「つくるたのしみ講座」②の振り返りと③に向けての事前学習					福江・谷	
13	「つくるたのしみ講座」③					福江・谷	
14	「社会のなかの私」に関する発表に向けての議論と準備。					福江・谷	
15	まとめ：「社会のなかの私」に関する発表。					福江・谷	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
最終課題	40	「社会のなかの私」をテーマにしたレポートを作成することができているか(2000字)。		ミニレポート	30	①学んできたことの分析が行われているか。 ②読み手にわかりやすく作成されているか。	
授業参加態度	30	①事前準備、事後の振り返りを含めて、主体的に体験学習に参加できたか。 ②講義及びグループでの授業に積極的に取り組むことができていたか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①体験学習に向けた準備と体験学習を通しての学びをレポートにまとめる[60分] ②毎日、新聞やニュースに目を通す[30分]				毎回のレポートは、採点及びコメントを付けて返却する。			
受講生に望むこと	毎日、新聞やニュースに目を通すことから、社会の状況や流れを敏感に感じてください。			教科書・テキスト	なし		
指定図書参考書等	なし / 『キャリア教育のウソ』 児美川孝一郎 筑摩書房 2013年 ISBN 978-4480688996, 『ノンデザイナーズ・デザインブック(第4版)』 Robin Williams著 小原司 訳 マイナビ出版 ISBN 978-4839955557			その他・特記事項	体験学習にかかる費用は、その都度各自実費負担で行います。		

授業科目名	HC200U キャリアデザインⅢ		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	小林 正史・俣 希實・若山 将実 (代表教員 小林 正史)						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
近年、日本の産業界はさまざまな課題を抱えているが、この課題を解決するにはグローバル社会に対応できる人材育成が鍵となっている。そこで、授業では、文化的背景の異なる人々にもわかりやすく、きちんと伝える「力」を身につけることを目的とする。具体的には、グローバル企業と連携し、「キャリアデザインⅠ(MIP1)」で学んだことを基礎としながら、ICT(Information and Communication Technology)を用いて授業を進める。グローバル企業が抱える課題を知り、チームで課題解決に取り組む。その成果について、第1次提案・最終提案を行い、企業担当者からフィードバックを受ける。			①グローバル企業で働くために必要な知識・グローバルコミュニケーション力とはどのようなものかを認識できるようになる。 ②グローバル企業とのコミュニケーションを通じて、実務に対する意識や必要とされる力と現在の自分の持つ意識や力のギャップに気づく。 ③ICTを用いて多文化共生の実践的経験を学び、海外業務に必要な表現形式を習得する。 ④異文化的背景を持つ相手へのプレゼンは、単一文化内でのプレゼンとは異なることを知り、必要な言語能力・プレゼンテーション能力を身につける。				
教授方法	講義と演習						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーションと課題提示：授業の目的、流れ、方針と評価方法、チームに貢献するためのルールについて学ぶ。最後に、第一の企業担当者から課題を受け取る。					全員	
2	課題理解確認：前回の課題提示を受けて、各グループが課題についてどのように理解しているかディスカッションを通じて確認する。					全員	
3	リハーサル：チーム活動。異文化的背景を持つ相手に対して、簡潔にわかりやすく自分の意図を伝えるための注意事項を確認し、最終提案に向けての準備を整える。					全員	
4	最終提案：ICT技術を通じた最終提案を行い、企業担当者からフィードバックを受ける。チームで、自分たちの活動(文献調査、社会調査、議論など)をふりかえる。					全員	
5	課題提示：第一クールでのグループ活動への反省・ふりかえりを全体で共有した後、第二の企業担当者から課題を受け取る。					全員	
6	課題理解確認：前回の課題提示を受けて、各グループが課題についてどのように理解しているかディスカッションを通じて確認する。					全員	
7	第一次提案に向けての進捗状況の報告：第一次提案の目的や心構えを確認し、さらに異文化的背景を持つ相手と働くとはどのようなものか学んだ上で、どのように議論を進めるべきかをチームで検討する。					全員	
8	ICT技術を用いた企業担当者に対する質問：グループワークを進めていくなかで出てきた課題に対する疑問・質問を企業担当者へ聞く。質疑応答を通じ、課題への理解をさらに深めていく。					全員	
9	リハーサル：チーム活動。異文化的背景を持つ相手に対して、簡潔にわかりやすく自分の意図を伝えるための注意事項を確認し、第一次提案に向けての準備を整える。					全員	
10	第一次提案：企業担当者に対して第一次提案を行う。企業担当者からのフィードバックや、他のチームのプレゼンなどから自分たちのチームの改良すべき点について気づく。					全員	
11	最終提案に向けての再構築：第一次提案における企業担当者からのフィードバックを受けて、各グループで振り返りを行うことを通じて、最終提案に向けて課題に対するアプローチを再構築する。					全員	
12	グループワーク：課題解決のためのグループワークを行う。また、各グループの進捗状況を全体で共有することで自グループの置かれた状況を把握する。					全員	
13	リハーサル：チーム活動。異文化的背景を持つ相手に対して、簡潔にわかりやすく自分の意図を伝えるための注意事項を確認し、最終提案に向けての準備を整える。					全員	
14	最終提案：ICT技術を通じた最終プレゼンを行い、企業担当者からフィードバックを受ける。チームで、自分たちの活動(文献調査、社会調査、議論など)をふりかえる。					全員	
15	全体のふりかえり：授業での経験をもとに、文化的背景の異なる人々にもわかりやすく、きちんと伝える「力」を身につけることとは何かをまとめ、それをどうすれば身につけることができるのかを考え、発表する。					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
受講態度	30	①授業に参加し、チームに貢献しているか。		提出物	50	①期限内に提出しているか ②課題に即した内容となっているか ③指定された分量が書けているか ④指定された形式になっているか ⑤ふりかえりができているか	
発表	20	①発表内容：課題に即した内容となっているか/指定された様式・時間を守っているか ②発表態度 ③質疑への応答					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
第一次提案および最終提案の準備を進める。準備はほぼ授業時間外で進めることになる。必要に応じて調査を行う場合も課外で進める。[90分]				発表に対するフィードバックを企業担当者および教員によってコメント等を通じて毎回の発表後に行います。			
受講生に望むこと	チームワークをうまく進めていくために、一人一人が常に主体的に考え、動くように心がける。			教科書・テキスト	『PROJECT SUPPORT NOTEBOOK』Ver1 ベネッセコーポレーション 2014 ISBN:なし		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	詳細はオリエンテーション等で説明する。協力企業の都合により、回によっては開講曜日が変わる場合もある。		

授業科目名	HC210U キャリアデザインⅣ		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修	
担当教員名	向出 圭吾・高村 真希（代表教員 向出 圭吾）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は、全学共通科目のうち学部のキャリア教育科目に位置付けられている。この授業では、実際の就職活動について実践的な技術を学ぶ。具体的には、本学から発行している就活手帳を使い、就職活動の流れを確認した後、職種研究を行い、自分の希望する職種への流れを具体化し、最後に求人先に提出する書類（履歴書、エントリーシートなど）の作成方法を実践し、計画的に就職活動が行えるように準備する。			①社会の就職活動の流れを把握し、必要なスキルを考える。 ②自分が目指す職種を研究し、目的意識をもって自分なりの就活スケジュールを立てることができる。 ③就職活動に必要な書類の作成などを通して、就活意識を深める。 ④今日のキャリア教育のあり方について自分なりに課題を発見し、自己のキャリア形成に主体的に取り組むことができる。				
教授方法	講義と演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	目標・授業の概要に関する説明、履修カルテの作成					向出・高村	
2	就職までの一般的なスケジュールを確認し、卒業までに必要なスキルを考える。					向出・高村	
3	業種・職種について理解し、自分の目指す職業に向けてのスケジュールを作成する。					向出・高村	
4	作成した就活スケジュールをもとにグループワークを行い、内容を具体化していく。					外部講師	
5	社会人としての常識やビジネスマナーについて考える。					向出・高村	
6	「社会人基礎力」について考え、自分のエピソードシートを作成する。					向出・高村	
7	作成したエピソードシートをもとにグループワークを行い、情報を共有する。					向出・高村	
8	「社会人基礎力」育成について、自己課題を分析する。					向出・高村	
9	認知症養成講座：認知症について理解し、その対応を学ぶ。					金沢市長寿福祉課職員	
10	エントリーシート・履歴書の書き方のポイントについて学ぶ。					向出・高村	
11	エントリーシート・履歴書の自己紹介欄等の書き方を学ぶ。					向出・高村	
12	各自希望職種にあったエントリーシート・履歴書の作成を行う。					向出・高村	
13	作成したエントリーシート・履歴書について見直し、改善を行う。					向出・高村	
14	インターンシップや会社説明会、専門職の合同説明会等の説明と留意点について聞く。					学生支援課	
15	これまでの授業を通して、キャリア形成について得られた学びをまとめる。					向出・高村	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	40	・授業に対する積極的な姿勢 ・報告、連絡ができているか。		課題	30	・提出課題への意欲的な取り組み ・グループワークを経ての補完	
履歴書の作成	20	・丁寧な字体であるか。 ・自分の思い、考えを伝えているか。 ・わかりやすくまとめているか。		最終レポート	10	自身の就活スケジュールを含め、授業で学んだキャリア形成について自分の考えをまとめる。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①就活スケジュールを作成する。[30分] ②「社会人基礎力」についてエピソードを拾い出していく。[60分] ③自分の履歴書の見直し改善を行い、追記しながら具体的に作成していく。[60分] ④授業での学びを最終レポートにまとめる。[60分]				就活スケジュール及び「社会人基礎力」についてグループワークを通して改めて自己課題を明らかにしていく。			
受講生に望むこと	・専門職希望の学生も一般職の就職活動のしくみや流れを理解し、就職意識を高めてください。 ・履歴書等の作成に際しては、短時間で仕上げるのではなく、時間をかけて納得のいくまで推敲を重ねてください。			教科書・テキスト	なし		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	外部講師の都合により、日程が変更になる場合があります。		

授業科目名	HC210U キャリアデザインⅣ		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	若山 将実・小林 正史（代表教員 若山 将実）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
女性が活躍している企業などへの取材・調査を行い、その調査成果を発表会等により広く一般に発信する。学期の前半は男女共同参画社会についての先行研究の学習と聞き取り調査のための準備を行う。学期の後半は、企業への聞き取り調査の結果について、整理、分析、レポート作成、そして発表会などを行う。			1. 男女共同参画社会において働くことの意義について、調査データを踏まえて、各自の意見をまとめることができる。 2. 聞き取り調査の方法を習得する。				
教授方法	各時間のテーマについて教員から情報提供を行った後、グループワーク（ディスカッション）を行い、その結果をグループごとに発表する。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業概要と男女共同参画社会の概要についての説明					全員	
2	男女共同参画社会についての先行研究の学習：男女共同参画社会の視点から、日本の企業での働き方の実態を理解する。					全員	
3	男女共同参画社会についての先行研究の学習：男女共同参画社会を実現するに際しての課題を理解する。					全員	
4	聞き取り調査の方法：調査方法について理解する。					全員	
5	地元企業の事前調査：webなどで調査対象企業の概要を調べ、特徴を理解する。					全員	
6	聞き取り項目作り					全員	
7	聞き取り調査の練習：ロールプレイを通して聞き取り調査の仕方を検討する。					全員	
8	企業への聞き取り調査					全員	
9	企業への聞き取り調査					全員	
10	聞き取り結果のまとめ					全員	
11	聞き取り結果の分析					全員	
12	中間発表会					全員	
13	聞き取り調査レポートの作成					全員	
14	聞き取り調査のレポート作成					全員	
15	成果発表会					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
調査レポートの作成	40	調査の方法、結果、分析が論理的に記述されているかどうかを重視する。		小課題	30	各回に課される小課題の提出状況を見る。	
調査結果の発表	30	分かりやすいプレゼンテーションになっているかを重視する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
各時間に課される小課題と、企業への聞き取り調査の結果の整理・分析はグループごとに授業外で行う（最低でも授業外学習時間は90分は必須となる）。企業への聞き取り調査と成果発表会は授業時間外に行う必要があるため、授業時間を振り替える。				調査結果を広く発信し、コメントをいただく。			
受講生に望むこと	グループワークを基本とした学習なので、学生一人一人が活発にディスカッションに参加することが望まれる。			教科書・テキスト	なし		
指定図書参考書等	参考資料を配布するか、共通フォルダーに保存する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	HC300U キャリアデザインV		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	虹益 和昭						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は、全学共通のうち学部のキャリア教育科目に位置づけられている。就職活動への取り組みにあたり、これまでの自分の学びを整理し、自分の特性を正確に把握することが求められる。そのためには、体験活動に対して自己課題をもって臨み、その成果を分析をする必要がある。具体的には、地方自治体との連携事業や本学の地域貢献活動、インターンシップの意義や目的、手段、望まれる態度などを十分に把握した設定した上でこれらの活動に参加する。			①これまで培ってきたP D C Aサイクルの学びを体験学習に生かすことができる。 ②自分の将来計画に基づいた課題に応じて、自分の資質・能力を向上させることができる。 ③ディスカッションを通して、やりがいのある仕事・よりよい働き方について考察することができる。 ④就職活動に必要な書類作成の準備段階として、働くことを前提とした体験学習を行うことができる。				
教授方法	講義・演習・ディスカッション						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	これまでの学びを整理する。これからの授業計画を理解する。						
2	就職活動に関する準備：就活スケジュールの立案、就活サイトへの登録						
3	体験学習に関する事前説明①：地方自治体との連携事業や本学の地域貢献活動、インターンシップの目的・意義						
4	体験学習に関する事前説明②：地方自治体との連携事業や本学の地域貢献活動、インターンシップの参加方法と手段						
5	体験学習に関する事前説明②：地方自治体との連携事業や本学の地域貢献活動、インターンシップの参加方法と手段 ③：事前打ち合わせと自己課題整理						
6	体験学習の参加（1回目）						
7	体験学習の参加（2回目）						
8	体験学習の参加（3回目）						
9	体験学習の参加（4回目）						
10	体験学習の参加（5回目）						
11	体験学習の参加（6回目）						
12	体験学習の参加（7回目）						
13	体験学習の振り返り①（取り組み状況の確認）						
14	体験学習の振り返り②（自己課題を明確にする）						
15	授業のまとめ：体験学習報告会						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
受講態度	40	授業・活動に対して積極的な姿勢に臨んでいるか。不明な点については適宜質問などができるか。	体験学習参加状況	40	報告・連絡・相談が徹底されているか。P D C Aサイクルが身についているか。		
レポート	20	これからの生き方や就職活動につながる体験学習であったか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①就活サイトの確認 [30分] ②体験学習に関する事前研究 [60分] ③体験学習に関する事後研究 [60分] ④レポート作成 [60分]			レポートについては、評価後コメントをつけて返却する。				
受講生に望むこと	体験学習については、これまでのキャリアデザインで培ってきた知識や技術を生かすこと。無断欠席はもちろんのこと、遅刻早退について必ず担当教員に連絡すること。		教科書・テキスト	適宜資料プリントを配布する			
指定図書参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし			

授業科目名	HC300U キャリアデザインV		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	俵 希實・若山 将実・西尾 祐美子 (代表教員 俵 希實)						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この授業は、「キャリアデザインⅠ」(MIP1)、「キャリアデザインⅡ」,「キャリアデザインⅢ」(MIP2),「キャリアデザインⅣ」で学んだことを活かして,就職活動に必要な実践力を養う。実践力を養う1つの方法として,インターンシップに参加する。そのために,説明会への参加,企業研究などの準備を行う。			①就職活動の流れを把握する。 ②就職活動に必要な情報を収集することができるようになる。 ③インターンシップに参加し,働く自分を具体的にイメージできるようになる。				
教授方法	講義, 演習						
履修条件	「キャリアデザインⅠ」～「キャリアデザインⅣ」を履修済であることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション: 授業内容と評価基準について説明する。					俵・若山・西尾	
2	就職活動とは何か: 就職活動とインターンシップについて理解する。					俵・若山・西尾	
3	インターンシップ参加に向けて～履歴書の書き方～: 履歴書の基本と自己PRにチャレンジする。					俵・若山・西尾	
4	インターンシップ参加に向けて～企業の選び方～: インターンシップ希望企業と参加理由を考える。					俵・若山・西尾	
5	ジョブカフェ石川学内説明会参加: 就職活動に関する情報を収集する。					俵・若山・西尾	
6	インターンシップフェス参加: インターンシップについての情報を収集する。					俵・若山・西尾	
7	自分に合う企業の探し方～自己PRと自己分析～: 自己PRを書くための自己分析を行う。					俵・若山・西尾	
8	自分に合う企業の探し方～企業研究～: 志望動機を書くための業界・企業研究方法を学ぶ。					俵・若山・西尾	
9	リクナビインターンシップイベント参加: インターンシップについての情報を収集する。					俵・若山・西尾	
10	筆記試験対策: 筆記試験の内容を把握し, 練習問題にチャレンジする。					俵・若山・西尾	
11	インターンシップ準備: 各自で企業研究・面接のポイントを整理する。					俵・若山・西尾	
12	インターンシップ準備: 各自で企業研究・企業訪問のポイントを整理する。					俵・若山・西尾	
13	インターンシップ準備: 企業研究の発表を行い, 夏休みの行動計画を立てる。					俵・若山・西尾	
14	インターンシップ参加: 希望企業のインターンシップに参加する。					俵・若山・西尾	
15	インターンシップ参加: 希望企業のインターンシップに参加する。					俵・若山・西尾	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	30	①授業中のワークを達成できたか。 ②講義・演習(グループワーク含む)に対して積極的に参加しているか。		提出物	30	①課題に対して適切な内容になっているか。 ②定められた期間内に提出しているか。	
インターンシップへの参加	40	インターンシップに参加したか。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
インターンシップに参加するための準備を授業外でも進めること。指示された課題を行うこと。[60分]				課題についてコメントする。			
受講生に望むこと	就職活動に直接結びつく授業なので, 真面目に, かつ積極的に取り組んでください。			教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし			その他・特記事項	インターンシップ参加については各自実費となります。		

授業科目名	HC310U キャリアデザインVI		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	向出 圭吾						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は、全学共通科目のうち学部のキャリア教育科目に位置付けられている。この授業はキャリア教育科目の最後として、実際の就職活動の流れと平行して、より現実的な就活スキルについて実践的な学びを深める。具体的にはインターンシップ報告会の実施を通して、様々な職場で「働く」ということについての実際を学ぶ。その上で改めて求人先に提出する履歴書・エントリーシート等の作成に取り組む。また面接やグループディスカッションの対策についても繰り返し実践し、企業担当者からの指導を受けながら、自信をもって就職活動に臨むことができるよう準備する。			①インターンシップ報告会を実施し、働くことの実際を理解している。 ②履歴書・エントリーシート等の作成において自分らしいさを表現した自己紹介書を書くことができる。 ③自信をもって面接やグループディスカッションに臨むことができる。 ④就職説明会等の情報をしっかり把握し、広い視野をもって参加することができる。				
教授方法	講義・演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業の概要に関する説明、インターンシップ報告会に向けての準備をする。						
2	インターンシップ報告会を実施する。					学生支援課	
3	インターンシップで身につけてスキルをもとに「働く」ことの意義を考える。						
4	就職活動全体の流れと体験ワーク					外部講師	
5	エントリーシート・履歴書の書き方の具体的なポイントについて深める。						
6	エントリーシート・履歴書の自己紹介欄等の書き方を深める。						
7	志望動機を書くための業界研究講座					外部講師	
8	作成したエントリーシート・履歴書について見直し、改善を行う。						
9	ロールプレイを通して個別面接における基本的な心得を学ぶ。						
10	面談の備えと振り返り：面談予習復習シートの活用					学生支援課	
11	集団面接やグループディスカッションにおける基本的な心得を学ぶ。						
12	面接を乗り切るための講座：面接のQ&A						
13	就職説明会について：種類や開催時期、参加の仕方について学ぶ。					学生支援課	
14	ビジネスマナーの復習：身だしなみ、電話の応対、手紙やメールの内容等						
15	今後の就職活動を意義あるものにするための学びの成果を発表する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	40	・授業に対する積極的な姿勢 ・報告、連絡ができているか。		インターンシップ参加報告	20	報告会への取り組みを適切にレポートにまとめている。	
履歴書の作成	20	より具体的に自分を表現した内容で履歴書やエントリーシートが作成できる。		最終レポート	20	・面接に臨む自分の考え ・ビジネスマナーについての考え ・就職説明会及び会社説明会に対する自分の決意等	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①インターンシップで身につけたスキルを発表原稿にまとめる。[90分] ②自分の履歴書の見直し改善を行い、追記しながら具体的に作成していく。[60分] ③面接・ディスカッションの際、他者の発言の意図をくみ取ったり尊重しながら理論的な発言ができるように練習しておく。[30分]				①インターンシップの報告会を終えて、他者の学びから改めて自分の学びの振り返りを行う。 ②履歴書・エントリーシートの見直し改善を行う。 ③各種面接の繰り返しを通して自分に自信をもつ。			
受講生に望むこと	①前期にインターンシップを体験していることが望ましい。 ②日々のニュースや新聞に触れ、情報を収集する癖をつけてほしい。			教科書・テキスト	なし		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	外部講師の都合により、日程が変更になる場合があります。		

授業科目名	HC310U キャリアデザインVI		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	俵 希實・若山 将実・西尾 祐美子 (代表教員 俵 希實)						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この授業は、「キャリアデザインV」に引き続いて行う内容となっている。「キャリアデザインV」で体験したインターンシップやそのための準備で経験したことをふまえて、社会で求められる力を認識するとともに、実際の就職活動に必要な知識やスキルを獲得する。			①社会で求められる力を具体的に述べることができるようになる。 ②就職活動に必要な知識やスキルを獲得する				
教授方法	講義, 演習						
履修条件	「キャリアデザインI」～「キャリアデザインV」を履修済であることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：就職活動までのスケジュールを確認する。					俵・若山・西尾	
2	履歴書・エントリーシート～自己PRへの作成：半年前の自己PRと現在の自分を比較しながら、再度、履歴書・エントリーシートを作成する。					俵・若山・西尾	
3	インターンシップ報告会：「キャリアデザインV」で参加したインターンシップについて報告する。					俵・若山・西尾	
4	企業と業界研究：企業と業界、業界同士の接続を知る。					俵・若山・西尾	
5	企業と職種研究：職種と役割について知る。					俵・若山・西尾	
6	業界・企業・職種研究：各グループで研究テーマを決めて、調べる。					俵・若山・西尾	
7	面接・エントリーシートのポイント：自己PR・学生時代に頑張ったことをブラッシュアップする。					俵・若山・西尾	
8	社会学科OB・OG講演会：社会学科の卒業生の就職活動体験および現在の仕事内容についての講演を聞く。					俵・若山・西尾	
9	業界・企業・職種研究：グループごとに各研究内容を発表する。					俵・若山・西尾	
10	リクナビインターンシップイベントへの参加：企業についての情報を収集する。					俵・若山・西尾	
11	面接の基本①：面接の種類とその特徴、よく聞かれる質問の意図などを知る。					俵・若山・西尾	
12	面接の基本②：模擬面接を体験し、面接で求められるレベルと現状のギャップを認識する。					俵・若山・西尾	
13	学内キャリアガイダンスへの参加：企業や先輩の話から必要な情報を収集する。					俵・若山・西尾	
14	就職活動本番に向けて：合同説明会の有効活用法など就職活動に役立つ知識を獲得する。					俵・若山・西尾	
15	1年間の振り返りとこれからの行動計画：2月までにやっておくことの確認と、3月以降にやることのシュミレーションを行う。					俵・若山・西尾	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	30	①授業中のワークの達成度 ②講義・演習(グループワーク含む)に対して積極的に参加しているか。		提出物	30	①課題に対して適切な内容になっているか。 ②定められた期間内に提出しているか。	
発表	40	①発表内容 ②発表態度 ③質疑への応答					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
発表準備を進めること。業界・企業・職種研究を進めること。[90分]				発表について各グループごとにコメントします。			
受講生に望むこと	就職活動に直接結びつく授業なので、真面目に、かつ積極的に取り組んでください。			教科書・テキスト	なし		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	HC160U 情報機器演習A		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	富岡 和久					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本講義の目的は2つある。第1は、コンピュータを使える能力（コンピュータリテラシー）を高めることである。代表的なアプリケーションであるワープロ、表計算、電子メールの操作方法を習得する。第2は、情報を上手に扱うための基本的な知識や能力（情報リテラシー）を養うことである。このため、情報を選択・加工し、さらにわかりやすい形で表現できるようにすることを目指す。</p>			<p>①学内の情報環境を知り、Windowsの基本操作を習得する。 ②電子メールの送受信ができるようになる。 ③情報倫理に関する基本的な知識を身につける。 ④Excelの基本操作を習得し、データを加工し適切なグラフ作成ができるようになる。 ⑤Wordの基本操作を習得し、レポートを作成することができるようになる。</p>			
教授方法	演習形式					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	学内の情報環境を知る。さまざまな文字の入力方法と電子メールの送受信の正しい知識を身につける。					
2	Windows7の基礎操作を習得する。情報倫理に関する知識を身につける。					
3	Excel基本操作：データ入力、オートフィル、数式入力、基本的な関数の操作方法を習得する。					
4	Excel関数①：相対参照と絶対参照との違いを理解し、ランク付け関数の操作方法を習得する。					
5	Excel関数②：条件分岐関数の操作方法を習得する。					
6	Excel関数③：表引き関数の操作方法を習得する。					
7	Excel小テスト： 以後のデータ加工に進むために、これまで学習した関数について小テストで習得の確認を行う。					
8	Excelデータ加工①：データの加工・並べ替え方法を習得する。					
9	Excelデータ加工②：基本的なグラフの作成方法を習得する。					
10	Excel課題：与えられたデータを加工し、適切なグラフ作成を行う。					
11	Word文書作成①：ビジネス文書の種類・形式を理解し、インデントとタブ、ページレイアウトなどビジネス文書作成に必要な操作方法を習得する。					
12	Word文書作成②：レポートの構成・形式を理解し、Excelで作成した表・グラフの挿入などレポート作成に必要な操作方法を習得する。					
13	Word文書作成③：図形・ワードアート・画像などを使ったちらしの作成方法を習得する。					
14	総合課題①：与えられた課題に対し、Wordでレポートを作成する。					
15	総合課題②：レポートを完成させ、提出する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
電子メール・情報倫理	10	授業で学んだ知識を習得しているか。		Excel関数小テスト／課題	35	授業で学んだ関数が正しく利用できるか。(30%)／適切なデータの加工・グラフ作成ができるか。(5%)
総合課題	25	序論・本論・結論で構成されているか。わかりやすい文章で表現し、Wordで体裁を整えることができるか。		授業参加態度	30	提出物などにより授業への取組み姿勢を評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>①パソコンの操作は慣れることが重要である。毎回の授業内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。 ②14回目の授業で、総合課題の説明を行う。15回目の授業を提出期限とする。授業時間内だけでは時間が不足するため、授業外の時間も利用してしっかり取り組むこと。上記について、合計30時間分の授業外学習として随時指示するのでそれにしたがうこと。</p>				<p>原則、課題を提出したよく週に返却。 また、課題提出回の授業で使用することもある。</p>		
受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要な不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなし、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。			教科書・テキスト	『実践ドリルで学ぶOffice活用術2013対応』 第1版 noa出版 2015年出版 『2017年度版 情報倫理ハンドブック』 noa出版 2017年出版 <ISBN：なし>	
指定図書参考書等	なし／なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	HC160U 情報機器演習A		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	竹中 祐二						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義の目的は2つある。第1は、コンピュータを使える能力（コンピュータリテラシー）を高めることである。代表的なアプリケーションである文書作成ソフト・表計算ソフトの操作方法を習得する。第2は、情報を上手に扱うための基本的な知識や能力（情報リテラシー）を養うことである。このため、情報を選択・加工し、さらにわかりやすい形で表現できるようにすることを目指す。</p>			<p>①Excelの基本操作を習得し、データを加工し、適切なグラフ作成ができるようになる。 ②Excelで複合グラフを作成することができるようになる。 ③Wordの基本操作を習得し、レポートを作成することができるようになる。</p>				
教授方法	演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	Excel基本操作：データ入力、オートフィル、数式入力、基本的な関数の操作方法を習得する。						
2	Excel関数①：相対参照と絶対参照の違いを理解し、ランク付け関数の操作方法を習得する。						
3	Excel関数②：条件分岐関数の操作方法を習得する。						
4	Excel関数③：表引き関数の操作方法を習得する。						
5	Excel小課題①：以後のデータ加工に進むために、これまで学習した関数について、小テストで習得の確認を行う。						
6	Excelデータ加工①：データの加工・並べ替え方法を習得する。						
7	Excelデータ加工②：基本的なグラフの作成方法を習得する。						
8	Excel小課題②：与えられたデータを加工し、適切なグラフ作成を行う。						
9	Excel関数の応用：実用的な表を作成し、情報機器演習Aで学んだ関数の振り返りを行う。						
10	Excelグラフ：グラフの編集と複合グラフの作成方法を習得する。						
11	Word文書作成①：ビジネス文書の種類・形式を理解し、インデントとタブ、ページレイアウトなどビジネス文書作成に必要な操作方法を習得する。						
12	Word文書作成②：レポートの構成・形式を理解し、Excelで作成した表・グラフの挿入などレポート作成に必要な操作方法を習得する。						
13	Word文書作成③：図形・ワードアート・画像などを使ったチラシの作成方法を習得する。						
14	総合課題①：与えられた課題に対し、Excelでデータ分析を行い、Wordでレポートを作成する。						
15	総合課題②：レポートを完成させ、提出する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Excel小課題①	30	・授業で学んだ関数が正しく利用できるか。		Excel小課題②	15	・適切なデータの加工・グラフ作成ができるか。(5%) ・関数を利用した実用的な表が作成できるか。(5%) ・複合グラフが作成できるか。(5%)	
総合課題	25	・レポートが序論・本論・結論で構成されているか。 ・わかりやすい文章で表現し、Wordで体裁を整えることができるか。		授業参加態度	30	・提出物などにより授業への取り組み姿勢を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①コンピュータ操作は慣れることが重要である。毎回の授業内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。 ②14回目の授業で、総合課題の説明を行う。15回目の授業を提出期限とする。授業時間内だけでは時間が不足するため、授業外の時間も利用してしっかり取り組むこと。 …上記①・②について、合計30時間分の授業外学習を随時指示するので、それに従うこと。</p>				<p>課題は原則として翌週に返却する。（課題提出回の授業で使用することもある。）</p>			
受講生に望むこと	コンピュータの基本的な操作スキルは、大学での学び・社会生活に必要な不可欠なものである。本授業を通じて、コンピュータを道具として使いこなす、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。			教科書・テキスト	『実践ドリルで学ぶOffice活用術 2013対応（第2版）』noa出版 2017年 <ISBN：なし>		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	HC170U 情報機器演習B		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	富岡 和久					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>現代社会においては、職種・業種に関係なくあらゆる場面で、自分の考えや思いを相手に伝えるプレゼンテーション力が不可欠である。「情報機器演習A」に引き続き、代表的なアプリケーションであるプレゼンテーションや画像・音声・動画編集加工ソフトの基本的操作を習得する。さらに、Excelで作成したグラフを活用したプレゼンテーションの実施と相互評価により、自己のプレゼンテーション力を客観的に把握し向上させることを目的とする。この授業は、全学共通であるキャリア教育科目の1つである。</p>			<p>①Excelで複合グラフが作成できる。 ②PowerPointの基本操作を習得する。 ③プレゼンテーションにおける効果的な資料について理解し、そのような資料を作成して発表できるようになる。 ④どのようなプレゼンテーションが相手に伝わるのかを理解し、プレゼンテーション力を高める。 ⑤簡単なマルチメディア作品の制作ができるようになる。</p>			
教授方法	演習					
履修条件	「情報機器演習A」の履修済みが望ましい。（単位未修得可）					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	Excel関数の応用：実用的な表を作成し、情報機器演習Iで学んだ関数の振り返りを行う。					
2	Excelグラフ：グラフの編集と複合グラフの作成方法を習得する。					
3	プレゼンテーションとは：プレゼンテーションとは何かを知り、その必要性を理解する。					
4	PowerPoint基本操作：簡単なプレゼンスライドを作成し、基本操作を習得する。					
5	PowerPointプレゼンの内容と流れ：目的・聞き手・伝えたい内容とそれを伝えるためのストーリーを作る。					
6	PowerPointプレゼン資料作成：ストーリーに合わせた効果的なスライドを作成する。					
7	PowerPoint発表原稿準備：ノート機能を利用して発表用の原稿を作成する。					
8	PowerPointリハーサル：グループ内で発表することにより、PowerPointの操作と時間配分を確認し、人前での発表に慣れる。					
9	PowerPointプレゼンの実施と相互評価①：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。					
10	PowerPointプレゼンの実施と相互評価②：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。					
11	PowerPointプレゼンの実施と相互評価③：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。					
12	画像・音声・動画ファイルの編集加工：画像・音声・動画ファイルについて、基本的な編集加工方法を習得する。					
13	マルチメディア作品の制作①：オリジナルのテーマを設定し、素材となる画像・音声・動画ファイルの編集加工を行う。					
14	マルチメディア作品の制作②：マルチメディア作品を作る。					
15	マルチメディア作品の相互評価：他の受講者の作品から、多様な工夫の仕方を知る。相互評価によって、自分の作品の改善点を発見する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
Excel関数の応用とグラフ作成	10	関数を利用した実用的な表が作成できるか。複合グラフが作成できるか。		プレゼンテーション	35	伝えたい内容が明確で、分かりやすいストーリーか。スライドが分かりやすい表現で、効果的な使用か。はっきりと大きな声で、聴き手を見て、発表したか。
マルチメディア作品	25	テーマに沿った作品であるか。音声画像・動画ファイルの切替えのタイミングに合っているか。		授業参加態度	30	出席状況、授業への取組み姿勢。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>①6回目に発表用のスライドを作成する。7回目の授業までに完成させること。 ②7回目に発表用の原稿を作成する。8回目の授業までに、作成した発表用原稿で練習を行うこと。 ③8回目のリハーサルで指摘されたこと、気づいたことに対して、発表用スライドの修正を行い、9回目の授業の前までに提出する。 ④9-11回目のプレゼンでは、発表用原稿を読み上げるのではなく、聴き手を見て発表できるように、十分な練習をする。 ⑤パソコンの操作は慣れることが重要である。授業で学んだ内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。 これら①～⑤について合計30時間分の授業外学習として随時指示するのでそれにしたがうこと。</p>				<p>原則、課題を提出したよく週に返却。 また、課題提出回の授業で使用することもある。</p>		
受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要な不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなす、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。			教科書・テキスト	『実践ドリルで学ぶOffice活用術2013対応』 第1版 noa出版 2015年出版	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	HC170U 情報機器演習B		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	田中 純一						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この授業は、全学共通科目であるキャリア教育科目のひとつである。現代社会においては、職種・業種に関係なくあらゆる場面で自分の考えや思いを相手に伝えるプレゼンテーションが不可欠である。授業では代表的なプレゼンテーションソフトであるMicrosoft Powerpointの基本操作を習得するとともに、より効果的なプレゼンテーション資料作成のための画像・音声・動画の編集加工の基本操作を習得する。さらに、受講者によるプレゼンテーションの実施と相互評価により、自己のプレゼンテーション力を客観的に把握し、向上させることを目的とする。			①情報倫理に関する基本的な知識を身につける。 ②PowerPointの基本操作を習得する。 ③効果的なプレゼンテーションについて理解するとともに、そのような資料を作成し発表できるようにする。 ④どのようなプレゼンテーションが相手に伝わるのかを理解し、プレゼンテーション力を高める。 ⑤簡単なマルチメディア作品の制作ができるようになる。				
教授方法	演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス。情報倫理に関する知識を身につける。						
2	プレゼンテーションの基本理解：プレゼンテーションとは何かを知り、その必要性を理解する。						
3	PowerPointの基本操作 簡単なプレゼンスライドを作成し、基本操作を習得する。						
4	簡単なプレゼンテーション資料を作る：自己紹介用資料を実際に作成してみる。						
5	PowerPointプレゼン内容と流れ：目的・書き手・伝えたい内容とそれを伝えるためのストーリーを作る。						
6	PowerPointプレゼン資料作成：ストーリーに合わせた効果的なスライドを作成する。						
7	PowerPoint発表原稿準備：ノート機能を利用して発表用原稿を作成する。						
8	PowerPointリハーサル：グループ内で発表することにより、PowerPointの操作と時間配分を確認し、人前での発表に慣れる。						
9	動画・音声・動画ファイルの編集加工：動画・音声・動画ファイルについて、基本的な編集加工方法を習得する。						
10	マルチメディア作品の制作①：オリジナルのテーマを設定し、素材となる画像・音声・動画ファイルの編集加工を行う。						
11	マルチメディア作品の制作②：マルチメディア作品を作る。						
12	マルチメディア作品の相互評価：他の受講者の作品から、多様な工夫の仕方を知る。相互評価によって、自分の作品の改善点を発見する。						
13	PowerPointプレゼンの実施と相互評価①：他の受講者のプレゼン（Aグループ）から良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることで、自分の改善点を発見する。						
14	PowerPointプレゼンの実施と相互評価②：他の受講者のプレゼン（Bグループ）から良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることで、自分の改善点を発見する。						
15	PowerPointプレゼンの実施と相互評価③：他の受講者のプレゼン（Cグループ）から良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることで、自分の改善点を発見する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度・理解度	20	講義で学んだ技術等を理解し、使いこなせるか、グループワークへの積極的参加。		プレゼンテーション	40	伝えたい内容が明確で、わかりやすいストーリーか。スライドが分かりやすい表現で効果的な使用か。はっきりと大きな声で、聞き手を見て発表したか。	
マルチメディア作品	40	テーマに沿った作品か。音声が画像・動画ファイルの切替のタイミングに合っているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①6回目に発表用のスライドを作成する。7回目の授業までに完成させること。 ②7回目に発表用の原稿を作成する。8回目の授業までに、作成した発表用原稿で練習を行うこと。 ③8回目のリハーサルで指摘されたこと、気付いたことに対して、発表用スライドの修正を行い、9回目の授業の前までに提出する。 ④13～15回のプレゼンでは、発表用原稿を読み上げるのではなく、聴き手を見て発表できるように十分な練習をする。 ⑤パソコン操作は慣れることが重要である。授業で学んだ内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。 ⑥事前にレジュメを配布する場合があるので、必ず目を通しておくこと [30分]				講義の進捗にあわせて適宜課題を課し、技術的習熟度を確認する。			
受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要な不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなす、さらに情報を使いこなす能力を高めて欲しい。			教科書・テキスト	『実践ドリルで学ぶOffice活用術 2013対応（第2版）』noa出版 2017年<ISBN：なし>		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

子ども教育学科
(1年次)

授業科目名	EK100U 基礎ゼミⅠ		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修	
担当教員名	向出 圭吾・幸 聖二郎・高村 真希・村井 万寿夫・谷 昌代 (代表教員 向出 圭吾)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
1年次の基礎ゼミでは、大学での基本的な学びの姿勢、知的探究の方法の修得を目指す。具体的には、基礎ゼミⅠにおいて、テキストを参考にしながら、ノートテイキング、レポート作成、文献の調べ方や要約といったスタディスキルを学び、大学での授業内容理解に必要な力を身につける。大学では「自らが学ぶ」という自主的、主体的姿勢が求められるので、ゼミでの学習を通して、大学生として学びを主体的に勤めていく積極的な姿勢を体感し習得していく。またゼミ内でのディスカッションを通して、コミュニケーション能力を磨くことも目指す。「地域社会と子ども」の授業での学外参観後に、ゼミ内でも関連したディスカッションを行う。			①大学での学び方について理解している。 ②図書館やインターネットの利用など、情報収集の方法を習得する。 ③ゼミの運営や参加方法を理解し、積極的に関わろうとする。 ④レポートの書き方を理解している。				
教授方法	演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	(前半合同) ゼミの進め方や履修登録内容の確認を行う。(後半ゼミごと) ゼミ内自己紹介を行い、係りを決める。					全員	
2	(合同) 図書館利用オリエンテーション：情報収集の仕方を具体的に学ぶ。(テキスト第5章に該当)					全員	
3	スタディ・スキルズとは？：自己の目標の設定、確認をする。(テキスト第1章)					各担当教員	
4	大学での学びについて考える：高校との違い、主体的に学ぶとは？					各担当教員	
5	ノートテイキングの方法について理解する。(テキスト第2章)					各担当教員	
6	リーディングの基本スキルを学び、実際に文章を意識して読んでみる。(テキスト第3章)					各担当教員	
7	より深いリーディングのために(1)：要約する。基本編(テキスト第4章)					各担当教員	
8	より深いリーディングのために(2)：要約する。実践編(テキスト第4章)					各担当教員	
9	より深いリーディングのために(3)：意見を書く。(テキスト第4章)					各担当教員	
10	リーディングの実践 本の紹介(1)：要約を書く。					各担当教員	
11	リーディングの実践 本の紹介(2)：感想を書く。					各担当教員	
12	アカデミック・ライティングの基本スキル：レポートの書き方を知る。(テキスト第8章)					各担当教員	
13	効果的なアカデミック・ライティングのために：わかりやすい文や効果的な表現方法を知る。(テキスト第9章)					各担当教員	
14	各ゼミでテーマを決め、ゼミごとに学びのディスカッションを行う。					各担当教員	
15	(合同) 後期の履修登録、履修モデルの選択等の説明を行う。					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	50	意欲的に参加・発言：50点、概ね参加：30点 無関心・意欲的でない：10点を目安に、積極的な姿勢を評価する。		レポート提出	50	テーマと内容が適切かどうか、ゼミで指導されたアカデミック・ライティングの基本スキルを用いているかどうかを基準とする。	
授業外における学習(事前・事後学習等)							
①大学での自主的・主体的学びを習得するため、各教員から提出される課題遂行の際は、積極的に図書館やインターネット等を利用し、情報収集とスタディ・スキルズに則ったまとめ方を旨とする。[60分] ②授業の各回に示されているテキストの章を予め読んで、ゼミに臨むこと。[20分] ③各教員から紹介された文献等に関して図書館において検索閲覧すること。[30分]				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①質問は、授業中以外にもメールで受け付ける。メールアドレスは予め受講生に知らせておく。 ②毎回授業の初めに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。							
受講生に望むこと	少人数のゼミ形式で行うため、ゼミの時間は遅刻せずに、積極的に仲間のお話を聞き、かつ自分も意見を必ず述べるように努めてほしい。また、出された課題に対しては、責任をもって期日までに仕上げる。ゼミ運営上妨げになるような行為は慎むこと。			教科書・テキスト	『知へのステップ』(第4版) 学習技術研究会編著 くろしお出版 2015年 ISBN978-4-87424-650-4		
指定図書参考書等	なし/『子どもにかかわる仕事』 汐見稔幸編 岩波ジュニア新書(岩波書店) 2011年 ISBN:978-4-00-500683-0			その他・特記事項	テキスト及び各回のゼミの進め方については担当教員の指示に従うこと。 合同で実施する時の授業内容は、日程によって前後する場合があります。 「地域社会と子ども」と連動して、授業を行う。		

授業科目名	EK110U 基礎ゼミⅡ		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修	
担当教員名	福江 厚啓・熊田 凡子・高村 真希・姫野 俊幸・谷 昌代（代表教員 福江 厚啓）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
基礎ゼミⅡでは、基礎ゼミⅠで会得した主体的、対話的な学びの姿勢を土台に、より実践的に学習し、考える力やディスカッションの力を高め、プレゼンテーションによる表現能力の向上を図る。 具体的には、各ゼミ内で決めた自分の研究テーマに沿って各自が発表し合い、ディスカッションを行う中で、互いの学びを共有すると共に、より多面的な見方・考え方を身につける。また、自己の研究目的を明確化し、将来設計との関連性を意識しつつ、プロゼミの学びへと繋げていく。			①ゼミ運営に積極的に協力し、話し合いによって深い学びを創り上げていこうとしている。 ②研究のための文献や資料を自分なりに収集することができるようになる。 ③プレゼンテーションによって自分の研究課題と内容、考察結果等を発表できるようにする。 ④大学で学ぶ姿勢を身につける。				
教授方法	演習						
履修条件	「基礎ゼミⅠ」を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	(合同)：成績に関する指導、履修の確認、及び履修カルテの作成などを行う。					全員	
2	レポートテーマの設定と指導(1)〔テキスト第8章〕：課題の立て方について					各担当教員	
3	レポートテーマの設定と指導(2)〔テキスト第8章〕：分析方法について					各担当教員	
4	レポートテーマの設定と指導(3)〔テキスト第8章〕：先行研究などの検討					各担当教員	
5	(合同)：プレゼンテーション方法についての理解〔テキスト第11章〕 本学のクリスマスについて説明を聞く。					全員	
6	各自研究計画の発表・質疑・検討(1)：各ゼミで分担を設定し進める。					各担当教員	
7	各自研究計画の発表・質疑・検討(2)：各ゼミで分担を設定し進める。					各担当教員	
8	各自研究計画の発表・質疑・検討(3)：各ゼミで分担を設定し進める。					各担当教員	
9	(合同)：クリスマスカードについて説明を聞く。ゼミ内で協力して役割を果たす。					全員	
10	ゼミ内におけるプレゼンテーション発表(1)：一人10分の持ち時間で質疑応答を含む。					各担当教員	
11	ゼミ内におけるプレゼンテーション発表(2)：一人10分の持ち時間で質疑応答を含む。					各担当教員	
12	ゼミ内におけるプレゼンテーション発表(3)：一人10分の持ち時間で質疑応答を含む。					各担当教員	
13	(合同)：全体会において、ゼミ代表者のプレゼンテーション発表を行う。(各ゼミ1名)					全員	
14	(合同)：2年次コース履修に関する説明と希望調査を行う。					全員	
15	前半(合同)：2年次の履修登録の説明と確認を行う。 後半：各ゼミで学びの振り返りを行う。					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	50	意欲的に参加・発言 50 点 概ね参加 30 点 無関心・意欲がない 10 点 を目安に、積極的な姿勢を評価する。		プレゼンテーション	30	①内容はオリジナルなものか。 ②参考文献の選定や引用は適切か。 ③時間内に収まる構成だったか。 ④他者に伝わるような話し方、内容だったか。	
最終レポート	20	①発表者の内容を理解し、自分の言葉で要約できているか。 ②ゼミ内での学習をしつかり振り返っているか。 ③今後の学習課題を自分なりに把握できているか。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①各自プレゼンテーションのためのテーマを選定し研究計画を立て準備を進めていくので、授業外において積極的に図書館やインターネットなどを利用して、オリジナルな報告を目指す。そのためには目頃から「子ども」や「教育」への関心を持ってニュースなどに触れること。〔各30分〕 ②プレゼンテーションのためのパワーポイント作成や資料の準備など、発表期日までに余裕をもって取り組む。〔120分〕 ③学内の環境(ILCやLLCなど)を有効に活用し、効果的なプレゼンテーションができるように準備する。〔60分〕				その都度、ゼミ内で研究の進行状況把握し、他者の研究の進め方等も参考に自分の学びを深めていく。			
受講生に望むこと	主体的、対話的で深い学びを実現するために、情報の活用はもちろんのこと、オフィスアワーなどを利用して教員からアドバイスを受けるようにしてほしい。ゼミ中は、メンバーの報告や発言に対して積極的に応答し、議論の活性化に積極的に寄与することを望む。			教科書・テキスト	『知へのステップ』(第4版)学習技術研究会編著 くろしお出版 2015年 ISBN978-4-87424-650-4 (※基礎ゼミⅠから引き続き使用)		
指定図書/参考書等	担当教員の指示に従うこと。/担当教員の指示に従うこと。			その他・特記事項	テキスト及び各回のゼミの進め方については担当教員の指示に従うこと。 合同で実施する回の授業内容は、日程によって前後する場合があります。		

授業科目名	EK120U 地域社会と子ども		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修	
担当教員名	向出 圭吾・伊藤 雄二・幸 聖二郎・高村 真希・村井 万寿夫・谷 昌代 (代表教員 向出 圭吾)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は学科必修科目であり、各免許資格取得に必要な学びを行うための入門科目である。学生は教育者・保育者としての実践力の基礎を身につけるために、地域の子どもとのかかわり(小学校参観、認定こども園を含む幼稚園参観・保育所参観及び希望者のみ中学校参観)を体験する。各体験の前には、子どもの発達とそれにかかわる今日的テーマでの概説を行い、学生は課題意識をもってそれぞれの参観に臨む。参観後は2回のディスカッションを通して新たな気づきや課題を得る。こうした講義と体験・討議を通して、子どもの育ちに関連した地域の課題に触れ、専門科目の学びの方向性をつかむことができる。			①講義と参観事前レポートを通して参観先の概要を把握し、ねらいをもって参観に臨むことができる。 ②参観した内容を客観的に記録し、そこからの見えてくるものを順序立てて記述することができる。 ③参観での子どもの成長や子育て支援の現状等を文章にまとめ、グループで発表することができる。 ④2回のディスカッションやその都度のレポート作成を通して、地域の小学校・幼稚園・保育所(認定こども園を含む)の今日的課題を発見し、対処方法について自分なりに考えることができる。 ⑤グループディスカッションを通してコミュニケーション能力を養い、他者の気づきから自己の学びを深めることができる。 ⑥まとめたレポートを、他者にわかりやすく、自分の言葉で発表することができる。				
教授方法	講義と参観・協議(グループディスカッション)を併用して行う。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、学内外の体験活動時の諸注意、参観マナーを理解する。					向出	
2	各実習制度・ボランティア活動について：各免許資格取得に必要な実習制度について事前事後体験学習、履修条件等を含めて参加心得を理解する。また年間を通したボランティア活動の説明も合わせて行う。					向出	
3	目標：児童期の子どもについて理解する：児童期の発達の特徴、小学校の学習課程を理解し、模擬授業を通して教師と子どものかかわり方を考える。事前レポートを作成する。					幸	
4	学外体験活動① 小学校参観：各自のねらいに沿ってゼミ単位で指定の小学校の参観を行う。事後レポートを作成する。					全員	
5	グループディスカッション：各自作成したレポートをもとに、参観先の小学校の特徴や気づきについて話し合う。事後レポートに新たに学びを追記する。					全員	
6	幼児期の子どもについて理解する：幼稚園や幼稚園教諭の役割、年齢ごとの発達や遊びの特性について理解する。事前レポートを作成する。					谷	
7	学外体験活動② 幼稚園参観(認定こども園を含む)：各自のねらいに沿って、幼稚園での参観、かかわりの活動を行う。事後レポートを作成する。					全員	
8	グループディスカッション：各自作成したレポートをもとに、参観先の幼稚園や幼児期の特徴、気づきについて話し合う。事後レポートに新たに学びを追記する。					全員	
9	乳児期の子どもについて理解する：0歳から小学校入学までの子どもと保育所の果たす役割について理解する。事前レポートを作成する。					高村	
10	学外体験学習③ 保育所参観(認定こども園を含む)：各自のねらいに沿って、保育所での参観、かかわりの活動を行う。事後レポートを作成する。					全員	
11	グループディスカッション：各自作成したレポートをもとに、参観先の保育所や乳幼児期の特徴、気づきについて話し合う。事後レポートに新たに学びを追記する。					全員	
12	(前半合同)中学校の生徒理解と英語教育の現状について理解する。(後半希望者)中学校事前学習：事前レポートを作成する。(後半希望者以外)3回の参観・体験活動からの学びを振り返る。最終レポートを作成する。					伊藤・全員	
13	(希望者)北陸学院中学参観：各自のねらいに添って、英語の時間を参観する。事後レポートを作成する。(希望者以外)夏の体験学習について説明を聞き理解する。					伊藤・全員	
14	(希望者)中学校参観振り返り(希望者以外)ゼミグループ内発表：最終レポートから発表原稿をまとめ、自分の思いや考えを発表という形で他者に伝える。					伊藤・全員	
15	全体レポート発表：各ゼミ代表者によるレポート発表を行い、質疑応答を交えて子どもにかかわる学びを総合的に把握する。発表を聞いて学んだことを最終レポートに追記して提出する。					伊藤・村井	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	50	講義・協議・参観時の態度を重視。 ①事前の協議を踏まえ、ねらいをもって参観している。 ②参観による学びを、協議において自分の言葉で表現している。 ③他者の考えを踏まえ、自分の考えを述べようとしている。		各レポート及び発表	50	レポートの詳細は初回授業で説明する。 ①指定の書式で作成している。 ②自分の気づき、考えを記述している。 ③各参観を通して気づいたこと、考えたことを発表という形で表現できる。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
①各講義終了後、それぞれ指定された期日までに必ず事前レポートを作成する。【60分×3または×4】 ②学外体験活動①～③終了後、それぞれ指定された期日までに必ず事後レポートを作成する。【60分×3または×4】 ③学外体験の前に、教科書『子どもにかかわる仕事』を各自読み進め、専門職に対するイメージをつかんでおく。【30分×3または×4】			①事前レポートをもとに、ねらいをもって参観やかかわりの活動を行う。 ②参観後の事後レポートをもとに、ゼミ内でのディスカッションにおいて得られた気づきを追記する。 ③ゼミ内でのディスカッション後に追記した事後レポートをもとに、グループディスカッションにおいて得られた気づきを追記する。 ④さらにその理解度を自分自身が確かめるために、グループ内発表を通して、他者からの思いを聞き、自分の学びを深める。				
受講生に望むこと	①傍観的な態度ではなく、参観施設ごとのねらいを明確をもって学外体験活動に参加すること。 ②表面的な観察や記録ではなく、その根拠となる自分の思いを常に考える姿勢をもつこと。		教科書・テキスト	『子どもにかかわる仕事』汐見稔幸編 岩波ジュニア新書(岩波書店)2011年 ISBN:978-4-00-500683-0			
指定図書参考書等	なし 『小学校学習指導要領(平成29年告示)』文部科学省 東洋館出版社 2018年 ISBN978-4491034607 『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814475 『幼稚園類型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814499 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814482		その他・特記事項	①ゼミ単位で学外体験活動を行う。 ②受け入れ側の事情で、参観の日程を変更する場合がある。 ③体験活動は、通常の時間割に加えて2コマ連続して行うので注意すること。 ④学外活動は、教育・保育活動の妨げにならないよう配慮し、マナーを守り服装にも十分注意すること。			

授業科目名	EK130U 教育学概論		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	村井 万寿夫					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、教育の理念、歴史、思想がテーマとなる。そのため、教育の理念にはどのようなものがあるか、教育の歴史や思想において教育の理念がどのように現れてきたか、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ変遷してきたかなどについて順次、講義を進めていく。そして、それらの理解ののちに、現代の教育学の課題の1つとしての「チームワーク能力」を扱い、校長のリーダーシップの下、どのように「チームとしての学校」を運営していくかについて考える。</p>			<p>①教育学の諸概念並びに教育の本質及び教育の目標を理解するとともに、教育を成り立たせている要素（子供・教員・家庭・学校など）とそれらの相互関係を理解している。 ②学校の登場以前から家族と社会によって子供の教育が行われてきた歴史と近代教育制度の成立と学校教育の展開を理解するとともに現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。 ③家庭や子供に関わる教育の思想、学校や学習に関わる教育の思想、代表的な教育家の思想を理解している。</p>			
教授方法	講義					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	教育学の諸概念：「教育」の概念と子供観（教育の意味や歴史を概観するとともに子供観の類型を知る。）					
2	教育の本質と教育の目標：人間と教育（人間の本質と教育、人間の本能と教育について理解する。）					
3	教育を成り立たせる要素①：発達と教育（ピアジェの認知発達段階論と脳の発達理論から考察する。）					
4	教育を成り立たせる要素②：社会と人間（教育の場）（子供の発達に伴う教育の場としての家庭（学校（地域とそれらの関係について理解する。）					
5	教育を成り立たせる要素③：社会と人間に関する思想・理論（教育と社会の関係についてルソーの考え方をはじめとした諸理論について知る。）					
6	教育の歴史①：西洋における教育学の歴史（時代区分ごとに西洋における教育史を概観して基礎的な知識を身に付ける。）					
7	教育の歴史②：中国における教育学の歴史（古代文明の発祥地としての中国の教育史を概観し、日本に与えた影響について考える。）					
8	教育の歴史③：日本における教育学の歴史（時代区分ごとに日本における教育史を概観して基礎的な知識を身に付ける。）					
9	教育の歴史④：教育を受ける権利の思想（西洋と日本の近代における教育を受ける権利の思想及び現代の日本の教育の権利について理解する。）					
10	近代教育制度の成立と展開：教育の平等と無償性（西洋と日本における教育の平等と無償性について考える。）					
11	現代社会における教育の課題：教育条件の整備（教育条件の整備に関し戦後の教育改革及び教員の地位について理解する。）					
12	教育の理念：人間（個人）の尊厳（日本国憲法や教育基本法をもとに家庭や学校における子供の成長と教育について考える。）					
13	教育の思想①：市民の育成と平和の創造（世界と日本の平和教育思想を概観するとともに、学校における平和教育の実践を知る。）					
14	教育の思想②：代表的な教育家の思想（デューイ、ペスタロッチ、フレーベル、モンテッソーリなどの思想を知る。）					
15	教育学の課題：チームワーク能力（校長のリーダーシップの下、どのように「チームとしての学校」を運営していくか考える。）					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験	70	・講義内容を正しく理解している。 ・教育学について自分の考え方を持っている。		中間レポート	10	教育学の歴史について「西洋」「中国」「日本」から選択し、自分の考えを交えて書いている。
小テスト	20	・新たな基本的知識を記憶している。 ・教育の理念や歴史などを理解している。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>①各回の授業は章・節ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。[30分] ②各回の授業ではワークシートを配付するので、授業後、ワークシート内の“ミニッツコメント”にコメントする。[30分] ③教育の理念、歴史、思想など、教育学に関し、週に一度パソコン室のパソコン、または自己のスマホでネット検索して調べる。[30分以上]</p>				<p>①小テストを採点して返却する。 ②中間レポートの評価コメントを返す。 ③定期試験実施直後に「模範解答」を示すので自己採点する。</p>		
受講生に望むこと	<p>・どんな観点でもよいので、教育または教育学に興味・関心をもって授業に臨んでください。 ・教員への質問・意見は各回の授業後に直接お願いします。</p>			教科書・テキスト	『教育学概論（教師教育テキストシリーズ）』、三輪定宣著、学文社、2012年出版、ISBN978-4-7620-1651-6	
指定図書参考書等	『保育所保育指針』、厚生労働省、2008告示、『幼稚園教育要領』、文部科学省、2008年告示、『小学校学習指導要領』、文部科学省、2017年告示、『中学校学習指導要領』、文部科学省、2017年告示／なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	EK140U 教職論		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修	
担当教員名	大井 佳子・幸 聖二郎 (代表教員 大井 佳子)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)				
授業の概要			授業の到達目標				
幼稚園教諭、小学校教諭及び中学校教諭免許取得に関わる教職に関する科目で、教師という仕事の概観をつかみ、自らの適性を問う。教職の意義及び教員の今日的役割、それを果たすための職務内容の実際を知り、教職に対する適性について考え、教師としての意識と自覚を形成する。子どもとしての体験から形成されている教職観、あるいはメディアを通じて形成されている一般的教職観がそれぞれの内にあるだろう。本授業では、それぞれのもつ教職観を、社会が求める今日的教職観へと変容させることが目指される。幼・小・中の各学校現場における保育者・教師の仕事の実際を教員(教職体験者を含む)との協議を含めて知り、大学における授業・保育参観(他科目でのものや実習につながる現場体験)と重ね合わせ、教師に求められる資質能力、社会性・人間性、指導力、職務内容、家庭や地域との連携の在り方、学校間連携によって一人一人の学びと育ちをつなぐこと等について学ぶ。			①幼・小・中の校種を超えて教職の意義と専門性について理解する。 ②教員の職務と服務について理解する。 ③教師をめぐる現状と課題について知る。 ④教師に求められる資質能力について理解し、自らの進路として教職を選択することの可否を考える。				
教授方法	講義 グループ討議 ワーク						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	教職とは何か：グループワークによる学生自らの幼・小・中の各学校体験からの考察・講義「教職と保育職の歴史の変遷」から教職・保育職が専門職である意味を理解する。					大井・幸	
2	幼児期の学びの特性と保育者の役割：園児と関わる基本姿勢と照らし合わせて保育における保育者の姿を見なおしてみよう。「見守る」「応答する」「共に考える」保育者の姿が「対話的な学び」の土台となる。					大井	
3	計画的であることの意味：保育には幼児理解をふまえた保育者の意図・ねらいがある「保育者の役割」。「遊びが生まれる環境をつくる」≠遊んであげる 「モデル」≠見本・手本 今日的課題として求められている「遊びに向かう」姿のモデル					大井	
4	保護者との連携：子育てを支援するという保育者・教師の役割。子育てを支援することがなぜ保育者の役割なのか？保育者は、なぜ子育てを支援できると考えられるのか？					大井	
5	学びと育ちの接続を支える：幼稚園教育要領と小学校学習指導要領の前文の比較から見えること 教科内容で考える遊びと学び					大井	
6	現場教師から聞く校務の実際：校務分掌から知る幼稚園・小学校・中学校の先生の見えにくい仕事					幸	
7	教員の職務・任用と服務・身分保障					幸	
8	倫理綱領と使命感					幸	
9	公務員としての教師：一般公務員との共通性と教育職としての独自性 私立学校の意義					幸	
10	教育実践を通して自らの資質を向上させる：自己評価・研修と研究・協働					幸	
11	事例から考える：教員に求められる資質能力					幸	
12	事例から考える：教職に対する情熱・子ども(園児・児童・生徒)に対する責任感					幸	
13	専門職としての教師について：幼・小・中各校種間の共通性と独自性					幸	
14	学校教育現場の今日的課題と教師の役割					幸	
15	教育職の魅力：現場教師から					大井・幸	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
ミニレポート	40	法令等教職にかかわる事項についての事前調べ・授業における討議のまとめと考察(授業内ワークを含む。自分に対する省察を含む)		定期試験	60	教職について理解するための基本的概念の理解・今日的テーマについての概要理解と考察	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
①各授業回での理解に必要な用語・法令等についての事前調べや事後確認をミニレポートにまとめる。【30分～1時間程度】 ②園行事や学校公開週間など、保育者・教師の姿を見ることのできる機会を逃さない。【適宜】			当日提出、あるいは授業外課題としてのミニレポートに記される履修者の興味・関心・疑問を次回の授業に反映させる。				
受講生に望むこと	*自身が取得を希望する資格・免許に対応する年齢の子どもだけでなく、乳児から青年までの幅広い年齢層の生活と環境について興味をもつこと。 *夏休みの現場体験(幼稚園・放課後等児童クラブ 他)を経験していることが望ましい。			教科書・テキスト	適宜 資料配布		
指定図書参考書等	なし/『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814475 『小学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省 東洋館出版社 2008年 ISBN: 978-4-491-03189-7 『中学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省 ぎょうせい 2008年 ISBN: 978-4-324-90002-4 『教職の意義と職務』森 秀夫著 学芸図書株式会社 2012年 ISBN: 978-4-761-60339-7 『教師になるということ』池田 修著 学陽書房 2013年 ISBN: 978-4-313-65236-1			その他・特記事項	各回の授業回を幼児期(幼稚園教諭・保育士・保育教諭)を中心に大井、義務教育期を中心に幸が担当して講義し、適宜グループ討議する。大井・幸がリレー講義や討議する、あるいは現場の教師を交えての討議を行う授業回がある。授業外課題として現場訪問や子どもとのかわりが課せられることがある。		

授業科目名	EK150U 発達支援論		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修	
担当教員名	大井 佳子・田中 早苗 (代表教員 大井 佳子)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	准学校心理士・保育士・中学校教諭一種免許状(英語)				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本学科では大学生活を通じて保育・教育の現場で多様な子どもたちと実践的にかかわる。本科目では、自身の育ちの過程での体験、ボランティア等で体験したエピソード、ビデオ映像を含む事例に対して「なぜ？」と考えることを積み重ね、「見えにくい障害」や「障害ではない特別の支援のニーズ」について知って「異なる者」を受け入れる寛容性を育みつつ、個々の支援の方法を見出すのは、子どもの姿から学ぼうとする大人の志向性であることを知る。実際には、保育者・教師が陥りがちな障害に対する誤解、不適切な関わりは多くあり、特に、マニュアル的な対応の危険性について知る必要がある。個々の場面での対応は深い「その人理解」によって導かれるものであり、「その人理解」には乳幼児期から成人までの長いスパンで俯瞰的に見る視座と、園・学校といった集団生活の場だけでなく家庭等での姿までを見る総合的視座が必要であることを理解する。</p>			<p>①通常の学級にも在籍している特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒について知る。 ②発達障害者支援法によって支援の対象となった発達障害をめぐるとの今日的状況を知り、社会の全ての人が支援の担い手であることを理解している。 ③発達障害児・者が乳幼児期から成人までの成長の過程で体験する困難、生き辛さを知る。 ④合理的配慮の概念について理解し、自閉性スペクトラム障害・注意欠陥多動性障害・学習障害を中心に学校における具体的な配慮と支援について個別支援計画をイメージできる。 ⑤特別の支援を必要とする児・者と共に生活する親や家族、さらに保育者・教師が陥りやすい心情や状況について知り、家族支援やピアサポートについて理解している。 ⑥特別支援教育の制度の実際を知り、学校・家庭・地域の空間的な広がりの中で、幼小・小中・中高の接続によって時間を越えて理解をつなげ、自立に向けて育ちをつなぐことの重要性を理解している。 ⑦障害だけでなく、母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童、生徒がいることを理解し、育ちと学びにおける困難や必要な支援について理解している。</p>				
教授方法	講義・個人ワーク・グループワーク						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	発達障害という見えにくい障害に起因する生き辛さについて感覚過敏の事例から考える。					大井佳子	
2	自閉性スペクトラム障害①：コミュニケーションの障害とは何か？語用論について理解する。					大井佳子	
3	自閉性スペクトラム障害②：興味の偏りと発達凸凹がもたらす困難について考える。					大井佳子	
4	自閉性スペクトラム障害を中心に発達障害をもつ子どもの集団生活について家庭生活との違いから考え、園・学校と家庭との連携の意味を理解する。					大井佳子	
5	発達障害をもつ子どもと教師のコミュニケーション事例の分析から個別支援計画について考える。					大井佳子	
6	学校における合理的配慮と支援の方法：就学時の引継ぎの事例から、支援における学校間接続について考える。					大井佳子	
7	支援とは「支援しているつもり」のことは当事者の学びを育む支援となっているだろうか？大人にとって「都合がいい」ことを目標にしていまいだろうか？					大井佳子	
8	自閉性スペクトラム障害を中心に発達障害をもつ子どもの親や家族が陥りやすい心情・状況を理解し、家族支援とピアサポートについて考える。					大井佳子	
9	障害に対する気づきと受容：発達障害者支援法誕生までの経緯や診断をめぐる現状から、保育・教育現場における家族と当事者の障害受容の支援について考える。					大井佳子	
10	注意欠陥多動性障害：その生活と学習における困難を知り、クラスに及ぼす影響とその結果として当事者にもたらされる自己イメージの問題について考える。					田中早苗	
11	学習障害：その生活と学習における困難を知り、クラスに及ぼす影響とその結果として当事者にもたらされる自己イメージの問題について考える。					田中早苗	
12	二次障害：過剰適応からのウツと不登校問題を中心に考える。					田中早苗	
13	母国語や貧困の問題等が育ちと学びにもたらす困難と二次障害について知り、特別の教育的ニーズに対する保育者・教師による支援について考える。					田中早苗	
14	特別支援教育の歴史と現行の支援制度への展開から、学習指導要領がとらえる障害に対する今日的な見方を理解する。					田中早苗	
15	インクルーシブ教育は、障害をもつ子どもたちのための教育理念ではない。多様性が受け入れられ異なるものが共にあることで生み出される豊かさを全ての子どもたちとその周りの人たちが享受する教育理念であることを理解する。					大井佳子	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	①用語・基本的概念の理解 ②事例・エピソードからの読み取り ③配慮・支援についての理解		ミニレポート	30	適切な資料によって調べていること。背景や理由を考え、自分なりの理解につなげていること。	
授業内ワーク	10	自分なりの考えを記していること。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>毎回、授業外学習の課題が提示され、ミニレポートとして提出する。内容は①障害、発達、言葉とコミュニケーションに関する用語、基本的概念について調べる。 ②支援に関わる法律や制度について調べる。 ③配布資料から障害をめぐるとの諸問題について読み取り、自分なりの考えをまとめる。 【30分～60分程度】</p>				ミニレポートと授業内ワークに記された関心・質問に次回以降の授業内容で対応する。			
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・障害をもつ子どもやその家族の個人情報を扱う授業となるので、授業で得た情報の取り扱いには十分に注意してください。 ・返却されたミニレポートは授業で得る理解を受けて適宜補充し、自身の理解の深まりを反映させてください。 			教科書・テキスト	適宜 資料配布		
指定図書／参考書等	なし/ 参考図書は授業内で適宜紹介。			その他・特記事項	授業外課題であるミニレポートは定期試験の持ち込み資料となるため、欠席時であっても授業外課題には取組み提出することを勧める。返却後には内容の訂正、補完を行い、管理すること。定期試験後に再提出を求め、最終評価の対象となる。		

授業科目名	ES200U 英語学概論 I		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
この講義は中学校教諭一種免許状(英語)の「教科に関する科目」の内、「英語学」の必修科目である。言語を学ぶとはどういうことか、英語ということばの輪郭と背景を身近なところから考え、ことばのもつさまざまな側面のうち、ことばの変化、音、語彙についての基礎を学ぶ。			英語コミュニケーション能力を育成する英語教員に必要な英語学についての基本的知識を身につける。			
教授方法	講義					
履修条件	①中学校教諭一種免許状(英語)取得希望者、②小学校教諭一種免許状取得希望者、③高校英語までの基本的理解ができていること(英検準2級相当以上)が望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	イントロダクション:「英語学」を学ぶとはどういうことかを知る					
2	ことばの起源と語族について概観し、言語研究の流れを概観する					
3	人間のことばの特質を学ぶ					
4	認知言語学的アプローチ1:基本概念					
5	英語の歴史(1):英語の歴史的变化を概観する					
6	英語の歴史(2):古英語、中英語、近代英語の語彙・音声・統語の特徴を概観する					
7	英語の歴史(3):現代英語の特徴と標準英語の成立及び英語のバリエーションについて知る					
8	認知言語学的アプローチ2:プロトタイプ					
9	音声学と音韻論(1) 英語の音声的特質を学ぶ					
10	音声学と音韻論(2) 英語の音節構造、アクセント付与など英語の音体系を学ぶ					
11	形態論(1) 英語の単語ができるしくみを理解する					
12	形態論(2) 形態論と形態素、語形成の概念を知り、理解を深める					
13	統語論(1) 英語の文の仕組みについて学ぶ					
14	統語論(2) 文法体系についてより深く学ぶ					
15	認知言語学的アプローチ3:認知文法の基礎を学び、「文法」について考える・前期の学習のまとめ。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加度・理解度	30	質問をする、言語資料を示す等、講義内容に対して積極的に取り組んでいるか。開会、講義終了時に書いて提出するリフレクションの内容。		定期試験	70	講義内容の理解度
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
・日常的に英語学習を行い、さまざまな英語の実例に触れておくこと。 ・テキストの該当部分を予習する。同様の実例を収集しておく(50分)。 ・講義内容に照らし、日本語と対照してみる。また関連する英語学関係の書籍を読む(40分)。			返却時に行う			
受講生に望むこと	・日常的に英語に触れ(聞く・話す・読む・書く)、英語に親しむ。 ・日頃から英語・日本語を問わず「ことば」に関心を持つと良い。		教科書・テキスト	『はじめての英語学<改訂版>』 長谷川瑞穂編著 大井京子他著 2014年 研究社 ISBN: 978-4327401658 ・他に必要な教材は適宜配布する		
指定図書参考書等	開講時に指示する		その他・特記事項	なし		

授業科目名	ES300U 英語学概論Ⅱ		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	宮浦 国江						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	中学校教諭一種免許状(英語)				
授業の概要			授業の到達目標				
この講義は中学校教諭一種免許状(英語)の「教科に関する科目」の内、「英語学」の必修科目である。 英語学概論Ⅰをふまえて、英語ということばの文、意味、まとめり、言語使用、社会との関係について学ぶ。			英語学概論Ⅰに引き続き、英語コミュニケーション能力を育成する英語教員に必要な英語学についての基本的知識を身につける。				
教授方法	講義						
履修条件	①中学校教諭一種免許状(英語)取得希望者、②小学校教諭一種免許状取得希望者、③高校英語までの基本的理解ができていること(英検準2級相当以上)が望ましい、④「英語学概論Ⅰ」を履修していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ことばの意味とはどういうことかを理解する						
2	意味拡張とはどのようなことかを理解する。認知言語学的アプローチ1: メタファ						
3	認知言語学的アプローチ2: フレーム意味論、ブレンディング理論・新たな意味がどのように生まれるかを知る						
4	ことばの意味に見られる主観性について、理解する						
5	認知言語学的アプローチ3: ことばの単位(コンストラクション)について学ぶ						
6	ことばの意味とコンテキストについて考える						
7	まとまりのある文章とはどのようなものか、文章中の情報構造がどのようにになっているかを理解する						
8	ことばのやりとりにおけるルールがあることを理解する						
9	ことばのやりとりにおけるルールがあることを理解し、使ってみる						
10	協調の原理と関連性理論から、ことばによるコミュニケーションについて理解する						
11	コミュニケーションにおけるポライトネスの表し方を理解する						
12	英語と文化の関係について考える						
13	会話や文章など言語使用場面でのことばのまとまりについて学ぶ						
14	ことばと国家の関係について、具体例を挙げながら考える						
15	日本の英語教育と今日の英語について理解し、課題意識を持つ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
授業参加度・理解度	30	質問をする、言語資料を示す等、講義内容に対して積極的に取り組んでいるか。開会、講義終了時に書いて提出するリフレクションの内容。	定期試験	70	講義内容の理解度		
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
<ul style="list-style-type: none"> 日常的に英語学習を行い、さまざまな英語の実例に触れておくこと。 テキストの該当部分を予習する。同様の実例を収集しておく[50分]。 講義内容に照らし、日本語と対照してみる。また関連する英語学関係の書籍を読む[40分]。 			返却時に行う				
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に英語に触れ(聞く・話す・読む・書く)、英語に親しむ。 日頃から英語・日本語を問わず「ことば」に関心を持つと良い。 		教科書・テキスト	『はじめての英語学<改訂版>』 長谷川瑞穂編著 大井京子他著 2014年 研究社 ISBN: 978-4327401658 ・他に必要な教材は適宜配布する			
指定図書参考書等	開講時に指示する		その他・特記事項	なし			

授業科目名	ES210U 英語音声学 I		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	宮浦 国江						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	中学校教諭一種免許状(英語)				
授業の概要			授業の到達目標				
この講義は中学校教諭一種免許状(英語)の「教科に関する科目」の内、「英語学」の必修科目である。 音声言語としての英語の特徴を理解し、コミュニケーションに必要な英語音声の基礎を理論と実践で学ぶ。			英語コミュニケーション能力を育成する英語教員に必要な英語音声学についての基本的知識を身につける。				
教授方法	講義と演習						
履修条件	①中学校教諭一種免許状(英語)取得希望者、②小学校教諭一種免許状取得希望者、③高校英語までの基本的理解ができていること(英検準2級相当以上)が望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション: 「音声学」とは何かを概観する						
2	英語のリズムと日本語のリズムを比較しながら理解する						
3	調音器官とは何かを知り、体験的に理解する						
4	調音点とは何かを知り、体験的に理解する						
5	調音法とは何かを知り、体験的に理解する						
6	破裂音(1) /p/ /b/ とは何かを知り、単独で、及びコンテキストの中で発音する						
7	破裂音(2) /t/ /d/ /k/ /g/ とは何かを知り、単独で、及びコンテキストの中で発音する						
8	摩擦音(1) /f/ /v/ /θ/ /ð/ とは何かを知り、単独で、及びコンテキストの中で発音する						
9	摩擦音(2) /s/ /z/ /ʃ/ /ʒ/ /h/ とは何かを知り、単独で、及びコンテキストの中で発音する						
10	破裂音とは何かを知り、単独で、及びコンテキストの中で発音する						
11	鼻音とは何かを知り、単独で、及びコンテキストの中で発音する						
12	側音とは何かを知り、単独で、及びコンテキストの中で発音する						
13	接近音(1) /r/ とは何かを知り、単独で、及びコンテキストの中で発音する						
14	接近音(2) /j/ /w/ とは何かを知り、単独で、及びコンテキストの中で発音する						
15	まとめ これまで学んだことを振り返り、コンテキストの中で英語らしい発音ができるようにまとまった英文を読む						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小テスト	20	単元の理解度		録音音声実技	20	講義で学んだことが実際の英語発音として実現できているか	
定期試験	60	講義内容の理解度					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
・テキスト該当箇所を予習してくる。その課に出てくる語句で未知語があれば、辞書で調べ、意味を理解しておく(40分)。 ・付属CDで何度も練習し、モデル音声に近づける努力をする。その際、最後にはテキストを見ないで、聞いた音声をシャドウイングできるようにする(50分)。				返却時に行う			
受講生に望むこと	・平日頃から英語に接し(聞く・話す・読む・書く)、英語力の維持・向上に努める。			教科書・テキスト	①『アメリカ英語の発音教本三訂版』 津田塾大学英文学科編 2012年 研究社 ISBN: 978-4-327-40161-0 ②他に必要な教材は適宜配布する		
指定図書参考書等	なし/『A Course in Phonetics 6版』 Peter Ladefoged, Keith Johnson著. 2010年. センゲージ ISBN: 978-1428231276			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ES310U 英語音声学Ⅱ		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
この講義は中学校教諭一種免許状(英語)の「教科に関する科目」の内、「英語学」の必修科目である。英語音声学Iに引き続き、コミュニケーションに必要な英語音声の基礎を理論と実践で学ぶ。			英語音声学Iに引き続き、英語コミュニケーション能力を育成する英語教員に必要な英語音声学についての基本的知識を身につける。			
教授方法	講義と演習					
履修条件	①中学校教諭一種免許状(英語)取得希望者、②小学校教諭一種免許状取得希望者、③高校英語までの基本的理解ができていること(英検準2級相当以上)が望ましい、④「英語音声学」を履修していること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	「英語音声学I」で学んだ子音、接近音の復習					
2	母音体系について学ぶ					
3	前母音とは何かを知り、単独で、及びコンテキストの中で発音する					
4	後母音とは何かを知り、単独で、及びコンテキストの中で発音する					
5	中母音とは何かを知り、単独で、及びコンテキストの中で発音する					
6	二重母音とは何かを知り、単独で、及びコンテキストの中で発音する					
7	語強勢と句強勢とは何かを知り、コンテキストの中で発音する					
8	シラブルとは何かを知り、単独で、及びコンテキストの中で発音する					
9	機能語と内容語とは何かを知り、コンテキストの中で発音する					
10	強形と弱形とは何かを知り、コンテキストの中で発音する					
11	連結とは何かを知り、コンテキストの中で発音する					
12	脱落とは何かを知り、コンテキストの中で発音する					
13	同化とは何かを知り、コンテキストの中で発音する					
14	イントネーションとは何かを知り、コンテキストの中で発音する					
15	まとめ これまで学んだことを振り返り、コンテキストの中で英語らしい発音ができるようにまとめた英文を読む					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小テスト	20	単元の理解度		録音音声実技	20	講義で学んだことが実際の英語発音として実現できているか
定期試験	60	講義内容の理解度				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
・テキスト該当箇所を予習してくる。その課に出てくる語句で未知語があれば、辞書で調べ、意味を理解しておく [40分]。 ・付属CDで何度も練習し、モデル音声に近づける努力をする。その際、最後にはテキストを見ないで、聞いた音声をシャドウイングできるようにする [50分]。				返却時に行う		
受講生に望むこと	・平日頃から英語に接し(聞く・話す・読む・書く)、英語力の維持・向上に努める。			教科書・テキスト	①『アメリカ英語の発音教本三訂版』 津田塾大学英文学科編 2012年 研究社 ISBN: 978-4-327-40161-0 ②他に必要な教材は適宜配布する	
指定図書参考書等	なし/『A Course in Phonetics 6版』 Peter Ladefoged, Keith Johnson著. 2010年. センゲージ ISBN: 978-1428231276			その他・特記事項	なし	

授業科目名	ES220U 言語教育のための英文法 I		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	伊藤 雄二						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	中学校教諭一種免許状(英語)				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>文法とはコミュニケーションを取るために、当該言語使用者間で共有されている言語の規則である。授業では、ねらいとする文法項目を特定の場面で情報を正しく理解・発信するためにどのように用いるべきか学ぶ。</p>			<p>英語科教員が英語指導で必要とされる文法事項を単なる知識ではなく自然な文脈の中で使用できることを目指す。(具体的にはCEFR B1～B2(実用英語技能検定2級～1級)程度の力をつけることを目標とする。)</p>				
教授方法	受講者の中学・高校での学習歴を確認しながら未習得な項目に焦点を当て、口頭作業を取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	現在形と単純現在形の文型と用いる場面・機能について学ぶ						
2	単純過去形、過去進行形、現在完了形の文型と用いる場面・機能について学ぶ						
3	現在完了形と過去形の文型と用いる場面・機能について学ぶ						
4	過去完了進行形、未来を表す現在時制について、文型と用いる場面・機能について学ぶ						
5	willとbe going toの相違点と共通点について学ぶ						
6	法助動詞とは何か can, could, be able to等、形式と機能・使用場面を学ぶ						
7	法助動詞 should; I suggest you do; would等が持つ機能(依頼・要求・許可等)を学ぶ						
8	理解確認・質疑応答後、理解度確認テスト						
9	ifとwish; 受動態の作り方と使い方を学ぶ						
10	間接話法、疑問文と繰り返しを避ける助動詞の使い方を学ぶ						
11	動名詞と不定詞の使い方を学ぶ						
12	動名詞(like/would likeなど)+ing と 動詞+to不定詞などを理解する						
13	動名詞(後ろにingを伴う様々な表現)などを理解する						
14	冠詞と名詞(可算名詞と不可算名詞)について学ぶ						
15	a, an, theの用法を学ぶ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
毎回の小テスト	30	毎回の授業内容を理解できているか。		試験	50	基本的な英文法の知識を習得しているか。	
授業参加状況	20	受講態度					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>①毎回の授業内容に該当する、教科書の関連ページに目を通してから授業に臨んで下さい。[30分] ②授業後に練習問題を指定し宿題とし、その中から次回の小テスト・中テストを出題しますので必ず準備すること。[50分]</p>				<p>小テストや試験の結果については、問題ごとにその出題の意図や定着度について授業中にコメントする。</p>			
受講生に望むこと	教科書の例文や、授業中に提示した例文は少なくとも5回は声に出して繰り返しましょう。最後は、英文を見ないでボソボソとでもよいので言ってみましょう。			教科書・テキスト	『マーフィのケンブリッジ英文法(中級編)』 Raymond Murphy著 ケンブリッジ大学出版 2010 ISBN-13: 978-4902290233		
指定図書参考書等	『中学校学習指導要領解説 外国語編』『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』文部科学省 東洋館出版社 2008 ISBN-13: 978-4491023779			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ES320U 言語教育のための英文法Ⅱ		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	伊藤 雄二					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
前期に引き続き、文法とはコミュニケーションを取るために、当該言語使用者間で共有されている言語の規則である。授業では、ねらいとする文法項目を特定の場面で情報を正しく理解・発信するためにどのように用いるべきか学ぶ。			前期に引き続き、英語科教員が英語指導が必要とされる文法事項を単なる知識ではなく自然な文脈の中で使用できることを目指す。(具体的にはCEFR B1～B2(実用英語技能検定2級～1級)程度の力をつけることを目標とする。			
教授方法	受講者の中学・高校での学習歴を確認しながら未習得な項目に焦点を当て、口頭作業を取り入れながら進める。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	冠詞と名詞 the のつく固有名詞、つかない固有名詞について学ぶ					
2	代名詞と限定詞(1) 再帰代名詞、a friend of mineなどについて学ぶ					
3	代名詞と限定詞(2) much, many, little, few, a lot, plentyなどについて学ぶ					
4	関係詞節 主格、目的格、所有格とは何か、どのように用いるか学ぶ					
5	形容詞と副詞(1) -ingや-edの語尾を持つ形容詞、形容詞と副詞(quick/quicklyなど)について学ぶ					
6	形容詞と副詞(2) enough, tooや 比較の文型・用い方について学ぶ					
7	形容詞と副詞(3) 最上級や副詞を用いた文型・用い方について学ぶ					
8	理解確認と理解確認テスト					
9	接続詞と前置詞(1) although, though, even though, inspite of などについて学ぶ					
10	接続詞と前置詞(2) like, as if, as though, for, during, whileなどについて学ぶ					
11	前置詞(1) at, on, in (時、場所を表す前置詞)について学ぶ					
12	前置詞(2) その他の用法、reason forなど前置詞とよく結びつく名詞について学ぶ					
13	前置詞(3) 動詞+toとat、動詞+about/for/of/afterについて学ぶ					
14	句動詞(1) 句動詞とは何か、どのような意味を持つか学ぶ					
15	句動詞(2) in, out, on, off, up, down, away, back等を用いた句動詞について学ぶ					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
毎回の小テスト	30	毎回の授業内容を理解できているか。		試験	50	基本的な英文法の知識を習得しているか。
授業参加状況	20	出席状況・受講態度				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
①毎回の授業内容に該当する、教科書の関連ページに目を通してから授業に臨んで下さい。[30分] ②授業後に練習問題を指定し、次回的小テスト・中テストの葉にとするので、必ず準備すること。[50分]				小テストや試験の結果については、問題ごとにその出題の意図や定着度について授業中にコメントする。		
受講生に望むこと	教科書の例文や、授業中に提示した例文は少なくとも5回は声に出して繰り返しましょう。最後は、英文を見ないでボソボソとでもよいので言ってみましょう。			教科書・テキスト	『マーフィのケンブリッジ英文法(中級編)』 Raymond Murphy著 ケンブリッジ大学出版 2010 ISBN-13: 978-4902290233	
指定図書参考書等	『中学校学習指導要領解説 外国語編』『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』文部科学省 東洋館出版社 2008 ISBN-13: 978-4491023779			その他・特記事項	なし	

授業科目名	EL100U コミュニケーション・イングリッシュ		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	マシユー ボッシュ					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
In this class we will learn English through communication about a variety of topics.			1. Improve listening and reading through meaning-focused input 2. Improve speaking and writing through meaning-focused output 3. Develop English skills through language-focused learning 4. Fluency development 5. Presentation skills			
教授方法	Individual assignments, pair work, group work, presentations					
履修条件	A desire to communicate in English about a variety of topics					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	Introduction to Class. The Place I Live part 1					
2	The Place I Live part 2					
3	People Around Me					
4	Food part 1					
5	Food part 2					
6	Sports					
7	Music					
8	Review of previous topics					
9	Books and Movies part 1					
10	Books and Movies part 2					
11	Traveling part 1					
12	Traveling part 2					
13	Jobs part 1					
14	Jobs part 2					
15	Review of previous topics					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
Reports	50	Creating written reports		Presentations	50	Preparing and giving speech presentations
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
Reports and preparation for presentations				Evaluations of reports and presentations		
受講生に望むこと	Eager to learn English			教科書・テキスト	Speech Navigator 2 mpi ISBN: 978-4896433210	
指定図書参考書等	Nothing			その他・特記事項	Nothing	

授業科目名	EL110U プラクティカル・イングリッシュ		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	マシユー ボツシュ					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
In this class we will practice using English as we learn about different places around the world.			1. Understand content about the countries 2. Interact about the topics in English and present information 3. Research and learn about different countries			
教授方法	Individual assignments, pair work, group work, presentations					
履修条件	A desire to communicate in English and learn about places around the world					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	Introduction to Class and Overview of World Map					
2	Europe					
3	Africa					
4	The Middle East					
5	South Asia					
6	Russia and Its Neighboring Countries					
7	East Asia					
8	Review of Areas					
9	Southeast Asia					
10	North America					
11	Central America and the Caribbean					
12	South America					
13	The South Pacific and the Antarctic					
14	Australia and New Zealand					
15	Review of Areas					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
Reports	50	Creating written reports		Presentations	50	Preparing and giving speech presentations
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
Reports and preparation for presentations				Evaluations of reports and presentations		
受講生に望むこと	Eager to learn English			教科書・テキスト	CLIL Seeing the World through Maps 三修社 ISBN: 978-4-384-33447-0	
指定図書参考書等	Nothing			その他・特記事項	Hopefully students will have already completed コミュニケーション・イングリッシュ (EL100U).	

授業科目名	EE200U 社会		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	福江 厚啓					
標準履修年次	1・2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>自分が学習者として受けてきた社会科の授業を振り返ることに始まり、小学校社会科についての基礎的な知識と認識を身につける。 「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」を育成するとは、具体的にどのようなことかについて、知識と理解を深める。</p>			<p>①小学校における社会科教育の目標と内容を理解している。 ②子どもたちが教科内容を理解、習得する授業のあり方を自ら授業づくりやグループ協議に参加することを通して、理解している。 ③社会科授業をつくっていく上で必要な事柄を自分の言葉でまとめることができる。</p>			
教授方法	講義・演習、グループ協議					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。					
2	社会科って何だろう？：「学びの履歴」の振り返りから、小学校社会科の内容と課題について理解する。					
3	社会系教科の成立と歴史の変遷について理解する。					
4	社会科と生活科・総合的な学習等との関連について理解する。					
5	社会科を取り巻く現代の諸課題について理解する。					
6	小学校社会科の授業構成と展開例 3学年①「地域の生産や販売に携わっている人々」から					
7	小学校社会科の授業構成と展開例 3学年②「古くから続く暮らし（道具・年中行事・先人）」から					
8	小学校社会科の授業構成と展開例 4学年①「地域の人々の健康な生活や良好な生活環境を守るための諸活動」から					
9	小学校社会科の授業構成と展開例 4学年②「地域の人々の安全を守るための諸活動」から					
10	小学校社会科の授業構成と展開例 5学年①「我が国の国土の様子と国民生活」から					
11	小学校社会科の授業構成と展開例 5学年②「我が国の食料生産・工業・情報産業などの様子と国民生活」から					
12	小学校社会科の授業構成と展開例 6学年①「我が国の歴史上の主な事象」から					
13	小学校社会科の授業構成と展開例 6学年②「我が国の政治の働き、憲法の考え方、国際社会における役割」から					
14	社会科における子どもの内面理解のあり方について理解する。					
15	まとめ：「子どもが主体的に学ぶ社会科学学習の創造」について話し合う。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
レポート1（中間）	30	講義1～5までの授業から、社会科授業をつくっていく上で必要な事柄をまとめることができる。		レポート2（最終）	30	講義全体を通して、社会科授業をつくっていく上で必要な事柄をまとめることができる。
協議への参加	20	担当教員による模擬授業やグループディスカッションに積極的に参加している。		講義ごとの対話カード	20	毎回の講義の終わりに、疑問や意見、感想等を「対話カード」に書き、提出する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
現場における社会科の実践（研究授業、実践記録）から、積極的に学んでほしい。 【60分】				対話カードの内容は、次時の講義の冒頭で紹介したい。 レポートは、2週間程度を目安に、コメントをつけて返却する。		
受講生に望むこと	普段から社会の動向や時事問題、歴史等の社会事象に関心をもち、問題意識をもって学ぶ姿勢を大切にほしい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説社会科編』文科省、東洋館出版社、2008年、978-4-491-02372-4 （※上記は現行のもの。新学習指導要領版を使用する）	
指定図書参考書等	授業の中で適宜紹介する。			その他・特記事項	なし	

授業科目名	EC100U 日本国憲法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	今井 竜也					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>憲法制定の経緯、憲法の基本的概念、およびその特質を理解するとともに、人権規定の中でもとくに自由権と呼ばれる権利の内容を中心に学び、憲法の規定と実際の運用について、学説や判例などを交えて論じる。</p>			<p>学習を通じ、憲法が私たちにに対して何かを保障しかつ要求しているのか、社会生活全般にいかに関わっているのかを知ること、憲法の重要性を自覚する。また、その中で一人一人が主権者として振る舞うべきであるのか、将来、教職を目指す学生は、教育現場において児童・生徒の自由や人権を守るべき立場として、どのような振る舞いが求められているのかを知ること、学生個人が自分なりの見識を持てるようになること。</p>			
教授方法	レジュメ、資料集を配布し、講義形式で行う。重要な論点については適宜板書を交えて説明するので、各自、必要に応じ板書を取る。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	憲法とは何か — 「憲法」のおおまかなイメージをつかむ (イントロダクション、憲法を学ぶことの意義、憲法概念の意味、規範としての特質と分類)					
2	日本国憲法の制定過程① — 大日本帝国憲法の成立と特徴 (日本における最初の成文憲法典はどのようにして作られ、発展したのか)					
3	日本国憲法の制定過程② — 日本国憲法の制定と特質 (現在の憲法はどのような経緯のもとで制定され、どのような特質と問題点を持っているのか)					
4	日本国憲法の基本原理① — 立憲主義・国民主権・象徴天皇制 (憲法の法としての特徴、法秩序に占める位置をあらわす原理)					
5	日本国憲法の基本原理② — 最高法規性 (法のピラミッドの頂点に立つ憲法としての特質は何か)					
6	平和主義と国民の安全① — 基本原理としての平和主義 (平和主義を体現する憲法9条の意義とその構造)					
7	平和主義と国民の安全② — 日本の防衛政策の特徴 (日本の防衛と安全保障、日米安保体制と国・国民を守るための立法のゆくえ)					
8	人権総説① — 人権の持つ性質 (誰が人権の主体で、誰に対して主張できる権利で、人権同士が衝突したらどのように調整するのか)					
9	人権総説② — 包括的基本権としての平等原則・幸福追求権 (憲法13条、14条を起点とした権利保障範囲の広がり、新しい人権と法の下での平等)					
10	精神的自由権① — 思想・良心の自由 (人間の精神活動の中で最も基本的・かつ絶対的なもの)					
11	精神的自由権② — 信教の自由、学問の自由 (近代自由主義の礎としての信教の自由、真理探求という営みにおける学問の自由のあり方)					
12	精神的自由権③ — 表現の自由の持つ意味・内容・限界 (表現の自由が持つ個人主義的価値と民主主義の根幹をなす人権としての性質)					
13	精神的自由権④ — 集合結社・通信の秘密 (表現の自由の一形態としての集団的意思形成・集団行動の自由)					
14	経済的自由と社会権① — 職業選択の自由、居住、移転の自由 (特権から人権となった経済活動の自由を保障するものとしての職業選択、居住・移転の自由)					
15	経済的自由と社会権② — 財産権 (自由権から社会権への流れとともに変容する財産権の性質と保障のあり方)					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
筆記試験	80	授業内容の基本的な理解と、身につけた知識を応用する能力を見る。筆記試験の詳細については、授業内で指示する。		出席状況および授業アンケート記載内容	20	毎時間、出欠状況と授業の理解度確認のため行う授業アンケートに記載されている内容(授業内容についての意見、感想、質問等)で評価する。
授業外における学習 (事前・事後学習等)			課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック			
<p>・ 予習は余力のある場合のみで良いので、とくに復習に力を入れること。その週の授業内容については、理解の不十分な箇所については各自、参考書なども参照しながらレジュメや板書を読み返しておくこと。[30分]</p> <p>・ 憲法改正議論など、今後、社会においてタイムリーな話題として憲法問題が扱われることが多くなると思われるので、可能な限り新聞やテレビのニュース等に目を通して、社会で起きている出来事についても、アンテナを張りめぐらせること。[30分]</p>			<p>毎時間行う授業アンケートに記載されている疑問、質問等の内容から、特に補足が必要と思われるトピックスについては、次週の冒頭において適宜、復習を行います。</p>			
受講生に望むこと	<p>一見すると、日常生活からは遠い存在のように見える憲法は、実は私たちの社会生活と密接な関わりを持っています。特に、憲法改正が現実味を帯びてきている昨今、私達1人1人も、国や社会のあり方について、相応の見識を持つことが必要になります。授業を通じ、憲法を始めとする法の役割を知るだけでなく、広く社会に対し興味関心をもって欲しいと思います。</p>			教科書・テキスト	なし	
指定図書参考書等	<p>なし/特に指定はしないが、予習復習のため、初学者用の日本国憲法概説書(2000年前後で、出版年の新しいもの)を各自一冊、手元に用意しておくことが望ましい。最近出たものとして、『教職教養憲法15話 改訂2版』 加藤一彦著 北樹出版 2014年、定評のある入門書として『憲法1 人権 第5版』 渋谷秀樹・赤坂正浩著 有斐閣アルマ 2013年を紹介しておく。</p>			その他・特記事項	<p>各週の授業内容については、出席と授業内容の理解度確認のために毎時間行う授業アンケートを元に、次回の授業冒頭で補足を加える。受講者の疑問や質問、意見、感想などはなるべく全体で共有し、各自の授業内容理解に役立てたいと考えています。</p>	

授業科目名	EC210U 生活		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	福江 厚啓					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
講義および体験的な活動を通し、生活科の特性・目標・内容等についての基礎的な理解と認識を身に付ける。 また、幼児教育から連なる環境を通した学び、子どもの文脈に沿った学びの重要性について理解を深め、豊かな生活科の授業づくりをするうえで必要な感覚と技能を養う。			①幼児～初期学童期の子どものもとで、生活・環境が大きな学びの可能性を持っていることを理解する。 ②生活科の特性・目標・内容等について理解する。 ③体験と振り返りを通し、子どもが夢中になれる材や学習環境、支援の在り方について、実感をもって理解する。			
教授方法	講義・演習、グループ協議					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。					
2	生活科って何だろう？：「学びの履歴」の振り返りから、生活科の意義と特色について理解する。					
3	生活科における学びとは：子どもの文脈と遊び・暮らしについて理解する。					
4	体験編「秋の野山へ出かけよう」①：秋見つけから広がる学びの可能性を考えよう。					
5	体験編「秋の野山へ出かけよう」②：繰り返し活動することの意義を考えよう。					
6	体験編「秋の野山へ出かけよう」③：秋の素材を使っておもちゃ作りをしよう。					
7	体験編「秋の野山へ出かけよう」④：秋の素材を使ったおもちゃで交流しよう。					
8	生活科の実践から①：スタートカリキュラムと幼保小連携の実践例					
9	生活科の実践から②：学校生活に関する実践例					
10	生活科の実践から③：地域生活に関する実践例					
11	生活科の実践から④：飼育・栽培・いのちに関する実践例					
12	生活科の実践から⑤：自分の成長に関する実践例					
13	体験編「自分物語を創ろう」①：自分自身を見つめ、物語を作ろう。					
14	体験編「自分物語を創ろう」②：互いの物語から学ぼう。					
15	まとめ：講義全体を振り返り、まとめをする。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
おもちゃ作り	20	秋の素材を利用して、創意工夫のあるおもちゃを作ることができる。	自分物語	30	自分の幼少期を振り返り、物語に簡潔に表すことができる。	
レポート	30	講義の内容を理解し、簡潔にまとめることができる。	講義ごとの対話カード	20	毎回の講義の終わりに、疑問や意見、感想等を「対話カード」に書き、提出する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①祖父母から衣食住の暮らしの知恵を学んだり、子どもの遊びやおもちゃ作り等について書籍で学んだりする。〔20分〕 ②多様な絵本を読み、子どもの世界に対する理解を深める。〔20分〕 ③三小牛周辺の四季折々の動植物への興味関心を豊かにする。〔20分〕			対話カードの内容は、次時の講義の冒頭で紹介したい。 おもちゃ、自分物語については、講義の中で学生同士の交流の中での相互評価も加味する。 レポートは、2週間程度を目安に、コメントをつけて返却する。			
受講生に望むこと	生活科は、子ども自身の思いや願いを大切に学習である。子ども文化を含め、身の回りの様々な事象に興味関心を持ち、好奇心を豊かにしてほしい。		教科書・テキスト	『小学校学習指導要領生活科』文部科学省、日本文教出版、2008年、978-4-536-59002-0 (※上記は現行のもの。新指導要領版を使用する)		
指定図書参考書等	授業の中で適宜紹介する。		その他・特記事項	なし		

授業科目名	EC215U 図画工作		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	鷲山 靖						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
1. カリキュラムにおける位置付け ①この科目は資格取得に必要な科目である。 ②この科目は「図画工作科教育法」に接続する科目である。 ③この科目は保育内容の表現に関する科目と関連がある。 2. 授業のねらい ①造形作品の制作に必要な基礎知識を習得する。 ②造形作品の制作に必要な基礎技能を習得する。 3. 授業の進め方 ①テーマごとに講義・作品制作・評価・鑑賞・ノート作成を行う。 ②期末に基礎知識・技能に関する試験を行う。			①基本的な画材・素材・工具の特性を理解している。 ②基本的な画材・素材・工具を用いた基礎的な造形技法を習熟している。 ③自分の感覚や活動を通して、造形要素を捉えることができる。 ④造形要素を基に、自分のイメージをもつことができる。 ⑤図画工作科における造形作品の評価規準・評価基準を理解している。				
教授方法	講義後、作品制作・評価・鑑賞による演習を行い、期末の試験により基礎知識・技能を確認する。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業の計画、到達目標、成績評価の方法、事前・事後学習を理解する。 えがいて遊ぶ活動_えがいて遊ぶ活動を通じて、描く楽しみ・面白さの原点を探る。						
2	つくって遊ぶ活動_つくって遊ぶ活動を通じて、つくる楽しみ・面白さの原点を探る。						
3	絵に表す活動A_オイルパステルの基本知識を学ぶとともにその基礎的技法を習得する。						
4	絵に表す活動B_絵の具の基礎知識を学ぶとともにその基礎的技法を習得する。						
5	絵に表す活動C_発想の能力を育成する紙版フロッタージュの基礎的技法を習得する。						
6	絵に表す活動D-1_発想の能力を育成する組合せ消しゴムはんこの基礎的技法を習得するとともに、制作作品の相互評価を楽しむ。						
7	絵に表す活動D-2_発想の能力を育成する組合せ消しゴムはんこの基礎的技法を習得するとともに、制作作品の相互評価を楽しむ。						
8	絵・工作に表す活動A-1_発想の能力を育成する造形作品の制作を通じて、基礎的な造形技法を習得する。						
9	絵・工作に表す活動A-2_発想の能力を育成する造形作品の制作を通じて、基礎的な造形技法を習得する。						
10	立体・工作に表す活動A-1_評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。						
11	立体・工作に表す活動A-2_評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。						
12	立体・工作に表す活動A-3_評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。						
13	立体・工作に表す活動B-1_評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。レベル1作品制作						
14	立体・工作に表す活動B-2_評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。レベル2作品制作						
15	立体・工作に表す活動B-3_評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。レベル3作品制作						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
受講姿勢	30	①指定ノートへの講義記録、作品制作、スケッチ、クロッキー、お絵かきを行っている。②美術室の清掃・整備に取り組んでいる。③授業に集中している。		作品制作	30	①課題作品を完成させ、指定ノートに作品もしくは作品画像を記録している。 ②課題作品は作品条件を満たしている。	
期末試験	40	制作作品を事前に通知・説明する機能（性能）レベルによって試験を行い評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①毎回、授業開始前に指定ノートブックにスケッチ、クロッキー、お絵かきを描く。[10分] ②指定ノートブックに授業内容の他、授業外の学習内容をノートし、自分専用の図画工作ノートブックを作成する。[30分]				①作品条件にもとづく評価を作品制作中に行う。 ②期末試験時間の前半に作品の可否判定を行い、試験時間の後半において不合格者に対して試験合格者・担当教員が合格にむけた作品改良の支援・指導を行う。			
受講生に望むこと	①身の回りの物事を「造形要素を意識して」捉えてみましょう。 ②身の回りの全ての物事に必ずある「何らかの美しさ」を発見することを楽しみましょう。			教科書・テキスト	「トラベラーズノートリフィル無罪」ミドリ		
指定図書参考書等	なし/授業時に随時紹介する			その他・特記事項	作品の材料費を別途、集金する場合があります。		

授業科目名	EC090U 器楽入門		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	自由	
担当教員名	多保田 治江						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
保育・教育現場では、「子どもたちと音楽活動をするために」、また「子どもたちの表現力の成長をサポートするために」身に付けておきたい多くの事柄がある。この科目は、旋律楽器（ピアノ）入門のための科目である。授業は、グループレッスンで行う。ピアノ演奏のための基礎知識を習得することをねらいとし、課題プリントやピアノ作品を通して学ぶ。			①ピアノ演奏のための基礎知識を習得することによって、読譜することができる。 ②両手で弾けるようになる。 ③発表をする機会を持つことによって、演奏のための準備について考えることができる。				
教授方法	実技指導						
履修条件	ピアノ初心者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業の進め方と成績評価方法を理解する。 ピアノを弾く前に						
2	リズムのトレーニング 音符と休符						
3	指のトレーニングⅠ：エチュード1～3						
4	指のトレーニングⅡ：エチュード4～5						
5	ピアノ作品Ⅰ：「かえるの合唱」						
6	ピアノ作品Ⅱ：「ちょうちょう」						
7	ピアノ作品Ⅲ：「ロンドン橋」						
8	ピアノ作品Ⅳ：「バイエル19番」						
9	ピアノ作品Ⅴ：「フレール・ジャック」						
10	ピアノ作品Ⅵ：「バイエル46番」						
11	音階：ハ長調・ト長調						
12	ピアノ作品Ⅶ：「みつばちのマーチ」						
13	ピアノ作品Ⅷ：「バイエル48番」						
14	ピアノ作品Ⅸ：「バイエル55番」						
15	発表						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
授業参加態度	70	受講態度、課題に対して積極的に取り組んでいるか。	発表	30	真摯に発表に取り組んでいるか。		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
毎回の授業で出される課題を演奏できるように練習して下さい。[90分]			課題は、次回に個人指導します。				
受講生に望むこと	毎回出される課題に積極的に取り組んで下さい。		教科書・テキスト	プリント 『BEYER 標準版バイエル・ピアノ教則本』ドレミ楽譜出版社 2007年 ISBN978-4-285-11543-7			
指定図書／参考書等	なし／なし		その他・特記事項	なし			

授業科目名	EC110U 器楽 I		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	多保田 治江・加藤 雅子・種池 有美子・土屋 尚子・南部 順子・福田 真紀 (代表教員 多保田 治江)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>保育・教育現場で必要とされる音楽表現の中で、旋律楽器（ピアノ）を中心に演奏の基礎知識や技能を学ぶ。授業は、グループレッスンと個人レッスンを並行して行う。グループレッスンではピアノ演奏のための基礎知識を習得することをねらいとし、課題プリントを通して学ぶ。個人レッスンではピアノ演奏に関して個々の技能の向上を目指すことをねらいとし、各自に応じたピアノ作品、リズム曲集、子どものうたをテキストとして学ぶ。様々な音楽に触れ、演奏のための豊かな表現力を養う。</p>			<p>①ピアノ演奏のための基礎知識を習得することによって、読譜することができる。 ②様々な音楽に触れて、演奏のための表現力を豊かにすることができる。 ③コードネームを見て伴奏づけをすることができる。 ④発表をする機会を持つことによって、演奏のための準備について考えることができる。</p>				
教授方法	実技指導						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業の進め方と成績評価の方法を理解する。音楽調査を行う。					多保田	
2	演奏の基礎知識 (1) 音名 (楽譜の読み方について理解する。)					多保田	
3	グループレッスン：演奏の基礎知識 (2) 音階 (子どものための音楽で最も多く使用される長音階について理解する。) 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 I リズム曲 I 子どものうた I					各担当教員	
4	グループレッスン：コードネーム I (C・Gを用いた楽曲の伴奏方法を理解する。) 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 II リズム曲 II 子どものうた II					各担当教員	
5	グループレッスン：コードネーム II (C・G ₇ を用いた楽曲の伴奏方法を理解する。) 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 III リズム曲 III 子どものうた III					各担当教員	
6	グループレッスン：コードネーム III (C・G ₇ を用いた楽曲の伴奏パターンを理解する。) 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 IV リズム曲 IV 子どものうた IV					各担当教員	
7	グループレッスン：コードネーム IV (C・G ₇ を用いた楽曲の伴奏パターンを理解する。) 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 V リズム曲 V 子どものうた V					各担当教員	
8	発表 I					全員	
9	グループレッスン：コードネーム V (C・F・G ₇ を用いた楽曲の伴奏パターンを理解する。) 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 VI リズム曲 VI 子どものうた VI					各担当教員	
10	グループレッスン：キーボードを用いたアンサンブル 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 VII リズム曲 VII 子どものうた VII					各担当教員	
11	グループレッスン：リズム曲「走る」の演奏方法 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 VIII リズム曲 VIII 子どものうた VIII					各担当教員	
12	グループレッスン：リズム曲「ジャンプ」の演奏方法 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 IX リズム曲 IX 子どものうた IX					各担当教員	
13	グループレッスン：リズム曲「スキップ」の演奏方法 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 X リズム曲 X 子どものうた X					各担当教員	
14	発表 II					全員	
15	グループレッスン：伴奏のアレンジ方法 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 XI リズム曲 XI 子どものうた XI					各担当教員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	40	受講態度、課題への取り組み。(「受講生に望むこと」欄を参照)		発表 I	30	発表に対して積極的に取り組んでいるか。	
発表 II	30	発表に対して積極的に取り組んでいるか。					
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック			
<p>①グループレッスンでは、毎回の授業で出される課題を演奏できるように毎日練習して下さい。[30分] ②個人レッスンでは、各自に応じたピアノ作品、リズム曲、子どものうたの弾き歌いを毎日練習して下さい。[60分] ③個人レッスンの履修曲数は、各自に応じたピアノ作品 (グレード1-3曲・グレード2-3曲・グレード3-2曲)、リズム曲 (5曲)、子どものうたの弾き歌い (7曲) をベースとするので、プランを立てて授業の準備をして下さい。</p>				課題は、次回に個人指導します。			
受講生に望むこと	<p>①毎回出される課題に積極的に取り組んで下さい。 ②単にピアノを練習するだけではなく、ピアノ作品をCDなどで聞いてみることや楽語で分からない用語や記号は調べて下さい。</p>			教科書・テキスト	『幼児のうた楽譜集』東京書籍 2014年 ISBN978-4-487-71121-5 / 『RHYTHMS for CHILDREN』北陸学院大学編集 2015年 / バロックから現代までのピアノ作品 / プリント		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EC260U 保育内容・環境 I		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	向出 圭吾						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>一口に「環境」と言っても、それは広範囲に存在するものです。その中でも身近に存在する直接的環境は、幼児期の子どもの育ちに強い影響を与えます。</p> <p>この授業では、子どもの育ちに重要な身近な環境について共に考え、また実際にそれにかかわる過程の中で、学生自身が試行錯誤を繰り返しながら「生きる力の基礎を培う」という観点での領域「環境」について自分なりの考えを身につけることを目指します。</p>			<p>①幼児教育の基本的な考え方、5領域を理解している。</p> <p>②子どもの育ちに身近な環境がどう影響しているかについて考察できる洞察力を習得する。</p> <p>③個人、またはグループで遊びのプランを作成するための教材研究ができるようになる。</p> <p>④グループディスカッションを通して、様々な事例をいろいろな観点から読み取る力、他者に伝える力、他者の気づきを自分にフィードバックさせる力を身につける。</p> <p>⑤生きる力を基礎としての領域「環境」について、自分なりの考えをもつことができるようになる。</p>				
教授方法	講義・演習・グループディスカッション・発表						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	幼児教育の基本（1）：幼児教育の基本的な考え方について考えます。						
2	幼児教育の基本（2）：幼児教育の5つの領域について考えます。						
3	子どもの育ちと領域「環境」：幼児期の発達の観点から、子どもと環境とのかかわりについて考えます。						
4	子どもにとっての身近な環境とは（1）：子どもがかかわるであろう身近な環境について話し合い、それが育ちにどのような影響を与えているのかを考えます。						
5	子どもにとっての身近な環境とは（2）：事例を通して、身近な環境と子どもの育ちとの因果関係を様々な観点から考察していきます。（個人）						
6	子どもにとっての身近な環境とは（3）：事例を通して、身近な環境と子どもの育ちとの因果関係を様々な観点から考察していきます。（グループ）						
7	自然に親しみ、植物や生き物に触れる：事例を通して、命あるものとのかかわりにおける子どもの育ちを考えます。						
8	身近な自然にかかわる実践（1）：三小牛の自然を散策し、実際の身近な環境について考えます。						
9	身近な自然にかかわる実践（2）：自分なりに<自然マップ>を作成し、自分らしい遊びのプランを考えます。						
10	身近な自然にかかわる実践（3）：各自考えた遊びのプランを発表し、他者からの助言を自分の学びとします。						
11	文字・標識・数量・図形への関心：事例を通して文字・標識・数量・図形への興味と認識について考えます。						
12	もの作りにかかわる実践（1）：水遊びをテーマにした教材で遊びにプランを考えます。						
13	もの作りにかかわる実践（2）：考えた遊びのプランで模擬保育をします。						
14	子どもと環境のかかわりを捉える視点：ここで改めて身近な環境について考えます。そして子どもの育ちとのかかわりを捉えるポイントを整理し、グループディスカッションの中で、他者の意見を踏まえながら自分の考えを明確にしていきます。						
15	「生きる力の基礎を培う」という観点での領域「環境」：これまでの実践や事例の考察を踏まえて、それぞれが考える生きる力の基礎としての「環境」について発表という形で自分なりの考えをわかりやすく他者に伝えることができる。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	20	各回のテーマに対して様々な観点から取り組む積極的な態度		課題への取り組み	40	課題の提出状況と内容	
筆記試験	40	この授業を通して「保育内容・環境 I」に関して、どれだけ自分の学びになり、理解したかを確認する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①各回の授業の最後に、その授業での学習到達度を確認するための課題を与えますので、各自取り組んでください。</p> <p>②実践の授業では、遊びのプランの作成に必要な素材や使った教材作りを事前学習とします。</p> <p>③各回のテーマに沿った教科書『事例で学ぶ保育内容・環境』の該当箇所を読んで自分なりに理解しておいてください。</p>				<p>①この授業は、前回の課題等を使用して、前回の確認を行います。</p> <p>②常に前回の学習の上に成り立つ授業であるから、その都度フィードバックを行い、自分にフィードバックさせる力を身につけます。</p> <p>③遊びのプランを見直し、修正、改善するなど、学習が一過性に終わらないようにする。</p>			
受講生に望むこと	自分たちがこれまでもっていた幼児期の遊びに対する概念を一度リセットして、一つの遊びの事象にも様々な見方、考え方があるということを意識しながら授業に臨んでください。			教科書・テキスト	『事例で学ぶ保育内容 環境』無藤隆監修 福元真由美 編者代表 萌文書林 2007年 ISBN978-4-89347-098-0		
指定図書参考書等	なし／『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館 2018年 ISBN：9784577814475			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EN150U 保育原理		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	大井 佳子						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>保育士資格の必修科目である。ただし、乳幼児期という人生の最初の時期についてその意味を知り、ふさわしい生活環境について考える授業であるので、教職者として子どもと関わる全ての学生に必要な人間理解に関わる科目となる。また、1年次での幼稚園での体験、2年次での幼稚園教育実習Ⅰに向かうための基礎的学習ともなる。</p> <p>保育については多くの人が「知っている」感覚に陥りやすい。しかし、その「知っている」ことは、専門職を担う者が求められる保育の理解とは大きく隔たると。授業では、「遊び」をキーワードとして子どもの見方・感じ方を模範体験しつつ、発達科学が明らかになってきた乳幼児の主体的な在り様と、「遊びが学び」である小学校以降とは異なる幼児期の学びの組み立て方について学ぶ。同時に、自園の子どもだけでなく地域の子育て家庭すべてを支援の対象とする保育所の機能、役割とその社会的背景について知り、幼保一元化や幼小接続などの最近のトピックスから保育という営みの今日的意味を理解する。</p>			<p>①「保育所保育指針」が示す保育所保育の目的を理解している。</p> <p>②「環境を構成することによって」「生活や遊びを通して総合的に」という幼児期の学びの援助の方法を理解し、乳幼児期の指導計画の特性を知っている。</p> <p>③乳幼児の学びを「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域で見ることの意味を理解している。</p> <p>④保育をめぐる今日的課題とその背景にある子どもをめぐる生活環境の変化について理解している。</p>				
教授方法	講義・体験（遊び・製作・パフォーマンス）・個人ワーク・グループワーク・発表（展示を含む）						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：実際に遊んでみて自身の心の動きを知り、周りの人たちの動きを見て、「遊びを通じて学ぶ」という学び方について理解する。自身の体験がもたらす小学校以降の学びイメージから離れる。						
2	「遊びを通じて学ぶ」「環境の構成によって指導する」という保育における指導のとらえ方を知る。						
3	保育の歴史と現状を概観し、保育所が「***園」という名称を用いることの意味を考える。「園」に込められた願いと、子ども観・保育観を理解する。						
4	保育所保育指針を開いてみよう。養護と教育が一体として展開するという意味を考える。						
5	子どもの遊びの姿から、子どもが主体的であるために環境の構成と指導計画があることを理解する。						
6	幼児期の学びを支えるには、子どもの姿からその心の動きをとらえ、子どもに育ちつつあるものを読み取る力が求められることを知る。						
7	乳幼児の発達の姿を概観し、「・・・できるようになる」ことが発達ではなく、「・・・できるようにさせる」ことが指導ではないことを理解する。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の項目から幼小接続について考える。						
8	子どものモノとかかわる力、人とかかわる力がどのように発揮され、発達の過程を開いていくのかを知る。発達の最近接領域というとらえ方を知る。						
9	言葉の獲得を例に、近年の乳幼児の生活、育ちの環境を見てみよう。子どもの学びを育む環境の豊かさについて再考する。						
10	「子育て支援」という保育所に求められる機能と、その背景を知る。						
11	親子や家族とは異なる、園における人間関係について考える。保育者の役割と子ども集団の役割について考える。						
12	遊びによって提供される5領域での学びについて知り、小学校以降の学び方との違いについて考える。						
13	遊びがもたらす自己肯定感：安心・安全・安定と遊びの関係について考える。例えば、砂遊び・水遊び・・・						
14	遊具・おもちゃの意味：フレーベルの恩物から始まった積木から考える。						
15	「子どもの最善の利益」について考え、その追求には家庭との連携や地域との連携が必須であることを理解する。子育てを支援することの意味を再考する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	①保育に関する用語・基本的概念の理解 ②体験における自らの行動と心情を振り返ることができる ③乳幼児と保育をめぐる今日的社会的課題についての理解		ミニレポート	20	①適切な資料をみつけている ②ていねいな自分らしい記載 ③疑問・課題を見出している	
製作課題	10	遊びに関する製作物における工夫・ていねいさ		授業内ワーク	10	自分なりの考えが記載されている。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①用語や制度について調べる。ネット検索に頼らずに本の活用を習慣化する。[30～60分程度]②子どもの遊び体験につながる実体験[長時間を要するので計画的に取り組む必要がある]				ミニレポートと授業内ワークで記された関心・質問に次回以降の授業で対応する。			
受講生に望むこと	①授業中の突然の遊び、製作に対応できるよう、服装、靴、髪型など、その場で遊びに入れるスタイルで授業に参加すること ②保育者が常時携帯しているようなグッズを用意して参加すること ③子どもの遊ぶ姿や言葉に関心を持ちエピソードを記録することを習慣にすること ④保育に関連する日本・世界、そして地域のニュースに敏感でいて、その都度調べて、基本的知識の更新に努めること。			教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館 2018年 ISBN：9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館 2018年 ISBN：9784577814499 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN：9784577814482		
指定図書参考書等	なし/『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷』民秋言（編集代表） 萌文書林 2017年 ISBN：978-4-89347-254-0			その他・特記事項	①教員免許状（幼稚園・小学校）取得希望者には履修を強く勧めめる。保育士資格だけでなく教育実習（幼稚園・小学校）に向かうために必要な幼児教育及び児童福祉の入門科目となる。 ②毎回のミニレポートの綴りが定期試験の持ち込み資料となるので、欠席の場合にもミニレポートを提出するようにすること。		

授業科目名	EN155U 社会福祉		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	上野 千恵						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>保育・幼児教育場面において、子どもとその家庭の暮らしを支える福祉制度の基礎知識を学びます。具体的には、①社会福祉の意義と歴史の変遷②社会福祉と保育との関連性③社会福祉制度や実施主体④援助者として必要とされる対人援助の原則や援助観などについて、身近な話題も取り入れながら学んでいきます。</p>			<p>(1)私たちの暮らしを社会福祉が支えているということを、身近に理解できる。 (2)社会状況が変化の中で、私たちはどのように生活を守っていけるのかについて、現実問題に即して考えることができるようになる。</p>				
教授方法	講義 グループ討論						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業目標や評価方法の確認。受講の際の注意点。保育士を目指す学生が、社会福祉を学ぶ意義を説明する。						
2	社会保障制度体系を知る。私たちが暮らす現代社会の変化を解説し、日本国憲法に基づく社会保障制度の体系について学ぶ（保育相談支援の際、社会福祉の知識が様々な場面で必要となることを具体的に理解する。）						
3	イギリスの社会福祉の歴史について解説する。（国民の貧困に対して福祉国家という形態がどのように創設されていったかを理解する。）						
4	アメリカ、スウェーデン、イギリス、日本それぞれの福祉体制をグループ討議を通して理解する。その上で、日本の社会福祉の今後の姿について解説する。（社会福祉の様々な形を理解する。）						
5	民間保険と社会保険との違いを知る。国民のセフティネットとしての社会保険の重要性を解説し、社会保険と私たちの生活との関係について学ぶ。（5つの社会保険についてその概要を理解する。）						
6	日本の貧困① 貧困の概念・私たちの身近に存在する貧困の形・日本の貧困の特徴・貧乏でも頑張れる人と貧困に堕ちていく人との境界線等々、様々な角度から日本の貧困を学ぶ。（“見えない貧困”を理解する。）						
7	日本の貧困② 保育者と貧困家庭支援との関連性について学ぶ。（貧困家庭支援として保育者に何ができるかを理解する。）						
8	生活保護① 社会保険や他のサービスとの違いを知る。また、学生の家庭の生活保護基準額を算定してみる。（生活保護が、国民にとって最後のセフティネットであることを理解する。）						
9	生活保護② 生活保護の原理・原則について、身近なトピックスも取り入れて解説する。（生活保護が厳しい原理原則に基づいて運用されていることを理解する。）						
10	高齢者福祉① 保護者における介護問題について触れた上で、高齢者理解の方法や介護保険について学ぶ。（高齢者理解の方法や介護保険について理解する。）						
11	高齢者福祉② 成年後見制度・福祉サービス利用支援事業・高齢者虐待防止法、高齢者福祉の今後について解説する。（高齢者を含む社会的弱者の、生活・財産を守る福祉制度を理解する。）						
12	障害者福祉 日本における障害者の定義や法制度を解説する。障害者権利条約・合理的配慮・障害者差別解消法等、障害者に関する新しい動向について学ぶ。（障害の捉え方と、障害者福祉の動向について理解する。）						
13	社会福祉サービスの相談窓口について。公的機関（福祉事務所・児童相談所・保健所）や民間機関（社会福祉協議会・民生委員・NPO法人）について学ぶ。（社会福祉の相談窓口を理解する。）						
14	全国保育士会倫理綱領や社会福祉の専門資格を解説する。（保育者を目指す学生の学びは、今後様々な仕事や社会福祉援助職にも活用出来ることを理解する。）						
15	相談援助（ソーシャルワーク）の方法や理念を解説する。（保育相談支援では、ソーシャルワークの視点が活用できることを理解する。）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	60	社会福祉の大切な用語、考え方を理解できているか。		大レポート	20	授業内容を踏まえて考察されている内容を評価する。授業内容に触れず持論の展開されたレポートは評価が低くなる。	
小レポート	20	毎回の授業内容を理解できているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①授業の中でわからない専門用語や、興味を持った内容に関して、自分で調べる。[20分] ②目ごろから暮らしの問題に関心を持って、新聞・ニュースに触れる。[30分] ③授業終了後関連部分の教科書を読み、毎回の学びを整理する[20分]</p>				<p>①毎回の小レポートは原則返却はしない。質問や意見に関しては次の授業に反映させる。 ②大レポートの課題は授業期間の中頃に案内する。 ③期末試験は、毎回授業の中で講師が伝える学びのポイントや小レポートの課題の中から出題する。</p>			
受講生に望むこと	授業では、身近な暮らしの問題について詳しく触れていきます。自分に関連する出来事としてとらえ、自分に何ができるのかを問いかけながら授業に参加することを望みます。			教科書・テキスト	『シリーズ保育と現代社会 学ぶ・わかる・みえる 保育と社会福祉』 橋本好市 宮田徹 編 (株)みらい 2015年 ISBN：978-4-86015-354-0		
指定図書参考書等	配布資料にて授業中に適宜学生に伝える。			その他・特記事項	ほぼ毎回資料を配布する。試験や大レポートを書く際に必ず必要になるため、資料は各自で整理しておくこと。		

授業科目名	EN160U 音楽表現 I		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	多保田 治江						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
子どもたちが発達段階に応じて音や音楽に親しみ関心を持つ環境を設定できるように、保育者として必要な基本的知識と技能を身に付ける。特に、子どもの生活や遊びと密接に関わる歌やリズム遊びを取り入れ、保育者自身が音や表現活動を楽しみ、保育現場で実践できるようにする。また、様々な楽器に触れて演奏するほか、鑑賞を通して豊かな感性を養う。			①楽譜を見て歌うことができる。 ②範唱を聴いて歌うことができる。 ③「表現する」とは何か、具体的に考えることができる。 ④乳幼児期の発達と音楽表現について理解する。 ⑤音楽と身体表現について実践を通して理解する。 ⑥課題を発表する機会を持つことによって、歌うことや演奏のための準備について考えることができる。				
教授方法	講義と実技の他にテーマに沿ってグループ活動を行う。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業の進め方と成績評価の方法を理解する。 読譜のトレーニングⅠ：楽譜の読み方について習得する。						
2	「表現」って何だろう？Ⅰ：表現するとは何か理解を深める。音楽コミュニケーションⅠ：「まねること・歌うこと」について実践を通して考える。Ⅰ 読譜のトレーニングⅡ：楽譜の読み方について習得する。						
3	「表現」って何だろう？Ⅱ：総合的な視点で表現活動を捉える意義について理解を深める。音楽コミュニケーションⅡ：「まねること・歌うこと」について実践を通して考える。Ⅱ 読譜のトレーニングⅢ：楽譜の読み方について習得する。						
4	「表現」って何だろう？Ⅲ：保育における領域「表現」について理解を深める。音楽コミュニケーションⅢ：「一緒に動くこと・歌うこと」について実践を通して考える。読譜のトレーニングⅣ：楽譜の読み方について習得する。						
5	歌うことを中心とした表現活動Ⅰ：生活・遊びの子どものうたを通して、歌唱表現について考える。						
6	歌うことを中心とした表現活動Ⅱ：季節・行事・自然の子どものうたを通して、歌唱表現について考える。						
7	歌うことを中心とした表現活動Ⅲ：動物・植物等の子どものうたを通して、歌唱表現について考える。課題発表						
8	歌うことを中心とした表現活動Ⅳ：遊びうたを通して、歌唱表現について考える。						
9	楽器を用いた表現活動Ⅰ：パンプードラムやリズム楽器を用いた合奏を通して、打楽器の特徴と奏法について考える。						
10	楽器を用いた表現活動Ⅱ：パンプードラムやリズム楽器を用いた合奏を通して、子どもと楽器について考える。						
11	子どもの発達と音楽表現Ⅰ：乳幼児期の発達の特性（0歳児・1歳児・2歳児）について理解を深める。 さあ はじめよう！：音を聴くことについて考える。						
12	子どもの発達と音楽表現Ⅱ：乳幼児期の表現の特性（3歳児・4歳児・5歳児）について理解を深める。 移動する動き：音楽と身体の動きについて実践を通して考える。						
13	子どもの発達と音楽表現Ⅲ：聴く力の発達について理解を深める。 移動しない動き：音楽と身体の動きについて実践を通して考える。						
14	子どもの発達と音楽表現Ⅳ：歌唱表現の始まりについて理解を深める。 音楽と身体表現Ⅰ：音楽から生まれる身体の動きについてグループで話し合い、身体表現を考える。						
15	音楽と身体表現Ⅱ：課題の発表（課題の発表を通して、様々な身体表現方法について考える。）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	30	受講態度、課題への取り組み。（「受講生に望むこと」欄を参照）		試験	40	各回の講義内容について理解しているか。試験形式等の詳細は授業内に提示する。	
コミュニケーションシート	30	提出状況と内容（①毎回の授業ポイントを押さえてまとめられているか。②感想だけに終わらない自らの意見が述べられているか。③自らの課題が設定されているか。）					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①毎回の授業後に、自身で振り返り、不明点を調べて下さい。[60分] ②次回授業のための課題について準備して下さい。[30分]				①毎回のコミュニケーションシートは、次回冒頭にコメントを付けて返却します。 ②試験については、次学期初めに採点し返却します。			
受講生に望むこと	①毎回出される課題に積極的に取り組んで下さい。 ②個人で行う課題とグループで行う課題があるので、グループワークはチームワークよく課題に臨んで下さい。			教科書・テキスト	『幼児のうた楽譜集』東京書籍 2014年 ISBN978-4-487-71121-5 / 『小学校音楽科教育法』教育芸術社 2015年 ISBN978-4-87788-491-8 / 『RHYTHMS for CHILDREN』北陸学院大学編集 2015年 / 『実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現』保育出版 2017年 ISBN978-4-938795-78-8 / プリント / 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN : 9784577814475 / 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN : 9784577814482		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EN165U 音楽表現Ⅱ		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	多保田 治江・福田 真紀（代表教員 多保田 治江）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>「音楽表現Ⅰ」で学んだ内容を踏まえ、打楽器や旋律楽器などの演奏も取り入れた様々な表現技能を身に付ける。特に、体験したことを表現したいという子どもたちの思いを取り上げ、音楽表現を通して発表したり遊びに生かしたりできるように、音を通した様々な表現方法を学ぶ。</p>			<p>①楽譜を見て歌うことができる。 ②範唱を聴いて歌うことができる。 ③歌うことや演奏のための様々な表現技術を身に付ける。 ④音楽からイメージしたことを身体表現することができる。 ⑤課題を発表する機会を持つことによって、歌うことや演奏のための準備について考えることができる。</p>				
教授方法	講義と実技の他にテーマに沿ってグループ活動を行う。						
履修条件	「音楽表現Ⅰ」の単位を修得済の者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業の進め方と成績評価の方法を理解する。 子どものうたの変遷Ⅰ：明治期に作られた子どものうたを通して子どものうたについて理解を深める。					多保田	
2	子どものうたの変遷Ⅱ：大正期から現代に作られた子どものうたを通して子どものうたについて理解を深める。					多保田	
3	生活や遊びの中での歌唱表現について考える。					多保田	
4	子どものうたの分類方法について考える。					多保田	
5	保育者としての表現力Ⅰ：歌声で表現することについて実践を通して考える。					多保田	
6	歌うことを中心とした表現活動Ⅰ：様々な生活・遊びの子どもをうたを通して、歌唱表現について考える。					福田	
7	歌うことを中心とした表現活動Ⅱ：季節・行事・自然の子どもをうたを通して、歌唱表現について考える。					福田	
8	歌うことを中心とした表現活動Ⅲ：動物・植物等の子どもをうたを通して、歌唱表現について考える。 課題発表					福田	
9	保育者としての表現力Ⅱ：歌声で表現することについて実践を通して考える。 様々な楽器と奏法についてⅠ：保育で用いられる楽器の奏法を身に付ける。「音のアンサンブル」Ⅰ：打楽器を用いてアンサンブルをつくる。					多保田	
10	保育者としての表現力Ⅲ：保育の場におけるピアノの役割について実践を通して考える。 様々な楽器と奏法についてⅡ：保育で用いられる楽器の奏法を身に付ける。					多保田	
11	保育者としての表現力Ⅳ：保育の場におけるピアノの役割について実践を通して考える。子どものうたの選曲ポイントについて考える。					多保田	
12	保育者としての表現力Ⅴ：歌唱表現の進め方について考える。 音楽と身体表現Ⅰ：リズムカルに反応する基礎的な身体・技能の育て方について考える。					多保田	
13	保育者としての表現力Ⅵ：歌唱表現の導入について考える。 音楽と身体表現Ⅱ：作品づくりのグループワークを通して身体表現について考える。					多保田	
14	保育者としての表現力Ⅶ：教材選択における留意点について考える。 音楽と身体表現Ⅲ：グループの作品発表と鑑賞を通して、様々な身体表現方法について考える。					多保田	
15	保育者としての表現力Ⅷ：子どもの動きに合わせた即興演奏の方法について考える。					多保田	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	30	受講態度、課題への取り組み。（「受講生に望むこと」欄を参照）		試験	40	各回の講義内容について理解しているか。試験形式等の詳細は授業内に提示する。	
コミュニケーションシート	30	提出状況と内容（①毎回の授業ポイントを押さえまとめられているか。②感想だけに終わらない自らの意見が述べられているか。③自らの課題が設定されているか。）					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①毎回の授業後に、自身で振り返り、不明点を調べて下さい。[60分] ②次回授業のための課題について準備して下さい。[30分]				①毎回のコミュニケーションシートは、次回冒頭にコメントを付けて返却します。 ②試験については、次学期初めに採点し返却します。			
受講生に望むこと	①毎回出される課題に積極的に取り組んで下さい。 ②個人で行う課題とグループで行う課題があるので、グループワークはチームワークよく課題に臨んで下さい。			教科書・テキスト	『幼児のうた楽譜集』東京書籍 2014年 ISBN978-4-487-71121-5 / 『小学校音楽科教育法』教育芸術社 2015年 ISBN978-4-87788-491-8 / 『RHYTHMS for CHILDREN』北陸学院大学編集 2015年 / 『実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現』保育出版 2017年 ISBN978-4-938795-78-8 / プリント / 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN : 9784577814475 / 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN : 9784577814448		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ED100U 心理学概論A		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	西尾 祐美子						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
心理学概論では、心理学の基礎知識を学び、人間の様々な心理的機能について理解することが目的である。後期の『心理学概論B』に続くものとし、心理学の歴史・学習・言語・発達、パーソナリティ、臨床・健康を扱う。心理学は実験・調査・観察による客観的なデータに基づいて心を議論する学問であり、一般的なイメージとは少し異なるかもしれない。講義を通じて、直感や思い込みで心を語るのではなく、客観的・実証的な手法で解明することを実感してほしい。			到達目標は、主に3つある。 ①心理学とはどのような学問であるかを理解し、心理学に関する基礎知識を幅広く習得する。 ②人間の行動や心の働きを科学的な視点から理解しようとする姿勢を身につける。 ③心理学で身につけた知識がどのように心理的援助ひいては日常生活に結びつくかを知る。				
教授方法	講義形式、自分自身の体験や身の回りの出来事について心理学の基礎理論に基づいて考える機会も作る。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：授業の進め方や成績評価基準などを説明した後、心理学とはどのような学問か、その意義なども含めて学ぶ。						
2	心理学の歴史：学問としての心理学の成立前後および現代心理学を取り巻く状況を概説する。						
3	心理学の研究法：客観的・実証的な手法として、実験法、質問紙調査法、観察法、面接法の4つを取り上げて概説する。						
4	学習：学習のメカニズム（古典的条件付け、オペラント条件付け、モデリングなど）を概説する。						
5	言語：言語発達の過程や問題解決と推論、意思決定に関する理論などを概説する。						
6	発達（1）：生涯発達における各時期の発達の様相、主な発達理論（ピアジェ、エリクソン）について概説する。						
7	発達（2）：感情や自己の発達、対人関係（親子関係・友人関係）や社会性の発達について概説する。						
8	パーソナリティ（1）：類型論・特性論をはじめとし、さまざまなパーソナリティ理論（精神力動論、行動論、ヒューマニスティック論など）を概説する。						
9	パーソナリティ（2）：パーソナリティの測定法（信頼性・妥当性含む）およびパーソナリティの重要指標の1つである知能について概説する。						
10	精神疾患・障害（1）：精神疾患や障害の捉え方、主な精神疾患（統合失調症、気分障害、不安障害、摂食障害）について概説する。						
11	精神疾患・障害（2）：発達障害の定義や障害特性（知的障害、自閉症スペクトラム障害、注意欠如多動性障害、学習障害）について概説する。						
12	心理トリートメント（1）：エビデンスの検証法や基準を踏まえたうえで、精神力動的アプローチ、人間性中心アプローチについて概説する。						
13	心理トリートメント（2）：認知・行動療法アプローチ、家族アプローチ、組織・コミュニティアプローチについて概説する。						
14	健康：ストレスの定義やストレス対処法、健康への影響因について概説する。						
15	全体のまとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	50	試験の範囲や出題形式、配点等については、後日お知らせする。		小レポート	30	毎回、2～3語のキーワードについて400字程度でレポートをまとめて提出する。	
授業参加状況	10	授業への取り組み姿勢を評価する。		コミュニケーションシート	10	毎回の授業後に記入する、自己評価およびコメントや質問などを評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
毎回、指定したキーワードについてレポートをまとめる課題を出すので、授業後に欠かさず復習する習慣をつける。また、翌回に行う内容に関して、教科書の該当部分には必ず目を通すこと。[30分程度]				小レポートで習熟度を確認しながら、必要に応じて解説を行う。うまくまとまっていたレポートに関しては、全体への紹介を行う予定である。コミュニケーションシートを通じて挙げた意見や質問を取り上げ、授業時に全体に向けて回答する。			
受講生に望むこと	初めて学ぶことが多く、授業に参加するだけでは消化しきれないと思うので、教科書や配布レジュメも活用しながら知識の定着に努めてほしい。			教科書・テキスト	『心理学概論』岡市廣成・鈴木直人（監修）ナカニシヤ出版、2014年、ISBN-13:978-4779508301		
指定図書参考書等	なし／『心理学（第5版）』鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃（編）東京大学出版会、2005年、ISBN-13: 978-4130121095			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ED105U 心理学概論B		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	西村 洋一					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本講義は、心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。心理学概論Aにつづき、私たちの心についての心理学的な理解について概説する。心理学概論Bでは、進化、対人行動、対人関係、感覚・知覚、認知といったテーマについて紹介を行う。特に、進化という観点について重点を置き、その概念を土台として、他のテーマについて解説を行っていく。それらを踏まえ、総合的に人の心の仕組みを理解することを目指す。</p>			<p>①進化という観点から人の心について言及することができる。 ②他者との関係のあり方を進化の視点から理解できる。 ③感覚・知覚、記憶、思考といった基本的な心の仕組みを理解している。 ④心理学という学問の性質を理解している。</p>			
教授方法	講義を中心にワークなどの体験も取り入れながら進める。					
履修条件	心理学概論Aを履修済が望ましい（単位未修得可）					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	進化とはどのようなものか 「進化」という考え方に親しめるよう紹介を行う。					
2	進化から人の心を考える 「進化」の視点から人の心や行動について考えることにどのような利点があるのか。					
3	他者と関係を形成する心 他者と関係を形成する際、相手の何に魅力を感じるのかについての知見を紹介する。					
4	進化の視点から見る対人関係① 親子関係についての知見を紹介する。					
5	進化の視点から見る対人関係② 恋愛関係についての知見を紹介する。					
6	進化の視点から見る対人関係③ 友人関係についての知見を紹介する。					
7	欲求・動機づけ、そして個人の適応を考える。					
8	感覚・知覚① 私たちは世界から刺激をどのように受け取っているのか。					
9	感覚・知覚② 周りの世界をどのようにして認識しているのか。					
10	感情① 感情はどのようにとらえられるか。					
11	感情② 感情は私たちの生活にどのように機能しているのか。					
12	認知① 記憶についての基本的な知見について紹介する。					
13	認知② 記憶の実際 記憶は私たちの日常と密接につながっていることを示す知見を紹介する。					
14	認知③ 思考について 私たちは「考える」ということをどのように行っているのか。					
15	まとめ：あらためて「心理学」について考えてみる。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験	70	講義内容の理解度により評価を行う。		講義への参加度	30	講義中の姿勢および振り返りの内容により評価を行う。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①講義で説明された内容について、ノート、資料等を用いて復習を行い、次回に備える。[45分] ②講義で説明された理論や概念について、自分自身や身の回りの人にあてはめて具体的に考えてみる。[30分]</p>			各回の振り返りの内容に対して次回にフィードバックを行う。			
受講生に望むこと	科学という堅苦しく思われるかもしれないが、「心」に対し科学の視点から切り込むということに浪漫を感じながら講義に臨んでほしい。			教科書・テキスト	『心理学概論』 京都大学心理学連合 2011年 ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-779-50399-3	
指定図書参考書等	なし/講義中に適宜紹介する。			その他・特記事項	なし	

授業科目名	ED110U 臨床心理学概論		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	松下 健						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
臨床心理学は心理学の様々な知見を対人援助に用いることを目的とした、応用的な分野の一つである。その内容は多岐にわたるため、本講義では対象、査定方法、心理療法のモデル、心理療法の理論、心理療法の技法、臨床心理士が活躍する現場に焦点を当てて学習する。臨床心理学では人を理解することが重要であるため、技法や検査を体験することで自己や他者の特徴について理解を深める機会と、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて人とのコミュニケーションの取り方について考える機会を設けたい。			(1) 臨床心理学とは何かを説明できるようになる。 (2) 臨床心理学の対象は何かを説明できるようになる。 (3) 臨床心理学的査定とは何か、具体的にどのような方法があるかを説明できるようになる。 (4) 臨床心理学の理論を説明できるようになる。 (5) 臨床心理学の技法を説明できるようになる。 (6) 臨床心理士が活躍する現場を説明できるようになる。				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	臨床心理学の定義と歴史：臨床心理学とは何か、その定義と歴史を理解する。						
2	学校臨床心理学（不登校、いじめ、発達）：学校について臨床心理学的観点から理解する。						
3	発達障害：臨床心理学の対象のひとつである発達障害について、どのような特徴があるかを理解する。						
4	統合失調症：臨床心理学の対象のひとつである統合失調症について、どのような特徴があるかを理解する。						
5	気分障害、神経症：臨床心理学の対象である気分障害と神経症について、どのような特徴があるかを理解する。						
6	異常と正常、治療モデルと成長モデル：臨床心理学では異常と正常をどのように考えるのか、また、対象の変化をどのようなモデルに沿って考えるのかを理解する。						
7	心理査定（面接法、観察法）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、面接法と観察法に焦点を当てて理解する。						
8	心理査定（投影法）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、検査法の中でも投影法に焦点を当てて理解する。						
9	心理査定（知能検査、作業検査、質問紙）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、検査法の中でも知能検査、作業検査、質問紙に焦点を当てて理解する。						
10	心理面接（受面接・終結、マイクロカウンセリング）：臨床心理学の面接はどのように行われるのか、面接の開始、面接の終了、面接の技法を理解する。						
11	精神分析の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論の一つである精神分析について、その歴史、精神分析理論の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。						
12	人間性心理学の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論の一つである人間性心理学について、その歴史、人間性心理学理論の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。						
13	行動療法・認知療法の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論である行動療法・認知療法について、その歴史、行動療法・認知療法の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。						
14	遊戯療法、家族療法、森田療法、内観、臨床動作法、自律訓練法：臨床心理学において頻りに利用される様々な心理療法について理解する。						
15	臨床心理士が働く現場（医療、教育、福祉）：臨床心理学を対人援助に実際に利用している臨床心理士がどのような現場で活躍しているのかを理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
リアクションペーパー	30	講義内容について自分の考えを記述すること。講義のメモではなく、内容から発展させた自分の考えを記述することが求められる。		講義の受講態度	30	グループディスカッションやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。	
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
講義内容に関連する内容について、参考図書をはじめとする臨床心理学に関連する学術的な書籍や論文を読み、知識や理解を深める学習が求められる。[60分] 内容の理解や知識の定着のために復習を積極的に行うことが求められる。[30分] グループでプレゼンテーションを行う際には講義以外にも仲間と打ち合わせや発表の準備を行う必要性が生じる場合がある。[60分]			期末レポートについては、次学期初めに内容に関するコメントを配布する。				
受講生に望むこと	シラバスの内容をよく確認した上で受講すること。 学習に自発的、積極的に取り組むこと。 グループディスカッションの時には他者と協調すること。 プレゼンテーションのために仲間と協力して学習に取り組むこと。			教科書・テキスト	なし。 適宜資料を配布する。		
指定図書参考書等	なし/園田雅代・無藤清子（2011）『臨床心理学とは何だろうか：基本を学び、考える』新曜社 ISBN:4788512262、岩壁茂・福島哲夫・伊藤絵美（2013）『臨床心理学入門：多様なアプローチを越境する』有斐閣 ISBN：9784641220034			その他・特記事項	1回程度、他学科の教員などゲストスピーカーをお招きする可能性がある。 受講生の理解度に応じて進度を変更する可能性がある。		

子ども教育学科
(2年次)

授業科目名	EK200U プロゼミA		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	福江 厚啓・大井 佳子・虹釜 和昭・姫野 俊幸・谷 昌代（代表教員 福江 厚啓）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
プロゼミは、3年次から始まる専門ゼミの前段階として位置づけている。基礎ゼミで培ったレポート作成やディスカッション能力等の技能を高め、より専門性を志向した展開を行っていく。			①ゼミ運営に積極的に協力し、学びを深めていくことができる。 ②専門ゼミで必要とされる、議論する力、分析する力、文脈を読み解く力、自分なりの意見をまとめる力を身につける。				
教授方法	各ゼミごとによる演習						
履修条件	「基礎ゼミ」を履修済みの者または「基礎ゼミ」を履修中の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	前半：オリエンテーション（合同） 後半：ゼミ内での自己紹介 各ゼミ運営についての説明 成績指導					全員	
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう					各担当教員	
3	論文作成のポイント（合同）					虹釜、大井	
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう					各担当教員	
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう					各担当教員	
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう					各担当教員	
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう					各担当教員	
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう					各担当教員	
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう					各担当教員	
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう					各担当教員	
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう					各担当教員	
12	ゼミ内における発表Ⅰ					各担当教員	
13	ゼミ内における発表Ⅱ					各担当教員	
14	プロゼミA発表会（合同）					全員	
15	前半：2年次後期の履修登録（合同） 後半：各ゼミでのまとめ					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	30	意欲的に参加：30点、概ね参加：15点、意欲的でない：5点を基準とする。		レポート	40	ポイントを押さえ、概要と意見を分けた文になっているか。	
レジュメの作成と発表	30	①分かりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。 ②聞き手が理解しやすい発表となっているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①学内外の講座・セミナーへの参加、フィールドワーク、ゼミ担当者が指定・推薦する文献の講読など。 ②各自選択した研究テーマについて積極的に研究を進め、オリジナルなレポートを準備すること。[60分]				テーマ設定やレポート作成等についての疑問は・質問の申し出にはいつでも対応する。			
受講生に望むこと	プロゼミでの学びが3年次からの専門ゼミへとつながっていくので、自ら学ぶ姿勢をもって参加すること。			教科書・テキスト	各ゼミごとに教員の指示にしたがうこと。		
指定図書参考書等	各ゼミごとに教員の指示にしたがうこと。／各ゼミごとに教員の指示にしたがうこと。			その他・特記事項	ゼミ単位で指導を行うので、不明な点は自分の所属するゼミ教員に問い合わせること。		

授業科目名	EK210U プロゼミB		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	伊藤 雄二・田邊 圭子・姫野 俊幸・谷 昌代・高村 真希（代表教員 伊藤 雄二）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
プロゼミAに引き続き、自己課題を明確に持って自分の興味関心のある分野を深めていくなかで、専門ゼミでのテーマを絞りこめるよう専門性を追求していく。			①ゼミ運営に協力的にかかわることができる。 ②専門ゼミで必要とされる、課題を設定する力、討論する力、分析する力、文脈を読み解く力、自分なりの意見をまとめる力が身につく。				
教授方法	各ゼミごとによる演習						
履修条件	「プロゼミ A」を履修した者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	前半：実習にかかわる成績についての指導（合同） 後半：ゼミ内での自己紹介 各ゼミ運営についての説明 成績指導					全員	
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
12	ゼミ内における発表 I					各担当教員	
13	ゼミ内における発表 II					各担当教員	
14	プロゼミ B 発表会（合同）					全員	
15	前半：3年次の履修登録、専門ゼミ・卒業研究についての説明（合同） 後半：各ゼミのまとめ					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	30	①研究テーマに熱心に取り組んでいる。 ②ディスカッション等では、人の意見を聞きつつ、自分の意見をしっかりと述べることができる。		レポート	40	①文章構成が適切か。 ②事実と自分の考えをと区別して書いているか。 ③意見の根拠が明示されているか。 ④分かりやすい文章であるか。	
レジュメの作成と発表	30	①分かりやすくポイントをまとめた資料を作成している。 ②時間内で聞き手に分かりやすく発表している。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①学内外の講座・セミナーへの参加、フィールドワーク、ゼミ担当者が指定・推薦する文献の講読など。 ②各自選択した研究テーマについて積極的に研究を進め、オリジナルなレポートの準備をする。[60分]				テーマ設定やレポート作成等についての疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。			
受講生に望むこと	ゼミ内で各自の研究計画に関する情報交換を積極的に行い、視野を広めつつ自分が興味関心をもつ分野についての専門性を深めて、3年次から始まる専門ゼミに臨む。			教科書・テキスト	各ゼミごとに教員の指示に従うこと。		
指定図書参考書等	各ゼミごとに教員の指示に従うこと。／各ゼミごとに教員の指示に従うこと。			その他・特記事項	ゼミ単位で指導を行うので、不明な点は自分の所属するゼミ教員に問い合わせること。		

授業科目名	EK220U 発達心理学		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	齊藤 英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)・認定心				
授業の概要			授業の到達目標				
人間がどのような発達過程をたどるかを理解することは、保育や教育に携わるうえで重要な視点である。本講義では、発達心理学研究の具体的な成果をもとに、乳幼児期から青年期を中心に、人間の心理的発達のしくみについて学ぶ。			①発達心理学の諸理論に関する基礎知識を答えられる。 ②各年齢期において達成されるべき発達課題を答えられる。 ③発達心理学の知見を踏まえ、乳幼児期から青年期の子どもに対する基本的な関わりについて考察できる。				
教授方法	講義を中心にワークなども取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問なのか。発達心理学を学ぶ意義を理解する。						
2	「発達」を考える①：「発達を決めるのは遺伝か環境か」、「年をとるのは衰退か成熟か」などの疑問をもとに、人の「発達」について考える。						
3	「発達」を考える②：人の発達において、各発達段階で達成しておくことが望まれる「発達課題」について理解する。また、発達課題と教育との関連について考える。						
4	胎児期～乳児期①：お腹のなかにいる赤ちゃんに意識はあるのだろうか。生後間もない赤ちゃんはただ泣いているだけだろうか。胎児や新生児の発達と有能さについて理解する。						
5	胎児期～乳児期②：赤ちゃんはどのように外界と関わっているか。乳児期の情動、認知、言語の発達について考える。						
6	胎児期～乳児期③：対人関係の基盤となるものは何か。情緒的な絆である「愛着（アタッチメント）」について考える。						
7	幼児期①：「ぼく・わたし」はいつ成立するか。子どもの言語発達や自己概念の成立について考える。						
8	幼児期②：なぜ子どもにとって「遊び」は重要なのか。「象徴機能」や社会性の発達を通して、子どもにおける遊びの重要性について考える。						
9	幼児期③：子どもはどのように「賢く」なっていくか。幼児期における認知発達について考える。						
10	児童期①：子どもの対人関係はどう変わっていくか。友人関係の展開を中心に学童期の子どもが抱えやすい問題について考える。						
11	児童期②：物事の善し悪しや思いやりはどのように育つか。学童期の子どもの「道徳性」や「向社会性」の発達について考える。						
12	青年期①：「人は二度生まれる」の二度目の誕生とは。青年期における身体と心の変化、周囲との関係の変化について考える。						
13	青年期②：「自分らしさ」とは何だろうか。青年期の重要な発達課題とされる「自我同一性（アイデンティティ）」について考える。						
14	成人期・老年期：家庭を持ち親になることの意味、老いや病がもたらすもの、死を目前にした人間について考える。						
15	「発達障害」の理解と対応：発達障害は親のしつけや本人の性格が原因ではない。では、発達障害とは何だろうか。発達障害を正しく理解し、適切な関わりを考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
各回のミニ・レポート	30	講義内容に対する意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。		定期試験	70	発達心理学の諸理論、発達課題、子どもに対する適切な関わりなど、授業で取り上げる内容の知識が獲得されていることが評価基準。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の当該箇所を読んでおく。[30分] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、発達心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分] ③発達心理学の下位領域・関連領域である「乳幼児心理学」「児童心理学」「青年心理学」「発達障害」などの参考書を用いて、知識を深める。			毎回のミニ・レポートについては、次回の授業のときに内容に関する振り返りを行います。				
受講生に望むこと	授業の内容が今後の自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的に受講することを望みます。			教科書・テキスト	『問いからはじめる発達心理学』坂上裕子・山口智子・林 創・中間玲子 有斐閣 2014年 ISBN:978-4641150133		
指定図書参考書等	なし/『保育の心理学Ⅰ・Ⅱ』本郷一夫編 建帛社 2015年 ISBN:978-4767950358、『発達心理学で読み解く保育エピソード』若尾良徳・岡部康成 北樹出版 2010年 ISBN:978-4779302510、『エピソードでつかむ生涯発達心理学』岡本祐子・深瀬裕子編 ミネルヴァ書房 2013年 ISBN:978-4623065318、『エピソードでつかむ児童心理学』伊藤亜矢子編 ミネルヴァ書房 2011年 ISBN:978-4623058259			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EK230U 教育心理学		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	齊藤 英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)・認定心				
授業の概要			授業の到達目標				
教育心理学における主要な領域(発達、学習、評価、集団・適応)について講義する。本講義では、教育活動について心理学の視点から理解を深め、効果的な学びを促すにはどうすればよいかについて考える。			①子どもの心身の発達過程を答えられる。 ②心理的発達の特徴を踏まえた上で、学習過程で生じる心理的メカニズムについて答えられる。 ③主体的な学習を支える集団づくりと集団への適応に関して正しい知識を答えられる。 ④教育活動の評価の意義および役割を答えられる。				
教授方法	講義を中心にワークなども取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション:教育心理学は、どのような学問なのか。教育心理学の主な領域である「発達」「学習」「評価」「集団・適応」の概要と、教育心理学の研究法を理解する。						
2	発達と教育①「発達課題と教育」:人間の発達と教育の関連について、人の「発達段階」や「発達課題」を通して考える。						
3	発達と教育②「発達における教育の役割」:ピアジェやヴィゴツキーの発達理論を通して発達における教育の役割を考える。						
4	学習①「学習理論①」:学びはどのようにして生じるか。条件づけ理論を通して、学習が起こるメカニズムについて考える。						
5	学習②「学習理論②」:学びはどのようにして生じるか。学習に関する様々な理論を通して、学習が起こるメカニズムについて考える。						
6	学習③「学習と教授理論」:どのような教え方が効果的だろうか。さまざまな教授理論を比較しながら各教授法の特徴を考える。						
7	学習④「動機づけ」:やる気はどこから生じるか。動機づけに関する研究を通して、学ぶ意欲について考える。						
8	学習⑤「記憶」:学びの基礎になる記憶の理論を学ぶ。記憶に関する研究成果を紹介し、学習においてどのように活用できるか考える。						
9	学習⑥「学習指導と個人差」:すべての子どもに同じ教え方でよいだろうか。教授方法と個人差との関係を通して、学習指導について考える。						
10	評価①「知能」:知能とは何だろうか、どのように測定できるだろうか。知能に関する様々な理論と測定方法を学び、「知能が高い(低い)」とはどのようなことか考える。						
11	評価②「教育評価」:教育評価とは何か、誰が誰の何を評価するのだろうか。教育評価の意義を理解し、教育における評価の役割を考える。						
12	集団・適応①「学級集団」:学級は単なる個人の集まりだろうか。集団心理や成員間の相互作用などを通して、学級集団について考える。						
13	集団・適応②「不登校・いじめ」:不登校やいじめの問題を通して、学校や学級集団への適応を考える。						
14	集団・適応③「発達障害・精神障害」:発達障害や精神障害を抱えた子どもの学校や学級集団への適応を考える。						
15	集団・適応④「学校カウンセリング」:学校や家庭において、子どもの心の問題にどのように取り組んでいくことができるだろうか。学校現場での心理支援活動について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
各回のミニ・レポート	30	講義内容に対する感想や意見を記述すること(講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい)。		定期試験	70	教育心理学の主要な内容(発達、学習、評価、集団・適応)に関する基礎知識が獲得されていることが評価基準。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
①授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の当該箇所を読んでおく。[30分] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、教育心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分] ③教育心理学と関連の深い「発達心理学」「学習心理学」「認知心理学」「学校心理学」などの関連書籍に当たり、知識を深める。			毎回のミニ・レポートについては、次回の授業時に内容に関する振り返りを行います。				
受講生に望むこと	授業の内容が、自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的に受講することを望みます。			教科書・テキスト	『教育心理学』 服部環・外山美樹 サイエンス社 2013年 ISBN: 4781913253		
指定図書参考書等	なし/『教育心理学Ⅰ』 大村彰道編 東京大学出版会 1996年 ISBN: 978-4130520720、『教育心理学Ⅱ』 下山晴彦編 東京大学出版会 1998年 ISBN: 978-4130520744			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EK240U 初歩文献講読		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	村井 万寿夫						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目では子どもを中心に置く。子どもの行動を観察することは易しい、行動として見て取ることができるからである。しかし、頭の中で何を考えているか、つまり、思考を把握することは難しい。さらに、思考を伸ばすことはもっと難しい。そこで、『子どものものの考え方』の文献を購読し、子どものものの考え方を発達に従って理解するとともに、子どもへのかかわり方について学生自身が考えることを中心に授業を展開する。</p>			<p>①子どもの考え方に興味・関心をもっている。 ②自己の割当ての箇所(節)について、責任をもってレポートしている。 ③子どもの考え方について「知ったこと」「驚いたこと」「これからの子どもとのかかわりに生かせること」などの観点から議論(グループ討議)に参加している。 ④子どもの行動や思考、感情などに関する図書を自らで購読している。</p>				
教授方法	演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	はじめに 子どもの思考を知ることはなぜ大切か(子どもの考え方に興味・関心をもつ。)						
2	思考とはどういうことか ①思考の意味(思考の意味について知る/担当によるレポート/議論する。)						
3	思考とはどういうことか ②思考の種類(思考の種類について知る/担当によるレポート/議論する。)						
4	思考とはどういうことか ③思考のはかり方(思考のはかり方について知る/担当によるレポート/議論する。)						
5	子どもの思考はどのように発達するか ①発達するとはどういうことか(発達するとはどういうことかについて知る/担当によるレポート/議論する。)						
6	子どもの思考はどのように発達するか ②思考の発達のすじみち(思考の発達のすじみちについて知る/担当によるレポート/議論する。)						
7	子どもの思考はどのように発達するか ③論理的思考の生まれるまで(論理的思考の生まれるまでについて知る/担当によるレポート/議論する。)						
8	子どもの思考の「わくぐみ」はどうつくられるか ①「いくつ」「何番目」という思考(「いくつ」「何番目」という思考について知る/担当によるレポート/議論する。)						
9	子どもの思考の「わくぐみ」はどうつくられるか ②「どれほど」「どれだけ」という思考(「どれほど」「どれだけ」という思考について知る/担当によるレポート/議論する。)						
10	子どもの思考の「わくぐみ」はどうつくられるか ③「どんな大きさ」「どんな形」という思考(「どんな大きさ」「どんな形」という思考について知る/担当によるレポート/議論する。)						
11	子どもの思考の「わくぐみ」はどうつくられるか ④「いつ」「何歳」という思考(「いつ」「何歳」という思考について知る/担当によるレポート/議論する。)						
12	子どもの思考の「わくぐみ」はどうつくられるか ⑤「たまたま」「おそらく」という思考(「たまたま」「おそらく」という思考について知る/担当によるレポート/議論する。)						
13	子どもの思考の「わくぐみ」はどうつくられるか ⑥「なぜ」「どうして」という思考(「なぜ」「どうして」という思考について知る/担当によるレポート/議論する。)						
14	子どもの科学的思考をどう育てるか ①社会的思考の指導(社会的思考の指導について知る/担当によるレポート/議論する。)						
15	子どもの科学的思考をどう育てるか ②社会的思考の指導(社会的思考の指導について知る/担当によるレポート/議論する。)						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
レポート	30	自己に割当てられた箇所(節)のレポートを指定の項目に従って作成し、提出している。	文献への書き込み	20	事前学習において文献に3色ボールペンを使い分けて書き込みしている。		
議論への参加	30	レポーターのレポートをもとにグループ討議に進んで参加(発言)している。	各回の感想文	20	各回の授業後に感想文を書き、所定のファイルにファイルングしている。		
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
<p>①各回の授業の範囲(節)を事前に読み、該当ページ(行)にメモをする。メモの際、3色ボールペンを用いて、感想を3つ(「知ったこと」「驚いたこと」「これからの子どもとのかかわりに生かせること」)に分けて書く。[60分] ②振り返りシートに各授業後の感想を観点(「知ったこと」「驚いたこと」「これからの子どもとのかかわりに生かせること」「その他」)に分けて書く。[30分] ③分けて書いたことをもとに各回の感想を文章にまとめる。[30分]</p>			<p>①自己に割り当てられた箇所(節)のレポートに対するの評価コメントを返す。 ②議論への参加は「教師評価(先生による評価)」と「自己評価(学生自身による評価)」の2種類を用いて評定尺度(よくできた、できた、あまりできなかった、できなかったの4段階)で評価する。</p>				
受講生に望むこと	・子どもの考え方が少しずつ分かってくると、子どもとかわることがもっと楽しくなります。子どものことをもっと知りたいと思う気持ちで大事にして受講してください。		教科書・テキスト	『子どものものの考え方』、波多野完治・滝沢武久著、岩波新書490、1963年出版、ISBN4-00-412121-3 ※大学で一括購入が不可の場合、授業担当者が受講生の人数分をネット購入する。本図書は極めて良書である。			
指定図書参考書等	なし/『子どもの認識と感情』、波多野完治著、岩波新書939、1975年出版、ISBN:4004121221		その他・特記事項	なし			

授業科目名	ES250U コミュニティブ・イングリッシュA		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	伊藤 雄二					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
世界の若者のインタビューを基にした教材を用いて、毎回1つのテーマを取り上げ、リスニング・リーディングで内容を理解し、インタラクティブ・アクティビティを通じて自分の考えをスピーキング、ライティングで表現する。			様々なトピックについてリスニング、スピーキングを中心とした活動を通じて内容理解・得た情報・表現を用いて、簡潔に自分の考えを英語で話したり書いたりできるようになる。			
教授方法	講義・演習・ディスカッション・プレゼンテーション・スピーチ					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	イントロダクション・自己紹介・授業の進め方					
2	休暇について、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる					
3	エンターテインメントについて、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる					
4	食べ物と飲み物について、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる					
5	旅行について、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる					
6	教育について、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる					
7	ファッションについて、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる					
8	これまでのテーマから一つを選びショートスピーチ					
9	海外に住むことについて、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる					
10	仕事・就職について、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる					
11	健康について、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる					
12	学生生活について、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる					
13	芸術について、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる					
14	ショッピングについて、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる					
15	これまでのテーマから一つを選びプレゼンテーション					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
ショートスピーチ	20	学習したトピックについて4技能を統合的に身に付けているか。		小テスト	60	各回のトピックスについて4技能を統合的に身に付けているか。
プレゼンテーション	20	4技能を統合的に活用してプレゼンテーションができるか。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
各回の授業の復習 [30分] 次時の小テストの準備 [20分]				随時行う		
受講生に望むこと	積極的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとすること。			教科書・テキスト	『World Interviews: Improving Listening and Speaking Skills』 Miles Craven著 成美堂 ISBN 978-4-7919-4587-0	
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	ES340U コミュニティブ・イングリッシュB		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	宮浦 国江						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中学校教諭一種免許状(英語)				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、「コミュニケーション・イングリッシュA」に続いて、中学校教諭一種免許状(英語)取得を目指す者が英語教員として必要な高度な英語運用力を習得するための必修科目である。Bでは、毎回、身近で興味深いテーマについてリスニング・リーディングを通じて賛否両論を知り、様々な練習問題を通じて理解を深めた後、自分の考えをスピーキング・ライティングで表現する。基本、授業はすべて英語で行う。</p>			<p>様々なテーマについての賛否をリスニング・リーディングを通じて内容理解し、得た情報・表現を用いて簡潔に自分の考えをスピーキング・ライティングにより発信できるようにする。</p>				
教授方法	演習						
履修条件	①基本的には中学英語教免、小学校教免取得を目指す者、②すべて英語で行う授業に見合う英語力を有する者③「コミュニケーション・イングリッシュA」を履修した者(単位未修得可)						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション・アイスブレイキング						
2	大学秋入学のテーマについて、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる						
3	高校部活のテーマについて、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる						
4	プロスポーツのテーマについて、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる						
5	買い物行動のテーマについて、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる						
6	デート費用のテーマについて、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる						
7	SNSのテーマについて、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる						
8	これまでのテーマから1つを選びショートスピーチ						
9	歩きスマホのテーマについて、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる						
10	ビデオゲームのテーマについて、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる						
11	お祭りのテーマについて、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる						
12	食事のテーマについて、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる						
13	血液型のテーマについて、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる						
14	ファッションのテーマについて、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる						
15	これまでのテーマから1つを選びプレゼンテーション						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
ショートスピーチ	10	自分が設定したテーマについて、新しい情報や自分の考えを加えて英語スピーチができているか		テスト	50	授業で学んだことを理解し、自分のことばとして使えるか	
プレゼンテーション	20	自分が設定したテーマについて、新しい情報や自分の考えを加えて英語2プレゼンテーションができているか		英文エッセイ	20	正しい英語で論理的に組み立てたエッセイが書けているか	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①毎回授業で扱う課の英文を読み、すべてに解答を記入した上で授業に臨む。 [45分] ②毎回宿題の英文エッセイを仕上げ、次回授業開始時に提出する。 [45分] ③スピーチやプレゼンテーションの回は、各自原稿、スライド、発音など準備をする。 [60分]</p>				<p>毎回課題の英文エッセイについては、次回までに添削して返却。スピーチ、プレゼンについては、授業内で相互評価、自己評価とともに教員からコメントをする。</p>			
受講生に望むこと	毎回、異なるテーマについて英文を読み、聞き、それを土台にしてスピーキング、ライティングで表現することを着実に積み重ねていこう。授業中は、細かい文法にこだわるより、自身の意見を英語で声に出すことが大事なので、そのためにも予習は十分して話す内容を用意しておくこと。			教科書・テキスト	Johnathan Lynch・倭文光太郎著 『Two Sides of Every Discussion』2016年 成美堂 ISBN: 9784791947843		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ES260U 英語科教育法 I		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	宮浦 国江						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中学校教諭一種免許状(英語)				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、中学校教諭一種免許状(英語)を取得しようとする者にとっての必修科目であり、中学校英語教育の目的と目標を明確にし、英語教員として必要な英語教育についての基礎知識を学ぶ科目である。</p>			<p>①日本の英語教育の歴史について理解した上で、今日の英語教育の目的について正しい理解を持つ。 ②学習指導要領のめざす英語力育成がどのようなものかについて正しい理解を持つ。 ③主な英語教授法について特徴、利点、課題等を正しく理解し、重要な教授法についてある程度の実践力をもつ。</p>				
教授方法	講義、ディスカッション、発表						
履修条件	中学校教諭一種免許状(英語)取得を目指す者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション 中学校英語教員に必要な知識・スキル・資質について考える						
2	自分の受けてきた英語教育をふりかえる(英語教育目的論と教師論の導入)						
3	国際化時代の英語の役割(目的について考える)						
4	国際化時代の英語の役割と世界の英語教育						
5	コミュニケーション能力の育成について						
6	日本の英語教育をふりかえる(1) 外国語との接触から1980年代まで						
7	日本の英語教育をふりかえる(2) グローバル化とコミュニケーションの時代の英語教育						
8	学習指導要領(1):これまでの学習指導要領をたどる						
9	学習指導要領(2):現在の学習指導要領がめざすもの						
10	学習指導要領(3):英語教員に求められていることを考える						
11	主な英語教授法(1):文法訳読法等						
12	主な英語教授法(2):直接的口頭重視指導法						
13	主な英語教授法(3):コミュニカティブ教授法						
14	英語教師論について考える						
15	まとめ 今日求められている英語教育について						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加状況・ディスカッション	20	関連資料にあたるなど積極的に英語教育について知識を得た上で授業に積極的に取り組んでいるか		課題	30	講義内容に関連した課題を指示に従って仕上げているか	
期末テスト	50	「英語教育法I」で学んだことが正しく理解し、自分のことばで表現できているか					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>①次回授業内容について下調べをして関連資料にあたる [50分] ②課題がある時には、関連図書にあたるなどして課題をまとめる。 [40分] ③中学英語教員に求められる英語運用力をつけるため毎日英語多読図書、リスニングなど英語学習を進める。 [30分]</p>				<p>課題にはコメントを付して返却し、注目すべきものについては授業中にも全体ディスカッションの中で取り上げる。</p>			
受講生に望むこと	中学英語教員を目指す学生は、絶えず自身の英語力を高める努力を続けること。英語教育にとって何が重要かを絶えず考えたり、良い実践に触れる機会を作る。			教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・高梨庸雄・高橋正夫著. 2012. 『新・英語教育学概論[改訂版]』. 東京: 金星堂. ISBN: 978-4764739475 ・中学校英語教科書 『中学校学習指導要領科解説 外国語編』 		
指定図書参考書等	なし/学習指導要領、その他については開講時に指示する			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ES265U 英語科教育法Ⅱ		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	伊藤 雄二					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
英語科教育法Iに引き続き、英語コミュニケーション能力の育成に必要な知識と技能を学ぶ。小テーマにより、10～15分程度の模擬授業を実践する。			英語科教育法Ⅰで学んだ知識をもとに、学習指導要領の目標とする英語指導に必要な知識と技能を身につける。			
教授方法	講義・演習・模擬授業・ディスカッション					
履修条件	中学校の英語教員免許取得希望者で英語科教育法Ⅰを履修済みであることが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション 英語科教育法Iを踏まえ、教育実習のための具体的準備を知る					
2	英語教育を成功させる要因を考える					
3	学習者の側面から英語教育を考える					
4	早期英語教育の現状と小・中・高連携について知る					
5	英語の4技能についての概要を知る					
6	リスニングとその指導法について具体例を学ぶ					
7	リーディングとその指導法について具体例を学ぶ					
8	スピーキングとその指導法について具体例を学ぶ					
9	ライティングとその指導法について具体例を学ぶ					
10	4技能を統合した指導法について具体的に学ぶ					
11	教材研究と教材作成について具体例を学ぶ					
12	授業の組み立てについて理解し、指導案を作成してみる					
13	授業運営について(コミュニケーション活動に焦点をあてて)学ぶ					
14	授業計画から評価までの手順を学ぶ					
15	まとめ ミニ模擬授業とその振り返りを行い、自己課題を把握する					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
毎回の小テスト	30	各単元の予習を前提に小テストを行うので、基本的な内容を理解しているか。		試験	50	各単元の基礎及び4技能の活動例を理解しているか。
授業参加状況	20	グループワークやディスカッションに積極的に参加しているか。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
中学校・高校の授業を積極的に参観すること。 石川県や金沢市の英語教育に関する講習会や研究会に積極的に参加すること。				返却時に行う		
受講生に望むこと	実際に授業を参観して、「授業を観る目を養う」こと。 講習会や研究会に参加して、積極的に意見を発すること。			教科書・テキスト	『英語教育学概論[改訂新版]』高橋正夫著 金星堂 ISBN 4-7647-3721-3、『中学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省 開隆堂 ISBN 978-4-304-04210-2	
指定図書参考書等	参考図書：中学校英語教科書、『高等学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省 開隆堂 ISBN:978-4-30404164-8、『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』文部科学省 東洋館出版社 2008 ISBN-13: 978-4491023779			その他・特記事項	なし	

授業科目名	EL210U トラベル・イングリッシュA		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	本間 千重子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
近年ますます身近になってきた海外旅行、さらに日本を訪れる訪日外国人の数もかなり増加している今日、あらゆる場面で想定される旅行英語や日本を紹介する英語に触れる機会も多くなってきている。この授業の目的は、実際の場を想定して行われる観光分野における英語の基本的知識を学習することにより旅の過程で遭遇する英語表現を身につけていく学習することにある。具体的には、(1)旅行基礎英語、(2)英語圏はじめ世界の国々の文化事情、(3)ケーススタディ(旅行業務の実際)について学習する。			①観光分野で主に使用される英語の語彙を習得する。②聞き取りや理解力を強化し、英語での応答力を習得する。③観光地の英文記事の内容を理解できる力を習得する。④日本語と英語二か国語がより迅速にinputとoutputなるよう身体で体感していく。				
教授方法	テキスト学習の上、ロールプレー・プレゼンテーション(一人・グループ)を取り入れる。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイドランス：授業の内容、進め方、成績評価について説明し、日常生活の中で身近に感じる海外の国々、興味がある国々について話し合いながら、旅と英語の関わりについて考える。(異文化と英語の必要性を理解する。)						
2	Unit 1: At the airport 空港内で必要な語彙を学ぶ。航空機搭乗案内を聞き取る。E-ticket内容の英語表現を読む。(航空便搭乗手続きに必要な語彙を覚える。)						
3	Unit 2: On the plane 機内で使用する語彙や表現を学ぶ。機長のアナウンスを聞き取る。機内で上映される映画のプログラムを読む。(座席番号他機内で想定される英語表現を学ぶ。)						
4	Unit 3: Arrival 到着後入国審査に進み、預けた荷物を受け取り、到着ロビーへ進む一連の流れを英語で学ぶ。(入国審査手続きでの英語のやりとり、荷物の紛失、税関申告、到着ロビーに向かう流れを学ぶ。)						
5	Unit 4: Checking in at the hotel 宿泊ホテルチェックインでのフロントでのやりとり、宿泊設備の確認、朝食のスタイル・内容を理解する。(予約確認、宿泊条件など確認すべき事柄とそれらの英語表現を言えるようにする。)						
6	Unit 5: Getting information and sightseeing 観光地見学先の情報を得る。(観光情報を得るために自ら英語で聞きたいことを質問する練習を行う。気温で摂氏と華氏の換算方法を学ぶ。)						
7	Unit 6: Ordering fast food ファストフード店での注文方法や飲食物の語彙を学ぶ。(カタカナ英語を英語の音で発音する、メニュー内容と値段を聞き取る練習を行う。)						
8	Unit 7: Going to the theater 映画、コンサート、ミュージカル、オペラ、バレエなどエンタテインメントの表現を学ぶ。(国名、都市名を英語で書き、発音を練習する。)						
9	Unit 8: At the restaurant レストランの予約を入れる、注文をする表現を学ぶ。(レストランでのやりとりをロールプレー形式で行い、食事を注文する練習を行う。)						
10	Unit 9: Shopping ショッピングとセールの案内を理解する。(いろいろな状況が想定されるなか、特に清算時に起こりうるおつりのまちがえにクレームする表現を学ぶ。)						
11	Unit 10: Lost and found 忘れ物と紛失物がでた場合、報告書と報告内容を記入することを学ぶ。(万一ハプニングに遭遇しても、どのような対応をすべきかシミュレーションを行う。)						
12	Unit 11: Using public transportation 旅先で公共交通機関を使用する際に必要な語彙を学ぶ。(駅、フェリー乗り場、路面電車、路線バスなどを利用して自分の足で歩く基本表現を学ぶ。)						
13	Unit 12: Renting a bike 自転車を借りる。契約内容の読み取りや申込み書記入方法を学ぶ。(交通ルール、マナー、日本と違う点を調べる。)						
14	Unit 13: Finding your way around 道を探す、道に迷った場合の英語表現を学ぶ。(聞きたいことを的確に伝えられるか明確に英語で表現することを学ぶ。)						
15	Unit 14 Medical care & 15: Leaving for home 海外で病気になった時の英語表現、帰国の途につく。まとめ(簡単な医療英語や病状の言い方を学ぶ。)						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小テスト	20	各履修単元の内容が理解できているか筆記試験を実施する。		定期試験	40	試験範囲、形式、評価基準等は後日掲示する。	
授業参加状況	20	授業への取り組み姿勢。		発表	20	英語の運用力がついているか評価する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①テキストの次週授業単元の学習内容に目を通しておくこと。指定された項目の単語を事前に調べておく。(30分) ②英語科目の他メディア媒介を利用して世界情勢、観光情報など知識を得ておく。(30分) ③付属CDを聞いて履修項目の復習をする。(10分)				①小テストは実施後回収、採点した上で次回授業時にコメント返却する。②課題トは、提出後に授業内で口頭にてコメントする。③発表は、実施後次回内容に関するコメントを配布する。			
受講生に望むこと	①身の回りに旅に関する知識や情報を得られる機会は多くある。好奇心をもって国内外のことに目を向けるよう心掛ける。②授業中の携帯電話、スマートフォンを辞書として使用禁止とする。③授業内での私語・携帯電話の使用・居眠りなどの受講態度が認められた場合には、厳重注意をする。			教科書・テキスト	『Enjoy Your Trip! English you need abroad 旅英語の心得』竹内 一範・中井 延美・菅原 千津著 南雲堂 2015年 ISBN:978-4-523-17783-8 C 0082		
指定図書参考書等	なし/『異文化理解とコミュニケーション<1>ことばと文化』本名信行・秋山高二・竹下裕子・ペイツ ホッファー著 三修社 2005年 ISBN-10: 4384040717. 『異文化理解』青木保著 岩波新書 2001年 ISBN-10: 4004307406. 『旅行業プロの英語教本』岩瀬恒子・喜田慶文著 柴田書店 1989年 ISBN-10: 4388152005			その他・特記事項	この授業は、観光英語検定試験3級〜2級レベルの参考とする。総合旅行業務取扱管理者試験問題(英語)への手がかりとする。		

授業科目名	EL220U トラベル・イングリッシュB		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	本間 千重子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>近年ますます身近になってきた海外旅行、さらに日本を訪れる訪日外国人の数もかなり増加している今日、あらゆる場面で想定される旅行英語や日本を紹介する英語に触れる機会も多くなってきている。この授業の目的は、実際の場を想定して行われる観光分野における英語の基本的知識を学習することにより旅の過程で遭遇する英語表現を身につけていく学習することにある。具体的には、(1)旅行基礎英語、(2)英語圏はじめ世界の国々の文化事情、(3)ケーススタディ(旅行業務の実際)について学習する。</p>			<p>①観光分野で主に使用される英語の語彙を習得する。②聞き取りや英文の理解力を強化し、英語での応答力を習得する。③観光英語の基礎知識を学ぶ。④日本語と英語二か国語がより迅速にinputとoutputなるよう体感できるようになる。</p>				
教授方法	テキスト学習の上、ロールプレー・ペアワーク・プレゼンテーション(一人・グループ)を取り入れる。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス：授業の内容、進め方、成績評価について説明し、海外の国々、日本についても話し合いながら、旅と英語の関わりについて考える。(英語を通して日本文化への興味をもつ。)						
2	Unit 1 Japan Hokkaido 英日、日英、語彙のチェック、パンフレット内容を確認する。(key wordを聞き取るディクテーション練習を行う。)						
3	Unit 2 Japan Kyoto e-mailを敏速に読み内容を把握する。(寺・神社など日本文化事象に関する英語表現を学ぶ。)						
4	Unit 3 Japan Yufuin e-mailで返事を出す内容の表現を学ぶ。(実際に返事メールを英語で書いてみる練習をする。)						
5	Unit 4 Japan Okinawa レストランガイドを読み内容を把握する。(郷土料理を英語で紹介する練習をする。)						
6	Unit 5 Singapore ホームページの空港ガイド、チャンギ国際空港の英語案内を読む。(出入国カードを英語で記入する練習をする。)						
7	Unit 6 Bali, Indonesia ツアーパンフレットを読み、エコツーリズムについて学ぶ。(旅行会社の英語パンフレットの内容を理解できるようにする。)						
8	Unit 7 Sydney, Australia シドニー湾クルーズの広告内容の読み取りを行う。(南半球の地ならではの表現を知ると共にウオータースポーツの英語語彙を学ぶ。)						
9	Unit 8 Hawaii, the USA "Aloha State" ハワイの紹介文を聞き取る。(火山など自然に関する英単語を学ぶ。)						
10	Unit 9 London, the UK ロンドンの公共交通機関、簡単な紹介をディクテーション形式で聞き取る。(ロンドンならではの乗り物など、関連する英単語を学ぶ。簡単なレジユメの書き方を学ぶ。)						
11	Unit 10 France e-mail文(クレーム文)の内容を読み取る練習をする。(ツアー参加者からのクレームの具体的な内容は何か、英文を明確に把握する。(英文内容を、詳細に読み取ることを学ぶ。))						
12	Unit 11 Museums in Europe 7か所の博物館・美術館を英文でたどってみる。(中でも有名な展示物を挙げ作品・作者を英語で紹介できるように練習する。)						
13	Unit 12 New York, the USA Broadwayのミュージカルレビューを読む練習をする。(大きな数の数字を言える書ける練習を行う。)						
14	Unit 13 Boston the USA スポーツに関する問い合わせのメールの表現を学ぶ。(丁寧なお願い表現を使えるように、英文の中からそれらの表現を探し出し、実際に例文を作成してみる練習を行う。)						
15	Unit 14 Canada & Rio de Janeiro, Brazil ハンドブックとガイドブックを読み取る練習をする。まとめ。(受動態表現を用いた婉曲的な表現を学ぶ練習をする。)						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小テスト	20	各履修単元の内容が理解できているか筆記試験を実施する。		定期試験	40	試験範囲、形式、評価基準等は後日掲示する。	
授業参加状況	20	授業への取り組み姿勢。		発表	20	英語の運用力がついているか評価する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
①テキストの次週授業単元の学習内容に目を通しておくこと。指定された項目の単語を事前に調べておく。(30分) ②英語科目の他メディア媒介を利用して世界情勢、観光情報など知識を得ておく。(30分) ③履修項目の英単語。英語表現の見直しをする。(10分)			①小テストは実施後回収、採点した上で次回授業時にコメント返却する。②課題は、提出後に授業内で口頭にてコメントする。③発表は、実施した後次回内容に関するコメントを配布する。				
受講生に望むこと	①身の回りのあらゆるところに旅に関する知識や情報を得られる機会にあふれている。好奇心をもって国内外のことに目を向けるよう心掛ける。②授業中の携帯電話、スマートフォンを辞書として使用禁止とする。③授業内での私語・携帯電話の使用・居眠りなどの受講態度が認められた場合には、厳重注意をする。		教科書・テキスト	『English for Tourism 101 一から学ぶ観光英語の基礎～日本から世界へ～』津田晶子・クリストファーヴァルヴォア・岩本弓子著 南雲堂 2014年 ISBN 978-523-17760 C0082			
指定図書参考書等	なし/『異文化理解とコミュニケーション<1>ことばと文化』本名信行・秋山高二・竹下裕子・ベイツ ホッフナー著 三修社 2005年 ISBN-10: 4384040717. 『異文化理解』青木保著 岩波新書 2001年 ISBN-10: 4004307406. 『旅行業プロの英語教本』岩瀬恒子・喜田慶文著 柴田書店 1989年 ISBN-10: 4388152005		その他・特記事項	この授業は、観光英語検定試験3級～2級レベルの参考とする。総合旅行業務取扱管理者試験問題(英語)への手がかりとする。ボランティア通訳の入門編とする。			

授業科目名	EL230U ビジネス・イングリッシュA		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	本間 千重子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
本講座では主にビジネスに関わる英語を中心に学習する。将来社会にでると遭遇するであろう場面の中で「聞き取る」「話す」、文書形式「書く」を中心に、ビジネス英語の基本を学ぶ。また、ビジネスの場面で日本独特の言い回しを英語でどのように表現するとよいかを学ぶ機会とする。プレゼンテーション（発話力を高める）を実施し、例えば面接の場面など英語を使い人前で話すことに慣れていく練習をする。			①ビジネス場を想定した英語表現を学ぶ。②「聞く」「話す」機会を多く取り入れ、英語を使うことに慣れる。③英語を話すだけではなく、話す内容を充実させていくために時の話題に関心をもつ。④ビジネス文書他「書く」ための文例を学ぶ。⑤ニュース英語を学ぶ。				
教授方法	テキスト学習の上、ペアワーク・ロールプレイ・プレゼンテーションを取り入れる。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス：授業の内容、進め方、成績評価について説明し、特にビジネスに関する英語には多岐にわたる分野があることを知る。（電話・面接・約束をとりつける・ビジネス文書・手紙・e-mail他具体的な用例を学ぶ。）						
2	Unit 1 Job Hunting(1)-Writing a Resume 電話のやりとりにおける聞き取り・書き取りを行う。（電話のやりとり英文例を言えるようになる。英音レジュメの形式を学ぶ。）						
3	Unit 2 Job Hunting(2)-Writing an Application Letter 就職申し込みの聞き取り・書き取りを行う。（書類送付の際のカバーレターの英語表現を学ぶ。）						
4	Unit 3 Job Hunting (3)-Arranging an Interview 面接の日時や場所をおさえる練習を行う。（志望動機を聞かれた際の返事の仕方、I appreciate your kindness.丁寧なお礼の言い方を使える。）						
5	プロジェクト① Unit 1～Unit 3の内容をアレンジして、グループごとにオリジナルのスキットを作成し、発表する。（文字からの理解とは異なり、既習表現を駆使して場面設定に即した英語に慣れていく。）						
6	Unit 4 Job Hunting(4)-A Job Interview 面接における質問に答える場面の聞き取り・書き取りを行う。（be impressed with～. 受動態表現を使えるようになる。声に出して口で覚える。）						
7	Unit 5 Job Offer 雇用条件の確認をとる用語を学ぶ。（形容詞annual, social、第5文型の文を表現できる。）						
8	Unit 6 The First Day at Work 入社初日の挨拶やりとり、ビジネスメモの取り方を学ぶ。（Wh-疑問文を使い、場所、時間など質問する練習をする。）						
9	プロジェクト② Unit 4～Unit 6の内容をアレンジして、ペアワークで場面会話を作成し、発表する。（既習の英単語を口で覚えて使えるようになる。）						
10	Unit 7 Preparing to Work オフィス事務用品の用語を学ぶ。（日本語のホッチキス、英語ではなんというのかなど言えそうで言えない事務用品を調べる。）						
11	Unit 8 Telephoning (1) 留守中の同僚に代わり伝言を受ける表現を学ぶ。（固有名詞をひろえるようにする。）						
12	Unit 9 Telephoning (2) Taking a Message オフィスにかかってくる電話への対応を聞き取る。（相手の言うことが聞き取れなかった場合の言い直しをお願いをする。）						
13	プロジェクト③ Unit 7～Unit 9。ロールプレイ：かかってきた電話を受けた上で伝言をメモし、内容を伝える練習をする。（既習表現を駆使して場面設定に即した英語に慣れていく。）						
14	Unit 10 Telephoning (3) Making an Appointment 新商品の紹介のため面会の予約をとる。（S+V+Cの文例を使う。スケジュール表を日本語を英語に翻訳してみる練習をする。）						
15	Unit 11 Visiting a Client 新製品の売り込みに行く。（助動詞+have+過去分詞の表現を使える。）まとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小テスト	20	各履修内容の単元の内容が理解できているか筆記試験を実施する。		定期試験	40	試験範囲、形式、評価基準等は後日提示する。	
授業参加状況	20	授業への取り組み姿勢。		発表	20	英語の運用力がついているか評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①テキストの指定された項目を事前に調べておく。（30分）②英語科目の他メディア媒介を利用して世界情勢、時事、日本のことなど知識を得ておく。（30分）③提出する課題を準備する。（30分）				①小テストは実施後回収、採点した上で次回授業時にコメント返却する。②課題は、提出後に授業内で口頭にてコメントする。③発表は、実施後次回内容に関するコメントを配布する。			
受講生に望むこと	①ビジネスに関する知識や情報を得られる機会にあふれている。好奇心をもって国内外のことに目を向けるよう心掛ける。②授業中の携帯電話、スマートフォンを辞書として使用禁止とする。③授業内での私語・携帯電話の使用・居眠りなどの受講態度が認められた場合には、厳重注意をする。			教科書・テキスト	『BUSINESS TALK やさしいオフィス英語』城 由紀子・島田拓司・Edward J. Schaefer著 成美堂 2015年第19刷 ISBN 978-4-7919-4711-9 C2082		
指定図書参考書等	なし/『ビジネスで使える英語の1分間スピーチ』小坂貴志・ジョンワンドラー著 研究社 2006年 ISBN 4-327-43058-7、『英語で伝える日本の文化と社会 英和対訳 必須トピック30』五十嵐昭人著 2010年 南雲堂フェニックス ISBN 978-4-88896-428-9 C0082			その他・特記事項	TOEIC、英語検定試験、国連英語検定、ビジネス英語検定などへの手がかりとする。		

授業科目名	EL240U ビジネス・イングリッシュB		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	本間 千重子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
本講座では主にビジネスに関わる英語を中心に前期に続き学習する。将来社会にでると遭遇するであろう場面の中で「聞き取る」「話す」、文書形式「書く」を中心に、ビジネス英語の基本を学ぶ。また、ビジネスの場面で日本独特の言い回しを英語でどのように表現するとよいかを学ぶ機会とする。プレゼンテーション（発話力を高める）を実施し、例えば新商品を紹介するなど英語を使い人前で話すことに慣れていく練習をする。			①ビジネス場を想定した英語表現を学ぶ。②「聞く」「話す」機会を多く取り入れ、英語を使うことに慣れる。③英語を話すだけではなく、話す内容を充実させていくために時の話題に関心をもつ。④ビジネス文書他「書く」ための文例を学ぶ。⑤ニュース英語を学ぶ。				
教授方法	テキスト学習の上、ペアワーク・ロールプレイ・プレゼンテーションを取り入れる。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス：授業の内容、進め方、成績評価について説明し、特にビジネスに関する英語には多岐にわたる分野があることを知る。（前期の続編。ビジネス英語力をつけることにより簡単な英文で内容あることを表現できるようにする。）						
2	Unit 12 Receiving a Visitor (1) - Preparatin アメリカからの客を日本に迎える。旅程表を作成する。（be supposed to doの表現を使う。）						
3	Unit 13 Receiving a Visitor (2) - Meeting at Narita Airport FAX送付状の例を学ぶ。（You mean～. を使えるようになる。）						
4	Unit 14 Receiving a Visitor (3) - A Business Lunch 日本食のメニューを紹介する。（和食メニューを英語で説明する。）						
5	プロジェクト① Unit 12～Unit 14の内容をアレンジして、グループごとにオリジナルのスキットを作成し、発表する。（日本の紹介、日本食の紹介、日本の事象、金沢案内などテーマを選び調べてみる。）						
6	Unit 15 Receiving a Visitor (4) - Visiting a Factory 日本の工場を訪問する。（be able to doを使う文例を学ぶ。）						
7	Unit 16 Receiving a Visitor (5) - Sightseeing in Kyoto 京都案内をする。（主な有名な観光場所を英語で言えるようにしてみる。）						
8	Unit 17 Working for an International Exhibition 国際見本市自社ブース担当。（アンケートは英語で、冊子は英語で、英語の語彙を覚える。）						
9	プロジェクト② Unit 15～Unit 17の内容をアレンジして、ペアワークで場面会話を作成し、発表する。（金沢を案内するという設定で見学先を選びガイドする。）						
10	Unit 18 Preparing for the First Overseas Business Trip 海外出張にでかける。（in charge of～の使い方を学ぶ。）						
11	Unit 19 The First Overseas Business Trip (1) - At Los Angels Airport LAX空港到着（出張に関する英語表現をまとめる。）						
12	Unit 20 The First Overseas Business Trip (2)- Welcome Party 歓迎会の招待状文面を学ぶ。（R.S.V.Pなど省略表現の使い方を練習する。）						
13	Unit 21 The First Overseas Business Trip (3) - Presentation アメリカ本部の会社でプレゼンテーションを行う。（スピーチの挨拶の表現を学ぶ。）						
14	Unit 22 Writing a Thank-you Letter お礼状を書く。手紙の文面を学ぶ。（It was really a great honor・・・形式の英文表現を覚える。）						
15	プロジェクト③ Unit 18～Unit 22。ビジネス場面を設定し、プレゼンテーションを実施する。（新商品の紹介など場面を適宜想定した上でPower Pointなどメディアを使用し創意工夫してまとめる発表を試みる。）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小テスト	20	各履修内容の単元の内容が理解できているか筆記試験を実施する。		定期試験	40	試験範囲、形式、評価基準等は後日提示する。	
授業参加状況	20	授業への取り組み姿勢。		発表	20	英語の運用力がついているか評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①テキストの指定された項目を事前に調べておく。（30分） ②英語科目の他メディア媒介を利用して世界情勢、時事、日本のことなど知識を得ておく。（30分） ③提出する課題を準備する。（30分）			①小テストは実施後回収、採点した上で次回授業時にコメント返却する。②課題は、提出後に授業内で口頭にてコメントする。③発表は、実施後次回内容に関するコメントを配布する。				
受講生に望むこと	①ビジネスに関する知識や情報を得られる機会にあふれている。好奇心をもって国内外のことに目を向けるよう心掛ける。②授業中の携帯電話、スマートフォンを辞書として使用禁止とする。③授業内での私語・携帯電話の使用・居眠りなどの受講態度が認められた場合には、厳重注意をする。		教科書・テキスト	『BUSINESS TALK やさしいオフィス英語』城 由紀子・島田拓司・Edward J. Schaefer著 成美堂 2015年第19刷 ISBN 978-4-7919-4711-9 C2082			
指定図書参考書等	なし/『ビジネスで使える英語の1分間スピーチ』小坂貴志・ジョンワンドラー著 研究社 2006年 ISBN 4-327-43058-7、『英語で伝える日本の文化と社会 英和対訳 必須トピック30』五十嵐昭人著 2010年 南雲堂フェニックス ISBN 978-4-88896-428-9 C0082		その他・特記事項	TOEIC、英語検定試験、国連英語検定、ビジネス英語検定などへの手がかりとする。			

授業科目名	EE210U 理科		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	姫野 俊幸						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>小学校学習指導要領における理科の目標及び各学年の内容、系統性について理解するとともに、具体的な授業場面において、どのような観察・実験を行うのか、どのように指導するのか、どのように評価するのかについても考えていく。</p>			<p>1) 小学校学習指導要領における理科の目標及び主な内容を理解する。 2) 理科の各学年の学習内容・観察・実験等についての指導上の留意点について理解する。 3) 理科の学習評価の考え方を理解する。 4) 理科の背景となる物理・科学・生物・地学等とのつながりを理解し、教材研究に活用しようとする。</p>				
教授方法	講義と演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価の方法を知る。理科を学ぶ意味について理解する。						
2	新しい学習指導要領について理解する。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、理科の学習における「理科の見方・考え方」。						
3	新しい学習指導要領について理解する。理科の内容構成の改善。内容領域の構成。						
4	各領域の内容の概観。「物質・エネルギー」の内容と系統性を理解する。						
5	各領域の内容の概観。「物質・エネルギー」の内容と系統性を理解する。						
6	各領域の内容の概観。「生命・地球」の内容と系統性を理解する。						
7	各領域の内容の概観。「生命・地球」の内容と系統性を理解する。						
8	各学年の内容の概観。第1学年の「生活科」の内容で理科との関連について理解する。						
9	各学年の内容の概観。第2学年の「生活科」の内容で理科との関連について理解する。						
10	各学年の内容の概観。第3学年の内容と観察・実験の実際を理解する。						
11	各学年の内容の概観。第4学年の内容と観察・実験の実際を理解する。						
12	各学年の内容の概観。第5学年の内容と観察・実験の実際を理解する。						
13	各学年の内容の概観。第6学年の内容と観察・実験の実際を理解する。						
14	具体的に授業を設定し、教材研究に取り組み、指導案を作成する。						
15	作成した指導案をもとに模擬授業を実施し、討議する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	50	小学校理科の目標及び内容について、キーワードを中心に記述形式で理解度を評価する。		レポート	40	授業感想及び課題内容に応じたレポートを書くことができたかを評価する。	
授業参加態度	10	授業への取り組み姿勢を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①授業で示す課題に取り組み、次回の授業の開始時に提出する。(60分) ②授業の感想と振り返りを記入し、次回の授業の開始時に提出する。(20分)</p>				毎回のレポートは、採点及びコメントを付けて返却する。			
受講生に望むこと	小学校の理科学習を想起しながら、実際に観察をしたり、実験をしたりして、理科を好きになってもらいたい。			教科書・テキスト	「小学校学習指導要領解説 理科編」文部科学省2017		
指定図書参考書等	なし。授業中に適宜資料を配布する。			その他・特記事項	なし。		

授業科目名	EE215U 家庭		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	金丸 洋子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>小学校教諭免許取得のための必須科目である。『小学校学習指導要領解説家庭編』をもとに、小学校家庭科の果たすべき役割や指導内容について学ぶ。指導内容に関わる教えるための基礎的・基本的な知識や技能を習得することを目的とする。家庭科は実践的態度を育てることが教科のねらいであり特徴である。授業を通して、受講生自身の日常生活における自立や家庭・社会の一員としての自分自身の生活を振り返る。</p>			<p>①教科の目標や各領域の基礎的・基本的知識を理解している。 ②調理や布を使った製作の基礎的技能を習得している。 ③家庭生活や家族についての現状と課題について理解している。 ④自分の日常生活を振り返り実践につなげようとしている。</p>				
教授方法	講義 グループ活動 実習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業概要説明：授業内容の概略・進め方・成績評価方法の説明を基に授業への見通しをもつ。「衣食住」「生活の自立」「家庭科」の密接な関係について考え理解する。						
2	子どもの家庭生活の実態：アンケート結果から実態を読み取りその背景を考える。グループ活動						
3	家庭科の目標：現行及び新学習指導要領の比較を通して、家庭科の目標及び内容構成について理解する。						
4	A領域「家庭生活と家族」：ねらいや指導内容・指導にあたっての留意点について理解する。						
5	手作りおやつと団らん：実習を通して基礎的技能を習得すると共に団らんの大切さや工夫する楽しさを体験的に理解する。自分と家庭・家族とのかかわりについて考える。グループ活動						
6	B領域「日常の食事と調理の基礎」：ねらいや指導内容・指導にあたっての留意点について理解する。						
7	栄養を考えた食事：調和のとれた食事について理解し1食分の献立をたてることできる。自分自身の食生活を振り返ることができる。						
8	調理実習：調理の基礎的知識や技能を習得する。調理実習指導の配慮事項について体験的に理解する。グループ活動						
9	C領域「快適な衣服と住まい」：ねらいや指導内容・指導にあたっての留意点について理解する。						
10	快適な衣服：衣服の着用と手入れについて実験や実習を通して基礎的知識・技能を習得する。日々の実践に活かす。						
11	快適な住まい方：快適な住まい方の基礎的な知識・方法を理解し自分の生活を工夫できる。エネルギー問題や生活環境の見直しに関心をもつ。						
12	生活に役立つ物の製作：布を用いる製作物を考え製作計画立案し、製作の仕方の見通しをもつことができる。						
13	生活に役立つ物の製作：製作物に応じた縫い方を考えて製作し、基礎的・基本的な知識や技能を習得する。製作に必要な用具の安全な取扱いができる。						
14	D領域「身近な消費生活と環境」：ねらいや指導内容・指導にあたっての留意点について理解する。						
15	家庭生活や地域での課題：これからの家庭や社会生活の課題を考える。自分自身の家庭生活を振り返り実践への心構えをもつ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
実習や製作物	30	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的、主体的に実習に参加しているか。 ・製作計画や提出期限を遵守しているか。 ・製作方法や仕上がりが良いか、工夫があるか。 		定期試験 (筆記試験)	50	基礎的・基本的知識を理解しているか。自分の家庭生活を振り返っているか。	
事後レポート	20	理解したことや課題についてまとめているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>事前学習 次時の課題についてテキストを読んだり調べたりする。製作や実習の準備をする。[30分] 事後学習 授業で学んだ事柄や考えをまとめレポートを提出する。製作計画に基づき課外で仕上げる。[30分]</p>				<p>事後レポートにはコメントをつけて返却する。 製作物を評価し返却する。手直し再提出を求める場合がある。</p>			
受講生に望むこと	家庭科は日々の生活の科目であり、「家庭科の基礎・基本」は「生活の基本」と言える。しかし、現代の消費生活主流の中で「衣・食・住」のほとんどが、他に依存するようになり、生活の基本がゆらいできている。家庭科の基礎基本を学び、できる・教える力をつけてほしい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説家庭編』文部科学省 東洋館 2008年 ISBN978-4-491-02374-8C3037 『家庭科の基本』流田直監修 Gakken 2012年 ISBN978-4-05-405222-2C2037		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	実習費徴収 製作物材料費は個人負担		

授業科目名	EE310U 算数科教育法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	姫野 俊幸						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
算数科の学習指導に関して小学校教員として必要な基礎的な能力を育成するために、小学校算数科の目標や指導内容、教材研究や指導計画、学習評価・学習指導法等について実践的に学習していく。			1) 算数科の指導方法や目標、内容、評価等に関する基本的な事項を理解する。 2) 算数科の教材研究や学習指導案の作成等について知り、授業実践に活かそうとする。 3) 算数科に関する児童の実態及び学習指導についての考えを深める。				
教授方法	講義と演習						
履修条件	「算数」を履修した者または「算数」を履修中の者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業の概要、授業の進め方、成績評価の方法を知る。算数教育の意義について理解する。						
2	算数科の目標、指導内容とその概観。						
3	学習指導要領における授業改善の視点について理解する。						
4	低学年の内容とその指導①（数と計算）						
5	低学年の内容とその指導②（図形、測定、データの活用）						
6	中学年の内容とその指導①（数と計算）						
7	中学年の内容とその指導②（図形、測定、変化と関係、データの活用）						
8	高学年の内容とその指導①（数と計算）						
9	高学年の内容とその指導②（図形、変化と関係、データの活用）						
10	算数科の教材研究（含：ICTの活用）の進め方						
11	算数科の授業の構成、指導案立案、評価の仕方、ICTの活用						
12	模擬授業の実施と協議①（授業観）						
13	模擬授業の実施と協議②（教材論）						
14	模擬授業の実施と協議③（方法論）						
15	模擬授業の実施と協議④（評価論）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	50	授業感想及び課題内容に応じたレポートを書くことができたかを評価する。		模擬授業	40	丁寧に教材研究を行い、模擬授業を行うことができたかを評価する。	
授業参加態度	10	授業への取り組み姿勢を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①授業で示す課題に取り組み、次回の授業の開始時に提出する。(60分) ②授業の感想と振り返りを記入し、次回の授業の開始時に提出する。(20分)				毎回のレポートは、採点及びコメントを付けて返却する。			
受講生に望むこと	小学校の教員として、子供たちに算数科の学習を仕組むときに、どのようなことに留意しなければならないかについて具体的に理解してほしい。			教科書・テキスト	「小学校学習指導要領解説 算数編」文部科学省2017		
指定図書参考書等	なし。授業中に適宜資料を配布する。			その他・特記事項	なし。		

授業科目名	EE315U 理科教育法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	姫野 俊幸						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
理科の学習指導に関して小学校教員として必要な基礎的な能力を育成するために、小学校理科の目標や指導内容、教材研究や指導計画、学習評価・学習指導法等について実践的に学習していく。			1) 理科の指導方法や目標、内容、評価等に関する基本的な事項を理解する。 2) 理科の教材研究や学習指導案の作成等について知り、授業実践に活かそうとする。 3) 理科に関する児童の実態及び学習指導についての考えを深める。				
教授方法	講義と演習						
履修条件	「理科」を履修していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業の概要、授業の進め方、成績評価の方法を知る。理科教育の意義について理解する。						
2	理科の目標、指導内容とその概観、授業改善の視点について理解する。						
3	実験することの意義、注意点、実験の実際。						
4	小学校理科A分野（物質・エネルギー）の内容とその指導①						
5	小学校理科A分野（物質・エネルギー）の内容とその指導②						
6	小学校理科B分野（生命・地球）の内容とその指導①						
7	小学校理科B分野（生命・地球）の内容とその指導②						
8	野外における理科指導法の研究（3年生「身近な自然の観察」）						
9	理科実験指導法の研究（5年生「ものの溶け方」）						
10	理科の教材研究（含：ICTの活用）の進め方						
11	理科の授業の構成、指導案立案、評価の仕方、ICTの活用						
12	模擬授業の実施と協議①（授業観）						
13	模擬授業の実施と協議②（教材論）						
14	模擬授業の実施と協議③（方法論）						
15	模擬授業の実施と協議④（評価論）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	50	授業感想及び課題内容に応じたレポートを書くことができたかを評価する。		模擬授業	40	丁寧に教材研究を行い、模擬授業を行うことができたかを評価する。	
授業参加態度	10	授業への取り組み姿勢を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①授業で示す課題に取り組み、次回の授業の開始時に提出する。(60分) ②授業の感想と振り返りを記入し、次回の授業の開始時に提出する。(20分)				毎回のレポートは、採点及びコメントを付けて返却する。			
受講生に望むこと	小学校の教員として、子供たちに理科の学習を仕組むときに、どのようなことに留意しなければならないかについて具体的に理解してほしい。			教科書・テキスト	「小学校学習指導要領解説 理科編」文部科学省2017		
指定図書参考書等	授業中に適宜資料を配布する			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EE300U 社会科教育法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	福江 厚啓						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>学習指導要領「社会科」の教科目標には、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」を育成する、とある。小学校3年生から6年生まで、それぞれの発達の段階に応じた社会科の学習指導を行うために必要な技能を身につけることを目指し、実践的に学んでいく。</p>			<p>①小学校社会科の目標、意義、内容、指導法、評価について理解を深め、授業実践のための基礎的知識および技能を身に付ける。 ②社会科の主な指導内容・方法を選択し、学習指導計画案の作成や模擬授業を通じて、その特色や問題点などについて実践的に理解を深める。</p>				
教授方法	講義および教材研究、単元計画・指導案の作成の課題、模擬授業など						
履修条件	「社会」を履修していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。						
2	小学校社会科における教科の本質について理解する。						
3	社会科指導のあり方（教材研究、指導計画立案）を理解する。						
4	社会科指導のあり方（授業展開、評価）を理解する。						
5	3・4 学年における社会科教育の目標と内容を理解する。						
6	5・6 学年における社会科教育の目標と内容を理解する。						
7	3 学年における社会科教育の指導計画の作成を理解する。						
8	4 学年における社会科教育の指導計画の作成を理解する。						
9	5 学年における社会科教育の指導計画の作成を理解する。						
10	6学年における社会科教育の指導計画の作成を理解する。（社会科学習指導案①の提出）						
11	学生による模擬授業の実施と反省、評価①（3学年）						
12	学生による模擬授業の実施と反省、評価②（4学年）						
13	学生による模擬授業の実施と反省、評価③（5学年）						
14	学生による模擬授業の実施と反省、評価④（6学年）						
15	全体ふりかえり、まとめ、社会科学習指導案②（修正版）の提出						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
学習指導計画案	25	模擬授業実施のための学習指導計画案を作成する。その際、十分に教材研究をし、創意工夫をおこなっている。		模擬授業	30	授業づくりに積極的に参加することができる。	
修正指導案・期末レポート	25	模擬授業や担当教員による助言を踏まえ、修正版指導案を提出する。また、授業づくりについての学びを簡潔にまとめることができる。		講義ごとの対話カード	20	毎回の講義の終わりに、疑問や意見、感想等を「対話カード」に書き、提出する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>単元計画・指導案の作成、模擬授業の準備のため、授業時間外に積極的に教材研究を行う。【60分】 市内の小学校の学習支援に積極的に参加する。【60分以上】</p>				<p>学習指導計画案は、初回に提出されたものに担当教員が指導助言を行い、いったん返却する。模擬授業等を踏まえて修正を行ったものを期末に再提出するものとする。2週間程度を目安に、コメントをつけて返却する。 対話カードの内容は、次時の講義の冒頭で紹介したい。</p>			
受講生に望むこと	社会科実践に興味をもって教材研究を進めたり、仲間とともに授業をつくったりすることを大切にしてほしい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説社会科編』文科省、東洋館出版社、2008年、978-4-491-02372-4 （※上記は現行のもの。出版されていれば、新学習指導要領版を使用する）		
指定図書参考書等	授業の中で適宜紹介する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EE320U 生活科教育法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	福江 厚啓						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>戦前戦後の日本における生活科教育思想の系譜、小学校低学年における社会科・理科の廃止と生活科新設の経緯、授業づくりの諸課題等についての理解を深める。</p> <p>1、2年生の発達段階に応じた生活科の授業づくりや適切な支援を行うために必要な技能を身に付けることを目指し、実践的に学んでいく。</p>			<p>①生活科の目標、意義、内容、指導法、評価について理解を深め、授業実践のための基礎的知識および技能を身に付ける。</p> <p>②生活科の主な指導内容・方法を選択し、学習指導計画案の作成や模擬授業を通じて、その特色や問題点などについて実践的に理解を深める。</p>				
教授方法	講義および教材研究、単元計画・指導案の作成の課題、模擬授業など						
履修条件	「生活」1年次後期2単位の修得者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。						
2	生活科新設の経緯と生活科教育思想の系譜について理解する。						
3	教材研究、指導計画立案、評価、授業展開について理解する。						
4	生活科授業づくりの様々な課題について理解する。						
5	生活科授業づくりにおける「気付き」について理解する。						
6	1学年生活科の目標と内容を理解する。						
7	2学年生活科の目標と内容を理解する。						
8	1学年における生活科学学習指導計画の作成について理解する。						
9	2学年における生活科学学習指導計画の作成について理解する。（生活科学学習指導案①の提出）						
10	学生による模擬授業の実施と反省、評価①（1学年）						
11	学生による模擬授業の実施と反省、評価②（1学年）						
12	学生による模擬授業の実施と反省、評価③（2学年）						
13	学生による模擬授業の実施と反省、評価④（2学年）						
14	模擬授業全体を通じてのまとめと改善について考える。						
15	全体ふりかえり、まとめ、生活科学学習指導案②（修正版）の提出						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
学習指導計画案	25	模擬授業実施のための学習指導計画案を作成する。その際、十分に教材研究をし、創意工夫を行っている。		模擬授業	30	授業づくりに積極的に参加することができる。	
修正指導案・期末レポート	25	模擬授業や担当教員による助言を踏まえ、修正版指導案を提出する。また、授業づくりについての学びを簡潔にまとめることができる。		講義ごとの対話カード	20	毎回の講義の終わりに、疑問や意見、感想等を「対話カード」に書き、提出する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>三小・山周辺の自然に興味を持ち、生物や暮らしについて学ぶ。【20分】</p> <p>単元計画・指導案の作成、模擬授業の準備のため、授業時間外に積極的に教材研究を行う。【60分】</p> <p>市内の小学校の学習支援に積極的に参加する。【60分以上】</p>			<p>学習指導計画案は、初回に提出されたものに担当教員が指導助言を行い、いったん返却する。模擬授業等を踏まえて修正を行ったものを期末に再提出するものとする。2週間程度を目安に、コメントをつけて返却する。</p> <p>対話カードの内容は、次時の講義の冒頭で紹介したい。</p>				
受講生に望むこと	生活科実践に興味をもって教材研究を進めたり、仲間とともに授業をつくったりすることを大切にしてほしい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領生活科』文部科学省、日本文教出版、2008年、978-4-536-59002-0（※上記は現行のもの。出版されていれば、新指導要領版を使用する）		
指定図書参考書等	授業の中で適宜紹介する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EE325U 図画工作教育法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	鷲山 靖						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
1. カリキュラムにおける位置付け ①この科目は資格取得に必要な科目である。 ②この科目は「図画工作」に接続する科目である。 ③この科目は保育内容の表現に関する科目と関連がある。 2. 授業のねらい ①図画工作科教育の理念と歴史を学び、図画工作を教える信念を持つ。 ②図画工作科の学習指導の基本的技術を習得する。 3. 授業の進め方 ①テーマごとに講義・作品制作・評価・鑑賞・ノート作成を行う。 ②期末に基礎知識・技能に関する筆記試験を行う。			①図画工作科の教育理念及びその歴史を理解している。 ②図画工作科授業の計画・実践に関する基本的な知識・技能を習得している。 ③図画工作科授業の評価に関する基本的な知識・技能を習得している。				
教授方法	スライドによる講義の他、教科書検討・口頭発表・グループ学習による演習を行い、期末の筆記試験により基礎知識の理解を深める。						
履修条件	「図画工作」を履修した者または「図画工作」を履修中の者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業の計画、到達目標、成績評価の方法、事前・事後学習を理解する。 基礎知識①：図画工作科の教育理念とその歴史を理解する。						
2	基礎知識②：図画工作科の授業時数・目標・内容・配慮事項について、学習指導要領と学校教育法施行規則を検討し理解する。						
3	基礎知識③：図画工作科の表現・鑑賞指導の共通事項について、学習指導要領及び図画工作科教科書を検討し理解する。						
4	基礎知識④：図画工作科が主に取り扱う材料・用具とその安全な使い方および表現技法について、図画工作科教科書を検討しを理解する。						
5	基礎知識⑤：児童の描画の発達過程について、図画工作科教科書及び関係資料を検討し理解する。						
6	基礎知識⑥：図画工作科における題材の系統性や道徳・環境問題・人権尊重・国際理解・文化の伝承や文化遺産の尊重との関連について、図画工作科教科書を検討し理解する。						
7	基礎知識⑦：図画工作科授業の成立要件と図画工作科題材の特性について理解する。						
8	授業構想・演習①：図画工作科の年間指導計画の要点・立案方法について、演習を通じて理解・習得する。						
9	授業構想・演習②：図画工作科の学習指導案の要点・立案方法について、演習を通じて理解・習得する。						
10	授業構想・演習③：図画工作科における指導言とその要点を理解する。						
11	授業構想・演習④：図画工作科における発問・説明の要点・方法について理解する。						
12	授業構想・演習⑤：図画工作科における発問・説明の要点・方法について、発表（個人）・相互評価形式による演習を通じて理解・習得する。						
13	授業構想・演習⑥：図画工作科における学習評価の理論と方法を理解する。						
14	授業構想・演習⑦：図画工作科題材の評価規準の要点・作成方法について、演習（グループ）を通じて理解・習得する。						
15	授業構想・演習⑧：図画工作科題材の評価規準に基づく学習評価・評定の要点・方法について、演習（グループ）を通じて理解・習得する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
受講姿勢	40	①疑問点やよく理解できないことを質問している。 ②講義内容とともに自分の考えをノートしている。 ③ミニツブペーパーや小課題に取り組み、提出している。		定期試験	60	図画工作科教育の視野を広げ、その理論・授業方法を理解することができた。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①授業内容に対する自分の考えや意見、気付きをノートに書き留める。[10分] ②教科書・テキストを読み直し、授業に関係なく各自読み進む。[30分]			課題（演習）の成果は、担当教員による評価（口頭）に加えて、受講者による相互評価（口頭）を行う。				
受講生に望むこと	①スライド進行が早いと感じたら、その事を遠慮なく担当教員に伝えること。 ②考えたこと、思ったことなど気付きをどんどんノートしておくことを勧めます。		教科書・テキスト	①『図画工作1・2上～5・6下』日本文教出版 1.2上 ISBN978-4-536-10016-8 1.2下 ISBN978-4-536-10017-5 3.4上 ISBN978-4-536-10018-2 3.4下 ISBN978-4-536-10019-9 5.6上 ISBN 978-4-536-10020-5 5.6下 ISBN978-4-536-10021-2 ②『小学校学習指導要領解説図画工作編』日本文教出版 ISBN978-4-536-59001-3 ③『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 小学校 図画工作』教育出版 ISBN978-4-316-30037-5			
指定図書参考書等	なし/授業時に随時紹介する		その他・特記事項	なし			

授業科目名	EE330U 音楽科教育法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	多保田 治江					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>小学校学習指導要領「音楽科」の教科目標には、「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。」とある。第1学年から第6学年まで、それぞれの発達段階に応じた音楽科の学習指導を行うために必要な技能を身に付けることを目指し、実践的に学んでいく。</p>			<p>①小学校音楽科の目標、意義、内容、指導法、評価について理解を深め、授業実践のための基礎的知識及び技能を身に付ける。 ②音楽科の主な指導内容・方法を選択し、学習指導計画案の作成や模擬授業を通じて、その特色や問題点などについて実践的に理解を深める。</p>			
教授方法	講義、演習、模擬授業					
履修条件	「音楽」「器楽Ⅰ」「器楽Ⅱ」を履修していることが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。					
2	小学校音楽科における教科の本質について理解する。					
3	教科の目標と各学年の目標と内容を理解する。					
4	音楽科指導のあり方（教材研究、指導計画立案、授業展開、評価）を理解する。 A表現—歌唱Ⅰ：共通教材					
5	音楽科指導のあり方（教材研究、指導計画立案、授業展開、評価）を理解する。 A表現—歌唱Ⅱ：歌唱教材（共通教材以外）					
6	音楽科指導のあり方（教材研究、指導計画立案、授業展開、評価）を理解する。 A表現—器楽					
7	音楽科指導のあり方（教材研究、指導計画立案、授業展開、評価）を理解する。 A表現—音楽づくり B鑑賞					
8	A表現—歌唱における音楽科学習指導計画の作成について理解する。					
9	A表現—器楽における音楽科学習指導計画の作成について理解する。					
10	B鑑賞における音楽科学習指導計画の作成について理解する。音楽科学習指導計画案①の提出					
11	学生による模擬授業の実施と反省、評価Ⅰ（低学年）					
12	学生による模擬授業の実施と反省、評価Ⅱ（中学年）					
13	学生による模擬授業の実施と反省、評価Ⅲ（高学年）					
14	学生による模擬授業の実施と反省、評価Ⅳ（高学年）					
15	全体の振り返り、まとめ、音楽科学習指導計画案の提出②					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
コミュニケーションシート	20	提出状況と内容（①毎回の授業ポイントを押さえてまとめられているか。②感想だけに終わらない自らの意見が述べられているか。③自らの課題が設定されているか。）		模擬授業	20	模擬授業に対して真摯に取り組む姿勢が見られたか。
学習指導計画案①、②	40	①模擬授業実施のための学習指導計画案作成において十分に教材研究をし、創意工夫して作成されているか。 ②模擬授業や担当教員による助言を踏まえて、修正版学習指導計画案が作成されているか。		課題の取り組み	20	毎回出される課題に対して積極的に取り組んでいるかどうか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>①音楽の技能を高めるための課題を出すので積極的に取り組んで下さい。[30分] ②講義内容に対して講義後に自身で振り返り、疑問点や不明点を調べて下さい。[30分] ③学習指導計画案作成において、基本的な要件を漏れなく記載することができるように多くの学習指導計画に当たって下さい。[30分]</p>				<p>①毎回のコミュニケーションシートは、次回冒頭にコメントを付けて返却します。</p>		
受講生に望むこと	歌うことと、ピアノを演奏することを継続的に学習して下さい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説 音楽編』教育芸術社、2017年、ISBN978-4-87788-791-9／『小学校音楽科教育法』教育芸術社、2015年、ISBN978-4-87788-491-8／プリント	
指定図書参考書等	なし／なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	EE335U 家庭科教育法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	荒井 紀子					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>家庭科は、子どもに、現在の暮らしを見つめさせ、さらに将来の生活をどうつくるかを考えさせ、生活力を身につけさせる教科である。ここで扱う「生活」は、自分や家族など人に関わる内容と、衣食住、消費、環境など暮らしの営みに関わる内容からなり、各内容は密接につながっている。本授業では、生活の様々な側面をとりあげながら、子どもの生活自立を促し、暮らしへの興味や関心を高めることのできる家庭科の授業について、理論と実践の両面から学んでいく。講義の前半では、主に、文献や視聴覚資料を用いて、家庭科の歴史やカリキュラムの内容、諸外国の家庭科などについて理論的な理解を深める。後半は、具体的な授業づくりの方法について、授業計画から授業の準備と実践、省察まで、グループ活動も取り入れながら体験的に学んでいく。</p>			<p>①家庭科教育の歴史や教科の目標・内容についての基礎的理解を深める。 ②児童の生活力を高める学習の構造やカリキュラムについて認識を深める。 ③児童の意欲を引き出す学習方法を習得し授業づくりの力をつける。</p>			
教授方法	講義、視聴覚教材や文献にもとづくディスカッション、模擬授業などのグループ活動、これらを組み合わせて行う					
履修条件	「家庭」を履修していることが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業オリエンテーション（学校教育で育みたい力と家庭科との関係について、受講生自身が学んできた家庭科の授業を振り返りながら考える）					
2	家庭科教育とは何か（小学校の家庭科教諭、名取弘文先生の授業実践を読み、生徒の自発性や意欲を引き出す家庭科の特性や可能性について考える）					
3	家庭科の歴史と男女共修（1947年誕生の家庭科の60年の歴史を概観し、時代背景との関係を考える。また家庭科の男女共修の実現の経緯とプロセスについて理解する）					
4	学習指導要領と家庭科の目標・内容（学習指導要領の変遷を理解するとともに、現行の学習指導要領の目標、内容について小・中・高校の段階ごとの特徴と相互の関連をみる）					
5	諸外国の家庭科（米国、ヨーロッパ、アジアの家庭科教育について、カリキュラムや学習内容・方法を各国の教科書や資料、写真をもとに検討する）					
6	家庭科教育の目指すもの（1）（三国清三氏の「ようこそ先輩」のVTRをもとに、地域の食材と自らの五感を生かした食の学習について検討する）					
7	家庭科教育の目指すもの（2）（「家族」の授業実践例をもとに、家庭科において、自分や家族をどのような視点から学んだらよいかについて考える）					
8	新しい家庭科カリキュラムの視点と構造（子どもの自発性や生活自立力を育む家庭科カリキュラムの構造について、テキストをもとに理解する）					
9	授業を読む（1）（テキストに掲載された被服や消費生活にかかわる複数の授業を輪読し、その長所と改善点について検討する）					
10	授業を読む（2）（テキストに掲載された住居や家族にかかわる複数の授業を輪読し、その長所と改善点について検討する）					
11	家庭科模擬授業（1）授業計画を立てる（グループごとに授業テーマを確定し、授業の構想をたてる）					
12	家庭科模擬授業（2）細案を考える（取り組みたい授業テーマに沿って、数時間の単元を設定し、特に模擬授業を実施したい授業について細案をたてる）					
13	家庭科模擬授業（3）授業の準備（細案にかかわる資料や教材、教具を作成したり準備する）					
14	模擬授業（4）授業の実施（グループごとに授業を実施し、生徒役と教師役の両方を体験する）					
15	模擬授業（5）授業の省察（実際に授業をしてみてわかったことを話し合い、さらに良い授業にするにはどうしたらよいかを考える）					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
模擬授業の授業案と実践	30	授業構想がしっかりたてられているか、教材教具が適切に準備されているか、授業実践の子どもへの問いかけは適切か。		課題レポート	30	課題に求められていることを理解し、それを発展させているか、実習や調査を適切に行っているか、まとめ方や表現は適切か。
最終テスト	40	本講義で学んだことを理解しているか、それぞれの問いに対して、自分の言葉でしっかり考察できているか。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
授業の中間で、生活の問題解決に関わる課題を出します。				講義期間中に出した課題については、簡単なコメントをつけて返却するとともに、授業でもその中身をクラスで紹介し、学生の授業計画の作成等の参考となるよう配慮する。		
受講生に望むこと	受講前に教科書の「はじめに」「目次」「プロローグ」に目を通しておいて下さい。			教科書・テキスト	『新版 生活主体を育む一探究する力をつける家庭科』 荒井紀子編著、ドメス出版、2013年 ISBN：9784810707878	
指定図書／参考書等	なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	EE237U 教育課程編成論 (小・中)		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	姫野 俊幸					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>社会的背景と明確な法的根拠に基づいた「教育課程」について理解を深めるために、学習指導要領の誕生から改訂の変遷、カリキュラム・マネジメントを踏まえた新しい学習指導要領の目指すところ、教育課程の編成の方法に関して留意すべき事項等について学んでいく。</p>			<p>1) 初等・中等教育における教育課程の意義、学習指導要領の内容、役割、改訂の変遷等について理解する。 2) 教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 3) カリキュラム・マネジメントの意義について理解する。</p>			
教授方法	講義と演習					
履修条件	小学校教員免許課程および中学校教員免許課程希望者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業の概要、授業の進め方、成績評価の方法、教育課程とは何かについて					
2	教育課程の法的根拠、学習指導要領の位置づけについて					
3	教育課程の類型論 (含：外国の教育課程) について					
4	学習指導要領の歴史の変遷①1947年、1951年					
5	学習指導要領の歴史の変遷②1958年、1968年、1977年					
6	学習指導要領の歴史の変遷③1989年、1998年					
7	学習指導要領の歴史の変遷④2008年					
8	新しい学習指導要領 (2017年) について					
9	カリキュラム・マネジメントについて					
10	チーム学校について					
11	学習評価について					
12	特別活動について					
13	外国語活動・外国語について					
14	特別の教科道徳について					
15	インクルーシブ教育について					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	「教育課程」について、キーワードを中心に記述形式で理解度を評価する。		レポート	40	授業感想及び課題内容に応じたレポートを書くことができたかを評価する。
授業参加態度	10	授業への取り組み姿勢を評価する。				
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック		
<p>①授業で示す課題に取り組み、次回の授業の開始時に提出する。(60分) ②授業の感想と振り返りを記入し、次回の授業の開始時に提出する。(20分)</p>				毎回のレポートは、採点及びコメントを付けて返却する。		
受講生に望むこと	具体的な授業についての指導法ではなく、教育課程という大きな括りで、初等・中等教育について、俯瞰して見つめなおす機会としてほしい。			教科書・テキスト	なし。	
指定図書参考書等	なし。授業中に適宜資料を配布する。			その他・特記事項	なし。	

授業科目名	EE227U 道徳教育指導論 (小・中)		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	村井 万寿夫					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
道徳教育においては、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を前提に、互いに尊重し協働して社会を形作っていく上で共通に求められるルールやマナーを学び、規範意識などを育み、人としてよりよく生きる上で大切なものとは何か、自分はどのように生きるべきかなどについて、時には悩み、葛藤しつつ、考えを深め、自らの生き方を育んでいくことが求められる。そこで、道徳の教育の本質、道徳教育の歴史、学校における道徳教育、道徳の時間の学習指導の順に講義を行い、終盤では学生自らが学習指導案を作成することができることを目指す。			①道徳教育の本質について、道徳的価値の面と道徳教育の課題の面から理解している。 ②道徳教育の歴史について、戦前と戦後の道徳教育の違いをもとに理解している。 ③学校における道徳教育について、全体構造、目標、内容、指導計画、道徳の時間の指導、評価の面から構造的に理解している。 ④道徳の時間の学習指導について、小中学校の授業 (DVD) を視聴し、自己の考えや感想を持っている。 ⑤道徳の時間の学習指導案を作成している。			
教授方法	講義					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	道徳教育の本質 道徳教育とは何か (道徳教育とは何かについて知る。)					
2	道徳教育の本質 道徳教育の課題 (道徳教育の課題を知り、今日的な問題について考える。)					
3	戦前の道徳教育 近代化と道徳教育 (道徳観が徐々に徳育の強化へと進んだことを知る。)					
4	戦前の道徳教育 教育勅語発布後の道徳教育 (教育勅語以降、修身教育が重視されたことを知る。)					
5	戦後の道徳教育 終戦直後から昭和24 (1949) 年までの道徳教育 (終戦直後の道徳教育について知る。)					
6	戦後の道徳教育 その後の道徳教育 (昭和33 (1958) 年に道徳の時間が特設されたことを知る)					
7	学校における道徳教育 道徳教育の基本方針と全体構造 (学校における道徳教育の基本方針と全体構造を知る。)					
8	学校における道徳教育 道徳教育の目標 (道徳教育の目標を学習指導要領解説をもとに読み解く。)					
9	学校における道徳教育 道徳教育の内容 (道徳教育の内容を学習指導要領解説をもとに整理する。)					
10	学校における道徳教育 道徳教育の指導計画 (サンプルをもとに道徳教育の全体計画の構造と指導計画を知る。)					
11	学校における道徳教育 道徳の時間の指導 (サンプルをもとに学級における道徳教育指導計画の構造を知る。)					
12	学校における道徳教育 道徳教育の評価 (これまでの道徳と「道徳科」における評価の違いを知る。)					
13	道徳の時間の学習指導 実際の学習指導 (小中学校の実際の授業 (DVD) を視聴し、自己の考えや感想を持つ。)					
14	道徳の時間の学習指導 学習指導案の書き方 (サンプルをもとに道徳の時間の学習指導案の書き方を知る。)					
15	道徳の時間の学習指導 グループワーク・学習指導案の作成 (小学校または中学校の学習指導案を作成する。)					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験	70	・講義内容を正しく理解している。 ・道徳教育について自分の考え方を持っている。		中間レポート	10	道徳的価値の中から選択して記述するレポートを課す。
小テスト	20	・新たな基本的知識を記憶している。 ・道徳教育について理解している。				
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック		
①各回の授業は章ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。 [30分] ②各回の授業ではワークシートを配付するので、授業後、ワークシート内の“ミニッツコメント”にコメントする。 [30分] ③小学校か中学校の道徳に関し週に一度パソコン室のパソコン、または自己のスマホでネット検索して調べる。 [30分以上]				①小テストを採点して返却する。 ②中間レポートの評価コメントを返す。 ③定期試験実施直後に「模範解答」を示すので自己採点する。		
受講生に望むこと	・自己の小学校時代、中学校時代に「どのような道徳の授業があったか」の意識で受講してください。 ・教員への質問・意見がある場合、各回の授業後に直接お願いします。			教科書・テキスト	『新道徳教育の研究』、長田三男・橋本太郎編著、酒井書店、2001年出版、ISBN4-7822-0308-X 『小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編』、文部科学省、2015年告示、『中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編』、文部科学省、2017年告示※解説道徳編は小学校、中学校いずれかで可。	
指定図書参考書等	『小学校新学習指導要領の展開 特別の教科 道徳編』、永田繁雄編著、2016年発行、ISBN978-4-18-271123-7、『中学校新学習指導要領の展開 特別の教科 道徳編』、柴原弘志編著、2016年発行、ISBN978-4-18-273114-3、なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	EE232U 特別活動指導論 (小・中)		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	村井 万寿夫					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
我が国の教育は知識基盤社会をベースに、国際的視野からの人間づくり、ICTを活用した授業づくりなどを目指す中、環境問題や少子高齢化、政治参加などについて主体的に議論する児童生徒像も明確になってきている。このような状況下において、望ましい集団活動を通して児童生徒の心身の発達と個性の伸長を図り、社会の一員としての自覚と態度を育てることなどを目標とする特別活動の教育的意義や方法論などについて考え、自己の経験や実践例を通して特別活動についての理解を深める。			①特別活動の学習指導要領上での位置づけや目的について理解している。 ②特別活動の歴史的経緯や今日的意義について理解するとともに、諸活動の内容について理解している。 ③特別活動のもたらす教育上の効果や期待できる成果について、自己の経験や具体的な事例をもとに考えている。 ④「私の学級づくり」について自己の考えを持ち発表している。			
教授方法	講義					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	特別活動の今日的意義 (特別活動とは何かについて考える。)					
2	特別活動の目的論 (自己実現という目的について知る。)					
3	特別活動の内容と方法 (内容と方法の理論について知る。)					
4	特別活動における教師論 (特別活動の「指導者特性」について知る。)					
5	教育課程としての特別活動 (教育課程における特別活動の位置づけについて知る。)					
6	特別活動の歴史的変遷 (特別活動の各活動の歴史的変遷について知る。)					
7	学級活動 (学級活動の特質と内容について知る。)					
8	児童会活動、生徒会活動、クラブ活動 (児童会活動、生徒会活動、クラブ活動の特質と内容について知る。)					
9	学校行事 (各行事とその展開の工夫について知る。)					
10	特別活動と道徳教育 (特別活動と道徳教育との関係について知る。)					
11	特別活動と総合的な学習の時間 (特別活動と総合的な学習の時間との関係について知る。)					
12	特別活動と進路指導 (生徒指導) (特別活動と進路指導 (生徒指導) との関係について知る。)					
13	特色ある学校づくりと特別活動 (特色ある学校づくりと特別活動との関係について考える。)					
14	特別活動と学級経営 (特別活動と学級経営との関係について知る。)					
15	「私の学級づくり」 (自己でどのような学級 (小学校/中学校) をつくりたいか考え発表する。)					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験	70	・講義内容を正しく理解している。 ・特別活動について自分の考え方を持っている。		中間レポート	10	・講義内容を正しく理解している。 ・特別活動について自分の考え方を持っている。
小テスト	20	・新たな基本的知識を記憶している。 ・特別活動について理解している。				
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック		
①各回の授業は章ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。 [30分] ②各回の授業ではワークシートを配付するので、授業後、ワークシート内の“ミニツコメント”にコメントする。 [30分] ③特別活動の各活動に関し週に一度パソコン室のパソコン、または自己のスマホでネット検索して調べる。 [30分以上]				①小テストを採点して返却する。 ②中間レポートの評価コメントを返す。 ③定期試験実施直後に「模範解答」を示すので自己採点する。		
受講生に望むこと	・自己の小学校時代、中学校時代に「どのような特別活動を行ったか」の意識で受講してください。 ・教員への質問・意見がある場合、各回の授業後に直接お願いします。			教科書・テキスト	『個性をひらく特別活動』, 相原次男・新富康央編著, ミネルヴァ書房, 2006年出版, ISBN4-623-03443-7	
指定図書参考書等	『小学校学習指導要領解説特別活動編』, 文部科学省, 2017年告示, 『中学校学習指導要領解説特別活動編』, 文部科学省, 2017年告示/なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	EC200U 国語		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	中島 賢介・幸 聖二郎・金丸 洋子 (代表教員 中島 賢介)						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>小学校学習指導要領の国語科の目標各項の理解や教育内容の基礎的な理解を図るとともに、言語活動例の体験的な学びを通して小学校教諭および幼稚園教諭にふさわしい言語感覚や国語力を高める。</p>			<p>・日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 ・日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 ・言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。 ・小学校学習指導要領国語を正しく理解し、教育や保育活動に活用することができる。</p>				
教授方法	講義、言語活動、グループ活動、フィールドワーク						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業の概要説明、進め方、課題等の説明を聞き、授業への見通しを持つ。					全員	
2	学習指導要領改訂の要点及び国語科改訂の要点、国語科の目標について					全員	
3	「話すこと・聞くこと」領域について（1）目標について					全員	
4	「話すこと・聞くこと」領域について（2）指導事項について					全員	
5	「話すこと・聞くこと」領域について（3）言語活動例について					全員	
6	「書くこと」領域について（1）目標について					全員	
7	「書くこと」領域について（2）指導事項について					全員	
8	「書くこと」領域について（3）言語活動例について					全員	
9	「読むこと」領域について（1）目標について					全員	
10	「読むこと」領域について（2）指導事項について					全員	
11	「読むこと」領域について（3）言語活動例について					全員	
12	伝統的な言語文化について（1）映像を基にした理解					全員	
13	伝統的な言語文化について（2）体験的な理解（狂言）					全員	
14	伝統的な言語文化について（3）体験的な理解（俳句、短歌）					全員	
15	伝統的な言語文化について（4）体験的な理解（句会・歌会の実施）					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	50	授業内容の基本的な理解や知識を習得しているかを評価する。筆記試験の詳細については授業内で指示する。		事前事後小レポート	30	・事前にこれから学び事項を整理している。 ・事後に学んで理解したこと、考えたことなどについて表現している。	
言語運用能力・表現力	20	・授業内容をもとに言語を運用し、体験的理解につなげている。 ・言語感覚が鋭く豊かな表現をしている。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①事前学習 後記の回では『小学校学習指導要領解説国語編』の特定範囲を読み、レポート1枚にまとめる。 ②上記以外の事前・事後学習については、毎回の授業時に具体的に指示する。「マイことわざ集」「マイ歳時記」等の表現活動に伴う準備が主となる。 ③小学校国語教科書に紹介されている本の中から10冊を選びブックリストをつくる。</p>				<p>毎回、前回提出されたレポートの記載事項についてコメントする。 (授業内容理解に関することなど)</p>			
受講生に望むこと	国語はすべての教科の基礎であり、確固たる土台があってそれぞれの学習活動が展開できることを十分に認識して授業に臨んでほしい。(曖昧で消極的な態度は本人の学習のみならず、グループ内の活動を妨げることになる。) また、学習した内容を小学校や幼稚園の現場でどのように活用するかを考えながら授業に臨んでほしい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説国語編』（平成29年6月文部科学省） 『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示 文部科学省）		
指定図書参考書等	なし/授業中に適宜資料を配付する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EC205U 算数		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	姫野 俊幸						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>小学校学習指導要領における算数科の目標及び各学年の内容、系統性について理解するとともに、具体的な授業場面において、どのように指導するのか、どのように評価するのかについても考えていく。</p>			<p>1) 小学校学習指導要領における算数科の目標及び主な内容を理解する。 2) 算数科の各学年の学習内容についての指導上の留意点について理解する。 3) 算数科の学習評価の考え方を理解する。 4) 算数科の背景となる数学とのつながりを理解し、教材研究に活用しようとする。</p>				
教授方法	講義と演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価の方法を知る。算数を学ぶ意味について理解する。						
2	新しい学習指導要領について理解する。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、算数科の学習における「数学的な見方・考え方」、算数科の学びの過程としての「数学的活動」。						
3	新しい学習指導要領について理解する。算数科の内容構成の改善。内容領域の構成。						
4	各領域の内容の概観。「A 数と計算」の内容と系統性を理解する。						
5	各領域の内容の概観。「B 図形」の内容と系統性を理解する。						
6	各領域の内容の概観。「C 測定(下学年)」「C 変化と関係(上学年)」の内容と系統性を理解する。						
7	各領域の内容の概観。「D データの活用」の内容と系統性を理解する。						
8	各学年の内容の概観。第1学年の内容と数学的活動の実践を理解する。						
9	各学年の内容の概観。第2学年の内容と数学的活動の実践を理解する。						
10	各学年の内容の概観。第3学年の内容と数学的活動の実践を理解する。						
11	各学年の内容の概観。第4学年の内容と数学的活動の実践を理解する。						
12	各学年の内容の概観。第5学年の内容と数学的活動の実践を理解する。						
13	各学年の内容の概観。第6学年の内容と数学的活動の実践を理解する。						
14	具体的に授業を設定し、教材研究に取り組み、指導案を作成する。						
15	作成した指導案をもとに模擬授業を実施し、討議する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	50	小学校算数科の目標及び内容について、キーワードを中心に記述形式で理解度を評価する。		レポート	40	授業感想及び課題内容に応じたレポートを書くことができたかを評価する。	
授業参加態度	10	授業への取り組み姿勢を評価する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>①授業で示す課題に取り組み、次回の授業の開始時に提出する。(60分) ②授業の感想と振り返りを記入し、次回の授業の開始時に提出する。(20分)</p>				毎回のレポートは、採点及びコメントを付けて返却する。			
受講生に望むこと	小学校の算数科の学習を想起しながら、実際に問題を解いてみたり、考え方を考えたりして、算数を好きになってもらいたい。			教科書・テキスト	「小学校学習指導要領解説 算数編」文部科学省2017		
指定図書参考書等	なし。授業中に適宜資料を配布する。			その他・特記事項	なし。		

授業科目名	EC220U 音楽		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	多保田 治江						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
幼稚園教諭や小学校教員として必要な音楽科教育に関する基礎的知識や能力を養うために、歌唱や器楽の土台となる音楽理論やソルフェージュに加え、作曲、編曲の技法についても学ぶ。また、リズム楽器や旋律楽器を使った合奏や独唱・重唱・合唱などの様々な表現形態について理解を深め、豊かな感性を育む。児童教育コースと幼児保育コースの2つのコース別授業を5回行う。			①学習指導要領にみる小学校音楽科の目標及び内容を理解している。 ②小学校音楽科の指導内容について理解するとともに、その背景にある音楽とのつながりについても理解している。 ③音楽活動を取り入れた指導計画の作成と内容の取扱いについて理解している。				
教授方法	実技指導						
履修条件	「音楽表現Ⅰ」「音楽表現Ⅱ」「器楽Ⅰ」を履修していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。						
2	楽典Ⅰ：譜表と音名・拍子・リズム						
3	楽典Ⅱ：音符と休符・音程						
4	様々な歌唱方法Ⅰ：独唱						
5	様々な歌唱方法Ⅱ：重唱・合唱						
6	様々な歌唱方法Ⅲ：合唱						
7	楽典Ⅲ：音階・和音・楽式						
8	楽典Ⅳ：作曲・編曲						
9	児童教育コースⅠ：歌唱教材Ⅰ 低学年 幼児保育コースⅠ：日本の子どもの歌						
10	児童教育コースⅡ：歌唱教材Ⅱ 中学年・高学年 幼児保育コースⅡ：世界の子どもうた						
11	児童教育コースⅢ：器楽教材Ⅰ 低学年・中学年 幼児保育コースⅢ：楽器と音楽						
12	児童教育コースⅣ：器楽教材Ⅱ 高学年 幼児保育コースⅣ：合奏						
13	児童教育コースⅤ：鑑賞教材、振り返り、まとめ 幼児保育コースⅤ：振り返り、まとめ						
14	和楽器Ⅰ：箏					特別講師	
15	和楽器Ⅱ：和太鼓					特別講師	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	60	受講態度、課題への取り組み。（「受講生に望むこと」欄を参照）		コミュニケーションシート	40	提出状況と内容（①毎回の授業ポイントを押さえてまとめられているか。②感想だけに終わらない自らの意見が述べられているか。③自らの課題が設定されているか。）	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①毎回の授業後に、自身で振り返り、不明点を調べて下さい。[30分] ②次回授業のための課題について準備をして下さい。[60分]			毎回のコミュニケーションシートは、次回の冒頭にコメントを付けて返却します。				
受講生に望むこと	①毎回出される課題に積極的に取り組んで下さい。 ②個人で行う課題とグループで行う課題があるので、グループワークはチームワークよく課題に臨んでください。		教科書・テキスト	『幼児のうた楽譜集』東京書籍 2014年 ISBN978-4-487-71121-5 / 『小学校音楽科教育法』教育芸術社 2015年 ISBN978-4-87788-491-8 / プリント			
指定図書／参考書等	なし／なし		その他・特記事項	なし			

授業科目名	EC245U 器楽Ⅱ		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	多保田 治江・加藤 雅子・種池 有美子・南部 順子（代表教員 多保田 治江）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>器楽Ⅰで身に付けた個々の技能をさらに高める授業である。保育現場や初等教育で用いられている教材等の実践を通して、範唱や範奏ができるような音楽的技術を学ぶ。ピアノやキーボードを用いて、保育現場や小学校の授業で必要とされる弾き歌いや伴奏法等を学び、実践的な知識と技能を身に付けることを目的とする。授業は、グループレッスンと個人レッスンを並行して行う。グループレッスンでは豊かな感性と表現力を養うことをねらいとした課題を通して学ぶ。個人レッスンではコース別（児童教育コース・幼児保育コース）に受講クラスを分け、より適した楽曲を中心に学ぶ。</p>			<p>①ピアノ演奏のための基礎知識を習得することによって、演奏のための表現力を豊かにすることができる。 ②様々な音楽に触れることによって、演奏のための表現力を豊かにすることができる。 ③コードネームを見て伴奏づけをすることができる。 ④児童教育コースでは、小学校音楽科の歌唱教材や子どものうたの弾き歌いとリズム曲が演奏できるようにする。 ⑤幼児保育コースでは、子どものうたの弾き歌いとリズム曲が演奏できるようにする。 ⑥発表をする機会を持つことによって、演奏のための準備について考えることができる。</p>				
教授方法	実技指導						
履修条件	「器楽Ⅰ」の単位を履修していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業の進め方と成績評価の方法を理解する。 演奏の基礎知識Ⅰ・・・音符・休符（楽譜の読み方について楽譜を通して理解する。）					多保田	
2	曲想・奏法に関する用語・記号（楽曲の性格や表情を表示する用語や記号について楽譜を通して理解する。）					多保田	
3	グループレッスン：子どものうたのアレンジ方法Ⅰへ長調入門（コードネームを見て伴奏をつける方法を理解する。） 個人レッスン：各コースに応じた楽曲Ⅰ					各担当教員	
4	グループレッスン：子どものうたのアレンジ方法Ⅱへ長調（コードネームを見て伴奏をつける方法を理解する。） 個人レッスン：各コースに応じた楽曲Ⅱ					各担当教員	
5	グループレッスン：子どものうたのアレンジ方法Ⅲへ長調（コードネームを見て伴奏をつける方法を理解する。） 個人レッスン：各コースに応じた楽曲Ⅲ					各担当教員	
6	グループレッスン：子どものうたのアレンジ方法Ⅳへ長調（コードネームを見て伴奏をつける方法を理解する。） 個人レッスン：各コースに応じた楽曲Ⅳ					各担当教員	
7	発表Ⅰ					全員	
8	グループレッスン：拍の流れやフレーズを感じ取って演奏する方法Ⅰ…4分の4拍子 個人レッスン：各コースに応じた楽曲Ⅴ					各担当教員	
9	グループレッスン：拍の流れやフレーズを感じ取って演奏する方法Ⅱ…4分の2拍子 個人レッスン：各コースに応じた楽曲Ⅵ					各担当教員	
10	グループレッスン：拍の流れやフレーズを感じ取って演奏する方法Ⅲ…4分の3拍子 個人レッスン：各コースに応じた楽曲Ⅶ					各担当教員	
11	グループレッスン：リズム楽器とその種類 個人レッスン：各コースに応じた楽曲Ⅷ					各担当教員	
12	グループレッスン：旋律楽器とその種類 個人レッスン：各コースに応じた楽曲Ⅸ					各担当教員	
13	発表Ⅱ					全員	
14	グループレッスン：身近な素材を用いた手作り楽器 個人レッスン：各コースに応じた楽曲Ⅹ					各担当教員	
15	グループレッスン：合奏編曲法 個人レッスン：各コースに応じた楽曲Ⅺ					各担当教員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	40	受講態度、課題への取り組み。（「受講生に望むこと」欄を参照）		発表Ⅰ	30	発表に対して積極的に取り組んでいるか。	
発表Ⅱ	30	発表に対して積極的に取り組んでいるか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①グループレッスンでは、毎回の授業で出される課題を演奏できるように練習して下さい。[30分] ②個人レッスンでは、各コースに応じた楽曲を練習して下さい。[60分] ③各コースに応じて履修曲数が決まっているので、プランを立てて授業準備をして下さい。				課題は、次回に個人指導します。			
受講生に望むこと	①毎回出される課題に積極的に取り組んで下さい。 ②単にピアノを練習するだけではなく、ピアノ作品をCDなどで聞いてみることや楽語でわからない用語や記号は調べて下さい。			教科書・テキスト	『幼児のうた楽譜集』東京書籍 2014年 ISBN978-4-487-71121-5 / 『RHYTHMS for CHILDREN』北陸学院大学編集 2015年 / 『小学校音楽科教育法』教育芸術社 2015年 ISBN978-4-87788-491-8 / バロックから現代までのピアノ作品 / プリント		
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EC250U 保育課程論		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	熊田 凡子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>保育課程とは、子ども理解を通じて、子どもの生活に重視した具体的な保育方法を考えることである。本授業では幼稚園や保育所、認定こども園における生活等を理解し、各園があるいは、各々の教育・保育者が子どもにとってふさわしい生活を描き出すことを「保育課程」として学ぶ。保育課程における長期・短期指導計画の意味を理解し、実際の計画を試みる。特に、日本における幼児教育の歴史から鑑み、今日的課題を見出すことにより、保育におけるカリキュラムを通して幼児教育を本質的に理解する。</p>			<p>①日本における幼児教育の歴史の変遷、なかでも幼稚園創設期より保育の根源を理解する。 ②日本における保育カリキュラムの変容を理解し保育の内容・方法の本質を捉える。 ③年間のカリキュラムについて理解し、各年齢の子どもの生活をイメージする。 ④行事等の通常と異なる保育の意味を理解する。 ⑤子ども理解を通じて、保育を計画し、実践し、振り返ることの意味を理解する。 ⑥様々な保育の形態があることの意味を理解する。 ⑦キリスト教保育における保育課程について、子どもを理解する視点を中心に捉える。</p>				
教授方法	講義・ワーク（個人・グループ）						
履修条件	教育学概論・保育原理を履修済、幼稚園教育実習Ⅰを履修中であることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	保育課程とは何か。幼児教育の変遷から考える。						
2	保育課程の変遷（1）明治初期の起源から学ぶ。						
3	保育課程の変遷（2）大正・昭和戦前期のカリキュラムの特徴を学ぶ。						
4	保育課程の変遷（3）戦時下・戦後の保育要領を中心に学ぶ。						
5	保育課程の変遷（4）現行の要領に通底する本質を捉える。						
6	現代の乳幼児の実態から一日の保育を考える。						
7	一日の中で行われる主活動及びお集まり・お片づけ・お帰りの時間とは何か。子どもの立場になって考える。						
8	養護と教育について実感を通して、幼児教育を本質的に理解する。						
9	発達の過程を具体的に考える。生育歴等の意味を理解する。						
10	保育におけるカリキュラムの意義と目的を把握する。						
11	通常以外の保育の（行事を中心に）意味について、子どもの視点になって考える。						
12	保育の評価・要録について、子ども理解の視点を中心に、考える。						
13	保育思潮から世界の保育課程について知る。						
14	現代社会における多様な保育とは、どのようなことか、子どもの・親・教育・保育者の立場で考える						
15	キリスト教保育における保育課程について、子どもを理解することを中心に考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
中間試験	30	①保育課程について歴史の変遷を把握し、本質的な理解ができる。 ②保育課程に関する用語等を理解できる。		授業態度及びレポート	20	①積極的に学ぼうとしている。	
期末試験	50	①保育課程について理解している。 ②子どもの発達過程に関する理解ができている。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
各回の授業内容について、事前に情報を収集し提供できるよう準備する。[60分]				レポート及び試験では、採点したものを返却する、あるいは個別に応じ助言する。			
受講生に望むこと	本講義では、まず保育の歴史理解を中心に、幼児教育の起源から学び直します。保育制度等が目まぐるしく変化していく中で、何が大事か常に問う姿勢を持って授業に参加ください。			教科書・テキスト	『乳幼児の教育保育課程論』北野幸子編、建白社、2016年。ISBN978-4-7679-3264-4		
指定図書参考書等	なし／『指導計画の作成と保育の展開』文部科学省 フレーベル館 2013年 ISBN978-4-577-81350-8 ・『保育所保育指針』厚生労働省 ・『幼稚園教育要領』文部科学省			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EC255U 保育内容総論		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	大井 佳子					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>少人数の保育者（役）で15分程度の模擬保育を準備、実践することを中心に授業を行う。他の学生は子ども（役）で参加し、子どもの主体的に遊ぶ感覚を模擬体験する。模擬保育を通じて幼児教育における指導方法とその計画の特性をつかみ、振り返りを重ねることによって、ねらいに沿って保育実践と子どもを評価して次の計画につなげることを習慣化させていく。</p> <p>振り返りでは、各自が自分の心の動きに気づき、保育者（役）の行動とその意図について知るよう促される。遊びを保育者の目と幼児の目の両方で見ることができ、その上で保育者として次の展開をプランしなおす方へと高めていきたい。</p> <p>保育者（役）は原則としてノンバーバルで保育を進め、言葉で伝えるのではなく「総合的に指導する」幼児期の指導の仕方の体得を目指す。保育者の言葉がない状況では子ども（役）に多彩な動きが生まれやすく、保育者として予想する幼児の姿が豊かになることが期待されている。子どもの姿の予想が、遊びにおける学びを5領域で、あるいは資質・能力の3本の柱で読み取ることや、指導計画で遊びのねらいを考えることを変える。</p> <p>また、チームでの模擬保育によって、保育者としての協働性を育むことも本科目のねらいとなっている。</p>			<p>①資質・能力の3つの柱、5領域、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目から、遊びにおける幼児の学びを予想することができる。</p> <p>②幼児の心が動くように、遊びの内容、遊びの始め方と終わり方、用いる素材や教材、遊ぶ場所の選定を含めた環境構成等を工夫することができる。</p> <p>③遊びの過程で生まれる幼児の心の動きを予想し、それに対応して展開する指導計画を、環境図と時系列で考えることができる。</p> <p>④模擬保育の計画、準備、実践において保育者として求められる協働性を発揮する。</p> <p>⑤模擬保育において幼児としての心の動きを感じながら遊び、振り返りにおいては自分とは異なる遊び方や感じ方から気づきを得、幼児の心情と言動について理解を深めつつ、各領域の保育内容に対する理解を深める。</p> <p>⑥模擬保育後に、保育者（役）学生が事前に作成した指導計画を各自で作直すことができる。</p> <p>⑦保育の連続性について理解し、長期の指導計画として立案できる。</p>			
教授方法	模擬保育・ロールプレイ・討議・発表・教材製作・講義					
履修条件	保育内容の諸科目 保育課程論、幼稚園教育実習Ⅰを履修している（履修中を含む。単位取得は問わない）ことを原則とする。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：幼児期の学び。与えられたテーマで模擬保育（チーム保育）し、他の学生は幼児としてロールプレイする本授業の構成と各回のテーマの意味を理解する。写真絵本の制作と教材研究ノートの作成について理解する。					
2	子どもになって遊んでみる。例えば、普段は遊具としては使わない様々な大きな布を用意すると、大人が予想しない新しい遊びや挑戦が子どもたちから生まれる。遊びが生まれる環境について考え、指導計画に書いてみる。					
3	模擬保育①「多様な遊びが生まれる教材」ある教材、素材を用意することで子どもから生まれる遊びを5領域のそれぞれについて予想する。子どもの心と身体が動く素材・形・大きさ、提示の仕方、環境の構成を工夫する。					
4	模擬保育②「苦手な子どもも楽しくなる」例えば、汚れるのがイヤな子どもが汚れるのを気にせずに没頭するような遊びの流れを工夫する。					
5	模擬保育③「苦手を忘れる運動会」運動会を「意外なもの」で構成してみる。運動会という園行事のねらいについて考える。					
6	模擬保育④「通常とは異なる使い方」身近な素材や家具、道具を意外な使い方でも子どもたちに遊びとして提案。「じゃあ、これは！」と子どもの発想が湧き上がるように遊びを提案する。					
7	模擬保育⑤「自然物を使ってするなりきり遊び」遊びに用いる自然物を限定せず、環境を見渡してもっと豊かにみつけてみよう。自然物だからこそ生まれる「なりきり遊び」を考える。					
8	模擬保育⑥「子どもの研究心を引き出す」遊びで子どもは何をどのように試し、何をどのように発見しているのかに着目して遊びを考える。2歳児の研究・3歳児の研究・4歳児の研究・5歳児の研究について知る。					
9	模擬保育⑦「ごっこ」子どものふり遊び、みため遊び・ごっこ遊びについて理解し、実際の子どもの生活体験に基づいて展開する「ごっこ遊び」を設定する。					
10	模擬保育⑧「発表会につながる遊び」言葉遊びから展開する遊戯・合奏。そもそも「発表会」とは何か、その意味を考える。					
11	模擬保育⑨「発表会につながる遊び」音についての発見から劇づくりをする指導計画のスタートの遊びを考える。					
12	模擬保育⑩「空間を遊ぶ」人にとって空間のもたらす安心感が大きく、また何に安心を感じるかの個人差も大きい。空間そのものを遊びの対象として考えてみる。					
13	各自の作成した写真絵本を用いて模擬保育し、一つのものを用いた複数の指導計画を立ててみる。他者作成の教材に触れることで得た気づきによって自身の教材を改善する。					
14	授業で実践された複数の遊びをヒントにして連続する長期の指導計画に組み立てる。					
15	まとめ：14回までの授業を振り返り、幼児期の学び方と保育者の役割についてまとめる。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験	40	指導計画立案課題で①教材・環境構成・ねらい・連続性についての理解 ②子どもの姿の予想 ③幼児期の学びについての理解 について評価する。		模擬保育	20	グループで協働し十分に工夫・準備されていること。言葉で子どもを動かす指導にならないよう環境構成されていること。
指導計画	10	担当模擬保育の指導計画が求められる項目で立案されていること。		教材研究ノート	30	各授業回に示される課題が記載され、ノートとして活用しやすく工夫作成されていること。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
指導計画用紙に訂正、補完、実践後の記録等を書き加えることを中心に、模擬保育の振り返りをふまえて各授業回に提示される課題[1時間程度]。模擬保育のための準備の活動[長時間を要す。早期からの計画的な取り組みが必要]。写真絵本・教材研究ノートの製作[長時間を要す。早期からの計画的な取り組みが必要]。				提出されたレポートの内容を次回授業での講義に反映させる。		
受講生に望むこと	子どもになって遊べるスタイルで授業に参加すること。保育で身近において用いられることの多い道具は常備していること。教材の材料になるものを身近にみつけ収集しておくこと。「子どもの目」に関心を持ち、生活で出会う子どもたちが何をどのように見ているかをよく観察すること。			教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館 2018年 ISBN：9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館 2018年 ISBN：9784577814499 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN：9784577814482	
指定図書参考書等	なし/『遊びづくりの達人になろう！子どもが夢中になってグーンと成長できる * 3歳児の遊び55』（5歳児・4歳児・3歳児の全3巻）竹井 史 編著 明治図書出版 2011年			その他・特記事項	・やむなく欠席した場合は、欠席した授業の内容に応じた課題でレポートにまとめ、当日の配布指導計画とともに教材研究ノートに入れられるようにすること。 ・履修者の人数によって模擬保育の回数と内容が変更されることがある。	

授業科目名	EC265U 保育内容・健康 I		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	田邊 圭子					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>明るく、元気に、のびのびと遊ぶ子供たちの姿から、誰もが「子どもらしさ」を感じるであろう。このように、子どもが子どもらしく心身共に健康な生活を送るために私たちは何をすべきだろうか。この授業では、幼児の心身の発達や安全について理解するとともに、現代の子ども達の実態と照らし合わせながら、健康な子どもに育てる保育の内容と方法について学ぶ。</p>			<p>①子どもに向き合う大人の一人として、自らの健康や健康な生活について理解し実践する。 ②授業を通して、子どもの健康について理解している。 ③これまで経験してきた実習場面と授業で学ぶ内容を照らし合わせることで、理論と実践を関連付けて理解している。</p>			
教授方法	講義、グループディスカッション、個人によるワーク、外部講師による講義1回（石川県健康福祉部少子化対策監室母子保健・食育グループ職員）					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業概要説明：授業の進め方、成績評価の方法について説明し、「健康」とは何か、またそれはなぜ必要なのか、そもそも子ども達にこれから向き合おうとしている自分自身は健康であるか等、子ども達の健康を考える前に自分たちの身近にある「健康」について様々な角度から考える。					
2	幼稚園教育要領「健康」のねらい及び内容：領域「健康」は「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」ではどのようにとらえられているのか。そして、何を目標しているのか。他の領域との関係はどのようにとらえればいいのかについて考える。					
3	「健康な子ども、元気な子供の姿」：「子ども」について多角的にイメージを膨らませる					
4	保育現場・教育現場で気になる子どものからだ：現場の教職員が感じている子どものからだのおかしさを取り上げ、現代の子ども達の健康課題について考える。					
5	子どもの健康を取り巻く現状：乳幼児の健康課題と対応策について考える。					
6	生活リズムの獲得（睡眠）：生活リズムの獲得について、子どもの睡眠から理解する。					
7	石川県健康福祉部少子化対策監室母子保健・食育グループ職員による講義					
8	「恒温の獲得」：暑さや寒さに対する人間の体の恒温獲得について理解する。					
9	「五感の獲得」：五感の働きと発達のプロセスについて理解する。					
10	子どもの体の発達：子どもの体の発達について理解する。					
11	子どもの心の発達：子どもの心の発達について、特にパーソナリティの形成を中心に理解する。					
12	子どもの運動の発達：子どもの運動発達と分化と統合のプロセスについて理解する。					
13	子どもの体力：子どもの体力向上について、大人との違いから理解する。					
14	目標：子どもの概念形成：子どもの概念形成について、大人との違いから理解する。					
15	子どもとディスプレイ機器：子どもとディスプレイ機器について、長所、短所両面から考える。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小テスト	30	授業内容を理解しているか。		レポート	40	課題に対して独りよがりな思いに終始することなく、基本的な内容を踏まえて述べられているか。
授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>①教科書を読み、授業に備える[20分] ②授業で配布した資料を読む[20分] ③子どもの健康に関するニュースや新聞記事に目を通し、理解を深める[60分]</p>				<p>①小テストは採点及びコメントを付記して返却。 ②レポートは評価とコメントを付記して返却。</p>		
受講生に望むこと	子ども達にとって健康は、様々な活動に積極的に取り組み、楽しむために必要です。子どもの健康のために何が必要か、自分が子ども達と向き合った時に何をすべきか考えながら受講してください。			教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』、文部科学省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814475 『保育所保育指針解説』、厚生労働省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814482 『演習保育内容「健康」—大人から子どもへつなぐ健康の視点』、井符芳子 著、明文書林、2014年、ISBN978-4-89347-209-0C3037	
指定図書参考書等	関連図書や関連記事は授業の中で随時提示またはプリント配布する。			その他・特記事項	外部講師による講義1回（石川県健康福祉部少子化対策監室母子保健・食育グループ職員）の実施回を変更する場合があります。実施日は事前に連絡する。	

授業科目名	EC270U 保育内容・言葉Ⅰ		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	高村 真希・中島 賢介 (代表教員 高村 真希)						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
乳幼児期は、言葉を獲得していく時期である。保育内容「言葉」の意義について発達や各領域とのつながりを考慮しながら学ぶ。さらに、保育者が子どもの言葉の育ちにどのように関わり、豊かな言葉を育てていくのかを実践を踏まえ、役割と援助について学ぶ。また、指導案を作成し、実践することを通して指導法を体得する。			1. 領域「言葉」の意義・ねらい・内容について理解する。 2. 発達段階を踏まえ、領域「言葉」に関する指導案を作成し、実践できる。 3. 領域「言葉」における保育の動向を知り、保育者の役割を理解する。				
教授方法	講義と演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業の概要説明 言語機能と「言葉」のねらいについて理解する。					中島	
2	幼児期(乳児期を含む)における言語獲得のメカニズムについて学ぶ。					中島	
3	「言葉」の内容と指導上の留意点及び評価について学ぶ。					中島	
4	言葉の獲得と保育者の関わり：言葉以前の言葉 0歳児の事例から考える。					高村	
5	言葉の獲得と保育者の関わり：言葉が始めたら 1歳児の事例から考える。					高村	
6	言葉の獲得と保育者の関わり：3歳児の事例から考える。					高村	
7	言葉の獲得と保育者の関わり：4歳児の事例から考える。					高村	
8	言葉の獲得と保育者の関わり：5歳児・小学校の事例から考える。					高村	
9	領域「言葉」をめぐる現代的課題と言葉を育てる環境について考える。					高村	
10	子どもの言葉から考える：言葉の内にある子どもの思いについて					高村	
11	文化財に関する実践的理解					高村	
12	文化財に関する実践的理解と指導案の立案					高村	
13	グループでの模擬保育を行う					高村	
14	実演と反省(模擬授業から考える)					中島・高村	
15	「言葉」の総合的理解(今までの振り返り)					中島・高村	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業の参加態度	40%	授業への取り組み態度		課題の内容と提出・実演	30%	課題の実演と内容・提出状況	
随時試験	30%	授業内容を理解できているか。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①子どもの発達と言葉について調べ、レポートにまとめる [60分] ②言葉の現代的課題と言葉を育てる環境について調べレポートにまとめる [60分] ③「絵本の読み聞かせ」の指導案を立案する [60分]				提出されたレポートや応答シートを次回授業で反映する			
受講生に望むこと	保育者を目指す一人として、授業内での学生一人一人の言葉を大切に受け止める姿勢を持って受講して下さい。また、積極的な態度で臨んで下さい。			教科書・テキスト	『新 保育ライブラリ 保育内容言葉』小田豊・芦田宏編著 北大路書房 2009年 ISBN978-4-7628-2631-3 『領域 言葉 事例から学ぶ保育内容』武藤隆・高濱裕子編著 萌文書林 2007年 ISBN4-89347-099-X 『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館 2018年 ISBN : 9784577814475 『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館 2018年 ISBN : 9784577814499 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN : 9784577814482		
指定図書参考書等	なし/必要に応じて随時提示する			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EC275U 保育内容・人間関係 I		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	大井 佳子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>「領域 人間関係」は、非認知的能力として注目されている内容が多く含まれ、「幼児期に育ってほしい姿」にも多くの項目が入る領域である。</p> <p>本科目では、模擬保育でのロール・プレイを通じて、「領域 人間関係」に関わる子どもの心の動き、保育者の心の動きを疑似体験し、「領域 人間関係」に関連するテーマと概念について理解を深め、チームで実践する模擬保育によって保育者の役割を体験する。</p> <p>振り返りでは、同一場面において異なる多様な感覚や感情、思考が生まれていることに気づき、子どもの遊ぶ姿に学びを読み取る感覚をつかむ。他領域との重なりや小学校以降の学び方との違いについても考える。</p> <p>振り返りで深めた自身の体験を、保育者（役）から提供される指導計画に書き加え、子ども一人一人の姿を予想する力、さらにその予想から指導を構想する力を養う。また、生活を通じて出会う周りの乳幼児の人間関係のエピソードを記録し、子どもの姿の読み取りを深める。</p>			<p>①幼児の興味、考え方、行動、言葉をていねいに見てその意味を考え、指導計画につなげようとする。</p> <p>②模擬保育とその振り返りを通して「領域 人間関係」に関わる幼児の実際の生活体験を想像し、幼児の心の動きに沿った教材の活用法を工夫できる。</p> <p>③模擬保育とその振り返りを通して「領域 人間関係」に関わる指導の特性を理解し、具体的な保育場面を想定して指導計画を作成することができる。</p> <p>④模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点と姿勢を身に付けている。</p> <p>⑤乳幼児期の人との関わり、コミュニケーションの発達のポイントを理解している。</p> <p>⑥乳幼児期の人との関わり、コミュニケーションの発達を支える生活体験について考え、乳幼児をめぐる今日の環境が孕む危険性を理解している。</p>				
教授方法	模擬保育・ロールプレイ・討議・発表・講義						
履修条件	保育原理・発達支援論を履修済（単位の取得は問わない）であり、保育課程論・発達心理学を履修中（済）であることが望ましい。						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：「領域 人間関係」の概説。教材準備と指導計画作成を含む模擬保育と授業外活動となる乳幼児の人間関係エピソード収集について、方法と目的を理解する。模擬保育担当グループの決定。						
2	子どもになってノンバーバルで遊んでみることを通じて、自身の心の動きをとらえる。振り返りを通じて、同じ場面での遊びにおいて多様な心の動きと行動が発生していることを知る。キーワード：「共に過ごす」						
3	子どもになってノンバーバルで2人で遊ぶ、3人で遊ぶ、多数で遊ぶと状況を変化させ、子どもの遊びにおける他者の存在について考える。キーワード：「友達」「自己発揮」						
4	模擬保育①：「自分で」が起こる遊びを準備し実践する。自己主張・自我について考える。						
5	模擬保育②：「やり遂げようとする気持ち」が起こる遊び。達成感・自信について考える。						
6	模擬保育③：「伝える・気づく」が起こる遊び。自己発揮・自己抑制について考える。						
7	模擬保育④：「協力」が起こる遊び。協同・充実感について考える。						
8	模擬保育⑤：「よいことや悪いことがあることに気付く」遊び。異なる視点について考える。						
9	模擬保育⑥：「思いやり」が生まれる遊び。共感・心の理論について考える。						
10	模擬保育⑦：「ルールをつくる」ことが生まれる遊び。道徳性・規範意識について考える。						
11	模擬保育⑧：「共同の」を感じる遊び。公共心について考える。						
12	模擬保育⑨：社会生活における人々との出会いを「親しみ」をもつようになるものとする指導計画。乳幼児と地域のつながりについて考える。						
13	模擬保育⑩：異年齢児とのかかわり。「相手の気持ちを考える」「自分が役に立つ喜び」について考える。						
14	3歳未満児の人間関係のエピソードから、0歳から3歳までの人間関係の発達を知る。						
15	3歳以上児の人間関係のエピソードから、3歳から就学までの人間関係の発達を知る。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	40	「領域 人間関係」のキーワードと関連する基礎的な概念の理解・エピソードからの読み取り・遊びのプランの作成		模擬保育	20	遊びのプランの作成・遊びの工夫・独創的な教材・遊びの提示と展開	
研究ノート	30	各授業における指導計画の補充・テーマに関連する課題の記載・活用しやすい整理の仕方		エピソード収集	10	エピソードの記述・整理の仕方	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>キーワードについて保育関連の事典、心理学の辞書で調べること・模擬保育の指導計画の実践後の記録と計画の補充・振り返りを中心に各授業回に設定される課題について[1時間程度]。エピソードの収集[適宜]。模擬保育のための準備の活動（教材製作を含めて長時間を要す。グループでの取り組みとなるため、必要な時間設定も考えて早期からの取り組みが必要）。研究ノートの製作[2～10時間程度]。</p>				<p>提出されたレポートの内容を次回（以降）の授業での講義に反映させる。</p>			
受講生に望むこと	子どもになって遊べるスタイルで授業に参加すること。保育で身近において用いられることの多い道具は常備していること。教材の材料になるものを身近にみつけ収集しておくこと。「子どもの目」に関心を持ち、生活で出会う子どもたちの動きや言葉、視線に関心を寄せること。			教科書・テキスト	<p>『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館 2018年 ISBN：9784577814475</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館 2018年 ISBN：9784577814499</p> <p>『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN：9784577814482</p>		
指定図書参考書等	なし/『遊びづくりの達人になろう！子どもが夢中になってグーンと成長できる * 歳児の遊び55』(5歳児・4歳児・3歳児の全3巻) 竹井 史 編著 明治図書出版 2011年			その他・特記事項	<p>・幼稚園教育実習Ⅰの履修予定者は本科目の履修を前提として幼稚園教育実習指導Ⅰの授業が行われることを承知いただきたい。</p> <p>・研究ノート（授業レポート綴り）と収集したエピソードは定期試験の持ち込み資料となる。やむなく欠席した場合もレポートをまとめて提出し、研究ノートに備えること。</p> <p>・履修者の人数によって模擬保育の回数と内容が変更されることがある。</p>		

授業科目名	EC280U 保育内容・表現 I		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田邊 圭子・多保田 治江・向出 圭吾 (代表教員 田邊 圭子)						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
この学科目は、幼稚園教諭一種免許取得にかかわる教職に関する科目である。豊かな感性や創造性は、子どもが生活の中で心を動かす出来事に出会い、自分の感情や経験を豊かに表現する機会を持つことにより養われる。さらに、様々な表現方法を子どもなりに獲得し、楽しんでいけるような環境の中で育まれていくものである。そうした子どもの意欲を受け止め、十分に発揮させられるような指導のあり方を学ぶ。			①子どもの表現が生活の中でどのように育まれるか理解を深める。 ②子どもの身体表現を保育活動として進めていくための方法について実践を通して習得している。 ③子どもの音楽表現を保育活動として進めていくための方法について実践を通して習得している。 ④子どもの造形表現を保育活動として進めていくための方法について実践を通して習得している。 ⑤表現を支える保育者の役割と支援について理解を深める。				
教授方法	講義と演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション：表現全体に関する授業オリエンテーション。今後の授業の流れ、受講方法など。 身体表現オリエンテーション：身体表現について、領域「表現」との関連から考え、理解する。					田邊	
2	身体表現遊び1：「動きの発見」・・・自分の身体が様々な動きことや、外に向かって様々な情報を身体の動きで発信していることに気づく。					田邊	
3	身体表現遊び2：「模倣遊び」・・・人や事物の動きを模倣する。					田邊	
4	身体表現遊び3：「物を使って動く」・・・物を使った身体の動きを考える。					田邊	
5	「作品発表と鑑賞」・・・グループの作品を発表鑑賞する。					田邊	
6	幼稚園教育要領における領域「表現」について理解を深める。 子どもの発達と音楽表現：子どもの声域について文献を通して理解する。拍の流れを感じ取ってうたいながら遊ぶ。					多保田	
7	保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」について理解を深める。 生活の中にある様々な音 (1)：生活の中に様々な音があることに気づく、感じる。					多保田	
8	生活の中にある様々な音 (2)・・・生活の中にある音素材を用いて「音のアンサンブル」を作る。					多保田	
9	作品づくり・・・グループに分かれ課題曲にふさわしい楽器の選択と楽器演奏を考える。					多保田	
10	「作品発表と鑑賞」・・・グループの作品を発表鑑賞する。					多保田	
11	描く：大きな紙いっぱいに思いっきり絵を描く。					向出	
12	粘土でつくる：粘土の感触を味わいながら作品を作る。					向出	
13	授業内容・目標：紙、空き箱、牛乳パックなどでつくる：身近な素材の特色を生かして作る。					向出	
14	劇遊びをする：道具、小物を一切使わず、身体だけで即興劇を行う。					向出	
15	子どもの表現とは何か：子どもの表現について考える。					向出	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加状況	30	授業への取り組み姿勢		課題・発表	50	課題や発表に取り組む姿勢と内容	
レポート	20	・授業及び作品制作の感想、身体表現に関するレポート (田邊) ・毎回授業の「ミニセッション」への取り組み (多保田) ・課題や作品に対しての自分なりの気づき、学びに関するレポート (向出)					
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック			
①毎回の授業後に自身で振り返り、不明点を調べてくる [60分] ②次回授業のための課題について準備する [60分]				・毎回課す小レポートは次回コメントを付記し返却する (多保田) ・授業最終日に課すレポートは2週間以内にコメントを付記し返却する (多保田、田邊、向出)			
受講生に望むこと	この授業は3名の教員が各5コマ担当するオムニバス科目です。また、演習科目で系統的に授業が展開します。積極的な授業参加を望みます。			教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』、文部科学省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814475 『保育所保育指針解説』、厚生労働省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814482 『子どもの音楽表現』、石井玲子、保育出版、2009年、ISBN978-4-938795-78-8		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EN250U 児童家庭福祉論 I		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	虹釜 和昭						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
児童福祉の変遷、歴史、児童憲章、児童の権利宣言、子どもの権利条約などの基本理念を学ぶ。児童家庭の生活実態とそれを取り巻く社会情勢を理解する。また児童福祉法の理念を理解し、子どもにとって最善の利益とは何か、子どもの権利保障の体系、子ども家庭福祉制度、親権と子どもの権利擁護とは何かを学び、児童福祉施設の基本的機能、子ども家庭福祉の現代的課題を明確にする。少子高齢社会における、社会環境・家族構造の大きな変化をふまえ、児童・家庭分野にかかわる社会問題を考察する目標：家族・家庭とは何か、家族・家庭の定義と社会制度としての家族・家庭における子ども観を把握する。少子化の進行、子育て環境を巡る現状、家族の変容と社会的要因を考察し家族・家庭機能の変化、子ども家庭福祉のニーズを理解する。			<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解している。 2. 子ども家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解している。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解している。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解している。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解している。 				
教授方法	講義を中心に展開するが、提示課題によるグループディスカッションも含む						
履修条件	「社会福祉」を履修済であること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	家族・家庭とは何か、家族・家庭の定義と社会制度としての家族・家庭における子ども観を把握する。少子化の進行、子育て環境を巡る現状、家族の変容と社会的要因を考察し家族・家庭機能の変化、子ども家庭福祉のニーズを理解する。						
2	子ども家庭福祉の原理について、子どもの特性と発達ニーズ、理念、権利保障、児童憲章・児童福祉法の理念、子どもの権利条約について学ぶ。子どもの権利の特徴である受動的権利と能動的権利の二面性、その確立の過程を理解する。						
3	児童福祉の発展の理解。日本の児童福祉の歴史、特に明治期の児童福祉の萌芽から「石井十次」、「留岡幸助」をはじめとした足跡、その思想理念を理解する。欧米の歴史については、イギリスの児童保護から始まる歩みから、アメリカの近代的児童福祉思想を理解する。						
4	児童家庭の権利保障および支援の核となる児童福祉六法（児童福祉法、児童扶養手当法、特別児童扶養手当法、母子保健法、母子並びに父子及び寡婦福祉法、児童手当法）の概要を理解する。また関連法である、児童虐待防止法、DV 防止法、などもあわせて学ぶ。						
5	子ども家庭福祉の実施体制、行政機関と関連機関の機能を理解する。国及び地方自治体、児童福祉の各審議機関の機能、児童相談所、福祉事務所、保健センターの概要を学ぶ。児童福祉施設の種類とその運営内容など基本的機能を理解する。						
6	子ども家庭福祉の専門職を学ぶ。児童相談所・福祉事務所・家庭児童相談室などの関係機関に配置されている職員資格と職務を理解する。また、児童福祉施設の専門職員と資格について、その具体的な専門的機能を理解する。						
7	母子保健を中心に学ぶ。母子保健の目的、歩み、乳幼児死亡率の傾向、健康診査・健診内容や保健指導・訪問指導などの具体的な制度を理解する。母子健康手帳、予防接種、自立支援医療、小児慢性特定疾患治療研究事業を理解する。育児支援についても理解する。						
8	障害・難病のある子どもと家族への支援を学ぶ。障害児及び家族の実情とニーズ、障害児の支援に関する制度、障害児教育、特別児童扶養手当・障害児福祉手当などの経済的支援、難病に子どもの支援に関する制度を学ぶ。						
9	児童健全育成を学ぶ。児童健全育成の目的と内容、健全育成施策の現状としての地域組織活動、児童厚生施設、放課後児童健全育成事業の現状と課題、児童手当制度の制度変更の内容などを中心に理解を深める。						
10	保育制度を学ぶ。保育制度の概要と保育の実施体制、保育制度の変遷、保育所の多機能化などを理解する。保育施策の現状について、認可保育所の運営・入所方法・保育内容を理解する。認可保育所の事業内容である、乳児保育・障害児保育・育児相談などを理解する。						
11	子ども子育て支援制度の内容を理解する。幼保連携型認定こども園を中心とする、認定こども園制度の具体的内容、認可外保育施設の種類と保育サービスを理解する。その他保育サービスとしての、家庭的保育事業（保育ママ）、ファミリーサポートセンター事業、幼稚園の預かり保育の実情を理解する。						
12	ひとり親家庭の福祉を学ぶ。ひとり親家庭の現代的様相、経済的支援策（児童扶養手当法・母子福祉資金など）、就業支援策、雇用対策、施設による支援としての母子生活支援施設の現状と課題、母子支援員や少年支援員の専門性を理解する。						
13	社会的養護を学ぶ。社会的養護を必要とする児童への具体的支援策を理解する。代表的施設サービスである、乳児院・児童養護施設・児童自立支援施設・児童心理治療施設の基本的機能、専門職の働きを理解する。						
14	非行児童・情緒障害児への支援を学ぶ。非行と情緒障害は不可分の関係があること、家族問題としての非行の動向と非行そのものの理解を深める。児童相談所のみならず、非行少年への対応の第一義機関である家庭裁判所の役割を理解する。						
15	児童虐待対策を学ぶ。児童虐待の定義、児童虐待の実態、子どもを虐待から保護する仕組み、子ども虐待の発見と通告、在宅支援と施設における保護などの実態を理解する。児童虐待対策の課題として、関係機関とのネットワーク、発生子防の具体的施策を理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	70	基本的知識を問う問題を中心とする。国の最新の制度政策も内容に含まれるが、その都度資料などを配付し講義されるので、内容などを正確に理解する。		リアクシオンペーパー	30	毎回の講義内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらない、自らの意見が述べられている 自らの課題が設定されている。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
子どもや家庭に関する新聞記事やニュース情報について、日頃から関心・意識を高めていくこと。特に児童虐待をはじめとする社会問題化している時事問題を、自らのこととして取り組む姿勢が必要である。			期末試験を講義最終回直前に実施し、最終回にて試験問題の解説などを行う。				
受講生に望むこと	児童家庭福祉の基本となる内容が教授され、保育のみならず教育においても根幹をなす学科目であるから、確実に専門用語などについては内容理解をすること。		教科書・テキスト	『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』【第6版】社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規 2018年 ISBN 978-4-8058-5302-3			
指定図書参考書等	なし/なし		その他・特記事項	子ども教育学科の基本的科目の一つである。この科目履修が学びの最低要件である。			

授業科目名	EN255U 社会的養護		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	側垣 二也						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
現代の家庭基盤の脆弱化によって、児童虐待の増加が象徴する多様で複雑な児童とその家族の問題を生み、社会の養育支援体制の構築、児童養護施設、乳児院、里親といった代替的養育支援などの社会的養護実践がますます重要となってきた。そこで本講義では、保育所や生活型児童施設で働く保育者に求められる知識として、今日の児童と家庭あるいは親子関係の問題などの様々な養育ニーズを理解し、その総合的支援概念である社会的養護の理念、体系、現状、方向性を学ぶ。			1 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解している。 2 社会的養護と児童家庭福祉について理解している。 3 社会的養護の制度と実施体系について理解している。 4 施設養護の実際を理解している。 5 社会的養護の課題と展望を理解している。				
教授方法	講義では、内容をより分かりやすく理解するため、P.P.など視聴覚教材を用い進める。課題を示しレポート作成提出を行う。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	保育における社会的養護						
2	現代社会における社会的養護の意義－社会的養護の理念と概念						
3	現代社会における社会的養護の意義－社会的養護の歴史的変遷 欧米						
4	現代社会における社会的養護の意義－社会的養護の歴史的変遷 日本						
5	社会的養護と児童家庭福祉－児童家庭福祉と社会的養護の関係性						
6	社会的養護と児童家庭福祉－児童の権利と社会的養護 I						
7	社会的養護と児童家庭福祉－児童の権利と社会的養護 II						
8	社会的養護の制度と実施体系－社会的養護の制度と法体系						
9	社会的養護の制度と実施体系－社会的養護の制度と実施体系 I						
10	社会的養護の制度と実施体系－社会的養護の制度と実施体系 II						
11	社会的養護の実施体系－家庭養護と施設養護と施設で働く専門職						
12	施設養護の実際 ビデオ視聴とレポート						
13	施設養護の実際 養護系、非行系他						
14	小規模ケアと個別化・施設運営						
15	社会的養護の課題と展望						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	60	遅刻回数はどうか。熱心に授業に臨み、講義の中での発言、回答が的確か。		課題についてのレポート提出	40	レポートを以下の要領で提出する。 ・指定の書式にしたがって作成する。 ・自分の考察を加えて記入している。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
社会的養護は、社会における様々な児童と家庭の出来事と密接に関連しています。したがって、特にテレビや新聞のニュースあるいはインターネット情報に関心を示し、現代社会にある児童と家庭の問題、課題は何か、福祉ニーズは何かに関心や興味を普段から持ち、情報収集を行う。[60分]				ビデオ視聴についてのレポート提出後、次の授業で疑問、質問に対する解説を行う。			
受講生に望むこと	社会的養護は、社会における様々な児童と家庭の出来事と密接に関連しています。したがって、特にテレビや新聞のニュースあるいはインターネット情報に関心を示し、現代社会にある児童と家庭の問題、課題は何か、福祉ニーズは何かに関心や興味を普段から持つことを望みます。そのことによって、授業の理解度が違ってきます。また、施設実習に必要な知識と実践方法の学習ですから真剣に授業に臨んでください。			教科書・テキスト	『新保育士講座第5巻 社会的養護』 保育士養成講座編纂委員会編 全国社会福祉協議会 2015 改訂2版 ISBN 978-4-7935-1091-5		
指定図書参考書等	なし／『社会的養護シリーズ2 施設養護実践とその内容』 庄司順一・鈴木力・宮島清編 福村出版 2011 ISBN978-4-571-42511-0			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EN260U 社会的養護内容		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	虹釜 和昭						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>社会的養護について理解を深めることを主な内容とする。家庭に代わる養育の場としての「児童養護施設」、「乳児院」、「児童自立支援施設」、「児童心理治療施設」、「母子生活支援施設」における具体的な養護内容を理解する。こうした施設入所に至った要因としての児童虐待や家族問題の背景に焦点をあて、家族病理や社会病理の視点から、現代の社会的養護の課題を明確化するとともに、子どもの権利擁護という視点からその家族再統合（家庭復帰や家族関係の再構築）の方途などについて考察する。</p>			<p>①社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について具体的に理解している。 ②施設養護及び他の社会的養護の実際について理解している。 ③個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援方法、治療の支援方法、自立支援等の内容について具体的に理解している。 ④社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法論及び技術について理解している。 ⑤社会的養護を通して家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉、司法福祉などについて理解している。</p>				
教授方法	ケースを読み込み、そのケースについて、提示課題によるグループディスカッションを中心とした演習とする。						
履修条件	「児童家庭福祉論Ⅰ」及び「社会的養護」を履修済であること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	社会的養護の大枠を理解し、社会的養護関係施設にて暮らす子どもの心理的特徴を理解する。						
2	施設養護の特性及びその実際を学び、ホスピタリズム理論と現代の児童養護の課題を検証する。						
3	社会的養護のあゆみ、特に石井十次、留岡幸助の実践からその理念や具体的展開などを学ぶ。						
4	乳児院の養護実践から、その課題とあり方について、事例を通して学ぶ。						
5	児童養護施設の養護実践から、その課題について、事例を通して学ぶ。						
6	児童養護施設の養護実践から、その対応について、事例を通して学ぶ。						
7	児童自立支援施設の養護実践から、その課題とあり方について、事例を通して学ぶ。						
8	児童心理治療施設の養護実践から、その課題とあり方について、事例を通して学ぶ。						
9	母子生活支援施設の養護実践から、その課題とあり方について、事例を通して学ぶ。						
10	社会的養護と心理治療の関係、その具体的実施などについて学ぶ。						
11	施設保育士の専門性にかかわる知識・技術とその応用を学ぶ。						
12	リービングケア、アフターケアなど、児童の自立へのプロセスを学ぶ。						
13	里親の今日的課題を学び、施設養護との対比からその特徴、問題点を理解する。						
14	被措置児童等虐待（施設内虐待）の現状と発生要因を学び、その対応、予防を学ぶ。						
15	自立支援計画とアセスメントについて、その策定と運用の実際について学ぶ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末レポート	70	児童養護施設、乳児院などの社会的養護の実践現場の課題を明確に記載し、その今後のあり方などを論述、理解している。		リアクションペーパー	30	毎回の演習内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらない、自らの意見が述べられている。自らの課題が設定されている。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
社会的養護にかかる児童福祉施設の種別・機能・養育内容について、「児童家庭福祉論Ⅰ」「社会的養護」で学んだ内容を整理しておくこと。[30分]			期末レポートの講評、評価視点などについて、施設実習指導などを通じて総括を行う。				
受講生に望むこと	現代の家族問題から社会的養護の抱える問題を自ら発見する姿勢を期待したい。積極的なディスカッションへの参加と能動的な学びを求める。		教科書・テキスト	『社会的養護とこどものこころ』、虹釜和昭著、北陸学院大学臨床心理学リエゾンブック、2012年 ISBNなし			
指定図書参考書等	なし／『児童養護施設と被虐待児』 森田喜治著 創元社 2009年 ISBN 4-422-11380-1 『児童養護施設児の日常とこころ』 森田喜治著 創元社 2013年 ISBN 978-4-422-11571-9		その他・特記事項	積極的な発言など演習への前向きな姿勢が望まれる。			

授業科目名	EN265U 子どもの保健 I A		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	津田 朗子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>全ての子どもが健やかに育つことが社会の目指すところであり、そのためには子どもの生命が安全に保たれる必要がある。したがって、保育士は子どもの命を守り、子ども個々の育ちを理解し、適切な環境を整え支援することが重要な役割である。そこで、子どもの保健 I Aでは、子どもの心身の発達や生理的特徴を理解し、子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義やその具体的な健康管理と生活援助について学習する。</p>			<p>①子どもを取り巻く環境について理解している。 ②子どもの身体発育や生理機能、運動機能、精神機能の発達とその特徴について理解している。 ③子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解している。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス、現代の子どもの問題を踏まえ保育士の役割について考える						
2	児童観の変遷①						
3	児童観の変遷②						
4	親子関係と子どもの発達						
5	発達①：形態的発育とその評価						
6	発達②：生理機能の発達と保健 (1)						
7	発達③：生理機能の発達と保健 (2)						
8	発達④：運動機能の発達と保健 (1)						
9	発達④：運動機能の発達と保健 (2)						
10	発達の評価と支援①						
11	発達の評価と支援②						
12	子どもの生活習慣と心身の健康						
13	事故と安全対策、児童福祉施設						
14	社会と子ども						
15	子育て支援						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
課題レポート	30	基本的な知識を理解している。自分の考えを述べられる。		期末試験	70	講義の重要点を概ね理解している。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①講義終了時に、次回の講義内容に関連した資料または情報を提示するので、熟読し頭づくりをしておくこと[30分]。 ②講義終了後に講義内容の理解度を確認する小テストを実施する。回答できなかった項目はよく復習しておくこと。</p>				<p>小テストの結果は個別には返却しないが、理解度の把握に活用し、次回講義の中で全体にコメントすることによりフィードバックする。</p>			
受講生に望むこと	真摯な態度で授業に臨むこと			教科書・テキスト	<p>『新 保育士養成講座 第7巻 子どもの保健』 (全国社会福祉協議会) ISBN:978-4-7935-1032-8 『新 保育士養成講座 第8巻 子どもの食と栄養』 (全国社会福祉協議会) ISBN:978-4-7935-1033-5</p>		
指定図書参考書等	『子どもって・・・ね』木村留美子著 エイデル研究所 ISBN4-87168-393-1			その他・特記事項	<p>テキストのうち、『子どもの食と栄養』は、3年次の「子どもの食と栄養」の授業でも継続して用いる。</p>		

授業科目名	EN270U 子どもの保健 I B		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	津田 朗子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>全ての子どもが健やかに育つことが社会の目指すところであり、そのためには子どもの生命が安全に保たれる必要がある。したがって、子どもの保健 I Bでは疾病や障害を持った子どもも含めたすべての子どもの健全育成を基盤とした家庭、地域、保育の連携の重要性を学習する。具体的には、発達各期に特徴的な病気や怪我とその予防法、発達障害や慢性疾患を持つ子ども、児童虐待などについて基本的な知識を学ぶとともに、疾病や障害を持った子どもも含めたすべての子どもの健全育成に向けた支援・保育のあり方を学習する。</p>			<p>①子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義について理解している。 ②子どもの疾病とその予防法、及び適切な対応について理解している。 ③子どもの精神保健とその課題等について理解している。 ④保育における環境、および衛生管理、並びに安全管理について理解している。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	前期科目「子どもの保健 I A」履修済みであること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス、現代の親子が抱える心身の問題について						
2	保育保健について：保育環境と保健						
3	我が国の母小児保健とその意義						
4	子どもの生活環境と精神保健						
5	地域における保健活動と児童虐待						
6	子どもの病気・感染症・予防接種①						
7	子どもの病気・感染症・予防接種②						
8	体調不良児の保育（病児・病後児保育）						
9	子どもの食と栄養①						
10	子どもの食と栄養②						
11	食物アレルギーと乳児アトピー性皮膚炎						
12	保育所におけるアレルギー児と保護者への対応						
13	発達障害とその支援①						
14	発達障害とその支援②						
15	子育て支援：心と身体の健康づくりと地域保健活動						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
グループ発表と授業参加度	40	<ul style="list-style-type: none"> 提示された課題について調べたことを分かりやすく伝えられる。 積極的にディスカッションに参加できる。 		期末試験	60	講義の重要点を概ね理解している。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>①講義終了時に、次回の講義内容に関連した資料または情報を提示するので、熟読し頭づくりをしておくこと[30分]。 ②講義終了後に講義内容の理解度を確認する小テストを実施する。回答できなかった項目はよく復習しておくこと。</p>			小テストの結果は個別には返却しないが、理解度の把握に活用し、次回講義の中で全体にコメントすることによりフィードバックする。				
受講生に望むこと	積極的に授業に参加する。子どもの健康と発達とその支援に関して自分の考えを持てるようになること。			教科書・テキスト	<p>『新 保育士養成講座 第7巻 子どもの保健』（全国社会福祉協議会）ISBN:978-4-7935-1032-8 『新 保育士養成講座 第8巻 子どもの食と栄養』（全国社会福祉協議会）ISBN:978-4-7935-1033-5</p>		
指定図書参考書等	『子どもって・・・ね』木村留美子著 エイデル研究所 ISBN:4-87168-393-1			その他・特記事項	テキストのうち、『子どもの食と栄養』は、3年次の「子どもの食と栄養」の授業でも継続して用いる。		

授業科目名	EN280U 障がい児保育		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	徳田 茂						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>障害の有無に関わりなくすべての人が共生するインクルーシブ社会の実現のためには、障害のある子とない子が共に活動し育ち合う、インクルーシブ保育がとても重要である。この授業では、新しい障害概念を理解したうえで、障害のある子の育ちの援助について、理論的側面と実践的側面から理解を深められるようにしたい。さらに、障害児の家族への援助、インクルーシブ保育の実践についても理解を深められるようにしたい。</p>			<p>①障害者権利条約や障害者基本法等をベースとして、新しい障害概念を理解する。 ②障害のある子を一人の子どもとして捉えることの大切さを学び、その子とのよりよい関わり方について理解する。 ③障害のある子の育ちの援助の実践について理解する。 ④障害のある子の家族の心理と援助について理解する。 ⑤障害のある子とない子が共に育ち合うインクルーシブ保育の重要性とその実際について理解する。</p>				
教授方法	講義とテーマごとの学生の発表、グループ討論と発表						
履修条件	保育士資格取得希望者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：調べて発表するテーマの分担をする。障害とは何か (1) 自分と障害児の関わりについて振り返る。						
2	障害とは何か (2)：障害者権利条約や障害者基本法等をもとに、新しい障害概念を理解する。						
3	障害とは何か (3)：さまざまな障害について学ぶ。						
4	その子自身を理解することの大切さ：障害児をひとくくりにせず、一人ひとりの子どもについて理解することの大切さを学び、一人の子をよく理解するための方法を学ぶ。						
5	障害児保育とコミュニケーション (1)：子どもの育ちの援助には、よりよいコミュニケーションが不可欠である。障害児との関わりにおいては、非言語的コミュニケーションがとりわけ重要である。そのことを念頭に、コミュニケーションについて学ぶ。						
6	障害児保育とコミュニケーション (2)：さまざまな障害のある子のコミュニケーションの特徴を理解する。						
7	見通しをもって実践する：子どもの育ちの援助における見通し・仮説―実践―検証の重要性と、その実際について学ぶ。						
8	障害児保育と遊び (1)：どの子にとっても遊びは育ちの源である。障害児の遊びと育ちについて、理論面とともに、遊びの中での援助の実践についても学ぶ。						
9	障害児保育と遊び (2)：障害児の遊びと育ちについて、運動・認知・社会性などの面に焦点をあてて学ぶ。保育者としての援助のあり方等についても学ぶ。						
10	生活習慣獲得の援助：障害児が生活習慣を獲得していくために必要な援助の実際について学ぶ。						
11	親の思いを聴き、共に生きる (1)：実際の例にふれながら障害児の親の心理について理解を深める。						
12	親の思いを聴き、共に生きる (2)：障害児の親への援助の実際と親の心理の変容について学ぶ。						
13	インクルーシブ保育を目指して (1)：インクルージョンの理念を理解し、障害のある子とない子が共に育つ保育の重要性について学ぶ。						
14	インクルーシブ保育を目指して (2)：インクルーシブ保育の実際と、その課題について学ぶ。						
15	よりよい保育者となるために：障害のある子を含め、さまざまな子どもの育ちを援助する保育者として、ぜひ身につけていきたい資質等について学ぶ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
調べたテーマについての発表	20	テーマについて、的確な調べとわかりやすい発表ができたかどうかをみる。	テスト	80	各設問について正しく理解し、わかりやすくまとめられているかどうかをみる。		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<ul style="list-style-type: none"> それぞれ与えられたテーマについて調べる。（調べた内容を授業で発表する。）[2時間] 事後学習としてその日のテーマについて振り返りを行う。[1時間] 			<ul style="list-style-type: none"> 各時間ごとに疑問・質問を提出してもらい、次の時間の冒頭にそれぞれの質問に答える。 テーマについての発表後、発表内容について口頭で評価する。 				
受講生に望むこと	近年、障害概念が大きく変わっています。新しい障害概念をよく理解して下さい。そのうえで、障害児を一人の大切な子どもとして受け止めるための基本的な人間性や保育観を身につけ、さらにその育ちの援助の実践について、できる限り深く学んで下さい。障害のある子とない子が共に育ち合うことを目指すインクルーシブ保育について、理解を深めて下さい。障害のある子の家族への援助も、保育者の重要な仕事です。障害のある子の家族の心理や援助のあり方についての学びを深めて下さい。さらに、自分を見つめる姿勢を養って下さい。		教科書・テキスト	なし			
指定図書参考書等	なし／『知行とともに』徳田茂（川島書店）1994年 『障害と子どもたちの生きるかたち』浜田寿美男（岩波書店）2009年『障害のある子の保育・教育』堀智晴（明石書店）2004年 『ソーシャルインクルージョンのための障害児保育』堀智晴他（ミネルヴァ書房）2014年 『障がい児共生保育論』曾和信一他（明石書店）2015年		その他・特記事項	なし			

授業科目名	EN285U 児童文化		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	山下 のぞみ						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
伝承の遊びとおはなしに親しみ、それらが子どもの様々な発達といかに関わっているかを考える。さらに、子どもに手渡す際の留意点を探る。また、課題としておはなしを覚えて語ることを経験する。			①わらべ唄で遊ぶ体験を通して、それぞれのわらべ唄を覚えている。 ②子どもの発達段階に応じてどのわらべ唄がふさわしいかを知っている。 ③わらべ唄の音楽的特徴を理解している。 ④昔話の特徴を理解している。 ⑤子どもの発達に応じた、おはなしを選ぶことができるようになる。 ⑥ストーリーテリングを体験することによって、お話を聞くことの楽しさを知る。 ⑦ストーリーテリングを実際に経験している。 (他の学生のおはなしを聞き、おはなしを覚える練習をする。)				
教授方法	実際に身体を動かしてわらべ唄を体験する。伝承のおはなしである昔話を、語り伝えられたと同じように、耳だけで聞く体験をする。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	わらべ唄とは何か：わらべ唄にはどのような特徴があるか考えたい。地域性、旋律やリズムの特徴について、口伝えであることが深く関わっていることを認識する。						
2	わらべ唄と子どもの成長との関わり：わらべ唄を楽しむ条件として、子どもの身体的・言語的・社会的発達が重要であることを知る。						
3	言語発達とわらべ唄：わらべ唄には、日本語の拍感・リズム感・発音また地域のイントネーションがそのまま入っており、母語の獲得時期にくりかえしうたてることが子どもの言語発達にとって重要であると知る。						
4	運動機能・空間認知の発達とわらべ唄：新生児から学童期まで、子どもの運動発達を粗大運動と微細運動の面からとらえ、どのようなわらべ唄遊びを取り入れられるか考える。						
5	伝統行事の中でのわらべ唄：日本人が行ってきた祭り、年中行事の中で、特に子どもが関わってきた行事に注目し、その中で伝承されてきたわらべ唄を紹介する。						
6	音楽としてのわらべ唄：子どもの音楽的能力の発達とそれに沿った大人の働きかけについて考える。月齢に応じて育てていきたい能力（リズム感・聴感）を意識した課題を考える。						
7	わらべ唄を課題に取り入れるための留意点：わらべ唄遊びを楽しむには、仲間関係や運動発達が大きく関わることをふまえ、一人一人の子どもをよく見て子どもたちに沿った課題案を立てることが大切だと認識する。						
8	昔話とは何か（昔話の分類）：神話、民話、伝説、昔話といった用語を整理し、昔話を定義する。その上で、昔話には語りの特徴が見出されることを知る。						
9	昔話とは何か（昔話の語り口 1）：昔話の文芸学的研究に基づき、語りの特徴（一次元性、孤立性、平面性）について例をあげて解説する。						
10	昔話とは何か（昔話の語り口 2）：引き続き、昔話の語りの特徴（固定性、極端性、抽象的様式）について例をあげて解説する。						
11	昔話とは何か（昔話の残酷性）：なぜ、昔話は残酷だといわれているのか、伝承であるがゆえに残る刑罰と、語り口の面から考察する。						
12	昔話とは何か（昔話に込められたメッセージ）：昔話には民衆の人間観・世界観・人生観が込められている。特に子どもに向けて語られた昔話にみられる、主人公の成長する姿について読み解いていきたい。						
13	おはなしに道具を取り入れるための留意点：子どもたちは、自分でも作って遊べる人形や、大人が演じてみせてくれる人形、自分自身も演ずることのできる人形を通して、さらにおはなしの世界を深く体験できる。その際のいくつかの留意点を考える。						
14	即興のおはなしと大人のための練習：昔話の語りの特徴を復習し、子どもが好むおはなしのパターンと結末を整理して、目の前の子どもたちを主人公にしたおはなしを即興で作れるよう練習する。						
15	子どもにとっての文学とは：子どもたちがその発達に応じて求めるおはなしについて知る。また、おはなしを楽しむ中で様々な関係を追体験したり消化したりできることを知る。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
課題の発表	50	子どもと一緒に楽しみたい詩を、自分が設定した月齢に応じて選んで、発表できているか。おはなしをきちんと覚えて、語れているか。		授業参加態度	30	演習で、わらべ唄を積極的に覚えようと努めているか、他の学生の発表から学ぼうとしているかを重視する。また、授業内の質問に対しての発言も考慮する。	
定期試験	20	授業内容についてどれだけ理解しているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
ストーリーテリングの発表はグループで行うため、その分担や練習などを各グループで行ってもらいます。[1ヶ月以上、各自覚えらるるまで]各自、子どもの月齢を設定した上で詩を選んで朗読してもらいます。事前に詩集を読み、発表する詩を準備して、授業にのぞんで下さい。[90分以上]				①発表の際にコメントします。 ②評価やコメント等に対する疑問・質問の申し出にはいつでも対応します。			
受講生に望むこと	演習形式の授業のため、積極的な参加と出席が望まれます。動きやすい服装で参加してください。			教科書・テキスト	『CD付き すぐ覚えらるる わらべうたあそび』 木村はるみ著 成美堂出版 2012年 ISBN：978-4-415-30564-6		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ED200U 異文化間コミュニケーション論		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	中谷 博美						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
異文化コミュニケーションには、他者理解が必要である。ことばのさまざまな側面を理解し、ものの見方と捉え方の多様性を知る。それにより、他者の考え方を理解するための基礎を作る。これまで「あたりまえ」だと思っていたことについて、異文化を持つ他者の視点により再考する。			異文化コミュニケーションを学ぶ意義・重要性を理解する。ことばさまざまな側面を深く理解することにより、異文化と自文化の共通性と差異を再考する。文化背景の異なる人々との共生を身近なものとして考えることができる。				
教授方法	講義、ディスカッション						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション（異文化コミュニケーションをいかに学ぶか）						
2	ことばによるコミュニケーション①言語と文化						
3	ことばによるコミュニケーション②ボライトネス						
4	ことばによるコミュニケーション③ケーススタディ・グループディスカッション						
5	ことばのないメッセージ①パラ言語：音声と間						
6	ことばのないメッセージ②身体動作：ジェスチャーとアイコンタクト						
7	ことばのないメッセージ③ケーススタディ・グループディスカッション						
8	映画から異文化を学ぶ①映画視聴						
9	見えない文化①自己とアイデンティティー						
10	見えない文化②異文化コミュニケーションの障壁						
11	異文化コミュニケーションエクササイズ①背中合わせのコミュニケーション						
12	異文化コミュニケーションエクササイズ②D. I. E. メソッドを用いたケーススタディ						
13	映画から異文化を学ぶ②映画視聴						
14	発表（プレゼンテーション）と総評 ①						
15	発表（プレゼンテーション）と総評 ②						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
課題レポート	50	1500字程度のレポートを課す。テーマ、書き方、バッチ等は授業で指示する。		参加態度	10	ディスカッションへ積極的に参加し、テーマについて理解を深めようとしているかどうかを評価する。	
発表（プレゼン）	30	異文化コミュニケーションについて関心のあることをまとめて、発表してもらおう。レジュメを用意すること。詳細は授業でお知らせする。		コメントシート	10	事前事後の学習および授業のコメントを提出してもらおう。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
事前に英文テキスト等、事後に体験レポートなどを課す。[30～60分]				提出されたレポートは、次回以降の授業で返却をする。質問は授業中、授業の前後およびオフィスアワーに受け付ける。			
受講生に望むこと	さまざまなアクティビティやグループディスカッションの機会を設けるため、受講者には意見交換への積極的な参加を期待する。			教科書・テキスト	なし		
指定図書参考書等	参考書『異文化コミュニケーションワークブック』八代京子・荒木晶子・樋口容視子・山本志都・コミサロフ喜美著 三修社 2001年 ISBN: 978-4-384-01851-6 『異文化トレーニング』八代京子・町恵理子・小池浩子・吉田友子著 三修社 2009年 ISBN: 978-4-384-01243-9			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ED205U 児童文学		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	中島 賢介						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この授業では、明治以降の日本における児童文学を、定義、諸分野、歴史的な流れといった視点から概観する。また、「こどものための本」を輪読し、精読することでそれらが持つ特性や魅力について考察し、日本児童文学史上における位置づけと意義を明らかにする。また、受講生が各回のブックトークを通して児童文学をより身近に感じ、親しむ。なお、授業の中で児童文学とキリスト教との関連についても触れる。			①明治以降の児童文学史の流れを理解している。 ②児童文学作品に対する読解力が向上している。 ③児童文学作品の持つ特性や魅力について理解している。 ④ブックトークを通してプレゼンテーション能力が向上する。				
教授方法	講義とブックトーク						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業の概要、成績評価方法などの説明を行った上で、児童文学の定義を理解する。						
2	こどもの本の分類について、形式別、対象年齢別、ジャンル別に分類されることを理解する。						
3	ヨーロッパにおける児童文学の歴史を「こども観」を中心に理解する。						
4	日本における児童文学の歴史を明治期以降を中心に理解する。						
5	神話・伝説・昔話について、口承で語り継がれた作品の特徴を理解する。						
6	ファンタジーについて、作品が持つ虚構性について理解する。						
7	子どもの日常生活を描いたリアリズム作品の特徴を理解する。						
8	日常生活を離れた冒険物語について、物語構造を理解する。						
9	過去に存在した人物や出来事を描いた歴史物語について、時間軸を中心に特徴を理解する。						
10	ノンフィクションについて、子どもと科学との接点を中心に特徴を理解する。						
11	子どものための詩について、わらべうたから現代詩までの流れを理解する。						
12	戦争児童文学について、被害者・加害者両方の側面から特徴を理解する。						
13	絵本について、さまざまな絵本の種類と特徴について理解する。						
14	幼年文学やYA文学について、対象年齢の違いや主題の違いについて理解する。						
15	マンガやアニメについて、国際化産業化と関連づけて理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加状況	20	授業内容理解に努め、毎回指定された作品を読んでいる。(確認問題)		レポート	50	ブックトークで紹介した作品について、各作品の特徴についてレポートにまとめる。	
ブックトーク	30	自分の印象に残った作品を授業内で紹介する。作品のあらすじのみならず、作品の特徴などを自分の言葉で表現する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
毎回担当学生によるブックトークを行う。担当回までに各自周到な準備を行う。ブックトークで紹介した作品について、全員が紹介した後レポートを作成する。[30分]				ブックトーク後には、内容に関する評価とレポートに反映されるべき点について解説する。			
受講生に望むこと	この授業は、「国語」「児童文学」「絵本論」の授業に関連している。これらの授業を履修する学生は可能な限りこの授業を履修すること。これらの授業を履修していない学生、他学科学生の受講も歓迎する。			教科書・テキスト	『児童文学の教科書』川端有子 玉川大学出版部 2013年 ISBN978 - 4 - 472 - 40463 - 4		
指定図書参考書等	なし/『アプローチ児童文学』関口安義編 翰林書房 2008年 ISBN978 - 37737 - 257 - 6			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ED215U 郷土の文学を楽しむ		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	中島 賢介						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
石川県は、金沢の三文豪をはじめ散文韻文ともに数多くの作家を輩出している。この授業では、小説やエッセイのみならず、短歌・俳句・自由詩なども紹介しながら「郷土文学の楽しみ方」を提案する。ただ、担当教員が地元ゆかりの文学作品を紹介するだけでなく、受講生が金沢市内の文学館・博物館や文学碑を巡るフィールドワーク、朗読会への参加、調査研究や創作発表を通して体験的に郷土の文学を学び、より身近に感じる。			①郷土の文学のさまざまなジャンルの作家や作品に触れる。 ②フィールドワークによって、自分の目標に従って金沢市内の文学館や博物館を巡る。 ③個人またはグループで研究発表することにより、プレゼンテーション力が向上する。				
教授方法	テキストとプリントを併用した講義、フィールドワーク、朗読会、研究発表会						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：「読書する」から「文学」へ 受動的な態度から能動的な態度として文学を考える。						
2	江戸期以前の文学：歌枕として親しまれて、さまざまな古典文学に登場する郷土について理解する。						
3	江戸期の文学：松尾芭蕉や加賀千代女を中心に郷土ゆかりの近世文学について理解する。						
4	金沢の三文豪①：泉鏡花の生涯と作品について理解する。						
5	金沢の三文豪②：徳田秋声の生涯と作品について理解する。						
6	金沢の三文豪③：室生犀星の生涯と作品について理解する。						
7	加賀の作家と作品①：加賀出身ゆかりの作家の生涯と作品を理解する。						
8	加賀の作家と作品②：加賀出身ゆかりの詩人の生涯と作品を理解する。						
9	能登の作家と作品①：能登出身ゆかりの作家の生涯と作品を理解する。						
10	能登の作家と作品②：能登出身ゆかりの詩人の生涯と作品を理解する。						
11	金沢の作家と作品①：金沢出身ゆかりの作家の生涯と作品を理解する。						
12	金沢の作家と作品②：金沢出身ゆかりの詩人の生涯と作品を理解する。						
13	第四高等学校出身の作家たち：第四高等学校出身作家の生涯と作品を理解する。						
14	詩の朗読会：受講生全員で朗読会を開く。						
15	これまでの学びをさらに発展させ、研究成果を発表する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加状況	30	講義内容、感想や考察などをコメントペーパーにまとめる。		課題レポート	50	フィールドワークの成果をレポートにまとめる。	
研究発表会	20	これまでの学びをさらに発展させ研究した成果を発表する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
各自、半日から一日かけて金沢市内の文学館・博物館・文学碑を巡るフィールドワークを行う。毎回指定された作品（一部）を読み、その感想をコメントペーパーに記入する。[30分]				コメントペーパーに書かれた内容について毎回授業開始時にコメントする。			
受講生に望むこと	この機会に郷土の文学に触れてほしい。他学科の履修も歓迎する。			教科書・テキスト	『金沢を描いた作家たち』北國新聞社 2011年 ISBN978-4-8330-1827-2		
指定図書参考書等	なし／『ミリアニア 石川の近代文学』金沢近代文芸研究会編 能登印刷出版 2001年 ISBN4-89010-389-9			その他・特記事項	フィールドワークにかかる費用は実費とする。		

授業科目名	ED220U 心理統計学 I		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	西村 洋一						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義は心理統計を学ぶ体系に位置づけられる科目である。統計学は社会の事象、人の行動、心のはたらきなどを理解するためにも有用なツールである。科学技術の発展とともにデータが豊かに得られるようになり、その知識、技術の修得の必要性は高まっている。本講義では、統計学の入り口として、その基本的な考え方、活用方法を修得することを目指す。</p>			<p>①授業内で紹介する統計用語を覚え、その内容を理解し、適切に使用できる。 ②統計処理の基本的な知識を用いて数量データを集計することができる。 ③集計された表やグラフを正確に読み解くことができる。 ④自身の問題意識において得られたデータに対して適切な分析手法を選択し、実施する能力を身につけている。</p>				
教授方法	講義を中心に随時演習も取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	データの集計、度数分布表の作成、図による表現について解説する。						
2	代表値：分布の特徴を中心傾向から表現する。						
3	散布度：分布の特徴をデータの散らばりから表現する。						
4	データの関連・相関：2つの変数が関連している度合いをどのように表現するのか。						
5	回帰分析：2つの変数の関係から予測を行う方法について説明を行う。						
6	様々な分布：正規分布や他の理論分布を紹介する。						
7	母集団と標本：母集団と標本の関係を理解し統計的推測の基本を身につける。						
8	推定・信頼区間：点推定と区間推定の方法を学ぶ。						
9	統計的検定の論理：統計的検定はどのような論理にもとづいて行われているのか理解する。						
10	t検定①：対応のないt検定の考え方を身につけ、実践する。						
11	t検定②：対応のあるt検定の考え方を理解し、対応の有無について身につける。						
12	分散分析①：分散分析の基本的な考え方を理解する。						
13	分散分析②：に要因の分散分析、特に交互作用の考え方を理解する。						
14	カイ二乗検定：クロス集計などで得られた度数を分析する方法を身につける。						
15	帰無仮説検定の振り返りとその限界、及び効果量について理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	70	講義内容について理解し、結果の算出および報告ができる。		小テスト	20	講義の内容の理解度により評価を行う。	
講義への参加度	10	講義への取組姿勢や課題の提出状況から評価を行う。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①講義前にテキストおよび資料を読んでくる。[30分] ②講義前にテキストおよび資料を読み、ノートの整理を行う。[45分] ③講義で分からない計算法や用語があれば、担当教員に質問したり、テキスト・参考書等を用いて理解を深める。[30分] ④講義にて課された演習課題に取り組む。[30分]				小テストは終了後に解説を行う。 演習課題は添削を行い、コメントする。			
受講生に望むこと	統計学はひとつひとつの階段を昇る（知識を積み上げる）ように学ぶことが必須である。そのために予習復習が欠かせないということを理解し、実践してほしい。			教科書・テキスト	『入門 統計学—検定から多変量解析・実験計画まで』 栗原伸一 オーム社 2011年 ISBN 978-4-274-06855-3		
指定図書参考書等	なし／『よくわかる心理統計』 山田剛史・村井潤一郎 ミネルヴァ書房 2004年 ISBN 978-4-623-03999-9 『心理統計法への招待—統計をやさしく学び身近にするために—』 中村知靖・松井仁・前田忠彦 サイエンス社 2006年 ISBN 978-4-781-91151-9			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ED225U 心理学研究法A		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	西村 洋一						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義は、心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。心に対して科学的にアプローチをするためには、妥当な測定をいかに行うかという点が重要である。心理学では、妥当な測定を行うための方法が長年にわたって吟味され、開発が行われてきた歴史がある。心理学的な研究を行うためには、それらの方法を身につけることが欠かせない。そこで、本講義では、根底に流れる科学的な思考法を踏まえながら、様々な心理学的方法を習得することを旨とする。</p>			<p>①科学的心理学の特徴と存在意義について習熟する。 ②科学的研究にあたってのアプローチ法とそれに伴う難問について習熟し、適切な研究方法を選ぶことができる。 ③心理学研究における実験法、質問紙法、尺度構成、観察法、検査法、面接法といった様々な方法の意義と実施における留意点を習得し、実践することができる。 ④心理学研究における倫理的問題について議論することができる。 ⑤研究計画の留意点と実際を学び、自身の問題意識に対して心理学的研究を実施できるようになる。</p>				
教授方法	講義を中心にワークなどによる体験を取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	「研究」とはなにか？良い研究と心理学における「方法」の位置づけについて考える。						
2	実験法① 実験法の基本的な考え方について学ぶ。						
3	実験法② 実験を行う際の留意点について学ぶ。						
4	質問紙法① 質問紙法の基本的な考えについて学ぶ。						
5	質問紙法② 質問紙調査を実施する際の留意点について学ぶ。						
6	尺度構成法 心理学における尺度構成の基本的考えと留意点について学ぶ。						
7	観察法 観察による心理学的研究を行う際の基本的な考えと留意点について学ぶ。						
8	面接法 面接による心理学的研究を行う際の基本的な考えと留意点について学ぶ。						
9	検査法 心理検査を用いた研究、査定の基本的考えと留意点について学ぶ。						
10	中間テストとこれまでにないようについての振り返り。						
11	研究倫理 研究を実施するにあたって配慮しなければならない倫理的な観点について学ぶ。						
12	研究計画の立て方 研究計画を実際に立てる際の手法と留意点について学ぶ。						
13	検定力とサンプルサイズの決定 統計的観点からサンプルサイズを決定する方法を学ぶ。						
14	メタ分析 メタ分析とはどのようなものであり、実際にどのように使えるのかを学ぶ。						
15	研究計画の実際 具体的に研究計画を立てる実践から、これまでに学んだ内容を振り返る。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
期末レポート	40	自身で立てた研究計画の精度（本講義で学んだ内容をどれだけ踏まえられているか）	中間テスト	30	講義で学んだ内容の理解度		
講義への参加度	30	講義中の参加姿勢と振り返りの内容により評価を行う。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①講義で学んだ内容について、テキスト、資料、ノート等を使用して復習を行う。[45分] ②次回の内容について、テキスト、資料を使用して予習を行う。[30分] ③心理学研究法についての参考文献や論文を読みながら、どのようにして研究が行われているかについて学ぶ。[30分]			振り返りの内容については、次回の講義においてフィードバックを行う。				
受講生に望むこと	研究法の理解、習得は新たな知識を生み出すために必要なものである。自分が新たな知識を切り開くためにどのようなことが必要であるのかという態度を貫きながら講義に臨んでほしい。		教科書・テキスト	『心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし 補訂版』高野陽太郎他 有斐閣 2017年 ISBN 978-4-641-22086-7			
指定図書参考書等	なし／『実践心理データ解析—問題の発想・データ処理・論文の作成—改訂版』田中敏 新曜社 2006年 ISBN 978-4-7885-1012-8		その他・特記事項	心理統計学Ⅰおよび心理学実験実習Ⅰを履修することで、本講義の内容がより深く理解できるようになる。			

授業科目名	ED245U 心理検査法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	松下 健						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
心理検査法の理論と実践方法について学ぶ。実際に心理検査（知能検査・質問紙法・投影法等）を体験しながら、実施方法、結果の分析、解釈などアセスメントの実施方法について学習し、得られた検査結果から具体的な支援計画を作成する方法までを修得する。アセスメントを通して的確に現状を把握する力を身につけ、支援計画を作成するスキルも高めていく機会とする。			(1) 心理教育的アセスメントとは何かを説明できるようになること (2) 心理検査の信頼性と妥当性を説明できるようになること (3) 心理検査に用いられる統計解析を説明できるようになること (4) 心理検査を実施、採点、解釈できるようになること				
教授方法	講義、演習						
履修条件	心理統計学および心理学研究法に関する講義の成績が「S」または「A」であることが望ましい						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	心理検査法とは何か、オリエンテーション						
2	心理測定の基本、データの尺度水準、分布、代表値、正規分布と確率、標準得点						
3	検査の信頼性と妥当性						
4	心理検査と統計解析						
5	質問紙検査、STAIの理論と実施、解釈と所見作成						
6	性格検査、TEGの理論と実施						
7	性格検査、TEGの解釈と所見作成						
8	描画法、投映法、バウムテストの理論と実施						
9	描画法、投映法、バウムテストの解釈と所見作成						
10	知能検査、WAIS-III（言語性検査1回目）						
11	知能検査、WAIS-III（言語性検査2回目）						
12	知能検査、WAIS-III（動作性検査1回目）						
13	知能検査、WAIS-III（動作性検査2回目）						
14	知能検査、WAIS-III（結果の解釈と所見作成）						
15	総括、心理検査法とは何か						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
受講態度	30	講義中の演習や課題に従事すること、積極的に質問、発言すること、他者の発表や意見を聴くこと		課題と発表	30	出された課題を行うこと、小レポートを作成すること、必要に応じて発表すること	
期末レポート	40	レポートを書式通りに作成し、期日を守り提出すること					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
心理検査の演習を行うために、検査実施方法を予習して修得すること。[120分] 心理検査の所見を宿題として作成すること。[120分]				期末レポートについては、次学期初めに内容に関するコメントを掲示する。			
受講生に望むこと	心理統計学および心理学研究法の知識と技術を十分修得した上で受講すること。修得していない場合は講義の理解が困難なため、自習により統計学や研究法の知識を予め必ず獲得しておくこと。			教科書・テキスト	『心理検査の実施の初歩 心理学基礎演習5』 願興寺 礼子・吉住隆弘（編） ナカニシヤ出版 2011年 ISBN-10:4779503876 ISBN-13:9784779503870		
指定図書参考書等	なし/『心理テスト—理論と実践の架け橋—』 ホーガン、T. P. (著) 繁樹算男・権名久美子・石垣琢磨（共訳） 培風館 2010年 ISBN-13:978-4563052041			その他・特記事項	心理検査の実施は他者とペアあるいはグループを作り実施する。予習を行わない場合は他者に迷惑をかけることになるので、大きな減点になる。		

授業科目名	ED230U 心理学実験実習 I		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	松下 健・西尾 祐美子 (代表教員 松下 健)					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
心理学研究を進める上で、必要とされる各種実験手法について、その基礎的知識獲得から実施までを、実習をととして学びます。各実験後に実験レポートを作成してもらいます。			①実験計画の方法に習熟している。 ②実験器具の取り扱いを習得している。 ③実験で得られたデータの分析方法に習熟している。 ④実験レポートを的確に書くことができる。			
教授方法	グループで各実験種目を実施する。その後、実験について解説を行い、データの分析、レポートの作成を行う。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方の説明を行う。また、心理学実験についての基礎的な知識を説明する。					全教員
2	パーソナル・スペース：パーソナル・スペースの心理的効果についての実験の実習を行う。					松下
3	「パーソナル・スペース」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					松下
4	鏡映描写：鏡に映された図形を見ながら、その図形を描くという課題に取り組む。					西尾
5	「鏡映描写」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					西尾
6	P-Fスタディ：投影法による心理の理解という観点から実習を行う。					松下
7	「P-Fスタディ」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					松下
8	ミューラー・リヤー錯視（長さの錯視）：錯視の実験実習を行う。					西尾
9	「ミューラー・リヤー錯視（長さの錯視）」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					西尾
10	面接場面における面談者と来談者の言語行動：面接場面の観察から言語行動を分析する手法を学ぶ。					松下
11	「面接場面における面談者と来談者の言語行動」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					松下
12	触二点閾：皮膚感覚のありようを理解するための実験実習を行う。					西尾
13	「触二点閾」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					西尾
14	SD法：SD法の実験の実習を行う。					松下
15	「SD法」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					松下
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
実験レポート	90	各種目で提出されたレポートの内容により評価を行う（計7本）。レポートとして重要な点は授業内に提示する。		授業参加態度	10	実験とデータ処理に取り組む姿勢等の参加態度をみる。
授業外における学習（事前・事後学習等）						
①多様な種目が用意されているので、種目ごとに自分でその分野のテキストや先行研究を当たり、知識を深める。 [1時間] ②各実験とも、実験レポートを作成し、次回の授業の時に提出する。 [1時間] ③添削されたレポートによって復習する。 [30分]				提出された実験レポートを添削した上で返却する。		
受講生に望むこと	評価はレポートにより行われるが、実験実習であるため、すべての回に出席・参加することが原則となる。また、授業時以外に自分で調べ、レポートを書き進めることで実験レポートを書く力が身につくので、授業への積極的な態度が求められる。			教科書・テキスト	『心理学実験法・レポートの書き方』 西口利文・松浦均（編） ナカニシヤ出版 2008年 ISBN 978-4-7795-0237-8	
指定図書参考書等	なし/『実践心理データ解析—問題の発想・データ処理・論文の作成—改訂版』 田中敏 新曜社 2006年 ISBN 4-7885-1012-X その他種目ごとに適宜授業内にて提示することがある。			その他・特記事項	なし。	

授業科目名	ED250U 心理学実験実習Ⅱ		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	西村 洋一・齊藤 英俊・西尾 祐美子 (代表教員 西村 洋一)						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本実習は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。「心理学実験実習Ⅰ」に引き続き、心理学研究を進めるうえで必要とされる実験手法と実験計画の方法を、実習を通して学ぶ。本実習は、基礎的なものからやや応用的なものまで多様な手法を含んだ実習内容となっている。実験の枠組みの理解とともに実験器具の取り扱いの習得も目指す。</p>			<p>①実験計画の方法を理解する。 ②実験器具の取り扱いを習得する。 ③実験で得られたデータの分析方法を習得する。 ④実験レポートの書き方に習熟する。</p>				
教授方法	グループで各実験種目を実施する。その後、実験について解説を行い、データの分析、レポートの作成を行う。						
履修条件	心理学実験実習Ⅰの履修済みが望ましい(単位未修得可)。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	眼球運動の測定：アイマーク・レコーダーを用いて眼球運動を測定する実験の実習を行う。					西村	
2	「眼球運動の測定」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					西村	
3	一対比較法：一対比較法の実験の実習を行う。					西尾	
4	「一対比較法」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					西尾	
5	社会的推論：人の持つ社会的認知のありようについて検討する実験の実習を行う。					齊藤	
6	「社会的推論」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					齊藤	
7	Y-G性格検査：投影法による心理の理解という観点から実習を行う。					西尾	
8	「Y-G性格検査」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					西尾	
9	社会的態度：社会的態度を測定するための手法を用いた実験の実習を行う。					齊藤	
10	「社会的態度」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					齊藤	
11	ストループ効果：ストループ効果のありようを理解するための実験の実習を行う。					西尾	
12	「ストループ効果」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					西尾	
13	感情理解：表情からの感情理解のありように関する実験の実習を行う。					西村	
14	「感情理解」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、仮説の立て方、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					西村	
15	「感情理解」 レポート作成指導：分析結果のまとめ方、レポートの書き方について指導を行う。					西村	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業内レポート	90	各種目で提出されたレポートの内容により評価を行う(計7本)。レポートとして重要な点は授業内に提示する。		実習への参加度	10	実験を行うにあたって担当者の指示を理解し、着実に実行されているかをみる。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
<p>①種目ごとにテキストや配布されたプリントをよく読み、実験内容の理解を深める。[45分] ②各実験種目のレポートを作成する。[120分] ③各種目で適用された分析方法を復習する。[30分] ④返却されたレポートを見直し、修正する[30分]</p>			各種目についてのレポートは、添削終了後返却し、コメントを行う。				
受講生に望むこと	評価はレポートにより行われるが、実験実習であるため全ての回に出席・参加することが原則となる。また、授業時以外に自分で調べ、レポートを書き進めることで実験レポートを書く力が身につくので、授業への積極的な参加態度が求められる。			教科書・テキスト	『心理学実験法・レポートの書き方』西口利文・松浦均(編) ナカニシヤ出版 2008年 ISBN 978-4-7795-0237-8		
指定図書参考書等	なし/種目ごとに適宜授業内に提示する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ED255U 人格心理学		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	齊藤 英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
人間の心理や行動には個人差が存在する。そのような個人差が生まれるメカニズムに関連しているものの1つとして人格（＝性格、パーソナリティ）があげられる。本講義では、心理学の知見を通して人格を捉えるための多様な視点を概観し、人間理解に向けた1つの基本的知識・視点を身につけることを目指す。			①人格を理解するための諸理論を説明できる。 ②人格を測定する方法と、測定における問題点を答えられる。 ③人格心理学の科学的知見をもとに、人間のパーソナリティについて幅広い視野から考えることができる。				
教授方法	講義を中心に性格検査などのワークも取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション：人格（性格、パーソナリティ）とは何か。人の内面の特徴とされるパーソナリティとはどのようなものか概説する。						
2	類型論：人格をとらえる視点の一つである「類型論」をとりあげ、性格をタイプに分けることの利点と欠点について考える。						
3	精神分析的人格論①：フロイトの精神分析的人格論をとりあげ、人の内面構造に関する理論を学ぶ。						
4	精神分析的人格論②：ユングのパーソナリティ論をとりあげ、人の内面構造に関する理論を学ぶ。						
5	特性論① その考え方：人格をとらえる視点の一つである「特性論」をとりあげ、人をいくつかの特性からとらえることの利点と欠点を考える。						
6	特性論② Big Five：パーソナリティは5つの主要な性格因子で構成されるとする「Big Five モデル」を学ぶ。						
7	状況論：状況要因や環境要因を重視した「状況論」について学び、人格における状況の影響について考える。						
8	相互作用論：人-状況論争を経て誕生した「相互作用論」をとりあげ、近年の性格研究の動向について学ぶ。						
9	物語論：物語論（ナラティブ）の視点から人格について考える。						
10	人格の測定と研究法：人格はどのように測定することができるか考える。方法論（質問紙法、投影法、観察法、面接法）を理解し、研究方法について学ぶ。						
11	人格の発達①：遺伝や家庭をはじめとする環境が、どの程度、人格の形成に影響しているかを考える。						
12	人格の発達②：一度つくられた人格が変わることはあるか、また人格の成熟とは何かについて考える。						
13	人間関係と人格：「対人魅力」に関する研究成果をもとに、相手に好かれる性格とはどういったものかについて考える。						
14	文化と人格：東洋と西洋、日本と米国など、異なった文化環境は人格の形成にどういった影響を及ぼしているかについて考える。						
15	人格の病理：人格における病理にはどのようなものがあるか、またそれらへの対応や治療について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
毎回のリアクション・ペーパー	20	講義内容に対する感想や意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）		課題レポート	40	授業内容をもとに、課題テーマについて自らの意見や考察が行われているかどうか。	
定期試験	40	「人格心理学」の基礎知識が獲得されている。「人格心理学」のテーマについて、実証的研究の知見を踏まえて論理的考察を加えられる。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①授業の前にシラバスを読み、授業内容について参考書などで予習しておくこと。 [30分] ②授業の後に各回の講義内容について、関連図書などを用いて復習しておくこと。 [40分] ③普段自分が、自分の性格や他人の性格をどのようにとらえているのか意識して生活してみる。 ④授業内で習った理論に基づいて、自分の性格や他人の性格を分析してみる。				リアクション・ペーパーについては、授業内で振り返りの時間もちまます。			
受講生に望むこと	性格は身近なものであり、講義内容と自分の性格など自分自身とを結びつけながら受講してほしい。			教科書・テキスト	適宜プリントを配布する。		
指定図書参考書等	なし/『[改訂版] 性格心理学への招待：自分を知り他者を理解するために』 詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊 サイエンス社 2003年 ISBN:978-4781910444、『パーソナリティ心理学』 榎本博明・安藤寿康・堀毛一也 有斐閣 2009年 ISBN:978-4641123779、『パーソナリティ心理学概論：性格理解への扉』 鈴木公啓編 ナカニシヤ出版 2012年 ISBN:978-4779506383			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ED260U 臨床心理学		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	松下 健						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
臨床心理学は心理学の様々な知見を対人援助に用いることを目的とした、応用的な分野の一つである。その内容は多岐にわたるため、本講義では対象、査定方法、心理療法のモデル、心理療法の理論、心理療法の技法、臨床心理士が活躍する現場に焦点を当てて学習する。臨床心理学では人を理解することが重要であるため、技法や検査を体験することで自己や他者の特徴について理解を深める機会と、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて人とのコミュニケーションの取り方について考える機会を設けたい。			(1) 臨床心理学とは何かを説明できるようになる。 (2) 臨床心理学の対象は何かを説明できるようになる。 (3) 臨床心理学的査定とは何か、具体的にどのような方法があるかを説明できるようになる。 (4) 臨床心理学の理論を説明できるようになる。 (5) 臨床心理学の技法を説明できるようになる。 (6) 臨床心理士が活躍する現場を説明できるようになる。				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	臨床心理学の定義と歴史：臨床心理学とは何か、その定義と歴史を理解する。						
2	学校臨床心理学（不登校、いじめ、発達）：学校について臨床心理学的観点から理解する。						
3	発達障害：臨床心理学の対象のひとつである発達障害について、どのような特徴があるかを理解する。						
4	統合失調症：臨床心理学の対象のひとつである統合失調症について、どのような特徴があるかを理解する。						
5	気分障害、神経症：臨床心理学の対象である気分障害と神経症について、どのような特徴があるかを理解する。						
6	異常と正常、治療モデルと成長モデル：臨床心理学では異常と正常をどのように考えるのか、また、対象の変化をどのようなモデルに沿って考えるのかを理解する。						
7	心理査定（面接法、観察法）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、面接法と観察法に焦点を当てて理解する。						
8	心理査定（投影法）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、検査法の中でも投影法に焦点を当てて理解する。						
9	心理査定（知能検査、作業検査、質問紙）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、検査法の中でも知能検査、作業検査、質問紙に焦点を当てて理解する。						
10	心理面接（受面接・終結、マイクロカウンセリング）：臨床心理学の面接はどのように行われるのか、面接の開始、面接の終了、面接の技法を理解する。						
11	精神分析の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論の一つである精神分析について、その歴史、精神分析理論の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。						
12	人間性心理学の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論の一つである人間性心理学について、その歴史、人間性心理学理論の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。						
13	行動療法・認知療法の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論である行動療法・認知療法について、その歴史、行動療法・認知療法の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。						
14	遊戯療法、家族療法、森田療法、内観、臨床動作法、自律訓練法：臨床心理学において頻りに利用される様々な心理療法について理解する。						
15	臨床心理士が働く現場（医療、教育、福祉）：臨床心理学を対人援助に実際に利用している臨床心理士がどのような現場で活躍しているのかを理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
リアクションペーパー	30	講義内容について自分の考えを記述すること。講義のメモではなく、内容から発展させた自分の考えを記述することが求められる。		講義の受講態度	30	グループディスカッションやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。	
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
講義内容に関連する内容について、参考図書をはじめとする臨床心理学に関連する学術的な書籍や論文を読み、知識や理解を深める予習が求められる。[60分] 内容の理解や知識の定着のために復習を積極的に行うことが求められる。[30分] グループでプレゼンテーションを行う際には講義以外にも仲間と打ち合わせや発表の準備を行う必要性が生じる場合がある。[60分]				期末レポートについては、次学期初めに内容に関するコメントを配布する。			
受講生に望むこと	シラバスの内容をよく確認した上で受講すること。 学習に自発的、積極的に取り組むこと。 グループディスカッションの時には他者と協調すること。 プレゼンテーションのために仲間と協力して学習に取り組むこと。			教科書・テキスト	なし。 適宜資料を配布する。		
指定図書参考書等	なし/園田雅代・無藤清子（2011）『臨床心理学とは何だろうか：基本を学び、考える』新曜社 ISBN:4788512262、岩壁茂・福島哲夫・伊藤絵美（2013）『臨床心理学入門：多様なアプローチを越境する』有斐閣 ISBN：9784641220034			その他・特記事項	1回程度、他学科の教員などゲストスピーカーをお招きする可能性がある。 受講生の理解度に応じて進度を変更する可能性がある。		

授業科目名	ET200U 幼稚園教育実習指導 I		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	大井 佳子・向出 圭吾・谷 昌代 (代表教員 大井 佳子)						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	幼稚園教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
幼稚園教育実習 I にかかわる事前・事後の実習指導である。1年次に同一幼稚園で夏期預かり保育体験(8月)と通常保育体験(2・3月)を行い、実践的に学んできた子どもと保育者のかかわりをもとに、大学での子どものかかわりを準備、実践し、記録の書き方に習熟しながら、実習におけるスキマ遊びにつながる短時間の指導計画について理解する。1年次体験において知った半年間で見る子どもの成長の姿から、また事前学習によって知った実習園の保育の特徴をふまえ、実習として臨む9月の幼児の園生活を想像し、実習生自身の個性を生かしたスキマ遊びを考え、環境図と時系列表記で立案して実習園との協議に臨む。1年次の体験園とは異なる園で幼稚園教育実習 I を行い、原則同じ園で次年度の6月に幼稚園教育実習 II を行う実習の流れの意味を理解し、幼稚園教育実習と並行して体験する保育実習・小学校実習とその実習指導と重ね合わせ、現場で学ぶ力を養う。			①幼稚園教育実習 I の概要とその意義を理解している。 ②実習園の教育理念・方針を知り、その幼児教育としての特徴を把握できている。 ③環境図を生かして記録することができる。 ④子どもが自らしたくなるスキマ遊びを考え、実習園に合わせて準備することができる。 ⑤スキマ遊びの指導計画を環境図と時系列表記で表すことができる。 ⑥実習園と必要な連絡協議をすることができる。 ⑦実習報告会の準備を通して実習における自身の体験を振り返り、次年度実習希望学生に伝えることができる。 ⑧実習を通して、実習 II に繋ぐべき自身の課題を明らかにする。				
教授方法	グループワーク・グループ協議・発表・実演						
履修条件	幼稚園夏期預かり保育体験と2(3)月の幼稚園体験に参加していること。保育原理・保育課程論及び保育内容の各科目を履修済あるいは履修中であることが望ましい。						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	幼稚園教育実習 I の概要について知る。幼稚園体験での事後レポートをもとに気づきと疑問を出し合う中で、園による保育・園文化の多様性とその背景を理解する。					全員	
2	子どもとの関わりについての体験的理解①: Enjoy! ミッション「遊びの広場」の実践に向け、4年生の援助を得ながら子どもがしてみたい遊びを探る。					全員	
3	子どもとの関わりについての体験的理解②: 「遊びの広場」の指導計画(環境図・予想される子どもの姿・時系列・配慮事項)を作成する。					全員	
4	Enjoy! ミッションでの実践の記録の見直しを通じて、子どもの姿を記録する際のポイントを理解する。					全員	
5	幼稚園体験の記録を見直し補完することを通じて記録の書き方についての理解を深める。					全員	
6	記録されたエピソードからの読み取り、特に、子どもの遊びを学びとして5領域で読み取ることについて理解する。					全員	
7	各園の教育理念・方針等の諸資料から自身の実習園の特徴を捉え、実習園の保育と子どもの姿を予想する。					全員	
8	大学の様々な授業で体験してきた遊び、教材を活用してそれぞれでマッピングし、実習園での5日間で実践するいくつかのスキマ遊びのイメージをもつ。					全員	
9	マッピングした遊びから、自分らしいスキマ遊びプランと、設定保育で実践できそうな短時間のプランを考える(お集まり・お話・ゲーム他)。					全員	
10	自然物や不用品などの身近なものをを用いた遊びをプランする。遊びの展開の過程を子どもの姿を中心に予想し、時系列と環境図で書いてみる。					全員	
11	自分らしく工夫して作成する教材を考え、その教材を用いる遊びの展開の過程を子どもの姿を中心に予想し、時系列と環境図で書いてみる。					全員	
12	実習園と大学への提出物の内容と期限等を確認し、自身の実習の具体的な流れと今後の実習指導について理解する。					全員	
13	オリジナル教材の提示と模擬実践。直前指導: 幼稚園教育実習 I で学ぶことと準備についての最終確認。					全員	
14	幼稚園教育実習 I の振り返り: 実習ファイルの提出、自己評価。					全員	
15	実習報告会(教材展示・実習ファイルの閲覧を含む)・幼稚園教育実習 II に繋ぐべき自己課題の整理。					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
参加姿勢	30	①グループ活動への積極的な参加 ②適切な連絡・報告		事前課題	50	①記録・指導計画等の内容 ②その補完 ③教材製作・教材準備 ④その改善	
事後課題	20	①事後レポートの内容(自己課題を含む) ②実習報告会の準備					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
遊び(活動)のプランの作成・Enjoy! ミッションでの遊びのための準備・体験の記録の補完・スキマ遊びの指導計画の立案・実習園訪問と実習協議・報告会準備(長時間を要するものが多い。グループでの取り組みや実習園の都合に合わせるものもあるので、各自の時間マネジメントが求められる。)				適宜授業内でコメントする。必要に応じて個別に面談の時間を設ける。			
受講生に望むこと	①保育にふさわしいスタイル(服装・靴・アクセサリ・髪型等)で、保育者が身近に常備しているべきものを持って参加する。 ②保育における「つくりなおし」の意味を理解し、厭わない。 ③保育と実習園に対して興味をもち、情報を収集する。 ④園には可能な限りボランティアとして出向き、実習協議につなげる。			教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814499		
指定図書参考書等	なし/『遊びづくりの達人になろう! 子どもが夢中になってグーンと成長できる★歳児の遊び55』(5歳児・4歳児・3歳児版) 竹井史編著 明治図書出版 2011年 ISBN: 978-4-18-964612-9 978-4-18-964518-4 978-4-18-964414-9			その他・特記事項	①無断欠席や提出物の期限が守られないことなど参加姿勢に社会人としての問題を認めた場合には、幼稚園教育実習 I を取り下げることがある。②実習 I の取り下げ・中断の場合には、本科目の単位は出ないで注意すること。③幼稚園教育実習 I の単位を取得しなければ幼稚園教育実習 II を履修できない。④保育原理・保育課程論及び保育内容科目を履修済あるいは履修中であることを前提として授業が進められることを了解いただきたい。事情で履修できない場合には各自で補習が必要となる。		

授業科目名	ET210U 小学校教育実習指導 I		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	幸 聖二郎・福江 厚啓・姫野 俊幸・村井 万寿夫 (代表教員 幸 聖二郎)						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、北陸学院小学校での5日間、又は、公立小学校での週1回2時間(10月～1月)の教育実習を実施するに当たり、教育実習をすることの意義を理解し、私立学校と公立学校の違いやキリスト教学校の特色について考え、キリスト教学校や公立学校における教師としての在り方や態度について学ぶものである。</p>			<p>①北陸学院小学校又は、公立小学校で教育実習をすることの意義を理解し、準備や見直しをもつ。 ②宗教を教育活動の根幹に据える私立小学校の特色についての理解を深める。 ③北陸学院小学校や公立小学校の教育活動についての理解を深める。 ④実習中における子どもや先生、学級とのかかわり方や配慮すべきことを理解する。 ⑤実習計画や実習日誌の書き方を修得する。 ⑥実習での学びの整理と反省・自己評価ができる。</p>				
教授方法	講義 グループ討議						
履修条件	ガイダンス・プレ実習に参加していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	教育実習指導 I オリエンテーション 教育実習の意義について					全員	
2	教員に求められる資質・能力					福江・全員	
3	学校の教育理念・教育目標について					村井・全員	
4	学校の教育課程について					姫野・全員	
5	私立学校と公立学校のちがいについて・キリスト教学校の特色について					幸・全員	
6	キリスト教学校の目指す子ども像	公立学校の目指す子ども像			幸・姫野・全員		
7	キリスト教学校の目指す教師像	公立学校の目指す教師像			幸・村井・全員		
8	キリスト教学校における宗教教育	公立学校における道徳教育			幸・村井・全員		
9	キリスト教学校の特色ある教育活動①	公立学校の特色ある教育活動①			幸・福江・全員		
10	キリスト教学校の特色ある教育活動②	公立学校の特色ある教育活動②			幸・福江・全員		
11	キリスト教学校の特色ある教育活動③	公立学校の特色ある教育活動③			幸・福江・全員		
12	実習日誌の書き方・実習に向けての心構え					幸・福江・全員	
13	実習での学びの整理と反省・実習報告会に向けての準備					幸・福江・全員	
14	教育実習報告会①(北陸学院小学校)					幸・全員	
15	教育実習報告会②(公立小学校)					福江・全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業態度	50	真剣に授業に取り組んでいたか。		レポート	50	毎回、学習内容を正確に把握し理解していたか。	
授業外における学習(事前・事後学習等)							
<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間ごとの気づきや発見、学びをレポートにまとめる。 [40分] ・学習支援ボランティアに継続的に参加する。 [週1回] 			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック <ul style="list-style-type: none"> ・質問は、授業中以外にも、メール等で受け付ける。メールアドレスは、受講者に知らせておく。 ・毎回の授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 				
受講生に望むこと	・実習校での躓きをなくすため積極的にプレ実習に参加すること。			教科書・テキスト	『キリスト教学校の教職員をこそざす人たちへー志望者のためのガイドブックー』(一般社団法人キリスト教学校教育同盟) ※授業内で販売		
指定図書参考書等	その都度指示あり。			その他・特記事項	その都度指示あり。		

授業科目名	ET215U 小学校教育実習 I		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	幸 聖二郎・福江 厚啓・姫野 俊幸・村井 万寿夫 (代表教員 幸 聖二郎)						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状(英語)				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>小学校教育実習指導 I で受けた事前指導に従って、北陸学院小学校での 5 日間、又は、公立小学校での週 1 回 2 時間(10 月～1 月)の教育実習を行う。それぞれ配属されたクラスで、子どもとふれあったり、授業を参観することで、子ども理解を深め、学級経営、授業づくりについて学ぶ。毎日の実習内容と気付きを指定の書式で記録する。</p>			<p>①子どもや他の教師との積極的なコミュニケーションをとることができる。 ②日々の自分自身の学びを適切に記録することができる。 ③教師としての仕事の魅力や職責に気付く。</p>				
教授方法	北陸学院小学校教育実習(5 日間) 公立小学校教育実習(週 1 回 2 時間10 月～1 月)						
履修条件	小学校教育実習指導 I を履修していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
	学校長より学校の概要の説明を受け、教育実習期間中の指導計画等を理解する。						
	各学級に入り、授業を参観することで、学級の実態を知り、子どもたちや指導教諭との意思疎通を図る。						
	授業を参観し、子どもの実態を知り、各教科の学習進捗を把握する。						
	授業を参観し担任の授業の進め方を学ぶ。休み時間を共有して子どもとの融和を図る。						
	他学年の授業も参観し、それぞれの学年に応じた指導のあることを知る。						
	教育実習日誌を整理し、授業の記録、指導された内容を基に、自分の課題に気付く。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
コミュニケーション能力	50	子どもたちや学校職員とコミュニケーションがとれていたか。		教育実習日誌	50	日々の記録が適切に記録されていたか。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
実習校指導教諭等の指導・指示による。				教育実習記録を毎日指導教諭に提出し、指導を受ける。			
受講生に望むこと	小学校実習は受け入れ校においても一大行事である。真剣に小学校教師を目指す学生がこの講座を受講し、実習生であっても子どもにとっては教師であることを自覚して取り組むことを望む。			教科書・テキスト	小学校学習指導要領 文部科学省		
指定図書／参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ET220U 保育実習指導Ⅰ（施設）		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	虹釜 和昭・齊藤 英俊（代表教員 虹釜 和昭）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本授業では、保育士資格を得るために必要な「保育実習Ⅰ（施設）実習」を行うための事前指導と事後指導からなっている。事前指導では、保育実習の意義と目的、施設現場に対する理解を深める。具体的には、保育士に求められる倫理綱領をはじめ、実習に臨む基本的姿勢、利用者及び入所児童の自立度、家庭問題などに対応する障がい者や子ども理解、実習日誌の記入方法や指導計画の書き方、保育・養育に必要な知識・技能の確認等、実習に向けた準備を行う。事後指導では、実習で体験したことの意味付けと自己評価を行い、これまでの支援のあり方などの省察を行う。それに基づいて自己課題を明確にし、次のステップである保育実習Ⅲ（選択）に臨む。</p>			<p>①保育実習（施設）の意義と目的を理解している。 ②実習の内容を理解し、自らの課題を明確にすることができる。 ③実習施設（施設）における利用者及び子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解している。 ④実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解している。 ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができる。</p>				
教授方法	講義・演習、ディスカッション、プレゼンテーション						
履修条件	「社会福祉」及び「保育原理」の単位を修得済みの者。幼児保育コース所属の学生以外は履修できない。「保育実習Ⅰ（施設）」を履修中であること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	保育実習の意義 授業概要の説明を行い、保育士の仕事を振り返り、保育士科目における施設実習指導の果たす役割について理解する。個人票を作成する。					虹釜・齊藤	
2	施設実習指導の学びの目的について、到達目標を達成するために必要な事項を理解する。					虹釜・齊藤	
3	実習施設（社会的養護を必要とする児童のための福祉施設、障害のある子ども・成人のための福祉施設）の種別と概要について理解する。					虹釜・齊藤	
4	実習施設の職員構成や職種、役割や連携について学ぶ。福祉施設で勤務する保育士の資質について理解する。					虹釜・齊藤	
5	入所・利用している子ども・利用者の特徴や、日常生活、生活環境、人間関係（対家族、対職員、対利用者）について理解する。					虹釜・齊藤	
6	実習に向けての心構えと基礎理解について、資料等からの学びの後グループ内でディスカッションを行う。					虹釜・齊藤	
7	配属予定の施設（種別）について調べた資料に基づいてグループディスカッションを行い、実習先に関する理解を深める。					虹釜・齊藤	
8	これまで受講してきた授業（児童家庭福祉論Ⅰ、社会福祉、社会的養護など）の内容を振り返り、実習との関連についてディスカッションする。					虹釜・齊藤	
9	実習ファイルおよび作成書類（事前オリエンテーション記録、出勤簿、実習日誌、実習日誌ガイドライン、支援計画、自己評価表、実習のまとめ、誓約書など）を配付し、記入上の説明を行う。					虹釜・齊藤	
10	事前オリエンテーションに関する留意事項、オリエンテーション記録作成上の注意を行う。					虹釜・齊藤	
11	実習計画および実習日誌の意義や作成方法について理解する。特に時系列記述とエピソード記述における留意点について理解する。					虹釜・齊藤	
12	実習先施設の養育支援方針、概要を理解する。実習日程・内容など日程を把握する。実習先保育所の保育方針、概要を理解する。実習日程・内容・プレ実習の日程を把握する。					虹釜・齊藤	
13	直前指導：施設実習を行う際の留意事項について、グループごとで行う資料等の学びの後、要点などを確認する。実習中における学びについて理解する。これまで行ってきた実習生の事例をあげながら実習上の注意を促す。					虹釜・齊藤	
14	実習報告会準備：施設実習の振り返り・施設種別毎のグループでの話し合い、報告会の内容を作成する。					虹釜・齊藤	
15	実習報告会：施設実習で学んだことを発表し合い、学びを再確認するとともに、他の実習先での学びを共有する。					虹釜・齊藤	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加姿勢	50	①実習の目的を明確に理解している。②主体的に討議に参加している。③保育士の職務や保育を理解しようとしている。④実習報告会に積極的に参加している。		課題提出	50	①課題を期日までに提出する。②課題内容を理解し、工夫して取り組んでいる。③実習日誌の書き方を理解している。④実習計画を作成することができる。	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
<p>①事前訪問やホームページを活用して、実習先についての概要をまとめ、レポートを提出する。 ②実習日誌のモデル案にしたがって日誌を書いてみる作業を通し、実習日誌の作成に慣れておく。 ③実習で求められる日常業務などを遂行できるように、日常の家事作業などを十分に体験しておく。 ④実習園に限定せず、社会的養護関係施設における学習支援、障害者支援施設・就労支援施設などのボランティアに参加する。</p>				事後指導において、実習内容などの講評を行う。			
受講生に望むこと	①施設保育士は社会的養護関係施設や障害者支援施設・就労支援施設の入所者・利用者の人権に直接かかわる業務であることを十分に認識して授業に臨むこと。②事前にテキストを熟読し、演習課題に取り組むことが望ましい。③「児童家庭福祉論Ⅰ」「社会的養護内容」の授業と関連付けて理解するように努めること。			教科書・テキスト	テキストは使用せず、講義時に「実習ハンドブック」などの資料配付を行う。		
指定図書参考書等	なし／保育実習指導のミニマムスタンダード、全国保育士養成協議会、北大路書房、ISBN978-4-7628-2583-5			その他・特記事項	①委託費など実習費用約50,000円（保育実習Ⅰ・ⅡまたはⅢ）が必要となる。詳細は、1回目の授業で説明する。 ②無断欠席・遅刻・早退が多い・課題未提出等がある場合、実習を認めない。		

授業科目名	ET225U 保育実習 I (施設)		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	虹釜 和昭・齊藤 英俊 (代表教員 虹釜 和昭)					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>居住型および通所型の児童福祉施設（保育所を除く）もしくは障害者支援施設において、90時間（約11日間）の実習を行う。利用者与生活をともにすることで、施設の社会的意義と支援内容、子ども・利用者の理解、保育士の職務や役割、職場内の他職種との連携の理解、施設内で取り組まれている保育や援助技術の理解と実践、保育士の子ども・利用者とのかかわり方、社会人としてのマナーと職業上の倫理を体験的に学ぶ。</p>			<p>①実習施設について理解している。 ②養護の一日の流れを理解し、主体的に参加する。 ③子ども・利用者の観察やかかわりを通して、乳幼児の発達を理解している。 ④支援計画を理解している。 ⑤生活や支援の一部分を担当し、養護技術を習得している。 ⑥職員間の役割分担やチームワークについて理解している。 ⑦施設での生活を通して家庭・地域社会を理解している。 ⑧「子どもの最善の利益」についての配慮を学んでいる。 ⑨保育士としての職業倫理を理解している。 ⑩安全および疾病予防への配慮について理解している。</p>			
教授方法	配属施設において、宿泊もしくは通勤による「10日間以上」、及び、「90時間以上」の実習を行う。					
履修条件	「社会福祉」及び「保育原理」の単位を修得済みの者。「保育実習指導 I (施設)」を履修中であること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
	90時間（約11日間）の実習において、次の1～14の内容を行う。					
	1. 施設での一日の流れを理解する。					
	2. 施設の役割と機能について理解する。					
	3. 子ども・利用者を観察し、記録する。					
	4. 子ども・利用者の個々の状態に応じた援助やかかわりについて考え実践する。					
	5. 実習計画に基づき活動し、支援を行う。					
	6. 子ども・利用者の心身の状態に応じた行動に心がける。					
	7. 子ども・利用者の活動と生活の環境を理解する。					
	8. 子ども・利用者の健康管理、安全対策について理解する。					
	9. 支援計画（自立支援計画を含む）について理解する。					
	10. 実習計画に基づき省察し、自己評価を実施する。					
	11. 施設保育士の業務内容を体験的に理解する。					
	12. 職間の役割分担や他職種職員との連携について体験的に理解する。					
	13. 施設保育士の役割と職業倫理について体験的に理解する。					
	14. 施設の年間計画や行事について理解する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
実習先の評価	50	施設からの、実習評価表における項目ごとに評価する。		巡回時の担当教員の評価	30	実習巡回担当教員によりヒアリング等面談内容について評価する。
提出物	20	「オリエンテーション記録」、「実習記録」、「実習のまとめ」、「終了レポート」等の内容評価				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
事前／施設での行事参加・体験学習（プレ実習）などを通して施設を体験的に理解する。				施設実習指導の事後指導において個別に伝達する。		
受講生に望むこと	①実習の目標を理解した上で実習に臨むこと。 ②実習中は担当教員との報告・連絡・相談を徹底すること。			教科書・テキスト	テキストは使用せず、講義時に「実習ハンドブック」などの資料配付を行う。	
指定図書参考書等	なし／保育実習指導のミニマムスタンダード、全国保育士養成協議会、北大路書房、ISBN978-4-7628-2583-5			その他・特記事項	実習施設は受講生の配属希望調査を実施した上で実習担当教員が配属する。 交通費については原則自己負担とする。	

幼児児童教育学科
(3年次)

授業科目名	EK300U 専門ゼミI			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	伊藤 雄二・大井 佳子・熊田 凡子・中島 賢介・虹釜 和昭・齊藤 英俊・高村 真希・田邊 圭子・多保田 治江・幸 聖二郎・永山 亮一・福江 厚啓・宮浦 国江・向出 圭吾・ 姫野 俊幸・村井 万寿夫・谷 昌代（代表教員 伊藤 雄二）						
標準履修年次	3年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
基礎ゼミ・プロゼミで身につけた学習および研究方法を土台として、各自の問題関心をより深く考察するために、選択したゼミ担当教員のもとで、学習および研究を進める。具体的には、各ゼミで示されるゼミプランに従い、専門分野に関する文献を多く読み、理解に努める。その後、ゼミ担当教員の指導のもとに、各自が設定したテーマに沿って文献・資料検索、データ収集などを行い、ゼミレポート（8000字程度：該年度の1月下旬締切）の完成を目指す。				① ゼミプランに従って専門分野に関する多くの文献に触れている。 ② 各自が設定したテーマに沿って文献・資料検索、データ収集などを行うことができる。 ③ ゼミレポートの作成を通して、設定したテーマをより深く理解し、文章化することができる。 ④ グループディスカッションを通して教員や他のゼミ学生の考えに気付き、自分の知見を広げる。			
教授方法	ゼミごとに指導教員の指示のもと演習形式で行う。						
履修条件	基礎ゼミ・プロゼミを履修し、単位を取得していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	ゼミ内での自己紹介、ゼミ運営についてのオリエンテーションなどを行う。						各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
15	ゼミごとに前期のゼミ活動を総括する。						各担当教員
16	ゼミごとに後期のゼミ運営のオリエンテーションなどを行う。						各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員

授 業 計 画		
実施回	授業内容・目標	担当教員
28	各ゼミ内でレポートの発表を行う。	各担当教員
29	各ゼミ内でレポートの発表を行う。	各担当教員
30	専門ゼミ I の活動総括を行う。	各担当教員

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業参加状況	50	①ディスカッションへの積極的な参加をしているか。 ②文献等の調査を積極的におこなっているか。 ③課題にまじめに取り組む姿勢があるか。	レポート	50	①指定された字数・書式等が守られているか。 ②内容（課題、論旨の根拠、意見等）が適切か。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
積極的に図書館等を利用するなど、専門分野に関する文献を多く読む。詳細は各ゼミの担当教員の指導に従う。			随時行う。		
受講生に望むこと	2年次後期に配付する「専門ゼミ I・II の登録と卒業研究について」の資料を熟読すること。		教科書・テキスト	ゼミごとの担当教員の指示に従う。	
指定図書／参考書等	なし／ゼミ担当教員の指定による。		その他・特記事項	不明な点は自分の所属するゼミ担当教員に問い合わせること。	

授業科目名	EK250U 教育史		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	鳥居 和代						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>これまでの教育史研究の成果と蓄積は、現在の私たちに何を発信し、何を問いかけているのだろうか。本授業では、主として近世・近代・現代（戦後1950年代まで）の日本社会における教育と子ども・若者の歴史を辿りながら、それぞれの時代の教育課題の所在、および現在の私たちが教育史に学ぶことの意義を、共に考えたい。</p>			<p>①教育に関する歴史、思想、実践などの原理的な問題に関する基礎教養を習得する。 ②歴史の中の教育と子ども・若者をめぐる課題を、現在の自分たちの問題として引き取り、考えることができるようになる。</p>				
教授方法	講義形式の授業が基本となるが、視聴覚資料をできるだけ多く活用しながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション（授業の進め方、成績評価の方法など）、教育史をなぜ学ぶのか						
2	近世社会の学問と教育（1） 江戸時代の教育機関						
3	近世社会の学問と教育（2） 読み書き学習の意味						
4	近代の学校とは何か（1） 近代学校の性格						
5	近代の学校とは何か（2） 天皇制と教育						
6	大正自由教育の展開						
7	学生生徒の校外生活と風紀問題						
8	学生の自治と自由						
9	戦争と教育（1） 子どもたちの戦時動員						
10	戦争と教育（2） 若者たちの戦時動員						
11	敗戦後の社会と子ども						
12	1950年代の子どもを取り巻く問題（1） 基地周辺の子どもたち						
13	1950年代の子どもを取り巻く問題（2） 長期欠席の子どもたち						
14	義務教育の保障と人々の学び						
15	まとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	60	課題に対して的確に応答できているか。		リアクションペーパー	20	授業内容を理解したうえで記述できているか。	
授業参加状況	20	授業への取り組み姿勢。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
毎回の授業で扱った文献や映像資料等の中で、自分が興味を持ったものを事後学習として積極的に読んだり観たりすることをお勧めする。[30～60分]				リアクションペーパーの内容について、次回授業の冒頭でコメントする。レポートは返却しない。			
受講生に望むこと	本授業を通して、教育に関する歴史的なものの見方・考え方を習得し、それをさらに今後の学びの中で自ら鍛え上げてほしい。			教科書・テキスト	特になし。レジュメ（自作テキスト）を毎回授業当日に配る。		
指定図書参考書等	授業時に適宜指示する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EK310U 教育学文献講読A1		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	熊田 凡子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本年度の教育学文献講読は「生きる力」を育てる教育実践、子育てを中心に教育を考える。前期の文献講読Ⅰでは、生活綴方教育と生活教育実践理論家である金森俊朗とその金森実践を教育学人間学の視点から哲学する辻直人による『学び合う教室—金森学級と日本の世界教育遺産』をテキストとして、「生きる力」を育む教育なかでも個人を内側から突き動かす思い—「内なる声」を育てることについて、具体的に学び理解を深める。「内なる声」を見つめ、教育・保育・子育ての本質を問い直し、現代的課題を検討していく。</p>			<p>①文献を的確に要約し、報告できる。 ②文献に登場した概念を分析し議論できる。 ③文献の現代的意義について論じることができる。 ④文献で紹介された概念を参考に、自らの教育観を語るができる。</p>				
教授方法	演習、担当者による報告と受講生による討論						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション（演習の進め方、成績の付け方についての確認） 金森実践についての考察						
2	まえがきの検討						
3	第1章「子どもたちはガキの時代を奪われた—まちがいだらけの教育論」の検討						
4	第2章「子どもたちは大人の思想をこえる—金森学級の実践」の検討						
5	第3章「金森実践はオランダで受け入れられた—本当の『教育の主流』」の検討						
6	第4章「生活綴方・生活教育が金森実践をつくった—金森学級の源泉」の検討						
7	第5章「日本には世界遺産がある—教育遺産の力」の検討						
8	第6章「子どもと世界を読み解く—共育・響育・協育」の検討、現代教育を問い直す。						
9	第6章「子どもと世界を読み解く—共育・響育・協育」の検討、「内なる声」を育む教育。						
10	第6章「子どもと世界を読み解く—共育・響育・協育」の検討、学びを再定義する。						
11	第6章「子どもと世界を読み解く—共育・響育・協育」の検討、教育遺産は受け継がれている。						
12	第6章「子どもと世界を読み解く—共育・響育・協育」の検討、自分と自分を取り巻く世界を読み解く。						
13	あとがきの検討						
14	金森実践・哲学の現代的意義についての検討						
15	「学ぶ合う教室」の総合的検討						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業態度	30	事前に文献を読んできたか。議論に参加して、積極的に自分の意見を述べたか。		レポート	40	文献を踏まえた上で、「生きる力」「内なる声」を育む教育について自分の意見をまとめられたかどうか。	
報告内容	30	割り当てられた箇所について適切なレジユメの作成と報告の準備をしてきたかどうか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
全員が毎週割り当てられるテキストの範囲をしっかりと読み、討論に参加できるように、事前に分からない語句などを調べておくこと。[90分] 報告者は議論のできるような適切なレジユメをまとめること。[90分]				報告や質問に対しては適宜対応する。レポートは、後期の文献講読Ⅱも受講するものには後期に返却、その他の学生に対しては希望者に返却する。			
受講生に望むこと	教育学を学問としてしっかり学びたい学生の受講を強く希望する。後期の教育学文献講読Ⅱも継続して受講することを望む。			教科書・テキスト	『学び合う教室—金森学級と日本の世界教育遺産』 金森俊朗・辻直人、角川新書、2017年、ISBN978-4-04-082135-1		
指定図書参考書等	なし/適宜紹介する			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EK315U 教育学文献講読A2		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	齊藤 英俊						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
今年度は社会文化的アプローチの学習理論に関する文献を通して、人の学習（学び）の過程について考えてみたい。人が学んでいく上で、他者や集団の中で学ぶことにはどのような意味があるか。そのような問いについて、社会文化的アプローチの代表的なものの1つであるレイヴらの状況的学習論の観点から考えてみたい。			①レジュメを作成し、文献の要点を整理し発表することができる。 ②状況的学習論について理解している。 ③人の学習過程について、自分なりの意見を持てるようになる。				
教授方法	参加者による輪読（レジュメ作成および発表）、ディスカッション						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の流れ、評価方法について。発表者決め。						
2	第1章 正統的周辺参加の前半						
3	第1章 正統的周辺参加の後半						
4	第2章 実践、人、社会的世界の前半						
5	第2章 実践、人、社会的世界の後半						
6	第3章 産婆、仕立屋、操舵手、肉屋、アルコール依存者①						
7	第3章 産婆、仕立屋、操舵手、肉屋、アルコール依存者②						
8	第3章 産婆、仕立屋、操舵手、肉屋、アルコール依存者③						
9	第4章 実践共同体における正統的周辺参加の前半						
10	第4章 実践共同体における正統的周辺参加の後半						
11	第5章 結論、解説：認知という実践の前半						
12	解説：認知という実践の後半						
13	状況的学習論に関する文献の検討①						
14	状況的学習論に関する文献の検討②						
15	状況的学習論に関する文献の検討③						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
授業への参加姿勢	30	出席状況やディスカッションでの発言等を評価する。	担当回の発表	40	レジュメの完成度、補足的に調べた内容、発表内容を評価する。		
最終レポート	30	文献の内容を踏まえて、人の学習過程について自らの意見や考察をまとめられているかどうか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①事前に各回でとりあげる当該箇所を読んでおく。[30分] ②発表に向けて、担当箇所を読んでレジュメを作成する。必要に応じて、参考書等により補足情報を調べる。[50分]			最終レポートについては、希望者には次学期に内容に関するコメント等を含めて返却を行います。				
受講生に望むこと	受動的な態度での受講ではなく、積極的な授業参加を期待します。		教科書・テキスト	『状況に埋め込まれた学習』 J.レイヴ・E.ウェンガー（佐伯胖訳）産業図書 1993年 ISBN:978-4782800843			
指定図書参考書等	なし/『子どもは教室で何を学ぶのか』石黒広昭 東京大学出版会 2016年 ISBN:978-4130530880		その他・特記事項	受講者の人数や理解度に応じて、授業の内容や進め方を修正する場合があります。			

授業科目名	EK320U 教育学文献講読A3			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	中島 賢介						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本授業では、『ラッセル教育論』を講読する。著者のバートランド・ラッセルはイギリスを代表する思想家であり、二十世紀最高の知性の一人であると言われている。彼は教育に関する著述を行うだけでなく、私立学校を経営するなど自分の教育理想を実現に向けて努力した教育者でもあった。今回は、ラッセルが提唱する「性格の教育」と文献の今日的意義について検討する。</p>				<p>①文献の内容を的確に理解し、要約することができる。 ②文献の内容を踏まえた上で自己の主張・教育観を展開することができる。 ③文献の現代的意義について論じることができる。 ④文献に関する研究手法について理解している。</p>			
教授方法	参加者による輪読（レジュメ作成および発表）、ディスカッション						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	授業オリエンテーション：授業の概要、到達目標、流れ、評価方法について解説する。発表者と担当箇所を決定する。						
2	まえがきや解説などからラッセルの生涯と業績について検討する。						
3	第1章「近代教育理論の前提条件」を検討する						
4	第2章「教育の目的」を検討する						
5	第3章「生後1年」を検討する						
6	第4章「恐怖」を検討する						
7	第5章「遊びと空想」と第6章「建設的であること」を検討する						
8	第7章「自分本位と所有権」と第8章「誠実であること」を検討する						
9	第9章「罰」と第10章「他の子どもたちの持つ重要性」を検討する						
10	第11章「愛情と同情」と第12章「性教育」を検討する						
11	第13章「保育園」を検討する						
12	第14章「一般的な原理」と第15章「14歳以前の教育課程」を検討する						
13	第16章「最後の学年」と第17章「通学制の学校と寄宿制の学校」を検討する						
14	第18章「大学」と第19章「結論」を検討する						
15	文献の今日的意義を検討する						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業態度	30	事前に文献を読み、ディスカッションに参加し、積極的に発言しているかを評価する。			発表内容	30	担当箇所についてのレジュメ作成と発表がディスカッションにつながる内容であったかを評価する。
レポート	40	文献を全体的に理解し、協議内容を含めて自己の主張をしているかを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①全員が毎回指定されている購読箇所を読み、ディスカッションに参加できるように、内容に関連する事項や人物などを予め調べてくる。[60分] ②発表者はディスカッションができるようなレジュメを作成する。必要に応じて、参考書などにより補足説明を用意しておく。[90分]</p>				発表や内容に関する質問に対しては適宜応対する。最終レポートについてはコメントを配布する。			
受講生に望むこと	教育学の著作を本格的に読みたいという学生とともに学びたい。			教科書・テキスト	『ラッセル 教育論』安藤貞雄訳 岩波文庫 1990年 ISBN：978-4003364925		
指定図書参考書等	なし／『ラッセル Century Books 人と思想』金子光男 清水書院 2014年 ISBN：978-4389420307			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EK325U 教育学文献講読B1		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	熊田 凡子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本年度の教育学文献講読は「生きる力」を育てる教育実践、子育てを中心に教育を考えることをテーマとしている。後期の文献講読Ⅱでは、フランスに移住した著者自身の妊娠、出産、育児を通じたフランス流子育て哲学書「フランスの子どもは夜泣きをしないーパリ発「子育て」の秘密ー」をテキストとして、「生きる力」を育む教育なかでも自主性を育てることについて、具体的に学び理解を深める。「待つこと」をあらたに見つめ、教育・保育・子育てを本質的に問い直し、人間の出発を検討していく。</p>			<p>①文献を的確に要約し、報告できる。 ②文献に登場した概念を分析し議論できる。 ③文献の現代的意義について論じることができる。 ④文献で紹介された概念を参考に、自らの教育観を語るができる。</p>				
教授方法	演習、担当者による報告と受講生による討論						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション（演習の進め方、成績の付け方についての確認） フランス子育てについての考察						
2	序章「フランスの子どもは食べものを投げない」検討						
3	第1章「パリ移住と妊娠」の検討						
4	第2章「パリの妊婦はなぜスリムなのか」の検討						
5	第3章「フランス人の赤ちゃんは朝までぐっすり眠る」の検討						
6	第4章「お菓子づくりは教育の宝庫」の検討						
7	第5章「保育所はすばらしい」の検討						
8	第6章「フランス人ママは母乳にこだわらない」の検討						
9	第7章「フランスの魔法の言葉」の検討						
10	第8章「フランス流、夫婦円満の秘訣」の検討						
11	第9章「フランス流の食育はおどろきの連続」の検討						
12	第10章「なにかがちがう、フランス人の親の叱りかた」の検討						
13	第11章「子どもには子どもの人生がある」の検討						
14	終章「フレンチな未来」の検討						
15	「フランスの子どもは夜泣きをしないーパリ発「子育て」の秘密ー」の総合的検討						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業態度	30	事前に文献を読んできたか。議論に参加して、積極的に自分の意見を述べたか。		レポート	40	文献を踏まえた上で、「生きる力」「自主性」を育むフランスの子育てにおける教育及び思想について自分の意見をまとめられたか。	
報告内容	30	割り当てられた箇所について適切なレジュメの作成と報告の準備をしてきたかどうか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
全員が毎週割り当てられるテキストの範囲をしっかりと読み、討論に参加できるように、事前に分からない語句などを調べておくこと。[90分] 報告者は議論のできるような適切なレジュメをまとめること。[90分]				報告や質問に対しては適宜対応する。レポートについては希望者に返却する。			
受講生に望むこと	教育学を学問としてしっかり学びたい学生の受講を強く希望する。前期の教育学文献講読Ⅰから継続して受講することを望む。			教科書・テキスト	『フランスの子どもは夜泣きをしないーパリ発「子育て」の秘密ー』パメラ・ドロッカーマン著、鹿田昌実訳、集英社、ISBN978-4-08-789004-4		
指定図書参考書等	なし/適宜紹介する			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EK330U 教育学文献講読B2		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	齊藤 英俊						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
今年度はエリック・エリクソンの発達理論について文献を通して学ぶ。エリクソンの発達理論は、「心理社会的発達理論」として知られており、人の発達を考える上で重要な理論である。本授業では、前半に青年期の発達課題でもある「アイデンティティ」を中心とした文献を読むことを通じて、エリクソンの生涯や発達理論について学ぶ。後半は、エリクソンの著作を読むことを通じて、エリクソンの心理社会的発達理論についてより深く学んでいく。エリクソンの発達理論を通して、人の発達の過程や発達における課題にはどのようなものがあるかについて考えてみたい。			①レジュメを作成し、文献の要点を整理し発表することができる。 ②エリクソンの発達理論について理解している。 ③人の生涯発達の過程や発達課題について、自分なりの意見を持てるようになる。				
教授方法	参加者による輪読（レジュメ作成および発表）、ディスカッション						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の流れ、評価方法について。発表者決め。						
2	第1章 「自分」とは何か						
3	第2章 エリクソンの自己形成史						
4	第3章 ライフサイクルとアイデンティティ①：生涯にわたる人間発達の理論						
5	第3章 ライフサイクルとアイデンティティ②：アイデンティティの諸領域・諸次元						
6	第3章 ライフサイクルとアイデンティティ③：アイデンティティ研究の発展						
7	第3章 ライフサイクルとアイデンティティ④：アイデンティティ概念のひろがり						
8	第4章 臨床問題としてのアイデンティティ①						
9	第4章 臨床問題としてのアイデンティティ②						
10	第5章 日本人のアイデンティティ						
11	『ライフサイクル、その完結』 第2章 心理・性的なるもの世代のサイクルの前半の検討						
12	『ライフサイクル、その完結』 第2章 心理・性的なるものと世代のサイクルの後半の検討						
13	『ライフサイクル、その完結』 第3章 心理・社会的発達の主要な段階の前半の検討						
14	『ライフサイクル、その完結』 第3章 心理・社会的発達の主要な段階の後半の検討						
15	『ライフサイクル、その完結』 第4章 自我とエトスの検討						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への参加姿勢	30	出席状況やディスカッションでの発言等を評価する。		担当回の発表	40	レジュメの完成度、補足的に調べた内容、発表内容を評価する。	
最終レポート	30	文献の内容を踏まえて、人の生涯発達の過程について自らの意見や考察をまとめられているかどうか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①事前に各回でとりあげる当該箇所を読んでおく。[30分] ②発表に向けて、担当箇所を読んでレジュメを作成する。必要に応じて、参考書等により補足情報を調べる。[50分]			最終レポートについては、希望者には次学期に内容に関するコメント等を含めて返却を行います。				
受講生に望むこと	受動的な態度での受講ではなく、積極的な授業参加を期待します。			教科書・テキスト	『アイデンティティの心理学』 鎌 幹八郎 講談社 1990年 ISBN:978-4061490208		
指定図書参考書等	『ライフサイクル、その完結』 E.H. エリクソン・J.M. エリクソン（村瀬孝雄・近藤邦夫訳）みすず書房 2001年ISBN: 978-4622039679/『生涯発達とライフサイクル』鈴木 忠・西平 直 東京大学出版会 2014年 ISBN:978-4130133081『エリクソンの人間学』西平 直 東京大学出版会 1993年 ISBN:978-4130161015			その他・特記事項	受講者の人数や理解度に応じて、授業の内容や進め方を修正する場合があります。		

授業科目名	EK335U 教育学文献講読B3		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	中島 賢介						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本授業では、『児童の世紀』を取り上げ、スウェーデンの教育者エレン・ケイの養護と教育に対する思想に触れる。疲弊し乱れた社会に新しい方向性を与えた彼女の思想は、現代の多様化した社会においても示唆を与えるものである。中でも教育に関する話題が中心の第二部を読み、彼女の目指した教育理想について議論し、文献の現代的意義について検討する。</p>			<p>①文献の内容を的確に理解し、要約することができる。 ②文献の内容を踏まえた上で自己の主張・教育観を展開することができる。 ③文献の現代的意義について論じることができる。 ④文献に関する研究手法について理解している。</p>				
教授方法	参加者による輪読（レジュメ作成および発表）、ディスカッション						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション 授業の概要・到達目標、流れ、評価方法について解説する。 発表者と担当箇所を決定する。						
2	解題、第一部の検討（子どもの権利と母親の保護を中心に）						
3	第二部 第一章 「教育」（p.139-147）の検討（子どもの「悪」、教育者の「悪」を中心に）						
4	第二部 第一章 「教育」（p.147-161）の検討（スペンサー方式教育を中心に）						
5	第二部 第一章 「教育」（p.161-170）の検討（体罰を中心に）						
6	第二部 第一章 「教育」（p.170-185）の検討（子どもの嘘を中心に）						
7	第二部 第一章 「教育」（p.185-203）の検討（児童の世紀が持つ二重性を中心に）						
8	第二部 第二章 「未来の学校」（p.203-220）の検討（小規模な家庭学校を中心に）						
9	第二部 第二章 「未来の学校」（p.221-246）の検討（理想の学校を中心に）						
10	第二部 第三章 「宗教授業」（p.247-278）の検討						
11	第二部 第四章 「学校における精神的殺害」（p.279-296）の検討						
12	第二部 第五章 「家庭の喪失」（p.297-306）の検討						
13	第二部 第六章 「本と教科書」（p.307-323）の検討						
14	エレン・ケイ研究の検討						
15	総括的検討、文献の現代的意義についてディスカッションする						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業態度	30	事前に文献を読み、ディスカッションに参加し、積極的に発言しているかを評価する。		発表内容	30	担当箇所についてのレジュメ作成と発表がディスカッションにつながる内容であったかを評価する。	
レポート	40	文献を全体的に理解し、協議内容を含めて自己の主張をしているかを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①全員が毎回指定されている購読箇所を読み、ディスカッションに参加できるように、内容に関連する事項や人物などを予め調べてくる。[60分] ②発表者はディスカッションができるようなレジュメを作成する。必要に応じて、参考書などにより補足説明を用意しておく。[90分]</p>				発表や内容に関する質問に対しては適宜応対する。最終レポートについてはコメントを配布する。			
受講生に望むこと	教育学の著作を本格的に読みたいという学生とともに学びたい。			教科書・テキスト	『児童の世紀』エレン・ケイ 富山房 2005年 ISBN : 4-572-00124-3		
指定図書参考書等	なし／『エレン・ケイ 保育への夢—『児童の世紀』へのお誘い』荒井湧 フレーベル館 2001 ISBN : 978-4577811542 『エレン・ケイ『児童の世紀』より ことばの花びら』荒井湧 富山房インターナショナル 2011 ISBN : 978-4905194156			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EE305U 国語科教育法（書写を含む）		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	幸 聖二郎						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>「国語」で学んだことを基礎にして、国語科教育の特質や現状、指導のための基礎的知識や技術を学ぶ。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域及び書写の指導事項や発達段階に応じた指導を行うための実践力を、講義やグループ討議、模擬授業などを通して学ぶ。</p>			<p>①国語科教育の実践的指導にあたっての基礎的知識を理解している。 ②発達段階や系統性を踏まえて国語科学習指導計画を立案できる。 ③模擬授業を通して国語科の実践的な指導技術を習得している。 ④子ども・指導者両者の立場から授業を評価できる。</p>				
教授方法	講義 演習 授業参観 グループ討論						
履修条件	「国語」を履修した者または「国語」を履修中の者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業概要、進め方、成績評価の方法						
2	学習指導要領における国語科の目標と内容						
3	「話すこと・聞くこと」に関する教材研究						
4	「話すこと・聞くこと」に関する指導法研究						
5	「読むこと」に関する教材研究						
6	「読むこと」に関する指導法研究						
7	「書くこと」に関する教材研究						
8	「書くこと」に関する指導法研究						
9	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」についての教材研究						
10	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」についての指導法研究						
11	「書写に関する事項」についての教材研究と指導法研究						
12	低学年言語指導単元模擬授業						
13	中学年言語指導単元模擬授業						
14	高学年言語指導単元模擬授業						
15	まとめ：国語科教育の現状と課題						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
学習指導案	40	十分な教材研究がなされている。単元の目標達成や本時の目標達成を明確にした学習指導案がつけられている。	模擬授業の実施	40	十分な事前準備がなされている。ねらい達成のための授業展開ができている。授業者・児童双方の立場を理解した行動や関わりがなされている。客観的な高め合う相互評価をしている。		
課題	20	授業力における自分の課題を理解している。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
事前学習 教材研究や模擬授業の指導案を作成する。事後学習・授業で学んだことや各自の課題についてレポートを作成する。[30分]			<ul style="list-style-type: none"> ・質問は、授業中以外にも、メール等で受け付ける。メールアドレスは、受講者に知らせておく。 ・毎回授業の初めに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 				
受講生に望むこと	「国語」で学んだ国語科の目標と内容を想起してほしい。模擬授業で授業力をつけるためにも、事前事後学習や教材研究にしっかり取り組んでもらいたい。子どもの立場に立って授業案を考え、指導を試みることも大切である。自分の課題や目標をみつめて授業力向上に励んでほしい。		教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説国語編』文部科学省 東洋館 2008年 INBN978-4-491-02371-7-C3037			
指定図書参考書等	なし/『言語活動の充実に関する指導事例集』～思考力、判断力、表現力の育成に向けて～【小学校版】文部科学省 教育出版 2011年 ISBN978-4-316-300290-0 小学校国語学習指導書1年～6年 光村図書出版株式会社 ISBN978-4-89528-850-7～978-4-89528-861-3		その他・特記事項	なし			

授業科目名	EE300U 社会科教育法		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	福江 厚啓						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>学習指導要領「社会科」の教科目標には、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」を育成する、とある。小学校3年生から6年生まで、それぞれの発達の段階に応じた社会科の学習指導を行うために必要な技能を身につけることを目指し、実践的に学んでいく。</p>			<p>①小学校社会科の目標、意義、内容、指導法、評価について理解を深め、授業実践のための基礎的知識および技能を身に付ける。 ②社会科の主な指導内容・方法を選択し、学習指導計画案の作成や模擬授業を通じて、その特色や問題点などについて実践的に理解を深める。</p>				
教授方法	講義および教材研究、単元計画・指導案の作成の課題、模擬授業など						
履修条件	「社会」を履修していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。						
2	小学校社会科における教科の本質について理解する。						
3	社会科指導のあり方（教材研究、指導計画立案）を理解する。						
4	社会科指導のあり方（授業展開、評価）を理解する。						
5	3・4 学年における社会科教育の目標と内容を理解する。						
6	5・6 学年における社会科教育の目標と内容を理解する。						
7	3 学年における社会科教育の指導計画の作成を理解する。						
8	4 学年における社会科教育の指導計画の作成を理解する。						
9	5 学年における社会科教育の指導計画の作成を理解する。						
10	6学年における社会科教育の指導計画の作成を理解する。（社会科学習指導案①の提出）						
11	学生による模擬授業の実施と反省、評価①（3学年）						
12	学生による模擬授業の実施と反省、評価②（4学年）						
13	学生による模擬授業の実施と反省、評価③（5学年）						
14	学生による模擬授業の実施と反省、評価④（6学年）						
15	全体ふりかえり、まとめ、社会科学習指導案②（修正版）の提出						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
学習指導計画案	25	模擬授業実施のための学習指導計画案を作成する。その際、十分に教材研究をし、創意工夫をおこなっている。		模擬授業	30	授業づくりに積極的に参加することができる。	
修正指導案・期末レポート	25	模擬授業や担当教員による助言を踏まえ、修正版指導案を提出する。また、授業づくりについての学びを簡潔にまとめることができる。		講義ごとの対話カード	20	毎回の講義の終わりに、疑問や意見、感想等を「対話カード」に書き、提出する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>単元計画・指導案の作成、模擬授業の準備のため、授業時間外に積極的に教材研究を行う。〔60分〕 市内の小学校の学習支援に積極的に参加する。〔60分以上〕</p>				<p>学習指導計画案は、初回に提出されたものに担当教員が指導助言を行い、いったん返却する。模擬授業等を踏まえて修正を行ったものを期末に再提出するものとする。2週間程度を目安に、コメントをつけて返却する。 対話カードの内容は、次時の講義の冒頭で紹介したい。</p>			
受講生に望むこと	社会科実践に興味をもって教材研究を進めたり、仲間とともに授業をつくったりすることを大切にしてほしい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説社会科編』文科省、東洋館出版社、2008年、978-4-491-02372-4 （※上記は現行のもの。出版されていれば、新学習指導要領版を使用する）		
指定図書参考書等	授業の中で適宜紹介する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EE340U 体育科教育法		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田邊 圭子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
学習指導要領に示された体育科教育の目標や内容を理解する。実践的指導のための基礎的知識と技能を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。			小学校体育科における各運動領域の特性を理解し、体育授業に必要な技能と発達段階や系統性を踏まえた具体的な指導法や授業設計を身につける。				
教授方法	講義および教材研究、模擬授業など						
履修条件	「児童体育」を履修した者または「児童体育」を履修中の者が望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	学校教育における体育の意義を理解する						
2	「体づくり運動」の特性と学習指導要領の理解を踏まえた指導案作成について理解する。						
3	「体づくり運動」の模擬授業および授業づくりと指導法について理解する。						
4	「器械運動」の特性と学習指導要領の理解を踏まえた指導案作成について理解する。						
5	「器械運動」の模擬授業および授業づくりと指導法について理解する。						
6	「陸上運動」の特性と学習指導要領の理解を踏まえた指導案作成について理解する。						
7	「陸上運動」の模擬授業および授業づくりと指導法について理解する。						
8	「水泳」の模擬授業および授業づくりと指導法について理解する。						
9	「ボール運動」の特性と学習指導要領の理解を踏まえた指導案作成について理解する。						
10	「ボール運動」の模擬授業および授業づくりと指導法について理解する。						
11	「表現運動」の特性と学習指導要領の理解を踏まえた指導案作成について理解する。						
12	「表現運動」の模擬授業および授業づくりと指導法について理解する。						
13	「保健」の特性と学習指導要領の理解を踏まえた指導案作成について理解する。						
14	「保健」の模擬授業および授業づくりと指導法について理解する。						
15	「運動の楽しさや喜びを味わえる体育授業と指導」について話し合い、まとめる。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢。	模擬授業	25	十分な準備をして授業に臨み、実践できたか。		
指導案の内容	25	様々な子どもの姿を予想して授業計画を立てているか。	レポート	20	「体育」について、自分の考えを論理的に述べる事ができているか。		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①ニュースや新聞で報じられている運動や健康に関する情報に接し、様々な角度から考えてみる[60分] ②授業中に配布した資料を読む[30分] ③模擬授業指導案及びコメントペーパーの作成[60分]			レポートは採点及びコメントを付記して2週間以内に返却する。				
受講生に望むこと	自分は「運動が得意だから体育が教えられる」、「運動が苦手だから体育が教えられない」と考えないでください。体育は、単に運動技術を高めるためだけでなく、能力差のある子供達と一緒に運動することを通して学びあう科目です。体育の楽しさを教えるためには、運動に関する正しい知識と指導法に加え、授業内容の工夫が必要です。自分自身のこれまでの経験は大切ですが、それが全てとは考えないでください。		教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説 体育編』、文部科学省、2017年、『すべての子どもが必ずできる 体育の基本』（高橋健夫他、学研教育みらい）、2011年、ISBN978-4-05-404531-6C2075			
指定図書参考書等	授業を進める中で随時提示またはプリント配布する。		その他・特記事項	模擬授業の時間は運動できる服装に着替え、体育館履きに履き替えて受講すること。			

授業科目名	EE235U 教育課程編成論		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	姫野 俊幸						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>社会的背景と明確な法的根拠に基づいた「教育課程」について理解を深めるために、学習指導要領の誕生から改訂の変遷、カリキュラム・マネジメントを踏まえた新しい学習指導要領の目指すところ、教育課程の編成の方法に関して留意すべき事項等について学んでいく。</p>			<p>1) 初等教育における教育課程の意義、学習指導要領の内容、役割、改訂の変遷等について理解する。 2) 教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 3) カリキュラム・マネジメントの意義について理解する。</p>				
教授方法	講義と演習						
履修条件	小学校教員免許課程単独希望者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業の概要、授業の進め方、成績評価の方法、教育課程とは何かについて						
2	教育課程の法的根拠、学習指導要領の位置づけについて						
3	教育課程の類型論（含：外国の教育課程）について						
4	学習指導要領の歴史の変遷①1947年、1951年						
5	学習指導要領の歴史の変遷②1958年、1968年、1977年						
6	学習指導要領の歴史の変遷③1989年、1998年						
7	学習指導要領の歴史の変遷④2008年						
8	新しい学習指導要領（2017年）について						
9	カリキュラム・マネジメントについて						
10	チーム学校について						
11	学習評価について						
12	特別活動について						
13	外国語活動・外国語について						
14	特別の教科道徳について						
15	インクルーシブ教育について						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	50	「教育課程」について、キーワードを中心に記述形式で理解度を評価する。		レポート	40	授業感想及び課題内容に応じたレポートを書くことができたかを評価する。	
授業参加態度	10	授業への取り組み姿勢を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①授業で示す課題に取り組み、次回の授業の開始時に提出する。(60分) ②授業の感想と振り返りを記入し、次回の授業の開始時に提出する。(20分)</p>				毎回のレポートは、採点及びコメントを付けて返却する。			
受講生に望むこと	具体的な授業についての指導法ではなく、教育課程という大きな括りで、初等教育について、俯瞰して見つめなおす機会としてほしい。			教科書・テキスト	なし。		
指定図書参考書等	なし。授業中に適宜資料を配布する。			その他・特記事項	なし。		

授業科目名	EE225U 道徳教育指導論		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	村井 万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>道徳教育においては、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を前提に、互いに尊重し協働して社会を形作っていく上で共通に求められるルールやマナーを学び、規範意識などを育み、人としてよりよく生きる上で大切なものとは何か、自分はどのように生きるべきかなどについて、時には悩み、葛藤しつつ、考えを深め、自らの生き方を育んでいくことが求められる。そこで、道徳の教育の本質、道徳教育の歴史、学校における道徳教育、道徳の時間の学習指導の順に講義を行い、終盤では学生自らが学習指導案を作成することができることを目指す。</p>			<p>①道徳教育の本質について、道徳的価値の面と道徳教育の課題の面から理解している。 ②道徳教育の歴史について、戦前と戦後の道徳教育の違いをもとに理解している。 ③学校における道徳教育について、全体構造、目標、内容、指導計画、道徳の時間の指導、評価の面から構造的に理解している。 ④道徳の時間の学習指導について、小学校の授業（DVD）を視聴し、自己の考えや感想を持っている。 ⑤道徳の時間の学習指導案を作成している。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	道徳教育の本質 道徳教育とは何か（道徳教育とは何かについて知る。）						
2	道徳教育の本質 道徳教育の課題（道徳教育の課題を知り、今日的な問題について考える。）						
3	戦前の道徳教育 近代化と道徳教育（道徳観が徐々に徳育の強化へと進んだことを知る。）						
4	戦前の道徳教育 教育勅語発布後の道徳教育（教育勅語以降、修身教育が重視されたことを知る。）						
5	戦後の道徳教育 終戦直後から昭和24（1949）年までの道徳教育（終戦直後の道徳教育について知る。）						
6	戦後の道徳教育 その後の道徳教育（昭和33（1958）年に道徳の時間が特設されたことを知る）						
7	学校における道徳教育 道徳教育の基本方針と全体構造（学校における道徳教育の基本方針と全体構造を知る。）						
8	学校における道徳教育 道徳教育の目標（道徳教育の目標を学習指導要領解説をもとに読み解く。）						
9	学校における道徳教育 道徳教育の内容（道徳教育の内容を学習指導要領解説をもとに整理する。）						
10	学校における道徳教育 道徳教育の指導計画（サンプルをもとに道徳教育の全体計画の構造と指導計画を知る。）						
11	学校における道徳教育 道徳の時間の指導（サンプルをもとに学級における道徳教育指導計画の構造を知る。）						
12	学校における道徳教育 道徳教育の評価（これまでの道徳と「道徳科」における評価の違いを知る。）						
13	道徳の時間の学習指導 実際の学習指導（小学校の実際の授業（DVD）を視聴し、自己の考えや感想を持つ。）						
14	道徳の時間の学習指導 学習指導案の書き方（サンプルをもとに道徳の時間の学習指導案の書き方を知る。）						
15	道徳の時間の学習指導 グループワーク・学習指導案の作成（小学校の低・中・高学年の学習指導案を作成する。）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	70	・講義内容を正しく理解している。 ・道徳教育について自分の考え方を持っている。		中間レポート	10	道徳的価値の中から選択して記述するレポートを課す。	
小テスト	20	・新たな基本的知識を記憶している。 ・道徳教育について理解している。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①各回の授業は章ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。 [30分] ②各回の授業ではワークシートを配付するので、授業後、ワークシート内の“ミニッツコメント”にコメントする。 [30分] ③小学校の道徳に関し週に一度パソコン室のパソコン、または自己のスマホでネット検索して調べる。 [30分以上]				①小テストを採点して返却する。 ②中間レポートの評価コメントを返す。 ③定期試験実施直後に「模範解答」を示すので自己採点する。			
受講生に望むこと	・自己の小学校時代に「どのような道徳の授業があったか」の意識で受講してください。 ・教員への質問・意見がある場合、各回の授業後に直接お願いします。			教科書・テキスト	『新道徳教育の研究』、長田三男・橋本太郎編著、酒井書店、2001年出版、ISBN4-7822-0308-X 『小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編』、文部科学省、2015年告示		
指定図書参考書等	『小学校新学習指導要領の展開 特別の教科 道徳編』、永田繁雄編著、2016年発行、ISBN978-4-18-271123-7/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EE230U 特別活動指導論		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	村井 万寿夫					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>集団的な体験活動や自治活動は児童の社会性や連帯性はもとより、創造性や個性など人格の形成に大きく役割をもつ。また、少子化に伴い一人っ子の家庭も多く、縦割りの集団における活動も重要である。子どもを取り巻くこのような状況の中、望ましい集団活動を通して児童の心身の発達と個性の伸長を図り、社会の一員としての自覚と態度を育てることなどを目標とする特別活動の教育的意義や方法論などについて考え、自己の経験や実践例を通して特別活動についての理解を深める。</p>			<p>①特別活動の学習指導要領上での位置づけや目的について理解している。 ②特別活動の歴史的経緯や今日的意義について理解するとともに、諸活動の内容について理解している。 ③特別活動のもたらす教育上の効果や期待できる成果について、自己の経験や具体的な事例をもとに考えている。 ④「私の学級づくり」について自己の考えを持ち発表している。</p>			
教授方法	講義					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	特別活動の今日的意義（特別活動とは何かについて考える。）					
2	特別活動の目的論（自己実現という目的について知る。）					
3	特別活動の内容と方法（内容と方法の理論について知る。）					
4	特別活動における教師論（特別活動の「指導者特性」について知る。）					
5	教育課程としての特別活動（教育課程における特別活動の位置づけについて知る。）					
6	特別活動の歴史的変遷（特別活動の各活動の歴史的変遷について知る。）					
7	学級活動（学級活動の特質と内容について知る。）					
8	児童会活動、生徒会活動、クラブ活動（児童会活動、生徒会活動、クラブ活動の特質と内容について知る。）					
9	学校行事（各行事とその展開の工夫について知る。）					
10	特別活動と道徳教育（特別活動と道徳教育との関係について知る。）					
11	特別活動と総合的な学習の時間（特別活動と総合的な学習の時間との関係について知る。）					
12	特別活動と進路指導（生徒指導）（特別活動と進路指導（生徒指導）との関係について知る。）					
13	特色ある学校づくりと特別活動（特色ある学校づくりと特別活動との関係について考える。）					
14	特別活動と学級経営（特別活動と学級経営との関係について知る。）					
15	「私の学級づくり」（自己でどのような学級（小学校／中学校）をつくりたいか考え発表する。）					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験	70	<ul style="list-style-type: none"> 講義内容を正しく理解している。 特別活動について自分の考え方を持っている。 		中間レポート	10	学校行事の各活動の中から選択して記述するレポートを課す。
小テスト	20	<ul style="list-style-type: none"> 新たな基本的知識を記憶している。 特別活動について理解している。 				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>①各回の授業は章ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。 [30分] ②各回の授業ではワークシートを配付するので、授業後、ワークシート内の“ミニツクコメント”にコメントする。 [30分] ③特別活動の各活動に関し週に一度パソコン室のパソコン、または自己のスマホでネット検索して調べる。 [30分以上]</p>				<p>①小テストを採点して返却する。 ②中間レポートの評価コメントを返す。 ③定期試験実施直後に「模範解答」を示すので自己採点する。</p>		
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> 自己の小学校時代、中学校時代に「どのような特別活動を行ったか」の意識で受講してください。 教員への質問・意見がある場合、各回の授業後に直接お願いします。 			教科書・テキスト	『個性をひらく特別活動』，相原次男・新富康央編著，ミネルヴァ書房，2006年出版，ISBN4-623-03443-7	
指定図書参考書等	『小学校学習指導要領解説特別活動編』，文部科学省，2017年告示／なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	EE240U 生徒・進路指導論		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	幸 聖二郎・伊藤 雄二（代表教員 幸 聖二郎）					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
テキスト・配布プリントをもとに講義を進め、生徒指導・進路指導の基本的な考え方や考え方について学ぶ。小・中接続連携を意識して、教師と児童・生徒という二つの視点から理解するために、自己の成長過程を振り返って課題レポートをまとめ、問題点を把握する。毎回の授業では、テーマに即した具体的な問題を取り上げて講義を行い、「事前の私の主張」をもとに、全体あるいはグループによるディスカッションを行う。多様な視点・価値観に気づくことで生徒理解を深め、講義内容と合わせて、毎回事前・事後の「私の主張」ミニレポートを書くことで、理解の定着を図る。			①「生きる力」に代表される生徒指導や進路指導の意義や目的を理解する。 ②生徒指導や進路指導における生徒理解の方法や、関わる際の留意点について理解する。 ③生徒指導は、すべての児童生徒が対象であることを理解する。 ④教師としての視点、児童生徒の立場の二つに立って、自己の問題として考えることができる。 ⑤生徒指導・進路指導いずれにおいても、地域や保護者、他機関との連携が不可欠であることを理解する。			
教授方法	講義とグループディスカッション					
履修条件	児童教育コースに所属していること。受講までに、プレ実習（学習支援員）などで学校現場を体験していることが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：「生きる力」に求められるもの・学習指導要領における生徒指導・進路指導について、概要を把握する。					幸
2	生徒指導とは① 学校教育における生徒指導の意義と機能について理解する。					伊藤
3	生徒指導とは② 発達の視点から捉える（小学校期・中学校期）					幸・伊藤
4	生徒指導とは③ 基本的な生活習慣の形成・マナーときまりについて理解する。					幸
5	生徒指導とは④ 子どもの変化、個別的理解と集団理解 好ましい人間関係の構築について理解する。					幸
6	学校における生徒指導上の諸問題① いじめの特質と変化、携帯電話・インターネットの問題について理解する。					幸
7	学校における生徒指導上の諸問題② 学級崩壊・校内暴力・非行について理解する。					幸
8	学校における生徒指導上の諸問題③ 学校不適応・不登校・他機関との連携について理解する。					幸
9	学校における生徒指導上の諸問題④ 校則と懲戒、保護者対応・組織的対応について、理解する。					幸
10	進路指導とは：「生き方を問いつける学び」の助成 学校教育における進路指導の意義と課題を把握する。					伊藤
11	進路指導の現状と課題① 学校教育におけるキャリア教育とは何かを理解する。（小学校段階・中学校段階におけるキャリア教育を知る）					伊藤
12	進路指導の現状と課題② 進路選択、職業的発達理論、児童期・青年前期における性格検査・進路適性検査使用に関する諸注意について理解する。					伊藤
13	進路指導の現状と課題③ 職業観の形成、中途退学・ニート問題、多様な雇用形態の概要について理解する。					伊藤
14	進路指導の現状と課題④ 価値観形成・生き甲斐形成、キャリア教育の計画と実践（職場体験活動が目指すもの）について、具体的に理解する。					伊藤
15	進路指導の充実：開発的生徒指導の一環としての進路指導 「総合的な学習の時間」の活用と進路指導、組織的な指導と個別的な指導について、教師の指導性の観点から理解する。					伊藤
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
受講態度・授業参加状況	10	グループディスカッション参加		ミニレポート	30	毎回の「私の主張」
課題小論文①	30	①指示された書式・字数に従ってまとめている。 ②自分のテーマを設定し、それに沿って書いている。（詳細は授業内で説明）		課題小論文②	30	①指示された書式・字数に従ってまとめている。 ②自分のテーマを設定し、それに沿って書いている。（詳細は授業内で説明）
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①教育問題に関する新聞報道などを注意して読んでおく。[20分] ②授業で紹介した本をできるだけ読んでみる。[20分] ③生徒指導から連想する事柄、自分が受けてきた生徒指導に関する小論文を作成する。（詳細は授業で説明する。）[30分] ④進路指導から連想する事柄、自分が受けてきた進路指導について小論文を作成する。（詳細は授業で説明する。）[30分]				・質問は、授業中以外にも、メール等で受け付ける。メールアドレスは、受講者に知らせておく。 ・毎回の授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。		
受講生に望むこと	①学習支援員やボランティア活動などで、できるだけ小学生と触れ合う機会を持ち、教員がどのように児童とかかわっているかを観察するなど、学校現場を体験していること。 ②授業で学ぶ内容を意識しながら、学習支援員として参加することが望ましい。			教科書・テキスト	『生徒指導・進路指導の理論と実際』 河村茂雄編著 図書文化 改訂版3刷 2015年 ISBN 978-4-8100-1578-2	
指定図書参考書等	なし／『生徒指導提要』文部科学省 教育図書 2011年 ISBN 978-4877302740 / 『生徒指導資料第3集 規範意識をはぐむ生徒指導体制』東洋館出版社 2012年／『教師を目指す君たちへ』町田健一 キリスト教学校教育同盟 2004年／その他、授業内で提示する。			その他・特記事項	授業では関連資料を配布するので、各自ファイルに保管しておく。	

授業科目名	EE220U 小学校英語科教育法 I		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
この講義は「小学校教諭一種免許状」の「または科目」にあたる科目である。新学習指導要領のもと、小学校では3,4年生は外国語活動、5,6年生は教科としての英語が行われる。このことは、小学校教諭は英語指導者の資質が求められるようになったことを意味する。この授業では、小学校での外国語活動及び教科としての英語に必要な基礎知識を学び、今日学校英語教育法Ⅱ、Ⅲの基盤を作る。実践的英語力育成のためにクラスルームイングリッシュを学ぶ。			①新学習指導要領(2017年3月公示)の小学校外国語活動、教科としての英語についての正しい理解を持つ。 ②これからの小学校教諭に求められる英語指導力、外国語活動指導力はどのようなものか正しく理解し、理想形に近づけるにはどのような知識・スキルが必要かを認識し、獲得に努めることができる。子ども英語に必須のチャンツやフォニックスの意味・内容・意義を知り、効果的に指導することができる。 ③あらゆる場面で見られることものの学び・言語習得に対する鋭い観察眼を持つ。 ④英語力が現在よりもひとつ上のレベルに到達することができる。最終的には小学校英語教師に必要とされるCEFR B1 (STEP英検2級～準1級、TOEIC 550-600)程度を目指す。			
教授方法	講義・演習・およびディスカッション					
履修条件	①小学校教諭一種免許状取得希望者あること。②英語力がSTEP英検2級相当以上である者が望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	クラスオリエンテーション、「小学校英語教育法I」のねらい					
2	外国語教育の教科化の経緯と目的、理念 クラスルームイングリッシュ(1)					
3	学習指導要領における外国語活動、教科としての英語について クラスルームイングリッシュ(2)					
4	小・中・高の外国語教育における小学校の役割 クラスルームイングリッシュ(3)					
5	諸外国の小学校外国語教育事情 クラスルームイングリッシュ(4)					
6	学習指導要領改訂の基本的な考え方 クラスルームイングリッシュ(5)					
7	国際理解教育の目標、外国語活動の目標、外国語科の目標と領域別目標 クラスルームイングリッシュ(6)					
8	関連分野から見る外国語教育の意義と方向性(1)第一言語習得と第二言語習得 クラスルームイングリッシュ(7)					
9	関連分野から見る外国語教育の意義と方向性(2)神経言語学、発達心理学の知見から小学校英語を考える クラスルームイングリッシュ(8)					
10	コミュニケーション能力、国際理解教育、異文化間コミュニケーションを考える クラスルームイングリッシュ(9)					
11	指導者の役割、資質と研修 クラスルームイングリッシュ(10)					
12	小学校英語の教材の構成と内容について学ぶ 英語絵本の読み聞かせ実習(1)					
13	指導目標、年間指導計画について学ぶ 英語絵本の読み聞かせ実習(2)					
14	言語材料と4技能の指導について学ぶ 英語絵本の読み聞かせ実習(3)					
15	授業の総まとめ					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加状況	20	小学校外国語活動、教科としての英語について関連資料にあたるなど積極的に理解に努めているか。		小テスト	20	①語彙や文型が定着しているか。 ②使用する場面や機能を理解ができているか。 ③4技能で使用できるか。
英語実演等	20	英語絵本読み聞かせ、チャンツなどの実演で内容を理解した上で正しい英語で実演できているか		期末テスト	40	小学校外国語活動、教科としての英語についての基本を修得しているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
①学生は必ず予習をして授業に臨むこと。特に発音については辞書・CD等で確認して定着させること。(30分) ②小学校現場での英語・外国語活動の授業をできるだけ多く参観すること。(45分) ③メディアや図書館等を利用し、知識を増やすこと。(30分) ④英語力向上のため英語の授業の履修やメディアを利用し、検定等に挑戦したり英語を頻繁に使用したりすること。(20分) ⑤小学校現場での英語・外国語活動の授業をできるだけ多く参観すること。学習支援は継続的に行うこと。(45分)				返却時に行う		
受講生に望むこと	①教師の責任の重さは「外国語活動」も他教科と同じである。他教科同様積極的に学習すること。 ②「小学校英語は楽しい」「母語同様自然に英語を身に付ける」という誤った思い込みを捨て正しい認識を持つこと。 ③英語を取り巻く環境は急激に変化しているので新聞・ニュースなど最新情報を常にチェックすること。 ④英語科目(アクティブイングリッシュを含む)を履修し、英語を通じた異文化交流の実体験を持つこと。			教科書・テキスト	①『新編小学校英語教育入門』樋口忠彦(代表)編著 研究社 2017年 ISBN 978-4-327-41098-8 ②『Hi, friends! 1』文部科学省 2012年 ISBN: 978-4487258833)『Hi, friends! 2』文部科学省 2012年 ISBN: 978-4487258840)『Hi, friends! 1』指導編 文部科学省 2012年ISBN978-4-487-25989-2)『Hi, friends! 2』指導編 文部科学省 2012年 (ISBN: 978-4-487-25990-8) ③適宜配布されるプリント	
指定図書参考書等	なし/小学校英語に関する書籍一般			その他・特記事項	詳細なクラスルールは1時間目目録にハンドアウトを用いて説明をする。	

授業科目名	EE345U 小学校英語科教育法Ⅱ		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	伊藤 雄二						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
2013年文部科学省は小学校での英語を3,4年生は外国語活動、5,6年生は教科とすることを発表した。このことは、小学校教諭は英語指導者の資質が求められるようになったことを意味する。この授業では、子ども英語（本講義では主に小学生を指す）に必要な英語力と具体的な指導法を指導法を実践的に学ぶ。また学外の実践場面に多く触れることで理解を深める。			①クラスルームイングリッシュを使うことができる。 ②子ども英語に必須のチャンツやフォニックスの意味・内容・意義を知り、効果的に指導することができる。 ③子ども英語は体験的に「学ぶ」ことが重要であることを踏まえた授業実践（指導案作成を含む）ができる。 ④あらゆる場面で見られるこどもの学び・言語習得に対する鋭い観察眼を持つ。 ⑤英語力が現在よりもひとつ上のレベルに到達することができる。最終的には小学校英語教師に必要なとされるCEFR B1（STEP英検2級～準1級、TOEIC 550-600）程度を目指す。				
教授方法	講義・演習・実技（模擬授業・授業外活動）およびディスカッション						
履修条件	①小学校教諭一種免許取得希望者で、小学校教育実習済みであることが望ましい。②英語力がSTEP英検2級相当以上である者が望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	クラスオリエンテーション、「小学校英語科教育法Ⅰ」で学んだことを概観し、外国語活動の目的と目標を再確認する。						
2	第7章 教材研究①児童が英語に楽しく触れ、慣れ親しむ活動(1)(2)を再確認する クラスルームイングリッシュ小テスト(1)						
3	第8章 教材研究②児童の興味・関心を惹きつける活動の工夫について再確認する クラスルームイングリッシュ小テスト(2)						
4	第9章 指導法と指導技術(1)主な指導法(2)指導技術について再確認する クラスルームイングリッシュ小テスト(3)						
5	第10章 教材・教具の活用法を再確認し、実際に使用してみる クラスルームイングリッシュ小テスト(4)						
6	第12章 授業過程と学習指導案の作り方 (1) 各グループで作成した指導案についてディスカッションする クラスルームイングリッシュ小テスト(5)						
7	第12章 授業過程と学習指導案の作り方 (2) ディスカッションの意見を取り入れて再構成する クラスルームイングリッシュ小テスト(6)						
8	昨年度の教育実習の様子をビデオで視聴し、指導手順等を確認する クラスルームイングリッシュ小テスト(7)						
9	5年生Hi, Friends! 1 Lesson 1-3のねらいに合った活動の模擬授業						
10	5年生Hi, Friends! 1 Lesson 4-6のねらいに合った活動の模擬授業						
11	5年生Hi, Friends! 1 Lesson 6-9のねらいに合った活動の模擬授業						
12	6年生Hi, Friends! 2 Lesson 1-3のねらいに合った活動の模擬授業						
13	6年生Hi, Friends! 2 Lesson 4-5のねらいに合った活動の模擬授業						
14	6年生Hi, Friends! 2 Lesson 6-8のねらいに合った活動の模擬授業						
15	授業の総まとめと4年生での「小学校英語科教育法Ⅲ」への心構えを共有する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
模擬授業・指導案	50	①指導案がねらいに沿った流れで作成されているか ②授業運営が児童やねらいに適した活動をしているか。 ③クラスルームイングリッシュを用いているか。 ④教材・教具を適切に使用しているか。		英語小テスト	30	①語彙や文型が定着しているか。 ②使用する場面や機能を理解ができているか。 ③4技能で使用できるか。	
定期テスト	40	小学校英語指導についての基本を修得しているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①学生は必ず予習をして授業に臨むこと。特に発音については辞書・CD等で確認して定着させること。(30分) ②小学校現場での英語・外国語活動の授業をできるだけ多く参観すること。(60分) ③学習支援の際に、小学校英語で培った視点を持って児童・教師を観察しポートフォリオに気付いたことを書きとめること。(20分) ④メディアや図書館等を利用し、知識を増やすこと。(毎週2時間) ⑤英語力向上のため英語の授業の履修やメディアを利用し、検定等に挑戦したり英語を頻繁に使用したりすること。(30分) ⑥小学校現場での英語・外国語活動の授業をできるだけ多く参観すること。学習支援は継続的に行うこと。(60分)				返却時に行う			
受講生に望むこと	①教師の責任の重さは「外国語活動」も他教科と同じである。他教科同様積極的に学習すること。 ②「小学校英語は楽しければ良い」「母語同様自然に英語を身に付ける」という誤った思い込みを捨て正しい認識を持つこと。 ③英語を取り巻く環境は急激に変化しているので新聞・ニュースなど最新情報を常にチェックすること。 ④英語科目（アクティブイングリッシュを含む）を履修し、英語を通じた異文化交流の実験を持つこと。			教科書・テキスト	①『小学校英語教育入門』樋口忠彦(代表)編著 研究社 2013年 ISBN 978-4-327-41086-5 ②『Hi, friends! 1』文部科学省 2012年 ISBN: 978-4487258833) 『Hi, friends! 2』文部科学省 2012年 ISBN: 978-4487258840) 『Hi, friends! 1』指導編 文部科学省 2012年ISBN978-4-487-25989-2 『Hi, friends! 2』指導編 文部科学省 2012年 (ISBN: 978-4-487-25990-8) ③適宜配布されるプリント		
指定図書参考書等	なし/小学校英語に関する書籍一般			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EE360U 教育相談		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	松下 健					
標準履修年次	3・4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
子どもたちを取り巻く諸問題についての実情を把握し、教育相談の目的や意義を学ぶ。また、教育相談における幼児・児童への関わり方を対象問題別に学ぶとともに、幼児・児童理解及び支援のいくつかのアプローチを学び、教育相談について理解を深める。			教育現場に出る際にどのような教育相談活動を展開すべきかについて十分に考察を深め、自分なりの考えを持てるとともに、教育相談の具体的方法を知り、幼児・児童支援における留意点についても理解することができる。			
教授方法	演習、講義、ディスカッション。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	教育相談とは：教育相談の目的、意義、方法について考える					
2	子どもの貧困：貧困について理解を深める					
3	自閉症：自閉症の特徴について理解を深める					
4	学習障害：学習障害の特徴について理解を深める					
5	注意欠陥多動性障害：注意欠陥多動性障害の特徴について理解を深める					
6	不登校：不登校について理解を深める					
7	いじめ：いじめについて理解を深める					
8	非行：非行について理解を深める					
9	虐待：虐待について理解を深める					
10	自殺：自殺について理解を深める					
11	統合失調症：統合失調症の特徴について理解を深める					
12	気分障害：気分障害の特徴について理解を深める					
13	カウンセリング的態度：教育相談において求められるカウンセリングの知識と技術を理解する					
14	連携・協働：教育相談において求められる多職種の連携や協働について理解を深める					
15	統括。教育相談の目的、意義、方法について改めて考える					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
リアクションペーパー	30	講義内容について自分の意見や感想を記述すること。講義内容のメモではなく、内容から発展させた自分の考えなどを記述することが求められる。		講義の受講態度	30	グループディスカッションやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
与えられたテーマについて予習し、レジュメを作成すること。[90分] 各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[30分]				期末レポートについては、次学期初めに内容に関するコメントを掲示する。		
受講生に望むこと	学習に自発的、積極的に取り組むこと。 他の受講者と協調すること。 毎回、相当量の予習と他者と協力して取り組む演習が不可欠であることを承知の上で受講すること。			教科書・テキスト	『絵本とともに学ぶ 発達と教育の心理学』、増田梨花（編著）、晃洋書房、2018年、ISBN:978-4-7710-2932-3	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	1回程度、他学科の教員などゲストスピーカーをお招きする可能性がある。 受講生の理解度に応じて進度を変更する可能性がある。	

授業科目名	EC225U 体育		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子（代表教員 永山 亮一）						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>学習指導要領の目標には「心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。」とある。この授業では、将来保育者及び教員となる学生達がこれらのねらいや目標を踏まえ、実践につなげることが出来る内容を自ら習得し、実践的に学んでいくことをねらいとする。幼稚園あるいは小学校の体育を指導していくために、小学校の学習内容として構成されている運動領域を基に、基礎的な実技能力の習得に主眼を置き指導する。</p>			<p>学習指導要領（体育編）の内容を理解し、実技の実践及び指導ができるようになる。</p>				
教授方法	実技						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス					永山	
2	体づくり運動① 「走・跳の運動遊び①」を実践し、指導上の留意事項などを学習する。					永山	
3	体づくり運動② 「走・跳の運動遊び②」を実践し、指導法などを学習する。					永山	
4	体づくり運動③ 「器械・器具を使つての運動遊び①」を実践し、指導法などを学習する。					永山	
5	体づくり運動④ 「器械・器具を使つての運動遊び② ～器械運動①」を実践し、指導上の留意事項などを学習する。					永山	
6	体づくり運動⑤ 「器械・器具を使つての運動遊び③ ～器械運動②」を実践し、指導法などを学習する。					永山	
7	体づくり運動⑥ 「ゲーム① ボールをあつかう①」を実践し、指導法などを学習する。					永山	
8	体づくり運動⑦ 「ゲーム② ボールをあつかう②」を実践し、指導法などを学習する。					永山	
9	体づくり運動⑧ 「ゲーム③ ボールをあつかう③」を実践し、指導法などを学習する。					永山	
10	体づくり運動⑨ 「ボール運動①」を実践し、指導法などを学習する。					永山	
11	体づくり運動⑩ 「ボール運動②」を実践し、指導法などを学習する。					永山	
12	体づくり運動⑪ 「ボール運動③」を実践し、指導法などを学習する。					永山	
13	水泳① 各種泳法を実践し、指導法などを学習する。（水泳実習における留意事項など理論を中心に。）					田辺・永山	
14	水泳② 各種泳法を実践し、指導法などを学習する。（各種泳法など実技を中心に。）					田辺・永山	
15	まとめ これまで学習してきた内容を整理する。					田辺・永山	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業 参加 態度	80	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか・他人へ体育実技を指導する上で何が大切なのかを学び取ろうとする姿勢があるか		ミニレポート	20	・指定したフォーマットにて記載されているか ・指定した課題に対して的確に調べられているか	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
<p>①各講義を振り返り、実技内容と学習指導要領の内容をつなげる。〔30分〕 ②各講義を振り返り、できない実技に関しては自主練習を行う。〔30分〕 ③各自の実技実践能力を発達させるとともに、指導する立場となったときのシミュレーションを行い、指導力の向上につなげる。〔30分〕</p>				<p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</p> <p>小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。</p>			
受講生に望むこと	<p>実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主に体育館にて行いますので、内履きの運動靴を用意して下さい。なお、この科目は学習指導要領に則った実技の研修科目です。学ぶ姿勢、及び教える側としての意識を持って参加して下さい。</p>			教科書・テキスト	なし		
指定図書参考書等	<p>『小学校学習指導要領解説 体育編』文部科学省 東洋館出版社 2008年 ISBN 978-4-491-02375-5 『学習指導要領の解説と展開 体育編』安彦忠彦監修 教育出版 2008年 ISBN 978-4-316-80217-6</p>			その他・特記事項	<p>運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）</p>		

授業科目名	EC230U 教育社会学		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	竹中 祐二						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>生物としてのヒトが社会の一員としての人間になる過程を理解する上で欠くことのできない、極めて重要な概念が「社会化」であるが、E.デュルケムは方法的社会化・系統的社会化作用として教育を位置付けている。人間にとって社会化・教育が本質的なものである一方、制度としての教育は、時代や文化による影響を色濃く受けるものでもある。この授業では、教育というものの、そもそも、あるいは今、「あるべき姿」というものについて、社会との関わりから捉え直すことを目的とする。また、教育専門職・教育制度を取り巻く現代的背景として、主として日本の、必要に応じて諸外国との比較の中から、学校教育の制度ならびに運営・経営に関する基礎知識の習得も目指したいと考えている。</p>			<p>①社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせて、教育というものを社会的に理解する。 ②制度としての教育について、意義・原理・構造を踏まえつつ、歴史的な変遷を理解する。 ③本質的な教育のあり方と、教育制度の歴史的変遷に対する理解に基づき、今日の学校教育制度について、地域社会や関係機関との連携を踏まえつつ、それぞれの主体の役割について理解する。 ④現代社会論との関わりから、今日の児童・子どもに関わる重要な問題に対して、学校・教育が果たし得る役割について理解する。</p>				
教授方法	講義（適宜アクティブラーニングを導入する場合がある。）						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：社会学的に考えるということ、および教育を社会学的に捉え直すことについての基本的な視点を提供し、本科目で学ぶ内容と、その意義について整理する。						
2	近代教育制度の成立①：近代化に伴う「子ども」の社会的立場をめぐる変遷を理解しつつ、制度としての教育が成立する過程について確認する。						
3	近代教育制度の成立②：西洋における教育制度を概観し、市民として主体性を獲得すること、階層再生産のメカニズム、といった近代化の所産と教育のあり方について考察する。						
4	近代教育制度の成立③：戦後日本における近代教育制度の成立過程と変遷を概観し、西洋における近代化過程との異同を捉えつつ、日本社会における特有の事情について考察する。						
5	社会における教育の意義①：社会化との関わりの中から教育が持つ機能について社会学的に理解を深め、重要な他者／一般化された他者としての教育者の役割、あるいはそのオルタナティブについて検討する。						
6	社会における教育の意義②：今日の子どもの権利をめぐる諸議論に関わって教育が果たすべき役割について考察すると共に、非対称的な関係が構造的にもたらす教育の逆機能についても検討する。						
7	社会における教育の意義③：グローバル化をはじめとするマクロ社会の変動に伴う後期近代社会における制度としての教育のあり方について検討する。						
8	日本における教育環境の変遷①：戦後始まった6・3・3・4制がもたらした日本における教育の普遍化を基に、教育環境の充実がもたらした社会の変化について考察する。						
9	日本における教育環境の変遷②：教育機会の充実がもたらした高校ならびに大学への進学率上昇の背後に潜む受験戦争やメリトクラシーといった問題について考察する。						
10	日本における教育環境の変遷③：少子化や個人化といったマクロ社会の変化がもたらした教育への影響として、主に個性化教育の功罪と現代の子どもが抱える諸問題について考察する。						
11	日本における教育環境の変遷④：ジェンダー教育やマイノリティ教育といった、今日的な課題に対する教育の意義や実践例について考察する。						
12	学級経営における多機関連携①：「チーム学校」論の概要と登場背景について学び、中でもスクールソーシャルワークに着目し、その理念・対象・方法論・実践例について学ぶ。						
13	学級経営における多機関連携②：スクールソーシャルワーク実践を軸とした「チーム学校」の展開について、特に「子どもの貧困」との関わりから方法論・実践例について学ぶ。						
14	学級経営における多機関連携③：スクールソーシャルワーク実践を軸とした「チーム学校」の展開について、特に「不登校」や「いじめ」といった「学校」制度に特有な現象から方法論・実践例について学ぶ。						
15	総括：本科目を通じて学習した内容について振り返り、専門職をはじめとするそれぞれの立場から社会の中で教育を達成することの意義について再考し、理解を深める。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への参加度	30	日常的な授業態度、適宜実施するグループワークをはじめとするアクティブラーニングへの参加状況から評価する。		期末レポート	70	授業の到達目標に即して、この授業で学んだ内容を適切にかつ分かり易くまとめられているか評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①各回の授業で学習した教育社会学の理論・概念・知識について復習し、日常的に新聞等を通して実際の社会との関わりを意識する。[60分] ②各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]</p>				<p>①各回の授業でコミュニケーションペーパーの提出を求め、そこの質問は次回に全体で共有する。 ②アクティブラーニングを実施した際に、自己評価シートの提出を求めることがある。また、必要に応じて個別にコメントを行う。</p>			
受講生に望むこと	<p>・この授業は主として講義形式を採り、多種多様な知識と情報の伝達に努める。したがって、どちらかと言えば双方向ではなく一方向的な学習となる。ただし、教育的な関わり・教育実践にあたっては、すなわち良い教育者になるにあたっては、一面的な価値観に固執するようなことがあってはならない。この授業における学びを通して、社会や制度との関わりから自らの価値観を相対化すると共に、その上で自らの主観や態度を大切にすることを身に付けていただきたい。</p>			教科書・テキスト	なし（レジュメを配付する）		
指定図書参考書等	<p><参考書> 『よくわかる教育社会学』 酒井朗・中村高康・多賀太（編著） ミネルヴァ書房 2012年 (ISBN: 978-4623062935)</p>			その他・特記事項	<p>・日常的な学習について、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。</p>		

授業科目名	EC235U 教育方法論		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	村井 万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
我が国において、知識・技能を教える授業から、自ら考え判断し表現する学習に変わってきている。この授業観を具体化するためには、教育の方法と技術について検討しなければならない。これが本科目で学ぶ意義となる。子どもが自ら考え判断し、表現する授業とはどういったものなのか、理論や実践例をもとに学んでいく。また、「楽しい授業」「わかる授業」のための方法論として情報機器（電子黒板やタブレット端末）の活用が注目されている。情報機器活用による学習例やその効果について検討するとともに、情報機器を活用する授業を自らで構想し、そのための教材を自作することを目指す。			①教育方法の歴史的概観を通して近年の授業観を理解している。 ②授業と学力について考察している。 ③視聴覚教育や放送教育について理解している。 ④授業における情報機器活用の方法や現状について理解している。 ⑤アプリケーションソフトを用いて教材を作成している。 ⑥教材紹介のためのワークショップ型の交流と相互評価を行っている。				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	教育方法の歴史的概観（近世と現代における教育方法について概観し、現代の教育方法について教授・学習の面から考察する。）						
2	現代における教育方法（デュイ、ブルーナーなどの教育方法論について概観する。）						
3	教育方法の基本原則（系統学習と問題解決学習を比較し、基本原則について考察する。）						
4	授業と学力（授業とは何か、学力とは何かについて捉え、情報機器利用の視点から考える。）						
5	授業と評価（教育課程や学習指導要領（教育要領）をもとに授業と評価について理解する。）						
6	授業理論と授業設計（授業理論の諸理論と授業設計（情報機器活用を含む）の手順を知る。）						
7	授業と視聴覚機器（視聴覚教育の発達と視聴覚メディアの教育活用について整理する。）						
8	情報機器の教育活用の方法（学校や幼稚園でのコンピュータを活用した教育の方法を調べる。）						
9	放送教育の授業への適用（放送教育の役割を捉え、NHKのWebサイトで教材を閲覧する。）						
10	教材・教具・教科書・教材研究（教材・教具とは何か、また、教科書（絵本を含む）とは何かについて考え、教材研究について理解する。）						
11	情報機器を活用した授業（デジタルコンテンツと授業の活用例について知る。）						
12	教材の構想と作成（授業で情報機器を活用する教材の構想を行い、学習指導案を作成する。）						
13	教材の作成（学習指導案に基づいて情報機器（コンピュータ：PowerPoint）を用いてフラ教材（フラッシュ型教材）を作成する。）						
14	教材の完成とワークショップ交流（教材を完成させ、本時における活用の意図を伝えた上でコンピュータを活用して教材を紹介し合い、相互評価する。）						
15	教育方法と学校施設・設備（教育方法の多様化と学校（幼稚園）の施設・設備の変化や特徴について知る。）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	・講義内容を正しく理解している。 ・教育方法について自分の考え方を持っている。		指導案と教材	10	作成した学習指導案とフラッシュ型教材について、内容や出来具合について評価する。	
小テスト	20	・新たな基本的知識を記憶している。 ・教育方法について理解している。		ワークショップ交流状況	10	第14回授業におけるワークショップ交流（口頭発表）の際に「相互評価」（学生同士の評価）を行う。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①各回の授業は基本的に教科書の章に進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。【30分】 ②各回の授業では学内ネットワークを介してワークシート（Word）を配付するので、授業後、自己の都合の良い時にワークシートを開き“ミニッツコメント”にコメントする。【30分】 ③幼稚園や小学校の教育方法に関し週に一度パソコン室のパソコン、または自己のスマホでネット検索して調べる。【30分以上】			①小テストを採点して返却する。 ②学習指導案とフラッシュ型教材についての評価コメントを返却する。 ③定期試験実施直後に「模範解答」を示すので自己採点する。				
受講生に望むこと	・幼稚園や小学校において「どのような教育の方法が採られているか」の意識で受講してください。 ・教員への質問・意見がある場合、各回の授業後に直接、または随時メールでお願いします。		教科書・テキスト	『教育方法論』、谷田貝公昭・林邦雄・成田國共編著、一藝社、2004年出版、ISBN978-4-901253-12-3			
指定図書参考書等	幼稚園教育要領、文部科学省、2008年告示、『小学校学習指導要領』、文部科学省、2015年告示／『教育の情報化ビジョン』、文部科学省、2011年公表		その他・特記事項	なし			

授業科目名	EC240U 子どもと法		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	虹釜 和昭・熊田 凡子・村井 万寿夫 (代表教員 虹釜 和昭)						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
子どもに関する教育・福祉などの各種法規・法令を理解し、その具体的な運用の課題、留意点、法律の読み方などを探究する。			子ども教育・福祉の理念の理解からはじめ、そこに存在する各種課題の気づきと、子どもを取り巻く環境についてその課題を明らかにする。				
教授方法	講義及び演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	児童福祉法の、基本理念の学びからその精神や権利擁護のあり方を探究する。					虹釜	
2	児童福祉法に定められた各種制度政策にかかる具体的内容を理解する。					虹釜	
3	児童福祉にかかる「児童福祉法施行令」、「児童福祉施設の設備運営に関する基準」の理解し、その課題を考察する。					虹釜	
4	児童虐待防止法の内容を理解し、具体的な運用に関する課題・問題点などを探究する。					虹釜	
5	子ども家庭福祉の関連法律及び児童福祉行政とその機関、市町村との関係を理解する。					虹釜	
6	幼稚園に関する法律の歴史の変遷Ⅰ：明治初期から大正「幼稚園令」の保育項目を中心に内容を理解する					熊田	
7	幼稚園に関する法律の歴史の変遷Ⅱ：戦後「保育要領」から現行の幼稚園教育要領に至るまでの具体的内容を理解する					熊田	
8	「保育所保育指針(旧)」について、実践につなげて理解する。					熊田	
9	「保育所保育指針(新)」に触れ、養護と教育について理解を深める。					熊田	
10	「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の内容を読み解き、教育・保育の理解を深める。					熊田	
11	教育法規とは：教育法規の基礎をなす日本国憲法と教育基本法の内容及び両者の関係について理解する。					村井	
12	学校に関する法規：学校教育に関する法規をもとに学校の種類と目的・目標、学校の設置・管理について理解するとともに、学級編成上の課題について知る。					村井	
13	著作権法と学校教育：著作権法について知るとともに学校教育における著作物の使用上の留意点について理解し、「複製利用」に関するいくつかの参考事例をもとに討論する。					村井	
14	子どもに関する法規：学校教育上の就学義務の履行、懲戒・体罰、入学・卒業など学校教育上の権利義務について理解し、「懲戒・体罰」に関するいくつかの参考事例をもとに討論する。					村井	
15	学習のまとめ：「子どもと法」について学んだ内容について振り返り、子どもを取り巻く環境に関する課題や改善点等について自己の考えをまとめる。					村井	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
科目担当者毎の課題レポート	100	授業内容の把握とそれに対する自分の考えを的確に表現している。					
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
今日の教育・保育行政にかかる時事問題や課題などについて、常に関心をよせ講義に臨むこと。〔30分〕			レポートの講評、評価視点などについて、各担当者よりプリント配布による伝達を行う。				
受講生に望むこと	子どもに関する法律の学びとは、条文内容を「探学的」に読み解くことである。法律条文などの背景にある、問題・課題を見だし、その探求が専門科目群の学び深まりとなっていく。		教科書・テキスト	テキストを使用せず、配付資料や映像等を用いた講義となる。			
指定図書参考書等	なし／平成29年告示3法令(「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」及び解説書)		その他・特記事項	一部演習形式を取り入れた講義となる。			

授業科目名	EC320U 保育内容・環境Ⅱ		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	向出 圭吾						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>「保育内容・環境Ⅰ」での学びと実習での体験を踏まえて、「領域・環境」の内容を深く考察する演習科目である。北陸学院第一幼稚園の保育現場を活用しながら、幼児が身近な環境にかかわることで何を見つけ、考え、それを取り入れようとしているのかを観察エピソード記録やつぶやきをもとにディスカッションを通して考える。そして自分なりの遊びの指導計画を立案し、実践することを通して幼児期の学び方と学ぶ内容について体験的に捉える。また、地域や文化の視点を取り入れた園外活動にも目を向けて保育計画を立案してみる。</p>			<p>①実習でのエピソードを出し合い、「領域・環境」の視点からエピソードの内容を分析することができる。 ②北陸学院第一幼稚園での幼児の遊びから「領域・環境」の意味する内容を読み取る力を身につける。 ③「領域・環境」にかかわるねらいをもった指導計画を考え、模擬保育を通して見直し改善を行う力を身につける。 ④園外活動の意味を考え、保育計画を立案することができる。</p>				
教授方法	グループディスカッション・演習						
履修条件	「保育内容・環境Ⅰ」の単位を修得済みであること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：本科目の目的と授業内容の解説。実習の体験からエピソードを持ち寄りディスカッションを通して内容を共有する。						
2	それぞれのエピソードを「領域・環境」の視点から考え、その内容を分析する。						
3	第一幼稚園での遊びの観察（1）：保育現場にて幼児の遊びのエピソードやつぶやきを拾い出し、「領域・環境」の視点でディスカッションを行う。						
4	第一幼稚園での遊びの観察（2）：ディスカッションを踏まえてさらに保育現場にて幼児の遊びのエピソードやつぶやきを拾い出しディスカッションを行い、読みとる力を身につける。						
5	第一幼稚園での遊びの観察（3）：園庭の遊びに焦点をあてて「領域・環境」の内容にかかわる遊びのエピソードやつぶやきを拾い出して、ディスカッションを行う。						
6	第一幼稚園での遊びの観察（4）：「領域・環境」の内容にかかわる保育の場面を想定し、自分なりの遊びのプランをいくつか考えてみる。						
7	園外保育活動において、幼児が自分で考え、行動するような環境とは、どのようなものが考えられるか、ディスカッションを通して考える。						
8	園外活動の保育計画（1）：学外体験活動としての園外保育を行った場合の保育プランを考える。						
9	園外活動の保育計画（2）：各自が立案したプランをもとに地域の特性や文化を活かした内容を盛り込みディスカッションし検討する。						
10	園外活動の保育計画（3）：見直したプランをもとに各自が環境マップを作成する。						
11	幼児が興味や関心をもって遊びに夢中になることができる指導計画を考える。						
12	考えた指導計画をもとに模擬保育を行い、ディスカッションを通して見直し改善を行う。						
13	改善した指導計画をもとに模擬保育を行い、指導計画をより具体化していく。						
14	第一幼稚園で実践を行い、改めて「領域・環境」について理解を深める。						
15	幼児にとつての「領域・環境」について、これまでの学びを振り返り「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（幼小接続）と絡めながら考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	40	①ディスカッションで積極的に発言すること。 ②遊びのエピソードやつぶやきを記録することができる。 ③想像力を膨らませて指導計画を立案できる。		課題	40	与えられた各テーマに沿って自分なりに調べたり考えたりしたことが記述されているかを評価する。	
最終レポート	20	この授業を通して内容を理解し、遊びを読みとる力や作り出す力について、自分の学びをまとめることができるかを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①実習を含む身近な資料からのエピソードの収集[30分] ②エピソードの読み取りの見直し[30分] ③園外保育を行う上で、その地域や文化を調査する。[30分] ④遊びの準備[長時間] ④学びの振り返り[90分]				毎回のディスカッション内及び授業の開始時に前時の振り返りを必ず行う。			
受講生に望むこと	授業ごとに完結ではなく、前時の授業との繋がりをもって授業に臨むこと。			教科書・テキスト	『事例で学ぶ保育内容・環境』無藤隆監修 福元真由美 編者代表 萌文書林 2007年 ISBN978-4-89347-098-0 (保育内容・環境Ⅰで使用したもの)		
指定図書参考書等	なし／『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレール館 2018年 ISBN：9784577814475			その他・特記事項	活動内容によって、土曜日に行われることもあるので注意すること。		

授業科目名	EC325U 保育内容・健康II			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	田邊 圭子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状				
授業の概要				授業の到達目標			
健康は子どもの生活の基盤である。未来ある子ども達が生涯にわたって心身ともに健康な生活を築くために私たちは何をすべきだろうか。この授業では、「保育内容・健康I」での学びを踏まえ、幼児の健康な心身の発達や安全に関する理解を更に深めるとともに、保育活動として進めていくための方法を実践的に学ぶ。				①乳幼児の心身の健康に関する園と家庭のあり方や連携について理解する。 ②安全管理、安全教育について理解する。 ③保育現場において、適切な指導・援助の出来る保育者を目指す。			
教授方法	講義、模擬授業、グループディスカッション						
履修条件	「保育内容・健康I」の単位を修得済みであることが望ましい（単位未修得可）						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	基本的な生活習慣の意味を考える						
2	基本的な生活習慣に関する指導1：食事に関する基本的な生活習慣とその指導について理解する。						
3	基本的な生活習慣に関する指導2：睡眠に関する基本的な生活習慣とその指導について理解する。						
4	基本的な生活習慣に関する指導3：排せつに関する基本的な生活習慣とその指導について理解する。						
5	基本的な生活習慣に関する指導4：清潔に関する基本的な生活習慣とその指導について理解する。						
6	基本的な生活習慣に関する指導5：衣服の着脱に関する基本的な生活習慣とその指導法について理解する。						
7	基本的な生活習慣に関する模擬授業1：基本的な生活習慣に関する模擬授業を行う。						
8	基本的な生活習慣に関する模擬授業2：模擬授業に関する気づきとディスカッションを通して指導法について考える。						
9	子どもの安全な生活1：安全管理と安全教育の基本的な考え方について理解する。						
10	子どもの安全な生活2：乳幼児の事故と原因について理解する。						
11	子どもの安全な生活3：幼児の特性と事故対策について理解する。						
12	子どもの安全な生活4：幼稚園、保育園の事故について理解する。						
13	子どもの安全な生活5：保育環境の安全管理について理解する。						
14	子どもの安全な生活6：安全教育と安全管理の進め方について理解する。						
15	振り返りとまとめ：子どもの健康について、これまでの学びを振り返るとともに保育者として何が必要か考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
模擬保育	30	評価：①内容を理解しているか②子ども達にわかりやすく伝える工夫がされているか③子ども達が生活の中で実践できるような工夫がされているか			レポート	30	課題に対して独りよがりな思いに終始することなく、基本的な内容を踏まえて述べられているか。
小テスト	20	授業内容の理解度			授業参加態度	20	授業への取り組み姿勢
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①教科書を読み、授業に備える[20分] ②授業で配布した資料を読む[20分] ③子どもの健康に関するニュースや新聞記事に目を通し、考えを深める[60分]				①小テストは次の回に採点及びコメントを付記して返却。 ②レポートは2週間以内に評価とコメントを付記して返却。			
受講生に望むこと	子ども達にとって健康であることは、様々な活動を積極的に取り組み、楽しむために必要なことです。受講生の皆さんには、子ども達が健康な日々を送るために何が必要か考えるとともに、現代社会が抱える様々な問題点に目を向ける姿勢を持っていただきたいと思います。実習で接した子どもたちの姿や場面を思い出しながら受講していただければ、授業内容の理解が深まると思います。			教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』、文部科学省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814475 『保育所保育指針解説』、厚生労働省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814482 『演習保育内容・健康—大人から子どもへつなぐ健康の視点』、井狩芳子 著、萌文書林、2014年、ISBN978-4-89347-209-0C3037		
指定図書参考書等	関連資料及び関連図書は随時提示またはプリント配布する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EC330U 保育内容・言葉Ⅱ		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	高村 真希・中島 賢介（代表教員 高村 真希）						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
言葉の現代的な課題や具体的な実践内容を考慮しながら、総合的に子どもの言葉をとらえる力を培っていく。生活場面や遊びの実際を通して言葉の面白さや表現の多様性について学びを深める。また、子どもの言葉の発達について保育者の援助・保育教材の実演や環境構成等の視点から学んでいく。			①言葉の現代的課題を理解し、今日必要とされる保育者の役割と援助を知る。 ②子どもの言葉を育む保育教材について理解し、保育への活用方法を考えることができる。また、教材実演を通して子どもの言葉を引き出す表現・技術を身につける。				
教授方法	講義と演習						
履修条件	「保育内容・言葉Ⅰ」の履修済みが望ましい。(単位未修得可)						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業の概要説明 言語指導における現代的課題について理解する。					中島	
2	発達段階に応じた教材選びについて考える①（0歳児～5歳児までの年齢ごとの教材選択）					高村	
3	発達段階に応じた教材選びについて考える②（選択した教材と選択理由）					高村	
4	絵本の実演と実演方法について学ぶ。					高村	
5	紙芝居の実演と実演方法について学ぶ。					高村	
6	素話の実演と実演方法について学ぶ。					高村	
7	シアターの実演と実演方法について学ぶ。					高村	
8	発達段階に応じた保育教材の指導案を立案する。					高村	
9	保育教材の実演と反省・評価について考える。					高村	
10	幼児の思考能力の拡大と物語の成立過程について学ぶ。					中島	
11	感情や気持ちを表現することと保育者の関わりについて考える。					高村	
12	イメージや感覚を共有し言葉で伝え合うことと保育者の関わりについて考える。					高村	
13	ごっこ遊びや行事などから得られる役割認識と保育者の関わりについて考える。					高村	
14	文字との出会い、文字を使うことの喜びと保育者の関わりについて考える。					高村	
15	振り返りとまとめ：「子どもの言葉」について、これまでの学びを振り返るとともに保育者の役割を考える。					中島・高村	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
授業参加態度	40%	授業に積極的に参加しているか。	指導案立案や実演	30%	立案した指導案を基に模擬保育を行う。子どもの姿に理解しようとし、子どもの目線に合わせた保育活動の工夫が見られるか。		
授業で出される課題や応答シートの内容	30%	課題の内容					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①実体験から言葉に関するエピソードを挙げ、レポートとしてまとめる「60分」 ②「言葉」が育つことに関する生活・遊びの場面の指導案を立案する「60分」			提出されたレポートや応答シートを次回授業で反映する				
受講生に望むこと	保育者を目指す一人として、授業内での一人一人の言葉という表現を大切に受け止める姿勢を持って受講して下さい。また、積極的な態度で臨んで下さい。		教科書・テキスト	『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN: 『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館 2018年 ISBN: 『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館 2018年 ISBN: 『保育者のための言語表現の技術 子どもとひらく児童文化財をもちいた保育実践』古橋和夫編著 明文書林 2016年 ISBN978-4-89347-194-9 『領域 言葉 事例から学ぶ保育内容』武藤隆・高濱裕子編著 明文書林 2007年 ISBN4-89347-099-X			
指定図書参考書等	なし/必要に応じて随時提示する		その他・特記事項	なし			

授業科目名	EC335U 保育内容・人間関係Ⅱ		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	谷 昌代					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の「領域 人間関係」の内容の理解を深める演習科目である。</p> <p>①保育実践例（エピソード・クラス便り・連絡帳等より）を取り上げ、その中で子どもの心や他者との関係性の読み取りを中心に考察し、安心、安定した人間関係について考える。②遊びやゲームを体験し、自己の心の動きや他者との感じ方の違いに気づき、幼児の仲間集団における人間関係の捉え方を学ぶ。③遊びやゲームによる人間関係の発達支援や保育における個別支援の在り方を学び、実際に遊びを計画、実践することで幼児の学びの在り方を考える。</p>			<p>①保育実践資料を通して、子ども達が「人間関係」を育んでいく過程で表す様々な姿を読み取り、どのように受け止めるか、行動の背景や意味を考えることができる。</p> <p>②遊びやゲームを通して、自己や他者の行動・心を捉えることができる。</p> <p>③「領域・人間関係」にかかわるねらいを持った指導計画を考え、そのための環境構成を考えることができる。</p> <p>④子ども同士・保育者と子ども・保護者と子ども・地域と子ども等、保育実践における関係性のアセスメント及びプランニング、多機関との連携の持ち方を知る。</p>			
教授方法	保育資料を用いた事例検討・遊び、ゲームの立案、作成、体験・講義					
履修条件	「保育内容・人間関係Ⅰ」を履修していることが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	現代の人間関係に関する諸問題：履修者による実習を含む、実体験から人間関係にかかわるエピソードを紹介し、今後深めていきたい課題について考えていく。					
2	乳児期の人とのかかわりの発達について：連絡ノートやエピソードから「愛着形成」を中心に考える。					
3	乳児期の人とのかかわりの発達について：連絡ノートやエピソードから「共同注意」の獲得により乳児の生活がどのように変わるのか学ぶ。					
4	幼児期前期の人とのかかわりの発達について：3歳未満児のエピソードから「言葉で伝わること」と「言葉以外の方法で伝わること」について考え、相手を「理解する」ことについて深める。					
5	コミュニケーションについて：ノンバーバルでルールのある遊びを遊んでみる。自分の心と周りの人の思いを捉えることの難しさを知る。〔体験〕					
6	ノンバーバルでオモチャ使って遊んでみる。遊びによって他者についての見え方が異なることを知る。〔体験〕					
7	ノンバーバルでの遊びを通じて「一緒に遊ぶ」ことの意味を考える。〔授業後半：小テスト①〕					
8	幼児期後期の人とのかかわりの発達について：エピソードにより「集団参加」の観点から考える。					
9	幼児期の仲間関係の捉え方について：エピソードにより子どもの「関係性」を読み取る。					
10	発達障害児の理解：彼らの物の見え方、感じ方、他者とのかかわり方について理解し、「安心して過ごす」ことについて考える。また、保護者・兄弟支援について園として、保育者としてできることを考える。					
11	特別な配慮が必要な子どもを含んだクラスにおける「人間関係づくり」について考える。（生活・自由遊び・設定による活動）					
12	「安心」して遊び、それぞれが自己発揮できる指導計画を考え、実践する。〔課題・模擬保育実践〕					
13	前回の保育実践を基に、どの子にも「安心・安定」した保育とはどのようなことか見直す。					
14	環境や素材の変化は子ども達の人間関係に影響をもたらすのか考える。（森の自然体験活動等）〔授業後半：小テスト②〕					
15	領域「人間関係」：地域社会、小学校とのつながりを考えて、支え合う関係、連携の在り方を探る。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	40	①授業内で行われる遊びやゲームに対して真剣に準備し取り組むこと。②毎回、討議時間を設けるので、積極的に参加する。		小テスト(2回)	40	様々な人間関係にかかわる出来事の対応を基本事項、発達に基づいて考えることができる。
提出課題	20	①提出状況②与えられたテーマに沿って学習が進められていること。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>①実習を含む資料や自身の体験から、人間関係にかかわるエピソードを収集しておくこと。〔30分〕</p> <p>②「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説書」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」の「人間関係」項目について読み、用語の確認をしておくこと。〔30分〕</p> <p>③遊びの準備〔長時間〕</p> <p>④指導計画の立案〔長時間〕（早期より取り組んでおいた方がよい）</p>				<p>・毎回、授業最後に振り返りシートを配布し、授業の感想や理解したこと、質問等記入し提出。内容により次回授業内で説明し共有する。</p> <p>・授業内の討議の中でコメントする。</p>		
受講生に望むこと	<p>・ビデオや連絡帳、お便りなど自身の幼稚園、保育所時代の資料に触れ、子どもの時に感じていたことをや考えていたことを思い出して書いてほしい。</p> <p>・授業で遊びやゲームをするので動きやすい服装で参加してほしい。</p>			教科書・テキスト	<p>『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2008年 ISBN978-4-577-81245-7</p> <p>『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2008年 ISBN978-4-577-81242-6</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2015年 ISBN978-4-577-81373-7</p>	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①個人情報を含む資料を用いるため、取扱いに注意すること。	

授業科目名	EC340U 保育内容・表現Ⅱ		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田邊 圭子・多保田 治江・向出 圭吾 (代表教員 田邊 圭子)						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>子どもの表現の多様性と、子どもの表現を総合的に捉える視点を学ぶ、講義に加え、具体的な実践事例を通して創造的な子どもの表現活動を体験し、豊かな感性や表現する力を養う。「表現Ⅰ」の学びを踏まえ、子どもの表現を支える育む創造性豊かな保育者としての役割と支援に関する学びを深めていく。</p>			<p>①子どもの身体表現を総合的な表現活動として進めていくための方法について実践を通して習得している。 ②子どもの音楽表現を総合的な表現活動として進めていくための方法について実践を通して習得している。 ③子どもの造形表現を総合的な保育活動として進めていくための方法について実践を通して習得している。 ④子どもの表現を保育活動の中で総合的に捉える方法について実践を通して習得している。 ⑤表現を支える保育者の役割と支援について理解を深める。</p>				
教授方法	講義と演習						
履修条件	『保育内容・表現Ⅰ』の単位を修得済みであることが望ましい(単位未修得可)						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション：表現Ⅰ全体に関する授業オリエンテーション。今後の授業の流れ、受講方法など。身体表現とは何か：身体表現とは何かについて、領域「表現」との関連から理解する。					田邊	
2	「絵本を用いた動き作り」：絵本のストーリーを動きで表現する。					田邊	
3	「動きのための音創り」：動きのための音を動きと共に創る。					田邊	
4	「身体表現作品づくり」：身体表現作品を創る。					田邊	
5	「身体表現作品発表と鑑賞」：グループの作品を発表し、鑑賞する。					田邊	
6	表現とは何か：音楽表現とは何かについて、領域「表現」との関連から理解する。 担当教員：多保田					多保田	
7	一緒に動くこと・歌うこと：共有体験を通して得られることは何かを事例を通して考える。					多保田	
8	「表現」と保育の環境構成：表現を生む場をどう捉え、つくるかを考える。					多保田	
9	表現を支える保育者の役割：「表現を支える」とは具体的にどのようなことなのかを事例を通して考える。					多保田	
10	遊びを通しての総合的な指導：様々な表しと受け止めについて考える。					多保田	
11	子どもの造形表現の理解(1)：実際に各自が造形活動を行う。					向出	
12	子どもの造形表現の理解(2)：子どもの造形作品と比較しながら子どもの造形表現を理解するとともに保育者の役割について考える。					向出	
13	子どもの劇遊び(1)：グループに分かれて影絵を使った劇遊びを考える。					向出	
14	子どもの劇遊び(2)：グループごとに影絵による創作劇を発表し、お互いを評価しあうことで子どもの表現について考える。					向出	
15	子どもの表現とは何か：保育現場での表現活動について理解を深める。					向出	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加状況	30	授業への取り組み姿勢		授業で出される課題や発表	50	取り組み姿勢と内容	
レポート割合	20	・作品制作の感想、身体表現に関するレポート(田邊) ・毎回授業の感想・質問を書く小レポートへの取り組み姿勢(多保田) ・課題や作品に対するの自分なりの気づき、学びに関するレポート(向出)					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①毎回の授業後に、自身で振り返り、不明点を調べてくる。[30分] ②次回授業のための課題について準備する。[30分]				・毎回課す小レポートは次回コメントを付記し返却する(多保田) ・授業最終日に課すレポートは2週間以内にコメントを付記し返却する(多保田、田邊、向出)			
受講生に望むこと	この授業は3名の教員が5コマずつ担当するオムニバス科目です。演習科目で系統的に授業が展開します。積極的な授業参加を望みます。			教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』、文部科学省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814475 『保育所保育指針解説』、厚生労働省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814482		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EN300U 児童家庭福祉論Ⅱ		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	虹釜 和昭						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>児童家庭福祉の中における、愛着理論を中心に理解を深める。愛着とは人物が特定の他者との間（主に親子関係）に結ぶ情緒的絆とされており、この概念を提示した人物として、ボウルヴィがあげられる。これは特に発達心理学においては重要な概念であり、児童の健全な発達を果たす上において不可欠な要素である。今日の児童家庭福祉における重要課題である、児童虐待問題への対応など、子どもを取り巻く様々な課題について理解を深める。また、愛着理論をはじめとする、精神分析論（親子関係における）などにもふれ、社会的養護にかかる児童福祉施設に暮らす子どもの発達問題、特に環境要因にかかる発達障害についても理解を深める。</p>			<p>①愛着理論のあゆみを理解している。 ②ボウルヴィの愛着理論を理解している（「アタッチメント」と「愛着」の違い）。 ③社会的養護と愛着理論の関係を学ぶ。なぜ、愛着理論を学ぶ必要があるのかを理解している。 ④精神疾患としての愛着と環境要因の愛着を理解する。 ⑤愛着対象を喪失した子どもの心理について理解している。 ⑥発達障害としての児童虐待について、被虐待児の臨床像、脳科学の視点からの虐待児童などについて理解している。</p>				
教授方法	テキストを使用せず、配付資料や映像を用いた講義となるが、愛着について各自が課題を持ち、そのプレゼンテーションなども取り入れる。						
履修条件	「児童家庭福祉論Ⅰ」を履修済であること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	アタッチメント研究のあゆみについて、フランス精神分析論からフロイトへの系譜を理解し、ホスピタリズム論争からボウルヴィの愛着理論の概要について学ぶ。						
2	ボウルヴィのアタッチメント理論から、愛着行動システム、コントロールシステム理論、愛着行動の発達段階、愛着パターンの個人差など愛着形成と発達について理解を深める。						
3	愛着研究の臨床発達の視点から、養育者自身の愛着外傷体験の未解決と混乱した養育行動の関係、愛着行動システムの崩壊のメカニズムなどについて学ぶ。						
4	社会的養護と愛着理論を学ぶ。社会的養護の現状と課題、我が国におけるホスピタリズム研究、論争、乳児院におけるホスピタリズム理論、愛着理論の受入などについて理解を深める。						
5	反応性愛着障害とアタッチメント障害の概念整理、精神疾患としての愛着と環境要因がもたらす愛着障害の比較、愛着研究の課題と臨床などについて学ぶ。						
6	愛着とトラウマについて学ぶ。トラウマ耐性と生育環境、子どものトラウマの特性、子どものトラウマ反応、外傷性ストレス障害などについて理解を深める。						
7	愛着対象を喪失した子どものころについて学ぶ。子どもの喪失体験が及ぼす心理的傷つき。愛着対象を喪失した子どもへの支援、回復過程などについて理解を深める。						
8	発達障害と愛着の関係について学ぶ。発達障害と愛着障害の複雑な関係、児童虐待の高リスク要因としての愛着障害、アスペルガー症候群と反応性愛着障害、虐待による多動性行動障害などについて理解を深める。						
9	発達障害としての児童虐待について学ぶ。被虐待児の臨床像、脳科学の視点からの虐待児童などについて理解を深める。						
10	発達障害としての愛着障害への治療などについて学ぶ。安全の確保と衝動コントロール、愛着障害を修復するための精神療法などについて理解を深める。						
11	児童虐待を受けた子どもが、社会的養護関係の児童福祉施設において表面化する愛着にかかわる問題行動について、事例などを通じて理解を深める。						
12	社会的養護における被虐待児養育の現状を学ぶ。						
13	社会的養護における被虐待児養育の課題とその要因を学ぶ。						
14	反応性愛着障害をかかえる児童の、生活場面における「治療的關係」の具体的展開について学ぶ。						
15	社会的養護の施設における、生活の中での愛着障害の臨床的理解、及びそのかわり方の実際。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末レポート	70	愛着理論を正確に把握し、児童問題にとって不可欠の理論であることを述べる。愛着理論体系から、その構成要素を明確にしている。		リアクションペーパー	30	毎回の講義内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらない、自らの意見が述べられている自らの課題が設定されている。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
基礎となる学問領域は子ども家庭福祉、社会福祉学であるが、福祉実践に不可欠の心理学領域の講義内容も含まれているため、心理学関係学科目の学びと関連づけることが求められる。[30分]			最終講義において、提出課題の講評とより実践的な愛着理論の展開にかかるディスカッションから今後の課題を提示する。				
受講生に望むこと	愛着理論について、総合的に学ぶ。児童家庭福祉や教育を志す学生にとっては不可欠の理論、知識である。自らの力で愛着理論を咀嚼すること。		教科書・テキスト	テキストは使用せず、講義時配布資料を用いる。			
指定図書参考書等	なし／『児童養護施設と被虐待児』 森田喜治著 創元社 2009年 ISBN 4-422-11380-1 『児童養護施設児の日常とこころ』 森田喜治著 創元社 2013年 ISBN 978-4-422-11571-9		その他・特記事項	学習に対して望むことなどあれば、伝えてほしい。			

授業科目名	EN305U 相談援助技術		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	上野 千恵						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>現在、保育者には「保護者に対して保育に関する指導を行うこと」や「家庭や地域の様々な社会資源との連携」といった取り組みが求められている。こうした場面に対応できる実践力を身に付けることを目的として、社会福祉の直接援助技術並びに理論を学ぶ。</p>			<p>①相談援助の概要について理解する。 ②相談援助の方法と技術について理解する。 ③相談援助の具体的展開について理解する。 ④事例分析を通して、保護者理解ができるようになる。</p>				
教授方法	個人及びグループでの演習と講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：講義内容の説明、保育士を目指す学生が相談援助技術を学ぶ意義を理解する。 (演習)「自分から他者へ一歩を踏み出すヒント」(保護者との気持ちの合わせ方を理解する。)						
2	講義：相談援助とは何か。エンパワーメントの理論や社会資源の利用という視点で学ぶ。 (演習)「人生に触れる重み」(保護者は過去・現在・未来のつながりの中にいることを理解する。)						
3	講義：事例検討「生活保護家庭」「障害児の母」より、保育現場における人権侵害について考察する。 (演習)「ドメスティックバイオレンス」(人権侵害に対する保育者の取り組みを理解する。)						
4	講義：事例検討「子どもの夜泣きに悩む母親」より、母親の思考方法と相談場面との関連性を考察する。 (演習)「他者に与える自分の印象について」(保育者自身を多面的に理解する大切さを理解できる。)						
5	講義：(医学モデル・エコロジカルモデル・ストレングスモデル)3つの相談援助モデルを理解する。 (演習)「コミュニケーション」(保育者の問題理解によって、介入方法も変わってくることを理解する。)						
6	講義：事例検討「虐待疑いの母親」より、相談援助の過程(プロセス)を理解する。学生の考える相談援助と、社会福祉的な観点での相談援助とを比較考察する。(過程(プロセス)を重視した援助の大切さを理解する。)						
7	ケースワーク① (講義・演習)：関係者との情報共有ツールであるマッピング法を学ぶ。(エコマップ・ジェノグラムが書けるようになる。)						
8	ケースワーク② (講義・演習)：事例「虐待疑いの家庭」より、アセスメント方法を理解する。(アセスメントシートを理解する。)						
9	ケースワーク③ (演習)：事例「虐待疑いの家庭」より、プランニングと関係機関との連携方法を理解する。(援助計画の立て方と、他機関との連携方法を理解する。)						
10	講義：感情労働である保育者と、燃え尽き症候群との関連性を学ぶ。 (演習)「ストレスコントロール」(自分の感情を客観視しコントロールする方法を理解する。)						
11	講義：3つの自己主張方法について、特徴や相手の反応、隠された感情などを理解する。 (演習)「私の自己主張方法」(他者と関わる時に不可欠な自己主張について、多面的に理解する。)						
12	講義：自分も相手も大切にしたい自己主張法を理解する。 (演習)「ざわざわした保育室」(保護者の前で自己主張をする時の方法を理解する。)						
13	グループワーク① 講義：相談援助におけるグループとは何か。ワーカーとして求められる姿を理解する。 (演習)「役割評価」(相談援助におけるグループを理解し、グループメンバーの見方を理解する。)						
14	グループワーク② 講義：グループを成長させるグループリーダーの話し方、雰囲気作りについて学ぶ。 (演習)「グループリーダーの話し方」(ワーカーによるメンバーへの傾聴技法の重要性と要点を理解する。)						
15	グループワーク③ 講義：グループ内での葛藤を、個人の成長につなげていく介入方法を学ぶ。 (演習)「話し合いの技法」(メンバー間の葛藤を、一人ひとりの成長につなげるための技術を理解する。)						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	50	演習形式のため、遅刻及び授業参加意欲に欠けるとみられる場合は厳しく減点する。		大レポート	30	授業の演習を基に、文章で自己覚知を考察したものを評価する。授業振り返りが薄い、または持論を展開したレポートは評価が低くなる。	
小レポート	20	毎回の授業内容が理解できているか、また演習から自己洞察を述べてあるかを評価する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①授業で学んだコミュニケーション技術を基に、自分が他者とどのようにコミュニケーションをしているかを振り返る。(毎回の授業後、日常生活の中で実践する。) ②授業に関連する部分のテキストを、授業後読んで理解する。[30分]				①大レポートのテーマは、授業中に発表する。 ②小レポートは毎回コメントをつけて返却する。 小レポートは大レポートの資料となる。			
受講生に望むこと	この科目は、保育士を目指す学生を対象とする内容となっており、保育事例検討のグループ討論も多く含まれています。黙って座っている態度は評価が低くなります。事例検討や演習に対して、各人の積極的な参加を強く求めます。			教科書・テキスト	『保育者のための相談援助』小林郁子他共著 萌文書林 2015年 ISBN:978-4-89347-230-4		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	適宜プリント配布。プリントと小レポートは、大レポート作成に必ず必要なので、各自整理しておくこと。		

授業科目名	EN310U 子どもの保健Ⅱ			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	北川 節子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>保育所や児童福祉施設など子どもの生活を支援する場では、安全な環境と保健的な活動が養護や教育の基本となります。そのため子どもの身近にいる保育士は、保健・安全について確かな知識と技術をもって保育をする必要があります。ここでは「子どもの保健Ⅰ」の知識を基に、保育所や児童福祉施設における保健・安全の活動に関する具体的な対応の方法や管理について学んでいきます。</p>				<p>①保育における保健活動の概要を理解し保健計画立案の基礎的能力を養う。 ②子どもの健康増進のための養護の技術を習得する。 ③子どもの疾病の適切な対応方法を習得する。 ④子どもへの健康・安全教育を考える。 ⑤保育における健康管理、安全管理について理解する。 ⑥災害予防と危機管理の方法を理解する。</p>			
教授方法	講義・演習						
履修条件	「子どもの保健Ⅰ」を履修済みまたは履修中であること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション 保健活動の計画と評価① 保育保健活動の概要を理解し、保健計画を立案する。						
2	保健活動の計画と評価② 保健に関する個別対応と集団への健康、安全、衛生管理について理解する。						
3	子どもの保健と環境① 保育における保健の位置づけと望ましい保健環境を理解する。						
4	子どもの保健と環境② 健康増進のために生活リズム、排泄、清潔、衣服について考える。						
5	子どもの保健と環境③ 乳児の抱き方、寝かせ方、おんぶの仕方、おむつ交換の方法を習得する。（演習）						
6	子どもの保健と環境④ 乳児の沐浴、衣服の交換の方法を習得する。（演習）						
7	子どもの保健と環境⑤ 調乳、授乳、歯磨き、うがいの方法を習得する。（演習・講義）						
8	子どもの疾病と対応① 手洗いとおう吐物処理の方法を習得する。（演習）						
9	子どもの疾病と対応② 身体の体温、脈拍、呼吸測定、身体各部の計測と包帯法の基礎を習得する。（演習）						
10	子どもの健康・安全教育① 子どもへの健康・安全教育の意義を理解し、指導案を立てる。						
11	事故防止と健康管理・安全管理① 保健活動の実施体制と子どもの救急時の対応を理解する。						
12	事故防止と健康管理・安全管理② 乳幼児の心肺蘇生法と異物除去の方法を習得する。（演習）						
13	事故防止と健康管理・安全管理③ 子どもに起こりやすい事故の応急処置の方法を理解する。						
14	事故防止と健康管理・安全管理④ 保育現場における事故・災害発生時の危機管理の重要性と方法を理解する。						
15	子どもの健康・安全教育② 子どもへの健康・安全教育を共有し、効果的な方法を考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
課題レポート	20	「保健計画」「健康・安全教育」について実施。既習内容を生かしているか、工夫されているか。			定期試験	50	基本的な知識を理解しているか。
演習レポート	30	5,6,7,8,9,12回の演習について記述。使用物品、手技、注意について理解しているか、経験を通して学んだことが書かれているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
事前学習：指定した範囲の教科書を読む。DVDを授業前に視聴する。〔30分〕 演習レポートは演習後、復習を兼ねて記載し、知識・技術を身に付けるようにする。〔60分〕				課題レポート、演習レポートはコメントをつけて返却する。優秀な作品は発表の機会を作り、共有する。			
受講生に望むこと	・「子どもの保健Ⅰ」が履修済みであること。 ・演習活動は保育現場を想定して実施するので、服装、容姿を整えて参加すること。			教科書・テキスト	佐藤益子編「子どもの保健Ⅱ」ななみ書房 2017年2月 ISBN：978-4-903355-63-4		
指定図書／参考書等	参考書等「園児の健康教育」「改訂版 親と子の健康教育」「すぐ使える健康教育」「保育のなかの事故」「新・保育のなかの保健」「保育現場のための乳幼児保健年間計画実例集」「やるべきことがすぐわかる 今日から役立つ保育園の保健のしごと」			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EN315U 子どもの食と栄養		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田邊 圭子・中村 喜代美・宮丸 慶子 (代表教員 田邊 圭子)						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>子どもの食生活は、多様化する社会の中で複雑化し、夜型生活・欠食・孤食・個食など多くの問題を抱えている。幼児期の生活習慣は成人になっても影響することが多く、食事・運動・睡眠のバランスを見直す必要がある。保育にかかわる者は、正しい知識をもち、子どもたちにわかりやすく伝える必要がある。そこで、「食」の大切さを講義・実習・演習をとおして学び、さらに「食育」を理解し、実践へと結びつける。</p>			<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な生活を基本とした食生活の意義や栄養に関する基本的知識を理解している。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深めている。 3. 食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解している。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解している。 5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解している。 				
教授方法	演習（講義、実習、演習を行う）						
履修条件	2年次までに開講された保育士に関する科目を履修済みであることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	子どもの健康と食生活の意義（子どもの心身の健康と食生活の関わりを理解する。また、子どもの食生活の現状を知り、課題を考える。）					宮丸	
2	栄養に関する基本的知識①（基本的な栄養の概念と栄養素の種類、その働きを理解する。）					宮丸	
3	講義 調理・栄養の基本的知識を理解する。実習1 調乳（無菌操作法）、冷凍母乳の扱い方を理解する。実習2「授乳・離乳の支援ガイド」における生後5.6ヶ月頃の離乳食の調理形態・食事量の目安を把握し、適した調理法や食材の扱い方を理解する。					中村	
4	栄養に関する基本的知識②（食事提供に必要な栄養量や献立、調理の基本を理解する。）					宮丸	
5	子どもの発育・発達と食生活（乳児期の授乳・離乳の意義、幼児期、学童期の心身の発達と食生活の関わりを理解する。また、食生活の生涯発達への重要性を理解する。）					宮丸	
6	実習3 離乳食7.8ヶ月頃、離乳食9～11ヶ月頃：「授乳・離乳の支援ガイド」における離乳各期の調理形態・食事量の目安を把握し、適した調理法や食材の扱い方を学ぶ。					中村	
7	食育の基本と内容①（食育の意義を理解する。特に養護と教育の一体性を学ぶ。また食育の内容と計画及び評価の仕方、環境、諸機関との連携、職員間との連携を考える。）					宮丸	
8	食育の基本と内容②（食育と環境の関わり、諸機関との連携、職員間との連携を学び、食生活指導及び食を通じた保護者への支援を考える。）					宮丸	
9	実習4 保育所（児童福祉施設）における給与栄養目標量を学び、調理法、切り方、食事量を理解する。また、間食の目的・必要性、適した食物や量、与え方を理解する。また、食育研究発表会に向けてグループ討論を行う。					中村	
10	家庭や児童福祉施設における食事と栄養（家庭における食事と栄養、児童福祉施設における食事と栄養を理解し、その関わりを考える。）					宮丸	
11	特別な配慮を要する子どもの食と栄養（疾病及び体調不良の子どもへの対応、食物アレルギーや障害のある子どもへの対応を理解する。）					宮丸	
12	実習5 摂食障害児給食（障害者施設）：発達段階を考慮した調理形態を学び、最も適した食物の提供と介助を会得する。また、食育研究発表会に向けてグループ討論を行う。					中村	
13	食育計画（1） 前回までのグループ討論での意見や目指す子供の姿を考慮し、食育研究発表会に向けて食育計画をまとめる。					中村	
14	食育計画（2） 食育研究発表会に向けて媒体作り、劇の練習、また子供達とのやり取りなどを考える。					中村	
15	食育研究発表 A・B、全員で研究発表会を行う。					中村、宮丸	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
単位認定試験	宮丸40	宮丸：授業内容をどれだけ理解しているか。		授業参加状況とレポート提出	宮丸10	宮丸：復習・予習の小レポートはポイントが押さえられているか。授業への取り組み姿勢	
授業参加状況とレポート提出	中村35	中村：講義ノート、実習レポート、栽培記録とレポート提出。（テーマに沿ったものであるか。字数不足・書き違反の場合は0点とする。）調理実習の取り組み姿勢（態度・積極性）含む。		食カードと研究発表会の参加レポート提出	中村15	中村：研究発表会に向けて作った媒体・食育計画・レポートを提出。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<ol style="list-style-type: none"> ① 毎回の講義前には、2年次で履修した「子どもの保健ⅠB」で学んだ箇所をテキストを読んで必ず復習する。[30分] ② 初回授業に「子どもの食と栄養授業の予定表」を配布するので、小レポートを利用して教科書の復習・予習をして授業に臨む。[40分] ③ 実習のレポートは、講義のテーマに則し、指示通り実習を行う事が出来たかを振り返り、次に生かす事を考えて書き、また盛りつけは写真を撮り貼る。 1時間～2時間 ④ 家庭では食事の準備（野菜を切る）、食事作り、後片付けを積極的に取り組む。 週2回 			<p>宮丸（講義）：授業開始時に小レポートにより前回の復習を行い、次いで予習部分を取り入れながら授業を展開する。次回に返却する。 中村（実習）：プリント（ノート）に講義内容、実習時の振り返りを記載し実習後提出。当日4時頃までに教材室へ返却する。 ・実習のレポートは実習後木曜までに教材室へ提出する。実習時に返却する。提出期限は厳守し、返却されたレポートは保管する。栽培記録・レポートの提出は後日連絡する。</p>				
受講生に望むこと	① 子どもの食と栄養は将来のある子どもが健やかな成長ができるように学ぶと同時に、保育の仕事に関するとても重要な学びである。まず、自分自身がそれにふさわしい生活管理、食事管理を実践することを希望する。 ② 調理実習では朝食を取って出席し（遅刻厳禁）、グループの仲間と積極的に取り組む。		教科書・テキスト		宮丸：改訂2版『子どもの食と栄養』新保育士養成講座 編集委員会編 全国社会福祉協議会発行 2015年 ISBN978-4-7935-1163-9 中村：プリントによる実習		
指定図書参考書等	なし/なし		その他・特記事項		中村：開講前に調理実習費を払う。（調理実習費を払っていない者は実習に参加することは出来ない。）		

授業科目名	EN320U 家庭支援論		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	虹釜 和昭						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>子育てと家族・家庭に焦点をあて、子どもが育つ場所としての位置づけを理解する。そのうえで、家族・家庭の動向について、急速な少子高齢化による家族の危機的状況に対する支援方法を理解する。そうした社会環境の中、子育て意識の変化、子育ての困難、負担感、不安感をいかに家庭を支援する「子育て支援機能」が保育所の重要な機能であることを学ぶ。保育所の中心的機能の位置づけられた家庭支援の具体的な展開、保育所の社会的責任を確認し、子育て家庭支援の政策動向を学ぶ。また、特別なニーズを持つ家庭である「育てにくさや障害のある子ども」、「乳幼児虐待対応」、「ひとり親家庭」、「ステップファミリー」、「異文化家族」などへの具体的な支援方法を理解する。地方自治体における子育て支援施策の実践例を理解する。</p>			<p>①家庭の意義とその機能について理解している。 ②子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解している。 ③子育て家庭の支援体制について理解している。 ④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解している。</p>				
教授方法	講義及び提示課題によるグループディスカッション						
履修条件	「児童家庭福祉論Ⅰ」を履修済であること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	家族・家庭とは何か、家族・家庭の定義と社会制度としての家族・家庭、その意義などを理解する。						
2	現代家族・家庭と社会、家族・家庭の変容と社会的要因を考察し家族・家庭機能の変化の理解する。						
3	現代の家族・家庭関係（夫婦・親子・兄弟など）構造理解と、地域との関わりを考察する。						
4	地域における子育て支援の意義と活動を理解し、保育所の子育て支援実践例を学ぶ。						
5	子育て支援サービスの現状と課題を保育サービスや要保護児童の観点から学ぶ。						
6	子育てに対する相談支援活動を、ソーシャルワークの視点から考察する。						
7	子育て家庭の福祉を図るための社会資源について、その具体的な機関、実践内容などを学ぶ。						
8	家族・家庭支援の意義と目的について、現代の子育て環境と子育て支援の必要性を学ぶ。						
9	次世代育成支援対策について、国の取り組みや地方自治体の取り組みを学ぶ。						
10	子育て支援サービスの展開などについて、諸外国の実践事例を学ぶ。						
11	保育・養護現場と関係機関の専門職とそのネットワークを理解する。						
12	子ども虐待の現状と早期発見など予防策を学ぶ。保育所における虐待を受けた子どもと親への支援事例から、その対応と関係機関との連携を学ぶ。						
13	保育所・認定こども園における「虐待を受けた子ども、親への支援事例」から、その対応と関係機関との連携を学ぶ。						
14	保育所・認定こども園における虐待対応とその具体的方策、留意すべきことなどについて理解する。						
15	家族・家庭支援事例とその考察を行う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末レポート	50	課題内容を正しく理解し、自らの考え方を理論的に表現できている。家族支援における基本的事項が記載され、今後のあり方などについて言及されている。		リアクションペーパー	50	毎回の講義内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらない、自らの意見が述べられている自らの課題が設定されている。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
保育所・認定こども園における保護者支援を中心に学ぶ学科目である。実習園及び地域の保育所・認定こども園で行われている、具体的な子育て支援サービスについてまとめる。また、子ども・子育て支援法に規定されている「地域子ども・子育て支援事業」を調べ、その内容をまとめる。〔30分〕			期末レポートの講評、評価視点などについて、プリント配布による伝達を行う。				
受講生に望むこと	自らが保育や教育現場において、家族支援を行うことを想定し、講義を受けていただきたい。		教科書・テキスト	家庭支援論【第2版】、新保幸男・小林理編著、中央法規、ISBN 978-4-8058-5605-5			
指定図書参考書等	なし/なし		その他・特記事項	学習に対して望むことなどあれば、伝えてほしい。			

授業科目名	EN275U 乳児保育 I			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	熊田 凡子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
乳児期は、人間形成の基礎ができる重要な時期である。この時期に乳児の個人差に応じて保育できるよう、低年齢児の保育の概念と意義を学び、成長や発達の特徴を理解する。また、乳児保育が担う社会的意味及び保育現場における乳児保育の課題について討議し考察する。				①乳児保育の意義、基本的視点について理解している。 ②乳児期の成長・発達の特徴を理解し、生活のあり方を考えることができる。 ③乳児保育における家庭支援を理解している。 ④実際の関わりを通して、乳児保育の実践計画を立てることができる。			
教授方法	講義、グループワーク						
履修条件	保育士資格取得希望者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	乳児保育の意義、および基本的視点について理解する。						
2	おおむね6ヶ月未満児の発達と保育内容を学び理解する。乳児人形を用いて、関わり方を実践から学ぶ。						
3	おおむね6ヶ月から1歳3ヶ月未満児の発達と保育内容を学び理解する。乳児人形を用いて、関わり方を実践から学ぶ。						
4	おおむね1歳3ヶ月から2歳未満児の発達と保育内容を学び理解する。乳児と実際に触れ合うことによって学ぶ。						
5	おおむね2歳児の発達と保育内容について学び理解する。実際の関わりを通して学ぶ。						
6	乳児の養護にかかわるねらいと内容について学ぶ。「赤ちゃん・サロン」の事例より。						
7	3歳未満児の保育に関わる配慮事項「健康」面について乳児保育の視点から理解する。乳児人形を用いた実践。						
8	3歳未満児の保育に関わる配慮事項「安全」面について乳児保育の視点から理解する。乳児人形を用いた実践。						
9	乳児保育の発展の経緯と保育制度について理解する。「歌遊び」・「触れ合い遊び」の実践。						
10	子育て家庭への支援について学ぶ。(保育所・幼稚園・地域・大学における実際より。)						
11	保育の記録と自己評価について学ぶ。個別記録・デーリープログラムについて考える。						
12	乳児保育の保育方法(担当制、職員間の連携)について理解する。実際について調べる。						
13	乳児と遊びの環境(玩具・絵本・歌)について学び、計画する。						
14	乳児保育の計画と実践を学ぶ。実践に向けての準備を行う。						
15	乳児保育の実践計画を立てる。シミュレーションを行う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	40	授業への取り組み姿勢			課題	30	課題の提出状況と内容
臨時試験	30	乳児保育についての理解(演習・筆記による)					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
乳児保育を計画し、それに応じた教材を作成する。[120分] 歌遊び・ふれあい遊びのバリエーションを考える。[120分]				前回授業の振り返り実演及び、保育場面演習(おむつ替えや散歩)の練習成果、発表に対して助言する。			
受講生に望むこと	保育者を目指す学生として、乳児期を保育の原点として捉えるよう努めてください。			教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> 『養成校と保育室をつなぐ理論と実践—新訂 見る・考える・創り出す乳児保育』(社)あゆみ福祉会茶々保育園グループ編 明文書林 2016年 ISBN978-4-89374-197-0 『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレバ館 (2018年予定) 		
指定図書参考書等	なし/授業の中で随時紹介する。			その他・特記事項	「保育実習指導Ⅰ」、「子どもの保健Ⅱ」、「子どもの食と栄養」の授業と関連付けを行う。欠席した場合は、必ず欠席回の授業内容を自己学習し提出する。		

授業科目名	EN325U 乳児保育Ⅱ		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	熊田 凡子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
乳児期は、人間形成の基礎ができる重要な時期である。この時期に乳児の個人差に応じて保育できるよう、低年齢児の保育の概念と意義を学び、成長や発達の特徴を理解する。また、乳児保育が担う社会的意味及び保育現場における乳児保育の課題について討議し考察する。			①乳児期の発達理解に基づいた保育の実践計画及び記録を考えることができる。 ②乳児保育における子どもの生活と遊びを理解している。 ③乳児期の子育て支援について、今日的課題を考えることができる。 ④実践を通して、乳児保育の今後の展望を見出すことができる。				
教授方法	講義、グループワーク						
履修条件	乳児保育Ⅰを履修(単位修得)済みが望ましい。保育実習Ⅱを履修する学生は、履修しておくことが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	子ども理解に基づいた保育について、保育実習Ⅰ(保育所)の保育記録から考える。ピアジェの理論から学ぶ。						
2	保育所での一日の生活をプランする。「心地よく」を中心に考え、生活場面を実践する。						
3	乳児保育と保健衛生および安全について理解する。乳児人形を用いた実践。						
4	乳児期の食事について理解する。介助の方法を実践を通して学ぶ。						
5	乳児保育実践を生かした子育て支援を学ぶ。大学における実践「赤ちゃん・サロン」より。						
6	乳児と遊び―手作りおもちゃ課題研究の発表を行う。保育場面を設定し実際に学び合う。						
7	乳児と遊び―手作りおもちゃ課題研究の発表を行う。具体的に個々の関わりをシミュレーションする。						
8	乳児の遊びを実践する。「歌遊び」「模倣遊び」「やりとり遊び」「ふれあい遊び」の実践から学ぶ。						
9	乳児保育の計画を実践する。具体的に保育形態や保育場面等を提示した上で、シミュレーションする。						
10	乳児保育の計画を実践する。保育者の配慮に着目し、表情や口調および動作や振る舞い方を捉える。						
11	乳児保育における保育者の配慮とは何か、なぜ必要かを理解する。子ども理解の視点から考える。						
12	乳児保育の計画を改善する。養護と教育の視点を捉える。						
13	実際の保育記録から自己評価を行う。自己の課題を見出す。						
14	乳児保育における現代的課題を考える。保育所・認定こども園等における保育現場の事例より。						
15	乳児保育の今後の展望を見出す。子ども・子育て新制度における乳児保育のあり方について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	40	授業への取り組み姿勢		課題	30	課題の提出状況と内容	
臨時試験	30	乳児保育についての理解(演習・筆記による)					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
本学の育児支援活動「赤ちゃん・サロン」に参加し(10月～2月)、保育計画を実践する。[60分] 手作りおもちゃ課題研究を行う。乳児保育における遊びを準備する。[120分]				保育場面実演(触れ合い遊び・歌遊び等)に対する助言。			
受講生に望むこと	保育者を目指す学生として、乳児期を保育の原点として捉えるよう努めてください。			教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> 『乳児保育[新版]新保育ライブラリ保育の内容・方法を知る』増田まゆみ編 北大路書房 2014年 ISBN978-4-8628-2843-0 『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーブル館(2018年予定) 		
指定図書参考書等	なし/授業の中で随時紹介する。			その他・特記事項	「保育実習指導Ⅱ」の授業と関連付けを行う。欠席した場合は、必ず欠席回の授業内容を自己学習し提出する。		

授業科目名	EN290U 身体表現			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	田邊 圭子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>子どもの発達と運動機能や身体表現に関する基本的な内容を理解したうえで、運動遊びや身体表現活動の実践に必要な基礎的技能を身につける。また、身体を動かす経験を通して健康・安全について理解し、楽しく明るい健康生活を子ども達と共に営む保育内容と方法について学ぶ。</p>				<p>①自ら積極的に身体を動かすことができるようになる。 ②子どものための身体運動または身体表現を理解する。 ③独自の動きや身体表現を創り出すことができるようになる。</p>			
教授方法	演習						
履修条件	保育士資格取得希望者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	授業概要説明：授業の進め方、成績評価の方法について説明。 保育士科目「身体表現」について考える。						
2	基本ステップの練習：ウォーキング、ツーステップ、スキップ、ギャロップ等基本的なステップ						
3	子どものための体操：身体の様々な部位を大きく動かせるようにする。						
4	子どものためのフォークダンス：みんなで踊ることの楽しさを体験する。						
5	子どものためのダンス1：子どものために創られたダンスを通して、一緒に踊る楽しさを体験する。						
6	子どものためのダンス2：グループで子どものためのダンスを創る。						
7	子どものためのダンス3：グループで創った作品を発表し、鑑賞する。						
8	子どものための体操、フォークダンス、ダンスの指導法：3～7回の授業で経験した内容を基に、各々の指導法について考える。						
9	ボールを用いた運動遊び：ボールを用いた運動遊びを経験し、ボール遊びの特性を理解する。						
10	マットを用いた運動遊び：マットを用いた運動遊びを経験し、マット遊びの特性を理解する。						
11	跳び箱、平均台を用いた運動遊び：跳び箱と平均台を用いた運動遊びを経験し、跳び箱と平均台遊びの特性を理解する。						
12	縄跳びを用いた運動遊び：縄跳びを用いた運動遊びを経験し、縄跳び遊びの特性を理解する。						
13	身近な材料を用いた運動遊び：新聞紙等身近な材料を用いた遊びを経験し、素材の特性を生かした運動づくりを理解する。						
14	からだを用いた運動遊び：遊具や道具を用いず、自らの身体を用いたり、他者の身体を用いた運動遊びを経験し、からだを用いた運動遊びの特性を理解する。						
15	運動遊びにおける安全管理：様々な運動を、安全に楽しむための留意点と安全管理について理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	70	授業への取り組み姿勢			実技試験	30	①課題を理解しているか ②課題に対して一生懸命取り組んでいるか ③課題に対する個人の技能・完成度
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>子どもの運動に関する情報に興味を持つ ①ニュースや新聞で報じられている、子どもの運動に関する情報に接する（60分） ②子ども達の明るく元気な姿や活動を導くために何が必要か考えてみる（60分）</p>				レポートはコメントを付記して返却する。			
受講生に望むこと	子ども達が明るく元気に伸び伸びと遊ぶために、自分はいかにあるべきか、何をすべきなのかを考えながら受講していただきたい。			教科書・テキスト	授業中に適宜資料を配布する		
指定図書参考書等	授業を進める中で随時提示またはプリント配布する。			その他・特記事項	運動できる服装に着替え、体育館履きに履き替えて受講すること。		

授業科目名	ED210U 絵本論		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	山下 のぞみ						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
様々な絵本を取り上げ、その特徴を探る。また、その絵本を、いつ、どのような子どもたちに手渡せばよいかを考えたい。さらに、絵本論を読み解き、絵本を評価する視点を学ぶ。			①絵本を読んでもらう体験を通し、絵本とは読んでもらうものとの認識を得る。 ②絵本の絵を読むとはどういうことか体験する。 ③月齢や発達段階に応じてどのような絵本がふさわしいかを知る。 ④子どもの興味と絵本の関わりを知る。 ⑤現在の絵本の多様性を知る。				
教授方法	講義とグループディスカッション、さらにグループによる発表も行う。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	絵本とは：本としての絵本そのものだけでなく、保育者としての視点で、子どもの絵本体験を深めるための絵本とは？という面から、絵本を選んで解説する。						
2	ファーストブックとしての絵本：子どもとのやりとりの道具の一つとしての絵本のあり方について考える。						
3	翻訳絵本：「岩波の子どもの本」シリーズにみられるような、日本で物語絵本が作成される際に参考にされた、世界の古典的絵本について紹介する。						
4	昔話絵本①：エウゲーニー・M・ラチョフ、フェリクス・ホフマン、マーシャ・ブラウンの作品について解説する。						
5	昔話絵本②：赤羽末吉、田島征彦、佐藤忠良の作品について解説する。						
6	科学絵本：「かがくのとも」シリーズを検討する。						
7	詩・ことばあそびの絵本：谷川俊太郎、まどみちおの作品について解説する。						
8	イラストレーターによる絵本：レオ・レオニ、エリック・カール、イエラ・マリの作品について解説する。						
9	写真絵本：『ふゆめがっしょうだん』、『はるにれ』、『イエベはぼうしがだいすき』、『こいぬがうまれるよ』、『みず』を解説する。						
10	絵本論から学ぶ① モーリス・センダック：『かいじゅうたちのいるところ』の作者センダックによる絵本論を読み解く。						
11	絵本論から学ぶ② 松岡享子：『昔話絵本を考える』を参考に、昔話を絵本にすることについてグリム童話「七羽のカラス」を例に考察する。						
12	絵本論から学ぶ③ 松居直：絵本の編集者による絵本論を読み解く。						
13	絵本の絵を読むとは：林明子の作品をとりあげ、絵本の絵を読むとはどういうことか、子どもの視点で体験してみる。						
14	読み聞かせに向く絵本とは：遠目にも絵が見やすいか否かだけでなく、集団で読むことで楽しみの幅が広がる絵本体験について考察する。						
15	読者の広がり絵本の可能性：今、絵本は作者の表現法の一つとしてみなされ、読者を子どもだけに限定しないものも多数見受けられる。そのような絵本を取り上げ、考察する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	40	授業で取り上げた絵本の、適応年齢、どのような子どもたちによんであげたいかなどの視点を入れた絵本リストを作成して提出してもらいます。		グループ発表	40	グループごとに、昔話絵本を4～5冊選び、伝承されてきた昔話との違いや、絵の違いについて検討し発表してもらいます。	
授業参加態度	20	授業の中で読み聞かせをしてもらいます。授業への取り組み、他の学生の読み聞かせを聞く姿勢も評価します。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①グループごとの発表では、図書館で絵本を選び、レポートを作成してもらいます。（発表の準備）[1～2週間かけて取り組む] ②授業中に取り上げた絵本のリストを作成してもらいます。[授業終了までに絵本論などを読んで作成する]				①発表の際にコメントします。 ②絵本リストについては、次学期初めまでに、コメントを付けて返却します。			
受講生に望むこと	講義中に紹介した絵本を図書館で借りるなど、手に取ってじっくりと読んでみるようにして下さい。			教科書・テキスト	なし		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ED305U 社会心理学A		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	西村 洋一						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義は心理学、特に社会心理学領域を学ぶ体系に位置づけられる科目である。社会心理学は、人間の心理を理解する上において状況の影響に重点を置き、人間の社会的行動を理解しようとする学問である。社会心理学Aにおいては、対人関係や集団における心の働きに重点を置いて講義を行う。具体的には、自己、対人認知、集団（家族を含む）におけるダイナミックス、文化等が挙げられる。他者との関係という状況の中の個人に着目することにより、人間がいかに社会的な存在であるのかということを理解してもらいたい。</p>			<p>①社会心理学における自己の捉え方、その概念と機能を理解している。 ②他者を理解する仕組みとそこから生じる問題について理解している。 ③集団における個人の心理とダイナミックスについて理解している。 ④文化心理学の視点を理解している。 ⑤家族のあり方を心理学の視点から理解している。</p>				
教授方法	講義を中心に自分自身について振り返りを行う作業も取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	社会心理学とは何か：社会心理学の概要を解説する。						
2	自己①：社会心理学における自己、自己意識について解説する。						
3	自己②：自己概念と自尊感情について解説する。						
4	自己③：自己呈示と自己開示について解説する。						
5	社会的比較：その理論、および研究知見を紹介する。						
6	対人認知：他者を理解するプロセスについての知見を紹介する。						
7	ステレオタイプ：ステレオタイプとは何か、維持や変容のプロセスについて考える。						
8	原因帰属、社会的推論：原因帰属、社会的推論に関する理論を紹介する。						
9	態度と説得：態度形成、態度変容および説得について解説する。						
10	態度と行動：態度という概念および行動との関連について概説する。						
11	服従の心理：社会的影響の一例として服従の心理について解説する。						
12	集団における心理：集団への同調がどのように生じるのかについて解説を行う。						
13	集団間関係：集団間で生じる葛藤について理解する。						
14	文化と心：文化心理学の考え、知見を紹介する。						
15	家族の心理：家族という集団が個人に及ぼす影響について解説する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	80	講義内容の理解度		講義への参加度	20	講義中の積極的な発言や課題の提出状況から評価を行う。	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
<p>①各回の内容についてあらかじめプリント、参考書を読んでくる。授業後には授業の内容を振り返りを行う。〔45分〕 ②講義で学んだ内容を自分自身や他者との関わりに適用し、具体的に理解する。〔30分〕 ③講義内で行う心理尺度の結果について自分自身だけではなく周りの人たちと議論し、理解を深める。さらに関連の尺度やその概念について調べる。〔30分〕</p>				<p>講義内の小レポートは、次回の冒頭にコメントを付けてフィードバックを行う。</p>			
受講生に望むこと	社会心理学Aの対象となるのは自己や他者の理解、集団など比較的なじみやすいものであるが、諸概念を理解し、応用することは必ずしも易しいものではない。講義内容を積極的に自分自身や日常生活に適用していく姿勢が求められる。			教科書・テキスト	特に指定しない。適宜プリントの配布を行う。		
指定図書参考書等	なし／『社会心理学』 池田謙一他 有斐閣 2010年 ISBN 978-4-6410-5375-5 『よくわかる社会心理学』 山田一成他 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN 978-4-6230-4812-0			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ED310U 社会心理学B		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	西村 洋一						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
本講義は心理学、特に社会心理学領域を学ぶ体系に位置づけられる科目である。社会心理学Bにおいては、他者とのコミュニケーションを中心に集団でのパフォーマンスなどについて概説する。また、産業や組織における心理にも着目し、組織における人の行動や職場における問題と言った事項も取り上げる。			①コミュニケーションとはどのようなものであるか社会心理学の観点から理解している。 ②集団におけるパフォーマンスについて理解する。 ③職場において生じる心理的な諸問題について理解し、その対応を考えられるようになる。				
教授方法	講義を中心に自分自身について振り返りを行う作業も取り入れながら進める。						
履修条件	社会心理学Aの履修済が望ましい（単位未修得可）。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	コミュニケーションとは何かを考える。						
2	言語的コミュニケーション：言語的コミュニケーションについての研究知見を紹介する。						
3	非言語的コミュニケーション：非言語的コミュニケーションの分類やその影響について学ぶ。						
4	コミュニケーションと認知、対人行動との関係について解説する。						
5	職場でのコミュニケーション：組織におけるコミュニケーションのあり方、社会的スキルについて解説を行う。						
6	集団によるパフォーマンス：集団意思決定や問題解決の特徴について解説する。						
7	集団意思決定の実際：作業の中から集団意思決定の特徴を理解する。						
8	中間試験とこれまでの内容の振り返り						
9	職場のチームワークについての知見を紹介する。						
10	仕事とモチベーション①：モチベーションの理論を紹介する。						
11	仕事とモチベーション②：モチベーションの理論を紹介する（続き）。						
12	キャリア発達を理解：キャリア発達についての知見を紹介する。						
13	職場におけるストレス①：ストレスはどのように理解されるかを解説する。						
14	職場におけるストレス②：職場でのストレスの原因とそのサポートについて解説する。						
15	消費者行動・環境行動についての知見を紹介する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
中間試験	40	講義内容の理解度		期末レポート	40	問われていることに適確に答えているか、しっかりと構成されているかを中心に評価を行う。	
講義へ参加度	20	講義内での発言や課題の提出状況から評価を行う。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①各回の内容についてあらかじめプリント、参考書を読んでくる。授業後には授業の内容を振り返りを行う。[45分] ②自ら所属する様々な集団においてどのような影響を受けているか、授業や課外活動で議論を行った際に具体的に考えてみる。[30分] ③メディア利用については多くの議論が行われているので、それらを参照し、講義の内容とあわせ、理解を深める。[30分]				授業内の小レポートは、次回の冒頭にコメントを付けてフィードバックを行う。 中間試験は採点終了後返却し、解説する。			
受講生に望むこと	社会心理学Bの内容はコミュニケーションによる他者との関わりを基礎、および職場での心理など実際的な内容となっている。自分自身への関心だけでなく、広く社会への興味関心を持って講義に臨み、具体的な社会事象についての理解へと用いてほしい。			教科書・テキスト	特に指定しない。適宜プリントを配布する。		
指定図書参考書等	なし／『社会心理学』池田謙一他 有斐閣 2010年 ISBN 978-4-6410-5375-5 『よくわかる社会心理学』山田一成他 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN 978-4-6230-4812-0 『よくわかる産業・組織心理学』山口裕幸他 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN 978-4-6230-4871-7			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ED315U 認知心理学		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	西村 洋一						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。認知心理学とは、人間が周りの環境や社会をどのように認識し、そこから得られた情報をどのように利用しているかを科学的に明らかにしようという学問である。生涯学習を考える上で、人の心の仕組みとも言える記憶、思考といった概念がどのようなものであるかを理解することは大きな意味がある。</p>			<p>①認知心理学がどのようなものであるのか理解している。 ②感覚・知覚過程がどのような働きをし、どのような障害があるのか理解している。 ③記憶や思考について素朴な実感に基づく理解ではなく、認知心理学の観点からとらえなおすことができる。 ④批判的思考という概念を理解し、自ら実践できるようになる。 ⑤学習過程について認知理論の観点から考えることができる。</p>				
教授方法	講義を中心に、実際に体験できる課題も取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	認知心理学とは？：認知心理学という領域がどのように成立し、どのようなことを目指したものであるのか解説を行う。						
2	世界を捉える心の働き①：感覚についての心理学的理解について解説する。						
3	世界を捉える心の働き② 知覚とは何か、奥行き知覚、運動知覚について解説する。						
4	世界を捉える心の働き③ 錯視、顔の知覚について解説する。						
5	人間の情報処理過程における注意について解説する。						
6	知覚における障害 知覚のプロセスにおいてどのような障害が存在するのかについて解説を行う。						
7	記憶 1 記憶とは？：人の記憶の特徴について概略を述べ、次回以降の内容に道筋をつける。						
8	記憶 2 短期記憶・ワーキングメモリ：二重貯蔵モデルにおける短期記憶の特徴について述べ、さらにその概念を発展させたワーキングメモリの概要とその働きについて解説を行う。						
9	記憶 3 長期記憶と忘却：長期記憶の分類やモデル、および忘却という現象について説明を行う。						
10	記憶 4 目撃証言と偽りの記憶：記憶が私たちの実生活に影響を及ぼす具体的な事象として、目撃証言と偽りの記憶について紹介する。						
11	思考 1 推論：演繹推論、帰納推論とはどのようなものであるのかを説明し、人が演繹推論を行う時の特徴について理解する。						
12	思考 2 確率判断：人が行う確率判断はどのような特徴があるのか、そしてそれらが意思決定のプロセスにおいてどのような影響をもたらすのかについて解説を行う。						
13	思考 3 批判的思考：人の思考プロセスの特徴を踏まえた上で、より妥当な、合理的思考を行うための考え方はどのようなものであるかといった点について解説を行う。						
14	思考 4 問題解決：問題が与えられ、ゴールの状態に至るまで人がどのようなプロセスを経ているのかについて解説を行う。						
15	学習 認知理論から見た学習過程について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	50	講義内容をどれだけ理解できているか。試験形式等の詳細は授業内にて提示する。		レポート	30	課題に対し資料を参照しながら筋道立てて意見を述べられているか。	
講義への参加度	20	授業への取り組み姿勢や課題の提出状況をもとに評価を行う。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①各回の内容についてあらかじめプリント、参考書を読んでくる。授業後には授業の内容を振り返りを行う。 [30分] ②講義内で行うデモンストレーションを講義後に自分や身の周りの人に実施し、本を読んだだけでは理解しにくい部分を実感から理解を深める。 [30分] ③記憶や思考については教科書的なものだけでなく、読み物やテレビ番組などになっているものも多いので、それらも参照すること。 [30分]</p>				授業内の小レポートは、次回の冒頭にコメントを付けてフィードバックを行う。			
受講生に望むこと	認知心理学は私たちの心の仕組みを理解するための知見を提供している。普段あまり意識することのない過程であるともいえるが、心の成り立ちを理解する上で重要なものである。その意義を踏まえながら積極的に講義に参加することを望む。			教科書・テキスト	特に指定しない。適宜プリントを配布する。		
指定図書参考書等	なし／『認知心理学』箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋 有斐閣 2010年 ISBN 978-4-6410-5374-8 『認知心理学—知のアーキテクチャを探る—新版』道又爾・北崎充晃・大久保街亜・今井久登・山川恵子・黒沢学 有斐閣 2011年 ISBN 978-4-6411-2453-0			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ED320U 感情心理学		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	西村 洋一・齊藤 英俊（代表教員 西村 洋一）						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。感情とは日常から私たちの生活を彩るものであり、誰もが経験するものである。その一方で、それがどのようなものであるのかということはなかなかとらえ難いものである。心理学という科学の視点からそれがいかにとらえられるか。また、感情には疾患と診断される部分もあり、その機序と支援の方法を含め、「感情」について全体的に理解することを目指す。</p>			<p>①感情を心理学的にとらえるための理論を理解できる。 ②幸福感や対人不安などの個別の感情についてどのような研究があり、どのようなメカニズムで経験されるかを理解できる。 ③感情がどのように発達するのかを理解できる。 ④感情の病理について理解し、どのような支援を行うことができるかを考えられる。</p>				
教授方法	講義を中心にワークなどを取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	感情とはどのように捉えられるか 必要・不必要の関連を含め感情についての考えを紹介する。					西村	
2	感情と進化 進化という観点から感情がどのように理解されるかを解説する。					西村	
3	感情の理論① 心理学において提案された感情についての理論を概観する。					西村	
4	感情の理論② 心理学において提案された感情についての理論を概観する（続き）。					西村	
5	情動知能の視点 情動知能という概念及び研究の紹介を行う。					西村	
6	認知と感情の関わり 心の仕組みとして認知と感情は別個のものではないということを解説する。					西村	
7	幸福感とその関連要因について 幸福感という観点から様々な研究が行われており、それらを紹介する。					西村	
8	他者との関わりにおける感情の理解：対人不安・孤独感がどのように理解されているか解説する。					西村	
9	感情の生物学的基盤 感情が生じる神経生理学的な機序について紹介する。					齊藤	
10	感情の発達 感情について発達の観点から考える。					齊藤	
11	精神疾患に関連する感情① 不安：不安障害といった不安感情と精神疾患について理解を深め、支援の方法を考える。					齊藤	
12	精神疾患に関連する感情② 抑うつ：気分障害といった抑うつ感情と精神疾患について理解を深め、支援の方法を考える。					齊藤	
13	精神疾患に関連する感情③ 恐怖：PTSDなどでみられる恐怖感情と精神疾患について理解を深め、支援の方法を考える。					齊藤	
14	感情の病理への心理的アプローチ① 精神分析的な心理療法：精神分析の視点から感情の病理のメカニズムや心理的支援について考える。					齊藤	
15	感情の病理への心理的アプローチ② 認知行動療法、エモーション・フォーカスト・セラピーの視点から感情の病理のメカニズムやその理論について理解を深める。					齊藤	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	70	講義の理解がどの程度できているかで評価を行う。		講義への参加度	30	講義中への参加度と振り返りの内容から評価を行う。	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
①講義の際に配布される資料や紹介された文献を読んで、予習復習を行う。[45分] ②講義で学んだ内容を自分自身や他者の作品（小説、映画、漫画など）にあてはめて具体的に理解する。[30分]				各回での振り返り・リアクションシートの内容について、次回の冒頭にフィードバックを行う。			
受講生に望むこと	「授業の概要」でも述べたように、日常経験するものでありながら、科学的・理論的に理解しようとするところには困難が多いのが「感情」である。自分自身のみの視点だけでなく、広い視野でとらえられるように励んでもらいたい。			教科書・テキスト	特に指定しない。適宜資料を配布する。		
指定図書参考書等	なし／講義中に適宜紹介する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ED325U 心理療法		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	西尾 祐美子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>人の「こころの問題」へアプローチとして、心理療法がある。心理療法とはどのようなものか、基本的な概念や歴史、対象、具体的な方法について概説したうえで、ロールプレイにより体験的に学びを深める。各々の特徴を知ること、心理臨床現場でクライアントのニーズに沿ってより適切な技法をその都度用いることができるのが望ましい。また、臨床家に求められる心理学的援助の基本姿勢や資質、倫理について身につけることも目的とする。</p>			<p>到達目標は、主に2つある。 ①さまざまな心理療法について、具体的な方法（対象や基礎となる理論、進め方など）とその効果と限界を理解し、心理的援助の実際を説明できることである。 ②ロールプレイを通じて、心理療法を受ける側の視点にも立ちながら、臨床家に必要な姿勢やコミュニケーションスキルを習得する。</p>				
教授方法	講義の中で可能な限りロールプレイで体験的に学習する。必要に応じてディスカッションやビデオ視聴も行う。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：授業の進め方や成績評価基準などを説明した後、心理療法とは何か、その背景や歴史などを知る。						
2	心理臨床家の教育と訓練、倫理：心理療法を学ぶうえでの訓練課題や目標、スーパーヴィジョンに関して学び、心理臨床家に求められる倫理も身につける。						
3	心理療法のプロセス（1）：インテーク面接や面接初期の心理アセスメントから見立てまでの流れを概説する。						
4	心理療法のプロセス（2）：面接中期から終結までの流れ、および中断や治療構造（枠）などについて概説する。						
5	力動論に基づく心理療法（理論）：精神分析の代表的な臨床家の理論や技法について概説する。						
6	力動論に基づく心理療法（演習）：精神分析的アプローチを体験し、エビデンスや限界を説明する。 ★ペアになって、ロールプレイを実施する。						
7	行動論・認知論に基づく心理療法（理論）：認知行動療法の理論背景や技法について概説する。						
8	行動論・認知論に基づく心理療法（演習）：認知行動療法の立場で症状を行動や認知で捉える演習を行う。 ★仮想例のクライアントに対する認知行動療法的アプローチを考えるグループワークを実施する。						
9	クライアント中心療法（理論）：ロジャースによる理論や技法について概説する。						
10	クライアント中心療法（演習）：クライアント中心療法の立場でロールプレイを実施し、その効用や限界も知る。★ペアになって、カウンセリングのロールプレイを行う。						
11	芸術・表現療法（理論）：描画や箱庭、カラーージュなど芸術や表現を用いた心理療法について概説する。						
12	芸術・表現療法（演習）：カラーージュを作成し、互いにその作成過程や作品についてコメントし合う。 ★カラーージュ療法を行い、ペアあるいはグループで学びを深める。						
13	日本で生まれた心理療法：森田療法や内観療法について、理論的背景や技法を概説する。						
14	集団療法：エンカウンターグループ、サイコドラマ（心理劇）、グループ療法など集団で行う心理療法について、理論的背景や技法を概説する。						
15	全体のまとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	試験の範囲や出題形式、配点等については、後日お知らせする。		コミュニケーションシート	20	毎回の授業後に記入する、自己評価およびコメントや質問などを評価する。	
授業参加状況	20	授業への取り組み姿勢（ロールプレイやグループワーク等）を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>授業にただ参加するだけで、また教科書や参考文献を読むだけで心理療法の技術や心理学的援助の基本姿勢が身につくわけではない。 授業内で実施したロールプレイやさまざまな心理療法に関して自らがどのように感じたか、あるいはどのような場合に効用が発揮されるかを講義資料などを振り返って考えながら授業に臨んでほしい。[15分程度]</p>				<p>コミュニケーションシートを通じて挙げた意見や質問を取り上げ、授業時に全体に向けて回答する。 心理療法の体験実施に伴い、万が一、心身のバランスを崩してしまった（崩しそうな）場合は無理をせず、直接でも構いませんのでご相談ください。</p>			
受講生に望むこと	第5～12回は奇数回に理論を学んでから、偶数回に演習を行う形式で、実際の心理療法で用いる技法を学が実践的な授業となる。積極的な参加姿勢は当然のこと、授業内での質問や発言を求める。			教科書・テキスト	教科書は特に定めない。授業で配布するレジュメや資料は、紛失しないよう各自でファイリングしていくこと（再配布はしません）		
指定図書参考書等	なし／『心理療法ハンドブック』乾吉佑・氏原寛・亀口憲治他（編）創元社、2005年、ISBN-13:978-4422113265 『公認心理師現任者講習会テキスト（2018年版）』日本心理研修センター（監修）金剛出版、2018年、ISBN-13:978-4772415972			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ED330U 心理面接技法		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	松下 健・齊藤 英俊（代表教員 松下 健）						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
心理面接の流れ、構造、理論、技法について学習する。臨床心理学に関連する他の講義に関連する内容であり、関連講義の学習内容を基に、さらに理解を深め、技術を修得する。			①心理面接の流れ、構造、理論、技法を説明できること。 ②心理面接に必要な技術を獲得すること。				
教授方法	演習、講義。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション：心理職における心理面接の役割					松下・齊藤	
2	心理面接の特徴（治療構造など他の面接との共通点や相違点）					松下・齊藤	
3	心理面接の開始（初回面接、受理面接）					松下・齊藤	
4	心理面接の終了（終結、中断など）					松下・齊藤	
5	基本的な傾聴スキル					松下・齊藤	
6	心理面接の基礎（マイクロカウンセリング）					松下・齊藤	
7	精神分析的な心理療法における心理面接					松下・齊藤	
8	精神分析的な心理療法の心理面接のプロセス					松下・齊藤	
9	クライアント中心療法の心理面接					松下・齊藤	
10	フォーカシング指向心理療法の心理面接					松下・齊藤	
11	行動療法の心理面接					松下・齊藤	
12	認知行動療法における心理面接					松下・齊藤	
13	認知行動療法の心理面接のプロセス					松下・齊藤	
14	その他の心理療法（家族療法、ブリーフセラピーなど）の心理面接					松下・齊藤	
15	まとめ：心理面接の効果と課題					松下・齊藤	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小レポート	30	講義において小レポートを課す。講義内容を踏まえ、自己の意見を論理的に記述すること。		講義参加態度	30	グループワークやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。	
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
与えられたテーマについて予習すること。[60分] 各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[60分] 学んだ技法を習得するよう短練習すること。[60分]				小レポートは返却時にフィードバックする。期末レポートについては、次学期始めに適宜フィードバックする。			
受講生に望むこと	公認心理師資格に関連する他の講義を履修していること。 学習に自発的、積極的に取り組むこと。 他の受講者と協調すること。			教科書・テキスト	講義開始時に公認心理師資格に対応したテキストが出版されている場合は、テキストを指定する可能性がある		
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	1回程度、他学科の教員などゲストスピーカーをお招きする可能性がある。 受講生の理解度に応じて進度を変更する可能性がある。		

授業科目名	ED335U 発達臨床心理学		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	西尾 祐美子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
胎児期から老年期までの段階における発達の様相について、身体・運動・認知・言語・人格・社会性などあらゆる側面から解説を行う。各時期で顕著となる発達課題や心理的問題の意味を読み解き、心理臨床的支援の視点を学ぶ。また、「臨床」においては、個人を見るのが求められる。発達臨床の実際として、発達の遅れや偏り、様々な障害や精神疾患などによる問題の理解や支援についても、事例を通して学ぶことを目的とする。			到達目標は、主に2つある。 1つ目は、各時期の発達の様相および生じやすい心理的問題を理解することである。 2つ目は、発達に伴って生じる課題や心理的問題だけでなく、障害や精神疾患などに対しても、どのようにアプローチすべきか、様々な理論を踏まえながら支援方法を学ぶことである。				
教授方法	講義形式、必要に応じてグループディスカッションやビデオ視聴を行う						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：授業の進め方や成績評価基準などを説明した後、臨床発達心理学という学問の意義や生涯発達、ライフサイクルについて知る。						
2	胎児期～乳児期の発達と臨床的問題：出生前診断や周産期の問題、養育者との愛着形成などを学ぶ。 ★出生前診断をテーマにグループディスカッションを行う。						
3	幼児期の発達と臨床的問題（1）：ピアジェの認知発達理論や心の理論の発達、言語や情緒、あそびの発達などを学び、一般的な幼児期における発達の特徴を知る。						
4	幼児期の発達と臨床的問題（2）：発達の遅れ（発達アセスメントの観点）や虐待（発達の側面への影響も含む）などについて学ぶ。						
5	児童期の発達と臨床的問題：仲間関係や道徳性の発達、学習のつまづきやいじめなど就学以降に現れる臨床的問題について学ぶ。						
6	思春期の発達と臨床的問題（1）：第二次反抗期、二次性徴、関係性の変化（親子関係・友人関係）などの観点から思春期における不適応のリスクを学ぶ。						
7	思春期の発達と臨床的問題（2）：不登校や非行、思春期に好発する様々な精神疾患（統合失調症、摂食障害、強迫性障害など）について学ぶ。						
8	青年期の発達と臨床的問題：アイデンティティの確立・拡散、引きこもりなどを学ぶ。 ★自己分析を行い、自らの特性について知る。						
9	成人期の発達と臨床的問題：就業や結婚、妊娠・出産、子育てなどに伴う臨床的問題について学ぶ。 ★ビデオ教材を用いて、産後うつについて考える。						
10	中年期・老年期の発達と臨床的問題：転換期や中年期危機、喪失体験や死に対する受容など中年期・老年期に特有の臨床的問題を学ぶ。						
11	さまざまな心理アセスメント法：アセスメントの意義や方法（心理検査、インタビュー面接、行動観察）、進め方などを知る。						
12	さまざまな心理学的アプローチ（1）：力動論、行動論、認知論など色々な理論に基づく心理療法を学ぶ。 ★ペアになって、相談場面のロールプレイを行う。						
13	さまざまな心理学的アプローチ（2）：発達障害に対する支援方法（TEACCH, ABAなど）や障害児をもつ親への支援について学ぶ。						
14	ケースワーク：事例検討を行うポイントや流れについて知る。 ★グループに分かれて、仮想例に関してアセスメントから見立て、アプローチの検討までを行う。						
15	全体のまとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	50	試験の範囲や出題形式、配点等については、後日お知らせする。		予習・復習プログラム	20	オンラインでの授業外学習への取り組みを評価する。	
授業参加状況	15	授業への取り組み姿勢（グループワーク等）を評価する。		コミュニケーションシート	15	毎回の授業後に記入する、自己評価およびコメントや質問などを評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
各回で扱う発達理論や心理学的問題についてこれまでに学んできた基礎知識を復習しつつ、オンラインで翌授業までに、子どもや保護者などへの心理学的問題や支援に関する問いに回答してもらおう。その他、文献や配布資料を用いて予習、復習を自発的に行うこと。〔20分程度〕				予習・復習プログラムで特に正答率の低かった問題について、翌授業時に解説を行う。 コミュニケーションシートを通じて挙がった意見や質問を取り上げ、授業時に全体に向けて回答する。			
受講生に望むこと	本授業では、理論的知識だけでなく臨床的視点を身につけることを目的としている。様々な心理学的問題について、自分ならどのようにアプローチするか常に考え、授業内でも積極的な発言や参加姿勢を求める。			教科書・テキスト	教科書は特に定めない。授業で配布するレジュメや資料は、紛失しないよう各自でファイリングしていくこと（再配布はしません）。		
指定図書参考書等	なし／『よくわかる臨床発達心理学(第4版)』麻生武・浜田寿美男(編) ミネルヴァ書房, 2012年, ISBN-13:978-4623063260『精神医療・臨床心理の知識と技法』下山晴彦・中嶋義文(編)医学書院, 2016年, ISBN-13:978-4260027991			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ET300U 幼稚園教育実習指導Ⅱ		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	大井 佳子・向出 圭吾・谷 昌代（代表教員 大井 佳子）						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	幼稚園教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
幼稚園教育実習Ⅱにかかわる事前・事後の実習指導で、幼稚園教育実習Ⅰを履修後、ガイダンスとプレ実習に参加して本科目を履修する。プレ実習では実習園の保育の流れを確認するとともに、自らが用意した遊びのプランと自ら製作した教材で園児と関わることを通じて実習園の環境と遊びの特徴、さらに園児の状況を理解する。その理解を前提に、本科目では、保育内容の各科目等での学びを総合的に活用して15日間の指導計画を作成する。実習園との協議を含めて指導計画を練り、教材をつくりなおす準備の取り組みを通して、園における自身の動きを具体的にイメージする。実習開始前に、実習園より提示された課題を含め、予定される全ての活動について、環境図・時系列表記・教材研究（写真を含む）などなる指導計画に書くことによって実践内容を視覚化し、立案した全指導計画を俯瞰し、それぞれの活動についてねらい（予想される幼児の学びの内容）を明確にして実習に臨む。実習後は自己評価と実習報告会を通じて自らの現場での姿を振り返り、保育者としての自己課題を明らかにする。			<p>事前指導</p> ①実習園の保育の流れと園児の状況をふまえて対象年齢児の発達にふさわしい遊び（活動）を考えることができる。 ②実習開始以前の実習園との事前協議において自らのプランについて伝え、協議することができる。 ③プランを練り直し充実させることができる。 ④「連続した指導計画」の意味を理解し15日間の指導計画に展開することができる。 ⑤幼稚園教育要領の示す保育内容を理解し、指導計画にねらいを設定することができる。 ⑥教材研究によって、幼児の心が動く教材を工夫、製作することができる。				
<p>事後指導</p> ⑦自らの実践を自己評価し、保育者としての自己課題を明確にすることができる。 ⑧自らのプランや計画、実践を他者にわかりやすく伝えるために工夫することができる。							
教授方法	グループワーク・グループ協議・発表・実演						
履修条件	幼稚園教育実習Ⅰを単位修得済みで、ガイダンス・プレ実習に参加していること。						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	プレ実習記録を用いてグループ協議し、プレ実習を振り返る。					全員	
2	グループワーク：「教材研究した」と言える自分らしい素材を選定し、複数の遊びで活用する指導計画立案に向けて、教材研究と必要量確保の見直しを立てる。					全員	
3	グループワーク：実習園の園環境と子ども集団をイメージして、マイ人形の実践からさらに工夫した視聴覚教材を整える。その教材を用いた遊びのプランを5領域で考える。					全員	
4	各自が核と考える遊びから展開する活動、遊びを中心に15日間の指導計画のマップを作成する。視聴覚教材の使い方、こだわり素材の活用、実習園から指定された活動を組み込む。					全員	
5	個々の指導計画の活動のねらいを明確にし、そのねらいは園のクラスの目標と個人の目標と齟齬をきたさないかを検討する。					全員	
6	実習園との協議を経て、実践できる遊びを確定し、15日間の連続した指導計画の充実を図る。					全員	
7	それぞれの指導計画について、ねらいと照らし合わせて指導計画の内容、展開を見直し、充実を図る。					全員	
8	用意した指導計画全体を俯瞰し、内容の偏りがあれば、補充する計画を立案する。15日間の実践時期の予定表を作成し、実習に必要なことがらをチェックし、足りないことを補う計画を立てる。					全員	
9	直前指導で、事後レポート課題と実習評価について理解し、本実習の自己目標と自己課題を再構成する。					全員	
10	実習期間の土曜日：自らの実習記録からの読み取りを通じて、次週の実習計画を見直し、必要な準備を確認する。					全員	
11	実習期間の土曜日：指導計画を実践しての報告をグループでし、巡回教員からの報告を受けて自らの指導計画の精緻化を図る。必要な次週の準備を確認する。					全員	
12	グループで行う実習報告会に向けて、実習記録と事後レポートに基づく実習の振り返りを行う。					全員	
13	実習報告会準備を通じて、実践を通じての気づきをグループメンバーで共有し、自らの振り返りを深める。					全員	
14	実習報告会（教材展示・実習ファイルの閲覧を含む）：次年度の実習履修者に伝えることの討議を通して、本実習のみならず、これまでの保育者に向かう自らの学びを振り返る。					全員	
15	履修カルテを用いて、保育実習や小学校実習など、今後それぞれが向かうものに対する自己課題を明確にし、さらに、卒業までの自らの学びを計画する。					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
指導計画	30	15日間の実習にふさわしい量と内容の計画か。ねらいをもって、連続した展開で立案されているか。		教材準備	30	遊びの展開と応答性をイメージした教材か。工夫していいいに作られているか。材料や道具を考慮しているか。	
参加姿勢	30	グループ協議など授業時間外を含むグループワークに積極的に参加し集団での学びに貢献したか。		事後課題	10	報告会準備と事後提出物に、実習後の振り返りで得た自己課題が反映されているか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
遊び（活動）のプランの作成・指導計画の立案とつくりなおし・教材研究をふまえた教材製作とそのつくりなおし・実習園訪問と実習協議・報告会準備【すべて長時間を要する。グループでの取り組みも多く、実習園の都合に合わせる必要もあるため、高度な時間管理と段取りが求められる。】				適宜授業内でコメントする。必要に応じて個別に面談の時間を設ける。			
受講生に望むこと	①保育できるスタイルで、保育者が身近に常備すべきものを持って参加する。 ②保育における「つくりなおし」の意味を理解し、厭わない。 ③保育と実習園に対して常に興味をもち、園には可能な限りボランティアとして出向き実習協議につなげる。			教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館 2018年 ISBN：9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館 2018年 ISBN：9784577814499		
指定図書参考書等	なし／『遊びづくりの達人になろう！子どもが夢中になってグリーンと成長できる*歳児の遊び55』（5歳児・4歳児・3歳児版）竹井史編著 明治図書出版 2011年 ISBN:978-4-18-964612-9 978-4-18-964518-4 978-4-18-964414-9			その他・特記事項	①無断欠席や提出物の期限が守られないことなど参加姿勢に社会人としての問題を認めた場合には、幼稚園教育実習Ⅱを取り下げることがある。②指導計画や教材準備など、実習準備の不足によって、実習を取り下げることがある。③実習Ⅱの取り下げ・中断の場合には、本科目の単位は出ないので注意すること。		

授業科目名	ET305U 幼稚園教育実習Ⅱ		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	大井 佳子・向出 圭吾・谷 昌代 (代表教員 大井 佳子)						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	3単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	幼稚園教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
幼稚園教員免許取得のために教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則において定められている教育実習で、本学ではⅠとⅡに分けて行い、幼稚園教育実習Ⅰ(5日間)と幼稚園教育実習Ⅱ(15日間・90時間)は原則として北陸3県の同一幼稚園で行う。実習Ⅰやプレ実習等で得た実習園の保育に対する理解の上に、連続した遊びのプランと指導計画を作成し、実践に用いる自分らしい教材を用意する。事前訪問を含む担当幼稚園教諭との実習協議を通じて遊びのプランと指導計画の見直しとつくりなおしを行い、必要な素材等の準備とあわせて、園児と応答的に関わる自身の姿のイメージを持って毎日の実践に臨む。さらに、実践における幼児の姿に応じてその場で指導計画、教材を工夫する臨機応変な対応に習熟し、実践後の振り返りによって次の実践の計画を充実させることに習熟する。実践を通じて必要な保育技能を向上させるとともに、実践を通じて幼稚園教育への関心を深め、現場における保育者としての研究課題を見出す。			①実習園の保育について理解を深めて実習を準備する。 ②実習前に用意した指導計画・教材を、実習中に観察、実践、協議によってつくりなおす。 ③実習園の教師の一員として、教職員の動きから状況を読み取り、自身で判断し、適宜、教職員に確認、報告して行動する。 ④個々の幼児に対し、自分なりの理解に基づいて意図的に関わる。 ⑤個々の幼児と関わりつつ常に他児の様子にも注意を向け必要に応じて対応できる。 ⑥設定保育では、教材の提示や言葉かけによって集団に向けて働きかけ、同時に個々の幼児の様子をとらえ視線や行動によって働きかけることができる。 ⑦保護者や地域との連携等、園で展開されている多様な取り組みに関心を持つ。				
教授方法	実習を通じて、実習園の保育と教師から学ぶ。また本学教員による巡回からの指導や、実習期間に設ける実習指導での討議を受けての自己省察を通じて学ぶ。						
履修条件	幼稚園教育実習指導Ⅱを履修し、本学の定める実習履修条件を満たしていること。						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
	実習園に応じた自分らしい遊びのプランに基づいて指導計画と教材を準備し、計画的な実習をする。						
	幼児の姿に応じて、指導計画を立案しなおし、教材をつくりかえる。また、新たに立案、製作する。						
	今までに学んできた知識と技能を総合して幼児と関わり、記録し、次の指導計画と実践に反映させる。						
	実習園の教師の姿に学び、自らの保育技能の向上を図る。						
	ていねいに実習記録を書き、担当者と実直に実習協議することを通して、幼児一人一人と子ども集団に対する理解を深める。						
	環境図など異なる書式での記録によって、集団に働きかけながら個々の幼児を見ること、個々の子どもと関わりながら集団全体に目を配ることに習熟する。						
	幼稚園現場での生活を通じて、社会人としての自分、保育者としての自分について洞察する。						
	子どもに直接には関係しないように見える教師の仕事や保護者の活動等、現場にいるからこそ触れられる学びの機会を見逃さず、貪欲に学ぶ。						
	実習園の行事や取組み、園に出入りする人たちに関心を寄せ、実習園を通じて幼稚園の今日的役割について理解⑨を深める。						
	自己評価を通じて、保育者としての自身の課題を明確にする。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
実習園による評価	70	科目として用意する評価項目について実習園が評定したものを科目としての基準で数値化。		実習ファイル	30	①日々の記録に自らの実践につながる気づきがあるか。 ②事後レポートが具体的なエピソードからの考察となっているか。 ③内容に欠落がなく適切に綴られているか。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①ていねいな記録と実習園より返却後の補完 ②15日間全体を見渡し連続性のある実践のために随時実習計画を見直すこと ③指導計画の補完と教材のつくりなおし (実習時間外の時間の確保と計画的な活用が必要)				幼稚園教育実習指導Ⅱの事後指導を通じて行う。必要に応じて個別面談を行う。			
受講生に望むこと	①体調管理に責任をもつ。②必要な連絡と報告を実習園、担当教諭、大学の実習担当者、場合によっては大学事務所に対して、速やかに、かつ適切に行うこと。③実習で知れた情報の取り扱いに注意すること。④記録と指導計画の参考のために『幼稚園教育要領解説』を常に携帯すること。⑤実習時間外の課題は、翌日の実習に支障がないよう時間管理を工夫すること。			教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814499		
指定図書参考書等	なし/『遊びづくりの達人になろう!子どもが夢中になってグーンと成長できる * 歳児の遊び55』3歳児版・4歳児版・5歳児版 竹井史編著 明治図書出版 2011年 ISBN:978-4-18-964414-9 978-4-18-964518-4 978-4-18-964612-9			その他・特記事項	・3日間以内の欠席については実習園と相談して振替日を設ける。・幼稚園教師として認められない振替があった場合、また実習園からの指導に対して改善の努力が認められない場合には日程途中で実習中止とすることがある。その事実が実習終了後に判明した場合、実習園による評価にその事実が記載されていない場合、本人との協議の上、実習の単位は不認定となる可能性がある。		

授業科目名	ET310U 小学校教育実習指導Ⅱ		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	福江 厚啓・幸 聖二郎・姫野 俊幸・村井 万寿夫（代表教員 福江 厚啓）						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、小学校教諭一種免許状取得にあたって必須の科目である。教育実習を履修するにあたり、必要な知識・技術のみならず、教師としてあるべき態度についても実践的に学ぶ。</p>			<p>①実習の意義を理解し準備や見通しをもち実習校との円滑な関係づくりの知識・理解を深める。 ②小学校について理解を深める。 ③実習中における子どもや先生、学級とのかかわり方や配慮すべきことを理解する。 ④観察実習・参加実習・授業実習について理解し、学習指導案を立案できる。 ⑤実習計画や実習日誌の書き方を習得する。 ⑥実習での学びの整理と反省・自己評価ができる。 ⑦実習報告会を計画・運営・実施できる。</p>				
教授方法	講義、グループ討議、フィールドワーク						
履修条件	各教科の教育法の履修が望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	教育実習とは何か。その意義と教育実習生に求められる姿勢・態度について理解する。					福江・幸、全員	
2	実習までの流れをもとに文部科学省と教育委員会と学校の役割とその関係について理解する					村井、全員	
3	低、中、高学年 それぞれの発達段階の違いについて理解する。					姫野、全員	
4	幼・保・小の連携の必要性について理解する					福江、全員	
5	小学校における外国語活動と英語教育のあり方について理解を深める					幸、全員	
6	小学校における特別支援教育について理解する。					福江、全員	
7	小学校現場の一日の流れを理解する					村井、全員	
8	実習中、教師として子どもや教職員、保護者の方々とのように接したらよいか、また、留意すべきことについて理解する。					村井、全員	
9	学級の児童とのかかわり方で配慮すべきことを理解する					姫野、全員	
10	実習日誌の書き方、授業記録の取り方を事例を通して理解する					福江、全員	
11	観察実習・参加実習・授業実習の目的を理解し、観点や方法について十分な計画を立てることができる。(1)					幸、全員	
12	観察実習・参加実習・授業実習の目的を理解し、観点や方法について十分な計画を立てることができる。(2)					幸、全員	
13	実習校への連絡の取り方や事前オリエンテーションの内容について理解する					姫野、全員	
14	実習での学びの整理と反省・自己評価が適切にでき共有できる。(グループ討議) 手紙のマナーをもとに礼状を書くことができる。					全員	
15	実習報告会を主体的に計画し実習での学びを伝え合うことができる。履修カルテを記入に自己課題を明確にする					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業態度	50	教育実習に臨む者として相応しい態度で、真剣に学習に取り組んでいたか。		レポート	50	毎授業ごとの内容を正確に把握し理解していたか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
<ul style="list-style-type: none"> 各学校での公開授業に参加する。 実習校で学校支援ボランティアに継続的に参加する。 日程の変更や事前打ち合わせの日程は後日連絡する。 				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック 各授業で出されたレポート等への応答は次の授業で行う。また、適宜質問は受け付ける。			
受講生に望むこと	実習校での躓きをなくすため、積極的にプレ実習に参加すること。			教科書・テキスト	『教育実習完璧ガイド』宮崎猛・小泉博明、小学館、2015年、978-4-09-105015-1		
指定図書参考書等	講義内で適宜紹介する。			その他・特記事項	実施回については、調整の上変更することがある。第14回・15回は教育実習終了後、日程調整の上行う。		

授業科目名	ET315U 小学校教育実習Ⅱ		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	福江 厚啓・幸 聖二郎・姫野 俊幸・村井 万寿夫（代表教員 福江 厚啓）						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	4単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本実習は、金沢市内または金沢市近郊の公立小学校及び北陸学院小学校において実施するものとする。 学校現場におけるあらゆる教育活動を経験し、教師としての自覚と責任、その喜びを実感し、経験を通して実践的理解を深めることとする。</p>			<p>①子どもや他の教師との積極的なコミュニケーションをとることができる。 ②各教科の教材研究や研究授業を通して教師としての基本的な技能とその心構えを身につける。 ③日々の記録を適切に記録することができる。 ④教師としての仕事の魅力や職責に気付く。</p>				
教授方法	実習 参観 研究授業 教材研究 個別指導						
履修条件	小学校教育実習指導Ⅱを履修していること						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
	配属校の学校長より学校の概要の説明を受け、教育実習期間中の指導計画等を理解する。						
	各学級に入り、授業を参観して学級の実態を知ると同時に、子どもたちや指導教諭との意思疎通を図る。						
	授業を参観し、子どもの実態を知るとともに、休み時間を共有して子どもとの信頼関係を築く。						
	授業を参観し、指導教諭の授業の進め方を学ぶ。また、各教科の学習状況を把握する。						
	授業実習の準備をする。12～15回程度の授業実習を行い、指導教諭の指導を受ける。						
	研究授業の学習指導計画案を作成し、指導教諭の指導を受ける。（本時における目標を明確に、板書計画も準備する）						
	研究授業を実施する。						
	研究授業反省会を通して、担当教諭、管理職その他の教員等から指導を受ける。						
	学校行事の補助を通して学校全体の動きを理解し、それを踏まえて動くことの大切さを知る。						
	学級会活動の計画を立て、子どもの主体的な活動を生み出す工夫をする。						
	クラブ活動や委員会活動を参観し、その運営の方法を知る。						
	他学年（特別支援学級等）の授業も参観し、それぞれの学年、学級に応じた指導のあることを知る。						
	教育実習日誌を整理し、授業の記録、指導された内容を基に自分の課題に気付く。						
	学級運営、生徒指導についてなど実習期間中の疑問点を整理し、指導教諭から指導を受ける。						
	実習期間を振り返り、配属学級への感謝の気持ちを学級お別れ会等で表す準備をする。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
コミュニケーション能力	30	子どもたちや教職員と適切なコミュニケーションがとれていたか。	研究授業	40	教科・領域の本質に基づいた教材研究が充分になされ子どもの把握と指導が適切であったか。		
教育実習日誌	30	日々の記録と考察、次時への留意点等が適切に記述されていたか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
各実習校指導教諭等の指導・指示に従う。			実習での反省や改善のための指導は、実習指導Ⅱにおける事後指導において行う。実習中担当教員の巡回により、適宜指導する。				
受講生に望むこと	小学校教育実習は、実習生だけでなく、配属校においても決して小さな物事ではない。小学校教師を目指す熱意を十分に高め、例えば実習生であっても、子どもにとっては一人の教師であること、現場教職員にとっては北陸学院大学の代表として受け止められることを自覚し、実習に臨むようにしてほしい。		教科書・テキスト	なし			
指定図書参考書等	小学校学習指導要領 文部科学省 ISBN 978-4-487-28695-9 （※上記は現行のもの。出版済みであれば新指導要領版を使用する）		その他・特記事項	なし			

授業科目名	ET230U 保育実習指導Ⅰ（保育所）		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	熊田 凡子・高村 真希（代表教員 熊田 凡子）						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本授業では、保育士資格を得るために必要な保育実習Ⅰ（保育所実習 2単位）を行うための事前指導と事後指導からなっている。事前指導では、保育実習の意義と目的、保育現場に対する理解を深める。具体的には、保育士に求められる倫理綱領をはじめ、実習に臨む基本的姿勢、年齢・発達段階に応じた子ども理解、実習日誌の記入方法や指導計画の書き方、保育に必要な知識・技能の確認等、実習に向けた準備を行う。事後指導では、実習で体験したことの意味付けと自己評価を行い、これまでの保育観を省察する。それに基づいて自己課題を明確にし、次のステップである保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲに臨む。</p>			<p>①保育実習の意義と目的を理解している。 ②実習の内容を理解し、自らの課題を明確にすることができる。 ③実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解している。 ④実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解している。 ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができる。</p>				
教授方法	講義・演習、ディスカッション、発表						
履修条件	幼児保育コース所属の学生以外は履修できない。「保育実習Ⅰ（保育所）」を履修中、「保育実習Ⅰ（施設）」を履修済の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：受講マナー、保育実習の意義（1）保育所実習の意義と目的、保育実習の概要、保育士の責務について理解する。個人票を作成する。プレ実習（富樫子ども広場・実習先保育所）とプレ実習記録作成について理解する。					熊田・高村	
2	保育実習の意義（2）授業概要の説明を行い、保育士の仕事を振り返り、保育士科目における施設実習指導の果たす役割について理解する。個人票を作成する。					熊田・高村	
3	保育所実習：実習の内容（1）年齢別の発達と、保育所 一日の流れを理解する。幼稚園と保育所の違いを理解する。					熊田・高村	
4	保育所実習：実習の内容（2）年齢別保育と異年齢保育、統合保育を理解する。実習先保育所のレポートを作成する。					熊田・高村	
5	保育所実習：事前訪問（1）実習先保育所の保育方針、概要を理解する。実習日程・内容・プレ実習の日程を把握する。					熊田・高村	
6	保育所実習：事前訪問（2）実習先保育所での実習内容を確認し、オリエンテーション記録を書いて提出する。					熊田・高村	
7	保育所実習：プレ実習（1）実習先保育所の環境・保育の流れを把握する。担当年齢に即した手遊び・絵本・視聴覚教材を準備する。					熊田・高村	
8	保育所実習：プレ実習（2）実習先保育所の担当クラスと子どもたちの様子を把握する。発達・年齢に対応したかかわり方を考える。					熊田・高村	
9	保育所実習：保育園園長先生の講話「保育所の機能・保育士に必要な資質・実習生に望むこと」を聴き、準備に活用する。（日程・テーマは、変更することがある。）					熊田・高村	
10	保育所実習：DVD視聴・保育所保育指針について、保育所における子どもの人権と最善の利益について考える。また、プライバシーの保護と守秘義務、実習生としての心構えを学ぶ。具体的に学び合う。実習生の心構えを確認する。					熊田・高村	
11	保育所実習：実習における記録（1）実習日誌の使い分け、記入上の注意、観察・記録・評価についての確認。実際に記録を作成し、個と集団の観点から幼稚園実習との違い・共通点を考える。					熊田・高村	
12	保育所実習：実習における記録（2）エピソード記録・記述の特徴と違いについて、確認する。DVDの具体的場面から実際に2種類の記録を作成してみる。					熊田・高村	
13	保育所実習：指導計画の立案と記録、考察について基本的に理解をする。実習先の保育形態・年齢に合わせた指導計画を作成する。また、個人的な関わりを中心とした部分実習の指導計画を作成し、実演・実践してみる。グループ内で検討したのち、修正を行う。					熊田・高村	
14	保育所実習直前指導：実習中の諸注意確認。指導計画の修正・再確認後、グループ内で実演する。					熊田・高村	
15	保育所実習終了アンケート記入。自分が実習を通して学んだことを振り返る。グループで学んだことや疑問に思ったことを話し合い、多様な保育や子どもの姿を理解する。（自己評価・教職カルテ記入。）					熊田・高村	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	50	①実習の目的を明確に理解している。②主体的に討議に参加している。③保育士の職務や保育を理解しようとしている。④実習報告会に積極的に参加している。		課題提出	50	①課題を期日までに提出する。②課題内容を理解し、工夫して取り組んでいる。③実習日誌の書き方を理解している。④指導計画を作成することができる。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>①プレ実習に積極的に参加し、様々な子どもの姿を事前に見て理解する。具体的な参加方法は授業で説明する。（実習先保育所、子ども広場）[240分×8] ②事前訪問やホームページを活用して、実習先についての概要をまとめ、レポートを提出する。[120分] ③実習日誌のモデル案にしたがって日誌を書いてみる作業を通し、実習日誌の作成に慣れておく。[60分] ④実習で求められる教材を実演できるように、作成・練習しておく（手遊び、絵本、視聴覚教材、季節に合った歌やゲーム・活動、製作など）[90分] ⑤実習園に限定せず、子育て支援・障がい者支援などのボランティアに参加する。[240分]</p>			個別指導及び授業内での振り返りを行う。				
受講生に望むこと	①「幼稚園教育実習Ⅱ」「幼稚園教育実習指導Ⅱ」も同時に履修することが望ましい。②保育士が子どもの成長、安全にかかわる仕事であることを十分に認識して授業に臨むこと。③事前にテキストを熟読し、演習課題に取り組むことが望ましい。④「社会的養護内容」「乳児保育」「子どもの食と栄養」の授業と関連付けて理解するように努めること。		教科書・テキスト	『保育所保育指針』厚生労働省（2018年予定）その他、必要に応じてプリントを配布する。『保育士のための福祉施設実習ハンドブック』小野 澤昇・田中利則編著 ミネルヴァ書房 2011 ISBN 978-4-623-06003-0			
指定図書参考書等	なし／『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』小樫智子他 わかば社 ISBN 978-4-907270-01-8		その他・特記事項	①委託費など実習費用約50,000円（保育実習Ⅰ・ⅡまたはⅢ）が必要となる。詳細は、1回目の授業で説明する。②無断欠席・遅刻・早退が多い・課題が提出されない場合は、実習を認めない。			

授業科目名	ET235U 保育実習Ⅰ（保育所）			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	熊田 凡子・高村 真希（代表教員 熊田 凡子）						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
保育実習指導Ⅰで受けた事前指導に従って、配属先の保育所で90時間の実習（約11日間）を行う。大学が依頼した実習先に、通勤の事情を考慮して原則として1名の実習生を配属する。実習Ⅰでは、主に3歳未満児のクラスで行い、観察実習から入り、参加、部分実習までを行う。実習は授業で学んだ知識を実践する場であり、毎日の実習内容と気づきを指定の書式で記録し、指導保育士の助言を受ける。				①保育所の役割や機能を具体的に理解している。 ②観察や子どものかかわりを通して、子どもへの理解を深める。 ③大学の授業で習った内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学び、考察することができる。 ④保育の計画、観察、記録及び自己評価について、具体的に理解している。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学び、説明できる。			
教授方法	実習（90時間）						
履修条件	2年次に行われた保育士ガイダンスに出席していること。幼稚園教育実習指導Ⅰ及び幼稚園教育実習Ⅰの単位を修得済（中）の者。また、保育実習指導Ⅰを履修中の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
	90時間（約11日間）の実習において、観察、参加、部分実習の段階を踏んで、次の1～5の内容を行う。						
	1. 保育所の役割や機能を学ぶ。						
	2. 子どもを理解する。（子どもの観察とその記録による理解、子どもの発達過程の理解、子どもへの援助やかかわり）						
	3. 保育内容や保育環境を理解する。（子どもの発達過程に応じた保育内容、子どもの生活や遊びと保育環境、子どもの健康と安全）						
	4. 保育の計画や観察、記録を具体的に学ぶ。						
	5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理について考察する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
実習先の評価	60	評価表の項目（実習の態度、実習の内容、実習の記録）による。			提出物（実習日誌、指導計画、レポート）	40	①具体的なねらいをもって実習を行い、子どもや保育士の動きや心情を読み取り、適切に記録している。②担当年齢に適した指導計画を作成し、実践している。③実習の学びを振り返り、自己課題をレポートにまとめている
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①『保育所保育指針』を十分に読み込む。[240分] ②乳幼児の保育に必要な表現技術を磨く。[120分] ③子どもの年齢や発達に応じた歌や手遊び、製作などを事前に準備しておく。[120分] ④実習日誌や指導計画を期日に遅れずに作成する。[240分] ⑤指定された項目に従って、事後レポートを作成する。[120分]				実習記録・レポート・指導計画の紹介及び助言指導。			
受講生に望むこと	①保育実習の目標を理解して実習に臨むこと。 ②幼稚園教育実習Ⅱを履修していることが望ましい。 ③他の前期履修科目（子どもの保健Ⅱ、乳児保育Ⅰ、子どもの食と栄養など）を、実習と関連付けて受講すること。			教科書・テキスト	なし。授業でプリントを配布するので、各自 A4判のファイルに保管すること。		
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	①委託費など実習費用約 50,000 円（保育実習Ⅰ・ⅡまたはⅢ）が必要となる。詳細は 1 回目の授業で説明する。 ②欠席が 3 日以上になった場合は実習を中止する。		

授業科目名	ET320U 保育実習指導Ⅱ		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	熊田 凡子・高村 真希・谷 昌代（代表教員 熊田 凡子）						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>保育実習指導Ⅰで学んだ知識及び保育実習Ⅰで体得した学びを土台として保育実習Ⅱを行うための、事前指導・事後指導の授業である。事前指導では、保育実習Ⅰを通して得た学びと自己課題を明確にし、保育実習Ⅱでは保育士の専門性についても理解を深める。保育実習Ⅰと同じ保育所で実習を行うことで、子どもの発達・成長を具体的に把握し、適切な保育・援助を行えるように十分な準備をする。事後指導では、学びの共有となる実習報告会を行った後、実習園からの評価や授業での振り返りをもとに、履修カルテへの記入を行う。</p>			<p>① 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学んでいる。 ② 保育や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を身につけている。 ③ 保育の観察、記録及び自己評価などを踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学んでいる。 ④ 保育士の専門性と職業倫理について理解している。 ⑤ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にしている。 ⑥ 実習日誌の記入や指導計画の作成を適切に行うことができる。</p>				
教授方法	講義、演習、ディスカッション、発表						
履修条件	「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習指導Ⅰ」の単位を修得済の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	保育実習Ⅰ（保育所）における自己課題を整理し、実習Ⅱに向けて準備を行う。					全員	
2	子どもの最善の利益を考慮した保育について具体的に理解する。					全員	
3	子どもの保育と保護者支援について理解する。① 多様な保護者支援のあり方に気づく。保護者支援のレポートを作成する。					全員	
4	子どもの保育と保護者支援について理解する。② 実習園での状況とレポート作成の視点を話し合い、考える。					全員	
5	保育実習日誌の書き方を理解する。時系列・エピソード記録・エピソード記述を書き分け、作成したものを提出する。					全員	
6	保育実習日誌の書き方について、さらに理解を深める。添削後の日誌を修正する。					全員	
7	実習先保育所の事前訪問。プレ実習の日程を確認する。					全員	
8	保育所事前訪問記録作成と、実習課題の準備を行う。					全員	
9	保育士の専門性と職業倫理について考える。現職保育士の講話を聞き、レポートを作成する。					全員	
10	保育実習Ⅰの指導計画を振り返り検討したうえで、保育実習Ⅱの部分実習や一日実習に向け指導計画についての理解を深める。指導計画案を作成し、提出する。					全員	
11	作成した指導計画を基にグループディスカッションを行い、必要に応じて修正する。また、個々の子どもに応じたかわりについて考える。					全員	
12	実習終了アンケートの作成とグループディスカッション。実習記録・レポートを基に自己の実習を振り返る。					全員	
13	グループディスカッションと報告会の準備。保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善について考える。					全員	
14	実習報告会に参加し、他の学生の学びを共有する。レポートを作成する。					全員	
15	保育士としての自己課題を明確にする。（実習評価の伝達と履修カルテの記入）					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加姿勢	50	①実習の目的を理解している。②主体的に討議に参加している。③表現技術を身につけて実践しようとしている。④保育士の職務や専門性について理解している。⑤実習報告会に積極的に参加している。		課題提出	50	①課題を期日までに提出する。②課題内容を理解し教材や指導計画を工夫して作成している。③実習日誌の書き方を理解し目的に応じて書き分けることができる。④保育の場面に適した指導計画を作成することができる。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>①保育実習Ⅰで自分に不足していると思った表現技術を磨く。家でも練習や復習を行う。[240分] ②実習前に実習先でのプレ実習に参加し、プレ実習記録を書く。回数や期間は、授業内で指示をする。[240分] ③子どもの年齢に応じた歌や手遊び、製作などを事前に準備練習しておくこと。[120分] ④指導計画案を作成する。[240分] ⑤授業内で出された実習日誌の作成課題をする。[240分]</p>			指導計画の実演紹介等に対する助言指導。				
受講生に望むこと	①「保育実習Ⅰ」で気づいた自己課題を意識して、授業に参加すること。 ②保育士に求められる技能や知識、資質を自ら高める努力をすること。 ③特に、「保育内容・健康Ⅱ」「保育内容・人間関係Ⅱ」「保育内容・環境Ⅱ」「保育内容・言葉Ⅱ」「保育内容・表現Ⅱ」「児童家庭福祉論Ⅱ」「家庭支援論」「乳児保育」「社会的養護内容」の授業と関連付けて、理解するように努めること。		教科書・テキスト	『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーバル館 2018年 ISBN：9784577814482 授業でプリントを配布するので、各自A4版のファイルに保管すること。			
指定図書参考書等	なし/なし（授業内で紹介することもある）		その他・特記事項	無断欠席・遅刻・早退が多い・課題が提出されない場合は、実習を認めない。			

授業科目名	ET330U 保育実習指導Ⅲ			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	虹釜 和昭・齊藤 英俊（代表教員 虹釜 和昭）						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>「保育実習Ⅰ（施設）」を基礎におき、施設理解を深めるために、自らの課題を考察する。作成した実習テーマ、実習計画、ねらい、課題について指導を受け、また実習に入ってから指導者より受けるスーパービジョンの性格、内容などを理解する。実習終了後の事後学習により、評価できる点、反省点などを整理することにより、専門職としてのあり方を考察する。</p>				<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学んでいる。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培っている。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解している。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確化できる。 			
教授方法	児童福祉施設の実践について、教員よりの講義、ワークシート作成、各機関におけるフィールドワーク、グループディスカッションなどにより課題を明らかにする。						
履修条件	「保育実習Ⅰ（施設）」を履修済であること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	本学で学ぶ児童福祉関連の各科目と実習の関係を理解する。ボランティアと実習の違い、体験学習と実習の違い、配属実習を行う意味を理解する。						虹釜・齊藤
2	施設や利用者（家族を含む）の、地域や社会との関係理解を深め、施設の機能としての地域社会への働きかけ、地域貢献のあり方を理解する。						虹釜・齊藤
3	子ども・利用者の入所経路（特に、児童相談所・福祉事務所の果たしている役割など）や入所理由など社会的背景を学び、その中で施設の果たしている役割、機能を理解する。						虹釜・齊藤
4	関係機関の役割、施設との関係について深く考察し、関係機関資料の収集方法や課題などを理解する。						虹釜・齊藤
5	子ども・利用者のケーススタディ（ケースの背景を理解し、子ども・利用者の課題に対する支援法及び援助技術の検討）を行う。これをもとにして、子ども・利用者の支援のあり方を学ぶ。						虹釜・齊藤
6	保育士とソーシャルワークについて学ぶ。施設を利用している子ども・利用者の抱える問題にかかわる家庭的、社会的状況を知り、ソーシャルワーク援助技術についての理解やソーシャルワーカーとの連携を理解する。						虹釜・齊藤
7	児童福祉の専門職資格を学び、保育士資格の意義目的などを理解する。実習前に修得すべき内容を整理し、他の児童福祉分野、他職種との連携を理解する。						虹釜・齊藤
8	実習に臨むに際しての学習計画、実習計画を策定し、それに伴う必要事項を理解する。実習前の事前学習として利用者に関するニーズ、機能を明確にする。						虹釜・齊藤
9	公文書としての実習記録の意味、まとめ方を考察する。逐次記録の作成方法、事実記録（要約）文と感想文及び考察文の書き分け。						虹釜・齊藤
10	事前訪問を行い、施設構造、機能、サービス内容、利用者の特徴、活動状況などを正確に理解し、事前訪問記録を作成する。						虹釜・齊藤
11	事前訪問で学んだことの報告を行なう。他の学生が訪問した施設の現状を学び、再度疑問点、課題などを整理する。						虹釜・齊藤
12	保育士・支援員の支援について、その必要性と支援内容を対比して実習で何をどのように学ぼうとしているのかなどの課題確認を行う。						虹釜・齊藤
13	ディスカッションを行う。実習内容の疑問、ジレンマ、評価できた点などを相互に、自由に語り、聴いて内容を共有する。そこから学ぶべき点、自らの実習と対比させて実習について自己評価を行う。						虹釜・齊藤
14	多様な実習体験内容を事後学習により、経験知として積み上げる意義や方法を理解する。実習において未解決であった課題を共有し、事後学習の取り組みの中で解決方法を探究する。						虹釜・齊藤
15	事後報告会に参加し、自らの実習と対比させて考察する。						虹釜・齊藤
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
講義参加姿勢	50	<ol style="list-style-type: none"> ①実習の目的を明確に理解している。 ②主体的に討議に参加している。 ③保育士の職務や保育を理解しようとしている。 ④実習報告会に積極的に参加している。 			課題提出	50	<ol style="list-style-type: none"> ①課題を期日までに提出する。 ②課題内容を理解して、工夫して取り組んでいる。 ③実習日誌の書き方を理解している。 ④指導計画を作成することができる。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
原則、「保育実習Ⅰ（施設）」での実習施設とは異なった種別の施設で実習する。そのため、実習施設などにて体験学習としてのボランティア等の活動などから、実習テーマを明確にすること。施設実習先は社会的養護関係施設、障害者支援施設・就労支援施設など多岐にわたるため、各自の実習施設の目的・機能についてまとめる。また、施設実習は「生活を通しての治療」という性格が強く、実習生の日常生活や姿勢・態度など、自らの姿が実習そのものに大きく影響する。				事後指導において、実習内容などの講評を行う。			
受講生に望むこと	実習施設は多岐にわたっているため、保育実習Ⅰ（施設）での内容が経験知として積み上がらない場合がある。保育実習Ⅲ（施設）はより専門性が求められるハードな実習であり、自分の実習配属先施設の情報、テーマに関する先行研究、文献、他のメディアなどを通じて収集する努力が求められる。			教科書・テキスト	テキストは使用せず、講義時に「実習ハンドブック」などの資料配付を行う。		
指定図書参考書等	なし／保育実習指導のミニマムスタンダード、全国保育士養成協議会、北大路書房、ISBN978-4-7628-2583-5			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ET335U 保育実習Ⅲ（施設）		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	虹釜 和昭・齊藤 英俊（代表教員 虹釜 和昭）						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>実習期間として設定した12月上旬から中旬に、10日間（90時間）の施設実習を行う。実習施設は、大学より実習を依頼した北陸三県における児童福祉施設（保育所以外）、その他社会福祉施設にて実習する。</p>			<p>児童福祉施設（保育所以外）、その他社会福祉施設の養護を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。また、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解を深める。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉および社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4. 保育士としての自己の課題を明確化できる。 				
教授方法	児童福祉施設（保育所以外）、その他社会福祉施設にて実習を行なうとともに実習指導担当職員、および担当教員による巡回指導を受ける。						
履修条件	「保育実習Ⅰ（施設）」を履修済であること、及び「保育実習指導Ⅲ」を履修中であること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	施設種別の理解、提供されているサービス内容を把握する。					虹釜・齊藤	
2	職員の役割、業務内容と専門性を理解する。					虹釜・齊藤	
3	実習施設にて実践されている保育・養護などの支援体制、技術を理解する。					虹釜・齊藤	
4	実習施設の地域における位置づけや地域との関係を理解する。					虹釜・齊藤	
5	生活場面における指導のあり方、子どもとの関係性を理解する。					虹釜・齊藤	
6	入所児童及び利用者の家族と職員のコミュニケーションについて理解する。					虹釜・齊藤	
7	実習施設の日中活動から、その意義などを理解する。					虹釜・齊藤	
8	自立支援計画の概要、記入などについて職員の方より指導を受ける。					虹釜・齊藤	
9	実習施設の日中活動から、その意義などを理解する。					虹釜・齊藤	
10	行事及び活動などの計画を考察し、自らプランを立ててみる。					虹釜・齊藤	
11	実習記録の記載について、事実経過の描写・解釈の書き分け及び解釈理由を考察する。					虹釜・齊藤	
12	実習前の自らの施設観と実習後半の違いを考察する。					虹釜・齊藤	
13	実習のふり返りを行い、基幹的職員、実習指導担当者による反省会から自らの問題点などを考察する。					虹釜・齊藤	
14	実習担当者のスーパービジョンの内容を考察し、自己評価を行う。					虹釜・齊藤	
15	実習を通じて学んだことより、児童福祉施設等のありかた、将来像を考察する。実習報告会に参加・発表する。					虹釜・齊藤	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
実習先の評価	50	実習指導時に配付する評価表における項目ごとに評価する。		巡回時の担当教員の評価	30	実習巡回時における面談内容、施設担当者よりのヒアリングについて評価する。	
実習記録・レポートなどの提出物	20	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の実習に「実習課題」をもって臨んでいる。 ・実習内容について自己評価ができている。 ・実習することによって、これからの課題が明確になっている。 					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
「経験」としての実習であり、個人と環境を取り巻く相互作用であることを意識する必要がある。				事後指導において、実習内容などの講評を行う。			
受講生に望むこと	「保育実習Ⅲ」では、施設の持つ「専門機能」を理解し、社会的役割、使命という視点から考察することが求められる。また、職員の「専門性」である、個々の職員が有する資質・能力、職種として求められる最低限の知識とは何か、について咀嚼されたい。施設機能は未分化の部分（日常性が表出していて、その背景にある専門性が見えにくい）が多くあるが、体系的に施設理解が出来るような努力が求められる。			教科書・テキスト	テキストは使用せず、講義時に「実習ハンドブック」などの資料配付を行う。		
指定図書参考書等	なし／保育実習指導のミニマムスタンダード。全国保育士養成協議会、北大路書房、ISBN978-4-7628-2583-5			その他・特記事項	事前学習、実習中の学習、事後学習の連続性を理解すること。		

幼児児童教育学科
(4年次)

授業科目名	専門ゼミⅡ			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	宮浦 国江・多保田 治江・大井 佳子・虹釜 和昭・中島 賢介・田邊 圭子・永山 亮一・幸 聖二郎・熊田 凡子・向出 圭吾・齊藤 英俊・伊藤 雄二・高村 真希・福江 厚啓 (代表教員 宮浦 国江)						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>専門ゼミの最終段階として専門ゼミⅠに引き続き、それぞれの専門分野で設定したテーマに沿って研究を深める。具体的には口頭発表の方法(効果的な発表方法、プレゼンテーション技術等)を身につけ、調査研究、文献研究、ゼミ生相互の検討、意見交換などを通して、レポート執筆などを行う。大学での学びを集約し、その成果を専門ゼミⅡレポート(16000字程度:該当年度1月下旬締切)としてまとめるとともに、卒業後の課題の探求姿勢を身につける。</p>				<p>①各自が設定したテーマに沿って、文献・資料検索やデータ収集などを行うことができる。 ②専門ゼミⅡレポート(または作品と副レポート)の作成を通して、設定したテーマをより深く理解し、文章化することができる。 ③研究内容をまとめ、効果的に発表することができる。</p>			
教授方法	ゼミごとに指導教員の指示のもと演習形式で行う						
履修条件	「専門ゼミⅠ」の単位を修得済みの者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	専門ゼミⅡの運営についてのオリエンテーションなどを行う						各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
15	ゼミごとに前期のゼミ活動を総括する						各担当教員
16	ゼミごとに後期のゼミ運営のオリエンテーションなどを行う						各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員

授 業 計 画		
実施回	授業内容・目標	担当教員
28	各ゼミ内でレポートの発表を行う	各担当教員
29	専門ゼミⅡレポート発表会で発表を行う	各担当教員
30	専門ゼミⅡの総括を行う	各担当教員

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業参加状況	10	担当教員の指示に従い、ゼミ内における役割を意識して行動している	レポート作成	70	計画的にレポートを作成し、作成要領に従って期日内に提出している
レポート発表	20	専門ゼミⅡレポート発表会において、レポート内容を効果的に発表している			
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
設定したテーマに沿って、綿密な研究計画を立てた上で調査研究・文献研究を行い、テーマをより深く理解することができるように準備する。[90分]			課題については、授業の冒頭部にコメントを付して返却		
受講生に望むこと	4年間の学びの集大成であるので、個別指導をしっかり受け止め、納得のいくゼミレポートを作成してください。		教科書・テキスト	ゼミでの指定による	
指定図書／参考書等	なし／ゼミでの指定による		その他・特記事項	専門ゼミⅡとともに卒業研究を履修した場合には、卒業研究(卒業論文)の作成により専門ゼミⅡレポートの作成は不要とします。	

授業科目名	卒業研究			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦 国江・多保田 治江・大井 佳子・虹釜 和昭・中島 賢介・田邊 圭子・永山 亮一・幸 聖二郎・熊田 凡子・向出 圭吾・齊藤 英俊・伊藤 雄二・高村 真希・福江 厚啓 (代表教員 宮浦 国江)						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
4年間の学びの集大成として、学習内容を論理的・体系的にまとめ、実社会において科学的・論理的視点から物事を捉えることができるようにする。指導方法としては、担当教員の専門分野に分かれ、個別指導のもとに展開し、卒業論文または卒業作品としてまとめる。				①各自が設定したテーマに沿って、文献・資料検索やデータ収集などを行うことができる。 ②卒業論文や卒業作品(作品と副論文)の作成を通して、設定したテーマをより深く理解し、文章化することができる。 ③学習内容を論理的・体系的にまとめ、効果的に発表することができる。			
教授方法	ゼミごとに指導教員の指導のもと各自の研究課題をまとめる						
履修条件	「専門ゼミⅠ」を履修し、単位を修得済みの者。3年次終了時点で累積GPA2.5以上を確保していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	卒業研究の運営についてオリエンテーションを行う						各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
15	ゼミごとに前期のゼミ活動を総括する						各担当教員
16	ゼミごとに後期のゼミ運営のオリエンテーションなどを行う						各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員

授 業 計 画		
実施回	授業内容・目標	担当教員
28	各ゼミの担当教員の指導に従う	各担当教員
29	卒業研究発表会で発表を行う	全員
30	卒業研究の総括を行う	各担当教員

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業参加状況	10	担当教員の指示に従い、ゼミ内における役割を意識して行動している	卒業研究(論文、または作品と副論文)の作成	70	計画的に卒業研究を作成し、作成要領に従って期限内に提出している
卒業研究(論文、または作品と副論文)の発表	20	卒業研究発表会において、卒業研究の内容を効果的に発表している。			
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
設定したテーマに沿って、綿密な研究計画を立てた上で、調査研究・文献研究を行い、テーマをより深く理解することができるように準備する [90分]			課題については、授業の冒頭部にコメントを付して返却		
受講生に望むこと	4年間の学びの集大成であるので、個別指導をしっかり受け止め、納得のいく卒業研究を作成してください。		教科書・テキスト	ゼミの指定による	
指定図書/参考書等	なし/ゼミの指定による		その他・特記事項	卒業論文の規定文字数は24000字以上(図表等を含む)とする。作品を提出する場合は、論文に作品を添えて提出する。卒業研究の提出は当該年度の1月第3週の月曜日16時までに大学事務室教務課とする。この場合の論文は16000字以上とする。専門ゼミⅡとともに卒業研究を履修した場合は、卒業研究(論文、または作品と副論文)の作成により専門ゼミⅡレポートの作成は不要とする。	

授業科目名	幼児理解		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	向出 圭吾・齋藤 英俊・谷 昌代 (代表教員 向出 圭吾)						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>幼児は一人ひとりとは異なった発達を示す。そのため、幼児期における保育には、一人ひとりの幼児に対する理解が必要である。また、保育者には幼児一人ひとりの発達の特性を理解し、幼児が抱える発達の課題に応じた援助を考えることが求められる。</p> <p>本授業では、これから教育・保育の場に向かうために、子ども一人ひとりの内面を理解する意義について、実践的及び理論的な学びを目指す。</p> <p>Enjoy!ミッションでの共通体験を通し、具体的実践的に子どもを理解するとともに、理論的学びを深める方法を考える。</p>			<p>①幼児理解の視点を理解している。</p> <p>②遊びの実践計画を行い、実際に子どもとかわり、幼児を理解している。</p> <p>③幼児を取り巻く環境から幼児を理解している。</p> <p>④幼児を発達の・共感的視点から理解し、実践を理論づけられる。</p> <p>⑤幼児理解の方法(アセスメント)を捉えられる。</p> <p>⑥発達や学びの連続性を確保する視点を理解し、小学校教育へつなげて考えられる。</p> <p>⑦幼児を理解し、保育を評価することを理解している。</p>				
教授方法	講義・演習・グループディスカッション						
履修条件	5月開催のEnjoy!ミッション、7,8月開催のオープンキャンパス、8月開催の私立幼稚園協会主催の「幼稚園ってどんなところ？」で活動できることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	幼児理解の視点について理解する。幼児の生活・発達・問題を捉えた意義について考える。					谷・向出・齋藤	
2	遊びの実践計画を通しての幼児理解(1) : Enjoy!ミッションについて「幼稚園教育実習指導Ⅰ」を履修の2年生と遊びのプランについて考え、子どもの捉え方を指導をする。					向出	
3	遊びの実践計画を通しての幼児理解(2) : グループごとに遊びのプランを練り直し、準備物を整え環境構成を考える。					向出	
4	遊びの実践計画を通しての幼児理解(3) : Enjoy!ミッションにおいて、1年生を指導しながら、遊びにかかわる幼児の内面を理解し、適切な対応の仕方を実践を通して考える。					向出	
5	幼児を発達の視点から理解し、実践を理論づける。人格発達として捉える発達観について、実習事例や実際の保育から考える。					向出	
6	幼児を共感的視点から理解し、実践を理論づける。受容及び主体性の尊重について、実習事例や実際の保育から考える。					向出	
7	幼児を取り巻く状況を理解し、幼児の内面理解を深める。Enjoy!ミッションでの事例を用いて、多面的に学び合う。					向出	
8	子ども理解における保育・教育相談の意義や方法について学ぶ。					齋藤	
9	幼児期の発達支援におけるカウンセリングの理論や方法の活用について学ぶ。					齋藤	
10	心理学における研究方法の活用を学ぶ。観察法・評定法・面接法・事例研究法など、実践事例を通して、実際に学び合う。					齋藤	
11	保育・教育相談の視点から幼児期の心理的特徴や課題、支援のあり方について考える。					谷・齋藤	
12	子ども理解を通じた安全管理と危機管理の対応					谷	
13	乳児期から考える成育歴からの子ども理解					谷	
14	親子支援を通しての子ども理解及び今日の課題					谷	
15	指導要録の書き方及び保幼小の連携とその意味を理解する。					谷・向出・齋藤	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
授業参加態度	50	授業への積極的な参加・ディスカッションや保育実践への積極的な取り組み	課題レポート	50	授業内に出される課題レポートの提出と内容		
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
<ul style="list-style-type: none"> ・現場体験、インターンシップ、ボランティア等に積極的ににかかわり実践を積み重ねる。 ・グループごとに遊びのプランを実践するにあたり、それらに必要な身近な素材(例:段ボール、新聞紙、牛乳パック等)を事前に準備する。そしてEnjoy!ミッション前日及び当日でそれらの素材を使い工夫することで、幼児が楽しく遊べる環境を構成する。また幼児の遊びへのかかわり方によっては、遊びのプランを途中修正、変更する臨機応変さ、そのために十分な素材の確保にも努める。[20分] ・遊びのプランの実践を踏まえて、現場での遊びの提供について、様々な観点から捉えた発達に応じた遊びのプランを自分なりに作成する。[60分] 			<ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッションを重ね、その都度課題の見直し、改善を行い、自分の学びとしていく。 				
受講生に望むこと	現場で働くという自覚と意欲をもって授業に臨むこと。		教科書・テキスト	<p>『幼児理解と評価』文部科学省 ぎょうせい 2010年 ISBN978-4-324-09184-5</p> <p>『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814475</p> <p>『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814499</p> <p>『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814482</p>			
指定図書参考書等	なし 『子ども理解と援助』高嶋景子・砂上史子・森上史朗編 ミネルヴァ書房 2011年 ISBN978-4623059621 『子ども理解と保育・教育相談』小田豊・秋田喜代美編 みらい 2008年 ISBN978-4860151430		その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業の前半は「幼稚園教育実習Ⅰ」履修の2年生にEnjoy!ミッションにおける指導的役割を担う。 ・行事や外部講師の関係で、日程及び内容が変更される場合がある。 			

授業科目名	教職実践演習(幼・小・保)		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	必修	
担当教員名	大井 佳子・向出 圭吾・高村 真希・福江 厚啓・姫野 俊幸・村井 万寿夫・谷 昌代 (代表教員 大井 佳子)						
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>小学校教諭・幼稚園教諭・保育士資格取得のための必修科目で、4年間の学びの集大成として位置付けられる。テーマにより合同授業とコース別授業を行い、いくつかの学外体験を通じて自身をみつめる機会を重ねる。発表やディスカッションなど学生の主体的活動で構成する授業である。</p> <p>①保育者・教師として必要な資質・能力について、各日の4年間の履修内容の振り返りと協働の実践によって、自身の到達と課題を明らかにする。</p> <p>②金沢市包括連携事業等で行う実践は、幅広い年齢層の子どもの対象に、異なる免許状取得予定者と協働で行う。学校間接続やチーム学校、そして地域との連携の実践として広い視野で実践をとらえる。</p> <p>③石川県私立幼稚園協会諸事業や保育実践研究発表会、市内小中学校の一斉学校公開週間や「いしかわ教育ウィーク」の公開授業、研究授業への参加など、自身の取得免許と異なる校種の体験によって、子どもをめぐる状況を俯瞰する。1年次での「地域社会と子ども」での参観と照らし合わせて、自身の子どもを見る目、保育・教育を見る目の変化を確認する。</p> <p>④現場において理解が求められる今日的課題について集中的に協議し、得意分野をもつ個性豊かな教師として成長していくことを目指す。</p>			<p>①小学校教諭・幼稚園教諭・保育士資格の取得に関わる履修と4年間の大学生活を振り返り、教師・保育者としての成長と自己課題を明確にしている。</p> <p>②今までの実習体験や本授業での諸ワークを踏まえて教師・保育者の今日的役割とその責任を把握している。</p> <p>③教師・保育者としての使命感や責任感、社会性や協働する力、子どもを理解する力や集団を運営する力、教科や保育内容についての指導力について自身の到達を把握し、高めようとしている。</p>				
教授方法	グループディスカッション・子どもを対象とした実践(あるいは模擬保育・授業)・ロールプレイ・講義						
履修条件	原則として、資格取得に必要な実習を含む全科目の単位を修得し、資格取得見込みであること。(備考欄参照)						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション:「教職実践演習」の目的と授業内容。グループ討議:協働の実践(実践内容については前期にガイダンス)を振り返る。					全員	
2	グループワーク:授業を含む体験をカリキュラムマップに作成・・・レポート①学びの連続性から見る自身の学びの軌跡と自己課題					全員	
3	グループワーク:カリキュラムマップを用いた発表と討議⇒次の協働の実践に向かう自己課題をマップに補完(補完後提出)					全員	
4	グループワーク:再実践(玉川子ども図書館でのお話広場)に向けて、協働して指導計画を作成・・・レポート②二つの実践から得る「見直し」の意義(PDCAの実践)					全員	
5	保護者との連携①(グループワーク):保護者の思いを想像し、自分なりの対応を考える。					全員	
6	保護者との連携②:発達障害をもつ子どもの保護者の語りから親の心情について考える。					全員	
7	保護者との連携③(ロールプレイ):保護者の思いに添う相談や苦情への対応・・・レポート③5回・6回・7回の授業から得る「保護者との連携」					全員	
8	グループワーク:保育所見学・学校公開参加からの討議・・・レポート④「保育者・教師に求められる今日的課題」					全員	
9	グループワーク:教職の意義・役割・職務内容、子どもへの対応等にかかわる今日的課題について討議。深めたい4つのテーマと各回話題提供者を決定					全員	
10	求められる力①(免許種別グループワーク):グループで設定した課題A ミニレポート作成					全員	
11	求められる力②(免許種別グループワーク):グループで設定した課題B ミニレポート作成					全員	
12	求められる力③(免許種別グループワーク):グループで設定した課題C ミニレポート作成					全員	
13	求められる力④(免許種別グループワーク):グループで設定した課題D ミニレポート作成					全員	
14	ラウンドテーブル・グループ討議:キリスト教教育の視点から、本学での教育・保育についての学びを振り返る。					全員	
15	まとめの討議:「私のめざす教師・保育者像」・・・レポート⑤にまとめる。					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加状況	30	①必要な準備をして、積極的に授業に参加している。 ②希望資格に必要な資質を把握し、演習に取り組んでいる。		レポート	50	①各課題レポートの課題意識が明確であり、②学んだことが体験やエピソード、あるいは出典を示して丁寧に整理され、③自らの考察と考察に至る道筋が明確である。	
協働の実践	20	グループメンバーとの協働の過程で自身の力を発揮している。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>①履修カルテの必要事項の記入。これまでに履修した科目のシラバスの見直し</p> <p>②実習ファイル・授業レポート等を整理し、必要に応じて参照できるよう準備</p> <p>③事前に示される協働の実践(金沢市との包括連携事業・教育プラザ富樫わいわいバザール等での実践)の準備と当日の参加</p> <p>④玉川子ども図書館「お話広場」(仮称)での協働の実践の準備と当日の参加</p> <p>⑤その他、授業で案内される校外活動への参加</p> <p>⑥学校公開・保育所参観</p> <p>⑦各レポートでは、具体的な体験エピソードに基づいて自己を問う考察を行うこと[長時間を要する課題が少なくない。見直しをもって計画的に行うこと。]</p>				適宜、授業内でコメントする。			
受講生に望むこと	<p>①自身の適性を考え、目指す専門職像を明確にして、それにふさわしい行動を取るよう心がけること</p> <p>②実践や見学の日程が変わる場合もある。常に連絡に注意し、必要な連絡・報告を即座に行うこと</p> <p>③グループの協働で取り組む授業外課題が少なくない。日程にゆとりをもって行動すること</p>			教科書・テキスト	使用しない		
指定図書参考書等	<p>授業内で指示する/ 『小学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省 東洋館出版社 2008年 ISBN:978-4-491-03189-7 『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレール館 2018年 ISBN:9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレール館 2018年 ISBN:9784577814499 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレール館 2018年 ISBN:9784577814482</p>			その他・特記事項	①実習ファイル・履修カルテ(教職カルテ)・全授業シラバスを用意すること ②4年次に保育実習を行う者は本演習履修時に保育実習Ⅰ(保育所)・保育実習Ⅰ(施設)・保育実習指導Ⅰの単位を修得している者のみ受講可 ③免許・資格種別にグループを分けて行う回と合同で行う回がある。志望職種別の希望人数に応じて、グループ編成、授業の内容を変更することがある		

授業科目名	子ども英語教育法		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	宮浦 国江・伊藤 雄二（代表教員 宮浦 国江）						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
この授業は小学校教諭一種免許状の「または科目」である。本講義では「子ども英語」で学んだ活動をさらに広く深く学び、子ども（本講義では主に児童を指す）の発達段階に合わせた英語指導に必要な基礎的知識を学ぶ。具体的には、英語指導に関わる理論（言語習得・教授法・授業の構成）などを学ぶ。並行して実際の授業場面を想定して指導案を作り、教材を使って模擬授業を行いながら実践的指導力をさらに高める。英語母語話者と共にティームティーチングも準備から行うことでALTとの協同作業を学ぶ実習も行う。			①子ども英語教育に関する知識（理論や教授法、専門用語）を習得する。 ②学んだ教授法を実践と関連付けて考えることができる。 ③第一言語習得と第二言語習得の違いが分かる。 ④子ども英語指導に必須のチャンツやフォニックスの意味・内容・意義を知り、効果的に指導する態度を持つ。 ⑤あらゆる場面で見られる子どもの学び・言語習得に対する鋭い観察眼を持つ。 ⑥クラスルームイングリッシュを適切に用いて英語母語話者とコミュニケーションを図ることができるか。				
教授方法	講義・演習・実習・ディスカッション						
履修条件	①小学校教諭一種免許取得希望者で「小学校教育実習」と「子ども英語」の単位を履修済みであることが望ましい。②英語力がSTEP英検2級相当以上ある者が望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	①オリエンテーション、小学校英語教育実習（5月中1週間）について説明を受け理解する。 ②「子ども英語」で学んだことを振り返り、重要な点を再確認する。					宮浦・伊藤	
2	第13章 授業づくり事前準備から振り返りまで ①小学校英語教育実習について割り当ての発表および指導案作成について学ぶ。					宮浦・伊藤	
3	北陸学院小学校におけるALTとのティームティーチングに向けて模擬授業1回目					宮浦・伊藤	
4	北陸学院小学校におけるALTとのティームティーチングに向けて模擬授業2回目					宮浦・伊藤	
5	北陸学院小学校におけるALTとのティームティーチング第1回（割り当てられた学年の指導および他クラスの授業参観・支援）					宮浦・伊藤	
6	北陸学院小学校におけるALTとのティームティーチング第2回（割り当てられた学年の指導および他クラスの授業参観・支援）					宮浦・伊藤	
7	小学校英語教育実習での学びについての振り返り					宮浦・伊藤	
8	第3章 指導者の役割、資質と研修について学ぶ					宮浦・伊藤	
9	第4章 教材・テキストの構成と内容を学ぶ					宮浦・伊藤	
10	第5章 指導目標、年間指導計画の対方と具体例について学ぶ					宮浦・伊藤	
11	第6章 言語材料と4技能の指導					宮浦・伊藤	
12	第11章 評価のあり方、進め方					宮浦・伊藤	
13	ALTとのティームティーチングの好ましいあり方を考える					宮浦・伊藤	
14	第14章 外国語活動の成果、課題と今後の展望について学ぶ。					宮浦・伊藤	
15	①内容理解テスト ②まとめ：これからの小学校英語教育について考えるとともに各々今後の課題を明確にする。					宮浦・伊藤	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
テスト	50	①専門用語の内容を正しく理解しているか。 ②学習した内容を理解しているか。 ③理論と実践を関連付けているか。		授業実践	30	①ねらいに沿った指導案と授業運営をしたか。 ②ティームティーチングの準備をきちんと行ったか。 ③児童を観察しながら授業を進めたか。 ④日本人教師としての役割を果たし、母語話者の特性も活かしたか。	
授業参加態度・レジュメ	20	①レジュメ：予習として教科書を読み、アンダーラインを引き、ポイントをまとめたか。 ②課題意識を持って意欲的に授業に参加し、質問や発言をしたか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①予復習をしっかり行うこと [50分]。予習ノートは最終テストの際の持ち込みノートとして使用する。 ②クラスルームイングリッシュ・英会話を頻繁に使用し英語運用力の向上を図ること [40分]。 ③担当する小学校の授業を参観し児童理解を深め、授業運営を把握しておくこと。 ④模擬授業の際は十分な時間をかけて準備し、リハーサルをして臨むこと。 ⑤ALTとの打ち合わせは効率よく行うこと。				返却時に行う			
受講生に望むこと	①意欲的に取り組むこと。 ②英語にひるまず英語力を高めるチャンスととらえること。 ③英語力を高めるため、外部検定テストを受験すること。			教科書・テキスト	①『小学校英語教育法入門』樋口忠彦(代表)編著 研究社 2013年 ISBN 978-4-327-41086-5 ②「子ども英語」で配布した資料③適宜配布するハンドアウト		
指定図書参考書等	なし/子ども英語関連書籍			その他・特記事項	5月の小学校模擬授業(日程は講義内で指示する)合計10時間分は自分の担当以外の授業も全て参加する。この間はアルバイト等自己都合の用事を入れず、実習に集中すること。詳細は1時間目目録にハンドアウトを用いて説明をする。		

授業科目名	教育相談			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	松下 健						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状・認定心理士				
授業の概要				授業の到達目標			
子どもたちを取り巻く諸問題についての実情を把握し、教育相談の目的や意義を学ぶ。また、教育相談における幼児・児童への関わり方を対象問題別に学ぶとともに、幼児・児童理解及び支援のいくつかのアプローチを学び、教育相談について理解を深める。				教育現場に出る際にどのような教育相談活動を展開すべきかについて十分に考察を深め、自分なりの考えを持てるとともに、教育相談の具体的方法を知り、幼児・児童支援における留意点についても理解することができる。			
教授方法	演習、講義、ディスカッション。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	教育相談とは：教育相談の目的、意義、方法について考える						
2	子どもの貧困：貧困について理解を深める						
3	自閉症：自閉症の特徴について理解を深める						
4	学習障害：学習障害の特徴について理解を深める						
5	注意欠陥多動性障害：注意欠陥多動性障害の特徴について理解を深める						
6	不登校：不登校について理解を深める						
7	いじめ：いじめについて理解を深める						
8	非行：非行について理解を深める						
9	虐待：虐待について理解を深める						
10	自殺：自殺について理解を深める						
11	統合失調症：統合失調症の特徴について理解を深める						
12	気分障害：気分障害の特徴について理解を深める						
13	カウンセリング的態度：教育相談において求められるカウンセリングの知識と技術を理解する						
14	連携・協働：教育相談において求められる多職種の連携や協働について理解を深める						
15	統括。教育相談の目的、意義、方法について改めて考える						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
リアクションペーパー	30	講義内容について自分の意見や感想を記述すること。講義内容のメモではなく、内容から発展させた自分の考えなどを記述することが求められる。			講義の受講態度	30	グループディスカッションやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
与えられたテーマについて予習し、レジュメを作成すること。[90分] 各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[30分]				期末レポートについては、次学期初めに内容に関するコメントを掲示する。			
受講生に望むこと	学習に自発的、積極的に取り組むこと。 他の受講者と協調すること。 毎回、相当量の予習と他者と協力して取り組む演習が不可欠であることを承知の上で受講すること。			教科書・テキスト	『絵本とともに学ぶ 発達と教育の心理学』、増田梨花（編著）、晃洋書房、2018年、ISBN:978-4-7710-2932-3		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	1回程度、他学科の教員などゲストスピーカーをお招きする可能性がある。 受講生の理解度に応じて進度を変更する可能性がある。		

授業科目名	保育カウンセリング			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	上野 千恵						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
近年社会情勢の変化と共に、人の生き方が大きく変化し、保育家庭のあり方や抱える問題も多様になってきている。保育者には、そうした保育相談の多様性に対応できる支援技術が求められている。そこで当授業では、「社会福祉」「相談援助技術」での学びを踏まえ、子どもの健やかな育ちを目指した保育相談支援の理論と技術を学ぶ。				①保育相談支援の意義と原則について理解している。 ②保護者支援の基本を理解している。 ③保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解している。 ④保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解している。			
教授方法	個人及びグループでの演習と講義						
履修条件	「相談援助技術」を履修済みであること。「保育実習Ⅰ」、「幼稚園教育実習Ⅱ」を履修中または履修済みであること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：「社会福祉」「相談援助技術」との関係や、保育相談支援の意義を確認する。 (演習)「話を聴く姿勢」(保育相談とカウンセリングとの関係を理解する。)						
2	(事例検討 演習)：「大切にしたい子どもの思い」「保育所で育てる子どもの生活を支える」(子どもの最善の利益への取り組み方や、特定の家庭に特別な配慮をする場合の注意点を理解する。)						
3	講義：守秘義務について具体的事例より考える。連絡帳の書き方事例を用いて、信頼される保育者のコミュニケーション方法や「信頼を失わせる事故」について解説する。(全国保育士会倫理綱領を再確認する。)						
4	講義：苦情申し立て制度について説明する。事例検討「親の人生シナリオ」「支えられて親も育つ」より、保護者も子育てを通して成長していくことを理解する。(保護者支援の際の保育者のあり方を理解する。)						
5	講義：事例検討「乳児の夜泣き」より、親の性格と育児行動の関わりを理解する。その上で「虐待の世代間伝達」という考え方について全体で考える。(保育者が親を受け入れるということについて理解する。)						
6	講義：(医学モデル ストレングスマodel)について学ぶ。保育者が保護者に共揺れを起こす時の対処法について理解する。 (演習)「保育者自身を活かす」(保育者自身が親の問題解決の道具であることを理解する。)						
7	講義：保育相談を効果的に行える場所の設定方法(場所、日時、相談にかかる時間等)について学ぶ。 (演習)「親とゆっくり話せない時」(忙しい中で保護者の信頼を得る方法について理解する。)						
8	(演習)「先生、うちの子寝ないんです」全体ロールプレイを基に、相談援助の課程(プロセス)を解説する。(保育相談支援のプロセスの中で、保育者が保護者に対して行う具体的な声掛け方法について理解する。)						
9	(講義 演習)：「他機関との連携」連携機関の機能についてグループで再確認し、連携時の注意点を学ぶ。 事例検討「保護者に無視される」(他機関連携を理解する。相談を求めない人への関わり方を理解する。)						
10	(演習)「ノンバーバルコミュニケーション」グループで、お互いの聴く姿勢について観察・評価しあう。(話を聴くときの自分の態度を他者からの意見、他者との比較の中で理解する。)						
11	面接の技術① (演習 講義)：話しやすい雰囲気を作り方を考える。ノンバーバルコミュニケーションの磨くポイントについて解説を聞いた上で、実際にやってみる(ノンバーバルコミュニケーション力を高める。)						
12	面接の技術② (演習 講義)：傾聴の言葉かけの解説を聞く。ノンバーバルコミュニケーションも意識しながら、傾聴の言葉かけをやってみて、グループで観察・評価しあう。(傾聴技法とは何かを理解できる。)						
13	面接の技術③ (演習 講義)：保育相談の教事例の中から、自分が選んだ事例について個人で場面設定を行う。その事例を使って傾聴を行う。(傾聴技法を基にした保育カウンセリングを理解する。)						
14	面接の技術④ 講義：親の要望をどう受け止めるか、苦情解決に向けた取り組み方法を学ぶ。 (演習)「保育者になりきる」自分が実習等で体験した事例を使って、保育カウンセリングを行う。						
15	(演習)「保育相談を受けてみよう」講師が保護者役となり、保育カウンセリングの全体セッションを行う。(授業全体の総括。及び、保育者は「親の人生の同伴者である」ということを理解する)						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	50	演習形式のため、遅刻及び授業参加意欲に欠けるとみられる場合は厳しく減点する。			大レポート	30	事例をよく読み、授業のポイントを踏まえてまとめるレポートを評価する。授業に触れず持論を展開するレポートは評価が低くなる。
小レポート	20	毎回の授業内容が理解できているか。又、演習から自己洞察を述べてあるかを評価する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①授業に関連する部分のテキストを、授業後読んで理解する。[30分] ②授業で学んだ傾聴の技法は実際に使ってみること(授業後、日常生活の中で実践する。)				①大レポートの課題は、後半の授業中に発表する。授業の内容を理解した上で、事例検討を行う内容となる。 ②小レポート全員に対し、毎回返却はしないが、内容について個別にコメントをしたり、授業内容に反映させる等を行う。			
受講生に望むこと	「相談援助技術」に引き続き、演習形式の講義です。「相談援助技術」学んだコミュニケーション技術を、この授業では保育場面に特化して、さらに深化させていきましょう。			教科書・テキスト	『演習 保育相談支援』 小林育子著 萌文書林 2013年 ISBN978-4-89347-186-4		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	適宜プリント配布。プリントは大レポート作成に必要なので、各自で整理しておくこと。		

授業科目名	介護等体験			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	石原 俊彦・田中 早苗						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	小学校教諭一種免許状				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>デイサービスなどの社会福祉施設において5日間、特別支援学校において2日間の介助・介護・交流・行事補助などの体験活動を行う。そのために必要な各障がい児（者）、高齢者への理解を深め実習施設（学校）について事前事後指導を実施するほか、適宜、開催するガイダンスにおいて、体験施設への書類提出等を含めた事前準備を行う。</p>				<p>この科目は、義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性に鑑み、「教育職員免許法の特例等に関する法律（平成9年法律第90号）」に基づき行われる。学生は介護等体験の意義及び概要を理解したうえで体験に臨み、体験活動から得られた考察からノーマライゼーション、障がい児（者）への理解を深め、教員としての資質向上を図る。</p>			
教授方法	講義・演習・ビデオ視聴 後期に実習を実施						
履修条件	教員免許状取得に必要な科目の履修						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：介護体験を行うにあたって介護職の役割について理解する						石原
2	介護等体験の実際：介護保険制度及び介護保険施設について理解する						石原
3	体験者に臨む基本的姿勢・マナー：服装・挨拶・記録・報告						石原
4	高齢者の理解：高齢者とは身体的、精神的にどのような状態になっているのか理解する						石原
5	高齢者認知症に対する基礎知識：実体・身体的・精神的特性と対応・介護						石原
6	デイサービスなど的高齢者施設での体験①：利用者とのコミュニケーションを図る。						石原
7	デイサービスなど的高齢者施設での体験②：利用者に必要な介護について理解し実践する。						石原
8	デイサービスなど的高齢者施設での体験③：感染の対応						石原
9	障がい児（者）に対する基礎知識：知的・身体障がい児（者）の特徴理解と個別的対応・介助						田中
10	障がい児（者）に対する基礎知識：視覚・聴覚・発達障がい児（者）の特徴理解と個別的対応・介助						田中
11	特別支援学校の基礎知識：特別支援教育の制度と実際						田中
12	障害児施設での体験：自ら進んで交流を図りながら障害のある人と共に過ごすとはどういうことか考える						田中
13	児童生徒の学習環境や学習方法、学習内容について学ぶ						田中
14	児童生徒とのかかわりの視点や、児童生徒の自立を支援するために必要なことについて考える						田中
15	障がい児施設での体験の振り返り：作成したレポートをもとに、体験を共有する						田中
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業・演習に臨む姿勢、出席状況	10	講義の出席状況、演習等の積極的な取り組み姿勢について		課題レポート	30	石原：認知症の利用者さんに対応する時、どの様な点に注意すべきかとめる。 田中：課題を十分に理解し自分なりの意見、考察をする。	
実習レポート・実習記録	60	教職をめざす者として高齢者・障がい児（者）に対する受け止めが、実習後にどのように変化したかを中心にまとめること。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①高齢者、障がい者と交流する機会が多い地域の行事及びボランティアにできるだけ参加し、高齢者及び障がい児（者）との交流をし理解を深め、ノーマライゼーションの理念を培う。 ②特別支援教育の制度と実際を理解し、障害児への合理的な配慮と適切な支援について実体験する。 ③教員や介護職者は対人援助者と言える。対人援助を行う人は自分ほどの様な価値観を持っているのか、人と接するときの様な見方をするのか、書き出してみる。[30分] ④自分の住んでいる地域にはどのような様な介護施設があるか調べる[60分] ⑤特別支援教育の制度と実際を理解し、障がい児への合理的な配慮と適切な支援について実体験する。</p>				<p>①提出物に記された関心・疑問を次回以降の授業内容に反映させる。 ②講義の前後に疑問点等の質問を受ける。講義開始時は前回の講義内容等を復習して講義を進める。 ③実習に行っても困らないように最低限度の介護技術を取得する。 ④提出物に記された関心・疑問を次回以降の授業内容に反映させる。</p>			
受講生に望むこと	①地域に住んでいる高齢者や障害者が増加しているため、行事・ボランティア等を通して積極的に交流するようにする。 ②障害に関する正しい知識を身につけた上で、自分はどう関わるのかを考える。 ③授業の中で、障害のある子どもやその家族の個人情報を扱うため、授業で得た情報の取り扱いに注意する。 ④障害に関する正しい知識を身につけた上で、自分はどう関わるのかを考える。授業の中で、障害のある子どもやその家族の個人情報を扱うため、授業で得た情報の取り扱いに注意する。			教科書・テキスト	その都度資料を配布する。		
指定図書／参考書等	随時授業内で提示する。			その他・特記事項	なし		

社会学科
(1年次)

授業科目名	SK100U 基礎ゼミⅠ		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	竹中 祐二・小林 正史・田中 純一・松下 健・西尾 祐美子 (代表教員 竹中 祐二)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>大学生としての基本的な学びの姿勢および知的探求の方法を修得することを目的とする。具体的には、①ノートテイキングの基本的技術、②文章読解力の強化と文章作成能力の育成による要約力の強化、③図書資料などをはじめとする情報の収集方法と整理活用術、④レポート作成の基本的事項を修得する。また、ゼミ内での共同作業やディスカッションを通じて人間関係のあり方やコミュニケーションについても学ぶ。</p>			<p>①大学で学ぶために必要なスキルを身につけ、それを実践することができる。 ②学びに必要な情報の収集方法を知り集めることができる。 ③ポイントを正確に読み取ることができる。 ④書かれた内容を概要と意見に分けてまとめることができる。 ⑤学び合えるディスカッション方法を身につけ互いに学び合う姿勢を身につける。</p>				
教授方法	演習：毎回レジュメを作り、発表・ディスカッションをする形式で進める。						
履修条件	社会学科1年生または社会学科の学生で再履修となった者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	全体オリエンテーション（履修登録の確認等）／ゼミ内自己紹介					全員	
2	図書館オリエンテーション：図書館の利用の仕方やルール、図書資料の利用の仕方等について学ぶ。					全員	
3	テキスト第1章 スタディスキルズとは：大学での学びに必要な事項を学び、長期目標を立てた上で、ソレを実現するための今学期の目標を立てる。					各担当教員	
4	テキスト第2章 ノート・テイキング：ノートをとる意義とコツを学ぶ。総合教養Ⅰのノートを持参し、し、実践できているか確認する。					各担当教員	
5	グループ・ディスカッション：北陸学院セミナーⅠのグループ討論の準備を行う。					全員	
6	テキスト第3章 リーディングの基本スキル(1)：テキストを読むとはどういうことかを学ぶ。					各担当教員	
7	テキスト第3章 リーディングの基本スキル(2)：二度読み方式について学ぶ。					各担当教員	
8	テキスト第4章 より深いリーディングのために：要約の仕方・意義・実践について、また感想・意見を持つことの意義とまとめ方について学ぶ。					各担当教員	
9	第1回発表：指定された課題についてレポートを作成し、発表する。					各担当教員	
10	テキスト第8章 アカデミック・ライティングの基本スキル：レポート作成の手順や論文作法について学ぶ。					各担当教員	
11	テキスト第9章 効果的なアカデミック・ライティングのために：分かり易い文や表現方法とはどのようなものかを学ぶ。					各担当教員	
12	テキスト第11章 プレゼンテーションの基本スキル：プレゼンテーションの基本を理解する。					各担当教員	
13	テキスト第12章 わかりやすいプレゼンテーションのために：第2回発表に向けた準備に必要な確認事項を学ぶ。					各担当教員	
14	第2回発表：指定された課題についてレポートを作成し、発表する。					各担当教員	
15	まとめ：前期の学びを総括すると共に、期末課題や後期に向けた履修指導等を行う。					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	60	①指定した書式・時数・枚数になっているか。 ②ポイントを押さえ、概要と意見を分けた文章になっているか。		レジュメ作成および発表	20	①分かりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。 ②聞き手が理解しやすい発表となっているか。	
授業参加態度	20	①ディスカッションへの積極的な参加をしているか。 ②人の意見を聞きつつ、自分の意見をきちんと述べているか。 ③課題にまじめに取り組んでいるか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①基礎ゼミⅠで学んだ事柄・スキルを他の授業でも活かすこと。 ②図書館やインターネットなど様々な文献・情報により視野を広め、知識を増やすと共に、集めたものは整理しておくこと。 ③学内外での学びは「社会学」の対象の1つと捉え、分析的に観察し、気づいたことはノートにメモしておくこと。</p> <p>…上記①～③を踏まえつつ、 ・講義に関するレジュメを事前に配付するので必ず目を通しておくこと。 [30分] ・学んだことはその日のうちに復習すること。 [30分]</p>				個々の教員の指導に従うこと。			
受講生に望むこと	基礎ゼミⅠは大学の学びの最も土台となる科目である。これからの4年間を有意義に過ごすか否かがかかっているとんでも過言ではない。大学およびそれ以降の社会に必要なスキルを中心に学ぶので、この授業で学んだスキルが身につくよう積極的に授業に臨むこと。			教科書・テキスト	『知へのステップ（第4版）』学習技術研究会編 ころしお出版 2015年 ISBN：978-4-87424-650-1		
指定図書参考書等	なし／『大学生のためのリサーチリテラシー入門－研究のための8つの力－』山田剛史・林創著 ミネルヴァ書房 2011年 ISBN：978-4-623-06045-0			その他・特記事項	課題提出日、発表日などに欠席することは評価に大きくかかわるので注意すること（なお、配慮される欠席理由については学生要覧を参照すること）。		

授業科目名	SK105U 基礎ゼミⅡ		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	松下 健・小林 正史・俵 希實・田引 俊和・西尾 祐美子 (代表教員 松下 健)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>大学生としての主体的・自主的な学びの姿勢および知的探求の方法を習得することを目的とする。具体的には、①文献・データの検索と整理、②レポートの文章作成（前期からの継続と発展）、③プレゼンテーションのしかた、④ディスカッションのしかた（11月の「北陸学院セミナーⅡ」でのグループ討論を念頭）に重点をおいて学ぶ。テーマに沿ったレポートを作成し、発表する。</p>			<p>①大学で学ぶために必要なスキルを身につけ、それを実践することができる。 ②文献の調べ方とデータの検索方法を身につける。 ③レポートの書き方を身につける。 ④プレゼンテーションのスキルを身につける。 ⑤新しいアイデアを生み出すためのグループ・ディスカッションのスキルを身につける。</p>				
教授方法	演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業概要を理解する。成績指導を受け、履修登録確認を行う。					全教員	
2	テキスト第6章 インターネットによる情報収集					全教員	
3	レポート課題の選定					各担当教員	
4	テキスト第7章 情報の整理：レポート作成に用いる文献の整理方法と文献リストの作成方法を習得する。					各担当教員	
5	レポートの構想発表					各担当教員	
6	テキスト第8章 アカデミックライティングの基本スキル：「基礎ゼミⅠ」での学びをさらに深める。					各担当教員	
7	テキスト第9章 効果的なアカデミックライティングのために：「基礎ゼミⅠ」での学びをさらに深める。					各担当教員	
8	グループ・ディスカッション：北陸学院セミナーⅡのグループ討論を念頭に置いてディスカッションスキルを学ぶ。					全教員	
9	北陸学院セミナーⅡグループ討議のふりかえり					各担当教員	
10	テキスト第11章 プレゼンテーションの基本スキル：「基礎ゼミⅠ」での学びをさらに深める。					各担当教員	
11	レポート中間発表					各担当教員	
12	テキスト第12章 わかりやすいプレゼンテーションのために：「基礎ゼミⅠ」での学びをさらに深める。					各担当教員	
13	レポート内容の発表準備					各担当教員	
14	レポート最終発表					各担当教員	
15	履修指導 アンケート調査 プロゼミ説明会					全教員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	60	①指定された書式・字数・枚数になっているか。②ポイントを押さえ、事実・データと意見を分けた文になっているか。		授業参加態度	20	①ディスカッションに積極的に参加したか。②人の意見を聞きつつ、自分の意見をきちんと述べているか。③課題にまじめに取り組んでいるか。	
レジュメ作成と発表	20	①わかりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。②聞き手が理解しやすい発表となっているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①各回の授業で指定された課題（テキスト、サブテキスト、参考図書の指定部分をまとめ、レジュメを作成するなど）を事前に行う。[30分以上] ②レポート作成のための文献・情報の収集と整理を十分に行う。[30分以上] ③レポートの中間発表でのコメントを踏まえて、必要な文献等を読み、内容を改訂する。必要に応じて調査なども行う。 ④図書館やインターネットなどさまざまな文献・情報により視野を広め、知識を増やすとともに、集めたものは整理しておく。 ⑤学内外の学びは社会学の対象の一つととらえ、観察して気づいた点をメモする習慣をつける。</p>				ゼミ・グループ活動、レポート、パワーポイントなど必要に応じて対応します。また、成績評価等の疑問・質問等には随時応じます。			
受講生に望むこと	基礎ゼミⅡは、基礎ゼミⅠとともに大学の学びの土台となる科目である。大学およびそれ以降の社会に必要なスキルを中心に学ぶので、学んだスキルが身につくよう積極的に授業にのぞむこと。			教科書・テキスト	『知へのステップ』第4版 学習技術研究会編 くろしお出版 2015年 ISBN：978-4-87424-650-1		
指定図書参考書等	指定図書 なし/参考図書 『大学生のためのリサーチリテラシー入門』山田剛史・林創 ミネルヴァ書店 2011年 ISBN：978-4-623-06045-0			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SK110U 社会学リ-講義		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	田中 純一・楠本 史郎・小林 正史・田引 俊和・俵 希實・西村 洋一・真砂 良則・松下 健・若山 将実・竹中 祐二・西尾 祐美子・若杉 亮平（代表教員 田中 純一）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
社会学科で学んでいくにあたり、この学科で学ぶことができる研究領域や分野について理解することを目的に、社会科学の選任教員が順番に、毎回自分の専門分野の内容についてわかりやすく講義する。これによって学生は、社会学および関連領域の中から興味ある分野や自分が研究したいテーマを見つけ、2年次のプロゼミ選択の際の判断材料とする。			①社会学科で学ぶにあたり、強い好奇心をもって各分野の初歩を学び、向上心を高める。 ②講義で扱う各分野の内容を理解する。 ③各回の講義で学んだことを整理し、レポートにまとめることができる。				
教授方法	社会学科専任教員によるオムニバス講義。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション：社会学科での学びの目的、および本授業の目的と進め方を理解する。					田中	
2	心の不調や発達障害などがある人たちについて正しく理解するとともに、互いを認め合える共生社会・ノーマライゼーション理念について学ぶ。					田引	
3	自然災害からの復旧・復興過程における社会的課題について「人間の復興」の視点から考える。					田中	
4	「メディアと社会」から考える社会心理学：インターネットの利用が私たちにもたらすものについて検討を行い、その中から社会心理学の特徴をとらえる。					西村	
5	カウンセリングや心理検査など、心理学の研究知見を対人援助に応用する臨床心理学について学ぶ。					松下	
6	不適応のリスクが高い思春期・青年期において発達障害児が抱えやすい問題や適切な支援方法について、最新の研究知見を交えながら理解する。					西尾	
7	「社会病理学」の成り立ちを振り返り、「社会病理」とは何かという問いに向き合うことを通じ、「社会学」の世界への理解を深め、また、私達が生きる「社会」それ自体の在り方への理解を深める。					竹中	
8	「多文化共生」をテーマとし、社会学的思考、社会調査結果を用いて、社会のあり方について考える。					俵	
9	文化間比較という人類学の方法に基づいて、日本の伝統的食文化の諸特徴を意味を検討する。					小林	
10	情報学とは何かを考えるため「情報とは何か」という根本的な問いを取り上げる。情報に関わる歴史的な議論を踏まえ、情報メディア論への基本的な理解を目的とする。					若杉	
11	国政や地元石川県の政治の時事問題を1つ取り上げ、その政治の時事問題がなぜ生じたのかを、政治学的なアプローチによって検討していく。					若山	
12	「宗教と社会」の関係を見る方法論の概略をとらえ、一例として、宗教的確信が実際にどのように展開され、行政を動かしたかを見る。					楠本	
13	障害概念の基礎的理解、および社会との関係に関して考察する。障害がある人のスポーツ、だれもが住みやすい街づくりといったテーマをもとに考える。					田引	
14	超高齢社会を迎え、介護問題をはじめ高齢者をめぐる福祉ニーズは拡大化、多様化してきている。このような動向を踏まえ、高齢者福祉の意義やあり方について考える。					真砂	
15	石川県の現状を踏まえながら、男女共同参画社会について考える。					俵	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	90	①各回の授業担当者ごとに出される課題レポートの提出（全15回分のレポート提出） ②レポート内容（評価基準については「授業外における学習」欄を参照すること）		受講態度	10	授業への積極的な取り組み姿勢	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
①講義で学んだことを整理・復習する（30分以上）。 ②講義中に紹介された図書や資料については講義後各自で読む/調べる（30分以上）。 ③講義によっては事前に関連する資料を配布するので、熟読すること。 ④こころと体の健康、高齢社会などについて、社会のニュースを意識し、考えをまとめる（福祉分野）。 ⑤以下の評価基準に留意しレポートを作成すること。 文章、文体の統一、漢字とかなの使い分け方針の一定性、誤字・脱字、文頭と文末の対応、一文の長さ、段落の一字下げの有無等。				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
				提出されたレポートについては、次回以降の講義内に総評としてコメントする。			
受講生に望むこと	授業は、教員と学生双方の意欲と態度によって成り立つので、学生の皆さんには、積極的な授業への参加態度（教員の問いかけに答えるなど）を望みます。			教科書・テキスト	各回の担当者がレジュメ・資料を配布する。		
指定図書参考書等	なし/各回の担当者の指示に従うこと。			その他・特記事項	①各回の担当者による課題レポートの提出期日は厳守すること。期限後の提出は、いかなる理由があっても受理しない。 ②レポート提出期限は、課題が出された翌週の月曜13:00。提出場所は、社会学研究支援センターの所定ボックス。		

授業科目名	SK115U 社会学概論A		開講学科	社会学科	必修・選択	必修
担当教員名	俵 希實					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	社会福祉士			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業では社会学の基本的な理論と概念、そして社会学の基本的な考え方を理解し、現代社会の捉え方を学ぶ。授業では、具体的に社会問題や人々の生活を取り上げ、社会学の視点から解説する。それらを踏まえて社会学とはどのような学問であるのか、どのように社会に貢献しているのかについて考える。			①社会学の基本的な理論と概念について理解する。 ②社会学の基本的な考え方ができるようになる。 ③現代社会が直面する問題を社会学の理論や概念を用いて説明することができるようになる。			
教授方法	講義					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。					
2	社会学とはどのような学問なのか①：社会学が対象としている「社会」とは何か、社会と人間との関わりについて考える。					
3	社会学とはどのような学問なのか②：他の社会科学との違いから社会学を捉える。社会学における「前近代」「近代」「脱近代」について理解する。					
4	【人と社会の関係捉える】 行為論①：行為と行動の違い、行為の種類、行為の4類型について理解する。					
5	行為論②：準拠集団、社会規範について理解する。					
6	行為論③：社会化、個人主義、パーソナリティについて理解する。					
7	相互作用論①：地位と役割、役割の分類、役割葛藤、役割演技、ダブルコンティンジェンシーについて理解する。					
8	相互作用論②：予言の自己成就について理解する。					
9	【現代社会への理解を深める】 集団論①：集団とは何かを学び、その上で個人と集団との関係、社会と集団との関係を理解する。					
10	集団論②：内集団と外集団、集団の諸類型について学ぶ。					
11	集団論③：最も大規模な機能集団である官僚制組織の特徴やその組織の構成員に与える影響について理解する。					
12	【生活を理解する】 家族と社会：社会の基礎集団である家族について理解する。					
13	生活と社会：男女共同参画社会に着目して生活時間について考える。					
14	【社会問題を理解する】 現代社会における諸問題の提示：差別、社会的排除などを取り上げ、それについて説明する。					
15	発表：現代社会の諸問題を取り上げ、それについて発表する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
期末試験	60	授業内容について理解しているか。		提出物	10	①課題に対して適切な内容になっているか。 ③定められた期間内に提出しているか。
発表	15	講義内容との関連で、的確な発表ができていないか。		受講態度	15	積極的に授業に参加しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
発表の準備は授業外で行うこと。授業中に配布するレジュメを事後に確認し、復習すること。講義内容にとどまらず、様々な情報を通じて、現代社会のあり方、諸問題の背景と原因について自己学習すること。[45分]				各グループの発表に対してコメントする。		
受講生に望むこと	意欲的態度を持って授業に参加してください。			教科書・テキスト	レジュメを配布する。	
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	SK120U 社会学概論B		開講学科	社会学科	必修・選択	選択必修
担当教員名	竹中 祐二					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は社会学科の基幹科目である。社会（集団）に適応して生きていくための思考と行為についての基本的事項、社会学の対象分野や分析方法について講義すると同時に、皆と共に考えていきたい。そうすることで、自立の人間として成長していく基礎力を養成したいと考える。公務員等の試験にも多く出題される内容を含んだ科目なので、幅広く講義する予定である。</p>			<p>①社会学の基本的な理論・概念を適切に説明することができる。 ②社会学の基本的な理論・概念を具体的な事例に当てはめて説明することができる。 ③現代社会を様々な切り口から理解することができる。 ④人間や社会に関わる様々な事柄について自ら問題関心を持って観察することができる。 ⑤自らの問題関心や意見に沿って、他者との意見交換や共有を積極的に行うことができる。</p>			
教授方法	講義・グループディスカッション					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	イントロダクション：社会学とはどういった学問であるのか、何を学ぶことができるのかといったことについて理解する。					
2	社会集団論：一般的な社会集団を例に挙げながら、自己と他者、個人と社会の関係について理解する。					
3	集合行動論：組織・集団という明示化された枠組みを超えた領域における人間行動について、社会というフィルターを通して理解する。					
4	地域社会・都市：生活圏としての地域社会・都市が人々にとって持つ意味を理解すると共に、地域社会・都市をめぐるマクロな変動について理解する。					
5	個人・家族：親密圏としての家族が個人にとって持つ意味を理解すると共に、マクロ社会の変化に伴って家族が持つ意味を再考し、理解する。					
6	ジェンダー論：自己と他者の関係構築や家族の構成といった論点の応用から、現代社会におけるセクシャリティ・ジェンダー問題について理解する。					
7	社会病理現象：時代や文化によって異なる社会病理現象について理解すると共に、病理性を規定する社会という存在そのものについても理解する。					
8	逸脱行動論：逸脱行動と社会病理現象の異同について理解すると共に、代表的な逸脱行動論についても理解する。					
9	医療・看護と社会：「医療・看護」を切り口に感情社会学や臨床社会学について学ぶと共に、現代社会論から価値の変容についても理解する。					
10	少子・高齢化と福祉政策：少子・高齢化現象をマクロな視点から理解し、それらをめぐる福祉政策実践についても理解する。					
11	消費社会論：消費行動の変容を切り口に、マクロ社会の変動と共に自己と他者の関係性の変容についても理解する。					
12	リスク社会論：大規模災害や食中毒事件等の問題を素材としながら、リスク社会論について理解する。					
13	情報社会論：情報技術の発達によってもたらされた現代の情報社会が成立した過程を理解すると共に、それが人々に与えた影響について社会的観点から理解する。					
14	国際化と多文化共生：情報といった形の無いものだけではなく、実際のヒトとモノの流動性が高まった現代社会のあり様を理解し、それによって我々が直面しなければならない問題・課題について考える。					
15	グループディスカッション：これまでの学習内容を踏まえて、「社会」とは何か、「社会学」とは何か、「社会的思考様式」とはどういったものであるのかについて、他者との意見交換や共有を通して、自らの考えを深める。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業への参加度	20	日常的な授業態度を評価する。		グループディスカッション	20	グループディスカッション時の積極的な参加態度等を評価する。
レポート	60	授業の到達目標に即して、この授業で学んだ内容を適切に分かり易くまとめられているか評価する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>①各回の授業で学習した社会学理論や社会的視点、社会学用語について、様々な事例に応用できるように、社会学のテキストや事典を活用して復習する。[45分] ②各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]</p>				<p>・各回の授業でコミュニケーションペーパーの提出を求め、そこでの質問は次回に全体共有する。</p>		
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から社会の様々な事柄に対してアンテナを張り巡らせ、疑問を持つことが望ましい。 ・問題意識を高めること、多様な視点・観点から捉え直すことによって社会的な思考様式の獲得は大いに進むと思われるが、自分が興味を持っている事柄について考えることをその入り口とするところから始めていただきたい。 			教科書・テキスト	なし（レジュメを配付する）	
指定図書／参考書等	<p><参考書> 『社会学がわかる事典 ― 読みこなし使いこなし活用自在』 森下伸也 日本実業出版社 2000年 ISBN:978-4534031730</p>			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な学習やグループ作業について、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。 ・コミュニティ文化学科科目「現代社会の基礎知識」と合同開講である。 	

授業科目名	SK125U 社会調査論		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	俵 希實						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	社会調査士・社会福祉士				
授業の概要			授業の到達目標				
社会学の基礎的な知識と関連させながら、学問の方法としての社会調査法を学ぶ。経験的社会学研究の方法論として、社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を解説する。社会調査の種類・目的、実例、社会調査の倫理、社会調査の歴史等についての基礎知識を学び、これからの社会調査のあり方について考える。社会調査の方法の概要について、社会調査の全体像と個別作業との結びつきを実際例から把握する。以上によって、社会学を自ら学んでいく基礎を確立することを目指す。			①社会学の基礎的な知識、特に経験的社会学の成果について説明できるようになる。 ②社会調査の意義、目的、種類について説明できるようになる。 ③現代の社会環境のなかで社会調査を実施する際の、気をつけるべきポイントを理解する。 ④社会調査の全体像と、個別作業の結びつきについて理解する。				
教授方法	講義						
履修条件	学部生であること						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。						
2	社会学の見取り図（理論社会学と経験社会学）と社会調査の位置について理解する。						
3	社会調査の定義と目的について知り、意義を構築する。						
4	統計法と個人情報保護、そして統計リテラシーについて知識を習得し、有効性を考える。						
5	社会調査の種類（質的調査）を中心として、社会学調査の実際の例を学ぶ。						
6	社会調査（量的調査）のプロセスの全体像を把握する。						
7	社会学の理論と、リサーチクエスト（調査課題）、そして問題発見の仕方について理解し、実践的に考察する。						
8	社会調査（量的調査）の実際例を学び、その意義について考え、理解する。						
9	調査課題の設定について実践的に検討する。これまでの内容について 10 分程度の確認テストを行う。						
10	様々な実査の方法の長所と短所について理解する。						
11	調査票の構成について理解する。						
12	質問文の作成と、社会学で使われてきた尺度について、具体例に基づいて理解する。						
13	サンプリングの概念について学び、調査対象者を決めるといふことの意味を理解する						
14	サンプリングの実際の場面を模擬的に経験し、ポイントを理解する。						
15	調査の実施（郵送法）の具体的な手続きと注意点を理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加度	30	積極的に授業に参加しているか（提出物を含む）。		確認テスト	10	そこまでの授業内容についての正確な知識を獲得しているか。	
期末試験	60	各回の講義内容について理解しているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①教科書の該当範囲を事前に読んで、疑問点を考えてくる。 ②配布資料を事後に確認し、復習を行う。[60分]				確認テストについての解説を授業中に行う。			
受講生に望むこと	①講義内容に関して疑問点があれば、積極的に質問してください。 ②社会学と社会調査の結びつきについて、常に念頭におくようにしてください。			教科書・テキスト	『入門・社会調査法』（第3版）轟亮・杉野勇 編 法律文化社 2017年 ISBN：978-4-589-03817-3		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのA科目に準拠していません。		

授業科目名	SK130U 社会調査法		開講学科	社会学科	必修・選択	選択必修
担当教員名	俵 希實					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	社会調査士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>社会調査の基本的な知識と具体的な方法を学ぶ。 構想・計画→準備→実査→データの入力と点検→分析→報告という社会調査（量的調査）の全過程について順を追って解説する。実際に、リサーチ・クエスチョンを立てたり、質問文を作成したりすることで理解を深める。</p>			<p>①社会調査（量的調査）の全過程についての基礎知識を習得する。 ②量的調査に係る実施作業のイメージをつかむことができるようになる。 ③他の人がおこなった調査データや分析結果を適切に読みとることができるようになる。</p>			
教授方法	講義					
履修条件	学部生であること					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準についての説明					
2	社会調査のデザイン（1）：問いを立てる 仮説を構成する					
3	社会調査のデザイン（2）：誰を対象にするのか					
4	実査の方法：量的調査における方法の選択					
5	調査票の作成（1）：調査票の構成 質問の作成手順					
6	調査票の作成（2）：質問文の形式 質問の作成および配置に関する留意点					
7	サンプリング：ランダムサンプリングがなぜ必要か 標本抽出枠とカバレッジ誤差 実行可能性や利便性への配慮 層化抽出 無作為標本からの乖離					
8	調査の実施：郵送法実査・個別面接法実査の具体的な手順と注意点					
9	データファイルの作成（1）：エディティング コーディング					
10	データファイルの作成（2）：データ入力 データクリーニング					
11	データの基礎的集計（1）：変数の種類 質的変数の要約 量的変数の要約（代表値）					
12	データの基礎的集計（2）：量的変数の要約（散布度）					
13	変数間の関連：相関係数 クロス表の作成					
14	変数間の関連：関連の指標					
15	調査報告とデータの適正管理					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
受講態度	15	積極的に授業に参加しているか。		期末試験	70	授業内容を理解しているか。
提出物	15	①適切な回答を記述しているか。 ②指定された期日に提出しているか。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
事前学習としてテキストの該当箇所を読んでくること。事後学習として授業中に配布したレジュメを確認すること。ワークシートを指示されたところまで仕上げること。[60分]				提出されたワークシート（テーマ・仮説・質問文）について、よく考えられた回答を授業中に紹介する。		
受講生に望むこと	粘り強く学習してください。授業で得た知識を他の授業や授業外でも活用するようにしてください。			教科書・テキスト	『入門・社会調査法』（第3版）轟亮・杉野勇 編 法律文化社 2017年 ISBN：978-4-589-03817-3	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのB科目に準拠しています。	

授業科目名	SK135U 統計データの読み方		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	若山 将実						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	社会調査士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>社会の様々な現象を理解する上で、官庁統計・資料に代表される統計データや調査資料を利用する機会は近年ますます多くなってきています。この授業の目的は、官庁統計・資料や、それを利用した調査報告・研究論文が読めるようになるための基本的知識を学習することにあります。具体的には、(1)単純集計、度数分布、代表値、クロス集計などの記述統計データの読み方や算出方法、(2)様々なグラフの読み方やその作成方法、(3)相関係数などの基礎的統計手法や相関関係と因果関係の違い、(4)質的データの読み方と分析のための利用法について学習します。</p>			<p>①単純集計、度数分布、代表値、そしてクロス集計などの記述統計データの読み方や算出方法を習得する。 ②グラフの読み方や特性、さらに作成の仕方について習得する。 ③質的データの読み方と基本的なまとめ方について習得する。 ④日常生活の様々な側面で利用されている統計データの利用のされ方の正誤を判別できるようになる。</p>				
教授方法	基本的に講義形式による授業となりますが、可能な限りExcelやSPSSなどの統計ソフトを利用した実習を行います。						
履修条件	学部生のみ履修可。社会調査論と社会調査法を履修済が望ましい。(単位未修得可)						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：授業の進め方と成績評価の方法について説明した後、統計データとは何か、社会調査法とは何か、そしてなぜ社会調査法を学ぶ必要があるのかについて考えます。(統計データの読み方や社会調査法を学ぶ意義を理解する。)						
2	分析とは何か：統計データを「分析する」意味について考えます。(理論・仮説に基づく分析の意味を理解する。)						
3	データの特徴：データにはどのような特徴があるのか、変数と尺度という言葉を用いながら説明します。(統計データの特徴について理解する。)						
4	単純集計：世論調査等の統計データを単純に集計し、それを一覧表にまとめた度数分布表とヒストグラムについて説明した後、その作成法の実習を行います。(度数分布表とヒストグラムについて理解し、それらを作成できるようになる。)						
5	記述統計Ⅰ：データの中心的傾向を見る指標として平均、中央値、そして最頻値について説明した後、それらの算出法の実習を行います。(記述統計データからデータの中心的傾向を把握できるようになる。)						
6	記述統計Ⅱ：データのばらつきを測る指標として範囲、分散、そして標準偏差について説明した後、それらの算出法の実習を行います。(記述統計データからデータのばらつきを把握できるようになる。)						
7	クロス集計Ⅰ：二種類のデータの関係を捉える方法として、クロス集計表について説明します。(クロス集計表から2つのデータの関係を捉えることができるようになる。)						
8	クロス集計Ⅱ：世論調査データを使用したクロス集計表を作成する実習を行います。(クロス集計表を作成することで、世論調査における2つの回答の関係性を推測できるようになる。)						
9	相関Ⅰ：二つのデータの直線的な関係を捉える方法として、相関の考え方と相関係数について説明します。(相関関係の基本的な考え方と、それを表す相関係数の算出法について理解する。)						
10	相関Ⅱ：二つのデータの関連性を見極める上で理解しておく必要のある相関関係と因果関係の違いや、擬似相関について説明します。(二つのデータの関連性を見極めることの難しさを理解する。)						
11	相関Ⅲ：実際の統計データを利用し、統計ソフトを使った散布図の描き方や相関係数の算出法などの実習を行います。(散布図の作成法や相関係数の算出法を実習することで、二つのデータの関連性の有無を自身で判断できるようになる。)						
12	質的データの読み方Ⅰ：質的調査と呼ばれる研究方法について説明した後、観察調査の諸類型やまとめ方について紹介します。(質的調査法と量的調査法の違いを理解する。そして観察調査の種類やまとめ方を理解する。)						
13	質的データの読み方Ⅱ：インタビュー調査とその手順について説明し、実際にインタビュー番組を見ながらインタビュー調査の有有用性について考えます。(インタビュー調査の意義を理解する。)						
14	質的データの読み方Ⅲ：ドキュメントの諸類型について説明した後、ドキュメント分析の方法を紹介し、その意義について考えます。(ドキュメントを分析することの意義を理解する。)						
15	全体のまとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小テスト(毎回)	40	毎回の授業内容を理解できているか。		レポート	50	ポイントを押さえた読みやすいレポートを書くことができるか。	
授業参加状況	10	授業への取り組み姿勢。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>①授業で使用するレジュメ(資料)は、メンソフィアを通じて授業前日までに配布するので必ず目を通してください。[30分] ②毎回の講義後に統計データの読み方に関する練習問題を小テストとして出すので、次回授業前までに提出してください。[50分]</p>				<p>①毎回の小テストおよびそれに付属するリアクションシートは、次回冒頭に採点およびコメントを付けて返却します。 ②レポートは、可能であれば次学期冒頭にコメントを付して返却することを検討します。</p>			
受講生に望むこと	<p>①統計データは、日常生活のあらゆる側面で使われています。日頃からそうした統計データの利用のされ方に注目するようにしてください。 ②教室内での私語やスマートフォンの使用など、特定の学生による受講態度が講義に重大な悪影響を与えていることが度々認められた場合、その学生に対しては退室等の厳しい処置を取ることがあります。</p>			教科書・テキスト	特に用いません。レジュメ(自作テキスト)を通じて配布します。		
指定図書参考書等	<p>なし。/『社会調査の基礎—社会調査士A・B・C・D科目対応』篠原清夫・清水 強志・榎本環・大矢根淳著 弘文堂 2010年 ISBN-13: 978-4335551338、『データはウソをつく：科学的な社会調査の方法』谷岡一郎 ちくまプリマー新書 2007年 ISBN-13: 978-4480687593、『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』第3版 轟亮・杉野勇(編) 法律文化社 2017年 ISBN-13: 978-4589034892。</p>			その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのC科目「基本的な資料とデータの分析に関する科目」に準拠しています。		

授業科目名	S0100U データ処理基礎		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	若山 将実						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
ビッグデータなどが簡単に入手できるようになった現在、社会の様々な現象を理解する上でデータを適切に処理することのできる能力は社会でますます求められるようになっていきます。この授業の目的は、大学で社会調査を学んでいく前に求められるデータ分析に関する基本的な知識を学習することにあります。具体的には、データを実証的に分析する際に求められる方法論や分析を行うに際して求められるデータの基本的な見かた等をグループで学んでいきます。			①データを実証的に分析する方法論を習得する。 ②グラフの読み方や特性、さらに作成の仕方の基本について習得する。 ③日常生活の様々な側面で利用されている統計データの利用のされ方の正誤を判別できるようになる。				
教授方法	講義と演習によって進められます。授業の大部分は課題に主体的に取り組むことが求められるグループ学習を行う予定です。						
履修条件	社会学科の学生（基本的に1、2年生）のみ履修可						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：授業の進め方と成績評価の方法について説明した後、データ分析を学ぶ意義について検討します。（データ分析を学ぶ意義を理解する。）						
2	データとは何か①：データの定義や基本構造を説明します。（データの定義や基本構造を理解する）						
3	変数の中心を把握する：変数の平均的な傾向を確認する平均値、中央値、最頻値について学びます。（変数の中心を把握する方法を理解する）						
4	変数のばらつきを把握する：変数のばらつきを確認する範囲、分位数、分散、標準偏差について学びます。（変数のばらつきを把握する方法を理解する）						
5	実証分析の基礎①：社会現象をデータによって明らかにするとはいかようなことか。実証分析の枠組みについて説明します。						
6	課題①：社会問題をテーマに課題を提示します。受講者はグループを結成し、実証的な方法論に基づいてこの課題に取り組んでいきます。						
7	グループ学習：グループで提示された課題①に取り組みます。						
8	グループ発表：提示された課題①に対してグループで取り組んだ成果を発表します。						
9	実証分析の基礎②：因果関係の解明にあたって理論とは何か、仮説とは何かについて説明します。（理論と仮説の意味を理解する）						
10	相関分析の基礎：二つの変数の双方向の関係を分析する相関分析について学びます。（相関分析の基礎を理解・習得する）						
11	回帰分析の基礎：二つの変数の因果関係を分析する単回帰分析について学びます。（回帰分析の基礎を理解・習得する）						
12	課題②の提示：社会問題をテーマに課題を提示します。受講者はグループを結成し、実証的な方法論に基づいてこの課題に取り組んでいきます。						
13	グループ学習：グループで提示された課題②に取り組みます。						
14	グループ発表：提示された課題②に対してグループで取り組んだ成果を発表します。						
15	まとめ：授業全体のふりかえりとして、データ処理を行うにあたって注意すべき点について説明します。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	40	ポイントを押さえた読みやすいレポートを書くことができるか。		発表	40	課題に対してグループで取り組み、わかりやすい発表ができているかを見る。	
小テスト	20	毎回の授業内容を理解できているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①授業で使用するレジュメ（資料）は、メンソフィアを通じて授業前日までに配布するので必ず目を通しておいてください。[30分] ②毎回の講義後に統計データの読み方に関する練習問題を小テストとして出すので、次回授業前までに提出してください。[50分] ③グループ学習を進めます。グループ発表の準備はほぼ授業時間外で進めることになります。[90分]				①毎回の小テストおよびそれに付属するリアクションシートは、次回冒頭に採点およびコメントを付けて返却します。 ②期末レポートについては、可能な限り次学期初めに内容に関するコメントを配布することを検討します。			
受講生に望むこと	①統計データは、日常生活のあらゆる側面で使われています。日頃からそうした統計データの利用のされ方に注目するようにしてください。 ②教室内での私語や携帯電話の使用など、特定の学生による受講態度が講義に重大な悪影響を与えていることが度々認められた場合、その学生に対しては退室等の厳しい処置を取ることがあります。			教科書・テキスト	特に用いません。レジュメ（自作テキスト）を配布します。		
指定図書参考書等	なし／『社会調査のウソ：リサーチリテラシーのすすめ』 谷岡一郎著 2000年 文春新書 ISBN: 4-16-660110-5。『データはウソをつく：科学的な社会調査の方法』 谷岡一郎著 2007年 ちくまプリマー新書 ISBN: 978-4-480-68759-3。『原因を推論する：政治分析方法論のすすめ』 久米都男著 2013年 有斐閣 ISBN: 978-4-641-14907-6。			その他・特記事項	なし。		

授業科目名	S0105U 文化人類学		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	小林 正史						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
米を核とした日本の伝統的食文化（和食）の形成過程を文化間比較と考古学の方法を用いて検討する。			①単系的進化論（複雑な技術ほど優れており、シンプルな技術ほどクオリティが低い）の問題点を認識し、伝統的（手作り）技術の優れた面を理解する。				
教授方法	講義、施設見学、屋外での調理実験（天候による）						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業概要の説明						
2	和食の成立過程の概要						
3	埋蔵文化財センターの見学						
4	日本の初期稲作農耕民の調理方法						
5	調理実験の説明						
6	調理実験						
7	調理実験の整理						
8	古代の米蒸し調理： 和食の成立への大きな転換点である米調理とオカズ調理の変化を学ぶ						
9	中世における和食の成立						
10	和食の成立の背景： 炊飯民族誌の概要						
11	和食の成立の背景の解明： 炊飯民族誌の比較						
12	和食の成立の背景の解明： 食べ方の文化間比較						
13	現代における和食の変化						
14	現代における和食の意義						
15	レポート振り返り						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	10	積極的に授業およびグループワークに参加している。		課題・小テスト	40	授業中のワークや小テストにおける理解度	
レポート	50	発表の仕方と提出されたレポートにみられる理解度、論理的説明、および独自性					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
レポート課題は授業外で行うこと〔平均45分〕。課題リーディングなどを授業外で行うこと〔平均45分〕				レポート発表の後、振り返りを行う。			
受講生に望むこと	講義においても積極的な参加と質疑応答を望む。			教科書・テキスト	なし		
指定図書／参考書等	授業中に指示する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	S0110U 現代社会と福祉 I		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	真砂 良則						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>現代社会において、人々の生活問題は拡大化し、多様化している。この生活問題を解決・緩和し、さらには予防していくのが社会福祉である。授業では、現代社会における生活問題と福祉制度の意義や理念、福祉の原理をめぐる理論と哲学等について学ぶ。さらに、福祉制度の発展過程や福祉政策の課題等について学ぶ。</p>			<p>①現代社会に求められるソーシャルワーカーについて理解できる。 ②生活問題と社会福祉について理解できる。 ③現代社会における福祉制度と福祉政策について理解できる。 ④福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解できる。 ⑤福祉制度の発展過程について理解できる。 ⑥福祉政策の課題について理解できる。 ⑦福祉政策におけるニーズと資源について理解できる。</p>				
教授方法	テキストによる講義を中心に、必要に応じグループディスカッションを取り入れる。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	現代社会に求められるソーシャルワーカーについて学ぶ。						
2	生活問題と社会福祉について学ぶ。						
3	現代社会における福祉制度と福祉政策について学ぶ。						
4	福祉の原理をめぐる理論と哲学：社会福祉の目的と自立生活のとらえ方について学ぶ。						
5	福祉の原理をめぐる理論と哲学：「社会の制度」としての救済制度と社会福祉思想について学ぶ。						
6	福祉制度の発展過程：わが国における福祉制度の発展（前近代社会と福祉）について学ぶ。						
7	福祉制度の発展過程：わが国における福祉制度の発展（近代社会と福祉）について学ぶ。						
8	福祉制度の発展過程：わが国における福祉制度の発展（現代社会と福祉）について学ぶ。						
9	福祉制度の発展過程：欧米における福祉制度の発展について学ぶ。						
10	福祉政策の課題：福祉国家の国際比較（「福祉の生産」モデルと社会福祉政策等）について学ぶ。						
11	福祉政策の課題：福祉国家の国際比較（日本モデルの特徴等）について学ぶ。						
12	福祉政策の課題：社会福祉政策の新しい動向（ワークフェア等）について学ぶ。						
13	福祉政策の課題：社会福祉政策の新しい動向（ディーセントワーク等）について学ぶ。						
14	福祉政策におけるニーズと資源：社会生活ニーズについて学ぶ。						
15	福祉政策におけるニーズと資源：サービス・ニーズについて学ぶ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	80	・毎回の講義内容についてどれだけ理解しているか。		授業参加状況	20	・授業への積極的な取り組み ・ワークシート等の提出物（講義内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①授業の前にシラバスで各回の授業内容を確認し、テキストの該当箇所を読んでおく。[30分以上] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持ったことや疑問点に関して、自分で調べて理解を深める。[30分以上] ③日頃から社会福祉や社会保障等の問題に関心をもち、新聞・ニュース等に触れる。</p>				<p>毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回の冒頭に解説を行う。</p>			
受講生に望むこと	受け身ではなく能動的な姿勢（疑問をもつ、考える、発言する等）で臨んでほしい。			教科書・テキスト	『現代社会と福祉』 第2版 大橋謙策・白澤政和 編 (株) ミネルヴァ書房 2014年 ISBN978-4-623-06964-4		
指定図書参考書等	なし/授業において紹介			その他・特記事項	なし		

授業科目名	S0115U 現代社会と福祉II		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	真砂 良則						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要			授業の到達目標				
現代社会において、人々の生活問題は拡大化し、多様化している。この生活問題を解決・緩和し、さらには予防していくのが社会福祉である。授業では、社会福祉政策の策定過程、社会福祉制度、福祉サービスの供給やサービス利用について学ぶ。また、福祉政策と関連政策（医療政策、教育政策、住宅政策、労働政策等）の関係や海外の社会福祉等について学ぶ。			①社会福祉政策の策定過程について理解できる。 ②社会福祉制度について理解できる。 ③福祉サービスの供給について理解できる。 ④サービス利用について理解できる。 ⑤福祉政策と関連政策について理解できる。 ⑥海外の社会福祉について理解できる。 ⑦これからの社会福祉理論とソーシャルワークについて理解できる。				
教授方法	テキストによる講義を中心に、必要に応じグループディスカッションを取り入れる。						
履修条件	現代社会と福祉Iの単位の修得済が望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	社会福祉政策の策定過程：政策決定過程について学ぶ。						
2	社会福祉政策の策定過程：政策評価について学ぶ。						
3	社会福祉制度：社会福祉の法律と社会福祉基礎構造について学ぶ。						
4	社会福祉制度：社会福祉関係法制の展開について学ぶ。						
5	社会福祉制度：福祉サービスの供給とソーシャルワーカー等について学ぶ。						
6	社会福祉制度：ソーシャルワークと社会福祉制度の活用について学ぶ。						
7	福祉サービスの供給：福祉サービスの供給主体について学ぶ。						
8	福祉サービスの供給：福祉供給システムの多元化と財政について学ぶ。						
9	サービス利用：福祉サービスの利用主体について学ぶ。						
10	サービス利用：福祉サービスの利用過程について学ぶ。						
11	福祉政策と関連政策：医療政策とソーシャルワークについて学ぶ。						
12	福祉政策と関連政策：教育政策・住宅政策とソーシャルワークについて学ぶ。						
13	福祉政策と関連政策：労働政策・権利擁護政策とソーシャルワークについて学ぶ。						
14	海外の社会福祉について学ぶ。						
15	これからの社会福祉理論とソーシャルワークについて学ぶ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	80	・毎回の講義内容についてどれだけ理解しているか。		授業参加状況	20	・授業への積極的な取り組み。 ・ワークシート等の提出物（講義内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①授業の前にシラバスで各回の授業内容を確認し、テキストの該当箇所を読んでおく。[30分以上] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持ったことや疑問点に関して、自分で調べて理解を深める。[30分以上] ③日頃から社会福祉や社会保障等の問題に関心をもち、新聞・ニュース等に触れる。				毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回の冒頭に解説を行う。			
受講生に望むこと	受け身ではなく能動的な姿勢（疑問をもつ、考える、発言する等）で臨んでほしい。			教科書・テキスト	『現代社会と福祉』 第2版 大橋謙策・白澤政和 編 (株) ミネルヴァ書房 2014年 ISBN978-4-623-06964-4		
指定図書参考書等	なし/授業において紹介			その他・特記事項	なし		

授業科目名	S0120U 心理学概論A		開講学科	社会科学	必修・選択	選択	
担当教員名	西尾 祐美子						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
心理学概論では、心理学の基礎知識を学び、人間の様々な心理的機能について理解することが目的である。後期の『心理学概論B』に続くものとし、心理学の歴史・学習・言語・発達、パーソナリティ、臨床・健康を扱う。心理学は実験・調査・観察による客観的なデータに基づいて心を議論する学問であり、一般的なイメージとは少し異なるかもしれない。講義を通じて、直感や思い込みで心を語るのではなく、客観的・実証的な手法で解明することを実感してほしい。			到達目標は、主に3つある。 ①心理学とはどのような学問であるかを理解し、心理学に関する基礎知識を幅広く習得する。 ②人間の行動や心の働きを科学的な視点から理解しようとする姿勢を身につける。 ③心理学で身につけた知識がどのように心理的援助ひいては日常生活に結びつくかを知る。				
教授方法	講義形式、自分自身の体験や身の回りの出来事について心理学の基礎理論に基づいて考える機会も作る。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：授業の進め方や成績評価基準などを説明した後、心理学とはどのような学問か、その意義なども含めて学ぶ。						
2	心理学の歴史：学問としての心理学の成立前後および現代心理学を取り巻く状況を概説する。						
3	心理学の研究法：客観的・実証的な手法として、実験法、質問紙調査法、観察法、面接法の4つを取り上げて概説する。						
4	学習：学習のメカニズム（古典的条件付け、オペラント条件付け、モデリングなど）を概説する。						
5	言語：言語発達の過程や問題解決と推論、意思決定に関する理論などを概説する。						
6	発達（1）：生涯発達における各時期の発達の様相、主な発達理論（ピアジェ、エリクソン）について概説する。						
7	発達（2）：感情や自己の発達、対人関係（親子関係・友人関係）や社会性の発達について概説する。						
8	パーソナリティ（1）：類型論・特性論をはじめとし、さまざまなパーソナリティ理論（精神力動論、行動論、ヒューマニスティック論など）を概説する。						
9	パーソナリティ（2）：パーソナリティの測定法（信頼性・妥当性含む）およびパーソナリティの重要指標の1つである知能について概説する。						
10	精神疾患・障害（1）：精神疾患や障害の捉え方、主な精神疾患（統合失調症、気分障害、不安障害、摂食障害）について概説する。						
11	精神疾患・障害（2）：発達障害の定義や障害特性（知的障害、自閉症スペクトラム障害、注意欠如多動性障害、学習障害）について概説する。						
12	心理トリートメント（1）：エビデンスの検証法や基準を踏まえたうえで、精神力動的アプローチ、人間性中心アプローチについて概説する。						
13	心理トリートメント（2）：認知・行動療法アプローチ、家族アプローチ、組織・コミュニティアプローチについて概説する。						
14	健康：ストレスの定義やストレス対処法、健康への影響因について概説する。						
15	全体のまとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	50	試験の範囲や出題形式、配点等については、後日お知らせする。		小レポート	30	毎回、2～3語のキーワードについて400字程度でレポートをまとめて提出する。	
授業参加状況	10	授業への取り組み姿勢を評価する。		コミュニケーションシート	10	毎回の授業後に記入する、自己評価およびコメントや質問などを評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
毎回、指定したキーワードについてレポートをまとめる課題を出すので、授業後に欠かさず復習する習慣をつける。また、翌回に行う内容に関して、教科書の該当部分には必ず目を通すこと。[30分程度]				小レポートで習熟度を確認しながら、必要に応じて解説を行う。うまくまとまっていたレポートに関しては、全体への紹介を行う予定である。コミュニケーションシートを通じて挙げた意見や質問を取り上げ、授業時に全体に向けて回答する。			
受講生に望むこと	初めて学ぶことが多く、授業に参加するだけでは消化しきれないと思うので、教科書や配布レジュメも活用しながら知識の定着に努めてほしい。			教科書・テキスト	『心理学概論』岡市廣成・鈴木直人（監修）ナカニシヤ出版、2014年、ISBN-13:978-4779508301		
指定図書参考書等	なし／『心理学（第5版）』鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃（編）東京大学出版会、2005年、ISBN-13: 978-4130121095			その他・特記事項	なし		

授業科目名	S0125U 心理学概論B		開講学科	社会科学	必修・選択	選択	
担当教員名	西村 洋一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義は、心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。心理学概論Aにつき、私たちの心についての心理学的な理解について概説する。心理学概論Bでは、進化、対人行動、対人関係、感覚・知覚、認知といったテーマについて紹介を行う。特に、進化という観点について重点を置き、その概念を土台として、他のテーマについて解説を行っていく。それらを踏まえ、総合的に人の心の仕組みを理解することを目指す。</p>			<p>①進化という観点から人の心について言及することができる。 ②他者との関係のあり方を進化の視点から理解できる。 ③感覚・知覚、記憶、思考といった基本的な心の仕組みを理解している。 ④心理学という学問の性質を理解している。</p>				
教授方法	講義を中心にワークなどの体験も取り入れながら進める。						
履修条件	心理学概論Aを履修済が望ましい（単位未修得可）						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	進化とはどのようなものか 「進化」という考え方に親しめるよう紹介を行う。						
2	進化から人の心を考える 「進化」の視点から人の心や行動について考えることにどのような利点があるのか。						
3	他者と関係を形成する心 他者と関係を形成する際、相手の何に魅力を感じるのかについての知見を紹介する。						
4	進化の視点から見る対人関係① 親子関係についての知見を紹介する。						
5	進化の視点から見る対人関係② 恋愛関係についての知見を紹介する。						
6	進化の視点から見る対人関係③ 友人関係についての知見を紹介する。						
7	欲求・動機づけ、そして個人の適応を考える。						
8	感覚・知覚① 私たちは世界から刺激をどのように受け取っているのか。						
9	感覚・知覚② 周りの世界をどのようにして認識しているのか。						
10	感情① 感情はどのようにとらえられるか。						
11	感情② 感情は私たちの生活にどのように機能しているのか。						
12	認知① 記憶についての基本的な知見について紹介する。						
13	認知② 記憶の実際 記憶は私たちの日常と密接につながっていることを示す知見を紹介する。						
14	認知③ 思考について 私たちは「考える」ということをどのように行っているのか。						
15	まとめ：あらためて「心理学」について考えてみる。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	70	講義内容の理解度により評価を行う。		講義への参加度	30	講義中の姿勢および振り返りの内容により評価を行う。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①講義で説明された内容について、ノート、資料等を用いて復習を行い、次回に備える。[45分] ②講義で説明された理論や概念について、自分自身や身の回りの人にあてはめて具体的に考えてみる。[30分]			各回の振り返りの内容に対して次回にフィードバックを行う。				
受講生に望むこと	科学という堅苦しく思われるかもしれないが、「心」に対し科学の視点から切り込むということに浪漫を感じながら講義に臨んでほしい。			教科書・テキスト	『心理学概論』 京都大学心理学連合 2011年 ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-779-50399-3		
指定図書参考書等	なし/講義中に適宜紹介する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SL105U 経営学入門		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	野林 晴彦						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>私たちの生活は、企業およびその経営と密接な関係がある。身近な事例を通じて、企業に関するさまざまなテーマが、私たちの身の回りに存在していることを理解する。さらに企業行動の基本的な原理と、その社会生活とのかかわりについて学ぶ。授業を通じて、「経営についての視点」を修得することを目的としている。</p>			<p>①授業で設定されたテーマを理解する。 ②授業で学んだキーワードを用いて、テーマの内容を説明できる。 ③授業で学んだ基本的な専門用語を使って、短い文章を作成できる。 ④授業で学んだ基本的な専門用語を使って、自分の身近な事例を紹介することができる。</p>				
教授方法	講義（毎回配布する資料に「書き込み」を行いながら、理解を深める形式をとる）						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーションー生活の中で企業（経営）や社会との関わりを考えてみようー						
2	会社の一生 : 会社の誕生から成長、衰退、倒産までを考える						
3	会社はだれのものか : 「株式会社」の仕組みについて学ぶ						
4	会社の仕組み : 事会社はどのような組織があるのか、その構造がどうなっているかを問場						
5	会社で働くこと : 労働とそのマネジメント、また労働組合について理解する						
6	会社を動かす（経営戦略1） : 会社のミッション（経営理念）や経営戦略の3つのレベルについて学ぶ						
7	会社を動かす（経営戦略2） : 経営戦略のうち「競争戦略」について理解する						
8	【事例】（DVD）コンビニを作った素人たち						
9	【事例】（DVD）ヤマト宅急便の歴史						
10	ものが売れる仕組み : 身近な事例をもとに、マーケティングの基本について学ぶ						
11	経済社会の動きと企業経営 : 日本経済の歴史をもとに、企業経営との関係について学ぶ						
12	企業の社会的責任（CSR）と企業倫理 : 企業不祥事の事例から、企業の社会的責任や企業倫理について考える業について学ぶ						
13	新しい企業と経営のあり方 : NPOや近年注目されている社会的企業について学ぶ						
14	グローバル化時代の企業と経営のあり方 : 企業のグローバル化とそれに伴う経営課題について学ぶ						
15	まとめー全体を振り返り、今後の学びや進路選択に向けて考えてみようー						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	授業の配布資料から、穴埋めおよび論述問題を出題し、理解度を評価する		小テスト	30	簡単なキーワード、専門用語のチェックテストを行い、その理解度により評価する。(2回実施)	
授業参加態度	10	授業態度を評価対象とする。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①毎回の講義の最初に前回の復習を実施するので、講義前までに配布資料やノートを見直しておくこと [30分] ②授業後に、配布資料の内容をもう一度確認し、専門用語と財務諸表のルールを理解し覚えること [60分]</p>				小テストの結果は、次回の授業で返却するとともに、解説を行う。			
受講生に望むこと	教室の中だけが学ぶ場所ではない。普段の生活の中で接する会社やお店、あるいはテレビ・雑誌広告などを通じ、会社の経営について興味・関心を持つことを期待する。			教科書・テキスト	なし(毎回資料を配布する)		
指定図書参考書等	なし/『はじめの一步 経営学(第2版)』守屋貴司・近藤宏一 ミネルヴァ書房 2012年 ISBN978-4-623-06331-4			その他・特記事項	・コミュニティ文化学科科目「企業と社会」と合同開講である。		

授業科目名	SP100U 臨床心理学概論		開講学科	社会科学	必修・選択	選択	
担当教員名	松下 健						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士・公認心理師				
授業の概要			授業の到達目標				
臨床心理学は心理学の様々な知見を対人援助に用いることを目的とした、応用的な分野の一つである。その内容は多岐にわたるため、本講義では対象、査定方法、心理療法のモデル、心理療法の理論、心理療法の技法、臨床心理士が活躍する現場に焦点を当てて学習する。臨床心理学では人を理解することが重要であるため、技法や検査を体験することで自己や他者の特徴について理解を深める機会と、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて人とのコミュニケーションの取り方について考える機会を設けたい。			(1) 臨床心理学とは何かを説明できるようになる。 (2) 臨床心理学の対象は何かを説明できるようになる。 (3) 臨床心理学的査定とは何か、具体的にどのような方法があるかを説明できるようになる。 (4) 臨床心理学の理論を説明できるようになる。 (5) 臨床心理学の技法を説明できるようになる。 (6) 臨床心理士が活躍する現場を説明できるようになる。				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	臨床心理学の定義と歴史：臨床心理学とは何か、その定義と歴史を理解する。						
2	学校臨床心理学（不登校、いじめ、発達）：学校について臨床心理学的観点から理解する。						
3	発達障害：臨床心理学の対象のひとつである発達障害について、どのような特徴があるかを理解する。						
4	統合失調症：臨床心理学の対象のひとつである統合失調症について、どのような特徴があるかを理解する。						
5	気分障害、神経症：臨床心理学の対象である気分障害と神経症について、どのような特徴があるかを理解する。						
6	異常と正常、治療モデルと成長モデル：臨床心理学では異常と正常をどのように考えるのか、また、対象の変化をどのようなモデルに沿って考えるのかを理解する。						
7	心理査定（面接法、観察法）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、面接法と観察法に焦点を当てて理解する。						
8	心理査定（投影法）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、検査法の中でも投影法に焦点を当てて理解する。						
9	心理査定（知能検査、作業検査、質問紙）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、検査法の中でも知能検査、作業検査、質問紙に焦点を当てて理解する。						
10	心理面接（受理面接・終結、マイクロカウンセリング）：臨床心理学の面接はどのように行われるのか、面接の開始、面接の終了、面接の技法を理解する。						
11	精神分析の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論の一つである精神分析について、その歴史、精神分析理論の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。						
12	人間性心理学の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論の一つである人間性心理学について、その歴史、人間性心理学理論の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。						
13	行動療法・認知療法の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論である行動療法・認知療法について、その歴史、行動療法・認知療法の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。						
14	遊戯療法、家族療法、森田療法、内観、臨床動作法、自律訓練法：臨床心理学において頻りに利用される様々な心理療法について理解する。						
15	臨床心理士が働く現場（医療、教育、福祉）：臨床心理学を対人援助に実際に利用している臨床心理士がどのような現場で活躍しているのかを理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
リアクションペーパー	30	講義内容について自分の考えを記述すること。講義のメモではなく、内容から発展させた自分の考えを記述することが求められる。		講義の受講態度	30	グループディスカッションやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。	
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
講義内容に関連する内容について、参考図書をはじめとする臨床心理学に関連する学術的な書籍や論文を読み、知識や理解を深める予習が求められる。[60分] 内容の理解や知識の定着のために復習を積極的に行うことが求められる。[30分] グループでプレゼンテーションを行う際には講義以外にも仲間と打ち合わせや発表の準備を行う必要性が生じる場合がある。[60分]				期末レポートについては、次学期初めに内容に関するコメントを配布する。			
受講生に望むこと	シラバスの内容をよく確認した上で受講すること。 学習に自発的、積極的に取り組むこと。 グループディスカッションの時には他者と協調すること。 プレゼンテーションのために仲間と協力して学習に取り組むこと。			教科書・テキスト	なし。 適宜資料を配布する。		
指定図書参考書等	なし/園田雅代・無藤清子（2011）『臨床心理学とは何だろうか：基本を学び、考える』新曜社 ISBN:4788512262、岩壁茂・福島哲夫・伊藤絵美（2013）『臨床心理学入門：多様なアプローチを越境する』有斐閣 ISBN：9784641220034			その他・特記事項	1回程度、他学科の教員などゲストスピーカーをお招きする可能性がある。 受講生の理解度に応じて進度を変更する可能性がある。		

授業科目名	SW100U 地域福祉論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田中 純一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>地域福祉の基本的考え方についての理解を深めるとともに、地域福祉を推進する組織、機関、専門職の役割や地域住民、NPO、ボランティアなどの活動及び具体的連携のあり方について学ぶ。講義では具体的事例を検討することにより、今日求められる地域福祉について考えていく。</p>			<p>①地域福祉の発展過程、現状、今後求められる方向性について理解する。 ②地域の現状と課題、解決のための具体的アプローチを学び、地域福祉の重要性について理解する。 ③地域福祉について自分のことばで論じることができる。</p>				
教授方法	講義、グループワーク						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス						
2	地域福祉の基本理念 地域福祉の考え方、概念・理念について学ぶ						
3	日本型福祉社会とは何か 成熟社会において地域福祉が取りまなければならない課題について学ぶ						
4	福祉コミュニティとは コミュニティの存立条件、地域社会の範囲、構成要素について学ぶ						
5	社会福祉協議会とは 社会福祉協議会の機能、社会的役割について学ぶ						
6	コミュニティソーシャルワークとは何か コミュニティソーシャルワークと専門職の役割について学ぶ						
7	地域福祉と住民参加 地域福祉推進における住民参加の意義、参加の形態等について学ぶ						
8	ソーシャルサポートネットワーク（1） エコロジカル・アプローチについて学ぶ						
9	ソーシャルサポートネットワーク（2） 事例を参照しながらエコマップの作成方法について学ぶ						
10	コミュニティソーシャルワークとは コミュニティソーシャルワークの役割について学ぶ						
11	地域の暮らしの実際と課題 具体的事例を題材に地域福祉のあり方について考える						
12	自然災害と地域福祉 復旧・復興過程における生活課題と支援策について学ぶ						
13	災害時要配慮者とは 被害の不等性について学ぶ						
14	福祉避難所とは 福祉避難所の概要、課題について学ぶ						
15	まとめ・総括						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
参加態度	10	①講義内での発言、グループワーク時の積極的参加 ②ミニプレゼンの		レポート	30	論理的記述がなされているか	
小テスト	10	講義で学んだことの理解度		期末試験	50	講義で学んだことの理解度	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①毎回小テストを実施するので、学んだことについて復習し、理解を深める [30分以上]。 ②受講者自身がテーマを設定しプレゼンする課題を課すので、文献等での調べ学習を積極的に行うこと [30分以上]。 ③講義資料の配布や、参考資料の紹介を適宜実施するので、事前に目を通し理解を深めておくこと [30分以上]。</p>				<p>①小テストは講義内に回答し解説する。 ②講義開始時に、ミニトペーパーに記載された学生からの質問、意見についての回答・解説を適宜行う。</p>			
受講生に望むこと	新聞を読むこと。 地域福祉に関連する書籍を10冊以上読む。			教科書・テキスト	適宜参考図書を紹介する。 適宜講義内にレジュメ、資料を配布する。		
指定図書参考書等	特になし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SW105U 児童福祉論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	竹中 祐二						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要			授業の到達目標				
この授業では、歴史の変遷を踏まえた本質的な理解を大切にしながら、児童福祉の制度や実践に関する幅広い知識を学習する。また、児童福祉から子ども家庭福祉への展開、子どもの権利擁護、少子高齢社会における社会環境・家族構造の大きな変化といった現代的課題についても掘り下げて考えていく。			①児童福祉という領域が設定されることの意義や目的について、適切に理解することができる。 ②児童福祉の歴史について正しく理解することができる。 ③児童福祉に関する諸制度の目的と現状について、歴史的経緯を踏まえながら正しく理解することができる。 ④児童福祉に関わる様々な組織・機関・主体について、正しく理解することができる。 ⑤児童福祉に関わる現代的な諸問題について、正しく理解することができる。 ⑥児童福祉に関する知識を土台として、社会福祉における各領域に応用可能な知識を正しく理解することができる。 ⑦児童福祉に関する知識を土台として、社会のあり方・社会における連帯のあり方について、自らの考えを明らかにすることができる。				
教授方法	講義（一部、映像教材の視聴や個人ワークを採り入れることもある。）						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：「児童福祉」から「子ども家庭福祉」への展開を意識しながら、児童福祉の意義について考え、本科目の意義や目標を整理する。						
2	児童福祉の歴史①：総論的な社会福祉史を踏まえつつ、児童福祉の理念を捉え、その歴史を概観する。						
3	児童福祉の歴史②：児童福祉の主体／客体に注目しながら、我が国における児童福祉の歴史を理解する。						
4	児童福祉の制度①：基本法である児童福祉法を中心に、児童福祉に関わる法制度、ならびに児童福祉に関わる機関・専門職について学ぶ。						
5	児童福祉の制度②：権利擁護をキーワードとしながら、子どもの権利条約について学ぶ。						
6	小括：ここまでの学習内容を範囲とする小テストを実施する。						
7	生育段階に応じた児童福祉①：家庭への支援の意義を意識しながら、母子保健を中心に学ぶ。						
8	生育段階に応じた児童福祉②：子ども・子育て支援新制度や幼保一体化といった新しい問題を押さえつつ、保育制度について学ぶ。						
9	生育段階に応じた児童福祉③：少子化や子育て環境の変化を踏まえつつ、児童の健全育成について学ぶ。						
10	困難を抱えた児童・家庭への支援①：今日の社会情勢を踏まえつつ、ひとり親家庭への支援について学ぶ。						
11	困難を抱えた児童・家庭への支援②：理念や社会的反応の変化を押さえながら、障害・難病のある子どもと家庭への支援について学ぶ。						
12	困難を抱えた児童・家庭への支援③：社会／心理の両側面を意識しながら、非行や情緒障害、発達障害について連続的に学ぶ。						
13	児童福祉と養護①：児童虐待の定義、実際、対策について学ぶ。						
14	児童福祉と養護②：社会的養護サービスについて、社会的意義と制度・実践について学ぶ。						
15	総括：本科目を通じて学習した内容について振り返り、それぞれの立場からの「児童福祉」への関わりについて考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への参加度	20	日常的な授業態度を評価する。		試験①	20	第1回～第5回の学習内容について、用語や概念、歴史等についての基本的な理解度を確認する筆記試験を行う。	
試験②	60	主に第7回～第15回の学習内容について、学習内容を正しく理解した上で、自らの態度・意見を表明することができるような、記述を中心とする筆記試験を行う。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①各回の授業で学習した児童福祉に関わる用語や概念を正しく理解・暗記できるように復習する。[45分] ②各回の授業で学習した児童福祉に関わる用語や概念を、社会福祉全般の中で正しく位置付ける、あるいは他の各論領域と比較することができるように理解を深める。[45分] ③各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]			・各回の授業でコミュニケーションペーパーの提出を求め、そこでの質問は次回に全体共有する。				
受講生に望むこと	・福祉の支援は決して一面的なものではないので、多様な視点から問題を切り取ることが大切である。そのため、自らの価値観は大切にしつつ、様々な知識と理解を吸収しようとする姿勢を持つことが望ましい。		教科書・テキスト	なし（レジュメを配付する）			
指定図書参考書等	<参考書> 『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度（第6版）』 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2016年 ISBN:978-4805853023 ※同種のテキストでも特に問題はないが、法制度の改正に合わせて適宜版が改められ、内容が更新されることに注意が必要である。 ※資格取得に向けたテキスト以外の基本書・概説書を合わせて読み込むことで、価値・理念を掘り下げて理解することが望ましい。		その他・特記事項	・日常的な学習について、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。			

授業科目名	SB100U 生涯学習概論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	高橋 律子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>「生涯学習」とは「生涯にわたって学ぶこと」である。今日では当たり前のように受け止められている「生涯学習」であるが、自主的な「学び」は、「学ぶことのできる社会」の支援により豊かさを増す。「学ぶ」ことは「よりよく生きる」ことでもある。それぞれが、これまでの人生を振り返り、将来の生き方も見据えながら、「生涯学習」の意義とあり方について考えることを授業の目的とする。講義中心だが、施設見学等も含め具体的な学習支援の方法と内容の理解を深め、実質のある「生涯学習論」の習得を期待する。</p>			<p>①それぞれの人生を振り返りながら、生涯学習のあり方を考えることができる。 ②生涯学習に関わる政策の知識を持つ。 ③レポート作成を通じて、自分の考えをまとめることができる。</p>				
教授方法	講義と見学						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：授業の進め方と成績評価についての説明 生涯学習とは何か：自分や家族の「学び」について振り返り、生涯にわたる学習の多様性について理解します。						
2	生涯学習の役割：生涯学習が個々の人生においてどのような役割を果たしているか、また社会における役割についても考えます。						
3	生涯学習に関わる政策の展開：生涯学習が政策においてどのように進められてきたか学びます。						
4	芸術文化活動と生涯学習：美術館での生涯学習を例に、芸術文化と生涯学習がどのように関わりをもっているか考えます。						
5	生涯学習施設について：生涯学習施設とはどのような施設をさすか、またどのような活動がされているかについて学習します。						
6	生涯学習施設見学：複数の生涯学習を見学し、比較することで、どのような活動が行われ、どのような工夫がなされているか、発見することを目的とします。						
7	生涯学習施設見学：複数の生涯学習を見学し、比較することで、どのような活動が行われ、どのような工夫がなされているか、発見することを目的とします。						
8	生涯学習施設見学：複数の生涯学習を見学し、比較することで、どのような活動が行われ、どのような工夫がなされているか、発見することを目的とします。						
9	学習支援の方法：生涯学習を支援する方法としてどのような方法があるのか具体的に説明します。						
10	学習者のニーズ：学習支援をしていく上で、学習者のニーズをつかむ必要があります。年齢層等に配慮しながら、求められる学習内容について考えていきます。						
11	学習プログラムの作成について：生涯学習の学習プログラムがどのように作られているか、具体的に説明します。						
12	学習プログラムの作成演習：実際に学習プログラム案を作成し、必要な知識、態度などを理解します。						
13	現代社会における学習課題：生涯学習の場において、現代社会ではどのような課題に取り組んでいくべきか考えます。						
14	これからの生涯学習のあり方：新しいメディアを活用し、どのように生涯学習は進められていくか理解し、考えます。						
15	全体のまとめ、レポート作成。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	50	<p>積極的な授業参加態度を重視する。 ・生涯学習に対する理解を深めようとする意識。 ・他の意見に耳を傾け、積極的に発言する。</p>		課題レポート	50	<p>各レポートの詳細は授業で説明を行うが、下記評価基準による。 ・課題に沿っている。 ・授業での学びをもとに作成している。 ・自分の考察を加えて記入している。</p>	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>① 授業に参加する前に自分がこれまでどのように「学習」（学校内、学校外とも）してきたか、振り返っておいてください。[30分] ② 家族のなかから一人選び、その人の「学習」経験についてインタビューしておくこと。[60分]</p>			<p>・授業内で提出するレポートはコメントを付けて返却します。</p>				
受講生に望むこと	<p>①意見発表の場を多くもうけます。積極的な態度で授業に臨みましょう。 ②提出物の期限は必ず守ること。</p>		教科書・テキスト	鈴木眞理・永井健夫・梨本雄太郎『生涯学習の基礎 [新版]』学文社、2011 ISBN:978-4762021431			
指定図書参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし			

授業科目名	ST100U 公認心理師の職責		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	松下 健・齊藤 英俊（代表教員 松下 健）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	公認心理師				
授業の概要			授業の到達目標				
公認心理師の役割、責任、業務内容を学ぶ。心理学だけでなく倫理、医療、教育、福祉、司法、資格に関連する法律など、公認心理師に関わる広範な内容を学習する。			①公認心理師の役割を説明できること。 ②公認心理師の責任を説明できること。 ③公認心理師の業務内容を説明できること。				
教授方法	講義、演習。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	公認心理師の職責：導入					松下	
2	公認心理師の役割					齊藤	
3	公認心理師の法的義務・倫理					松下	
4	クライアント／患者らの安全の確保のために					齊藤	
5	情報の適切な取り扱いについて					松下	
6	保健医療分野における公認心理師の具体的な業務					齊藤	
7	福祉分野における公認心理師の具体的な業務					松下	
8	教育分野における公認心理師の具体的な業務					齊藤	
9	司法・犯罪分野における公認心理師の具体的な業務					松下	
10	産業・労働分野における公認心理師の具体的な業務					齊藤	
11	支援者としての自己課題発見・解決能力					松下	
12	生涯学習への準備					齊藤	
13	多職種連携・地域連携					松下	
14	公認心理師の今後の展開					齊藤	
15	公認心理師の職責のまとめ					松下	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小レポート	30	講義中に提示する小レポートの完成度をみる		講義参加態度	30	課題、発表、質問などの参加態度をみる	
期末試験	40	講義内容の理解度をみる					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
与えられたテーマについて予習すること。[60分] 各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[60分]				小レポートは返却時にフィードバックする。期末試験については、次学期始めに適宜フィードバックする。			
受講生に望むこと	公認心理師の資格関連科目である。そのため、資格取得を目指す学生の真摯で積極的な学習が望まれる。			教科書・テキスト	講義開始時に公認心理師資格に対応したテキストが出版されている場合は、テキストを指定する可能性がある。		
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	1回程度、他学科の教員などゲストスピーカーをお招きする可能性がある。 受講生の理解度に応じて進度を変更する可能性がある。		

社会学科
(2年次)

授業科目名	SK200U プロゼミA		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	俵 希實・小林 正史・田引 俊和・松下 健・若山 将実（代表教員 俵 希實）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
1年次では、大学での学習に必要な基本的技術や作法（これをアカデミック・スキルという）を基礎ゼミⅠ・Ⅱにおいて学んできた。2年次では、3年生から始まる専門ゼミの予行演習の位置づけとして設定されているプロゼミにおいて、自分の興味関心のある分野を選び、それを専門とする教員の指導の下にやや専門性の高い内容について学ぶ。			①指定テキストの内容を理解する。 ②指定テキストの担当部分のレジュメを作成できる。 ③自分が担当する部分について、レジュメにもとづき発表できる。 ④他者の発表を聞いて、自分の考えをもちディスカッションに参加できる。 ⑤プロゼミにおいて学んだ内容についてレポートにまとめることができる。				
教授方法	ゼミごとによる演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ゼミ内での自己紹介、各ゼミのゼミ運営についての説明など。					各担当教員	
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
14	プロゼミ A の活動のまとめ（ゼミごとに半期のゼミ活動を総括する）					各担当教員	
15	後期科目の履修指導、プロゼミB選択についての説明、その他諸連絡（合同）					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	40	①ゼミ内で指定した書式・文字数・枚数になっているか。 ②ポイントを押さえ、概要と意見を分けた文になっているか。		レジュメ作成と発表	30	①分かりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。 ②聞き手が理解しやすい発表となっているか。	
ゼミへの参加態度と意欲	30	①ディスカッションへの積極的な参加をしているか。 ②人の意見を聞きつつ、自分の意見をきちんと述べているか。 ③課題にまじめに取り組む姿勢があるか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
ゼミごとに求められる内容が異なるので、自分の所属するゼミの担当教員の指導に従うこと。 ・ゼミで指定されたテキスト、参考図書、資料等をよく読み考えをまとめる。 ・日頃から新聞を読み、社会の事象を意識するように努める。				各担当教員から説明する。			
受講生に望むこと	プロゼミでの学びが3年次からの専門ゼミの学びへとつながっていくので、指導教員の指示にしたがって指導を受けるのはもちろんのこと、自ら学ぶという強い意欲と授業への積極的な参加態度を望みます。			教科書・テキスト	ゼミごとに教員の指示にしたがうこと。		
指定図書／参考書等	ゼミごとに教員の指示にしたがうこと。			その他・特記事項	ゼミ単位で指導を行うので、不明な点は自分の所属するゼミ教員に問い合わせること。		

授業科目名	SK205U プロゼミB		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	竹中 祐二・田中 純一・西村 洋一・真砂 良則・西尾 祐美子・若杉 亮平 (代表教員 竹中 祐二)						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
1年次では、大学での学習に必要な基本的技術や作法（これをアカデミック・スキルという）を基礎ゼミⅠ・Ⅱにおいて学んできた。2年次では、3年生から始まる専門ゼミの予行演習の位置づけとして設定されているプロゼミにおいて、自分の興味・関心のある分野を選び、それを専門とする教員の指導の下に、やや専門性の高い内容について学んでいく。			①指定テキストの内容を理解する。 ②指定テキストの担当部分のレジュメを作成する。 ③自分が担当する部分について、レジュメに基づき発表する。 ④他者の発表を聞いて自分の考えを持ち、ディスカッションに参加する。 ⑤プロゼミにおいて学んだ内容について、レポートにまとめることができる。				
教授方法	各ゼミごとの演習						
履修条件	「プロゼミA」を履修した者（単位未修得可）						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	前半：成績についての指導（合同） 後半：ゼミ内での自己紹介・各ゼミ運営についての説明、履修・成績指導					全員	
2	各ゼミ担当教員の指導に従う。					各担当教員	
3	各ゼミ担当教員の指導に従う。					各担当教員	
4	各ゼミ担当教員の指導に従う。					各担当教員	
5	各ゼミ担当教員の指導に従う。					各担当教員	
6	各ゼミ担当教員の指導に従う。					各担当教員	
7	北陸学院セミナーⅡについての説明・テーマに沿ったディスカッションと発表					全員	
8	各ゼミ担当教員の指導に従う。					各担当教員	
9	各ゼミ担当教員の指導に従う。					各担当教員	
10	各ゼミ担当教員の指導に従う。					各担当教員	
11	各ゼミ担当教員の指導に従う。					各担当教員	
12	各ゼミ担当教員の指導に従う。					各担当教員	
13	各ゼミ担当教員の指導に従う。					各担当教員	
14	4年生卒業研究・専門ゼミⅡレポート報告会に参加し、簡単なレポートにまとめる。 (※特記事項参照)					全員	
15	3年前期履修説明・指導、専門ゼミⅠについての説明、その他諸連絡(合同)					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
ゼミへの参加姿勢	30	①議論への積極的な参加をしているか。 ②人の意見を聞きつつ、自分の意見をきちんと述べているか。 ③課題にまじめに取り組み学ぼうとする姿勢があるか。		レジュメの作成と発表	30	①わかりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。 ②聞き手が理解しやすい発表となっているか。	
レポート	40	①ゼミ内で指定した書式・字数・枚数になっているか。 ②ポイントを押さえ、概要と意見を分けた文章になっているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①学内外の講座・セミナーへの参加、フィールドワーク、ゼミ担当者が指定・推薦する文献の講読など。 ②各自選択した研究テーマについて積極的に研究を進め、レポートの準備をすること。 …上記①・②を踏まえつつ、 ・講義に関するレジュメを事前に配付するので必ず目を通しておくこと。 [30分] ・学んだことはその日のうちに復習すること。 [30分]				各担当教員の指導に従う。			
受講生に望むこと	プロゼミでの学びが3年次からの専門ゼミの学びへとつながっていくので、指導教員の指示・指導に従って学びを深めるのはもちろんのこと、自ら学ぶという強い意欲と授業への積極的な参加が望まれる。			教科書・テキスト	各担当教員に指導に従う。		
指定図書参考書等	各担当教員の指導に従う。			その他・特記事項	卒業研究・専門ゼミⅡレポート報告会については、2月の試験期間後に行われる。具体的な日程については別途知らせるので、必ず参加すること。		

授業科目名	SK210U 質的研究法		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	俵 希實						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	社会調査士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>社会調査法における質的なアプローチを学ぶ、質的調査の歴史、考え方、特徴、仮説と理論についての説明、さらに事例を示しつつ、さまざまな質的データの収集方法や分析方法についての解説を行う。研究目的に適合した調査手法の選び方、調査設計の仕方、実査の進め方、調査結果の解釈の仕方を学ぶ。そして、学んだことをもとにグループで調査を行い、実践的な知識とノウハウを習得する。</p>			<p>①質的研究法の基本的な考え方を理解する。 ②質的研究法を用いた研究事例について、分析手法の選択および研究手続きの妥当性が判断できるようになる。 ③質的調査を行うための実践的な知識および技術を習得する。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	学部生であること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。						
2	イントロダクション：自分の日常生活を再発見することから質的調査のイメージをつかむ。						
3	質的調査の歴史と考え方：これまでの質的調査の歴史はどのように展開されてきたのか。調査を実際に進める中でうみだされてきた考え方について学習する。						
4	質的調査の特徴・魅力・難しさ：質的調査と量的調査の違い、質的調査と量的調査の関係、質的調査の難しさと魅力を理解する。						
5	仮説と理論：仮説とは何か、理論とは何か、基本的なことを理解する。						
6	リサーチ・クエスチョンを考える：リサーチ・クエスチョンの導き方を学ぶとともに、実際に考えてみることで理解を深める。						
7	観察法①：事例をもとに観察法の進め方を理解する。						
8	参与観察法：事例をもとに参与観察法の進め方を理解する。						
9	観察法②：グループワーク。実際にインタビュー法を用いた調査を行い、その結果を発表する。						
10	インタビュー法①：事例1をもとにインタビュー法の進め方を理解する。						
11	インタビュー法②：事例2をもとにインタビュー法の進め方を理解する。						
12	インタビュー法③：グループワーク。実際にインタビュー法を用いた調査を行い、その結果を発表する。						
13	文化資料分析法①：事例をもとに文化資料分析法の進め方を理解する。						
14	調査倫理：社会的行為としての社会調査であることを理解する。						
15	文化資料分析法②：グループワーク。実際に文化資料分析法を用いた調査を行い、その結果を発表する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
受講態度	15	積極的に授業に参加しているか。		発表	25	①課題に対して適切な内容となっているか。 ②論理的な構成となっているか。 ③聴衆にとってわかりやすい発表となっているか。 ④他のグループ発表に対して質問しているか。	
定期試験	50	授業内容について理解しているか。		提出物	10	①課題に対して適切な内容になっているか。 ③定められた期間内に提出しているか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>調査課題を出すので、グループで計画し、それに従って調査を実施、その結果をまとめ、パワーポイントでの発表の準備を行うこと。事前学習として、テキストの該当箇所を読んでくること。事後学習として、授業中に配布したレジュメの内容を確認し、復習すること。〔60分〕</p>				各グループの発表に対してコメントする。また、総評を述べる。			
受講生に望むこと	授業で得た知識やスキルを他の授業や授業以外でも活用するようにしてください。			教科書・テキスト	工藤保典・宮垣 元・寺岡伸悟編『質的調査の方法―都市・文化・メディアの感じ方』法律文化社、2016年 ISBN 978-4-589-03805-0		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのF科目に準拠していません。		

授業科目名	S0200U 心理統計学 I		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	西村 洋一						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士・社会調査士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義は統計解析を学ぶ体系に位置づけられる科目である。統計学は社会の事象、人の行動、心のはたらきなどを理解するためにも有用なツールである。科学技術の発展とともにデータが豊かに得られるようになり、その知識、技術の修得の必要性は高まっている。本講義では、統計学の入り口として、その基本的な考え方、活用方法を修得することを目指す。</p>			<p>①授業内で紹介する統計用語を覚え、その内容を理解し、適切に使用できる。 ②統計処理の基本的な知識を用いて数量データを集計することができる。 ③集計された表やグラフを正確に読み解くことができる。 ④自身の問題意識において得られたデータに対して適切な分析手法を選択、実施する能力を身につけている。</p>				
教授方法	講義を中心に随時演習も取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	データの集計、度数分布表の作成、図による表現について解説する。						
2	代表値：分布の特徴を中心傾向から表現する。						
3	散布度：分布の特徴をデータの散らばりから表現する。						
4	データの関連・相関：2つの変数が関連している度合いをどのように表現するのか。						
5	回帰分析：2つの変数の関係から予測を行う方法について説明を行う。						
6	様々な分布：正規分布や他の理論分布を紹介する。						
7	母集団と標本：母集団と標本の関係を理解し統計的推測の基本を身につける。						
8	推定・信頼区間：点推定と区間推定の方法を学ぶ。						
9	統計的検定の論理：統計的検定はどのような論理にもとづいて行われているのか理解する。						
10	t検定①：対応のないt検定の考え方を身につけ、実践する。						
11	t検定②：対応のあるt検定の考え方を理解し、対応の有無について身につける。						
12	分散分析①：分散分析の基本的な考え方を理解する。						
13	分散分析②：に要因の分散分析、特に交互作用の考え方を理解する。						
14	カイ二乗検定：クロス集計などで得られた度数を分析する方法を身につける。						
15	帰無仮説検定の振り返りとその限界、及び効果量について理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	70	講義内容について理解し、結果の算出および報告ができる。		小テスト	20	講義の内容の理解度により評価を行う。	
講義への参加度	10	講義への取組姿勢や課題の提出状況から評価を行う。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①講義前にテキストおよび資料を読んでくる。[30分] ②講義前にテキストおよび資料を読み、ノートの整理を行う。[45分] ③講義で分からない計算法や用語があれば、担当教員に質問したり、テキスト・参考書等を用いて理解を深める。[30分] ④講義にて課された演習課題に取り組む。[30分]				小テストは終了後に解説を行う。 演習課題は添削を行い、コメントする。			
受講生に望むこと	統計学はひとつひとつの階段を昇る（知識を積み上げる）ように学ぶことが必須である。そのために予習復習が欠かせないということを理解し、実践してほしい。			教科書・テキスト	『入門 統計学—検定から多変量解析・実験計画まで』 栗原伸一 オーム社 2011年 ISBN 978-4-274-06855-3		
指定図書参考書等	なし／『よくわかる心理統計』 山田剛史・村井潤一郎 ミネルヴァ書房 2004年 ISBN 978-4-623-03999-9 『心理統計法への招待—統計をやさしく学び身近にするために—』 中村知靖・松井仁・前田忠彦 サイエンス社 2006年 ISBN 978-4-781-91151-9			その他・特記事項	なし		

授業科目名	S0205U 社会学理論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田邊 浩						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>多くの人々は社会のことを「当たり前だ」と思っている中にも、不思議なことばかりあります。実はわたしたちが生きている社会はたまたまそのような社会とだけあって、決して「当たり前」のものではない、必然でもないのです。でも、ふだん生活している時にはそのことにはなかなか気づきません。社会を違った目で見ると、社会の出来事がスッパリみえてきます。社会学理論はやや抽象的ですが、その意味で多少難しいですが、それらを理解することができれば、これほど頼りになる道具はありません。みなさんにも、社会学理論の切れ味を確かめてみてほしいと思います。</p>			<p>①社会的行為、コミュニケーション、地位と役割、社会制度、社会システムと社会構造など、社会学理論の基礎的な概念を理解する。 ②デュルケム、ヴェーバー、ジンメルなど、社会学を確立した古典的理論を理解する。 ③ハーバースマールマン、ギデンズ、ブルデューなど、近年影響力のある社会学理論を理解する。 ④これらをつづいて、社会を理解するための道具として、社会学理論を使うようになる。 ⑤社会学理論を通じて、自分自身や自分のまわり、日常生活について、理解を深める。 ⑥社会学理論を通じて、私たちがいま生きている社会（モダンティ）を理解する。</p>				
教授方法	講義形式で行いますが、講義中に意見を求めることがあります。パワーポイントを使用します。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	社会とは何か：社会学は「社会」に関する学問です。では、社会とは何でしょうか。社会という言葉を知らない人はいないでしょうが、社会とは何かという問いに答えることは、難しいことです。社会学理論の出発点として、社会とは何かという問題について考えます。						
2	近代社会と社会学：社会学の研究対象である近代社会とはいかなる社会であるのか。社会学はどのように誕生したのか、社会学はどのような役割を担っているのかなど、社会学を学ぶことの意義について考えます。						
3	社会学の古典 (1) : E. デュルケムの社会学：社会学という学問の基礎を確立したのは3人の社会学者ですが、そのうちの一人デュルケムは、社会は個人の外に実在し、個人を拘束するものだと考えました。そうした彼の社会学的方法について考察します。						
4	社会学の古典 (2) M. ヴェーバーの社会学：ヴェーバーはデュルケムと並ぶ重要人物です。ヴェーバーは社会は実在するものではなく、個人の社会的行為からなっていると考えました。デュルケムと対比しながら、ヴェーバーの理論について紹介します。						
5	社会学の古典 (3) G. ジンメルの社会学：G. ジンメルは、社会学の研究対象は、人と人、人と集団、集団と集団の「相互作用」にあると考えました。ジンメルはそれら相互作用の形式について考察しました。こうした「形式社会学」について検討します。						
6	社会的行為とはなにか：社会学理論の基礎概念は行為です。人びとのふるまいを表す言葉として、行動という言葉もありますが、行為はこれとどう区別されるのか、行為が社会学の中でなぜ中核概念となるのか、行為にはどのようなタイプがあるのかについて考察します。						
7	地位と役割：私たちはさまざまな集団に所属しています。そして、その集団の中では、ある地位が与えられ、その地位とセットになった役割を遂行するのにならざるを得ない行為をすることが求められます。この地位と役割の概念について理解を深めます。						
8	社会システムと社会構造：社会システムと社会構造は、社会学理論において、きわめて重要な役割を担う概念です。これらの概念を理解することなくしては、社会学を研究することはおぼつきません。具体例を交えながら、それらの概念を理解します。						
9	機能主義の社会学：機能主義は社会学理論においてきわめて大きな影響力をもったアプローチです。その代表的存在はT. パーソンズですが、機能主義はその名のとおりに、社会システムの「機能」ということに注目するのがその特徴です。機能主義の考え方を理解します。						
10	意味学派的理論：機能主義社会学に対抗して、人間が「意味」をやりとりする、そしてそのことによって社会が成り立っていることに注目するさまざまな理論が現れました。現象学的社会学、象徴的相互作用論、エスノメソドロジーといった理論について紹介します。						
11	J. ハーバースマールのコミュニケーションの行為理論：ハーバースマールは相互行為の中でもとくにコミュニケーションの行為に注目して、独自の理論を作り上げました。人びとのコミュニケーションによる合意が社会を成り立たせているという意味について考えます。						
12	N. ルーマンの社会システム理論：パーソンズの遺産を受け継ぎながらも、それを批判的に消化して、さらに大胆に社会システム理論を革新した、ルーマンのオートポイエティック・システム理論について検討します。						
13	P. ブルデューの実践の理論：ブルデューは、行為と構造がハビトゥスによって媒介されていると考えました。ハビトゥスとは、人びとの慣習的行動を生み出す基盤になるような、ある種の性向の体系です。ハビトゥスとはなにかを中心に検討します。						
14	A. ギデンズの構造化理論：ギデンズは、行為と構造が相互に規定しあう関係にあると考えました。構造によって私たちの行為は拘束されている。けれども、構造によって私たちの行為は可能にもなっているということです。このことに意味について考えます。						
15	再び、社会学の理論とは：14回までの授業を振り返りながら、社会学をするうえでいかに理論というものが重要なものであるのか、大切なものであるのかを再確認します。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
学期末レポート	60	<p>論述式のレポートです。 ①基礎的な知識を習得していることが明確であること。 ②矛盾がなく、論理的であること。 ③自分なりの視点で構成されていること。</p>		小レポート	30	毎回、リアクション・ペーパーを配布し、受講して考えたこと、疑問に思ったことを記述してもらいます。自分なりの考えが含まれていることを重視します。	
授業参加状況	10	授業への取り組み姿勢を評価します。特に、講義中の質問に対する回答状況が重要です。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①自分で考えてみるのが大切です。講義で学んだことを自分の身の回りを例にして具体的に考えてみましょう。（20分） ②毎回の講義で学んだことがテキストのどの部分に書かれているかを指示します。講義の後で、指示された部分のテキストを丁寧に読んでみましょう。（60分） ③テキスト、参考書以外の文献も適宜紹介します。それらを図書館などで探し、実際に手にとってみましょう。（100分）</p>				リアクション・ペーパーに関して、参考になる質問や意見を次回の講義開始時に取り上げて、それらに対してコメントする。			
受講生に望むこと	<p>①講義中に受講者のみなさんに質問することがあります。正解があるような質問ではないので、あなたの考えを聴くことなく回答してください。 ②パワーポイントに映し出されたことをすべてノートする必要はありません。重要なポイントのみ、きちんとノートを取りましょう。 ③著しく講義の進行の妨げになるような行為がある場合、退室してもらうなどの処置をすることがあります。</p>			教科書・テキスト	『社会学ベーシック 別巻 社会学的思考』井上俊・伊藤公雄編 2011年 ISBN-13: 978-4-7907-1525-2		
指定図書参考書等	なし/『社会学ベーシック 2 社会の構造と変動』井上俊・伊藤公雄編 2008年 ISBN-13: 978-4-7907-1349-4			その他・特記事項	なし		

授業科目名	S0210U 家族社会学		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	俵 希實						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
現代の社会変動の中で、家族の形態と社会的機能、および個人にとっての家族の意味は大きく変わってきた。過去および現在における日本の家族にかんする様々な現象を取り上げ、その実態とメカニズムを解説する。さらに、家族社会学の基本的な概念や理論をふまえながら、現代社会における家族の諸相について考える。授業の前半はグループ発表とそれについての討議、後半は講義を行う。			①家族社会学に関する基本的な用語や概念を理解する。 ②現代日本における家族の動向を知る。 ③家族について、常識にとらわれない見方・考え方ができるようになる。				
教授方法	講義						
履修条件	学部生であること						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する						
2	家族社会学の基礎（1）：家族の類型						
3	家族社会学の基礎（2）：家族の機能						
4	主婦の誕生：近代化と女性の主婦化						
5	家事の誕生：家事とは何かを「主婦論争」から考える						
6	結婚の動向（1）：恋愛結婚 婚姻率 離婚率 初婚年齢 結婚への志向についてのデータを読む						
7	結婚の動向（2）：収入と結婚 できちゃった婚 事実婚 国際結婚についてのデータを読む						
8	近代化と子どもの数の減少：経済的要因と社会的要因						
9	子どもの誕生：「子ども」の概念とその価値						
10	母の誕生：「母親」という役割は重要か						
11	核家族化：人口学的特殊性から考える						
12	子育て：親はだめになったのか						
13	高齢化社会と家族（1）：実態と見通し						
14	高齢化社会と家族（2）：家制度の崩壊						
15	多様化する家族：個人単位の社会へ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
発表	20	①テーマ選択は適切か。 ②論理的な構成となっているか。 ③質疑への応答ができていないか。		提出物	20	①指定された期日に提出しているか。 ②指定された書式にしたがっているか。 ③自分の意見を書くことができていないか。	
期末試験	60	授業内容について理解しているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
グループ発表を課すので、グループでテーマを決め、それについて調べ、ディスカッションを重ねながら発表準備を行うこと。配布資料を事後に確認し、復習を行うこと。[60分]				各グループの発表に対してコメントする。			
受講生に望むこと	授業に関連するニュース等に関心を持ち、それについて考えるようにしてください。授業中の討議では、積極的に発言するように心がけてください。			教科書・テキスト	レジュメを配布する。		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	S0215U 都市社会学			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	俵 希實						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>現代社会は、一般に総都市化社会と言われる。社会学は、都市に住む人々の社会関係や生活様式の変化―都市化―を説明する。この講義では、都市化がコミュニティに及ぼす影響に関する研究を中心に取上げ、背景となる都市そのものの変化に目を配りながら、学説史的に理解するとともに、近年のグローバル化にともなう都市の変容について考える。</p>				<p>①都市社会学の基本的な概念を説明することができる。 ②「都市化と人間関係」について説明することができる。 ③自分たちが住んでいる実際の場（多くは都市社会）を、客観的に観察することができる。 ④より快適な都市社会を創造するための基礎的な分析を行うことができる。</p>			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。						
2	村落的環境から都市的環境へ：村落的環境における生活様式から都市的環境における生活様式への変化を理解する。						
3	都市的環境の出現とシカゴ学派：アメリカの都市シカゴの発展と都市社会学の原型をつくったシカゴ学派との関連について理解する。						
4	シカゴ・モノグラフ：シカゴ学派の具体的な研究に触れ、シカゴ学派の研究課題や研究方法を理解する。						
5	都市の空間構造：E. W. バージェスの同心円地帯論と、都市の空間構造の生成過程を論じたR. E. パークの人間生態学について理解する。						
6	同心円地帯論への批判：E. W. バージェスとは異なる主張を展開している社会文化生態学について学び、空間構造をもたらす「要因」についての考察を深める。						
7	生活様式としてのアーバニズム：L. ワースのアーバニズム論について理解する。						
8	アーバニズム論への批判：L. ワースとは異なる主張が展開されている研究について学ぶ。						
9	コミュニティ喪失論とコミュニティ存続論：都市の人間関係をめぐる議論を整理し、考察する。						
10	コミュニティ解放論：都市の人間関係をめぐる議論において新しい視点を含んだB. ウェルマンのコミュニティ解放論について学ぶ。						
11	アーバニズムの下位文化理論：都市の人間関係をめぐる議論においてシカゴ学派の主張を修正したC・S・フィッシャーの都市下位文化理論について学ぶ。						
12	日本における下位文化理論の検証：C・S・フィッシャーの都市下位文化理論を用いた複数の社会調査の結果を比較する。						
13	日本型コミュニティの形成：日本におけるコミュニティ喪失論、コミュニティ存続論、そして社会目標としてのコミュニティについて理解する。						
14	グローバル化と都市再編：都市コミュニティ論と外国人居住者研究について理解する。						
15	コミュニティ論再考：現代社会に対応した新しいコミュニティとはどのようなコミュニティかを考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
受講態度	30	積極的に授業に参加しているか。			期末試験	60	授業内容を理解しているか。
提出物	10	①課題に対して適切な内容となっているか。 ②定められた期間内に提出しているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
事前学習については、授業中に発言を求めた際、適切な意見を述べるような、日ごろから都市環境についての情報をメディア等からキャッチしておくこと。事後学習については、当日の講義内容について、ポイントを整理すること。専門用語は授業中に説明するが、事典等で調べること。[60分]				提出物の記述について授業中にコメントする。			
受講生に望むこと	集団や行為など、「社会学概論A」での基礎的知識を理解し、社会で生じている諸事象を客観的に把握・分析しようとする意欲をもって、講義に参加してください。			教科書・テキスト	レジュメを配布する。		
指定図書参考書等	講義の中で紹介する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	S0220U 環境社会学		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田中 純一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
現代の環境問題は、受益圏・受苦圏の分離を特徴とする公害問題とは異なり、受益圏・受苦圏の重なりやトレードオフを特徴とする。本講義では、われわれの生活に身近なところで生じている諸問題を具体的事例として取り上げ、これら問題の特徴、問題発生機の構造的課題、解決策について考えていく。			①環境問題がなぜ「問題」なのかについて理解を深める。 ②問題がもたらす派生的被害について理解を深める。 ③環境社会学の重要ターム、概念、アプローチ方法について理解する。				
教授方法	講義、グループワーク						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス 環境社会学とは、環境社会学の概念について学ぶ						
2	環境社会学の分析アプローチ 被害論、加害・原因論、解決論について学ぶ						
3	生活環境主義とは わが国の自然と人間との関係性を考える上で重要な分析アプローチである生活環境主義概念について学ぶ。						
4	環境保護思想の歴史的展開 自然の道具的価値と内在的価値など欧米の環境思想の歴史について学ぶ						
5	世代間倫理 「持続可能性」「予防原則」など今日的な概念を踏まえつつ、世代間倫理について学ぶ						
6	ローカルな環境倫理 わが国の自然と人間との関係性を捉える視点について学ぶ						
7	豊かさとは何か 「生活の豊かさ」アメニティ概念を通して考える						
8	グループワーク 人びとの日常生活から「生活の豊かさ」についてグループで検討し発表する						
9	社会的ジレンマ論 ごみ・リサイクルの問題を事例に、社会的ジレンマのメカニズムと解決策について学ぶ						
10	交通問題とまちづくり 欧米の交通政策を検討し、わが国の交通システムが抱える構造的課題と解決策について考える						
11	歴史的環境とは何か 自然環境と環境文化の関係について学ぶ						
12	野生生物との共存 獣害問題を事例に、里山保全と野生生物との共存の可能性について考える						
13	海は誰のものか 伝統的入浜慣行、近代的入浜慣行について整理し、コモンズの今日的意義について学ぶ						
14	持続可能な社会 持続可能性 (sustainability) 概念、SDG (持続可能な開発目標) について学ぶ						
15	まとめ・総括						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
参加態度	10	講義内の発言、グループワークでの積極的参加		小テスト	20	講義で学んだことの理解度	
レポート	20	講義で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考がなされているか		期末試験	50	講義内容についての理解度	
授業外における学習 (事前・事後学習等)			課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック				
①講義に関連したレジュメ、資料等を適宜配布するので、事前に目を通してくる [30分以上]。 ②毎回講義開始時に小テストを実施する。前回の講義内容について理解を進めること [30分以上]。 ③講義で紹介した書籍等については目を通し理解する [30分以上]。			①小テストは毎回講義内に回答、解説を実施する。 ②ミニットペーパーに記載された学生からの質問、意見については、次の講義時に回答、解説する。				
受講生に望むこと	①講義に関連した社会事象に関心を持つように心がけること。 ②講義に関連した書籍を10冊読む。		教科書・テキスト	適宜参考図書を紹介する。 適宜講義内にレジュメ、資料を配布する。			
指定図書参考書等	なし		その他・特記事項	なし			

授業科目名	SC200U 宗教と社会		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	楠本 史郎						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>旧・新約聖書は、古代から現代に至るまでキリスト教社会の形成に大きな影響を与えてきた。近代以降、キリスト教社会の法や制度はグローバル化し、世界全体に及んでいる。宗教と社会との関係を見る方法論を整理しつつ、聖書が科学技術や法制度の発展に与えた影響を歴史的に追う。その上で、聖書翻訳の歴史が職業観や「らい」観に与えた影響の積極的側面と否定的側面を考察する。さらに宗教的理念が社会を変えたケースとして、米国におけるM.L.Kingによる人種差別撤廃の戦いを取り上げる。</p>			<p>・宗教がたんに個人に安心立命を与えるだけではなく、社会を形成する上で、重要な役割を担っていることを理解することができる。 ・そのなかでもとくにキリスト教社会においては、聖書解釈という形で宗教が社会に影響を及ぼすことを理解することができる。 ・その場合、宗教が社会に対して、積極的もしくは否定的な効果をもたらすことを、歴史的・客観的に理解することができる。</p>				
教授方法	毎回配布するレジュメに基づく講義、および講義内容から示された主題について考え、振り返り、その内容をミニレポートにまとめ、毎回提出する形で進める。						
履修条件	「キリスト教概論Ⅰ」および「キリスト教概論Ⅱ」を履修していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	序論 大塚久雄『社会科学の方法』から、K. MarxとM. Weberのそれぞれの方法論を学び、本講義の方法論を確定する（社会科学が社会現象をどのような方法で取り扱うのか、上部構造と下部構造に着目して理解する）						
2	宗教と科学技術 宗教は非科学的かという問題意識から、聖書の自然観と科学の芽生えとの関係を科学的に概観し、科学技術への宗教の影響を確認する（一神論が自然科学的思考を生んだ歴史的経緯を理解し、宗教と科学技術との基本的な関係を理解する）						
3	宗教と法 1)イスラエルの律法の意味を問い、2)新約における律法と福音との関係を知り、3)福音から律法へと展開する過程を追う。そこから、社会制度・法への宗教の影響の基本的枠組みを確認する（旧約律法がイスラエル共同体の形成原理となったことを理解し、宗教が社会形成を担うことを確認する）						
4	聖書翻訳と職業観① 古代から中世の聖書解釈と職業観の変遷を辿る（中世までの職業観の歴史的変遷、およびそのなかで聖書の職業観がどう変わってきたかを理解する）						
5	聖書翻訳と職業観② 宗教改革による職業観の転換(1)としてM. Lutherを取り上げ、その画期性と限界を知る（ルターの聖書翻訳が当時の社会、とくに職業観に与えた影響を確認し、自らの職業観を問う）						
6	聖書翻訳と職業観③ 宗教改革による職業観の転換(2)としてJ. Calvinを取り上げ、その社会的影響を学ぶ（ピューリタニズムの職業観を理解し、現代の職業観と比較する）						
7	聖書翻訳と職業観④ 18世紀以後のピューリタン職業思想の世俗化の経過を追う（宗教改革期と近代産業革命期以後の職業観の相違と継続性を理解し、労働を問う）						
8	聖書翻訳と職業観⑤ 明治期以降の「和魂洋才」思想を検討し、現代日本の問題を確認する。職業観と使命missionについて考える（近代以降の日本の職業観の特徴と問題性を理解し、自分が働く意味を考える）						
9	聖書翻訳と「らい」① 「らい」史の概要を理解し、その差別の問題性を知る（「らい」史の概略およびその差別的問題性を理解する）						
10	聖書翻訳と「らい」② 旧約におけるツァラアトがハンセン病を意味したのか、これを「らい病」と翻訳したことが妥当であったか検討する（旧約のツァラアトがハンセン病を意味しないことを理解し、かつての聖書翻訳の問題性を確認する）						
11	聖書翻訳と「らい」③ 新約におけるレブラがハンセン病であったのか検討し、その翻訳の妥当性を検討する（新約におけるレブラがハンセン病ではないことを確認し、なぜ「らい」と訳されるに至ったかを理解する）						
12	聖書翻訳と「らい」④ 聖書翻訳におけるツァラアトとレブラの翻訳史を追い、それらが「らい病」と訳された経緯を確認する（聖書翻訳の重大性を「らい」の例により理解する）						
13	人種差別と宗教① 聖書解釈による人種差別合理化の歴史を確認し、M. L. Kingが登場した歴史的意味を学ぶ（現代米国社会における人種差別問題が聖書解釈によって根拠づけられた経緯を理解する）						
14	人種差別と宗教② マタイによる福音書5章のイエスの言葉をM. L. Kingがどう解釈し、それに基づきどう戦ったかを追う（キングの公民権運動が聖書解釈のとらえ直しから始まり、米国社会に大きな影響を与えたことを理解する）						
15	総論とまとめ M. L. Kingの戦いについてまとめ、本講義の総括をする。さらに日本社会の課題について考える（聖書の翻訳や解釈が社会を変える可能性を持つことを理解し、現代日本における職業観のあり方、および偏見や差別との戦いについて、聖書の中心的使信は何を語っているか、聞き取る）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加度・理解度	50	毎回の講義およびまとめの内容をミニレポートにまとめ提出。 ①授業内容を理解している。②それを自分の言葉で個々で表現している。③疑問や質問など、問題意識を持っている。		リーディングレポート	50	M. L. キング『自由への大いなる歩み』を9回にわたり各章ごとに要約し、レポートする。①各章の概要が要約されている。②それに対する自分の考えを整理して述べている。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①講義のなかで紹介した参考図書を手にとって内容を見る。[15分] ②前回授業のレジュメを確認し、振り返りを行ったうえで、次の授業に臨む。[15分] ③M. L. キング『自由への大いなる歩み』を読み、各章ごとに概要をまとめる。[90分]			毎回の授業で、前回のミニレポートについて、またリーディングレポートについて、必要なコメントをする。				
受講生に望むこと	①受け身ではなく、主体的に授業に参加すること ②聖書を持参すること ③遅刻や欠席、私語をせず、携帯電話等も鞆にしまい、きちんとした授業態度を確立すること		教科書・テキスト	『新共同訳・旧新約聖書』			
指定図書参考書等	参考図書 『自由への大いなる歩み』M. L. キング 岩波新書 1959年 ISBN4-00-415003-5、『科学者とキリスト教』渡辺正雄 講談社ブルーバックス 1987年 ISBN978-4-06-132686-6、『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』M. ヴェーバー 岩波文庫 1955年 ISBN4-00-007091-6 C0336、『社会科学の方法』大塚久雄 岩波新書 1966年 ISBN4-00-411062-9。		その他・特記事項	①毎回の授業ミニレポートを丁寧に記し、提出すること。提出しないと欠席扱いとする。 ②レポートは必ず指定された期限内に提出すること			

授業科目名	SC205U 若者文化論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	竹中 祐二						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
時代を映す鏡として、若者のライフスタイルや考え方が引き合いに出されることがある。社会の活性化を促すとして肯定的に捉えられる場合もあれば、「最近の若い者は…」と否定的に捉えられることもある。この授業では、戦後日本社会の若者を取り巻く社会状況や文化的背景も踏まえて、当時から現代の若者たちがどういった文化に親和性を感じ、行動していたのかを考えていく。			①若者文化の変遷について、社会背景を踏まえて適切に理解することができる。 ②社会にとって若者文化が有する意味について、時代・年代・世代によって変わるもの／不変であるものを区別しながら理解することができる。 ③若者文化を素材として、社会学における基本的概念を正しく理解することができる。				
教授方法	講義・グループ報告・グループディスカッション						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：対象としての「若者」や「若者文化」について簡単に触れ、本科目で学ぶ内容について整理する。						
2	問題対象の設定①：世代論と比較しつつ、若者文化について学ぶ意義を考える。						
3	問題対象の設定②：「若者」と「青年」という語を対比し、その異同について考えると共に、若者／青年に対する社会の「まなざし」について考える。						
4	問題対象の設定③：単なる「若者論」と違いを考えることを糸口として、本科目で学ぶべき内容について再考する。						
5	小括：この授業が目指す社会学的な若者文化論と何か、ここまでの学習内容を振り返る。／次週以降のグループ報告における分担を話し合う。						
6	グループワーク：各グループに分かれたディスカッションによって課題に沿った問題設定を行い、必要な資料を収集し、レジュメとスライドを作成する。						
7	グループ報告①：概ね戦前から戦後混乱期における若者文化についてのグループ報告を行い、その後各グループごとにディスカッションを行う。						
8	グループ報告②：概ね1970年代までの若者文化についてのグループ報告を行い、その後各グループごとにディスカッションを行う。						
9	グループ報告③：概ね1980年代から現代までの若者文化についてのグループ報告を行い、その後各グループごとにディスカッションを行う。						
10	現代社会における若者文化①：高度情報社会における若者のコミュニケーションや友人関係について理解する。						
11	現代社会における若者文化②：歴史的な変化や、現代の生育環境・教育環境を踏まえつつ、現代の若者の逸脱行動について理解する。						
12	現代社会における若者文化③：サブカルチャーや「オタク」文化を素材として、若者像、若者同士の社会関係、若者文化の変遷について考える。						
13	若者文化の今後①：グローバル化に特徴付けられる現代社会において、若者文化が果たすであろう積極的役割について中心に考える。						
14	若者文化の今後②：日本の伝統文化との比較の中から、若者文化が果たすであろう積極的役割について中心に考える。						
15	総括：本科目を通じて学習した内容について振り返り、それぞれにとって「若者文化」について学ぶ意義を考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
授業への参加度	15	日常的な授業態度を評価する。	担当回の発表	15	担当回における発表とレジュメの正確さ、分かり易さ等を評価する。		
グループディスカッション	15	グループディスカッション時の積極的な参加態度等を評価する。	レポート	55	授業の到達目標に即して、この授業で学んだ内容を適切に分かり易くまとめられているか評価する。		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①各回の授業で学習した社会学理論や社会学的視点、社会学用語について、様々な事例に応用できるように、社会学のテキストや事典を活用して復習する。[45分] ②各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]			①各回の授業でコミュニケーションの提出を求め、そこでの質問は次回に全体共有する。 ②グループワークならびにグループディスカッション時には自己評価シートの提出を求め、必要に応じて個別にコメントを行う。				
受講生に望むこと	・「社会学的思考様式」をベースにした若者文化の理解を目指すため、社会学一般の教養を十分に修めることが望ましい。 ・一方で、本科目の射程を超える心理学をはじめとするその他の学問的視点についても、それぞれの興味に応じて繋がっていくことを期待したい。		教科書・テキスト	なし（レジュメを配付する）			
指定図書／参考書等	なし／なし		その他・特記事項	・日常的な学習やグループ作業について、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。			

授業科目名	SC215U 多文化共生論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	俵 希實						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>外国籍居住者の増加とともに、「多文化共生」概念が注目されるようになってきた。家族関係、教育など、外国籍居住者の現状と課題を把握し、「多文化共生」と呼ばれる経験、努力が今の日本でどこまでできているかを総括する。また、オーストラリアやアメリカなど多文化主義の考え方を導入している国の歴史や社会的背景を学ぶことから、日本社会における多文化共生の未来に向けての条件と課題を考察する。</p>			<p>①多文化共生の基礎知識を身につけ、意味を理解する。 ②日本における外国籍居住者の現状と課題についてまとめ、考察することができるようになる。 ③多文化共生のパースペクティブを身につけ、異文化に理解を示すことができるようになる。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。						
2	グローバル化と多文化共生：「グローバル化」という社会変動と「多文化共生社会」の意味を理解する。						
3	多文化共生のパースペクティブ：多文化共生社会に向けて求められる視点について考える。						
4	アメリカにおける多文化主義：移民社会アメリカの成り立ちについて理解する。						
5	ヨーロッパ諸国における多文化主義：社会的背景とその潮流について理解する。						
6	オーストラリアにおける多文化主義：白豪主義からの転換について理解する。						
7	外国人労働者から住民、市民へ：日本における定住外国人に対する受け入れ施策を検討する。						
8	外国籍居住者たちの文化と権利：母国語が英語圏の居住者とそれ以外の居住者、それぞれについて考える。						
9	多文化共生とアイデンティティ：外国籍居住者の家族成員の文化変容のズレおよびアイデンティティの変容による家族内葛藤を考える。						
10	多文化共生と子どもの権利：外国籍居住者の家族関係と家族問題を子どもの権利の観点から考える。						
11	多文化共生と学校教育：文化伝達の観点からマイノリティ児童生徒への学校教育を、母国語が英語圏の児童生徒とそれ以外の児童生徒、それぞれの場合について考える。						
12	多文化共生と第二言語教育：第二言語として日本人児童生徒が英語を学ぶ環境と、外国人児童生徒が日本語で学ぶ環境と意義について考える。						
13	多文化共生と壁：「制度の壁・心の壁・言葉の壁」から生じる外国籍児童生徒の「不就学」の構造について考える。						
14	国際比較調査からみた多文化共生：日本・アメリカ・オーストラリア・ヨーロッパ諸国における調査法の違いから多文化社会を考える。						
15	まとめ：改めて多文化共生社会の未来と課題について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
受講態度	30	参加態度・意欲		期末レポート	70	①課題に対して適切な内容となっているか。 ②定められた期限内に提出しているか。 ③指定された書式、字数にしたがっているか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
授業中に関連テーマでグループディスカッションをおこなうことを指示するが、その際、意見を述べるができるよう、普段から日本における外国籍居住者についてのニュースや国際的なニュースに関心を持つこと。事後学習として、授業中に配布したレジュメを確認すること。専門用語は授業中に説明するが、復習を兼ねて事典等で調べること。[45分]				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
受講生に望むこと	授業で学んだことと社会情勢を常にリンクさせて自分なりの意見を持つように心がけてください。			教科書・テキスト	レジュメを配布する。		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	子ども教育学科 中学校教諭一種免許状（英語） 関連科目		

授業科目名	SC220U グローバル社会論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	小林 正史						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
農業と食文化の面からグローバリゼーションの意味を検討する。まず、各地域の環境に根差した食文化と農業が発達した過程を学び、それを踏まえてグローバリゼーションにおける「受け手側の選択」（何を受け入れて、何を受け入れないか）を検討する。			①食のグローバリゼーションの背景を理解する。 ②各地域の伝統的食文化が、その自然環境と深く結びついていることを理解する。 ③「他文化の要素を受け入れる際に、受け手側の選択がどのようになされるのか」を考える習慣をつける。				
教授方法	講義、グループワーク						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	グローバリゼーションとは：						
2	グローバリゼーションの光と影： グローバリゼーションの光の側面と影の側面を理解する。						
3	主食の選択理由： 地域により米、小麦、トウモロコシといった違いを生み出した理由を学ぶ。						
4	道具から見た食文化の違い（課題1の提示）						
5	主食の種類と台所の特徴の結びつき						
6	主食の種類とオカズ調理・食べ方の結びつき						
7	課題1の発表： 道具から見た食文化の地域間比較						
8	世界システム： グローバリゼーションの歴史を理解する						
9	緑の革命： 農業近代化の光の側面と影の側面を理解する。						
10	課題2の発表： 海外の食文化の受け入れ						
11	食のグローバリゼーション： 海外から日本へ						
12	食のグローバリゼーション： 日本から海外へ						
13	食のグローバリゼーション：今後の展望						
14	課題3の発表： 日本の食文化の海外進出						
15	課題2・3の発表のふりかえり						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	10	積極的に授業およびグループワークに参加している		授業中ワーク・小テスト	30	授業中のワークや小テストにおける理解度	
レポート	60	発表の仕方と提出されたレポートにみられる理解度、論理的説明、および独自性					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
レポート課題は授業外で行うこと〔平均45分〕。課題リーディングなどを授業外で行うこと〔平均45分〕				レポート発表の後、振り返りを行う。			
受講生に望むこと	講義においても積極的な参加と質疑応答を望む。			教科書・テキスト	なし		
指定図書／参考書等	授業中に指示する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SC310U 犯罪社会学		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	竹中 祐二						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>辞書的な観点から理解すると、社会的に有害、あるいは危険である行為・現象を犯罪・非行として定義することができる。しかし、一面的な視点からだけでは、犯罪・非行の本質を理解することはできない。この授業では、社会との関わりを重点を置いて犯罪・非行現象にアプローチし、犯罪・非行を多面的に理解すると共に、犯罪・非行の取り扱い方/取り扱われ方を通して、私達の社会のあり様それ自体を考えていく。</p>			<p>①犯罪・非行の量的・質的変遷について、社会背景を踏まえて適切に理解することができる。 ②犯罪・非行の処遇について、制度の目的と現状について正しく理解することができる。 ③逸脱行動論の観点から、社会的に犯罪・非行の発生ならびに予防のメカニズムを理解することができる。 ④定義を含む、犯罪・非行に対する社会的反応について、時代背景を踏まえて適切に理解することができる。 ⑤以上の事柄に関連して、社会学の基本的概念や理論について正しく理解することができる。</p>				
教授方法	講義・グループ報告・グループディスカッション						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：犯罪学・社会学というそれぞれの大領域の中での位置付けを考える作業を通して、犯罪社会学の意義・目的について理解する。						
2	犯罪・非行に関する基礎知識①：犯罪・非行に関わる法・政策・制度・機関等についての基礎知識を学習する。						
3	犯罪・非行に関する基礎知識②：犯罪・非行にまつわる統計を通して、その量的・質的変遷について学ぶと共に、当該現象に接近・観察することの難しさについて学習する。						
4	犯罪者処遇①：成人を対象とし、犯罪者処遇の制度や意義、現状や課題について学習する。						
5	犯罪者処遇②：少年を対象とし、成人との比較を通して、非行少年処遇の制度や意義、現状や課題について学習する。						
6	逸脱行動論①：初期の犯罪学理論と合わせて、アノミー論や社会解体論等の、主としてマクロ領域における逸脱行動論について学習する。						
7	逸脱行動論②：分化的接触理論や非行サブカルチャー論等の、主としてメゾ領域における逸脱行動論について学習する。						
8	逸脱行動論③：コントロール理論等の、主としてミクロ領域における逸脱行動論について、またそれとの関連から環境犯罪学について学習する。						
9	犯罪・非行への社会的反応①：各種逸脱行動論への理解を踏まえて、また犯罪・非行に接近・観察することの難しさとも合わせて、ラベリング論や逸脱の相互作用性について学習する。						
10	犯罪・非行への社会的反応②：犯罪報道と世論の関係について、また被害者の視点から社会における犯罪・非行を再理解することについて学習する。						
11	小括：この授業が目指す社会学的な理解という点に基づいて、ここまでの学習内容を振り返る。/次週以降のグループ報告における分担を話し合う。						
12	グループワーク①：各グループに分かれたディスカッションによって課題に沿った問題設定を行い、必要な資料を収集し、レジュメとスライドを作成する。						
13	グループワーク②：各グループに分かれたディスカッションによって課題に沿った問題設定を行い、必要な資料を収集し、レジュメとスライドを作成する。						
14	グループ報告①：グループ報告を行い、その後報告内容に沿って各グループごとにディスカッションを行う。						
15	グループ報告②：グループ報告を行い、その後報告内容に沿って各グループごとにディスカッションを行う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への参加度	15	日常的な授業態度を評価する。		担当回の発表	20	担当回における発表とレジュメの正確さ、分かり易さ等を評価する。	
グループディスカッション	15	グループディスカッション時の積極的な参加態度等を評価する。		試験	50	授業の到達目標に即して、この授業で学んだ内容を適切に理解しているか評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①各回の授業で学習した犯罪社会学の理論や知識について復習し、日常的に新聞等を通して実際の社会との関わりを意識する。[60分] ②各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]</p>				<p>①各回の授業でコミュニケーションペーパーの提出を求め、そこの質問は次回に全体共有する。 ②グループワークならびにグループディスカッション時には自己評価シートの提出を求め、必要に応じて個別にコメントを行う。</p>			
受講生に望むこと	・社会現象への関わり方や理解の仕方は多様であるが、犯罪・非行へのそれらほとりわけセンシティブでデリケートなものとなる。そのことを踏まえてなお、積極的に社会における包摂のあり方について、日頃から関心を持って、考えていただきたい。			教科書・テキスト	なし（レジュメを配付する）		
指定図書参考書等	<p><参考書> 『よくわかる犯罪社会学入門（改訂版）』 矢島正見・山本功・丸秀康著 学陽書房 2009年<ISBN:978-4313340183> 『犯罪・非行の社会学―常識をとらえなおす視座』 岡邊健著 有斐閣 2014年<ISBN:978-4641184183> 『ピキナース犯罪学』 守山正・小林寿一著 成文堂 2016年<ISBN:978-4792351830></p>			その他・特記事項	・日常的な学習やグループ作業について、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。		

授業科目名	SC315U 社会病理学		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	竹中 祐二						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この授業では、病理や問題とされる諸現象の発生要因や対応等について、社会との関わりから考えていく。また、逆に、病理現象が発生する社会のあり様それ自体を、私達の生活する現代社会とは一体どのようなものかについて、考えていく。			①正常／異常、一般／特殊といった比較対象の設定という、社会病理学的社会観について理解することができる。 ②社会病理現象の相対性について理解することができる。 ③現代の社会病理現象における具体的な動向について理解することができる。 ④社会病理学に固有の概念や理論について正しく理解することができる。 ⑤社会病理現象を理解するのに有用な社会学の基本的概念や理論について正しく理解することができる。 ⑥社会病理現象への介入・実践のあり方について、自分なりの考えや態度を明確にすることができる。				
教授方法	講義・グループディスカッション						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：社会学の成り立ちへの理解や、関連領域との比較を通して、社会病理学という研究領域、およびこの授業の意義・目的について理解する。						
2	社会病理学の歴史①：社会有機体説やマルクス主義をはじめとする、初期の社会病理学的視点について学習する。						
3	社会病理学の歴史②：デュルケムの業績を中心に、社会病理学的視点について学習する。						
4	社会病理学の歴史③：シカゴ学派の業績やミルズによる社会病理学批判について学習する。						
5	社会病理学の基本的視座①：社会病理学的視点の相対性について学習する。						
6	社会病理学の基本的視座②：主に機能主義について学習する。						
7	社会病理学の基本的視座③：社会病理現象への対応について、逸脱統制の観点から学習する。						
8	社会病理学の基本的視座④：社会病理現象への対応について、実践・介入・臨床の観点から学習する。						
9	社会病理学の基本的視座⑤：社会構築主義について学習する。						
10	小括：この授業が目指す社会的な理解という点に基づいて、ここまでの学習内容を振り返る。／映像資料の視聴と共にグループディスカッションを行い、社会病理学的視点を共有する。						
11	社会病理学各論①：貧困をめぐる諸論点について、社会病理学的視点から学習する。						
12	社会病理学各論②：親密圏で発生する暴力（虐待・DV等）をめぐる諸論点について、社会病理学的視点から学習する。						
13	社会病理学各論③：いじめ問題をめぐる諸論点について、社会病理学的視点から学習する。						
14	社会病理学各論④：不登校およびひきこもり問題をめぐる諸論点について、社会病理学的視点から学習する。						
15	総括：本科目を通じて学習した内容について振り返り、それぞれにとって「社会病理学」について学ぶ意義を考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への参加度	20	日常的な授業態度を評価する。		グループディスカッション	20	グループディスカッション時の積極的な参加態度等を評価する。	
試験	60	授業の到達目標に即して、この授業で学んだ内容を適切に理解しているか評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①各回の授業で学習した社会病理学の理論や知識について復習し、日常的に新聞等を通して実際の社会との関わりを意識する。[60分] ②各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]				①各回の授業でコミュニケーションペーパーの提出を求め、その質問は次回に全体共有する。 ②グループワークならびにグループディスカッション時には自己評価シートの提出を求め、必要に応じて個別にコメントを行う。			
受講生に望むこと	・この授業は主として講義形式を採り、多種多様な知識と情報の伝達に努める。したがって、どちらかと言えば双方向ではなく一方向的な学習となる。そのため、この授業で獲得した内容を活用して、日常的な学習の中で、あるいはその他の科目の中で、自らの意見や態度をアウトプットする習慣を身に付けていただきたい。			教科書・テキスト	なし（レジュメを配付する）		
指定図書／参考書等	<参考書> 『新版 非行と社会病理学理論』 高原正興 三学出版 2011年<ISBN:978-4921134518> 『社会病理学的想像力―「社会問題の社会学」論考』 矢島正見 学文社 2011年<ISBN:978-4762021374>			その他・特記事項	・日常的な学習について、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。		

授業科目名	SL225U 経済学 I		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	川島 哲						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>「やさしく、わかりやすく」を講義のモットーにしていきます。経済学を初めて学ぶ学生が経済学の基礎的な考え方を習得し理解することを目的とします。近代経済学を学ぶのでマイクロ経済学、マクロ経済学がその内容です。日常生活の具体的な事例を踏まえながら講義していくことで受講生の理解を助けたいと思っています。ただ予習復習は欠かせないので、毎回の復習も講義の中に組み込みながら何度も繰り返して確実に理解し習得することを目指します。</p>			<p>経済学は私たちの生活に密着した学問です。まず経済学がどんな学問なのかを理解することを目的とします。第二に、経済学の基本的な概念である需要、供給、価格の決まり方、GDPなどは基礎的な概念であるので全員が理解し習得することを目指します。</p>				
教授方法	講義様式						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション 日常生活を経済学で考える：モノ・サービスの価格を理解する。						
2	経済学的な考え方：経済循環フロー図と絶対優位・比較優位を理解する。						
3	需要曲線と供給曲線：需要曲線と供給曲線、曲線上の移動と曲線のシフトのちがいを理解する。						
4	市場の価格調整メカニズム：市場の分類と市場均衡を理解する。						
5	消費者余剰と生産者余剰：財やサービスの市場取引による利益を理解する。						
6	需要・供給分析と価格弾力性：需要曲線のシフト、供給曲線のシフト、需要・供給の価格弾力性を理解する。						
7	労働市場の均衡：労働市場のメカニズム、賃金格差はなぜ生じるのかを理解する。						
8	中間テスト：第1回～第7回までの理解を確実にすることと到達度を知るためのテスト。						
9	中間テストのレビュー、独占と寡占：中間テストのレビュー、独占市場と寡占市場を理解する。						
10	情報の役割：逆選択とモラルハザードを理解する。						
11	GDPその1：マクロ経済学の中心的な課題であるGDPについて理解する（その1）。						
12	GDPその2：マクロ経済学の中心的な課題であるGDPについて理解する（その2）。						
13	マネーストック：貨幣とは何か、マネーストックとは何かを理解する。						
14	貿易の理論：ヘクシャー＝オリーン・モデルなど国際貿易論の理論を理解する。						
15	総まとめ：第1回～第14回までの総まとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
学期末テスト	50	第1回～第15回の講義内容に関して到達度を知るための学期末テストの素点		小テスト等	50	前半7回の到達度を知るための中間テスト等	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
教科書に沿って1回の講義で1章ずつ進めていきます。各自毎回の予習復習は必ず行ってください。予習復習は各60分くらいを行って確実に理解するようにしてください。				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
				課題は随時行います。フィードバックは必ず次の回に行います。中間テストのレビューも必ず次の回に行うとともに答案も採点して返却します。			
受講生に望むこと	日ごろから新聞の経済面やテレビの経済ニュースなどに関心をもってください。			教科書・テキスト	教科書：二本杉剛・中野浩司・大谷咲太『プレステップ 経済学 経済実験で学ぶ』弘文堂、2013年、ISBN 978-4-335-00088-1		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SL230U 経済学II		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	瀬尾 崇						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
現代の経済学の基本的な内容について概説する。数学的な細かい内容には立ち入らず、現代社会のさまざまな問題について、直感的に経済学的に考えるための基礎を身につけることを目的としています。講義ではできるだけ身近な話題を使って、経済学的に考える方法をレクチャーします。			日頃のニュースや新聞で取り上げられるトピックについて、少しでも講義内容と関連付けて見たり読んだりできるようになる。経済学の基本的な専門用語を正しく理解し、実際にそれらを用いて個別の具体的なトピックについて説明できるようにする。				
教授方法	講義形式						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	経済学とは何か? : 歴史の中の経済, ミクロな視点とマクロな視点およびその相互作用						
2	GDPを理解する(1): マクロ経済をどう描くか, 日本のマクロ経済はどう動いてきたか						
3	GDPを理解する(2): 何が経済成長を可能にするのか						
4	景気の動きをつかむ: なぜ景気は変動するのか						
5	個人・家計の選択: 「需要」について理解する						
6	企業の営み(1): 「供給」について理解する, 会社の中で経済学は何の役に立つのか						
7	企業の営み(2): 日本の産業構造とその変化, サービス経済化						
8	市場メカニズムの働き(1): 市場経済の本質, 市場競争の役割						
9	市場メカニズムの働き(2): 市場メカニズムをめぐる問題						
10	市場メカニズムの働き(3): 制度としての市場と制度的慣行						
11	金融を理解する(1): なぜ日本は金融で世界一になれないのか, カネと負債が経済を揺るがすメカニズム						
12	金融を理解する(2): なぜ株価や為替は日々変動するのか						
13	財政・社会保障を理解する(1): 「居心地のいい」日本経済						
14	財政・社会保障を理解する(2): 少子・高齢化時代の日本経済						
15	経済の開放・グローバル化: 製造業の国際展開とグローバルイゼーション						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	50	出題方法や評価基準については試験までに説明します。		小レポート	40	期間中に2回, A4で1枚以内のレポートを課します。書式と内容で評価します。	
授業参加状況	10	期間中ランダムに, 理解の状況や感想を書いてもらいます(コミュニケーションシート)。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
予習として, テキストを事前に読んで, 理解できない箇所を明確にしておいてください。その上で講義を聞いたり, 授業後に質問したりしてください。理解できない箇所や疑問点を放置しないようにしましょう。テキストの各章の末尾には, 課題がついています。成績評価の項目の一つである「小レポート」はここから出題しますので, 日頃から課題について考えておくように心がけてください。予習・復習で各1時間程度です。				レポートについては, コメントをつけて返却します。書式に関するコメントについては, この科目以外の講義などにも役立ててください。期間中に書いてもらおうコミュニケーションシートについては, 適宜講義に反映します。			
受講生に望むこと	テキストをしっかりと読んで, 理解できない箇所や疑問に感じた箇所は, 放置せずに遠慮なく質問してください。			教科書・テキスト	浅子和美・石黒順子『グラフィック経済学(第2版)』新世社, 2013年 ISBN 978-4883841943		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SL315U 政治学		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	若山 将実						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この授業の目的は、日本を中心とした民主主義諸国における有権者、政治家、官僚、そして利益団体などの様々な個人・組織の政治行動の特徴、要因、そして影響を考察することにあります。授業では、民主主義国家における有権者、政治家、官僚、そして利益団体などの個人・組織の政治行動に関する理論と実際を学んでいきます。まず、政治行動に関する政治学の理論について紹介します。そして、政治行動の実際として民主主義諸国の事例を取り上げることで、政治行動の特徴、要因、そして影響について理解できるようになることを目指します。また、最新の政治に関する時事問題についても説明する機会を設けたいと思います。			①個人・組織の政治行動について学ぶことで、社会のなかで政治が果たす役割を理解する。 ②民主主義社会における政治制度が有権者、政治家、官僚そして利益団体などの個人・組織の政治行動に与える影響を理解できるようになる。 ③民主主義社会における将来の有権者の一人として適切に政治へ参加できるようになる。 ④日本や世界の政治に関する時事問題について理解できるようになる。 ⑤日本や世界の政治現象を分析する手法を習得する。				
教授方法	授業はパワーポイントなどを使った講義形式を中心にしますが、学生が主体的に学ぶことのできるアクティブラーニングの機会を設ける予定です。						
履修条件	社会学科の学生のみ履修可。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業の概要説明：授業の進め方や成績評価の方法とともに、そもそも「政治」とは何か、そしてそれを対象とする「政治学」とは何かという点について考えます。（政治を学ぶ意味を理解する。）						
2	国家とは何か：現在では当たり前のように存在している国家について、国家の定義から近代国家が成立した理由、国家の役割、国民の定義、そして国家破綻がもたらす影響について考察します。（国家が存在する意義を理解する。）						
3	政治体制：世界各国の多くが現在では民主主義の政治体制となっていますが、他方で非民主的な体制下にある国も厳然と存在しています。この回は、民主主義体制と非民主主義体制の特徴について検討します。（比較を通じて民主主義の特質を理解する。）						
4	民主化：非民主主義体制から民主主義体制への移行はどのような要因によって生じるのでしょうか。民主化についてその歴史を振り返りながら比較政治学の理論的な検討を行います。（政治体制の変動を促す要因についての理論と仮説を理解する。）						
5	アクティブラーニング1：現代政治に関する課題を提示します。受講者はグループでその課題に取り組み、発表を行います。						
6	有権者の投票参加：有権者はなぜ投票するのでしょうか、この疑問について政治学が考えてきた理論を参考にしながら、世界各国の選挙を事例に考えます。（投票参加の理論と実際を理解する。）						
7	有権者の投票行動：有権者による特定の政党・候補者への投票は、どのような動機に基づかれているのかを、政治学理論を紹介しながら考えます。（有権者の投票行動についての理論から、その有権者の多様性を理解する。）						
8	選挙制度：世界各国の様々な選挙制度の特徴について簡単に紹介した後、選挙制度が民主主義体制の安定にどのような影響を与えているのかを考察します。（代表を選ぶための選挙制度が民主主義の安定性に大きな影響を与えていることを理解する。）						
9	アクティブラーニング2：現代政治に関する課題を提示します。受講者はグループでその課題に取り組み、発表を行います。						
10	執行府・議会関係：世界各国の執行府と議会制度の特徴について紹介した後、議院内閣制・大統領制・半大統領制等に代表される執行府・議会関係の違いがそのような政治的帰結をもたらすのかを検討する。（本人・代理人関係のパターンが政治的帰結に与える影響を理解する。）						
11	指導者：民主主義国家における執政制度の特徴と影響について説明した後、日本の首相のリーダーシップについていくつかの事例から検討します。（例えば、安倍首相の政権運営が前任時とどのように違うのかについてなど。）						
12	官僚制：世界各国の官僚制の特徴について紹介した後、官僚の自律性の程度が政策の内容にどのような影響を与えているのかを検討します。（国家における官僚制の役割について理解する。）						
13	政策：民主主義国家において政策はどのように作られるのでしょうか。近年における日本の各政権が実行している政策をいくつか取り上げ、その政策が作られる過程について検討します。（政策過程の理論と実際を理解する。）						
14	アクティブラーニング3：現代政治に関する課題を提示します。受講者はグループでその課題に取り組み、発表を行います。						
15	まとめと民主主義の未来：授業全体のまとめとともに、民主主義国家における政治の姿は今後どのように変容することが予測できるのかについて、e-デモクラシーの可能性などを例に考察していきます。（民主主義の変容の可能性について理解する。）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	50	試験形式は論述形式を予定している。政治行動の理論や実際についてどの程度まで理解して自分のものとしているかどうかを評価の基準とする。		アクティブ・ラーニング	30	課題に対してグループで取組み、わかりやすい発表ができていているかを見る。	
ワークシート・リアクションシート	20	毎回の授業の理解度を確認するワークシートやそれに付随する感想・質問を書くリアクションシートへの取り組み姿勢。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①講義で使用するレジュメ（資料）は、メソフィアを通じて授業前日までに配布するので必ず目を通してください。[30分] ②毎日、新聞・ニュース等に目を配り、政治に関する様々なニュースに触れること。毎回の小レポートで今週はどのような政治ニュースに注目したかを記入してもらいます。[60分]				毎回のワークシートおよびそれに付随するリアクションシートは、次回冒頭に採点およびコメントを付けて返却します。			
受講生に望むこと	①政治は、日々動いています。日頃から可能な限り世界や日本の様々なニュースに目を配るようにしてください。 ②教室内での私語やスマートフォンの使用など、特定の学生による受講態度が講義に重大な悪影響を与えていることが度々認められた場合、その学生に対しては退室等の厳しい処置を取ることがあります。			教科書・テキスト	特に用いません。レジュメ（資料）を毎回メソフィア等を通じて配布します。		
指定図書参考書等	なし。『政治行動論：有権者は政治を変えられるのか』飯田健・松林哲也・大村華子共著 有斐閣 2015年 ISBN-13:978-464115-294。『政治学（New Liberal Arts Selection）』久米 郁男・川出 良枝・古城 佳子・田中 愛治・真淵 勝共著 補訂版 有斐閣 2011年 ISBN-13: 978-4641053779。『比較政治学』スティーブン・P・リット著 ミネルヴァ書房 2006年 ISBN-13:978-462044986。『はじめて出会う政治学―構造改革の向こうに―』北山俊哉・真淵勝・久米郁男共著 有斐閣 第3版 2009年 ISBN-13: 978-4641123687。			その他・特記事項	なし。		

授業科目名	SL320U 地域社会政策論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田中 純一						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この講義では自然災害によって被災した住民生活の復旧・復興過程で生じる法制上、政策上の諸課題に焦点を当て、「人間の復興」に必要な施策について検討・考察する。			①被害の不等性が生み出されるメカニズムについて理解する。 ②被災者支援に係る法律や条例等についてその内容を説明できるようになる。 ③人間の復興について自分のことばで説明できるようになる。				
教授方法	講義、グループディスカッション						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス						
2	高齢化の現状と将来 日本の高齢化の特徴、超高齢社会に対応した社会経済政策について学ぶ						
3	超少子高齢社会の社会政策 人口政策、財政政策、社会保障政策、セーフティネットについて間暗部						
4	過疎高齢地域と災害 能登半島地震を事例に、超少子高齢社会における災害復旧・復興過程の諸課題について学ぶ						
5	東日本大震災の被害（1） 「広域」「巨大」「複合」自然災害の概要について学ぶ						
6	東日本大震災の被害（2） 住民生活の視点から復旧・復興を巡る諸課題について学ぶ						
7	グループワーク「避難所運営（1）」 グループに別れ避難所運営を体験し、避難所で発生する諸課題について理解する						
8	グループワーク「避難所運営（2）」 避難所で発生する諸課題についてその解決方法についてグループ内で協議する						
9	グループワーク「避難所運営（3）」 避難所のあり方についてグループで検討し発表する						
10	自主防災組織とは 自主防災組織の役割、機能、課題について学ぶ						
11	自助・共助・公助 超少子高齢社会における自助・共助・公助の関係性について学ぶ						
12	災害と避難行動 災害発生時にどのような判断と行動が必要かについて、豪雨災害を事例に検討する						
13	地区防災計画 地区防災計画の概要、タイムラインの考え方について学ぶ						
14	減災社会とはなにか レジリエンス概念、減災社会概念について学ぶ						
15	まとめ・総括						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
受講態度	10	講義内の発言、グループワークへの積極的参加		レポート	30	講義で学んだ知識を適切に用い課題を考察し、要求されたレベルでの論考ができていないか	
発表・ミニテスト	10	発表：テーマに沿った調べ学習と考察が十分なされているか ミニテスト：前回の講義の理解度		期末試験	50	講義内容の理解度	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①講義に関するレジュメ、資料を適宜配布、紹介するので、事前に目を通し内容を理解する [30分以上]。 ②毎回ミニテスト実施する。学んだことを整理し理解する [30分以上]。 ③講義中に紹介した書籍等については目を通し理解を深める [30分以上]。				①ミニテストは講義内に回答・解説する。 ②ミニットペーパーに記載された受講者からの質問、意見については次の講義開始時に回答、解説する。			
受講生に望むこと	新聞を読む。 災害に関連する書籍を10冊読む。			教科書・テキスト	適宜参考図書を紹介する。 適宜講義内にレジュメ、資料を配布する。		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	グループワーク（1）（2）（第7回・第8回）は、内容の性格上連続実施が望ましいため、第1回ガイダンス時に受講者と相談し日程を決める（土曜日または日曜日に2コマ連続で実施する）。		

授業科目名	SL200U 社会貢献論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田中 純一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この講義では「災害ボランティア」に焦点を当て、ボランティア活動の行為主体の特質、ボランティアの社会的役割等について学ぶ。			①災害ボランティア活動の歴史を通して、ボランティアという行為の意味を理解するとともに、ボランティア活動が提起する社会の課題について理解する。 ②受講者自身が地域の社会的課題に関心を持ち、その改善や解決に主体的に関わるための知識を習得する。 ③社会に貢献するとはどういうことかについて、自分のことばで説明できるようになる。				
教授方法	講義、グループディスカッション						
履修条件	「社会貢献実習」を合わせて履修するのが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス						
2	社会変動とリスク 地域社会の今日的なトレンドを概観しつつ、わが国の自然災害のリスクについての理解を深める。						
3	ボランティアと公共性 新しい公共の担い手としてのボランティアの可能性について理解を深める。						
4	ボランティアとは誰か 誰が、なぜボランティアをするのか？ボランティア活動を実践する主体の特徴や参加動機などについて調査結果から理解を深める。						
5	自然災害とボランティア（1） 災害発生の初期段階におけるボランティアの役割について学ぶ。						
6	自然災害とボランティア（2） 復旧・復興過程におけるボランティアの役割について学ぶ。						
7	グループディスカッション 過去の災害教訓から自助・共助・公助のあり方を考える						
8	被災者の自立を支援する 足湯ボランティア活動から被災者に寄り添うことの意義について問暗部。						
9	事例からの検討（1） 能登半島地震						
10	事例からの検討（2） 東日本大震災						
11	事例からの検討（3） 四川大地震						
12	グループワーク 避難所開設から運営を擬似的に体験してみる。						
13	グループディスカッション 避難所を運営する中で発生する様々な課題について解決策を考える。						
14	減災社会とは 創造的復興、人間の復興、レジリエンス概念について学ぶ						
15	まとめ 全体を振り返りつつ、社会に貢献するとはどのようなことかについて考える						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
受講態度・発表	20	講義、グループワークへの積極的参加、講義内発表が要求されたレベルに達しているか		小テスト	20	講義で学んだことの理解度	
レポート①	30	講義（第1回～第7回）で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考がなされているか		レポート②	30	講義（第8回～第14回）で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考がなされているか	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①講義開始時に毎回小テストを実施するので、復習し内容を理解する [30分以上]。 ②講義中に配布された資料は次の講義までに目を通し内容を理解する [30分以上]。 ③講義中に紹介した書籍等については目を通し理解を深める [30分以上]。				①ミニットペーパーを記入された学生からの質問、意見については、次の講義時間内に回答、解説する。			
受講生に望むこと	新聞やネット記事などに目を通すクセをつけて欲しい。			教科書・テキスト	なし		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SL235U 環境と開発		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田中 純一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
本講義では、グローバリゼーションの下で世界各地で発生する環境、開発を巡る諸問題（気候変動、貧困、災害、水・食料問題など）発生の社会経済的要因を分析し、解決に向けた具体的手立てについて受講者とともに考える。			①人間開発概念、エンパワメント概念など講義で紹介した理論、概念について説明できるようになる。 ②世界の環境問題、開発問題に関心を持ち、その解決策について自分の考えを説明できるようになる。				
教授方法	講義、グループワーク						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス						
2	豊かさとは何か 従属論、世界システム論など基本となる開発理論について学ぶ						
3	人間開発とは何か 国際開発協力の新しい理念である人間開発概念、エンパワメント概念について学ぶ						
4	公正な社会とは 公正概念、公正な社会を巡る国際社会、公正としての正義について学ぶ						
5	MDGsとSDGs ミレニアム開発目標、国連持続可能な開発目標について学ぶ						
6	エネルギーと気候変動 気候変動リスクの現状とグローバルガバナンスの動向について学ぶ						
7	世界の水問題 水を巡る今日的国際情勢について、バーチャルウォーター概念等から学ぶ						
8	世界の食料問題 食料を巡る国際情勢について、エコロジカルフットプリント概念等から学ぶ						
9	貧困と格差 貧困の定義、貧困と格差の現状、解決のためのアプローチについて学ぶ						
10	具体的事例の検討（1） 具体的な開発問題についてグループワークを通して検討する						
11	災害と開発 災害リスクの現状、災害リスクの軽減に向けた取り組みについて学ぶ						
12	具体的事例の検討（2） 具体的な開発問題についてグループワークを通して検討する						
13	内発的発展とは 内発的発展論の起源と展開について学ぶ						
14	グローバル時代の開発教育 開発教育の発展過程について学ぶ						
15	まとめ・総括						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
講義参加態度	10	講義への積極的参加、グループワークへの積極的参加		小テスト	20	講義で学んだことの理解度	
レポート	20	講義で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考がなされているか		期末試験	50	講義内容の理解度	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①レジュメ、資料を配布するので講義の前に目を通し内容を理解すること [30分以上]。 ②講義開始時に小テストを実施するので、前に学んだことを復習し理解する [30分以上]。 ③講義内で紹介した書籍等は目を通し理解を深める [30分以上]。				①小テストは講義の始めに実施し、講義内に回答、解説する。 ②ミニットペーパーに記載された受講者からの質問、意見については次の時間の始めに回答、解説する。			
受講生に望むこと	環境問題、開発問題、開発経済学など関連領域の書籍を10冊読む。			教科書・テキスト	適宜参考図書を紹介する。 適宜講義内にレジュメ、資料を配布する。		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SL205U 高齢者福祉論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	真砂 良則						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>若いや高齢者の問題は、とかく否定的なイメージでとらえられがちである。確かに、介護問題等は深刻な社会問題ともなっている。しかし一方では、さまざまな形で社会参加し意欲的に暮らしている高齢者や、介護が必要になってもその人らしく生き生きと暮らしている高齢者も見受けられる。授業では、超高齢社会を乗り切っていくために、高齢者や老いの問題について理解を深めていく。さらに、支え合っていく仕組みの問題や豊かな老後等、高齢者福祉のあり方について考えていく。</p>			<p>①高齢者の特性、高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について理解できる。 ②高齢者保健福祉制度の発展過程について理解できる。 ③介護保険制度について、目的と理念、制度の概要等を理解できる。 ④高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解できる。 ⑤介護の概念や対象及びその理念、介護過程、介護の技法、介護予防、終末期ケアのあり方について理解できる。</p>				
教授方法	テキストや資料等をもとに講義形式で行う。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業概要の説明。高齢化の進展とその特徴について学ぶ。						
2	高齢者を取り巻く社会情勢・福祉・介護需要について学ぶ。						
3	高齢者の特性や生活実態について学ぶ。						
4	高齢者保健福祉制度の発展過程について学ぶ。						
5	介護保険制度：介護保険制度創設の背景、介護保険制度の目的と理念について学ぶ。						
6	介護保険制度：介護保険制度の仕組みの概要について学ぶ。						
7	介護保険制度：介護保険制度の動向について学ぶ。						
8	介護保険制度：介護保険制度等サービス（居宅・介護予防・地域支援サービス）の体系について学ぶ						
9	介護保険制度：介護保険制度等サービス（施設サービス）の体系について学ぶ。						
10	高齢者を支援する組織と役割、専門職の役割と実際について学ぶ。						
11	高齢者支援の関係法規（老人福祉法、高齢者・障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、高齢者の居住の安定確保に関する法律等）について学ぶ。						
12	介護実践に関連する諸制度（個人の権利を守る制度、保健医療福祉に関する施策の概要）について学ぶ。						
13	介護の概念と対象、介護予防、介護過程について学ぶ。						
14	認知症ケア、終末期ケアについて学ぶ。						
15	介護と住環境について学ぶ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	80	・毎回の講義内容についてどれだけ理解しているか。		授業参加状況	20	・ワークシートや振り返りシート等の提出物（講義内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）により評価する。 ・授業への積極的な取り組み。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①授業の前にシラバスで各回の授業内容を確認し、テキストの該当箇所を読んでおく。[30分以上] ②授業の後に講義内容を復讐するとともに、興味関心を持ったことや疑問点に関して、自分で調べて理解を深める。[30分以上] ③日頃から高齢者福祉や社会保障等の問題に関心をもち、新聞・ニュース等に触れる。</p>				<p>毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回の冒頭に解説等を行う。</p>			
受講生に望むこと	講義中心の授業となるが、受け身ではなく能動的な姿勢（疑問をもつ、考える、発言する等）で臨んでほしい。			教科書・テキスト	『新・エッセンシャル老人福祉論』第3版 石田一紀編（株）みらい 2015年 ISBN978-4-86015-339-7		
指定図書参考書等	なし／『平成29年版厚生労働白書』厚生労働省編 2017年 ISBN978-4-86579-104-4 『平成29年版 高齢社会白書』内閣府編 2017年 ISBN978-4-86579-093-1			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SL210U 障害者福祉論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田引 俊和						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>1. ころの不調や発達障害などを含め、現代社会における障害者福祉の諸問題、支援制度等を正しく理解する。</p> <p>2. 社会福祉士実習で必要となる基礎知識の獲得、および社会福祉士国家試験の関連科目に関する知識を身につける。</p> <p>3. 障害がある人たちの諸問題は社会全体の問題としてとらえ、専門職を目指すもの以外にも理解できる講義を展開する。</p>			<p>1. 障害の概念を把握するとともに、障害者福祉の社会的背景について理解する。</p> <p>2. 現代社会における障害者福祉の理念として、リハビリテーションやノーマライゼーション等の考え方や意義について理解する。</p> <p>3. 障害者の生活実態やこれを取り巻く社会情勢、福祉需要について理解する。</p> <p>4. 障害者福祉制度の発展過程、および障害者総合支援法や障害者の福祉に係る法制度について理解する。</p> <p>5. 障害者福祉の現状と課題、および障害者の生活とそれらに対する支援サービスについて学ぶ。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	障害概念、および障害の基礎的理解						
2	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢						
3	障害者の福祉・介護需要						
4	障害者福祉制度の発展過程						
5	障害者自立支援制度 (1) 障害者総合支援法の概要						
6	障害者自立支援制度 (2) 障害者総合支援法における組織及び団体の役割と実際						
7	障害者自立支援制度 (3) 障害者総合支援法における専門職の役割と実際						
8	障害者自立支援制度 (4) 障害者総合支援法における多職種連携、ネットワークと相談支援事業所の役割と実際						
9	障害者福祉関連施策 (1) 身体障害者福祉法、(2) 知的障害者福祉法						
10	障害者福祉関連施策 (3) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律						
11	障害者福祉関連施策 (4) 発達障害者支援法、(5) 障害者基本法						
12	障害者福祉関連施策 (6) 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行なった者の医療及び観察等に関する法律						
13	障害者福祉関連施策 (7) 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律						
14	障害者福祉関連施策 (8) 障害者の雇用の促進等に関する法律						
15	障害者福祉に関わる専門職						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小テスト・レポート等	50	授業内容の理解		授業参加状況	50	出席、受講態度、提出物等	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>1. 障害がある人たちの社会生活を意識する。</p> <p>2. 社会における障害者福祉サービスの意味を理解する。</p> <p>3. 国民福祉の動向、および障害者白書等で最新の情報を確認する。</p> <p>4. 社会福祉士国家資格取得を目指すものはテキストや資料等を繰り返し学習する。</p> <p>5. 社会における障害者福祉に関する事象について考え、まとめる。[30分以上]</p>				小テスト等は内容を解説します。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応します。			
受講生に望むこと	ころの不調や発達障害などを含め、障害について正しく理解するとともに、社会全体の問題としても関心を持ってください。			教科書・テキスト	新・社会福祉士養成講座14『障害者に対する支援と障害者自立支援制度 第5版』中央法規出版. 2015年 ISBN:978-4-8058-5107-4		
指定図書参考書等	必要な資料を講義毎に配布する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SL215U 障害者スポーツ		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	田引 俊和					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>1. 障害がある人たちのスポーツ活動について、活動状況の実態と特徴を理解し、障害がある人たちの生涯スポーツに貢献できる基礎知識を身につける。</p> <p>2. 具体的には、それぞれの障害の概念や生活の状況を学ぶとともに、社会的背景や関連諸制度を理解し、本人のみならず家族や支援スタッフなど周囲までを含めてスポーツ活動に対する目的や意義について考える。</p> <p>3. 加えて、人的、経済的、あるいは設備・環境といった障害がある人たちのスポーツ活動に必要なマネジメントの視点を学習する。</p>			<p>1. 初級障がい者スポーツ指導員に求められる基本的な知識を学ぶ。</p> <p>2. 障害の基本内容を理解し、スポーツの導入・支援に必要な基本的知識、技術を身につける。</p> <p>3. スポーツ活動の実施、支援における健康や安全管理に関する基礎知識を理解する。</p> <p>4. 広くスポーツ活動の喜びや楽しさを学ぶ。</p> <p>5. 健康を維持、増進する手段としてのスポーツ活動を理解する。</p>			
教授方法	講義（一部演習）					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	障害者福祉施策と障害者スポーツ①（施策の体系）					
2	障害者福祉施策と障害者スポーツ②（今後の動向）、ボランティア精神と活動の基本姿勢①					
3	ボランティア精神と活動の基本姿勢②					
4	障害者スポーツの意義と理念、効果①					
5	障害者スポーツの意義と理念、効果②、障害の理解とスポーツ（身体障害①）					
6	障害の理解とスポーツ（身体障害②）					
7	障害の理解とスポーツ（知的障害①）					
8	障害の理解とスポーツ（知的障害②）、障害の理解とスポーツ（精神障害）					
9	スポーツを実施する際の安全管理					
10	障がい者スポーツ指導員の役割、組織					
11	全国障害者スポーツ大会の概要、目的					
12	障害に応じたスポーツの工夫・実施①					
13	障害に応じたスポーツの工夫・実施②					
14	障害当事者のスポーツ支援・交流、または障害者スポーツ大会等の運営参加①					
15	障害当事者のスポーツ支援・交流、または障害者スポーツ大会等の運営参加②					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
講義中のレポート・小テスト等	50	授業内容の理解	授業参加状況	50	授業への参加状況、受講態度、提出物等	
授業外における学習（事前・事後学習等）						
<p>1. 障害者スポーツやスポーツボランティアの社会的意義を考える。</p> <p>2. 実際の障害者スポーツ体験、または関係者の体験談等をまとめる。</p> <p>3. 2020年東京パラリンピックに向けた社会の動向に関心を持ちまとめる。[30分以上]</p>			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック 小テスト・小レポート等は内容を解説します。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応します。			
受講生に望むこと	<p>1. 障害がある人たちのスポーツ活動だけでなく、社会生活にも関心を持ってください。</p> <p>2. 自分自身の健康、生涯スポーツなどにも関心を持ってください。</p>		教科書・テキスト	適宜、授業中に資料を配付する。		
指定図書参考書等	適宜、授業中に資料を配付する。		その他・特記事項	なし		

授業科目名	SL100U 図書館概論		開講学科	社会科学	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は司書資格の必修科目であり、現代における図書館の意義と役割について、その法的基盤や国民の知る権利を保障する理念を理解することをねらいとする。図書館種別にそれぞれの制度と機能について、その歴史的展開を含めて理解することを目指す。また、一般的な教養として図書館を理解してもらうことも目指すため、司書資格取得を希望しない学生の履修を歓迎する。			①図書館の意義・役割について理解する ②これまでの図書館の歴史を振り返り、今日における図書館の理念の成立について理解する ③公共図書館、大学図書館、学校図書館、専門図書館、国立国会図書館の制度と機能を理解する ④図書館関係機関、図書館関係団体について理解する ⑤今日の図書館の課題と今後の展望について主体的に考えることができる				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	現代社会と図書館 (1) 図書館とは何か						
2	現代社会と図書館 (2) 図書館の種類と図書館の役割						
3	現代社会と図書館 (3) 司書の役割とは何か						
4	図書館の理念 (1) 図書館の自由						
5	図書館の理念 (2) 図書館員の倫理綱領						
6	図書館関係法規について						
7	公共図書館の制度と機能 (1) 図書館法						
8	公共図書館の制度と機能 (2) 公共図書館の機能						
9	公共図書館の制度と機能 (3) 管理運営						
10	学校図書館の制度と機能						
11	大学図書館の制度と機能						
12	専門図書館の制度と機能						
13	国立国会図書館の制度と機能						
14	外国の図書館について						
15	図書館関係団体について						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	筆記試験（持ち込み不可）において 60 %以上の得点を獲得する必要がある。なお小テストで扱った範囲は試験対象外とする。		小テスト	20	筆記試験を授業内で行う。	
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
教科書を指定しているため、教科書を活用した予習復習を授業ごとに最低30分程度は行うこと。図書館を日常的（できれば毎週1回以上）に活用することを心がける。また、図書館員には幅広い背景知識が求められるため、日頃から様々な領域に関心を持つことを求める。				試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてクリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	この科目は司書資格取得のための科目です。ただし、図書館に興味がある学生の履修も歓迎します。資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨んでください。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問するようにしてください。			教科書・テキスト	『図書館概論』塩見昇編著. 日本図書館協会, 2015. (JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3; 1) ISBN:978-4820414179		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SL220U 情報技術論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
本講義では、情報の表現・伝達方法である文字・画像情報を中心に、記録媒体である情報メディアおよびそれらを取り扱う多様な情報機器の歴史、種類、特性、機能、利用法、等について概説し、様々な情報サービスにおける導入・活用の実例を示しながら解説する。			図書館などの情報サービスにおける情報技術の活用に必要な基礎知識を習得し、多様な実践に対応しうる見識を身につける。コンピュータやネットワーク、インターネットなどの基礎知識の習得する。さらに携帯情報端末や電子資料、電子書籍など多様に進歩する情報技術についての知識を深めていく。				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	情報と情報技術 授業の進め方, 情報とは何かを考える						
2	情報の表現方法と蓄積媒体						
3	情報技術と情報メディア その種類と歴史						
4	図書館と記録技術 視聴覚メディアと電子メディア						
5	情報処理技術とコンピュータ						
6	コンピュータの歴史						
7	現代のコンピュータ						
8	コンピュータとソフトウェア						
9	携帯情報端末						
10	図書館サービスと電子資料・電子書籍						
11	データベースとは						
12	コンピュータネットワークとは						
13	インターネットの仕組み						
14	インターネットと検索エンジン						
15	図書館と情報技術 まとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	筆記試験（持ち込み不可）を行う。		小テスト・授業内課題	20	授業内で筆記の小テスト、小レポートを出題する。	
授業参加度	20	授業への参加度、発言などの積極性を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
日常的に情報技術に興味を持ち、ニュースなどで伝えられる情報技術関連の話題に関心を持ってください。 基本的なPCについての知識があることが望ましいため、PCなどを活用することを心がけてください。 配布資料を用いて復習を30分程度は行うこと。				試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてクリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	この科目は司書資格のための科目ですが、情報技術一般について興味がある学生の履修を歓迎します。司書資格取得を目指す場合は、図書館における情報技術の意味について考えながら受講をしてください。			教科書・テキスト	なし（授業内で資料配布）		
指定図書参考書等	なし／『図書館情報技術論』杉本重雄 [ほか] 編 樹村房 2014 ISBN : 978-4883672035			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SP200U 心理学実験実習 I		開講学科	社会科学	必修・選択	選択	
担当教員名	松下 健・西尾 祐美子 (代表教員 松下 健)						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
心理学研究を進める上で、必要とされる各種実験手法について、その基礎的知識獲得から実施までを、実習をとおして学びます。各実験後に実験レポートを作成してもらいます。			①実験計画の方法に習熟している。 ②実験器具の取り扱いを習得している。 ③実験で得られたデータの分析方法に習熟している。 ④実験レポートを的確に書くことができる。				
教授方法	グループで各実験種目を実施する。その後、実験について解説を行い、データの分析、レポートの作成を行う。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業の進め方の説明を行う。また、心理学実験についての基礎的な知識を説明する。					全教員	
2	パーソナル・スペース：パーソナル・スペースの心理的効果についての実験の実習を行う。					松下	
3	「パーソナル・スペース」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					松下	
4	鏡映描写：鏡に映された図形を見ながら、その図形を描くという課題に取り組む。					西尾	
5	「鏡映描写」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					西尾	
6	P-Fスタディ：投影法による心理の理解という観点から実習を行う。					松下	
7	「P-Fスタディ」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					松下	
8	ミューラー・リヤー錯視（長さの錯視）：錯視の実験実習を行う。					西尾	
9	「ミューラー・リヤー錯視（長さの錯視）」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					西尾	
10	面接場面における面談者と来談者の言語行動：面接場面の観察から言語行動を分析する手法を学ぶ。					松下	
11	「面接場面における面談者と来談者の言語行動」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					松下	
12	触二点閾：皮膚感覚のありようを理解するための実験実習を行う。					西尾	
13	「触二点閾」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					西尾	
14	SD法：SD法の実験の実習を行う。					松下	
15	「SD法」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					松下	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
実験レポート	90	各種目で提出されたレポートの内容により評価を行う（計7本）。レポートとして重要な点は授業内に提示する。	授業参加態度	10	実験とデータ処理に取り組む姿勢等の参加態度をみる。		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①多様な種目が用意されているので、種目ごとに自分でその分野のテキストや先行研究を当たり、知識を深める。〔60分〕 ②各実験とも、実験レポートを作成し、次回の授業の時に提出する。〔60分〕 ③添削されたレポートによって復習する。〔30分〕			提出された実験レポートを添削した上で返却する。				
受講生に望むこと	評価はレポートにより行われるが、実験実習であるため、すべての回に出席・参加することが原則となる。また、授業時以外に自分で調べ、レポートを書き進めることで実験レポートを書く力が身につくので、授業への積極的な態度が求められる。		教科書・テキスト	『心理学実験法・レポートの書き方』 西口利文・松浦均（編） ナカニシヤ出版 2008年 ISBN 978-4-7795-0237-8			
指定図書参考書等	指定図書 なし/参考図書 『実践心理データ解析—問題の発想・データ処理・論文の作成—改訂版』 田中敏 新曜社 2006年 ISBN 4-7885-1012-X その他種目ごとに適宜授業内に提示することがある。		その他・特記事項	なし。			

授業科目名	SP205U 心理学実験実習Ⅱ		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	西村 洋一・齊藤 英俊・西尾 祐美子（代表教員 西村 洋一）					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本実習は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。「心理学実験実習Ⅰ」に引き続き、心理学研究を進めるうえで必要とされる実験手法と実験計画の方法を、実習を通して学ぶ。本実習は、基礎的なものからやや応用的なものまで多様な手法を含んだ実習内容となっている。実験の枠組みの理解とともに実験器具の取り扱いの習得も目指す。</p>			<p>①実験計画の方法を理解する。 ②実験器具の取り扱いを習得する。 ③実験で得られたデータの分析方法を習得する。 ④実験レポートの書き方に習熟する。</p>			
教授方法	グループで各実験種目を実施する。その後、実験について解説を行い、データの分析、レポートの作成を行う。					
履修条件	心理学実験実習Ⅰの履修済みが望ましい（単位未修得可）。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	眼球運動の測定：アイマーク・レコーダーを用いて眼球運動を測定する実験の実習を行う。					西村
2	「眼球運動の測定」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					西村
3	一対比較法：一対比較法の実験の実習を行う。					西尾
4	「一対比較法」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					西尾
5	社会的推論：人の持つ社会的認知のありようについて検討する実験の実習を行う。					齊藤
6	「社会的推論」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					齊藤
7	Y-G性格検査：投影法による心理の理解という観点から実習を行う。					西尾
8	「Y-G性格検査」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					西尾
9	社会的態度：社会的態度を測定するための手法を用いた実験の実習を行う。					齊藤
10	「社会的態度」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					齊藤
11	ストループ効果：ストループ効果のありようを理解するための実験の実習を行う。					西尾
12	「ストループ効果」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					西尾
13	感情理解：表情からの感情理解のありように関する実験の実習を行う。					西村
14	「感情理解」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、仮説の立て方、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					西村
15	「感情理解」 レポート作成指導：分析結果のまとめ方、レポートの書き方について指導を行う。					西村
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
授業内レポート	90	各種目で提出されたレポートの内容により評価を行う（計7本）。レポートとして重要な点は授業内に提示する。	実習への参加度	10	実験を行うにあたって担当者の指示を理解し、着実に実行されているかをみる。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①種目ごとにテキストや配布されたプリントをよく読み、実験内容の理解を深める。 [45分] ②各実験種目のレポートを作成する。 [120分] ③各種目で適用された分析方法を復習する。 [30分] ④返却されたレポートを見直し、修正する [30分]</p>			各種目についてのレポートは、添削終了後返却し、コメントを行う。			
受講生に望むこと	評価はレポートにより行われるが、実験実習であるため全ての回に出席・参加することが原則となる。また、授業時以外に自分で調べ、レポートを書き進めることで実験レポートを書く力が身につくので、授業への積極的な参加態度が求められる。		教科書・テキスト	『心理学実験法・レポートの書き方』 西口利文・松浦均（編） ナカニシヤ出版 2008年 ISBN 978-4-7795-0237-8		
指定図書参考書等	なし/種目ごとに適宜授業内に提示する。		その他・特記事項	なし		

授業科目名	SP210U 心理学研究法A		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	西村 洋一						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義は、心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。心に対して科学的にアプローチをするためには、妥当な測定をいかに行うかという点が重要である。心理学では、妥当な測定を行うための方法が長年にわたって吟味され、開発が行われてきた歴史がある。心理学的な研究を行うためには、それらの方法を身につけることが欠かせない。そこで、本講義では、根底に流れる科学的な思考法を踏まえながら、様々な心理学的方法を習得することを旨とする。</p>			<p>①科学的心理学の特徴と存在意義について習熟する。 ②科学的研究にあたってのアプローチ法とそれに伴う難問について習熟し、適切な研究方法を選ぶことができる。 ③心理学研究における実験法、質問紙法、尺度構成、観察法、検査法、面接法といった様々な方法の意義と実施における留意点を習得し、実践することができる。 ④心理学研究における倫理的問題について議論することができる。 ⑤研究計画の留意点と実際を学び、自身の問題意識に対して心理学的研究を実施できるようになる。</p>				
教授方法	講義を中心にワークなどによる体験を取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	「研究」とはなにか？良い研究と心理学における「方法」の位置づけについて考える。						
2	実験法① 実験法の基本的な考え方について学ぶ。						
3	実験法② 実験を行う際の留意点について学ぶ。						
4	質問紙法① 質問紙法の基本的な考えについて学ぶ。						
5	質問紙法② 質問紙調査を実施する際の留意点について学ぶ。						
6	尺度構成法 心理学における尺度構成の基本的な考えと留意点について学ぶ。						
7	観察法 観察による心理学的研究を行う際の基本的な考えと留意点について学ぶ。						
8	面接法 面接による心理学的研究を行う際の基本的な考えと留意点について学ぶ。						
9	検査法 心理検査を用いた研究、査定のための基本的な考えと留意点について学ぶ。						
10	中間テストとこれまでにないようについての振り返り。						
11	研究倫理 研究を実施するにあたって配慮しなければならない倫理的な観点について学ぶ。						
12	研究計画の立て方 研究計画を実際に立てる際の手法と留意点について学ぶ。						
13	検定力とサンプルサイズの決定 統計的観点からサンプルサイズを決定する方法を学ぶ。						
14	メタ分析 メタ分析とはどのようなものであり、実際にどのように使えるのかを学ぶ。						
15	研究計画の実際 具体的に研究計画を立てる実践から、これまでに学んだ内容を振り返る。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
期末レポート	40	自身で立てた研究計画の精度（本講義で学んだ内容をどれだけ踏まえられているか）	中間テスト	30	講義で学んだ内容の理解度		
講義への参加度	30	講義中の参加姿勢と振り返りの内容により評価を行う。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>①講義で学んだ内容について、テキスト、資料、ノート等を使用して復習を行う。[45分] ②次回の内容について、テキスト、資料を使用して予習を行う。[30分] ③心理学研究法についての参考文献や論文を読みながら、どのようにして研究が行われているかについて学ぶ。[30分]</p>			振り返りの内容については、次回の講義においてフィードバックを行う。				
受講生に望むこと	研究法の理解、習得は新たな知識を生み出すために必要なものである。自分が新たな知識を切り開くためにどのようなことが必要であるのかという態度を貫きながら講義に臨んでほしい。		教科書・テキスト	『心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし 補訂版』高野陽太郎他 有斐閣 2017年 ISBN 978-4-641-22086-7			
指定図書参考書等	なし／『実践心理データ解析—問題の発想・データ処理・論文の作成—改訂版』田中敏 新曜社 2006年 ISBN 978-4-7885-1012-8		その他・特記事項	心理統計学Ⅰおよび心理学実験実習Ⅰを履修することで、本講義の内容がより深く理解できるようになる。			

授業科目名	SP215U 心理検査法		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	松下 健						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
心理検査法の理論と実践方法について学ぶ。実際に心理検査（知能検査・質問紙法・投影法等）を体験しながら、実施方法、結果の分析、解釈などアセスメントの実施方法について学習し、得られた検査結果から具体的な支援計画を作成する方法までを修得する。アセスメントを通して的確に現状を把握する力を身につけ、支援計画を作成するスキルも高めていく機会とする。			(1) 心理教育的アセスメントとは何かを説明できるようになること (2) 心理検査の信頼性と妥当性を説明できるようになること (3) 心理検査に用いられる統計解析を説明できるようになること (4) 心理検査を実施、採点、解釈できるようになること				
教授方法	講義、演習						
履修条件	心理統計学および心理学研究法に関する講義の成績が「S」または「A」であることが望ましい						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	心理検査法とは何か、オリエンテーション						
2	心理測定の基礎、データの尺度水準、分布、代表値、正規分布と確率、標準得点						
3	検査の信頼性と妥当性						
4	心理検査と統計解析						
5	質問紙検査、STAIの理論と実施、解釈と所見作成						
6	性格検査、TEGの理論と実施						
7	性格検査、TEGの解釈と所見作成						
8	描画法、投映法、バウムテストの理論と実施						
9	描画法、投映法、バウムテストの解釈と所見作成						
10	知能検査、WAIS-III（言語性検査1回目）						
11	知能検査、WAIS-III（言語性検査2回目）						
12	知能検査、WAIS-III（動作性検査1回目）						
13	知能検査、WAIS-III（動作性検査2回目）						
14	知能検査、WAIS-III（結果の解釈と所見作成）						
15	総括、心理検査法とは何か						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
受講態度	30	講義中の演習や課題に従事すること、積極的に質問、発言すること、他者の発表や意見を聴くこと		課題と発表	30	出された課題を行うこと、小レポートを作成すること、必要に応じて発表すること	
期末レポート	40	レポートを書式通りに作成し、期日を守り提出すること					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
心理検査の演習を行うために、検査実施方法を予習して修得すること。[120分] 心理検査の所見を宿題として作成すること。[120分]				期末レポートについては、次学期初めに内容に関するコメントを掲示する。			
受講生に望むこと	心理統計学および心理学研究法の知識と技術を十分修得した上で受講すること。修得していない場合は講義の理解が困難なため、自習により統計学や研究法の知識を予め必ず獲得しておくこと。			教科書・テキスト	『心理検査の実施の初歩 心理学基礎演習5』 願興寺 礼子・吉住隆弘（編） ナカニシヤ出版 2011年 ISBN-10:4779503876 ISBN-13:9784779503870		
指定図書参考書等	なし/『心理テスト—理論と実践の架け橋—』 ホーガン、T. P. (著) 繁樹算男・権名久美子・石垣琢磨（共訳） 培風館 2010年 ISBN-13:978-4563052041			その他・特記事項	心理検査の実施は他者とペアあるいはグループを作り実施する。予習を行わない場合は他者に迷惑をかけることになるので、大きな減点になる。		

授業科目名	SP225U 発達心理学		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	齊藤 英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
人間がどのような発達過程をたどるかを理解することは、保育や教育に携わるうえで重要な視点である。本講義では、発達心理学研究の具体的な成果をもとに、乳幼児期から青年期を中心に、人間の心理的発達のしくみについて学ぶ。			①発達心理学の諸理論に関する基礎知識を答えられる。 ②各年齢期において達成されるべき発達課題を答えられる。 ③発達心理学の知見を踏まえ、乳幼児期から青年期の子どもに対する基本的な関わりについて考察できる。				
教授方法	講義を中心にワークなども取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問なのか。発達心理学を学ぶ意義を理解す						
2	「発達」を考える①：「発達を決めるのは遺伝か環境か」、「年をとるのは衰退か成熟か」などの疑問をもとに、人の「発達」について考える。						
3	「発達」を考える②：人の発達において、各発達段階で達成しておくことが望まれる「発達課題」について理解する。また、発達課題と教育との関連について考える。						
4	胎児期～乳児期①：お腹のなかにいる赤ちゃんに意識はあるのだろうか。生後間もない赤ちゃんはただ泣いているだけだろうか。胎児や新生児の発達と有能さについて理解する。						
5	胎児期～乳児期②：赤ちゃんはどのように外界と関わっているか。乳児期の情動、認知、言語の発達について考える。						
6	胎児期～乳児期③：対人関係の基盤となるものは何か。情緒的な絆である「愛着（アタッチメント）」について考える。						
7	幼児期①：「ぼく・わたし」はいつ成立するか。子どもの言語発達や自己概念の成立について考える。						
8	幼児期②：なぜ子どもにとって「遊び」は重要なのか。「象徴機能」や社会性の発達を通して、子どもにおける遊びの重要性について考える。						
9	幼児期③：子どもはどのように「賢く」なっていくか。幼児期における認知発達について考える。						
10	児童期①：子どもの対人関係はどう変わっていくか。友人関係の展開を中心に学童期の子どもが抱えやすい問題について考える。						
11	児童期②：物事の善し悪しや思いやりはどのように育つか。学童期の子どもの「道徳性」や「向社会性」の発達について考える。						
12	青年期①：「人は二度生まれる」の二度目の誕生とは。青年期における身体と心の変化、周囲との関係の変化について考える。						
13	青年期②：「自分らしさ」とは何だろうか。青年期の重要な発達課題とされる「自我同一性（アイデンティティ）」について考える。						
14	成人期・老年期：家庭を持ち親になることの意味、老いや病がもたらすもの、死を目前にした人間について考える。						
15	「発達障害」の理解と対応：発達障害は親のしつけや本人の性格が原因ではない。では、発達障害とは何だろうか。発達障害を正しく理解し、適切な関わりを考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
各回のミニ・レポート	30	講義内容に対する意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。		定期試験	70	発達心理学の諸理論、発達課題、子どもに対する適切な関わりなど、授業で取り上げる内容の知識が獲得されていることが評価基準。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の当該箇所を読んでおく。[30分] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、発達心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分] ③発達心理学の下位領域・関連領域である「乳幼児心理学」「児童心理学」「青年心理学」「発達障害」などの参考書を用いて、知識を深める。			毎回のミニ・レポートについては、次回の授業のときに内容に関する振り返りを行います。				
受講生に望むこと	授業の内容が今後の自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的に受講することを望みます。			教科書・テキスト	『問いからはじめる発達心理学』坂上裕子・山口智子・林 創・中間玲子 有斐閣 2014年 ISBN:978-4641150133		
指定図書参考書等	なし/『保育の心理学Ⅰ・Ⅱ』本郷一夫編 建帛社 2015年 ISBN:978-4767950358、『発達心理学で読み解く保育エピソード』若尾良徳・岡部康成 北樹出版 2010年 ISBN:978-4779302510、『エピソードでつかむ生涯発達心理学』岡本祐子・深瀬裕子編 ミネルヴァ書房 2013年 ISBN:978-4623065318、『エピソードでつかむ児童心理学』伊藤亜矢子編 ミネルヴァ書房 2011年 ISBN:978-4623058259			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SP230U 教育心理学		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	齊藤 英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
教育心理学における主要な領域（発達、学習、評価、集団・適応）について講義する。本講義では、教育活動について心理学の視点から理解を深め、効果的な学びを促すにはどうすればよいかについて考える。			①子どもの心身の発達過程を答えられる。 ②心理的発達の特徴を踏まえた上で、学習過程で生じる心理的メカニズムについて答えられる。 ③主体的な学習を支える集団づくりと集団への適応に関して正しい知識を答えられる。 ④教育活動の評価の意義および役割を答えられる。				
教授方法	講義を中心にワークなども取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション：教育心理学は、どのような学問なのか。教育心理学の主な領域である「発達」「学習」「評価」「集団・適応」の概要と、教育心理学の研究法を理解する。						
2	発達と教育①「発達課題と教育」：人間の発達と教育の関連について、人の「発達段階」や「発達課題」を通して考える。						
3	発達と教育②「発達における教育の役割」：ピアジェやヴィゴツキーの発達理論を通して発達における教育の役割を考える。						
4	学習①「学習理論①」：学びはどのようにして生じるか。条件づけ理論を通して、学習が起こるメカニズムについて考える。						
5	学習②「学習理論②」：学びはどのようにして生じるか。学習に関する様々な理論を通して、学習が起こるメカニズムについて考える。						
6	学習③「学習と教授理論」：どのような教え方が効果的だろうか。さまざまな教授理論を比較しながら各教授法の特徴を考える。						
7	学習④「動機づけ」：やる気はどこから生じるか。動機づけに関する研究を通して、学ぶ意欲について考える。						
8	学習⑤「記憶」：学びの基礎になる記憶の理論を学ぶ。記憶に関する研究成果を紹介し、学習においてどのように活用できるか考える。						
9	学習⑥「学習指導と個人差」：すべての子どもに同じ教え方でよいだろうか。教授方法と個人差との関係を通して、学習指導について考える。						
10	評価①「知能」：知能とは何だろうか、どのように測定できるだろうか。知能に関する様々な理論と測定方法を学び、「知能が高い（低い）」とはどのようなことか考える。						
11	評価②「教育評価」：教育評価とは何か、誰が誰の何を評価するのだろうか。教育評価の意義を理解し、教育における評価の役割を考える。						
12	集団・適応①「学級集団」：学級は単なる個人の集まりだろうか。集団心理や成員間の相互作用などを通して、学級集団について考える。						
13	集団・適応②「不登校・いじめ」：不登校やいじめの問題を通して、学校や学級集団への適応を考える。						
14	集団・適応③「発達障害・精神障害」：発達障害や精神障害を抱えた子どもの学校や学級集団への適応を考える。						
15	集団・適応④「学校カウンセリング」：学校や家庭において、子どもの心の問題にどのように取り組んでいくことができるだろうか。学校現場での心理支援活動について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
各回のミニ・レポート	30	講義内容に対する感想や意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。		定期試験	70	教育心理学の主要な内容（発達、学習、評価、集団・適応）に関する基礎知識が獲得されていることが評価基準。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の当該箇所を読んでおく。[30分] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、教育心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分] ③教育心理学と関連の深い「発達心理学」「学習心理学」「認知心理学」「学校心理学」などの関連書籍にあたり、知識を深める。			毎回のミニ・レポートについては、次回の授業時に内容に関する振り返りを行います。				
受講生に望むこと	授業の内容が、自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的な受講態度を望みます。			教科書・テキスト	『教育心理学』 服部環・外山美樹 サイエンス社 2013年 ISBN: 4781913253		
指定図書参考書等	なし/『教育心理学Ⅰ』 大村彰道編 東京大学出版会 1996年 ISBN: 978-4130520720、『教育心理学Ⅱ』 下山晴彦編 東京大学出版会 1998年 ISBN: 978-4130520744			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SP235U 人格心理学		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	齊藤 英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
人間の心理や行動には個人差が存在する。そのような個人差が生まれるメカニズムに関連しているものの1つとして人格（＝性格、パーソナリティ）があげられる。本講義では、心理学の知見を通して人格を捉えるための多様な視点を概観し、人間理解に向けた1つの基本的知識・視点を身につけることを目指す。			①人格を理解するための諸理論を説明できる。 ②人格を測定する方法と、測定における問題点を答えられる。 ③人格心理学の科学的知見をもとに、人間のパーソナリティについて幅広い視野から考えることができる。				
教授方法	講義を中心に性格検査などワークを取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション：人格（性格、パーソナリティ）とは何か。人の内面の特徴とされるパーソナリティとはどのようなものか概説する。						
2	類型論：人格をとらえる視点の一つである「類型論」をとりあげ、性格をタイプに分けることの利点と欠点について考える。						
3	精神分析的人格論①：フロイトの精神分析的人格論をとりあげ、人の内面構造に関する理論を学ぶ。						
4	精神分析的人格論②：ユングのパーソナリティ論をとりあげ、人の内面構造に関する理論を学ぶ。						
5	特性論① その考え方：人格をとらえる視点の一つである「特性論」をとりあげ、人をいくつかの特性からとらえることの利点と欠点を考える。						
6	特性論② Big Five：パーソナリティは5つの主要な性格因子で構成されるとする「Big Five モデル」を学ぶ。						
7	状況論：状況要因や環境要因を重視した「状況論」について学び、人格における状況の影響について考える。						
8	相互作用論：人-状況論争を経て誕生した「相互作用論」をとりあげ、近年の性格研究の動向について学ぶ。						
9	物語論：物語論（ナラティブ）の視点から人格について考える。						
10	人格の測定と研究法：人格はどのように測定することができるか考える。方法論（質問紙法、投影法、観察法、面接法）を理解し、研究方法について学ぶ。						
11	人格の発達①：遺伝や家庭をはじめとする環境が、どの程度、人格の形成に影響しているかを考える。						
12	人格の発達②：一度つくられた人格が変わることはあるか、また人格の成熟とは何かについて考える。						
13	人間関係と人格：「対人魅力」に関する研究成果をもとに、相手に好かれる性格とはどういったものかについて考える。						
14	文化と人格：東洋と西洋、日本と米国など、異なった文化環境は人格の形成にどういった影響を及ぼしているかについて考える。						
15	人格の病理：人格における病理にはどのようなものがあるか、またそれらへの対応や治療について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
毎回のリアクション・ペーパー	20	講義内容に対する感想や意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）		課題レポート	40	授業内容をもとに、課題テーマについて自らの意見や考察が行われているかどうか。	
定期試験	40	「人格心理学」の基礎知識が獲得されている。「人格心理学」のテーマについて、実証的研究の知見を踏まえて論理的考察を加えられる。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①授業の前にシラバスを読み、授業内容について参考書などで予習しておくこと。 [30分] ②授業の後に各回の講義内容について、関連図書などを用いて復習しておくこと。 [40分] ③普段自分が、自分の性格や他人の性格をどのようにとらえているのか意識して生活してみる。 ④授業内で習った理論に基づいて、自分の性格や他人の性格を分析してみる。				リアクション・ペーパーについては、授業内で振り返りの時間もちまます。			
受講生に望むこと	性格は身近なものであり、講義内容と自分の性格など自分自身とを結びつけながら受講してほしい。			教科書・テキスト	適宜プリントを配布する。		
指定図書参考書等	なし/『[改訂版] 性格心理学への招待：自分を知り他者を理解するために』 詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊 サイエンス社 2003年 ISBN:978-4781910444、『パーソナリティ心理学』 榎本博明・安藤寿康・堀毛一也 有斐閣 2009年 ISBN:978-4641123779、『パーソナリティ心理学概論：性格理解への扉』 鈴木公啓編 ナカニシヤ出版 2012年 ISBN:978-4779506383			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SP240U 臨床心理学			開講学科	社会科学	必修・選択	選択
担当教員名	松下 健						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要				授業の到達目標			
臨床心理学は心理学の様々な知見を対人援助に用いることを目的とした、応用的な分野の一つである。その内容は多岐にわたるため、本講義では対象、査定方法、心理療法のモデル、心理療法の理論、心理療法の技法、臨床心理士が活躍する現場に焦点を当てて学習する。臨床心理学では人を理解することが重要であるため、技法や検査を体験することで自己や他者の特徴について理解を深める機会と、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて人とのコミュニケーションの取り方について考える機会を設けたい。				(1) 臨床心理学とは何かを説明できるようになる。 (2) 臨床心理学の対象は何かを説明できるようになる。 (3) 臨床心理学的査定とは何か、具体的にどのような方法があるかを説明できるようになる。 (4) 臨床心理学の理論を説明できるようになる。 (5) 臨床心理学の技法を説明できるようになる。 (6) 臨床心理士が活躍する現場を説明できるようになる。			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	臨床心理学の定義と歴史：臨床心理学とは何か、その定義と歴史を理解する。						
2	学校臨床心理学（不登校、いじめ、発達）：学校について臨床心理学的観点から理解する。						
3	発達障害：臨床心理学の対象のひとつである発達障害について、どのような特徴があるかを理解する。						
4	統合失調症：臨床心理学の対象のひとつである統合失調症について、どのような特徴があるかを理解する。						
5	気分障害、神経症：臨床心理学の対象である気分障害と神経症について、どのような特徴があるかを理解する。						
6	異常と正常、治療モデルと成長モデル：臨床心理学では異常と正常をどのように考えるのか、また、対象の変化をどのようなモデルに沿って考えるのかを理解する。						
7	心理査定（面接法、観察法）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、面接法と観察法に焦点を当てて理解する。						
8	心理査定（投影法）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、検査法の中でも投影法に焦点を当てて理解する。						
9	心理査定（知能検査、作業検査、質問紙）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、検査法の中でも知能検査、作業検査、質問紙に焦点を当てて理解する。						
10	心理面接（受面接・終結、マイクロカウンセリング）：臨床心理学の面接はどのように行われるのか、面接の開始、面接の終了、面接の技法を理解する。						
11	精神分析の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論の一つである精神分析について、その歴史、精神分析理論の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。						
12	人間性心理学の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論の一つである人間性心理学について、その歴史、人間性心理学理論の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。						
13	行動療法・認知療法の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論である行動療法・認知療法について、その歴史、行動療法・認知療法の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。						
14	遊戯療法、家族療法、森田療法、内観、臨床動作法、自律訓練法：臨床心理学において頻りに利用される様々な心理療法について理解する。						
15	臨床心理士が働く現場（医療、教育、福祉）：臨床心理学を対人援助に実際に利用している臨床心理士がどのような現場で活躍しているのかを理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
リアクションペーパー	30	講義内容について自分の考えを記述すること。講義のメモではなく、内容から発展させた自分の考えを記述することが求められる。			講義の受講態度	30	グループディスカッションやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
講義内容に関連する内容について、参考図書をはじめとする臨床心理学に関連する学術的な書籍や論文を読み、知識や理解を深める予習が求められる。[60分] 内容の理解や知識の定着のために復習を積極的に行うことが求められる。[30分] グループでプレゼンテーションを行う際には講義以外にも仲間と打ち合わせや発表の準備を行う必要性が生じる場合がある。[60分]				期末レポートについては、次学期初めに内容に関するコメントを配布する。			
受講生に望むこと	シラバスの内容をよく確認した上で受講すること。 学習に自発的、積極的に取り組むこと。 グループディスカッションの時には他者と協調すること。 プレゼンテーションのために仲間と協力して学習に取り組むこと。			教科書・テキスト	なし。 適宜資料を配布する。		
指定図書参考書等	なし/園田雅代・無藤清子（2011）『臨床心理学とは何だろうか：基本を学び、考える』新曜社 ISBN:4788512262、岩壁茂・福島哲夫・伊藤絵美（2013）『臨床心理学入門：多様なアプローチを越境する』有斐閣 ISBN：9784641220034			その他・特記事項	1回程度、他学科の教員などゲストスピーカーをお招きする可能性がある。 受講生の理解度に応じて進度を変更する可能性がある。		

授業科目名	SW200U 相談援助の基盤と専門職		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	田引 俊和					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>講義をとおして、ソーシャルワーカーの役割と意義を学び、ソーシャルワークの概念と範囲、理念について理解する。また、ソーシャルワーカーの専門性と専門職倫理を学び、総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。 社会福祉士実習、および国家試験を意識した内容を展開する。</p>			<p>1. ソーシャルワーカーの役割と意義について理解する。 2. ソーシャルワークの概念と範囲、理念について理解する。 3. ソーシャルワーカーの専門性と専門職倫理について理解する。 4. 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。</p>			
教授方法	講義					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	相談援助のきっかけ（問題はどのような状況で発生するかを理解する）					
2	ソーシャルワーカーの役割と意義について					
3	相談援助の概念（相談援助とはどのようなことをいうのかを理解する）					
4	相談援助の範囲					
5	相談援助の理念①（人権と社会正義について理解する）					
6	相談援助の理念②（利用者本位と尊厳の保持について理解する）					
7	相談援助の理念③（自立支援について理解する）					
8	ソーシャルワークにおける権利擁護の意義					
9	相談援助に係る専門職の概念と範囲（相談援助の専門職とは何かを理解する）					
10	福祉行政における専門職					
11	民間施設と組織における専門職					
12	専門職倫理の概念（専門職の倫理とはなぜ必要か、どのようなものがあるかを理解する）					
13	ソーシャルワーカー倫理綱領について（ソーシャルワーカーの倫理綱領を理解する）					
14	倫理的ディレンマ（ソーシャルワーカーの抱える倫理的ディレンマについて理解する）					
15	総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容（ソーシャルワーカーに求められる援助方法について理解する）					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加状況	50	出席状況と授業への取り組み姿勢、提出物等		確認テスト・ミニレポート	50	授業内容の理解（毎回の確認テスト）
授業外における学習（事前・事後学習等）						
<p>1. 社会のなかで起きている福祉に関する問題について感心をもつ。 2. 相談の基盤となる人間関係についてさまざまな機会をとおして学ぶ。 3. 社会問題に関する新聞記事を読み、自分なりに考察を行ないまとめる。30分以上</p>				<p>確認テスト等は、毎回、結果とともに内容を解説します。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応します。</p>		
受講生に望むこと	<p>社会のなかで発生しているさまざま問題に関心をもち、なぜそのような問題が起こるのか、その問題の解決にはどのような方法があるのか、自分なりに問題意識をもちながら授業に臨んでください。 授業は、社会福祉士実習、および国家試験を意識した内容です。</p>			教科書・テキスト	<p>『新・社会福祉士養成講座6（相談援助の基盤と専門職第3版）』中央法規、2015。 ISBN:978-4-8058-5102-9</p>	
指定図書参考書等	必要な資料を講義毎に配布する。			その他・特記事項	随時、社会福祉士国家試験に関する資料を配布、説明する。	

授業科目名	SW205U 相談援助の理論と方法 I		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田引 俊和						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>社会福祉士にとって必要な社会福祉援助技術のシステム理論における全体像を理解し、将来、社会福祉サービスの利用者を援助するソーシャルワーカーとして実践することを想定し、連絡調整等のソーシャルワーク実践についての理論と技術についての基本を習得するとともに、相談援助の構造、機能、展開過程を通じた総合的かつ包括的なあり方とその実際の意義や具体的概念を理解し、真に求められるソーシャルワークの基礎を学ぶ目的で授業を進める。講義と課題レポートなどを通してソーシャルワークの基礎及び全体像を身につけることができる。</p> <p>社会福祉士実習、および国家試験を意識した専門的な内容を展開する。</p>			<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回の講義を通して、相談援助の基礎的知識を身につけることができる。 2. 社会福祉士の役割と意義を理解する。 3. ソーシャルワークの歴史を理解する。 4. 総合的かつ包括的な相談援助体制と機能を理解する。 5. 専門職倫理と価値、ジレンマについて理解する。 6. 課題レポートを通して相談援助の全体像を習得する。 7. 確認テスト等を通して基礎的知識の習得を確認する。 				
教授方法	講義						
履修条件	「相談援助の基盤と専門職」の単位修得済の者、または同時履修の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	科目を学ぶ意義、到達目標、授業の流れを把握し、社会福祉士の役割と意義について理解する。						
2	相談援助の定義と構成要素について理解する。						
3	相談援助の形成過程の中のソーシャルワークの源流、基礎確立期について理解する。						
4	相談援助の形成過程の中のソーシャルワークの発展期、展開期、統合化について理解する。						
5	相談援助理念としてのソーシャルワーカーと価値について理解する。						
6	相談援助理念としてのソーシャルワーク実践と価値について理解する。						
7	相談援助理念としてのソーシャルワーク実践と権利擁護について理解する。						
8	相談援助理念としてのクライアントの尊厳と自己決定について理解する。						
9	相談援助理念としてのノーマライゼーションと社会的包摂について理解する。						
10	専門職倫理と価値、ジレンマについて理解する。						
11	総合的かつ包括的な相談援助の全体像について理解し、レポート課題を通して主体的に習得する。						
12	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論について理解する。						
13	相談援助にかかる専門職の概念と範囲について理解する。						
14	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能としての予防機能、多様なニーズ対応について理解する。						
15	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能としての総合支援、権利擁護、社会資源について理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加状況	50	授業への参加状況、受講態度、小テスト・提出物等		確認テスト・ミニレポート	50	授業内容の理解（確認テスト）	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
<ol style="list-style-type: none"> ①毎回の授業後に、自身で振り返り、疑問点や不明な点を調べる。[30分以上] ②社会の事象に関心を持ち、とくに福祉領域の特徴、問題等をまとめる。 ③社会福祉士の国家試験と関連したポイントを整理する。 				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック 確認テスト等は、毎回結果とともに内容を解説します。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応します。			
受講生に望むこと	<ol style="list-style-type: none"> 1. 相談援助の専門職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。 2. 疑問点や深い洞察も含めた知識の探求を意識し学んで下さい。 			教科書・テキスト	新・社会福祉士養成講座7『相談援助の理論と方法 I 第3版』中央法規、2015。 ISBN:978-4-8058-5103-6		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SW210U 相談援助の理論と方法II		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田引 俊和						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>社会福祉士がソーシャルワーカーとして個人、家族、小集団・組織、地域社会をクライアント・システムとして捉え、いかに対応していくかを学ぶ。特に利用者主体の尊重と援助活動への利用者自身の参加、すなわちソーシャルワークにおける援助関係はソーシャルワーカーと利用者の協働関係であることを基本的な理解として、相談援助の展開過程と面接の技術、およびその活動の測定、評価等について学ぶ。</p> <p>社会福祉士実習、および国家試験を意識した専門的な内容を展開する。</p>			<ol style="list-style-type: none"> 1. 相談援助における価値と倫理に関する意識を深めることができる。 2. 相談援助におけるソーシャルワーカーと利用者の援助関係を理解することができる。 3. 相談援助の展開過程の流れと各段階の目的や内容を理解できるようになる。 4. 福祉援助を必要とする人の生活課題とニーズへの向き合い方を理解できるようになる。 5. 相談援助に必要な基礎的面接技術を習得することができる。 				
教授方法	講義						
履修条件	「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法I」の単位修得済の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	「相談援助とは」 相談援助の姿勢と専門職の価値を理解する。						
2	「相談援助の構造と機能」 ソーシャルワークの枠組みを理解する。						
3	「人と環境の相互作用」 システム理論（家族療法）について事例から理解する。						
4	「相談援助における援助関係」 バイステック7原則から相談援助の基本姿勢を理解する。						
5	「相談援助の展開過程Ⅰ」 相談援助のプロセス（インテーク、アセスメント）について理解する。						
6	「相談援助の展開過程Ⅱ」 相談援助のプロセス（援助計画、モニタリング）について理解する。						
7	「相談援助のためのアウトリーチの技術」 アウトリーチの必要性を理解する。						
8	「相談援助のための契約の技術」 社会福祉の契約の意義を理解する。						
9	「相談援助のためのアセスメントの技術」 アセスメントの重要性を理解する。						
10	「相談援助のための介入の技術」 多様な実践モデル・アプローチについて理解する。						
11	「相談援助のためのモニタリング、効果測定、評価の技術」 モニタリングのポイントと評価の方法を理解する。						
12	「相談援助のための面接の技術Ⅰ」 相談面接技術の構造と面接環境について理解する。						
13	「相談援助のための面接の技術Ⅱ」 面接を展開する技法について理解する。						
14	「相談援助のための記録」の技術について理解する。						
15	「相談援助の実際」 社会福祉施設など実践現場での事例から支援の方法を理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加状況	50	授業への参加状況、受講態度、小テスト・提出物等		確認テスト・ミニレポート	50	授業内容の理解（確認テスト）	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
<ol style="list-style-type: none"> ① 毎回、テキスト・資料等で授業を振り返り、学びを定着させる。[30分以上] ② 社会の事象に関心を持ち、福祉領域との関係を意識する、まとめる。 ③ 福祉現場への理解を深めるため、施設・機関への見学、ボランティアに参加する。 				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック 確認テスト等は、毎回結果とともに内容を解説します。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応します。			
受講生に望むこと	<ol style="list-style-type: none"> 1. 相談援助の専門職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。 2. 疑問点や深い洞察も含めた知識の探求を意識し学んで下さい。 3. 現代社会において社会福祉のニーズは多様化し、範囲も広がっています。テレビや新聞などで日頃から関連するニュースには関心を持つようお願いします。 			教科書・テキスト	新・社会福祉士養成講座7『相談援助の理論と方法Ⅰ第3版』中央法規出版、2015。 ISBN:978-4-8058-5103-6 ※前期と同じもの		
指定図書参考書等	なし／『対人援助のための相談面接技術－逐語で学ぶ21の技法－』岩間伸之、中央法規、2008。 ISBN:978-4-8058-3073-4			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SW215U 社会保障論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	河野 すみ子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要			授業の到達目標				
私たちの生活と社会保障の関係を説明し、社会保障の理念、歴史、体系、財源などについて解説する。ついで、わが国の医療保険、年金保険、介護保険、労働者災害補償保険、雇用保険の基本的な内容について説明する。			1. 社会保障の理念、歴史、体系、財源、諸外国の動向などについて学び、社会保障の基本的な内容について理解する。 2. わが国の医療保険、年金保険、介護保険、労働者災害補償保険、雇用保険の基本的な内容について理解する。 3. 社会保険と民間保険とのちがいについて理解する。				
教授方法	講義形式。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	現代社会と社会保障を学ぶ						
2	社会保障の歴史を知る						
3	社会保障制度の体系について理解する						
4	社会保障の財源と費用について学ぶ						
5	医療保険制度の沿革と体系について理解する						
6	医療保険制度の概要を学ぶ						
7	医療保険制度の現状と課題						
8	年金保険制度の沿革と体系について理解する						
9	年金保険制度の概要を学ぶ						
10	年金保険制度の現状と課題						
11	介護保険制度創設の経緯と概要について理解する						
12	介護保険制度の現状と課題						
13	労働者災害補償保険制度の概要を学ぶ						
14	雇用保険制度の概要を学ぶ						
15	民間保険の概要について学び、社会保険との違いを理解する						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	60	ポイントを押さえたレポートを書くことができているか。		毎回のミ ニッツペ ーパー	30	授業を聞いて、質問、疑問、感想などを記載する。	
授業の参加状況	10	授業への取り組み姿勢。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
新聞・ニュースなどに目を配り、社会保障に関するニュースに触れること。[30分] テキストを読んで予習して授業に臨むこと。[30分] 授業中に紹介する参考書なども読むことにより、理解を深めること。[30分]				授業で出された質問・疑問について次回の授業で答えます。			
受講生に望むこと	現在の社会保障をめぐる動向について関心を持ち、考えてほしい。			教科書・テキスト	社会福祉士養成講座編集委員会『社会保障』第5版（新・社会福祉士養成講座12）、中央法規出版 ISBN：978-4805853009		
指定図書参考書等	唐鎌直義編『格差と貧困』新日本出版社、2016年 ISBN：978-4-406-06004-2			その他・特記事項	テキストは必ず準備すること。		

授業科目名	SW220U 相談援助演習 I			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	真砂 良則						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要				授業の到達目標			
相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、具体的な援助場面を想定したロールプレイング等を中心とする演習形態により、実践的に習得する。				①ケースワーク及びグループワークについて、理論や技術を演習し、基礎能力を習得する。 ②演習を通じて、利用者・家族とのコミュニケーションの実際が理解できる。 ③記録による情報の共有化、報告・連絡・相談、会議の実際が理解できる。			
教授方法	個人及びグループでの演習と講義。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、受講の注意点、演習形態の重要性を理解する。利用者との関係形成の重要性について理解する。						
2	関係形成のための自己理解、自己覚知について学ぶ。						
3	価値観と他者理解について学ぶ。						
4	関係形成のための原則について学ぶ：バイスティックの7原則の理解						
5	基本的なコミュニケーション技術の習得：言語的、非言語的コミュニケーションの理解						
6	基本的なコミュニケーション技術の習得：観察、傾聴、伝達等の技術の習得						
7	基本的な面接技術の習得：基本的応答技法の体験的な理解						
8	基本的な面接技術の習得：基本的応答技法の活用						
9	ケースワーク：インテーク、アセスメントについて理解する。						
10	ケースワーク：プランニングについて理解する。						
11	ケースワーク：モニタリング、事後評価について理解する。						
12	ケースワーク：終結とアフターケアについて理解する。						
13	グループワーク：リーダーシップとリーダーの役割を理解する。						
14	グループワーク：グループリーダーとしての話し方、グループにおける話し合いの方法を理解する。						
15	記録の意義、方法について理解する。講義の振り返りとまとめ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	各回の講義内容についてどれだけ理解しているか。			講義参加態度	40	・演習の目的を理解し、積極的に自ら学びとろうとする姿勢。 ・ワークシート等の提出物（講義内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の後に講義と演習内容を復習し、毎回の授業のねらい達成を確実なものとする。[30分以上] ・授業の後に課された課題に取り組み、次の授業に備える。[30分以上] ・分からない語句や興味を持ったことに関して、自分で調べて理解を深める。 				<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導により、気づきを促していく。 ・グループワークにより、気づきを深めていく。 ・毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。 			
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は社会福祉士を目指す専門的な内容となっているので、この点を理解した上で受講して欲しい。 ・相談援助の知識と技術に係る他の科目（相談援助の理論と方法等）と関連づけて学ぶ。 			教科書・テキスト	なし。レジュメを毎回配布する。		
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SW225U 相談援助演習Ⅱ		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	真砂 良則						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要			授業の到達目標				
社会福祉の専門援助技術のひとつであるケアマネジメントについて、事例や援助場面を想定した実技指導を中心とする演習形態により、相談援助に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めて習得する。			①ケアマネジメントについて、その誕生の背景、基本理念、目的、援助の視点を理解することができる。 ②介護保険制度と障害者総合支援法による制度としてのケアマネジメントの位置づけや児童福祉領域などの領域におけるケアマネジメントを理解することができる。 ③ケアマネジメントの展開過程であるアセスメント、プランニング、モニタリング等について、基本的な技法を習得することができる。				
教授方法	ワークシート等を用いて演習形式で行う。						
履修条件	相談援助演習Ⅰの単位を修得済の者。高齢者福祉論の単位の修得済が望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ケアマネジメントの基本的理念、意義について学ぶ。						
2	ケアマネジメントの目的、機能等について学ぶ。						
3	ケアマネジメントのプロセス、社会資源等について学ぶ。						
4	ケアマネジメントの制度と施策について学ぶ。						
5	ケアマネジメントにおけるアセスメントの意義と方法について学ぶ。						
6	介護保険制度におけるケアマネジメント：居宅サービス計画の目的・意義について学ぶ。						
7	介護保険制度におけるケアマネジメント：居宅サービス計画のアセスメントについて学ぶ。						
8	介護保険制度におけるケアマネジメント：居宅サービス計画のプランニングについて学ぶ。						
9	介護保険制度におけるケアマネジメント：居宅サービス計画のモニタリングと評価について学ぶ。						
10	介護保険制度におけるケアマネジメント：施設サービス計画のアセスメントについて学ぶ。						
11	介護保険制度におけるケアマネジメント：施設サービス計画のプランニングについて学ぶ。						
12	介護保険制度におけるケアマネジメント：施設サービス計画のモニタリングと評価について学ぶ。						
13	介護保険制度におけるケアマネジメント：介護予防サービス計画の概要について学ぶ。						
14	障害者領域におけるケアマネジメントについて学ぶ。						
15	児童福祉領域におけるケアマネジメントについて学ぶ。まとめ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
定期試験	60	毎回の授業内容についてどれだけ理解しているか。	授業参加状況	40	・授業への積極的な取り組み。 ・ワークシート等の提出物。		
授業外における学習（事前・事後学習等）							
①授業の前にあらかじめ指示されたテキストの箇所を読んでおく。[30分以上] ②授業の後に講義と演習内容を復習し、毎回の授業のねらい達成を確実なものとする。[30分以上] ③テキストの事例を読み込み、ケアマネジメントへの理解を深める。			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック ・個別指導により、気づきを促していく。 ・グループワークにより、気づきを深めていく。 ・毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。				
受講生に望むこと	演習形式の授業であるため、毎回、遅刻せず出席し、積極的に取り組むこと。		教科書・テキスト	『対人援助職をめざす人のケアマネジメント』 太田貞司 他編（株）みらい 2007年 ISBN978-4-86015-109-6			
指定図書参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし			

授業科目名	SB200U 図書館サービス概論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は司書資格の必修科目であり、図書館の中心的機能である情報提供について、その意義・種類・方法について理解を深めるとともに、多様な図書館サービスの形態を学ぶ。またそれぞれの図書館サービスの本質を理解することを旨とする。			①図書館サービスの意義・構造について理解する ②資料提供サービスの基本について理解する ③様々な情報提供サービスの形態と機能について理解する ④図書館ネットワークについて理解する ⑤障害者サービス、高齢者サービス、など利用対象に応じたサービスについて理解する ⑥図書館と著作権について問題意識を持って理解する				
教授方法	講義						
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者または履修中の者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	図書館サービスの意義 (1) 図書館の構成要素とサービスの役割						
2	図書館サービスの意義 (2) 図書館サービスの類型化						
3	図書館サービスとマネージメント (1) 計画の立案と評価						
4	図書館サービスとマネージメント (2) 図書館の「新・望ましい基準」						
5	来館者へのサービス						
6	利用空間の整備						
7	貸出サービスの構造						
8	資料提供の展開 (1) リクエストサービス						
9	資料提供の展開 (2) 資料収集の方針						
10	情報提供サービス						
11	利用対象に応じたサービス (1) 障害者サービス、高齢者サービス						
12	利用対象に応じたサービス (2) 児童サービス						
13	利用対象に応じたサービス (3) 多文化サービス						
14	情報提供と著作権						
15	これからの図書館サービスのあり方について (まとめ)						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	40	筆記試験 (持ち込み不可) において60%以上の得点を獲得する必要がある。受験に当たり、指定するレポートが受理されていることが必要である。		授業内課題	20	授業内での作業・ディスカッションなどの成果を評価する。	
レポート	20	①授業で指定した内容をまとめ、②同一内容を扱う別の文献を探し、内容をまとめる。③双方の見解に基づいて意見をまとめ、④期限までに指定書式にて提出する。		授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。	
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック			
教科書を指定しているため、教科書を活用した予習復習を推奨する。図書館を日常的 (できれば毎週1回以上) に活用することを心がける。また、図書館員には幅広い背景知識が求められるため、日頃から様々な領域に関心を持つことを求める。図書館利用の際は図書館がどのようなサービスを実施しているのか注目し、機会があれば積極的にサービスを利用すること。各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。				試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてクリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨んでください。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問するようにしてください。			教科書・テキスト	『図書館サービス論』小田光宏編著. 日本図書館協会, 2010. (JLA 図書館情報学テキストシリーズ 2 ;3) ISBN: 978-4-8204-0917-5		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	レポートは未提出の場合は単位認定を行わない。		

授業科目名	SB205U 情報サービス論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は司書資格の必修科目である。図書館における情報サービスの歴史や理念をふまえ、図書館情報サービスを形成する情報検索や各種のサービス（レファレンスサービス、カレントアウェアネスサービス、レフェラルサービス、利用者教育、SDIなど）について解説する。また各種情報源の種類や利用・検索方法について、文字情報、数値情報、映像・音声情報などの種類別やメディア別に解説する。			①図書館の理念を理解し、利用者サービスの重要性を理解する ②資料提供サービスと情報提供サービスの違いを理解する ③図書館サービスの中における情報サービスの位置づけを理解する ④各種情報源の特性を知り、情報源の利用について知識を身に付ける				
教授方法	講義、スライドを使用した形式で実施						
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	情報サービスの概要：情報サービスの意義を理解する						
2	情報サービスの基礎：レファレンスサービスとはなにか						
3	情報サービスの展開：利用指導、レフェラルサービスとはなにか						
4	多様な情報サービス：読書相談、地域情報の発信、専門的な情報提供のあり方						
5	デジタルレファレンスサービス：デジタル環境でのサービスとは						
6	情報源整備の実際：印刷メディアと電子メディアの特徴、レファレンス情報源の構築と評価						
7	利用者の情報利用に対する理解：情報ニーズと情報探索行動						
8	レファレンス質問への対応：レファレンスプロセスの理解						
9	情報の検索と回答：検索戦略構築と情報検索を行うには						
10	情報検索のしくみ：レファレンスブックの構造、データベースの検索機能						
11	情報サービスの管理：情報サービスの組織化、人的な資質と能力						
12	情報源の特質：事実検索と文献検索、データベースの種類内容						
13	事実情報の検索の実際：言葉、統計、地理、人名などの調べ方						
14	文献情報の検索の実際：図書雑誌、雑誌記事などの調べ方						
15	情報サービスを行う意義：まとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	記述式の筆記試験を行う。図書館における情報サービスの基本的な位置づけを理解できている必要がある。		授業内課題	20	授業中に小課題を行う。理解度の確認や各自の意見を記述してもらう。	
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
授業内で紹介した各種情報源について、図書館やWebで実際に確認すること。図書館のOPACなどデータベースを日常的に活用すること。各回の復習及び次回への予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。				試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてクリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	図書館司書資格の科目であることを理解し、その意義をよく考えて履修をしてください。分からない点、疑問に思ったことがあれば積極的に教員に質問をしてください。			教科書・テキスト	『情報サービス論』小田光宏編著、日本図書館協会、2012。（JLA図書館情報学テキストシリーズ3；5）ISBN：978-4-8204-1211-3		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SB210U 情報資源組織論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は司書資格の必修科目である。印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報源からなる図書館情報資源の組織化と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用などについて理解することを目的とする。			①資料組織化の意義、書誌コントロールについて理解する ②記述目録法について学び、書誌記述法を理解する ③主題分析・分類法・索引法について理解する ④日本目録規則にもとづく目録法を理解する。				
教授方法	講義						
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	資料組織化の意義について						
2	書誌コントロール (1) 書誌とは何か						
3	書誌コントロール (2) 全国書誌・OPACとは						
4	書誌情報の作成・流通・管理						
5	記述目録法の基礎一概要と記述の範囲						
6	記述の単位と順序、記述ユニット方式と区切り記号						
7	記述目録法作成の実際 (1) タイトルと責任表示、版表示に関する事項						
8	記述目録法作成の実際 (2) 出版頒布・形態に関する事項						
9	記述目録法作成の実際 (3) シリーズ・注記・標準番号・入手条件に関する事項						
10	記述目録法作成の実際 (4) 標目と排列						
11	主題分析と分類法・索引法						
12	分類法の実際 (1) 分類総論						
13	分類法の実際 (2) 日本十進分類法						
14	分類法の実際 (3) その他の分類法						
15	ネットワーク情報源の組織化とメタデータ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	筆記試験(持ち込み不可)において60%以上の得点を獲得する必要がある。		小テスト	20	目録の知識を確認するため筆記の小テストを授業内で行う。	
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
図書館を日常的に活用することを心がける。特に目録を活用し、OPACは日常的に利用すること。 履修までに大学図書館だけでなく、公共図書館のOPAC利用を経験しておくこと。 各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。				試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてクリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨んでください。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問するようにしてください。			教科書・テキスト	『情報資源組織論』柴田正美著、日本図書館協会、2012。(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3 ; 9) ISBN:978-4-8204-1202-1		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

社会学科
(3年次)

授業科目名	SK300U 専門ゼミI		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	俵 希貴・小林 正史・田中 純一・田引 俊和・西村 洋一・真砂 良則・松下 健・若山 将実・竹中 祐二・若杉 亮平 (代表教員 俵 希貴)						
標準履修年次	3年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>担当する教員の専門分野のなかから自分の興味関心のあるテーマについての知見を深める。ゼミごとに文献を設定し、演習形式で文献の輪読と担当者によるレジュメの作成と発表、内容についてのディスカッションをとおして、専門的な文献の読解力と内容の把握の方法を身につける。自分のテーマを追究するのに適した理論や方法論を見出し、ゼミレポートの作成を目指す。</p>			<p>①専門分野に関する文献を読んで理解する。 ②専門分野に関するディスカッションを通して自分のテーマを見出す。 ③ゼミレポートを作成する。</p>				
教授方法	演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
14	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
15	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
16	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
20	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	

授 業 計 画					
実施回	授業内容・目標				担当教員
28	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。				各担当教員
29	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。				各担当教員
30	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。				各担当教員
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
受講態度	50	①課題にまじめに取り組んでいるか。 ②積極的にディスカッションに参加しているか。	レポート	50	①指定された書式にしたがっているか。 ②適切な内容となっているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
ゼミレポートの作成やゼミ発表の準備を進める [週平均90分以上]。 詳細は各ゼミの担当教員の指導にしたがう。			各ゼミの担当教員の指導にしたがう。		
受講生に望むこと	研究課題に主体的に取り組んでください。		教科書・テキスト	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	
指定図書／参考書等	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。		その他・特記事項	なし	

授業科目名	S0300U 応用心理社会統計法		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	西村 洋一						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	社会調査士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義は統計解析を学ぶ体系に位置づけられる科目である。統計解析の知識、技術の習得は、心理学や社会学といった学問領域だけでなく、ビジネスの現場など社会全般から求められるようになってきた。それは、データが豊富に得られるようになったという時代背景が関連しているであろう。そのような多量のデータをどのように統計解析により処理していくのか。本講義では、多変量解析、特に回帰分析と因子分析を中心にその知識、技法を習得することを旨とする。</p>			<p>①多変量解析の概要を理解し、分析の目的、得られたデータの特徴に応じて適切な分析手法を選択できる。 ②回帰分析の詳細を理解し、得られたデータに対して分析を実施し、結果を解釈、報告することができる。 ③因子分析の詳細を理解し、得られたデータに対して分析を実施し、結果を解釈、報告することができる。</p>				
教授方法	講義を中心に適宜演習を取り入れながら進める。						
履修条件	心理統計学Ⅰの履修済が望ましい（単位未修得可）						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	多変量解析の全体像の紹介：多様にある多変量解析をまとめ、それぞれの解析の位置づけについて解説を行う。						
2	重回帰分析1：計算過程の理解：回帰分析によりどのように結果が算出されるのか理解するために、実際に計算を行う。						
3	重回帰分析2：決定係数、残差分析の理解と結果の報告方法について解説する。						
4	重回帰分析3：様々なデータを用いた演習（1）3回目で習った計算過程の理解をより深めるために、様々なデータを用いて結果の算出を行う。						
5	重回帰分析4：カテゴリ変数を用いた分析：カテゴリ変数を用いた場合の重回帰分析について、計算方法や注意点などの解説を行う。						
6	重回帰分析5：様々なデータを用いた演習（2）前回の内容を踏まえて、より多様な、より実地的なデータを用いて分析を行う。						
7	パス解析の考え方1：パス解析というものがどのようなものか、重回帰分析で得た知識を援用しつつ解説を行う。						
8	パス解析の実際2：パス解析が実際の研究でどのように用いられているか概説する。						
9	因子分析1：因子分析という分析手法がどのようなものであるかを理解する。						
10	因子分析2：コンピューターを用いた因子分析の実施方法を解説する。						
11	因子分析3：因子分析の結果の解釈と報告の仕方を理解する。						
12	因子分析4：様々なデータを用いた演習 様々なデータを用いて分析を実施する。						
13	クラスター分析1：クラスター分析とはどのようなものであるかを理解する。						
14	クラスター分析2：コンピューターを用いたクラスター分析の実施方法を解説する。						
15	その他の多変量解析の紹介：重回帰分析、因子分析およびクラスター分析以外の多変量解析の手法について、実際の研究でどのように用いられているかといった観点から解説を行う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	70	講義で紹介した分析手法について理解し、結果の算出および報告ができる。		小テスト	20	講義の内容の理解度により評価を行う。	
講義への参加度	10	講義への取組姿勢や課題の提出状況から評価を行う。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①講義前にテキストおよび資料を読んでくる。[30分] ②講義前にテキストおよび資料を読み、ノートの整理を行う。[45分] ③講義で分からない計算法や用語があれば、担当教員に質問したり、テキスト・参考書等を用いて理解を深める。[30分] ④講義にて課された演習課題に取り組む。[30分]</p>				<p>小テストは終了後に解説を行う。 演習課題は添削を行い、コメントする。</p>			
受講生に望むこと	統計学はひとつひとつの階段を昇る（知識を積み上げる）ように学ぶことが必須である。そのために予習復習が欠かせないということを理解し、実践してほしい。			教科書・テキスト	『入門 統計学—検定から多変量解析・実験計画まで』 栗原伸一 オーム社 2011年 ISBN 978-4-274-06855-3		
指定図書参考書等	なし／『SPSSによる多変量解析』 村瀬洋一他 2007年 オーム社 ISBN 978-4274066269 『わかる・使える多変量解析』 神宮英夫・土田昌司 ナカニシヤ出版 2008年 ISBN 978-4-779-50246-0			その他・特記事項	本講義は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのE科目に準拠しています。		

授業科目名	S0305U 社会調査実習		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	俵 希實・若山 将実 (代表教員 俵 希實)					
標準履修年次	3年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	社会調査士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>「社会調査論」「社会調査法」「統計データの読み方」「心理学統計Ⅰ」などで学んできたことを基礎とし、調査の構想・計画→準備→実査→データの入力と点検→分析→報告という社会調査の全過程を体験的に学び、社会調査士資格に相応の、社会調査に関する実践能力を習得することを目的とする。同時に、調査組織のつくり方、運営していくためのコミュニケーション能力、マネジメント能力、作業のダブル・チェックの徹底、資料の保管方法、作業記録の作り方など、社会で働くために必要な基本的スキルを獲得することを旨とする。</p>			<p>①社会調査の全過程を知る。 ②社会で働くために必要な基本的スキルを獲得する。</p>			
教授方法	実習					
履修条件	「社会調査論」「社会調査法」「統計データの読み方」「心理学統計Ⅰ」を履修済、もしくは現在履修していることが望ましい。履修していない場合は要相談。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準についての説明					俵・若山
2	共通テーマ、年間スケジュールに関する説明					俵・若山
3	テーマ別調査研究班の編成と役割分担の決定					俵・若山
4	調査枠組（対象者、調査方法など）の決定					俵・若山
5	調査テーマに関する先行研究論文の発表					俵・若山
6	調査テーマに関する先行研究論文の発表					俵・若山
7	調査テーマに関する先行研究論文の発表					俵・若山
8	調査テーマに関する先行研究論文の発表					俵・若山
9	調査テーマに関する仮説の構成					俵・若山
10	調査テーマに関する仮説の構成					俵・若山
11	調査テーマに関する仮説の構成					俵・若山
12	調査テーマに関する仮説の構成					俵・若山
13	質問文の作成					俵・若山
14	質問文の作成					俵・若山
15	質問文の作成					俵・若山
16	調査票の作成					俵・若山
17	調査票の作成とプリテスト					俵・若山
18	サンプリング					俵・若山
19	対象者リストの作成					俵・若山
20	調査票の配布準備					俵・若山
21	エディティング・コーディング					俵・若山
22	エディティング・コーディング					俵・若山
23	データクリーニング					俵・若山
24	分析についての説明：相関分析 クロス表 カイ二乗検定など					俵・若山
25	単純集計表作成					俵・若山
26	調査データの分析：各自の分析					俵・若山
27	調査データの分析：各自の分析					俵・若山

授 業 計 画					
実施回	授業内容・目標				担当教員
28	調査データの分析:各自の分析				俵・若山
29	報告書の作成				俵・若山
30	報告書の作成				俵・若山
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業態度	60	①授業にまじめに取り組んでいるか。 ②自分の役割を遂行しているか。	レポート	40	①期限内に提出しているか。 ②指定された書式・分量にしたがっているか。 ③適切な内容となっているか。 ④図表が適切に使用されているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
仮説の構成、質問文の作成、分析などは主に授業外で進めること。調査票配布および回収、エディティングやコーディング作業など、受講生で協力して授業外で進めること。[120分]			各自の仮説の構成や質問文の作成にあたり、完成するまで継続的にコメントする。		
受講生に望むこと	着手から最終報告まで受講生が主体となるため、主体的に考え、他のメンバーに迷惑をかけないよう責任を持って行動してください。		教科書・テキスト	『入門・社会調査法』（第2版）轟亮・杉野勇 編 法律文化社 2013年 ISBN：978-4-589-03489-2	
指定図書／参考書等	授業中に紹介する。		その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのG科目に準拠しています。	

授業科目名	SC300U 石川の伝統文化と産業		開講学科	社会学科	必修・選択	選択必修	
担当教員名	小林 正史						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
近郊の農村での聞き取り調査に基づいて、日本の伝統的食文化の特徴を検討する。それに基づいて、現代における和食の変容過程を検討し、現代における和食の意味を考える。			①日本の伝統的食文化（和食）の特徴を理解し、現代における変化過程の意味を各自で位置づける。 ②石川の伝統的食文化の特徴を理解する。 ③聞き取り調査の方法を理解する				
教授方法	近郊の農村での聞き取り調査とその分析・報告を中心とし、講義も行う						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業概要の説明： 聞き取り調査などについての説明						
2	石川の伝統的食文化の特徴を学ぶ						
3	米食程度論争： 古代～近代における米食程度についての論争を学ぶ						
4	旧内川村の伝統的食文化の概要						
5	白山麓の伝統的食文化の概要						
6	聞き取り調査の方法の説明						
7	聞き取り項目の整理						
8	聞き取り調査： 近隣の農村を訪問し、聞き取り調査を行う						
9	聞き取り調査： 近隣の農村を訪問し、聞き取り調査を行う						
10	聞き取り内容の整理						
11	中間発表						
12	補足調査： 中間発表で気づいた点を補足するための聞き取りを行う。						
13	最終発表の準備						
14	レポート発表						
15	発表の振り返り						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
参加態度	20	積極的に授業、調査、グループワークに参加している		課題提出、小テスト	20	授業中のワークや小テストにおける理解度	
レポート	60	発表の仕方と提出されたレポートにみられる理解度、論理的説明、および独自性					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
聞き取り調査は授業外の時間に行う（振替あり）。調査のまとめと発表準備は授業外で行うこと [平均45分]。課題リーディングなどを授業外で行うこと [平均45分]				レポート発表の後、振り返りを行う。			
受講生に望むこと	講義においても積極的な参加と質疑応答を望む。			教科書・テキスト	なし		
指定図書参考書等	授業中に指示する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SC305U 教育社会学		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	竹中 祐二						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>生物としてのヒトが社会の一員としての人間になる過程を理解する上で欠くことのできない、極めて重要な概念が「社会化」であるが、E.デュルケムは方法的・系統的な社会化作用として教育を位置付けている。人間にとって社会化・教育が本質的なものである一方、制度としての教育は、時代や文化による影響を色濃く受けるものでもある。この授業では、教育というものの、そもそも、あるいは今、「あるべき姿」というものについて、社会との関わりから捉え直すことを目的とする。また、教育専門職・教育制度を取り巻く現代的背景として、主として日本の、必要に応じて諸外国との比較の中から、学校教育の制度ならびに運営・経営に関する基礎知識の習得も目指したいと考えている。</p>			<p>①社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせ、教育というものを社会的に理解する。 ②制度としての教育について、意義・原理・構造を踏まえつつ、歴史的な変遷を理解する。 ③本質的な教育のあり方と、教育制度の歴史的変遷に対する理解に基づき、今日の学校教育制度について、地域社会や関係機関との連携を踏まえつつ、それぞれの主体の役割について理解する。 ④現代社会論との関わりから、今日の児童・子どもに関わる重要な問題に対して、学校・教育が果たし得る役割について理解する。</p>				
教授方法	講義（適宜アクティブラーニングを導入する場合がある。）						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：社会的に考えるということ、および教育を社会的に捉え直すことについての基本的な視点を提供し、本科目で学ぶ内容と、その意義について整理する。						
2	近代教育制度の成立①：近代化に伴う「子ども」の社会的立場をめぐる変遷を理解しつつ、制度としての教育が成立する過程について確認する。						
3	近代教育制度の成立②：西洋における教育制度を概観し、市民として主体性を獲得すること、階層再生産のメカニズム、といった近代化の所産と教育のあり方について考察する。						
4	近代教育制度の成立③：戦後日本における近代教育制度の成立過程と変遷を概観し、西洋における近代化過程との異同を捉えつつ、日本社会における特有の事情について考察する。						
5	社会における教育の意義①：社会化との関わりの中から教育が持つ機能について社会的に理解を深め、重要な他者／一般化された他者としての教育者の役割、あるいはそのオルタナティブについて検討する。						
6	社会における教育の意義②：今日の子どもの権利をめぐる諸議論に関わって教育が果たすべき役割について考察すると共に、非対称的な関係が構造的にもたらす教育の逆機能についても検討する。						
7	社会における教育の意義③：グローバル化をはじめとするマクロ社会の変動に伴う後期近代社会における制度としての教育のあり方について検討する。						
8	日本における教育環境の変遷①：戦後始まった6・3・3・4制がもたらした日本における教育の普遍化を基に、教育環境の充実がもたらした社会の変化について考察する。						
9	日本における教育環境の変遷②：教育機会の充実がもたらした高校ならびに大学への進学率上昇の背後に潜む受験戦争やメリトクラシーといった問題について考察する。						
10	日本における教育環境の変遷③：少子化や個人化といったマクロ社会の変化がもたらした教育への影響として、主に個性化教育の功罪と現代の子どもが抱える諸問題について考察する。						
11	日本における教育環境の変遷④：ジェンダー教育やマイノリティ教育といった、今日的な課題に対する教育の意義や実践例について考察する。						
12	学級経営における多機関連携①：「チーム学校」論の概要と登場背景について学び、中でもスクールソーシャルワークに着目し、その理念・対象・方法論・実践例について学ぶ。						
13	学級経営における多機関連携②：スクールソーシャルワーク実践を軸とした「チーム学校」の展開について、特に「子どもの貧困」との関わりから方法論・実践例について学ぶ。						
14	学級経営における多機関連携③：スクールソーシャルワーク実践を軸とした「チーム学校」の展開について、特に「不登校」や「いじめ」といった「学校」制度に特有な現象から方法論・実践例について学ぶ。						
15	総括：本科目を通じて学習した内容について振り返り、専門職をはじめとするそれぞれの立場から社会の中で教育を達成することの意義について再考し、理解を深める。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への参加度	30	日常的な授業態度、適宜実施するグループワークをはじめとするアクティブラーニングへの参加状況から評価する。		期末レポート	70	授業の到達目標に即して、この授業で学んだ内容を適切にかつ分かり易くまとめられているか評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①各回の授業で学習した教育社会学の理論・概念・知識について復習し、日常的に新聞等を通して実際の社会との関わりを意識する。[60分] ②各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]			①各回の授業でコミュニケーションペーパーの提出を求め、そこの質問は次回に全体で共有する。 ②アクティブラーニングを実施した際に、自己評価シートの提出を求めることがある。また、必要に応じて個別にコメントを行う。				
受講生に望むこと	・この授業は主として講義形式を採り、多種多様な知識と情報の伝達に努める。したがって、どちらかと言えば双方向ではなく一方向的な学習となる。ただし、教育的な関わり・教育実践にあたっては、すなわち良い教育者になるにあたっては、一面的な価値観に固執するようなことがあってはならない。この授業における学びを通して、社会や制度との関わりから自らの価値観を相対化すると共に、その上で自らの主観や態度を大切にすることを身に付けていただきたい。			教科書・テキスト	なし（レジュメを配付する）		
指定図書参考書等	<参考書> 『よくわかる教育社会学』 酒井朗・中村高康・多賀太（編著） ミネルヴァ書房 2012年 (ISBN: 978-4623062935)			その他・特記事項	・日常的な学習について、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。		

授業科目名	SC320U メディア文化論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	辰巳 平一						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
我々は行動や判断の基礎となる情報をメディアから取得している。しかし一般にはメディアの実態は知られていない。授業では、放送メディアを中心に、メディアの実態や課題を具体的事例を紹介しながら解明していく。ネットメディアについても言及する。			①個々のメディアの特性を理解する。 ②報道番組やニュース番組に対し、批判的に捉える力すなわちリテラシー力をつける。 ③幅広い分野のニュースに興味を持ち、多角的視点からニュースを観られるようになる。				
教授方法	基本的には講義。加えてディスカッション、フィールドワークも実施する						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業内容ならびに評価基準を説明						
2	情報伝達ルート：マスメディア（放送新聞など）とネットの情報伝達ルートを解明						
3	テレビニュースワイド研修：テレビ局で夕方ニュースワイドを研修						
4	テレビニュースワイド比較：夕方以降のニュースワイドを取り上げ、伝え方など比較検討						
5	ニュースキャスター：ニュースキャスターのキャリア、タイプを紹介。番組での役割、存在意義を考察						
6	ニュースの現場（Ⅰ）：記者クラブなど取材最前線からオンエアまでを追跡						
7	ニュースの現場（Ⅱ）：スクープや誤飲の実例を紹介し、調査報道、取材の現実を披露						
8	災害報道（Ⅰ）：講師が取材体験した能登半島地震について、災害現場と報道陣の奮闘を語る						
9	災害報道（Ⅱ）：多発する自然災害、メディアはこの自然の猛威をいかに伝えたかを紹介する						
10	過熱報道（Ⅰ）：報道被害の展型である松本サリン事件をとり上げ、被害者、メディア、当局の関係を詳説						
11	過熱報道（Ⅱ）：多様な加熱報道を紹介し、被害者意識の高まり、メディアの対応を考える						
12	ネットとフェイク：若者が利用するネットニュースを解明。フェイク（偽）ニュースの実態を紹介						
13	メディアと政治：メディアと政治は緊張関係の歴史だが、そのうち代表例を紹介、解剖する						
14	選挙報道：選挙報道の実態を紹介し、政治のメディア対策にも切り込む						
15	メディア文化論のまとめ：授業の総括と就職対策など質問に答える						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
受講態度	30	授業への取組み姿勢①授業に集中しているか②講師との応答が適切であるか③ディスカッションにも積極的に参加しているか		レポート	20	①期限内での提出 ②課題に沿った内容であること	
学期末試験	50	授業内容を理解し、自らもメディアに触れ、独自のメディア観を形成したかどうか、筆記試験を実施する					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①授業内容について考えたこと、講師が述べたことについて、受講生なりの意見を求めることがあり、それに応じてレポートを提出する。[50分] ②次回の授業のテーマに沿って、番組の視聴を求めるときはそれに対応し、自己の考えをまとめて授業に臨む [50分]				①授業内容についてのレポートは、次々回の授業で採点をつけて返却する ②次回授業テーマについて受講生の視聴後の考察は、次回授業内での応答で判断、見極めする ③期末テストは、後期開始時にフィードバックする			
受講生に望むこと	①情報の取材源、編集作業に対する理解を深める意味からもマスメディアに触れて欲しい②放送メディアに対して、批判的視聴が行える力を養って欲しい③時事的な出来事に、幅広く深い関心を持って欲しい			教科書・テキスト	適宜、レジュメを作成し配布する		
指定図書参考書等	参考書：「ジャーナリズムの思想」原寿雄 岩波新書 「図説日本のメディア」藤竹暁 NHK出版 「テレビの未来を拓く君たちへ」伊藤守 NHKエンタープライズ			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SL300U 地域行政入門		開講学科	社会学科	必修・選択	選択必修
担当教員名	若山 将実					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業の目的は、日本の地方政治・行政について理論と実際の見地から考察することにあります。この授業の前半では、地方自治を担う首長、議会、そして地方公務員が果たす役割、地方自治体の組織編成、そして地方行政における政策過程について学んでいきます。また、この授業の後半では学生が主体的にグループで地方自治体が実際に直面している政策課題に取り組む機会を設ける予定です。そして、グループ学習の発表において高い評価を得たグループのなかから、全国規模で開催されている政策コンテストに応募してもらうことを予定しています。			①民主主義国家における行政部門が果たす役割を理解する。 ②日本の中央・地方などのマルチレベルの行政の実態を理解し、それがどのような要因によって規定され、そして日本の社会にどのような帰結を生み出しているのかを理解できるようにする。 ③日本の地方政治・行政の実態を理解し、それがどのような要因によって規定され、そして日本の社会にどのような帰結を生み出しているのかを理解できるようにする。 ④日本の地方自治体組織の実態を理解し、それがどのような要因によって規定されているのかを理解できるようにする。 ⑤地方自治体における政策過程の理論と実際を理解し、それに依拠した形で日本の政策過程の実際を理解できるようにする。			
教授方法	この授業の前半は講義形式が中心となりますが、後半はフィールドワークを含む学生による能動的な学習が中心となります。					
履修条件	社会学科の学生のみ可					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業の概要説明：授業の進め方や成績評価の方法とともに、地域の行政を担う地方自治体について、基礎的な行政主体である市町村と広域的な行政主体である都道府県が日本の国の中に存在する意味を考えます。（地域行政を学ぶ意味を理解する。）					
2	中央地方関係：戦後日本の中央・地方関係において、地方自治体へ権限が委譲されてきた過程を振り返るとともに、地方分権が進められてきた要因について考察します。（戦後日本の地方分権の流れを理解する。）					
3	地方自治体における首長：地域の行政を担う主役である地方自治体の首長に関する制度や実像について事例を交えながら説明します。（地方政治・行政における首長の影響力を理解する。）					
4	地方議会：主に地域の行政をチェックする役割を持つ地方議会や地方議員に関する制度や実像について事例を交えながら説明します。（地方政治・行政において地方議会が果たす役割を理解する。）					
5	地方公務員：地域の行政の実務を担う地方公務員について、その多様性、採用や昇進のシステム、そして実際の仕事内容について事例を交えながら説明します。（地方行政における地方公務員が果たす役割を理解する。）					
6	地方自治体の組織編成：日本の地方自治体組織の実態について、それがどのような要因によって規定されているのかを説明します。（地域の実情に応じて地方自治体の組織が編成されていることを理解する。）					
7	地方選挙、直接請求、そして住民投票：地域の行政に対しては住民が積極的に参加・関与することが求められています。この回では地方選挙、直接請求、そして住民投票を通じて住民の意思が地域の行政にどのように反映されているかを考えます。（地域行政に住民が積極的に参加・関与する意義を理解する。）					
8	政策過程の理論と実際：地域行政において政策が発案され、実施に至る過程について事例を交えながら説明します。（地域行政における政策過程を理解する。）					
9	政策リサーチの方法①：地方自治体が実際に直面している課題に取り組むため、この回ではリサーチ・クエスチョンのたてかたについて学びます。（因果関係を解明することの意味を理解する。）					
10	政策リサーチの方法②：地方自治体が実際に直面している課題に取り組むため、この回では仮説について説明し、そして仮説のたてかたについて学びます。（仮説をたてる意味を理解する。）					
11	政策リサーチの方法③：地方自治体が実際に直面している課題に取り組むため、この回では政策課題に関する資料・データを収集する方法を学びます。（資料・データの収集方法を理解する。）					
12	政策リサーチの方法④：地方自治体が実際に直面している課題に取り組むため、この回では仮説を検証する方法を学びます。（因果関係特定のために、条件をコントロールする方法を理解する。）					
13	政策リサーチの方法⑤：地方自治体が実際に直面している課題に取り組むため、この回ではリサーチ結果をまとめ、伝える方法を学びます。（リサーチ結果をわかりやすく伝える方法を理解する。）					
14	政策リサーチの方法⑥：地方自治体が実際に直面している課題に取り組むため、この回ではリサーチ結果を政策化する方法を学びます。（特定した因果関係に基づく政策提言・評価の方法を理解する。）					
15	発表：授業後半のグループ学習をふまえ、地方自治体が実際に直面している課題に対する発表をグループごとに行います。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
期末レポート	50	地方行政の理論をふまえたうえで、地方自治体が実際に直面している課題にどのように取り組んだのかを論理的に書くことができているレポートを評価する。		発表	35	課題に対してグループ（または個人）で取り組み、わかりやすい発表ができていているかを見る。
ワークシート・リアクションシート	15	毎回の授業の理解度を確認するワークシートやそれに付随する感想・質問を書くリアクションシートへの取り組み姿勢。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①この授業の後半はグループ活動が中心となるので、授業外で継続して課題に取り組むことが求められる。[90分以上] ②毎日、新聞・ニュース等に目を配り、地方政治・行政に関する様々なニュースに触れること。毎回の小レポートで今週はどのような地方政治・行政の記事やニュースに注目したかを記入してもらいます。[30分]				①毎回のワークシートおよびそれに付随するリアクションシートは、次回冒頭に採点およびコメントを付けて返却します。 ②期末レポートは、採点およびコメントを付けて次学期冒頭に返却することを検討します。		
受講生に望むこと	①将来、地方公務員への道を考えている学生の受講を望みます。 ②授業外でフィールドワークに出る可能性があるため、そうした負担を負う覚悟のある学生のみ受講することを望みます。また、単なる大学の授業の一環としてではなく、地域で暮らす社会人の一人として自覚のある態度で授業に取り組んでほしい。 ③教室内での私語やスマートフォンの使用など、特定の学生による受講態度が講義に重大な悪影響を与えていることが度々認められた場合、その学生に対しては退室等の厳しい処置を取ることがあります。			教科書・テキスト	(第1回～第8回) 自作のレジュメやスライドを毎回配布します。(第9回～第14回) 『政策リサーチ入門：仮説検証による問題解決の技法』伊藤修一郎著 東京大学出版会 2011年 ISBN-13:978-4-13-032215-7.	
指定図書参考書等	『地方自治論：2つの自律性のはざまで』北村亅・青木栄一・平野淳一著 有斐閣 2017年 ISBN-13:978-4-641-15048-5. 『テキストブック地方自治 第2版』村松岐夫編著 東洋経済新報社 2010年 ISBN-13:978-4492211830. 『新版 現代地方自治論』橋本行史編著 ミネルヴァ書房 2017年 ISBN-13:978-4623079902.			その他・特記事項	なし。	

授業科目名	SL310U 法律学		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	稲角 光恵						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>法学と政治学の基礎を概括した上で、国内社会と国際社会の構造とともに、それぞれの法体系を学ぶ。法律学共通の基本理念・原則、裁判制度をはじめとする法制度全体を習得する。また、現代社会においては国内社会と国際社会は密接に関連しており、現代社会の国内問題を考える上でも、国際法の知識は欠かせない。そこで、本講義では、現代社会構造と法体系に関する包括的な理解を進めるため、日本の法に加えて国際法を学ぶ。これらの知識を深めて、社会と法の役割について考えてみよう。</p>			<p>①法学および政治学全般にかかわる基礎知識の修得 ②国際法を理解する ③国内法と国際法の基礎知識を踏まえて、国内社会と国際社会がかかえる現代的問題を理解する ④上記の知識を基に法的問題について説明し議論することができる</p>				
教授方法	講義を主体とする。						
履修条件	学部生のみ履修可。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	法と政治の基礎①：社会と法の役割 — 自分と社会と法との関係を考えよう						
2	法と政治の基礎②：国家と法の歴史 — 人は平等でしょうか？						
3	法と政治の基礎③：法と正義 — 何が正しい？現代問題を考えよう						
4	日本の社会と法①：憲法 — 国家権力から守ってくれるもの						
5	日本の社会と法②：民法 — 契約、財産、家族の法						
6	日本の社会と法③：刑法 — これも犯罪だ。犯罪と刑罰						
7	日本の社会と法④：裁判制度 — 裁判はどのように進む？						
8	国際社会と法①：国際社会の構造 — 国家とは何？						
9	国際社会と法②：国家の権利義務 — 国は国をさばけない？						
10	国際社会と法③：国際連合 — 国連の目的は？						
11	国際社会と法④：戦争の禁止 — 戦争はどうすればなくなる？						
12	国際社会と法⑤：国際的な人権の保護 — 女性差別禁止や難民保護						
13	国際政治と法①（時事問題や受講者の関心が高いテーマを取り上げる）						
14	国際政治と法②（時事問題や受講者の関心が高いテーマを取り上げる）						
15	法律学まとめの論議						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	70	講義で学んだ知識に基づき設問に的確に答えているか。		授業での参加態度	30	授業内で行うディベートへの参加態度。	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
<p>①毎回の授業で次回の予習として求められることを発表するので準備すること。（例：皆とのディスカッションに向けて自分の意見をまとめること。「死刑制度について賛成か反対か？」「核の使用についてどう思うか」など。）[20分] ②授業では時事問題の中でも法律や政治に関わる社会問題を取り上げることがあるので日頃から新聞・ニュース等をチェックし社会的問題に関心を持ち、自らの意見を形成することを行うこと。[20分] ③授業内で配布されたレジュメや資料を読み返し、授業の復習を行うこと。その際、解らない所や疑問点などがあつた場合には、すぐ教員にメール又は次回授業の時に知らせること。[30分]</p>				<p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</p> <p>毎回授業終了後、授業内容が理解できたかアンケートで確認し、毎回の授業の冒頭で前回授業についてのアンケートをもとにして理解の確認や学生からの疑問・質問に答える。また、授業内容やディベートや試験問題の解答等に対してメールでも学生からの質問に対応する。</p>			
受講生に望むこと	新聞等で日頃から現代の社会問題に興味を持って学ぶ姿勢を持つこと。			教科書・テキスト	なし（毎回資料を配布する）		
指定図書参考書等	授業内で指定する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SL325U 社会貢献実習		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田中 純一						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>この実習は、奥能登漁村集落に滞在して住民の暮らしを体験を体験し、地域の課題を分析し地域の魅力を提案することを目的とする。</p> <p>①実習期間：7月7日（土）午前、7月14日～16日（2泊3日）予定。</p> <p>②定員：10名程度（10名を超えた場合、面接し決定する） 実習の性格上、受講者が5名未満の場合開講しない。</p> <p>③実習先：奥能登エリア（実習先、実習内容等の詳細は事前説明会でアナウンスする）</p> <p>④費用：10,000円程度（内訳：往復交通費、宿泊費 ※飲食代は別）</p>			<p>①地域の課題を整理し、解決策を提示できるようになる。</p> <p>②フィールドでの聞き取り、情報収集の基礎力を身につける。</p> <p>③問を探し、答えを仲間と協働して編み出す。</p>				
教授方法	フィールド踏査、グループワーク						
履修条件	①「社会貢献論」を履修した者または履修中の者。②事前説明会（3/20実施）に出席していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス 実習概要の説明、グループ編成、						
2	地域の現状と課題 住民による概説を聞き、地域の特徴、課題等について理解する。						
3	フィールド踏査（1） 実際に地域を歩き、情報収集しながら地域の全体像を把握する						
4	フィールド踏査（2） 地域内を歩き、情報収集しながら、地域の全体像を把握する						
5	地域体験活動1－1 漁業関係者の訪問と聞き取り						
6	地域体験活動1－2 漁業関係者の訪問と聞き取り						
7	ワークショップ 地域体験活動で気付いたことの共有ととりまとめ						
8	地域体験活動2－1 地域伝統活動への参加						
9	地域体験活動2－2 地域伝統活動への参加						
10	地域体験活動2－3 地域伝統活動への参加						
11	地域体験活動2－4 地域伝統活動への参加						
12	地域伝統活動2－5 地域伝統活動への参加						
13	グループワーク 地域の魅力を整理する						
14	プレゼンテーションの準備、報告レジュメの作成						
15	報告会、個人コメントの発表、レポート作成						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
出席・参加態度	40	グループ作業への積極的参加、積極的な質問・意見		プレゼン	20	①グループ作業への積極的関与 ②ポイントを押さえたわかりやすい説明になっているか	
レポート	40	聞き取りで集めた情報を適切に用い、要求されたレベルの論考ができていますか					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①フィールド踏査の際は住民に質問するなど積極的に取り組む（30分以上）。</p> <p>②得られた情報は整理し、必要に応じて関係者に質問するなどし理解を深める（30分以上）。</p> <p>③グループワークでは、各自が得た情報を共有し、仲間と協働し課題に取り組み、期限内にまとめる（60分以上）。</p>				発表会では各グループの発表に対し総評を行う。			
受講生に望むこと	フィールド踏査の際は、教員からの指示を待つのではなく、住民に質問するなど積極的に取り組むこと。		教科書・テキスト	なし（適宜、資料を配布する）			
指定図書参考書等	なし		その他・特記事項	宿泊を伴うフィールドワークであることから、体力が必要となる（※特別な配慮が必要な場合は、事前に相談すること）。			

授業科目名	SL330U 地域環境マネジメント論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択必修	
担当教員名	田中 純一						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
本講義では、持続可能な発展概念に関する議論を整理しつつ、持続可能な社会に向けた教育アプローチとしてのESD(Education for Sustainable Development)について考察する。合わせて持続可能性を希求する際の能動的主体による学びの意義について検討する。			①持続可能性概念について説明できるようになる。 ②環境教育からESDへの展開過程を理解する。				
教授方法	講義、グループワーク						
履修条件	第12回～14回は学外で連続実施する。現地集合・現地解散（交通費自己負担）。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス						
2	リスクとしての環境問題 U.ベック「リスク社会論」による現代社会分析、リスク社会と個人の関係について学ぶ						
3	持続可能性とは sustainability概念、sustainable development概念について学ぶ						
4	グローバリゼーションとは何か アクティビティを通して概念を理解する						
5	持続可能性を巡る教育的アプローチ 国際的な環境教育の動向について学ぶ						
6	持続可能な開発のための教育とは ESD概念、ESDの展開過程について学ぶ						
7	「持続可能な社会」とは 「持続可能な社会」をテーマにしたグループワーク						
8	内生性とは何か 地域社会変動過程と新しい共同性・地域性について学ぶ						
9	環境に責任ある主体の形成 Significant Life Experience論について学ぶ						
10	エコロジカルシチズンシップ エコロジカルシチズンシップ概念について学ぶ						
11	環境問題と持続可能な地域社会 身近な地域環境問題と対応策について学ぶ						
12	事例研究Ⅰ 地域環境問題の現状について学ぶ						
13	事例研究Ⅱ 地域環境問題の現状について学ぶ						
14	事例研究Ⅲ 地域環境問題の現状について学ぶ						
15	まとめ・総括						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
講義参加態度	20	講義、グループディスカッション、グループワークへの積極的参加		小テスト	20	講義で学んだことの理解度	
レポート①	30	講義で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考がなされているか		レポート②	30	第12～14回講義に係るレポート 要求されたレベルの論考がなされているか	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①講義開始時に小テストを実施するので、前に学んだことを復習し理解すること [30分以上]。 ②事前に配布した資料はしっかりと目を通し、次の講義に備えること [30分以上]。 ③講義中に紹介した資料や書籍については目を通し理解を深めること [30分以上]。				①ミニテストは講義内に回答、解説する。 ②ミニットペーパーに記載された学生からの質問、意見については、次の講義買い指示に回答、解説する。			
受講生に望むこと	新聞を読むこと。 環境問題に関連した図書を10冊読むこと。			教科書・テキスト	適宜参考図書を紹介する。 適宜講義内にレジュメ、資料を配布する。		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	第12回～第14回は学外で連続実施する予定。 内容の詳細、具体的日程等については、ガイダンス（第1回）時に説明する。		

授業科目名	SL335U マーケティング論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	野林 晴彦						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>マーケティングとは簡単に言えば、「売れる仕組みづくり」である。そして、そのマーケティングの基本理念が「CS (Customer Satisfaction) = 顧客満足」である。現代の企業経営においては、CSの創造を通して新規顧客の獲得とその維持が図られる必要がある。本授業では、わかりやすい事例をもとに、マーケティングの概念やさまざまな理論を学び、基本的な知識を習得することを目的とする。</p>			<p>①授業で設定されたテーマを理解する。 ②授業で学んだキーワードを用いて、テーマの内容を説明できる。 ③授業で学んだ基本的な専門用語を使って、短い文章を作成できる。 ④授業で学んだ基本的な専門用語を使って、自分の身近な事例を紹介することができる。</p>				
教授方法	講義（毎回配布する資料に「書き込み」を行いながら、理解を深める形式をとる）						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーションーCS（顧客満足とは何か）ー						
2	マーケティングの基本概念（1）：マーケティング志向（マーケティングの考え方）について理解する						
3	マーケティングの基本概念（2）：マーケティングと戦略との関係を知る						
4	製品のマネジメント：マーケティングの4Pのうち、製品（Product）に関するマネジメントについて学ぶ						
5	価格のマネジメント：マーケティングの4Pのうち、価格（Price）に関するマネジメントを学ぶ						
6	広告のマネジメント：マーケティングの4Pのうち、広告（Promotion）に関するマネジメントを学ぶ						
7	流通のマネジメント：マーケティングの4Pのうち、流通（Place）に関するマネジメントを学ぶ						
8	サプライチェーンマネジメント：サプライチェーンとは何か、そのマネジメントについて理解する						
9	営業のマネジメント：マーケティングにおける営業部門の活動について知る						
10	顧客関係のマネジメント：顧客との「関係性マーケティング」の基礎について理解する						
11	顧客理解のマネジメント：顧客を理解するためのマーケティング・リサーチについて知る						
12	ブランド構築のマネジメント：ブランドをどのように創り上げるか、ブランド構築のマネジメントを学ぶ						
13	ブランド組織のマネジメント：ブランド・マネジャーとブランド組織のマネジメント（役割や責任）について学ぶ						
14	企業の社会的責任：マーケティングにおける企業の社会的責任について理解する						
15	まとめーあらためてCS（顧客満足）について考えるー						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
定期試験	60	授業の配布資料から、穴埋めおよび論述問題を出題し、理解度を評価する。	小テスト	30	簡単なキーワード、専門用語のチェックテストを行い、その理解度により評価する。 (2回予定)		
授業参加態度	10	授業態度を評価対象とする。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①毎回の講義の最初に前回の復習を実施するので、講義前までに配布資料やノートを見直しておくこと [30分] ②授業後に、配布資料の内容をもう一度確認し、専門用語を理解し覚えること [60分]			小テストの結果は、次回の授業で返却するとともに、解説を行う。				
受講生に望むこと	教室の中だけが学ぶ場所ではない。普段の生活の中で接する会社やお店、あるいはテレビ・雑誌広告などを通じ、製品やサービスのマーケティングについて興味・関心を持つことを期待する。		教科書・テキスト	なし（毎回資料を配布する）			
指定図書参考書等	なし／『1からのマーケティング（第3版）』石井淳蔵・廣田章光編著 碩学舎 中央経済社 2009年 ISBN：978-4-502-66550-9		その他・特記事項	なし			

授業科目名	SP305U 社会心理学A		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	西村 洋一						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義は心理学、特に社会心理学領域を学ぶ体系に位置づけられる科目である。社会心理学は、人間の心理を理解する上において状況の影響に重点を置き、人間の社会的行動を理解しようとする学問である。社会心理学Aにおいては、対人関係や集団における心の働きに重点を置いて講義を行う。具体的には、自己、対人認知、集団（家族を含む）におけるダイナミックス、文化等が挙げられる。他者との関係という状況の中の個人に着目することにより、人間がいかに社会的な存在であるのかということを理解してもらいたい。</p>			<p>①社会心理学における自己のとらえ方、その概念と機能を理解している。 ②他者を理解する仕組みとそこから生じる問題について理解している。 ③集団における個人の心理とダイナミックスについて理解している。 ④文化心理学の視点を理解している。 ⑤家族のあり方を心理学の視点から理解している。</p>				
教授方法	講義を中心に自分自身について振り返りを行う作業も取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	社会心理学とは何か：社会心理学の概要を解説する。						
2	自己①：社会心理学における自己、自己意識について解説する。						
3	自己②：自己概念と自尊感情について解説する。						
4	自己③：自己呈示と自己開示について解説する。						
5	社会的比較：その理論、および研究知見を紹介する。						
6	対人認知：他者を理解するプロセスについての知見を紹介する。						
7	ステレオタイプ：ステレオタイプとは何か、維持や変容のプロセスについて考える。						
8	原因帰属、社会的推論：原因帰属、社会的推論に関する理論を紹介する。						
9	態度と説得：態度形成、態度変容および説得について解説する。						
10	態度と行動：態度という概念および行動との関連について概説する。						
11	服従の心理：社会的影響の一例として服従の心理について解説する。						
12	集団における心理：集団への同調がどのように生じるのかについて解説を行う。						
13	集団間関係：集団間で生じる葛藤について理解する。						
14	文化と心：文化心理学の考え、知見を紹介する。						
15	家族の心理：家族という集団が個人に及ぼす影響について解説する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	80	講義内容の理解度		講義への参加度	20	講義中の積極的な発言や課題の提出状況から評価を行う。	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
<p>①各回の内容についてあらかじめプリント、参考書を読んでくる。授業後には授業の内容を振り返りを行う。〔45分〕 ②講義で学んだ内容を自分自身や他者との関わりに適用し、具体的に理解する。〔30分〕 ③講義内で行う心理尺度の結果について自分自身だけではなく周りの人たちと議論し、理解を深める。さらに関連の尺度やその概念について調べる。〔30分〕</p>				<p>講義内の小レポートは、次回の冒頭にコメントを付けてフィードバックを行う。</p>			
受講生に望むこと	社会心理学Aの対象となるのは自己や他者の理解、集団など比較的なじみやすいものであるが、諸概念を理解し、応用することは必ずしも易しいものではない。講義内容を積極的に自分自身や日常生活に適用していく姿勢が求められる。			教科書・テキスト	特に指定しない。適宜プリントの配布を行う。		
指定図書参考書等	なし／『社会心理学』 池田謙一 有斐閣 2010年 ISBN 978-4-6410-5375-5 『よくわかる社会心理学』 山田一成他 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN 978-4-6230-4812-0			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SP310U 社会心理学B		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	西村 洋一						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
本講義は心理学、特に社会心理学領域を学ぶ体系に位置づけられる科目である。社会心理学Bにおいては、他者とのコミュニケーションを中心に集団でのパフォーマンスなどについて概説する。また、産業や組織における心理にも着目し、組織における人の行動や職場における問題と言った事項も取り上げる。			①コミュニケーションとはどのようなものであるか社会心理学の観点から理解している。 ②集団におけるパフォーマンスについて理解する。 ③職場において生じる心理的な諸問題について理解し、その対応を考えられるようになる。				
教授方法	講義を中心に自分自身について振り返りを行う作業も取り入れながら進める。						
履修条件	社会心理学Aの履修済が望ましい（単位未修得可）。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	コミュニケーションとは何かを考える。						
2	言語的コミュニケーション：言語的コミュニケーションについての研究知見を紹介する。						
3	非言語的コミュニケーション：非言語的コミュニケーションの分類やその影響について学ぶ。						
4	コミュニケーションと認知、対人行動との関係について解説する。						
5	職場でのコミュニケーション：組織におけるコミュニケーションのあり方、社会的スキルについて解説を行う。						
6	集団によるパフォーマンス：集団意思決定や問題解決の特徴について解説する。						
7	集団意思決定の実際：作業の中から集団意思決定の特徴を理解する。						
8	中間試験とこれまでの内容の振り返り						
9	職場のチームワークについての知見を紹介する。						
10	仕事とモチベーション①：モチベーションの理論を紹介する。						
11	仕事とモチベーション②：モチベーションの理論を紹介する（続き）。						
12	キャリア発達を理解：キャリア発達についての知見を紹介する。						
13	職場におけるストレス①：ストレスはどのように理解されるかを解説する。						
14	職場におけるストレス②：職場でのストレスの原因とそのサポートについて解説する。						
15	消費者行動・環境行動についての知見を紹介する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
中間試験	40	講義内容の理解度		期末レポート	40	問われていることに適確に答えているか、しっかりと構成されているかを中心に評価を行う。	
講義へ参加度	20	講義内での発言や課題の提出状況から評価を行う。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①各回の内容についてあらかじめプリント、参考書を読んでくる。授業後には授業の内容を振り返りを行う。〔45分〕 ②自ら所属する様々な集団においてどのような影響を受けているか、授業や課外活動で議論を行った際に具体的に考えてみる。〔30分〕 ③メディア利用については多くの議論が行われているので、それらを参照し、講義の内容とあわせ、理解を深める。〔30分〕				授業内の小レポートは、次回の冒頭にコメントを付けてフィードバックを行う。 中間試験は採点終了後返却し、解説する。			
受講生に望むこと	社会心理学Bの内容はコミュニケーションによる他者との関わりを基礎、および職場での心理など実際的な内容となっている。自分自身への関心だけでなく、広く社会への興味関心を持って講義に臨み、具体的な社会事象についての理解へと用いてほしい。			教科書・テキスト	特に指定しない。適宜プリントを配布する。		
指定図書参考書等	なし／『社会心理学』 池田謙一他 有斐閣 2010年 ISBN 978-4-6410-5375-5 『よくわかる社会心理学』 山田一成他 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN 978-4-6230-4812-0 『よくわかる産業・組織心理学』 山口裕幸他 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN 978-4-6230-4871-7			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SP315U 認知心理学		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	西村 洋一						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士・司書				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。認知心理学とは、人間が周りの環境や社会をどのように認識し、そこから得られた情報をどのように利用しているかを科学的に明らかにしようという学問である。生涯学習を考える上で、人の心の仕組みとも言える記憶、思考といった概念がどのようなものであるかを理解することは大きな意味がある。</p>			<p>①認知心理学がどのようなものであるのか理解している。 ②感覚・知覚過程がどのような働きをし、どのような障害があるのか理解している。 ③記憶や思考について素朴な実感に基づく理解ではなく、認知心理学の観点からとらえなおすことができる。 ④批判的思考という概念を理解し、自ら実践できるようになる。 ⑤学習過程について認知理論の観点から考えることができる。</p>				
教授方法	講義を中心に、実際に体験できる課題も取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	認知心理学とは？：認知心理学という領域がどのように成立し、どのようなことを目指したものであるのか解説を行う。						
2	世界を捉える心の働き①：感覚についての心理学的理解について解説する。						
3	世界を捉える心の働き② 知覚とは何か、奥行き知覚、運動知覚について解説する。						
4	世界を捉える心の働き③ 錯視、顔の知覚について解説する。						
5	人間の情報処理過程における注意について解説する。						
6	知覚における障害 知覚のプロセスにおいてどのような障害が存在するのかについて解説を行う。						
7	記憶 1 記憶とは？：人の記憶の特徴について概略を述べ、次回以降の内容に道筋をつける。						
8	記憶 2 短期記憶・ワーキングメモリ：二重貯蔵モデルにおける短期記憶の特徴について述べ、さらにその概念を発展させたワーキングメモリの概要とその働きについて解説を行う。						
9	記憶 3 長期記憶と忘却：長期記憶の分類やモデル、および忘却という現象について説明を行う。						
10	記憶 4 目撃証言と偽りの記憶：記憶が私たちの実生活に影響を及ぼす具体的な事象として、目撃証言と偽りの記憶について紹介する。						
11	思考 1 推論：演繹推論、帰納推論とはどのようなものであるのかを説明し、人が演繹推論を行う時の特徴について理解する。						
12	思考 2 確率判断：人が行う確率判断はどのような特徴があるのか、そしてそれらが意思決定のプロセスにおいてどのような影響をもたらすのかについて解説を行う。						
13	思考 3 批判的思考：人の思考プロセスの特徴を踏まえた上で、より妥当な、合理的思考を行うための考え方はどのようなものであるかといった点について解説を行う。						
14	思考 4 問題解決：問題が与えられ、ゴールの状態に至るまで人がどのようなプロセスを経ているのかについて解説を行う。						
15	学習 認知理論から見た学習過程について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	50	講義内容をどれだけ理解できているか。試験形式等の詳細は授業内にて提示する。		レポート	30	課題に対し資料を参照しながら筋道立てて意見を述べられているか。	
講義への参加度	20	授業への取り組み姿勢や課題の提出状況をもとに評価を行う。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①各回の内容についてあらかじめプリント、参考書を読んでくる。授業後には授業の内容を振り返りを行う。 [30分] ②講義内で行うデモンストレーションを講義後に自分や身の周りの人に実施し、本を読んだだけでは理解しにくい部分を実感から理解を深める。 [30分] ③記憶や思考については教科書的なものだけでなく、読み物やテレビ番組などになっているものも多いので、それらも参照すること。 [30分]</p>				授業内の小レポートは、次回の冒頭にコメントを付けてフィードバックを行う。			
受講生に望むこと	認知心理学は私たちの心の仕組みを理解するための知見を提供している。普段あまり意識することのない過程であるともいえるが、心の成り立ちを理解する上で重要なものである。その意義を踏まえながら積極的に講義に参加することを望む。			教科書・テキスト	特に指定しない。適宜プリントを配布する。		
指定図書参考書等	なし／『認知心理学』箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋 有斐閣 2010年 ISBN 978-4-6410-5374-8 『認知心理学—知のアーキテクチャを探る—新版』道又爾・北崎充晃・大久保街亜・今井久登・山川恵子・黒沢学 有斐閣 2011年 ISBN 978-4-6411-2453-0			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SP320U 感情心理学		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	西村 洋一・齊藤 英俊（代表教員 西村 洋一）						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。感情とは日常から私たちの生活を彩るものであり、誰もが経験するものである。その一方で、それがどのようなものであるのかということはなかなかとらえ難いものである。心理学という科学の視点からそれがいかにとらえられるか。また、感情には疾患と診断される部分もあり、その機序と支援の方法を含め、「感情」について全体的に理解することを目指す。</p>			<p>①感情を心理学的にとらえるための理論を理解できる。 ②幸福感や対人不安などの個別の感情についてどのような研究があり、どのようなメカニズムで経験されるかを理解できる。 ③感情がどのように発達するのかを理解できる。 ④感情の病理について理解し、どのような支援を行うことができるかを考えられる。</p>				
教授方法	講義を中心にワークなどを取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	感情とはどのように捉えられるか 必要・不必要の関連を含め感情についての考えを紹介する。					西村	
2	感情と進化 進化という観点から感情がどのように理解されるかを解説する。					西村	
3	感情の理論① 心理学において提案された感情についての理論を概観する。					西村	
4	感情の理論② 心理学において提案された感情についての理論を概観する（続き）。					西村	
5	情動知能の視点 情動知能という概念及び研究の紹介を行う。					西村	
6	認知と感情の関わり 心の仕組みとして認知と感情は別個のものではないということを解説する。					西村	
7	幸福感とその関連要因について 幸福感という観点から様々な研究が行われており、それらを紹介する。					西村	
8	他者との関わりにおける感情の理解：対人不安・孤独感がどのように理解されているか解説する。					西村	
9	感情の生物学的基盤 感情が生じる神経生理学的な機序について紹介する。					齊藤	
10	感情の発達 感情について発達の観点から考える。					齊藤	
11	精神疾患に関連する感情① 不安：不安障害といった不安感情と精神疾患について理解を深め、支援の方法を考える。					齊藤	
12	精神疾患に関連する感情② 抑うつ：気分障害といった抑うつ感情と精神疾患について理解を深め、支援の方法を考える。					齊藤	
13	精神疾患に関連する感情③ 恐怖：PTSDなどでみられる恐怖感情と精神疾患について理解を深め、支援の方法を考える。					齊藤	
14	感情の病理への心理的アプローチ① 精神分析的な心理療法：精神分析の視点から感情の病理のメカニズムや心理的支援について考える。					齊藤	
15	感情の病理への心理的アプローチ② 認知行動療法、エモーション・フォーカスト・セラピーの視点から感情の病理のメカニズムやその理論について理解を深める。					齊藤	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	70	講義の理解がどの程度できているかで評価を行う。		講義への参加度	30	講義中への参加度と振り返りの内容から評価を行う。	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
①講義の歳に配布される資料や紹介された文献を読んで、予習復習を行う。 [45分] ②講義で学んだ内容を自分自身や他者の作品（小説、映画、漫画など）にあてはめて具体的に理解する。 [30分]				各回での振り返り・リアクションシートの内容について、次回の冒頭にフィードバックを行う。			
受講生に望むこと	「授業の概要」でも述べたように、日常経験するものでありながら、科学的・理論的に理解しようとするところには困難が多いのが「感情」である。自分自身のみの視点だけでなく、広い視野でとらえられるように励んでもらいたい。			教科書・テキスト	特に指定しない。適宜資料を配布する。		
指定図書参考書等	なし／講義中に適宜紹介する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SP325U 心理療法		開講学科	社会科学	必修・選択	選択	
担当教員名	西尾 祐美子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>人の「こころの問題」へアプローチとして、心理療法がある。心理療法とはどのようなものか、基本的な概念や歴史、対象、具体的な方法について概説したうえで、ロールプレイにより体験的に学びを深める。各々の特徴を知ること、心理臨床現場でクライアントのニーズに沿ってより適切な技法をその都度用いることができるのが望ましい。また、臨床家に求められる心理学的援助の基本姿勢や資質、倫理について身につけることも目的とする。</p>			<p>到達目標は、主に2つある。 ①さまざまな心理療法について、具体的な方法（対象や基礎となる理論、進め方など）とその効果と限界を理解し、心理的援助の実際を説明できることである。 ②ロールプレイを通じて、心理療法を受ける側の視点にも立ちながら、臨床家に必要な姿勢やコミュニケーションスキルを習得する。</p>				
教授方法	講義の中で可能な限りロールプレイで体験的に学習する。必要に応じてディスカッションやビデオ視聴も行う。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：授業の進め方や成績評価基準などを説明した後、心理療法とは何か、その背景や歴史などを知る。						
2	心理臨床家の教育と訓練、倫理：心理療法を学ぶうえでの訓練課題や目標、スーパーヴィジョンに関して学び、心理臨床家に求められる倫理も身につける。						
3	心理療法のプロセス（1）：インテーク面接や面接初期の心理アセスメントから見立てまでの流れを概説する。						
4	心理療法のプロセス（2）：面接中期から終結までの流れ、および中断や治療構造（枠）などについて概説する。						
5	力動論に基づく心理療法（理論）：精神分析の代表的な臨床家の理論や技法について概説する。						
6	力動論に基づく心理療法（演習）：精神分析的アプローチを体験し、エビデンスや限界を説明する。 ★ペアになって、ロールプレイを実施する。						
7	行動論・認知論に基づく心理療法（理論）：認知行動療法の理論背景や技法について概説する。						
8	行動論・認知論に基づく心理療法（演習）：認知行動療法の立場で症状を行動や認知で捉える演習を行う。 ★仮想例のクライアントに対する認知行動療法的アプローチを考えるグループワークを実施する。						
9	クライアント中心療法（理論）：ロジャースによる理論や技法について概説する。						
10	クライアント中心療法（演習）：クライアント中心療法の立場でロールプレイを実施し、その効用や限界も知る。★ペアになって、カウンセリングのロールプレイを行う。						
11	芸術・表現療法（理論）：描画や箱庭、カラーージュなど芸術や表現を用いた心理療法について概説する。						
12	芸術・表現療法（演習）：カラーージュを作成し、互いにその作成過程や作品についてコメントし合う。 ★カラーージュ療法を行い、ペアあるいはグループで学びを深める。						
13	日本で生まれた心理療法：森田療法や内観療法について、理論的背景や技法を概説する。						
14	集団療法：エンカウンターグループ、サイコドラマ（心理劇）、グループ療法など集団で行う心理療法について、理論的背景や技法を概説する。						
15	全体のまとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	試験の範囲や出題形式、配点等については、後日お知らせする。		コミュニケーションシート	20	毎回の授業後に記入する、自己評価およびコメントや質問などを評価する。	
授業参加状況	20	授業への取り組み姿勢（ロールプレイやグループワーク等）を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>授業にただ参加するだけで、また教科書や参考文献を読むだけで心理療法の技術や心理学的援助の基本姿勢が身につくわけではない。 授業内で実施したロールプレイやさまざまな心理療法に関して自らがどのように感じたか、あるいはどのような場合に効用が発揮されるかを講義資料などを振り返って考えながら授業に臨んでほしい。[15分程度]</p>				<p>コミュニケーションシートを通じて挙げた意見や質問を取り上げ、授業時に全体に向けて回答する。 心理療法の体験実施に伴い、万が一、心身のバランスを崩してしまった（崩しそう）場合は無理をせず、直接でも構いませんのでご相談ください。</p>			
受講生に望むこと	第5～12回は奇数回に理論を学んでから、偶数回に演習を行う形式で、実際の心理療法で用いる技法を学が実践的な授業となる。積極的な参加姿勢は当然のこと、授業内での質問や発言を求める。			教科書・テキスト	教科書は特に定めない。授業で配布するレジュメや資料は、紛失しないよう各自でファイリングしていくこと（再配布はしません）		
指定図書参考書等	なし／『心理療法ハンドブック』乾吉佑・氏原寛・亀口憲治他（編）創元社、2005年、ISBN-13:978-4422113265 『公認心理師現任者講習会テキスト（2018年版）』日本心理研修センター（監修）金剛出版、2018年、ISBN-13:978-4772415972			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SP330U 心理面接技法		開講学科	社会科学	必修・選択	選択	
担当教員名	松下 健・齊藤 英俊（代表教員 松下 健）						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
心理面接の流れ、構造、理論、技法について学習する。臨床心理学に関連する他の講義に関連する内容であり、関連講義の学習内容を基に、さらに理解を深め、技術を修得する。			①心理面接の流れ、構造、理論、技法を説明できること。 ②心理面接に必要な技術を獲得すること。				
教授方法	演習、講義。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション：心理職における心理面接の役割					松下・齊藤	
2	心理面接の特徴（治療構造など他の面接との共通点や相違点）					松下・齊藤	
3	心理面接の開始（初回面接、受理面接）					松下・齊藤	
4	心理面接の終了（終結、中断など）					松下・齊藤	
5	基本的な傾聴スキル					松下・齊藤	
6	心理面接の基礎（マイクロカウンセリング）					松下・齊藤	
7	精神分析的な心理療法における心理面接					松下・齊藤	
8	精神分析的な心理療法の心理面接のプロセス					松下・齊藤	
9	クライアント中心療法の心理面接					松下・齊藤	
10	フォーカシング指向心理療法の心理面接					松下・齊藤	
11	行動療法の心理面接					松下・齊藤	
12	認知行動療法における心理面接					松下・齊藤	
13	認知行動療法の心理面接のプロセス					松下・齊藤	
14	その他の心理療法（家族療法、ブリーフセラピーなど）の心理面接					松下・齊藤	
15	まとめ：心理面接の効果と課題					松下・齊藤	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小レポート	30	講義において小レポートを課す。講義内容を踏まえ、自己の意見を論理的に記述すること。		講義参加態度	30	グループワークやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。	
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
与えられたテーマについて予習すること。[60分] 各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[60分] 学んだ技法を習得するよう短練習すること。[60分]				小レポートは返却時にフィードバックする。期末レポートについては、次学期始めに適宜フィードバックする。			
受講生に望むこと	公認心理師資格に関連する他の講義を履修していること。 学習に自発的、積極的に取り組むこと。 他の受講者と協調すること。			教科書・テキスト	講義開始時に公認心理師資格に対応したテキストが出版されている場合は、テキストを指定する可能性がある		
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	1回程度、他学科の教員などゲストスピーカーをお招きする可能性がある。 受講生の理解度に応じて進度を変更する可能性がある。		

授業科目名	SP335U 発達臨床心理学		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	西尾 祐美子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
胎児期から老年期までの段階における発達の様相について、身体・運動・認知・言語・人格・社会性などあらゆる側面から解説を行う。各時期で顕著となる発達課題や心理的問題の意味を読み解き、心理臨床的支援の視点を学ぶ。また、「臨床」においては、個人を見るのが求められる。発達臨床の実際として、発達の遅れや偏り、様々な障害や精神疾患などによる問題の理解や支援についても、事例を通して学ぶことを目的とする。			到達目標は、主に2つある。 1つ目は、各時期の発達の様相および生じやすい心理的問題を理解することである。 2つ目は、発達に伴って生じる課題や心理的問題だけでなく、障害や精神疾患などに対しても、どのようにアプローチすべきか、様々な理論を踏まえながら支援方法を学ぶことである。				
教授方法	講義形式、必要に応じてグループディスカッションやビデオ視聴を行う						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：授業の進め方や成績評価基準などを説明した後、臨床発達心理学という学問の意義や生涯発達、ライフサイクルについて知る。						
2	胎児期～乳児期の発達と臨床的問題：出生前診断や周産期の問題、養育者との愛着形成などを学ぶ。 ★出生前診断をテーマにグループディスカッションを行う。						
3	幼児期の発達と臨床的問題（1）：ピアジェの認知発達理論や心の理論の発達、言語や情緒、あそびの発達などを学び、一般的な幼児期における発達の特徴を知る。						
4	幼児期の発達と臨床的問題（2）：発達の遅れ（発達アセスメントの観点）や虐待（発達の側面への影響も含む）などについて学ぶ。						
5	児童期の発達と臨床的問題：仲間関係や道徳性の発達、学習のつまづきやいじめなど就学以降に現れる臨床的問題について学ぶ。						
6	思春期の発達と臨床的問題（1）：第二次反抗期、二次性徴、関係性の変化（親子関係・友人関係）などの観点から思春期における不適応のリスクを学ぶ。						
7	思春期の発達と臨床的問題（2）：不登校や非行、思春期に好発する様々な精神疾患（統合失調症、摂食障害、強迫性障害など）について学ぶ。						
8	青年期の発達と臨床的問題：アイデンティティの確立・拡散、引きこもりなどを学ぶ。 ★自己分析を行い、自らの特性について知る。						
9	成人期の発達と臨床的問題：就業や結婚、妊娠・出産、子育てなどに伴う臨床的問題について学ぶ。 ★ビデオ教材を用いて、産後うつについて考える。						
10	中年期・老年期の発達と臨床的問題：転換期や中年期危機、喪失体験や死に対する受容など中年期・老年期に特有の臨床的問題を学ぶ。						
11	さまざまな心理アセスメント法：アセスメントの意義や方法（心理検査、インタビュー面接、行動観察）、進め方などを知る。						
12	さまざまな心理学的アプローチ（1）：力動論、行動論、認知論など色々な理論に基づく心理療法を学ぶ。 ★ペアになって、相談場面のロールプレイを行う。						
13	さまざまな心理学的アプローチ（2）：発達障害に対する支援方法（TEACCH, ABAなど）や障害児をもつ親への支援について学ぶ。						
14	ケースワーク：事例検討を行うポイントや流れについて知る。 ★グループに分かれて、仮想例に関してアセスメントから見立て、アプローチの検討までを行う。						
15	全体のまとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	50	試験の範囲や出題形式、配点等については、後日お知らせする。		予習・復習プログラム	20	オンラインでの授業外学習への取り組みを評価する。	
授業参加状況	15	授業への取り組み姿勢（グループワーク等）を評価する。		コミュニケーションシート	15	毎回の授業後に記入する、自己評価およびコメントや質問などを評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
各回で扱う発達理論や心理学的問題についてこれまでに学んできた基礎知識を復習しつつ、オンラインで翌授業までに、子どもや保護者などへの心理学的問題や支援に関する問いに回答してもらおう。その他、文献や配布資料を用いて予習、復習を自発的に行うこと。〔20分程度〕				予習・復習プログラムで特に正答率の低かった問題について、翌授業時に解説を行う。 コミュニケーションシートを通じて挙がった意見や質問を取り上げ、授業時に全体に向けて回答する。			
受講生に望むこと	本授業では、理論的知識だけでなく臨床的視点を身につけることを目的としている。様々な心理学的問題について、自分ならどのようにアプローチするか常に考え、授業内でも積極的な発言や参加姿勢を求める。			教科書・テキスト	教科書は特に定めない。授業で配布するレジュメや資料は、紛失しないよう各自でファイリングしていくこと（再配布はしません）。		
指定図書参考書等	なし／『よくわかる臨床発達心理学(第4版)』麻生武・浜田寿美男(編) ミネルヴァ書房, 2012年, ISBN-13:978-4623063260『精神医療・臨床心理の知識と技法』下山晴彦・中嶋義文(編)医学書院, 2016年, ISBN-13:978-4260027991			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SW300U 相談援助の理論と方法Ⅲ		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	真砂 良則						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>社会福祉士がソーシャルワーカーとして、個人、家族、小集団・組織、地域社会をクライアントシステムとして捉え、どのような対象者であろうとも一つのソーシャルワーク過程で対応できるよう、理論と方法を学ぶ。また、ケースマネジメントやネットワークング等についても、社会福祉士が実施する業務の必要性に対応して、理論と方法を学ぶ。相談援助実習および国家試験を意識した専門の内容を展開する。</p>			<p>①「社会福祉における相談援助とは何か」、その本質と相談援助の意義を理解する。 ②ケースマネジメント及びソーシャルワークの関係について理解する。 ③グループワークの意義、グループを活用した相談援助の展開について理解する。 ④連携や協働の考え方をケースマネジメントの中核的技術であるコーディネーションとして学ぶ。 ⑤社会資源の種類とその活用について学び、クライアントのニーズ充足との関係を理解する。 ⑥ソーシャルワーカーがクライアント個人に働きかける、環境に働きかける、個人と環境の調整を図ることを通じてクライアントを支援する方法について学ぶ。 ⑦ソーシャルワーカーの支援環境を整えるためのスーパービジョンやコンサルテーションについて学ぶ。 ⑧ケースカンファレンスや相談援助における個人情報保護について理解する。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	相談援助の理論と方法Ⅰ、Ⅱの単位を修得済みの者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	相談援助活動の概念と定義および対象をどうとらえるかについて理解する。						
2	システム理論による全体的、包括的な対象理解について学ぶ。システム理論を背景とした社会福祉援助活動の対象理解を踏まえて、個人、家族をどうとらえるかについて理解する。						
3	システム理論を背景とした社会福祉援助活動の対象理解を踏まえて、集団、地域をどうとらえるかについて理解する。新たなソーシャルワークの展開と社会福祉士認定制度について理解する。						
4	ケースマネジメントの目的、構成要素、過程について理解する。						
5	アセスメントについて理解する。また、パートナーシップやストレングスの視点の必要性を理解する。						
6	ケアプランの作成および実施について理解する。またケースマネジメントとソーシャルワークの関係について理解する。						
7	グループを活用した相談援助について理解する。						
8	自助グループを活用した相談援助について理解する。						
9	コーディネーションの目的と意義、コーディネーションの方法・技術・留意点等について理解する。						
10	ネットワークングの意義と目的、方法について学習する。ネットワークの形成とシステム化について理解する。						
11	相談援助における社会資源の活用・調整・開発について理解する。						
12	スーパービジョンとコンサルテーションの意義、目的、方法等について理解する。						
13	ケースカンファレンスの意義・目的・運営と展開過程等について理解する。						
14	相談援助における個人情報の保護について理解する。						
15	相談援助における情報通信技術（ICT）の活用について理解する。まとめ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	80	・毎回の講義内容についてどれだけ理解しているか。		授業参加状況	20	・ワークシート等の提出物（講義内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）。 ・授業への積極的な取り組み。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>①毎回、テキストを読んで予習・復習をする。[それぞれ30分以上] ②テキストで理解が難しい社会福祉用語については、社会福祉に関する書籍や社会福祉用語辞典等を参考にする。 ③相談援助演習や相談援助実習等の科目と関連づけて学ぶ。</p>			<p>毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回の冒頭に解説等を行う。</p>				
受講生に望むこと	・受け身ではなく能動的な姿勢（疑問をもつ、考える、発言する等）で臨んで欲しい。		教科書・テキスト	『相談援助の理論と方法Ⅱ』第3版 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版（株）2015年 ISBN978-4-8058-5104-3			
指定図書参考書等	なし/『相談援助の基盤と専門職』第3版 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版（株）2015年 ISBN978-4-8058-5102-9 『相談援助の理論と方法Ⅰ』第3版 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版（株）2015年 ISBN978-4-8058-5103-6		その他・特記事項	なし			

授業科目名	SW305U 相談援助の理論と方法Ⅳ		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	真砂 良則						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>ソーシャルワークは、クライアントが抱える生活課題を解決し、社会的機能の改善・維持・向上を具体的目標に、利用者の「最善の利益」を確保する展開過程である。そのため、クライアントが抱えている生活課題を正確に把握・理解していくためにさまざまな実践モデル・アプローチについて学習し、現場実践の中で活用できるようにする。実践モデル・アプローチについては、その基盤となる理論、適用対象・課題、支援展開などを学習し、ソーシャルワーカーとしてより高いレベルの知識・技術・価値、そして実践力を身につける。また、相談援助に係る事例分析の方法や相談援助の実際等について理解する。</p> <p>相談援助実習および国家試験を意識した専門の内容を展開する。</p>			<p>①医療モデル、生活モデル、ストレングスモデルについて理解する。 ②ジェネラリスト・ソーシャルワークについて理解する。 ③「実践モデル」と「アプローチ」をそれぞれ「課題認識への類型」と「課題解決への方法」として峻別する。 ④「心理社会的」「機能的」「問題解決」「課題中心」「危機介入」「行動変容」の6つのアプローチについて、起源と基盤理論、支援焦点、支援展開などを理解する。 ⑤「エンパワメント」「ナラティブ」「フェミニスト」「解決志向」の「新興アプローチ」について理解する。 ⑥アプローチをめぐる課題について理解する。 ⑦事例分析の方法等について理解する。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	相談援助の理論と方法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの単位を修得済みの者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	さまざま実践モデルとアプローチⅠ：実践モデルとその意味を理解する。						
2	さまざま実践モデルとアプローチⅠ：治療モデル、生活モデル、ストレングスモデルについて学習する。						
3	さまざま実践モデルとアプローチⅠ：ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開と実践モデルについて理解する。						
4	さまざま実践モデルとアプローチⅡ：心理社会的アプローチについて理解する。						
5	さまざま実践モデルとアプローチⅡ：機能的アプローチについて理解する。						
6	さまざま実践モデルとアプローチⅡ：問題解決アプローチについて理解する。						
7	さまざま実践モデルとアプローチⅡ：課題中心アプローチについて理解する。						
8	さまざま実践モデルとアプローチⅡ：危機介入アプローチについて理解する。						
9	さまざま実践モデルとアプローチⅡ：行動変容アプローチについて理解する。						
10	さまざま実践モデルとアプローチⅡ：事例考察によるアプローチ理解。						
11	さまざま実践モデルとアプローチⅢ：エンパワメントアプローチについて理解する。						
12	さまざま実践モデルとアプローチⅢ：ナラティブアプローチについて学習する。						
13	さまざま実践モデルとアプローチⅢ：実存主義アプローチとフェミニストアプローチについて理解する。						
14	さまざま実践モデルとアプローチⅢ：解決志向アプローチについて理解する。アプローチをめぐる課題について理解する						
15	事例研究・事例分析の意義・目的・方法等について理解する。相談援助の実際（権利擁護活動を含む）を理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	80	・毎回の講義内容についてどれだけ理解しているか。		授業参加状況	20	・ワークシート等の提出物（講義内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）。 ・授業への積極的な取り組み。	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
<p>①毎回、テキストを読んで予習・復習をする。[それぞれ30分以上] ②テキストで理解が難しい社会福祉用語については、社会福祉に関する書籍や社会福祉用語辞典等を参考にする。 ③相談援助演習や相談援助実習等の科目と関連づけて学ぶ。</p>				<p>毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回の冒頭に解説等を行う。</p>			
受講生に望むこと	・受け身ではなく能動的な姿勢（疑問をもつ、考える、発言する等）で臨んで欲しい。			教科書・テキスト	『相談援助の理論と方法Ⅱ』第3版 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版（株）2015年 ISBN978-4-8058-5104-3		
指定図書参考書等	なし/『相談援助の基盤と専門職』第3版 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版（株）2015年 ISBN978-4-8058-5102-9 『相談援助の理論と方法Ⅰ』第3版 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版（株）2015年 ISBN978-4-8058-5104-3			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SW325U 保健医療サービス		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	石原 俊彦						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要			授業の到達目標				
保健医療サービスを構成する要素を理解し、医療法改正における保健医療サービスの今日的課題、保健医療チームを支える社会福祉士、精神保健福祉士その他の職種等の機能と役割を理解する。併せて保健医療サービスを提供する保健医療政策による医療施設、診療報酬による医療施設の機能・類型・システムを学ぶ。また、保健医療サービスを提供する医療保険制度と診療報酬制度の概要を学び、高齢者が増加する現在における介護保険と介護保険制度の概要についても理解する。			①保健医療のサービスの变化と提供する施設とそのシステム及び社会福祉専門職(社会福祉士、精神保健福祉士)の役割について理解する。 ②医療保険制度、介護保険制度、公費負担医療制度の概要について理解する。 ③保健医療サービスにおける専門職の連携と実践地域の社会資源との連携及び実践について理解する。				
教授方法	講義とグループによるディスカッション。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	保健医療のサービスの变化：保健医療サービスの構成要素、保健医療サービスの整備・拡充、住民及び患者視点の尊重						
2	医療法改正に見る保健医療サービスの今日的課題、医療連携チームと社会福祉士と精神保健福祉士の役割						
3	医療法による医療施設の機能・類型、保健医療政策による医療施設の機能・類型						
4	診療報酬における医療施設の機能、介護保険における施設の機能・類型						
5	在宅支援のシステム：医療と介護の連携、地域包括ケアシステムの必要性						
6	医療ソーシャルワーカーの業務内容、経済的問題への支援、退院援助・社会復帰援助						
7	通院援助、組織における地域の窓口、保健医療サービスの専門職の概観、基本的姿勢						
8	保健医療サービスにおける各専門職の視点と役割：チームアプローチの実際						
9	医療保険制度と診療報酬制度の概要：保険料の負担と給付、診療報酬における在宅医療・終末期医療						
10	介護保険制度と介護報酬及び公的扶助の概要						
11	保健医療の専門職との連携方法：保健医療チームとの連携、多職種チームとの連携						
12	チームケア実現のための制度や連携機関：チームケアの基本となる制度、行政・社会福祉協議会・地域包括支援センター等との連携						
13	社会福祉協議会、職能団体、ボランティア、地域産業、学校と教職員						
14	保健医療の専門職との連携の実際：チームケアの類型、疾病・障害別のチームケア、クリティカルパスの実践と活用						
15	地域の保健医療ネットワーク構築のための連携方法：地域連携とネットワークとその原則						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	50	福祉の専門職を目指す者として、保健医療サービスについてどの程度、理解し自分なりの関心、知識を深めているかを把握する。		課題レポート	20	自分が住んでいる地域の中でどのような介護サービスがあるか。どのような介護施設があるかまとめる。	
授業の取り組み態度、出席状況	30	授業の態度及びグループディスカッションへの取り組み姿勢					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
事前学習では、誰にも自分及び家族が医療機関（病院・診療所）を受診した経験があると思うが、その時抱いた疑問や問題点、不快に思った事等をまとめておくこと。[30分] 各自が体験した内容をもとにグループディスカッションを行い、問題箇所を探し出し、その関連する要因及び対策について検討する。できたら患者の権利についても考える。[30分] 終了後は、①保健医療サービスに対する住民の意識②医療体制のサービス提供上の課題について各自まとめる。（マスコミ等の意見を参考にしても良い）更にグループで①②について質疑応答し深める。例えば社会環境要因からの生活習慣病の予防を促すために住民の意識を高め、保健医療サービスの提供、健康診断・教育はどうあるべきかを考察する。			講義の前後に疑問点等の質問を受ける。講義開始時は前回の講義内容を復習して講義を始める。社会福祉士の国家試験に対応できるように過去の問題等を講義の中で説明する。				
受講生に望むこと	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験の共通受験科目であるので、しっかり取り組んで欲しい。医療保険制度、診療報酬については日ごろから受診や健康診断で医療機関を利用しているにも関わらず関心が薄いので関心を持つようにすること。苦手意識が強い学生が多いので、家族の受診時や祖父母の介護保険利用時等に支援を通してこの科目の学習を深めて欲しい。		教科書・テキスト	社会福祉士養成講座編集委員会編、「保健医療サービス」第5版、中央法規、2017年、ISBN：978-4-8058-5432-7			
指定図書参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし			

授業科目名	SW330U 就労支援サービス		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田引 俊和						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>1. 障害がある人たちの就労、就労支援に関する授業を展開する。</p> <p>2. 相談援助活動において必要となる就労支援制度等について説明する。</p> <p>3. 福祉施設等だけではなく、一般的な職場での就労についても講義内容に含む。</p>			<p>1. 相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について理解する。</p> <p>2. 就労支援に係る組織、団体及び専門職について理解するとともに、就労支援分野との連携について理解する。現代社会における雇用・就労の動向、労働施策の概要について理解する。</p> <p>3. 生活保護制度における就労支援制度、および障害者福祉施策における就労支援制度について理解する。</p> <p>4. あわせて就労支援に関連する組織・団体、教育機関との連携について学ぶとともに、専門職の役割について理解する。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	雇用・就労の動向と労働施策の概要、ライフスタイルに応じた多様な働き方、障害者の雇用・就労をとりまく情勢						
2	就労支援制度の概要（1）生活保護制度における就労支援制度、自立支援プログラム、ハローワーク						
3	就労支援制度の概要（2）障害者福祉施策における就労支援制度、就労移行支援事業、就労継続支援事業						
4	就労支援制度の概要（3）障害者雇用施策の概要、障害者雇用率制度、職業リハビリテーションの実施体制						
5	就労支援に係る組織、団体の役割と実際、地域障害者職業センターにおける職業リハビリテーション						
6	就労支援に係る専門職の役割と実際、職場適応援助者（ジョブコーチ）、障害者職業カウンセラー						
7	就労支援分野の連携と実際（1）ハローワーク（生活保護制度関連）、障害者雇用施策との連携						
8	就労支援分野の連携と実際（2）職業リハビリテーション機関、障害者福祉サービス事業所、特別支援学校との連携						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小テスト・レポート等	50	授業内容の理解		授業参加状況	50	受講態度、提出物等	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>1. 社会における多様な職業生活、就労支援のあり方を理解する。</p> <p>2. 雇用就労に関する事象、支援について考え、まとめる。[30分以上]</p> <p>3. 社会福祉士国家資格取得を目指すものはテキストや資料等を繰り返し学習する。</p>				小テスト等は内容を解説します。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応します。			
受講生に望むこと	社会福祉分野における就労支援とともに、自分自身の就労についても関心を持ち、考えてください。			教科書・テキスト	必要な資料を講義毎に配布する。		
指定図書／参考書等	必要な資料を講義毎に配布する。			その他・特記事項	随時、社会福祉士国家試験に関する資料を配付、説明する。		

授業科目名	SW335U 相談援助演習Ⅲ		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	田引 俊和					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>社会福祉の援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した中で考察を深め、ソーシャルワークの専門技術、および視点について学ぶ。個別性・共通性の理解とともに、具体的な社会福祉援助技術の精度を高め、正しい利用者理解と援助に資するための感性を磨き、相談援助専門職として必要かつ適切な能力を習得する。社会福祉士実習、および国家試験を意識した専門的な内容を展開する。</p>			<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回の演習を通して、相談援助の基礎的視点、技術を習得する。 2. 各事例における個別性と価値倫理について理解する。 3. ソーシャルワークの展開過程を事例を通して理解する。 4. 総合的かつ包括的な相談援助体制と機能を理解する。 5. 支援ネットワークについて理解する。 			
教授方法	講義・演習					
履修条件	「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱ」「相談援助演習Ⅰ・Ⅱ」の単位修得済の者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	科目を学ぶ意義、到達目標、授業の流れを把握し、相談援助の展開過程について理解する。					
2	専門職としての価値・倫理：援助資源になるための自己覚知、他者理解と尊重、ソーシャルワーカーの使命と役割、価値基盤を理解する。					
3	相談援助実践における専門的援助関係づくりと、そのために必要なコミュニケーション・かかわり行動について学ぶ。					
4	ソーシャルワーク実践における援助者の基本姿勢、専門的援助関係、受容的態度について理解する。					
5	基礎的技能：受容、個別化、利用者主体、かかわり技法、観察技法など対人コミュニケーションについて理解する。					
6	基礎的技能：面接ロールプレイを通じて、面接の環境づくり、話しを促すスキル、要約・繰り返しのスキルを学ぶ。					
7	基礎的技能：記録技法と情報整理法について学ぶ。エコマップ、ジェノグラム、ケース記録について実践的に学ぶ。					
8	事例の検討報告：相談援助の実際と援助技術について事例を活用して学ぶ（児童に関する事例）。					
9	事例の検討報告：相談援助の実際と援助技術について事例を活用して学ぶ（高齢者に関する事例）。					
10	事例の検討報告：相談援助の実際と援助技術について事例を活用して学ぶ（障害児者に関する事例）。					
11	事例の検討報告：相談援助の実際と援助技術について事例を活用して学ぶ（家庭内に関する事例）。					
12	事例の検討報告：相談援助の実際と援助技術について事例を活用して学ぶ（社会生活に関する事例）。					
13	事例の検討報告：相談援助の実際と援助技術について事例を活用して学ぶ（社会的・ソーシャルインクルージョンに関する事例）。					
14	事例の検討報告：相談援助の実際と援助技術について事例を活用して学ぶ（その他援助事例）。					
15	事例の検討報告：相談援助の実際と援助技術について事例を活用して学ぶ（まとめと報告）。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加状況	50	授業・演習への参加状況、受講態度、小テスト、提出物等		確認テスト・ミニレポート	50	授業内容の理解（確認テスト）
授業外における学習（事前・事後学習等）						
<ol style="list-style-type: none"> ① 毎回、配布資料の見直しとともに、授業・演習内容を振り返り学びを定着させる。[30分以上] ② 社会の事象に関心を持ち、福祉領域との関係を意識する、まとめる。 ③ 福祉現場への理解を深めるため、施設・機関への見学、ボランティアに参加する。 				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック 確認テスト等は、毎回結果とともに内容を解説します。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応します。		
受講生に望むこと	<ol style="list-style-type: none"> 1. 相談援助の専門職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。 2. 疑問点や深い洞察も含めた知識の探求を意識し学んで下さい。 			教科書・テキスト	必要な資料を講義毎に配布する。	
指定図書参考書等	必要な資料を講義毎に配布する。			その他・特記事項	随時、社会福祉士国家試験に関する資料を配布、説明する。	

授業科目名	SW340U 相談援助演習Ⅳ		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田引 俊和						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>社会福祉の相談援助に関して、関連科目、および相談援助実習との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士に求められる知識、技術について実践的に習得することを目指す。具体的な相談援助事例を体系的に学び、専門的援助として概念化、理論化し、体系立てていくことができる能力を養う。社会福祉士実習、および国家試験を意識した専門的な内容を展開する。</p>			<p>1. ソーシャルワーカーとして必要な連携の基本的な知識、視点、態度を習得する。 2. 多職種連携の前提として、ソーシャルワーカーの視点、立場、役割の特徴を理解する。 3. 連携体制を構築する方法を学び、協働における対立や葛藤、それらへの対処法を学ぶ。 4. 報告資料・レポート等を通して地域生活支援の重要性と課題を理解する。</p>				
教授方法	講義・演習						
履修条件	「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱ」「相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の単位修得済の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ソーシャルワーク実践の展開：援助展開過程とソーシャルワークの対象、焦点について理解する。						
2	地域福祉推進のための援助技術：個別支援から地域支援へと支援範囲拡張、様々なニーズと社会資源について理解する。						
3	地域福祉推進のための援助技術：地域ニーズ把握のためのアセスメント、エンパワメントを志向したプランニングについて理解する。						
4	地域福祉推進のための援助技術：活動・プログラムの実施、多職種連携等を体験的に学ぶ。						
5	地域福祉推進のための援助技術：地域福祉の評価・計画・進捗管理、地域住民や社会福祉専門職の役割を理解する。						
6	地域福祉推進のための援助技術：ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発について理解する。						
7	地域福祉推進のための援助技術：地域での生活支援と地域の福祉力の醸成のための支援について理解する。						
8	地域福祉推進のためにソーシャルワーカー、機関等が果たすべき機能と役割について整理する。						
9	スーパービジョン：スーパービジョンの基本的な意義、機能について理解する。						
10	スーパービジョン：スーパービジョンと専門職としての継続的な成長の必要性について理解する。						
11	利用者を理解するためのニーズ把握、アセスメントについて理解を深める。						
12	人と環境の接点・相互作用、マイクロ、メゾ、マクロ、個人、家族、組織、地域、社会について理解を深める。						
13	社会福祉士の専門性と社会福祉援助、および他の専門職について理解を深める。						
14	ソーシャルワーカーの価値・倫理と葛藤：自己決定、エンパワメント、人間の尊厳、倫理について理解を深める。						
15	相談援助演習まとめ：社会福祉専門職に求められるもの。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加状況	50	授業、演習への参加状況、小テスト、提出物等		確認テスト・ミニレポート	50	授業内容の理解（確認テスト）	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
<p>①毎回、配布資料の見直しとともに、授業・演習内容を振り返り学びを定着させる。 [30分以上] ②社会の事象に関心を持ち、福祉領域との関係を意識する、まとめる。 ③福祉現場への理解を深めるため、施設・機関への見学、ボランティアに参加する。</p>				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック 確認テスト等は、毎回結果とともに内容を解説します。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応します。			
受講生に望むこと	<p>1. 相談援助の専門職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。 2. 疑問点や深い洞察も含めた知識の探求を意識し学んで下さい。</p>			教科書・テキスト	必要な資料を講義毎に配布する。		
指定図書参考書等	必要な資料を講義毎に配布する。			その他・特記事項	随時、社会福祉士国家試験に関する資料を配布、説明する。		

授業科目名	SW350U 相談援助実習指導 I		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	真砂 良則						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>相談援助実習と相談援助実習指導の意義について学ぶ。実際の実習を行う実習分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等について学ぶ。相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に学び実践的な技術等を体得する。</p>			<p>①相談援助実習と相談援助実習指導の意義について理解できる。 ②実際の実習を行う実習分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等について理解できる。 ③相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、実践的な技術等を体得することができる。</p>				
教授方法	テキストをもとにした講義の他、実習ガイドブック、ワークシート等を用いた演習、DVDの視聴を行う。						
履修条件	相談援助演習 I の単位を修得済の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導並びに集団指導の意義						
2	実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（事前リサーチ：分野）						
3	実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（事前リサーチ：施設）						
4	実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（概況表）						
5	実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解						
6	現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む）						
7	実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解						
8	実習目的と実習課題について（個人票）						
9	実習目的と実習課題について（実習計画）						
10	実習先における個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解（個人情報保護法の理解を含む）						
11	実習生に求められる姿勢						
12	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解（実習記録の目的・内容）						
13	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解（記述方法）						
14	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成						
15	巡回指導						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加状況	50	<ul style="list-style-type: none"> 授業への積極的な取り組み 課題への取り組み状況 		提出物	50	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート等の提出物の内容等 	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>①授業の前にあらかじめ指示したテキストの箇所を読んでおく。[30分以上] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持ったことや疑問点に関して自分で調べて理解を深める。[30分以上] ③福祉現場におけるボランティアや自主的な見学等を経験しておくことが望ましい。</p>			<ul style="list-style-type: none"> 個別指導により、気づきを促していく。 グループワークにより、気づきを深めていく。 毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。 				
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> 実習では、社会人としてのマナーも問われる。挨拶や身だしなみなどに日頃から気をくばること。規律のある態度で授業に臨むこと。 実習及び実習指導は社会福祉士という国家資格の取得を目指すものであるということを常に意識すること。 		教科書・テキスト	『相談援助実習・相談援助実習指導』第2版 早坂聡久 他編（株）弘文堂 2014年 ISBN978-4-335-61165-0			
指定図書参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし			

授業科目名	SW365U 相談援助実習 I		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	真砂 良則・田引 俊和					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士			
授業の概要			授業の到達目標			
8日間(64時間)にわたる相談援助実習 I を通して、相談援助に係る基本的な知識と技術について具体的なかつ実際に学ぶ。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等について、基礎的な能力を習得する。関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に学ぶ。			①実習施設・機関の機能・役割や利用者のニーズ等について理解できる。 ②社会福祉士の業務内容について実際に理解できる。 ③ソーシャルワークに関する基礎的な知識や技術が習得できる。			
教授方法	実習施設の指導者による指導、担当教員による巡回指導等。					
履修条件	高齢者福祉論、障害者福祉論、児童福祉論、相談援助の理論と方法 I、相談援助演習 I の単位を修得済で、相談援助実習指導 I を履修中の者。					
授業計画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成					実習指導者、担当教員
2	利用者理解とその需要の把握					実習指導者、担当教員
3	利用者やその関係者(家族・親族・友人等)との援助関係の形成					実習指導者、担当教員
4	利用者やその関係者(家族・親族・友人等)への権利擁護及び支援(エンパワメントを含む)					実習指導者、担当教員
5	多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際					実習指導者、担当教員
6	社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解					実習指導者、担当教員
7	施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際					実習指導者、担当教員
8	当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解					実習指導者、担当教員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
実習施設の指導者による評価	60	・実習の態度 ・専門的知識、技術の習得の状況		担当教員による評価	40	・実習記録の内容等
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
①実習の前に事前学習や実習計画、実習プログラム等の内容を再確認しておく。[30分] ②実習の後に実習課題に関する自己評価や内省を行うとともに疑問点等を調べ次に備える。[60分]				・実習記録等をもとに、実習指導者から指導を受ける。 ・巡回訪問時等の面接により、担当教員から気づきを促していく。 ・実習を終えての内省や自己評価を実習指導Ⅱ及び実習Ⅱに繋げていく。		
受講生に望むこと	・実習ガイドブックを熟読し、意欲的に取り組む。 ・実習及び実習指導は社会福祉士という国家資格の取得を目指すものであるということを常に意識すること。 ・社会福祉士の具体的なイメージを掴む。			教科書・テキスト	『相談援助実習・相談援助実習指導』第2版 早坂聡久他編(株)弘文堂 2014年 ISBN978-4-335-61165-0	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	SB300U 児童サービス論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	坪内 啓子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
乳幼児期から読書に親しむことの大切さが広く知られるようになったが、公立図書館でどのような児童サービスが行われているかを通して、子どもを知り、本を知り、子どもと本を結びつける技術を知るという児童図書館員の仕事の魅力を伝える。また児童サービスの必要性と重要性について考える。			①児童サービスの意義と目的をよく理解し、そのために必要な知識と技術を習得する。 ②児童サービスの目的達成のために土台となる本についての知識を習得する ③児童サービスについて関係機関との協力・連携について理解する。				
教授方法	基本的に講義による授業、レポート作成、実践など						
履修条件	「図書館概論」、「図書館サービス論」の履修済が望ましい。(単位未修得可)						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	児童図書館の目的を理解する。						
2	児童図書館の歴史について知る。						
3	児童室をつくる①：資料の収集と蔵書構成						
4	児童室をつくる②：資料の組織か(分類と目録)						
5	児童室をつくる③：施設と設備・備品						
6	児童室をつくる④：配架と展示(YAサービスを含む)						
7	児童室をつくる⑤：児童図書館の運営、学校等との連携、乳幼児サービス						
8	本を選ぶ①：絵本について学ぶ						
9	本を選ぶ②：物語、選ぶ目を養う						
10	子どもを知る						
11	子どもと本を結ぶ①：子どもへのレファレンス・サービス						
12	子どもと本を結ぶ②：読み聞かせ						
13	子どもと本を結ぶ③：ストーリーテリング						
14	子どもと本を結ぶ④：ブック・トーク						
15	まとめ・児童図書館員の役割						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	20	授業への取組み姿勢等		実践・レポート作成 ほか提出物	40	課題内容についてポイントを押さえるの確に考えがまとめられているか。	
単位認定試験	40	筆記試験					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<ul style="list-style-type: none"> 身近な図書館を見学、児童室を見る。月1回くらいは利用する機会をつくる。[30分] 指定図書、参考書、また講義中に紹介する本は、できるだけ読む。[40分] まえてテキストに目をとおしておく。[30分] 				課題レポートは、3週間以内に評価やコメントをつけて返却する。なお、評価やコメントに対しての疑問・質問に対しての申し出にはいつでも対応する。			
受講生に望むこと	子どものころに読んだ本、読んでもらった本等、子どものころの記憶をできるだけ思い出してみる。身近な子どもを観察する。			教科書・テキスト	『子どもと本の世界に生きて一児童図書館員のあゆんだ道』E.コルウェル著 石井桃子訳 こぐま社 1994年 ISBN: 4-7721-9017-1		
指定図書参考書等	『子どもと本』松岡享子著 岩波書店 2015年(岩波新書) ISBN: 978-4004315339/『幼い子の文学』瀬田貞二著 中央公論新社 1980年(中公新書) ISBN: 978-4121005632、『児童文学論』リリアン・H・スミス著 岩波書店 2016年(岩波現代文庫) ISBN: 978-4006022822、『児童図書館サービス1』日本図書館協会 2011年 JLA図書館実践シリーズ18 ISBN: 978-4820411062、『児童図書館サービス2』日本図書館協会 2011年 JLA図書館実践シリーズ19 ISBN: 978-4820411079			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SB305U 図書館制度・経営論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	坪内 啓子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
図書館経営に関連する法律や制度、図書館政策などについて学修し、理解を深める。今後の図書館運営に携わるときに必要な専門知識を学び、図書館の意義や社会的役割の重要性について理解する。			①図書館経営の使命と目的を理解し、図書館運営に必要な知識を習得する。 ②図書館の制度や経営に不可欠な基本的な要件について理解する。 ③急速な社会変化の中で、新しい図書館経営の在り方を考えることができる。				
教授方法	講義、DVD視聴、レポートなど						
履修条件	「図書館概論」、「図書館サービス概論」の履修済が望ましい。(単位未修得可)						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	図書館をめぐる法体系について						
2	図書館法について考える(1)：図書館法の目的、定義等						
3	図書館法について考える(2)：公立図書館の規定、および私立図書館の規定について						
4	地方自治体の図書館関連条例について						
5	各種図書館と公共図書館の連携、各種図書館の法律について						
6	図書館サービスに関わる法律について						
7	国や地方自治体の図書館政策について						
8	公共機関・施設の経営方法と図書館経営						
9	図書館の組織・職員(1)：図書館内の組織						
10	図書館の組織・職員(2)：図書館外の組織						
11	図書館の施設・設備：建築の在り方等						
12	図書館のサービス計画と予算の確保						
13	図書館業務/サービスの調査と評価						
14	図書館の管理形態の多様化						
15	公立図書館の課題と展望						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	20	授業への取り組み姿勢、発言等		レポートほか提出物	30	課題内容についてポイントを押さえた確に考えがまとめられているか。	
単位認定試験	50	筆記試験					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<ul style="list-style-type: none"> 国内外の図書館を見学、利用する機会をつくる。地元の図書館等についての利用・見学を2～3回(後期授業期間中)は行う。[90分] 前もってテキストの章に目を通しておく。[40分] 				課題レポートは、3週間以内に評価やコメントをつけて返却する。なお、評価やコメントに対しての疑問・質問に対しての申し出にはいつでも対応する			
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> 幅広く図書館関係の雑誌や新聞等の記事に関心を持つ。また図書館情報学関係のウェブサイトアクセスして、情報の閲覧、理解に努める。 			教科書・テキスト	『図書館制度・経営論 第2版』手島孝典/編著 学文社 2017年(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望5) ISBN978-4-7620-2701-7		
指定図書参考書等	なし/『未来をつくる図書館：ニューヨークからの報告』菅谷明子著 岩波新書 2003年 ISBN: 978-4004308379 『図書館制度・経営論』糸賀雅児・葉袋秀樹編 樹村房 2015年 ISBN: 978-4883672028、『図書館情報学基礎資料』今まど子・小山徳司/編著 樹村房 2016年 ISBN: 978-4883672600 『新図書館法と現代の図書館』塩見 昇・山口 源治郎/編著 日本図書館協会 2009年 ISBN: 978-4820409151			その他・特記事項			

授業科目名	SB310U 情報サービス演習 I		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は司書資格の必修科目である。図書館での情報サービスにおいては、利用者が求める情報を適切に把握し、適切なツールを用いて情報を探し提供する能力と技能が必要となる。情報サービス演習Iでは、基礎科目で学んだ内容を元に、主にコンピュータを操作しデジタル情報源を用いる情報検索の演習を行う。演習内容を通じて、情報検索技術や情報源の評価技能を身につけ、多様な情報要求に対応できる能力と技能を習得することを目的とする。			①情報専門家として幅広い主題に対応できる情報検索技術の習得 ②一般的な情報リテラシー能力の習得と向上 ③情報の評価能力（情報内容の判断）の習得と向上 ④情報発信能力（回答の作成・提供）の習得と向上				
教授方法	演習中心に行う。コンピュータ室で情報検索演習を実施する。						
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「情報サービス論」を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	図書館の情報サービスと、情報検索の意義と内容						
2	ネットワーク、 デジタル情報源の特性、 情報検索技術の基礎知識						
3	情報検索システムの基礎知識（データベース構成／論理演算 等）						
4	ウェブ情報源の検索（1）サーチエンジンの使い方とブール演算						
5	ウェブ情報源の検索（2）サーチエンジンによるウェブ情報の検索						
6	ウェブ情報源の検索（3）検索結果と情報源の評価						
7	図書情報の検索（1） 目録と書誌						
8	図書情報の検索（2） 主題とアクセスポイント						
9	図書情報の検索（3） 各図書館OPAC、 総合目録等						
10	時事情報の検索 新聞記事データベース、 ニュースサイト等						
11	雑誌記事の検索（1） 雑誌記事データベース、 索引類						
12	雑誌記事の検索（2） 引用の活用						
13	雑誌記事の検索（3） 主題検索						
14	総合演習（1） レファレンス質問を想定した実践演習 質問の分析と戦略立案						
15	総合演習（2） レファレンス質問を想定した実践演習 検索と回答作成						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
演習課題	70	出題された演習課題は必ず全て提出すること。未提出がある場合は単位認定を行わない。また課題は出題に対して適切な内容であること。		小テスト	10	授業内で実施、理解度を確認する。	
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
日常的に実際にインターネット上で利用できる情報源を使用してみること。さらに授業で紹介されたインターネット情報源は必ず自分自身で使用してみること。また、情報検索には幅広い知識がもとめられるため、日頃からニュースなど世界の動向に気を配っておくこと。課題とは別に、各回の復習を配布資料を用いて最低30分程度は行うこと。				必要に応じてレポートの添削結果を個別に伝達する。また適宜クリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	図書館司書資格の科目であることを理解し、その意義をよく考えて履修をしてください。分からない点、疑問に思ったことがあれば積極的に教員に質問をしてください。			教科書・テキスト	なし、授業内でプリントを配布		
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SB315U 情報サービス演習Ⅱ		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は司書資格の必修科目であり、情報サービス演習のうち特にレファレンスブックを用いた情報探索について学ぶ。そのために情報源としてのレファレンスブック 評価を行い、その特性について理解を深める。また実際にレファレンス質問に取り組むことにより情報探索の先週を行い、レファレンスサービス全体のプロセスの理解とその技術を取得することを目的とする。授業は課題作成と発表を交互に行い進めていく。			①レファレンスサービスのプロセスを理解する ②レファレンスブックの評価を通じてその特性を理解する ③レファレンスブックに関するパスファインダーの作成を行う ④レファレンス質問に取り組むことにより、レファレンスサービス全体のプロセス理解に努める ⑤基礎的なレファレンス質問に回答する能力を習得する				
教授方法	演習、図書館でレファレンス資料を用い課題作成及び発表を行う。						
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「情報サービス論」「情報サービス演習Ⅰ」を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	レファレンスサービスの基礎・復習						
2	レファレンスブック評価の仕方						
3	情報源の評価 (1) 目録・書誌・索引						
4	情報源の評価 (2) 辞書・事典						
5	情報源の評価 (3) 便覧・年鑑類						
6	情報源の評価 (4) 地名・人名						
7	情報源の評価 (5) 各種の専門領域						
8	情報の探索 (1) ことばの情報						
9	情報の探索 (2) 事柄・事物・現象の情報						
10	情報の探索 (3) 人物・団体の情報						
11	情報の探索 (4) 地名・地理の情報						
12	情報の探索 (5) 歴史・時事の情報						
13	情報の探索 (6) 統計の情報						
14	情報の探索 (7) 書誌情報						
15	情報の探索 まとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
演習課題の作成	60	適切な課題作成を行い、期日までに必要な完成度で提出ができていないこと。		演習課題の発表	20	作成した課題を元に、発表が行えること。必要な質疑に答えられることができること。	
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
課題以外でも図書館を日常的に活用することを心がける。日常的に疑問に思ったことがあれば、すぐに調べる癖をつけることが望ましい。その際、ウェブ情報源以外も活用すること。図書館などのレファレンスツールに慣れておくこと。各回の復習を配布資料を用いて最低30分程度は行うこと。				課題発表時にコメントを行う形でフィードバックをする。			
受講生に望むこと	課題が多く与えられますので、図書館情報資源を用いて課題作成に取り組んでください。場合によっては大学図書館だけではなく、公共図書館の蔵書や各種データベースを用いてください。授業では作成した課題を発表する機会がありますので、他の学習者や教員に分かりやすく説明する練習をすることが望ましいです。			教科書・テキスト	なし、授業中に随時プリントを配布する。		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SB320U 情報資源組織演習 I		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は司書資格の必修科目であり、「情報資源組織論」で学んだ資料組織化の理論に基づき、図書をはじめとする多様な情報資源の書誌データの作成を演習する。時代に即した目録作成のためコンピュータを使用した演習を行う。			①多様な情報資源に関する書誌データの作成方法について、演習を通じて理解・取得する。 ②具体的な目録作成により、目録構築の意義や典拠コントロールの重要性を理解する。				
教授方法	演習、主にコンピュータを使用する						
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「情報資源組織論」を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	「情報資源組織論」で学んだ日本目録規則における記述目録法について復習する。						
2	図書資料の標題紙・奥付などを基に、手書きによる目録記述の演習を行う。						
3	コンピューターによる目録記述方法を学ぶ。						
4	図書資料の標題紙・奥付などを基に、目録記述の演習を行う。（基礎的な資料）						
5	図書資料の標題紙・奥付などを基に、目録記述の演習を行う。（応用的な資料）						
6	図書資料の標題紙・奥付などを基に、目録記述の演習を行う。（応用的な資料）						
7	図書資料の現物を基に、目録記述の演習を行う。						
8	録音資料の情報源を基に、目録記述の演習を行う。						
9	映像資料の情報源を基に、目録記述の演習を行う。						
10	電子資料の情報源を基に、目録記述の演習を行う。						
11	これまで作成したデータの排列変更・検索の演習を行う。						
12	メタデータ記述方法を解説する						
13	インターネット情報源のメタデータ記述演習を行う。（Webサイトなど）						
14	インターネット情報源のメタデータ記述演習を行う。（データベースなど）						
15	これまで作成した書誌データをもとにした、まとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	20	①授業課題に対し真摯に取り組んでいる。②教員の発問に対し意欲的に回答をしている。		授業前準備・復習	10	①授業実践のための事前学習を行っている。②授業後に作成した演習課題について再度振り返り、事後学習している。	
演習課題内容	70	提出された演習課題が日本目録規則をはじめとする記述方法に沿って作成されているか、評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
図書館を日常的に活用することを心がける。図書館のOPACを利用し、その記述内容についても関しを持つこと。日常的繰り返しに目録を利用し、目録と検索の関係性を経験から学ぶこと。各回の課題を元に最低30分以上は予習・復習を行うこと。				コンピュータ室でクリッカーを使用し、その場でコメントを行う。提出物についても、必要に応じて随時添削したものを返却する。			
受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨んでください。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問するようにしてください。			教科書・テキスト	なし		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	履修生には参考図書「日本目録規則」を貸与する。返却にあたり紛失・汚破損等があった場合には履修学生の責任において返却すること。		

授業科目名	SB325U 情報資源組織演習Ⅱ		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は司書資格の必修科目であり、「情報資源組織論」で学んだ資料組織化の理論に基づき、図書資料の主題目録法（分類法）について演習を行う。			①主題分析について、演習を通じて理解する ②分類作業について、演習を通じて基本的な技能を習得する ③分類の規則に於いて、演習を通じて理解を深める				
教授方法	演習						
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「情報資源組織論」「情報資源組織演習Ⅰ」を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	「情報資源組織論」で学んだ日本目録規則における主題目録法について復習する。						
2	演習問題を基に主題分析・分類作業を行うとともに、「日本十進分類法」の構造を理解する。						
3	演習問題を基に一般的な主題分析・分類作業を行う。（基礎問題）						
4	演習問題を基に一般的な主題分析・分類作業を行う。（応用問題）						
5	演習問題（形式区分）を基に主題分析・分類作業を行う。						
6	演習問題（地理区分）を基に主題分析・分類作業を行う。						
7	演習問題（地理区分・海洋区分）を基に主題分析・分類作業を行う。						
8	演習問題（言語区分・言語共通区分）を基に主題分析・分類作業を行う。						
9	演習問題（文学共通区分）を基に主題分析・分類作業を行う。						
10	演習問題（総合問題）を基に主題分析・分類作業を行う。						
11	演習問題（総合問題）を基に主題分析・分類作業を行う。						
12	演習問題（総合問題）を基に主題分析・分類作業を行う。						
13	演習問題を基に主題分析・件名付与を行う。						
14	演習問題を基に主題分析・件名付与を行う。						
15	演習問題を基に主題分析・件名付与を行う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	20	①授業課題に対し真摯に取り組んでいる。②教員の発問に対し意欲的に回答をしている。		授業前準備・復習	10	①授業実践のための事前学習を行っている。②授業後に作成した演習課題について再度振り返り、事後学習している。	
演習課題内容	70	提出された演習課題が適切に主題分析され、分類・件名付与されていること。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
図書館を日常的に活用することを心がける。図書館のOPACを利用し、その記述内容についても関しを持つこと。日常的繰り返しに目録を利用し、目録と検索の関係性を経験から学ぶこと。各回の課題を元に最低30分程度は予習を行うこと。				コンピュータ室でクリッカーを使用し、その場でコメントを行う。提出物についても、必要に応じて随時添削したものを返却する。			
受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨んでください。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問するようにしてください。			教科書・テキスト	なし		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	履修生には参考図書「日本十進分類法」を貸与する。返却にあたり紛失・汚破損等があった場合には履修学生の責任において返却すること。		

授業科目名	SB330U 図書館情報資源概論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は司書資格の必修科目である。印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報源からなる図書館情報資源についてその類型と特質、生産・流通・選択・収集・保存に至るまでのプロセスなど、これら図書館業務に必要な情報資源に関する知識を解説する。			①印刷資料・非印刷資料について、政府刊行物等や電子資料、ネットワーク情報源を含めて学び、その理解を深める。 ②出版流通の在り方について学び、その理解を深める。 ③蔵書の形成、資料の収集の選択について学び、その理解を深める。 ④人文科学、社会科学、科学技術、日常生活などの情報資源について、その特性を理解する。 ⑤資料の受入・除籍・保存・管理について学び、その理解を深める。				
教授方法	講義						
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	図書館情報資源とは						
2	印刷資料について (1) 印刷術の誕生と印刷の歴史						
3	印刷資料について (2) 様々な印刷資料						
4	非印刷資料について						
5	灰色文献について						
6	政府刊行物・地域資料について						
7	映像資料・音声資料について						
8	電子資料・ネットワーク情報源について						
9	電子コンテンツと電子出版について						
10	出版と流通について (1) 出版とはなにか・出版の意義						
11	出版と流通について (2) 出版流通の経路・出版制度						
12	資料の収集と選択について						
13	人文科学分野の情報資源とその特性						
14	社会科学分野の情報資源とその特性						
15	自然科学分野の情報資源とその特性						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	筆記試験(持ち込み不可)において60%以上の得点を獲得する必要がある。		小テスト	20	筆記試験を授業内で行う。	
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
図書館を日常的に活用することを心がける。資料を扱う上で求められる基礎的・教養的な知識を幅広く身につけること。 そのために なるべく多種の情報メディアを扱うこと、図書館だけでなくインターネットも日常的に活用し情報源として評価すること。 各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。				試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてクリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨んでください。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問するようにしてください。			教科書・テキスト	『図書館情報資源概論』馬場俊明著. 日本図書館協会, 2012. (JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3 ; 8) ISBN:978-4-8204-1217-5		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SB335U 図書・図書館史		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
人類の歴史の中で文字が生み出され、各種メディアに記録された情報資源が図書館に蓄積・保存されてきた。数千年の歴史を記録・継承する図書館のあり方や使命を学び、現代から未来の図書館に求められる役割と機能を学ぶ。			①各種記録媒体の歴史を学び、図書館の収集・保存すべき情報資源を理解する。 ②世界の図書館の歩みを考察し、図書館の存在意義を認識する。 ③図書館と図書館情報学の歴史を学ぶことにより、自らの将来を考える。				
教授方法	講義						
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	メディアと図書館の歴史とは						
2	記録メディアの歴史1：紙以前の記録メディア・紙メディア						
3	記録メディアの歴史2：図書の形態史，印刷の発明						
4	記録メディアの歴史3：印刷の種類，大量印刷の時代						
5	記録メディアの歴史4：新聞雑誌の歴史，近代のマスメディア						
6	記録メディアの歴史5：メディアの多様化，新しいメディアの出現						
7	図書館史（世界）1：図書館の源流と図書館の使命						
8	図書館史（世界）2：中世の図書館，近世の図書館の歩み						
9	図書館史（世界）3：公共図書館の成立						
10	図書館史（世界）4：近代の図書館						
11	図書館史（日本）1：前近代日本の図書館，近代図書館の誕生						
12	図書館史（日本）2：民主主義と図書館，戦争と図書館						
13	図書館史（日本）3：第2次世界大戦後の図書館改革と戦後民主主義						
14	図書館史（日本）4：市町村立図書館と図書館政策，住民と図書館の関係						
15	図書館史まとめ：図書館と社会の関わりを歴史から考える						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかななどを評価する。		授業内課題	20	授業中に小課題を行う。理解度の確認や各自の意見を記述してもらう。	
定期試験	60	記述式の筆記試験を行う。図書館の歴史及び情報メディアの歴史について基本的な理解がきている必要がある。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
図書館を日常的に活用することを心がける。世界史及び日本史の基本的な知識を確認しておくこと。必要に応じて高校までの歴史教科書なども活用すること。各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。				試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてクリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	図書館司書資格の科目であることを理解し、その意義をよく考えて履修をしてください。分からない点、疑問に思ったことがあれば積極的に教員に質問をしてください。歴史を学ぶことは現在の我々の立ち位置を考える上で、極めて重要なアプローチです。歴史的な事柄にも注意を払うようにしてください。			教科書・テキスト	『図書・図書館史』小黒浩司編著、日本図書館協会、2013。（JLA図書館情報学テキストシリーズ3；11）ISBN：978-4-8204-1218-2		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SB340U 図書館実習		開講学科	社会科学	必修・選択	選択
担当教員名	若杉 亮平					
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	司書			
授業の概要			授業の到達目標			
この科目は司書資格の選択科目である。図書館に関する科目で得た知識・技術を基にして、事前・事後の指導を受けつつ図書館業務を経験し、図書館業務全般に対する理解を深めることを目的とする。			①図書館実習事前準備を通じて、実習先の図書館業務について理解を深める。 ②図書館実習を通じて図書館業務全般を経験することでその理解を深める。 ③図書館実習事後レポートをまとめることにより、その成果を確認する。			
教授方法	実習、学内での事前指導及び事後指導と図書館においての1週間の実習を行う					
履修条件	「北陸学院大学 図書館実習実施規程」における実習参加資格を有するものに限る。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	図書館実習の概要					
2	図書館実習事前準備レポートの作成指導					
3	図書館実習事前準備レポートの提出・評価					
4	図書館実習直前指導					
5	公共図書館実習（原則として7日間、ただし実習受入館で特に指定がある場合はその日程で実施する）					
6	公共図書館実習					
7	公共図書館実習					
8	公共図書館実習					
9	公共図書館実習					
10	公共図書館実習					
11	公共図書館実習					
12	公共図書館実習					
13	公共図書館実習					
14	公共図書館実習					
15	図書館実習事後レポートの提出					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
図書館実習	70	図書館実習に参加し、受入館側の評価を考慮しつつ総合的に判断する。		図書館実習事前課題レポート	15	図書館実習受入館について、事前に調査を行いレポートとしてまとめる。なお、このレポートの未提出者、不合格者は図書館実習参加を認めない。
図書館実習事後レポート	15	図書館実習後に、実習内容及び実習で学んだことについてレポートとしてまとめる。なお、このレポートの未提出者、不合格者は単位取得できない。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
司書課程における科目を必ず復習すること。あらかじめ利用者として実習先の公共図書館を訪れて利用すること。学外での実習であり、十分な準備を行った上で参加すること。				事前レポートは添削の上で評価を直接授業内で伝達する。事後レポート及び図書館側の評価は希望に応じて個別に伝達する。		
受講生に望むこと	司書資格取得を希望する学生を対象とします。図書館実習は公共図書館という学外において、公共図書館職員に準じる立場でさまざまな規程に基づいて実習にあたることとなります。法令・規程の遵守するとともに、実習受入館に迷惑がかかることが無いように注意してください。また原則として実習中の遅刻・早退・欠席は認めません（体調不良時を除く）。			教科書・テキスト	なし、授業時に随時配布します。	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	復習のためには、これまでの司書科目の教科書を参照すること。実習中図書館への自家用車利用は認められない。実習内容は実習先図書館によって異なる。 ※2018年度特別開講	

社会学科
(4年次)

授業科目名	専門ゼミⅡ			開講学科	社会学科	必修・選択	必修
担当教員名	小林 正史・田中 純一・田引 俊和・俵 希貴・西村 洋一・真砂 良則・松下 健・若山 将実・竹中 祐二・若杉 亮平 (代表教員 小林 正史)						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>専門ゼミⅠで学んだ研究方法を土台に、それぞれの専門分野で設定したテーマに沿って研究レポートを作成する。具体的には、先行研究の検討、研究上の仮説の構築、適切な方法論の構築などを行った上で、データ収集、分析、解釈を実施し合理的な結論を導く。この過程をゼミ担当教員の指導の下で行う。レポートを作成するとともに、その成果を成果報告会で報告する。</p>				<p>①各自の問題関心を深めてテーマを設定し、それについて論理的に考えることができるようになる。 ②設定したテーマについて、研究レポートを作成することができる。 ③レポート内容について、成果報告会で効果的な報告ができる。 ④専門分野について自分の考えを持ち、ディスカッションに参加できるようになる。</p>			
教授方法	演習						
履修条件	「専門ゼミⅠ」の単位を修得済の者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：授業の目的、流れ、方針と評価方法等について説明する。						各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
15	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
16	後期オリエンテーション：ゼミごとに今後の方針を確認する。						各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員

授 業 計 画		
実施回	授業内容・目標	担当教員
28	専門ゼミⅡ成果報告会での報告準備。	各担当教員
29	専門ゼミⅡ成果報告会での報告。	全教員
30	全体のふりかえり。	各担当教員

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
受講態度	30	①授業にまじめに取り組んでいるか。 ②積極的にディスカッションに参加しているか。	レポート	60	①期限内に提出しているか。 ②指定された字数、書式にしたがっているか。 ③適切な内容となっているか。
成果報告	10	①卒業レポートの内容を効果的に伝えることができているか。 ②報告態度は適切か。 ③質疑への応答ができているか。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
レポートの作成および成果報告会の準備は、ほぼ授業外で行う。[120分以上]			成果報告会において行う。		
受講生に望むこと	レポートの作成は、早目に着手し、主体的に進めて欲しい。		教科書・テキスト	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	
指定図書／参考書等	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。		その他・特記事項	不明な点は自分の所属するゼミ担当教員に問い合わせをすること。	

授業科目名	卒業研究			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	小林 正史・俵 希實・西村 洋一・真砂 良則・田中 純一・田引 俊和・若山 将実・竹中 祐二・松下 健 (代表教員 小林 正史)						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>大学での学びの集大成として、これまでの専門分野での学習を総合的に生かし、自ら研究テーマを設定し、その研究テーマの探究を通して、研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。具体的には、研究方法の選択、先行研究の検討、研究上の仮説の構築、適切な方法論の構築などを行った上で、データ収集、分析、解釈を実施し合理的な結論を導き、卒業論文を執筆する。また、研究成果報告会で研究成果を報告する。</p>				<p>①現代社会が抱える様々な問題に対するの関心を高め、テーマを設定し、それについて論理的に考えることができるようになる。 ②専門分野において適切な研究計画を遂行するための技法、考え方を身につける。 ③既存の資料や文献の批判的検討を通じて独自の分析視点を構築できるようになる。 ④研究内容について、論文執筆および口頭発表という形での確に表現することができ、さらに他者と討論ができるようになる。</p>			
教授方法	演習						
履修条件	3年次終了時点で累積GPAが2.5以上であること。3年次までに開講されている全必修科目の単位を修得していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：卒業研究の概要および注意事項等について説明する。						全教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
15	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
16	後期オリエンテーション：ゼミごとに今後の方針を確認する。						各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員

授 業 計 画		
実施回	授業内容・目標	担当教員
28	卒業研究成果報告会での報告準備	各担当教員
29	卒業研究成果報告会での報告	全教員
30	卒業研究の総括	各担当教員

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
受講態度	10	①研究にまじめに取り組んでいるか。 ②ディスカッションに積極的に参加しているか。	卒業論文	80	①期限内に提出しているか。 ②指定された字数、書式にしているか。 ③適切な内容となっているか。
成果報告	10	①卒業研究の内容を効果的に伝えることができているか。 ②報告態度は適切か。 ③質疑への応答ができているか。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
卒業論文の作成および成果報告会の準備は、ほぼ授業外で行う。 [120分以上]			卒業研究成果報告会において行う。		
受講生に望むこと	卒業論文の作成は、早めに着手し、主体的に進めて欲しい。		教科書・テキスト	担当教員の指示にしたがう。	
指定図書／参考書等	担当教員の指示にしたがう。		その他・特記事項	不明な点は自分の所属するゼミ担当教員に問い合わせること。 履修条件についての詳細は、『学生要覧』「VI 評価と学習指導」の「3, 卒業研究履修条件」を参照のこと。	

教職員録

職名	氏名
学長	楠本 史郎
宗教主事(兼)	楠本 史郎
図書館長	富岡 和久
地域教育開発センター長	田中 純一

人間総合学部

学部長	真砂 良則
子ども教育学科長	中島 賢介
社会学科長	俵 希實

子ども教育学科

教授	伊藤 雄二
〃	大井 佳子
〃	虹釜 和昭
〃	田邊 圭子
〃	多保田治江
〃	中島 賢介
〃	姫野 俊幸
〃	宮浦 国江
〃	村井万寿夫
准教授	永山 亮一
〃	幸 聖二郎
講師	熊田 凡子
〃	齊藤 英俊
〃	福江 厚啓
〃	向出 圭吾
助教	高村 真希
〃	谷 昌代

社会学科

教授	楠本 史郎
〃	小林 正史
〃	田中 純一

職名	氏名
教授	田引 俊和
〃	俵 希實
〃	西村 洋一
〃	真砂 良則
准教授	松下 健
〃	若山 将実
講師	竹中 祐二
〃	西尾祐美子
〃	若杉 亮平

兼任教員(短期大学部専任教員)

兼任教員	葦名 理恵
〃	坂井 良輔
〃	須田久美子
〃	田中 弘美
〃	俵 万里子
〃	茶谷 信一
〃	富岡 和久
〃	中谷 博美
〃	新澤 祥恵
〃	西 正人
〃	野林 晴彦
〃	三田 陽子
〃	南 雅則

非常勤講師

非常勤講師	荒井 紀子
〃	アンソニー タガン
〃	石原 俊彦
〃	稲角 光恵
〃	今井 竜也
〃	上野 千恵
〃	エリック モーニン

職名	氏名
非常勤講師	加藤 雅子
〃	カーラカリー
〃	亀田孝太郎
〃	川島 哲
〃	北川 節子
〃	木藤 由麻
〃	キャサリン シュリープス
〃	熊谷 史佳
〃	河野すみ子
〃	清水 實
〃	白井 雅代
〃	瀬尾 崇
〃	側垣 二也
〃	高橋 律子
〃	竹下 正弘
〃	辰巳 平一
〃	田中 早苗
〃	田邊 浩
〃	種池有美子
〃	張 榮眉
〃	津田 朗子
〃	坪内 啓子
〃	徳田 茂
〃	鳥居 和代
〃	中村喜代美
〃	南部 順子
〃	野崎 卓道
〃	濱西 和子
〃	福田 真紀
〃	本間千重子
〃	宮丸 慶子
〃	山下のぞみ
〃	鷺山 靖

職名 氏名
助手(実験実習補助)
 教材室 瀬戸 美江 (子ども教育学科)
 助 手 加藤 真衣 (食物栄養学科)
 ♪ 久保 夕貴 ()
 ♪ 澤田 里香 ()

教職相談支援室
 金丸 洋子
 金森 俊朗

英語教育研究支援センター
 マニユール
 ボッシュ

事務局

事務局長 岩田 喜弘
 (法人・大学事務局事務局長兼任)

社会連携推進コーディネーター
 課 長 瀧 浩輔

【教学・学生支援センター】
 (大学キリスト教センター事務兼務)

課長代理 今井 誠一
 副 参 事 北川 裕樹
〈教務係〉

主 任 山口絵美子
 係 員 酒井 大輔
 ♪ 瀬戸 康代
 ♪ 平岡 明
 ♪ 清水 啓子

〈教務助手係〉

係 員 多田 昌生
 ♪ 近岡 尚美

〈学生支援係〉

係 長 源野 雄介
 係 員 三木 香奈
 ♪ 森田 康子
 ♪ 田川由美子

職名 氏名
【学術情報研究・社会連携センター】
 係 長 本丹 直哉
 参 事 佐々木浩幸
〈学術・研究支援係〉
 係 員 飯野 昌子
 ♪ 大乗 陸美
 ♪ 大音師華子

〈社会連携係〉
 係員(兼) 大乗 陸美

【アドミッションセンター】

課長代理 西野 拓哉
 主 任 中島 貴史
 係 員 瀬戸 佳子

【総合政策課】

課長(兼) 岩田 喜弘

〈広報企画係〉
 (アドミッションセンター事務兼務)

主任(兼) 西野 拓哉
 ♪ 中島 貴史
 係員(兼) 瀬戸 佳子

〈経営企画係〉

係 長 トビアス史
 主 任 安部 玲子

〈補助金係〉

係 員 藤原 学

〈IR推進係〉

係 員 小島 美紀

職名 氏名
【総務財政課】

課長代理 宮本真紀子

〈総務係〉

係 員 川村 快
 ♪ 竹内 朝子
 ♪ 小島 妙子

〈財政係〉

係 員 鷹野香奈子
 ♪ 宮下 光謹
 ♪ 酢馬ひかる

〈営繕係〉

係 長 吉野 誠
 係 員 作本真太郎
 ♪ 山田 元気
 ♪ 根崎 彰

保 健 室

看 護 師 桑田 千代
 校 医 野口 隆俊
 カウンセリング 柳沢たまき
 ♪ 森 彩香

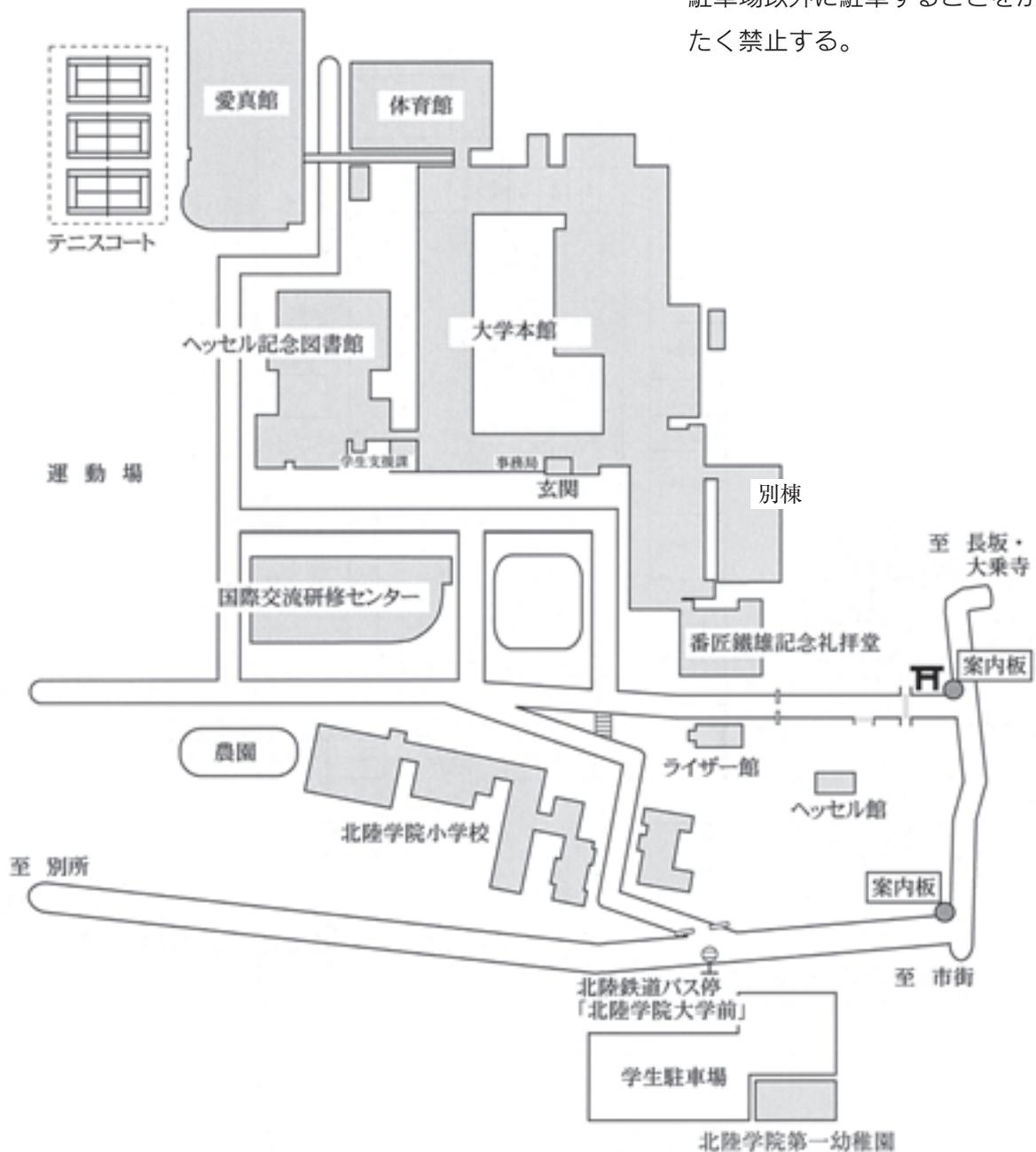
地域教育開発センター

センター長 田中 純一

キャンパス案内図

北陸学院三小牛キャンパス案内図

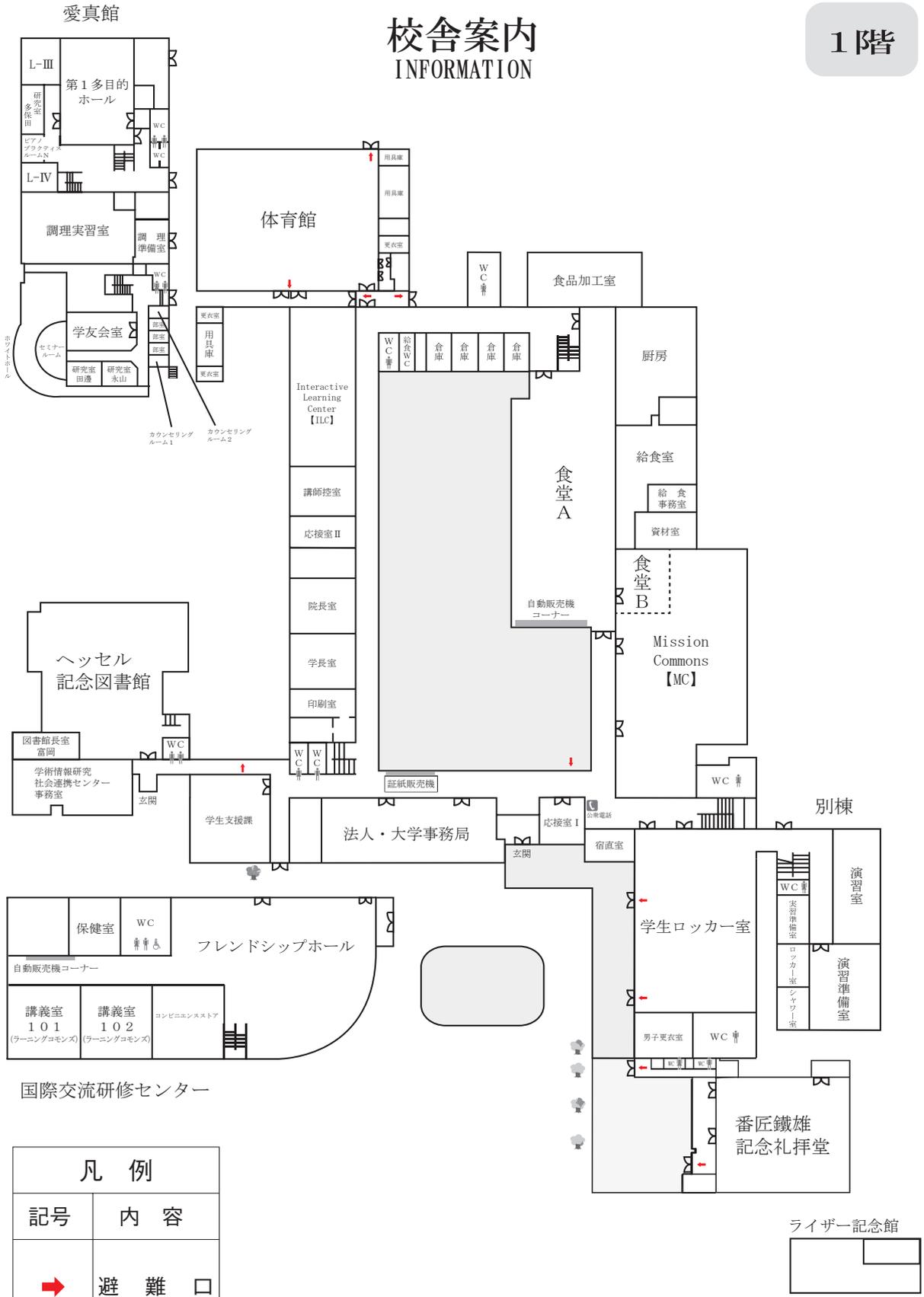
学生に関しては決められた学生
駐車場以外に駐車することをか
たく禁止する。



学内案内図

校舎案内 INFORMATION

1階



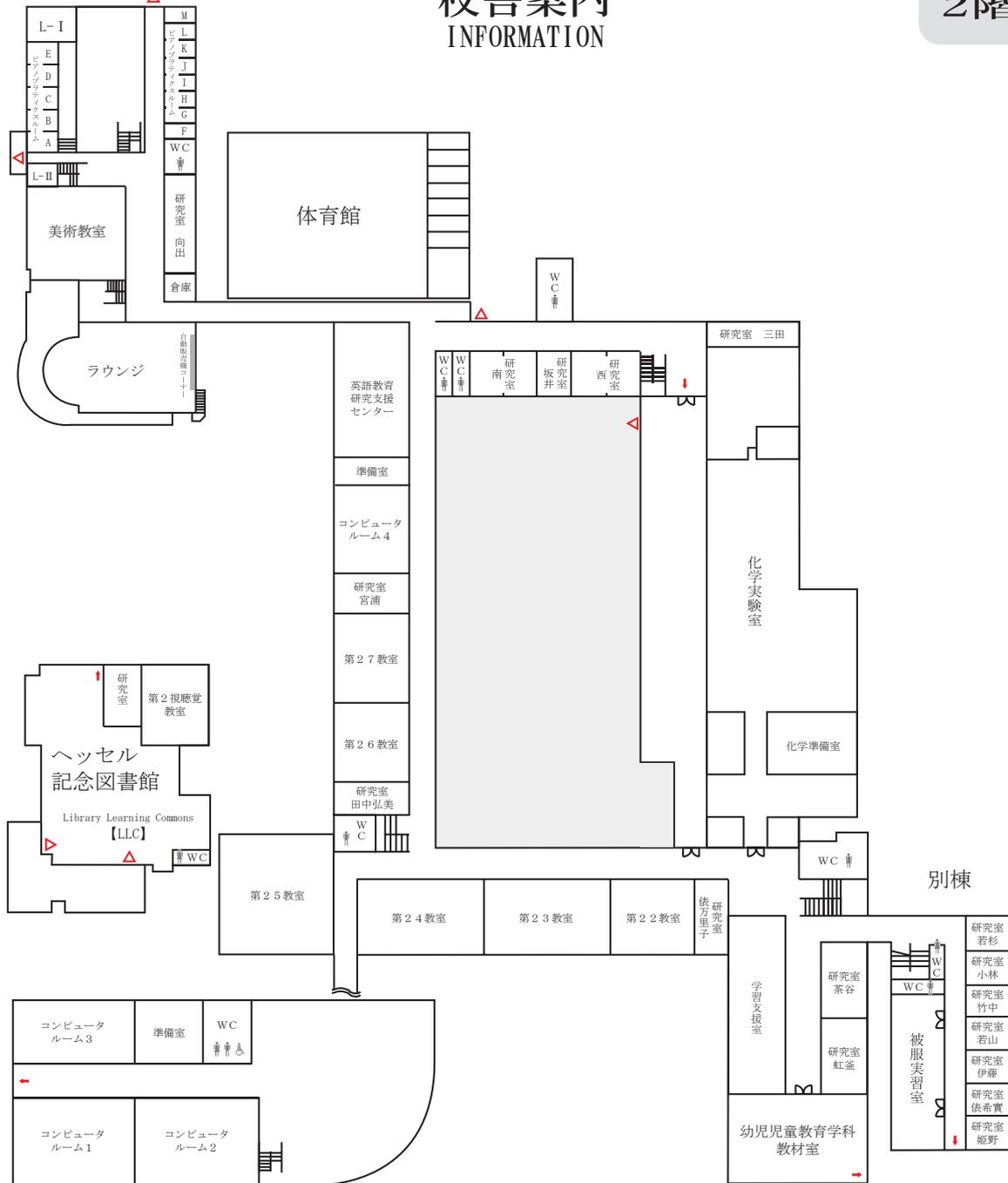
国際交流研修センター

凡例	
記号	内容
➡	避難口
△	避難はしご

愛真館

校舎案内 INFORMATION

2階



国際交流研修センター

凡 例	
記号	内 容
➡	避 難 口
△	避 難 は し ご

愛真館



校舎案内
INFORMATION

3階



国際交流研修センター

凡 例	
記号	内 容
➡	避難口
△	避難はしご

